

茨城県教育財団文化財調査報告第150集

北関東自動車道(友部～水戸)建設
工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

寺 山 遺 跡
東 平 遺 跡
坂ノ上塚群

平成11年3月

日本道路公団東京第一建設局
財団法人 茨城県教育財団

210.231
Tob1
ⓃNK

茨城県教育財団文化財調査報告第150集

北関東自動車道(友部～水戸)建設 工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

てらやま 遺跡
寺山
ひがしだいら 遺跡
東平
さかのうえ 塚群
坂ノ上

平成11年3月

寄贈	平成
歴史・人類学系	年
	月
	日

日本道路公団東京第一建設局
財団法人 茨城県教育財団

00603036



寺山遺跡第1号窯跡完掘



寺山遺跡第1号窯跡燃烧部



糠白釉青流掛德利



糠白釉青流掛德利



糠白釉二彩流掛甕



糠白釉二彩流掛甕



柿釉播鉢



柿釉播鉢

寺山遺跡第224号土坑

序

北関東自動車道は、北関東3県の主要都市と常陸那珂港、さらには、日本海側と太平洋側を結ぶ高速道路です。また、東京から放射状に延びる3本の高速道路を横断的に結ぶことにより、均衡のとれた交通体系の整備を図り、北関東地域の総合的な発展を推進する基盤施設であります。

北関東自動車道（友部～水戸）建設予定地内には、埋蔵文化財の包蔵地が10か所確認されました。

財団法人茨城県教育財団は、日本道路公団から埋蔵文化財の発掘調査事業について委託を受け、平成7年10月から平成10年3月にかけて、これらの遺跡の調査を実施してまいりました。その内、矢倉遺跡、後口原遺跡、大作遺跡、大畑遺跡については、すでに『北関東自動車道（友部～水戸）建設工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ・Ⅱ』として報告したところであります。

本書は、平成9年1月から平成9年12月にかけて調査した寺山遺跡、東平遺跡及び坂ノ上塚群の調査成果を収録したものであります。本書が、研究の資料としてはもとより、郷土の歴史の理解を深めると共に、教育、文化の向上の一助として広く活用されることを希望いたします。

なお、発掘調査及び整理を進めるにあたり、委託者である日本道路公団からいただきました多大な御協力に対し、心から御礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、友部町教育委員会をはじめ、関係各機関及び関係各位から御指導、御協力をいただきましたことに対し、衷心より感謝の意を表します。

平成11年3月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 橋本 昌

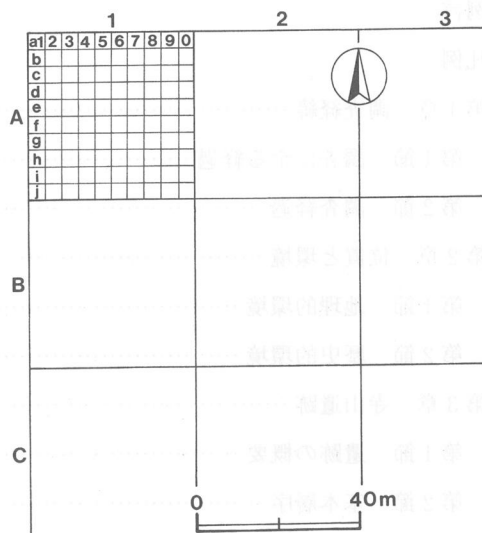
- 3 本書で使用した記号等については、凡例を参照されたい。
- 4 本書の作成にあたり、墨書土器については国立歴史民俗博物館の平川南教授、近代の窯跡については窯業史博物館の大川清館長、古墳時代の土師器については、北茨城市立中妻小学校の樫村宣行教諭に御指導を戴いた。
- 5 発掘調査及び整理に際して、御指導、御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し、深く感謝の意を表します。
- 6 遺跡の概略

ふりがな	きたかんとうじどうしゃどう(ともべ〜みと)けんせつこうじちないまいぞうぶんかざいちようさほうこくしょ								
書名	北関東自動車道(友部〜水戸)建設工事地内埋蔵文化財調査報告書								
副書名	寺山遺跡 東平遺跡 坂ノ上塚群								
巻次	Ⅲ								
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告								
シリーズ番号	第150集								
編著者名	平松孝志								
編集機関	財団法人 茨城県教育財団								
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL029(225)6587								
発行機関	財団法人 茨城県教育財団								
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL029(225)6587								
発行年月日	1999(平成11)年3月19日								
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡	所在地								
寺山遺跡	茨城県西茨城郡友部町大字住吉字寺ノ内1,187番地の25ほか	08321	36度18分47秒	140度19分5秒	28m	19970101~19980331	12,046㎡	北関東自動車道建設工事に伴う事前調査	
東平遺跡	茨城県西茨城郡友部町大字下加賀田字東平372番地ほか	08321	36度20分3秒	140度17分23秒	55m	19970401~19980331	5,896㎡		
坂ノ上塚群	茨城県西茨城郡友部町大字下加賀田字坂上414番地の2ほか	08321	36度19分58秒	140度17分23秒	49m	19970818~19980331	495㎡		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
寺山遺跡	集落跡	旧石器			ナイフ形石器、剥片				
		縄文(早期~後期)	集石遺構	7か所	縄文土器(早期~後期)				
			不明遺構	2基	土製品(瑛状耳飾)				
	古墳(中期~後期)		土坑	6基	石器(石鏃)				
			竪穴住居跡	4軒	土師器(坏、椀、壺、甕、甑、甗)				
	奈良		竪穴住居跡	1軒	須恵器(甗)				
			土坑	2基	土師器(甕), 須恵器(坏), 土製支脚, 刀子				
生産遺跡	近代(明治)	窯跡	1基	陶器(壺, 德利, 播鉢)		窯は明治前半に陶器の素焼きのために短期に使用されたと考えられる。			
東平遺跡	集落跡	縄文(中期)	竪穴住居跡	1軒	縄文土器片				
			炉穴	6基					
			陥し穴	1基					
			不明遺構	1基					
	古墳(前期・後期)		竪穴住居跡	2軒	土師器(坏、椀、器、台、台付甕、甕、甑)				
			土坑	1基					
	平安		竪穴住居跡	37軒	土師器(坏、高台付坏、椀、小皿、甕、甑), 須恵器(坏、甑)		鉄製紡錘車には竹製の筒が装着されており使用方法が復元できる。		
		土坑	1基	鉄製品(刀子, 鉸具, 紡錘車)					
		溝	2条						
その他	弥生(後期)	不明遺構	1基	弥生土器(広口壺, 小形壺)					
	近世	溝	1条	寛永通寶					
	時期不明	土坑	86基	縄文土器片, 土師器片, 弥生土器片, 陶器片					
坂ノ上塚群	集落跡	古墳(後期)	竪穴住居跡	1軒	土師器(坏、椀、甗、甑) 須恵器片				
		塚群	近世	塚	2基	寛永通寶			

凡 例

- 1 遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標を原点とし、寺山遺跡は $X = +34,880\text{m}$, $Y = +43,520\text{m}$ の交点を、東平は $X = +37,080\text{m}$, $Y = +40,680\text{m}$ の交点を、坂ノ上塚群は $X = +36,720\text{m}$, $Y = +40,980\text{m}$ の交点をそれぞれ基準点とした。

調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西、南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、基準点から南へA, B, C..., 東へ1, 2, 3...とし、「A1区」、「B2区」のように呼称した。小調査区は、北から南へa, b, c...j, 西から東へ1, 2, 3...0とし、大調査区の名称を冠して「A1a1区」、「B2b2区」のように呼称した。



第1図 調査区呼称方法概念図





- 2 遺構・遺物及び土層に使用した記号は、次のとおりである。

遺構 住居跡-SI 土坑-SK 井戸-SE 溝-SD
道路跡-SF 不明遺構-SX 窯跡-SY

遺物 土器・陶器-P 土製品-DP 石製品-Q 金属製品・古銭-M 拓本土器-TP

土層 攪乱-K 鹿沼パミス-KP ロームブロック-RB 粘土ブロック-CB

- 3 遺構・遺物の実測図中の表示は、次のとおりである。

 粘土	 赤彩	 炉・黑色処理	 焼土・繊維土器	--- 硬化面
● 土器	■ 石器・石製品	▲ 土製品	△ 金属製品	

- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。

- 5 遺構・遺物実測図の作成方法と掲載方法については、次のとおりである。

- (1) 遺跡の全体図は200分の1, 250分の1, 遺構は原則的に60分の1に縮尺し掲載した。
- (2) 遺物は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては、個々にスケールで表示した。
- (3) 「主軸方向」は長軸方向あるいは炉やカマドを通る軸線を主軸とし、その主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 $N-10^\circ-E$, $N-10^\circ-W$ ）。
なお、現存値は（ ），推定値は [] を付して示した。
- (4) 土器の計測値は、A-口径 B-器高 C-底径 D-高台径 E-高台高 F-つまみ径 G-つまみ高とし、単位はcmである。
なお、現存値は（ ），推定値は [] を付して示した。
- (5) 遺物観察表の備考の欄は、土器の残存率、実測番号（P・DPなど）、出土位置及びその他必要と思われる事項を記した。

- 6 遺構番号については、調査の過程において遺構の種類ごとに調査順に付したが、その後遺構でないと判断したものは欠番とした。

目次

序

例言

凡例

第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 寺山遺跡	7
第1節 遺跡の概要	7
第2節 基本層序	7
第3節 遺構と遺物	8
1 竪穴住居跡	8
2 井戸	28
3 土坑	29
4 溝	70
5 道路跡	73
6 集石遺構	74
7 窯跡	83
8 不明遺構	96
9 遺構外出土遺物	97
第4節 まとめ	105
第4章 東平遺跡	108
第1節 遺跡の概要	108
第2節 基本層序	108
第3節 遺構と遺物	109
1 竪穴住居跡	109
2 土坑	201
3 溝	219
4 不明遺構	225
5 遺構外出土遺物	231
第4節 まとめ	232
第5章 坂ノ上塚群	237
第1節 遺跡の概要	237

第2節 遺構と遺物	240
1 竪穴住居跡	240
2 塚	246
3 遺構外出土遺物	248
第3節 まとめ	249
付章 東平遺跡から出土した炭化材の樹種	250
写真図版	

插图目次

第1图	調査区呼称方法概念图	第34图	第155号土坑实测图	35
第2图	寺山・東平遺跡，坂ノ上塚群周辺遺跡 分布图	第35图	第155号土坑出土遺物实测图	35
	6	第36图	第156号土坑实测图	36
寺山遺跡		第37图	第156号土坑出土遺物实测图	36
第3图	寺山遺跡基本土層图	第38图	第157号土坑・出土遺物实测图	36
第4图	第1号住居跡实测图	第39图	第158号土坑出土遺物实测图	36
第5图	第1号住居跡出土遺物实测图	第40图	第158号土坑实测图	37
第6图	第2号住居跡实测图	第41图	第159号土坑・出土遺物实测图	37
第7图	第2号住居跡炉土層实测图	第42图	第160号土坑实测图	37
第8图	第2号住居跡出土遺物实测图	第43图	第160号土坑出土遺物实测图	38
第9图	第3号住居跡实测图	第44图	第163号土坑实测图	38
第10图	第3号住居跡竈实测图	第45图	第163号土坑出土遺物实测图	38
第11图	第3号住居跡出土遺物实测图(1)	第46图	第164号土坑实测图	38
第12图	第3号住居跡出土遺物实测图(2)	第47图	第164号土坑出土遺物实测图	39
第13图	第4号住居跡实测图	第48图	第166号土坑・出土遺物实测图	39
第14图	第4号住居跡出土遺物实测图	第49图	第168号土坑・出土遺物实测图	39
第15图	第5号住居跡实测图	第50图	第169号土坑实测图	40
第16图	第5号住居跡竈实测图	第51图	第169号土坑出土遺物实测图	40
第17图	第5号住居跡出土遺物实测图(1)	第52图	第172号土坑实测图	41
第18图	第5号住居跡出土遺物实测图(2)	第53图	第172号土坑出土遺物实测图	41
第19图	第1号井戸实测图	第54图	第173・174号土坑实测图	41
第20图	第2号井戸・出土遺物实测图	第55图	第173号土坑出土遺物实测图	41
第21图	第1号土坑实测图	第56图	第174号土坑出土遺物实测图	42
第22图	第2号土坑・出土遺物实测图	第57图	第178A・B号土坑实测图	42
第23图	第38号土坑实测图	第58图	第178B号土坑出土遺物实测图	43
第24图	第72号土坑实测图	第59图	第182号土坑・出土遺物实测图	43
第25图	第73号土坑实测图	第60图	第185号土坑・出土遺物实测图	44
第26图	第136号土坑・出土遺物实测图	第61图	第192号土坑・出土遺物实测图	44
第27图	第151号土坑出土遺物实测图	第62图	第194号土坑・出土遺物实测图	45
第28图	第151号土坑实测图	第63图	第195号土坑实测图	45
第29图	第152号土坑・出土遺物实测图	第64图	第195号土坑出土遺物实测图	45
第30图	第153号土坑实测图	第65图	第202号土坑出土遺物实测图	46
第31图	第153号土坑出土遺物实测图	第66图	第202号土坑实测图	46
第32图	第154号土坑实测图	第67图	第207号土坑出土遺物实测图	46
第33图	第154号土坑出土遺物实测图	第68图	第207号土坑实测图	46

第69図	第210号土坑実測図	47	第106図	第224号土坑出土遺物実測図(1)	89
第70図	第210号土坑出土遺物実測図	47	第107図	第224号土坑出土遺物実測図(2)	90
第71図	第223号土坑実測図	48	第108図	第224号土坑出土遺物実測図(3)	91
第72図	第223号土坑出土遺物実測図	48	第109図	第224号土坑出土遺物実測図(4)	92
第73図	その他の土坑実測図(1)	50	第110図	第225号土坑実測図	94
第74図	その他の土坑実測図(2)	51	第111図	第226号土坑実測図	95
第75図	その他の土坑実測図(3)	52	第112図	第226号土坑出土遺物実測図	95
第76図	その他の土坑実測図(4)	53	第113図	第1号不明遺構実測図	96
第77図	その他の土坑実測図(5)	54	第114図	第1号不明遺構出土遺物実測図	96
第78図	その他の土坑実測図(6)	55	第115図	第2号不明遺構実測図	96
第79図	その他の土坑実測図(7)	56	第116図	第2号不明遺構出土遺物実測図	97
第80図	その他の土坑実測図(8)	57	第117図	遺構外出土遺物実測図(1)	100
第81図	その他の土坑実測図(9)	58	第118図	遺構外出土遺物実測図(2)	101
第82図	その他の土坑実測図(10)	59	第119図	遺構外出土遺物実測図(3)	102
第83図	その他の土坑実測図(11)	60	第120図	遺構外出土遺物実測図(4)	103
第84図	その他の土坑実測図(12)	61	第121図	遺構外出土遺物実測図(5)	104
第85図	その他の土坑出土遺物実測図	62	東平遺跡		
第86図	第1号溝断面実測図	70	第122図	東平遺跡基本土層図	108
第87図	第2号溝断面実測図	71	第123図	第1号住居跡実測図	110
第88図	第3号溝断面実測図	71	第124図	第1号住居跡出土遺物実測図	111
第89図	第4号溝断面実測図	71	第125図	第2号住居跡実測図	113
第90図	第4号溝出土遺物実測図	72	第126図	第2号住居跡出土遺物位置図	114
第91図	第5号溝断面・出土遺物実測図	72	第127図	第2号住居跡出土遺物実測図(1)	115
第92図	第2号道路跡断面実測図	73	第128図	第2号住居跡出土遺物実測図(2)	116
第93図	第2号道路跡出土遺物実測図	74	第129図	第3号住居跡実測図	118
第94図	第1・2・5・7号集石遺構配置図	77	第130図	第3号住居跡竈実測図	119
第95図	第3・4・6号集石遺構配置図	78	第131図	第3号住居跡出土遺物実測図	119
第96図	第1・2・5号集石遺構実測図	79	第132図	第4・5号住居跡実測図	121
第97図	第3・4号集石遺構実測図	80	第133図	第4号住居跡出土遺物実測図	122
第98図	第6・7号集石遺構実測図	81	第134図	第5号住居跡出土遺物実測図	122
第99図	第1～4・6・7号集石遺構出土 遺物実測図	82	第135図	第6号住居跡実測図	124
第100図	第1号窯跡実測図(1)	84	第136図	第6号住居跡出土遺物実測図	125
第101図	第1号窯跡実測図(2)	85	第137図	第7号住居跡実測図	126
第102図	第1号窯跡出土遺物実測図(1)	86	第138図	第7号住居跡出土遺物実測図	127
第103図	第1号窯跡出土遺物実測図(2)	87	第139図	第8号住居跡実測図	129
第104図	第224号土坑実測図	88	第140図	第8号住居跡出土遺物実測図	130
第105図	第224号土坑出土遺物位置図	89	第141図	第9号住居跡実測図	131
			第142図	第9号住居跡出土遺物実測図	131

第143图	第10号住居跡実測図	132	第181图	第29号住居跡出土遺物実測図	176
第144图	第10号住居跡出土遺物実測図	133	第182图	第30号住居跡実測図	177
第145图	第11号住居跡実測図	134	第183图	第30号住居跡出土遺物実測図	178
第146图	第12号住居跡実測図	135	第184图	第31号住居跡実測図	180
第147图	第12号住居跡出土遺物実測図	136	第185图	第31号住居跡出土遺物実測図	181
第148图	第13号住居跡実測図	136	第186图	第32号住居跡実測図	182
第149图	第13号住居跡出土遺物実測図	136	第187图	第32号住居跡出土遺物実測図	183
第150图	第14・15号住居跡実測図	138	第188图	第33号住居跡実測図	184
第151图	第14・15号住居跡竈出土遺物実測図	139	第189图	第33号住居跡出土遺物実測図	185
第152图	第14号住居跡出土遺物実測図	139	第190图	第34号住居跡実測図	187
第153图	第15号住居跡出土遺物実測図	140	第191图	第34号住居跡出土遺物実測図	188
第154图	第16号住居跡実測図	142	第192图	第35号住居跡実測図	189
第155图	第16号住居跡出土遺物実測図	143	第193图	第35号住居跡出土遺物実測図	190
第156图	第17号住居跡実測図	144	第194图	第36号住居跡実測図	190
第157图	第17号住居跡出土遺物実測図	145	第195图	第38・39号住居跡実測図	192
第158图	第18号住居跡実測図	147	第196图	第38・39号住居跡竈実測図	193
第159图	第18号住居跡出土遺物実測図	148	第197图	第38号住居跡出土遺物実測図	193
第160图	第19号住居跡実測図	149	第198图	第39号住居跡出土遺物実測図	194
第161图	第19号住居跡出土遺物実測図	150	第199图	第40号住居跡実測図	196
第162图	第20号住居跡実測図	151	第200图	第40号住居跡出土遺物実測図	197
第163图	第20号住居跡出土遺物実測図	152	第201图	第41号住居跡実測図	198
第164图	第21号住居跡実測図	154	第202图	第41号住居跡出土遺物実測図	199
第165图	第21号住居跡出土遺物実測図	155	第203图	第9号土坑実測図	201
第166图	第22号住居跡実測図	157	第204图	第9号土坑出土遺物実測図	201
第167图	第22号住居跡出土遺物実測図	158	第205图	第24号土坑実測図	201
第168图	第23号住居跡実測図	160	第206图	第24号土坑出土遺物実測図	202
第169图	第23号住居跡出土遺物実測図	161	第207图	第52号土坑実測図	202
第170图	第24号住居跡実測図	163	第208图	第52号土坑出土遺物実測図	202
第171图	第24号住居跡出土遺物実測図	164	第209图	第62号土坑実測図	203
第172图	第25号住居跡実測図	165	第210图	第62号土坑出土遺物実測図	203
第173图	第25号住居跡出土遺物実測図	166	第211图	第69・80号土坑実測図	204
第174图	第26号住居跡実測図	168	第212图	第69号土坑出土遺物実測図	204
第175图	第26号住居跡出土遺物実測図	169	第213图	第71号土坑実測図	205
第176图	第27号住居跡実測図	171	第214图	第71号土坑出土遺物実測図	205
第177图	第27号住居跡出土遺物実測図	172	第215图	第76号土坑実測図	205
第178图	第28号住居跡実測図	173	第216图	第77号土坑実測図	206
第179图	第28号住居跡出土遺物実測図	174	第217图	第77号土坑出土遺物実測図	206
第180图	第29号住居跡実測図	175	第218图	第78号土坑実測図	207

第219図	第78号土坑出土遺物実測図	207	第239図	第3号不明遺構・出土遺物実測図	226
第220図	第80号土坑出土遺物実測図	207	第240図	第4号不明遺構実測図	228
第221図	第91号土坑実測図	208	第241図	第4号不明遺構出土遺物実測図	228
第222図	その他の土坑実測図(1)	209	第242図	第5号不明遺構・出土遺物実測図	229
第223図	その他の土坑実測図(2)	210	第243図	第6号不明遺構実測図	230
第224図	その他の土坑実測図(3)	211	第244図	第7号不明遺構実測図	231
第225図	その他の土坑実測図(4)	212	第245図	遺構外出土遺物実測図	231
第226図	その他の土坑実測図(5)	213	第246図	平安時代住居跡配置図	236
第227図	その他の土坑実測図(6)	214	坂ノ上塚群		
第228図	第1号溝断面・出土遺物実測図	219	第247図	坂ノ上塚群遺構配置図	238
第229図	第2号溝断面実測図	219	第248図	第1号住居跡調査区設定図	239
第230図	第3号溝断面実測図	220	第249図	第1号住居跡実測図	241
第231図	第4号溝断面実測図	220	第250図	第1号住居跡出土遺物実測図(1)	242
第232図	第5号溝断面・出土遺物実測図	221	第251図	第1号住居跡出土遺物実測図(2)	243
第233図	第6号溝断面・出土遺物実測図	222	第252図	第1号住居跡出土遺物実測図(3)	244
第234図	第7号溝断面実測図	222	第253図	第1号塚出土遺物実測図	246
第235図	第8号溝断面実測図	223	第254図	第1・2号塚土層断面実測図	247
第236図	第9号溝断面実測図	223	第255図	遺構外出土遺物実測図	248
第237図	第10号溝断面実測図	224	付図1	寺山遺跡遺構全体図	
第238図	第1号不明遺構実測図	225	付図2	東平遺跡遺構全体図	

表 目 次

表1	寺山・東平遺跡・坂ノ上塚群周辺遺跡 一覽表	5	表5	寺山遺跡溝一覽表	73
表2	寺山遺跡住居跡一覽表	28	表6	寺山遺跡道路跡一覽表	74
表3	寺山遺跡井戸一覽表	29	表7	東平遺跡住居跡一覽表	200
表4	寺山遺跡土坑一覽表	67	表8	東平遺跡土坑一覽表	217
			表9	東平遺跡溝一覽表	224

写 真 図 版 目 次

PL1	寺山遺跡遠景・全景	PL8	第1号窯跡確認・土層断面・遺物出土状況
PL2	寺山遺跡調査終了風景	PL9	第1号窯跡遺物出土・燃焼部・掘り方
PL3	第1号住居跡完掘・遺物出土状況	PL10	第224号土坑土層断面・遺物出土状況
PL4	第2号住居跡完掘・遺物出土状況	PL11	第224～226号土坑完掘・遺物出土状況
PL5	第3号住居跡完掘・遺物出土状況	PL12	第1・2・38・72・73・122・136・151号土坑完掘状況
PL6	第4号住居跡完掘・遺物出土状況	PL13	第152～159・164・195号土坑完掘・遺物出土状況
PL7	第5号住居跡完掘・遺物出土状況	PL14	第160・166・168・169・172～174・178A・B・182号土坑

- P L 15 第185・192・194・202・207・210・223号土坑
- P L 16 第1・2号井戸，第1・2・4・5号溝，第2号道路跡
- P L 17 第1～4・6・7号集石遺構確認狀況
- P L 18 東平遺跡遠景・全景
- P L 19 遺構確認狀況・調査終了風景（東部）
- P L 20 調査終了風景（北部・中央部）
- P L 21 第1号住居跡完掘・遺物出土狀況
- P L 22 第2号住居跡完掘・遺物出土狀況
- P L 23 第3号住居跡完掘・遺物出土狀況
- P L 24 第4・5号住居跡完掘・遺物出土狀況
- P L 25 第6号住居跡完掘・遺物出土狀況
- P L 26 第7号住居跡完掘・遺物出土狀況
- P L 27 第8・9号住居跡完掘狀況
- P L 28 第11・12号住居跡遺物出土狀況
- P L 29 第13号住居跡竈完掘，第17号住居跡遺物出土
- P L 30 第14・15号住居跡完掘・遺物出土狀況
- P L 31 第16号住居跡完掘・遺物出土狀況
- P L 32 第18・19号住居跡完掘狀況
- P L 33 第20号住居跡完掘・鉄製紡錘車出土狀況
- P L 34 第21号住居跡完掘・竈完掘狀況
- P L 35 第22号住居跡完掘・遺物出土狀況
- P L 36 第23・24・25号住居跡完掘・遺物出土狀況
- P L 37 第26・31号住居跡完掘・遺物出土狀況
- P L 38 第27号住居跡完掘・遺物出土狀況
- P L 39 第28号住居跡完掘・遺物出土，第52号土坑
- P L 40 第29・30号住居跡完掘狀況
- P L 41 第32・33号住居跡完掘・竈遺物出土狀況
- P L 42 第34・35・36号住居跡・第93号土坑完掘狀況
- P L 43 第38・39号住居跡・第77号土坑完掘・遺物出土
- P L 44 第40号住居跡・第5号不明遺構完掘・遺物出土
- P L 45 第41号住居跡完掘・遺物出土狀況
- P L 46 第9・24・52・62・69・71・76・77・80号土坑
- P L 47 第78号土坑，第1・3・6～10号溝
- P L 48 第1・3・4～7号不明遺構
- P L 49 坂ノ上塚群近景，第2号塚土層断面（A～E）
- P L 50 第2号塚土層断面（E～A'，E～E'）
- P L 51 第1号塚土層断面（B～B'，C～C'，D～D'）
- P L 52 第1号住居跡完掘・遺物出土狀況
- 寺山遺跡**
- P L 53 第1～4号住居跡出土遺物
- P L 54 第3～5号住居跡出土遺物
- P L 55 第4・5号住居跡，第224・226号土坑出土遺物
- P L 56 第5号住居跡，第1・2号土坑，遺構外出土遺物
- P L 57 住居跡，土坑出土遺物
- P L 58 井戸，土坑，溝出土遺物
- P L 59 不明遺構，集石遺構，遺構外出土遺物
- P L 60 遺構外出土遺物(1)
- P L 61 遺構外出土遺物(2)
- P L 62 遺構外出土遺物(3)
- P L 63 住居跡，土坑，集石遺構，遺構外出土遺物
- P L 64 土坑，道路跡，窯跡，遺構外出土遺物
- P L 65 第1号窯跡，第224号土坑出土遺物
- P L 66 第224号土坑出土遺物
- P L 67 住居跡，土坑，窯跡，遺構外出土遺物
- 東平遺跡**
- P L 68 第1・2号住居跡出土遺物
- P L 69 第2～7号住居跡出土遺物
- P L 70 第7～10・13号住居跡出土遺物
- P L 71 第8・10・14～18号住居跡出土遺物
- P L 72 第18・20～22号住居跡出土遺物
- P L 73 第22～26号住居跡出土遺物
- P L 74 第26・27・29～33号住居跡出土遺物
- P L 75 第33～35・39・40号住居跡，第24号土坑出土遺物
- P L 76 土坑，溝，不明遺構出土遺物
- P L 77 住居跡，土坑，不明遺構，遺構外出土遺物
- P L 78 第2～4・6・10・18・25号住居跡出土遺物
- P L 79 住居跡，溝，遺構外出土遺物
- 坂ノ上塚群**
- P L 80 第1号住居跡出土遺物(1)
- P L 81 第1号住居跡出土遺物(2)
- P L 82 第1号住居跡，遺構外出土遺物

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

茨城県中央部と近隣都県を結ぶ主要幹線道路は、現在、国道6号線と常磐自動車道である。建設省と日本道路公団は、近年の物流の増加や常陸那珂港開発に伴い、首都圏の均衡ある高速交通ネットワークを形成するため、北関東3県を結ぶ北関東自動車道の建設事業を進めている。

工事に先立ち、平成6年2月10日、日本道路公団東京第一建設局は、茨城県教育委員会に工事予定地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。茨城県教育委員会は、平成8年2月28日より、住吉・下加賀田地区の試掘調査を実施し、工事予定地内に寺山遺跡、東平遺跡が所在する旨を日本道路公団東京第一建設局に回答した。日本道路公団東京第一建設局は、平成8年10月21日、茨城県教育委員会にその取り扱いについて協議を求めた。茨城県教育委員会は、日本道路公団東京第一建設局と遺跡の取り扱いについて協議を重ね、現状保存が困難であることから、日本道路公団東京第一建設局に対し、平成8年11月18日に寺山遺跡の一部を、平成9年3月17日に寺山遺跡の残部と東平遺跡を記録保存とする旨の回答を行い、調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。茨城県教育委員会は、平成9年4月9日、財団法人茨城県教育財団の報告に基づき、下加賀田地区を再踏査し塚2基を確認し、平成9年5月2日、工事予定地内に坂ノ上塚群が所在する旨を日本道路公団東京第一建設局に回答した。日本道路公団東京第一建設局は、平成9年5月26日、茨城県教育委員会にその取り扱いについて協議を求めた。茨城県教育委員会は、日本道路公団東京第一建設局と遺跡の取り扱いについて協議を重ね、現状保存が困難であることから、日本道路公団東京第一建設局に対し、平成9年7月20日に坂ノ上塚群を記録保存とする旨の回答を行い、調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

日本道路公団東京第一建設局と茨城県教育財団は、埋蔵文化財発掘調査に関する業務の委託契約を結び、平成9年1月1日から同年12月17日にかけて、寺山遺跡、東平遺跡の発掘調査を、平成9年8月19日から同年9月18日にかけて、坂ノ上塚群の発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査経過

寺山遺跡の発掘調査は平成9年1月から6月まで、東平遺跡の発掘調査は平成9年7月から平成9年12月まで、坂ノ上塚群の発掘調査は平成9年8月から9月まで実施した。以下、寺山遺跡、東平遺跡、坂ノ上塚群の調査の経過について月ごとに略述する。

- 1 月 寺山遺跡の発掘調査開始にあたっての諸準備を行った。10日から補助員を雇用し、平成8年度分調査区の抜開作業を開始した。20日から試掘調査を開始し、住居跡1軒を確認した。
- 2 月 3日から、重機による表土除去を開始し、これに伴う遺構確認作業を開始した。5日から遺構調査を開始した。27日に住居跡と炉穴1基、土坑65基の調査を終了した。
- 3 月 4日から、旧石器の調査を開始した。12日に航空写真撮影を行い、遺構調査が完了した。19日には旧石器の調査を終了し、寺山遺跡の平成8年度分の調査を完了した。
- 4 月 平成9年度分の発掘調査開始にあたっての諸準備を行った。10日から補助員を雇用し、寺山遺跡の

試掘調査を開始した。21日から部分的に人力による表土除去を行い、24日から住居跡2軒、窯跡1基の遺構調査に着手した。

- 5 月 1日から、重機による表土除去を開始し、これに伴う遺構確認作業を開始した。19日から、新たに確認された住居跡、溝の調査を開始した。下旬までには、住居跡の調査をほぼ完了した。
- 6 月 1日から、6か所の集石遺構、かけら場の調査に着手した。16日から旧石器の調査を開始した。24日に航空写真撮影を行い、遺構調査が完了した。27日には旧石器の調査を終了し、寺山遺跡の調査を完了した。月末には、事務所を古峯B遺跡に隣接した場所に移転した。
- 7 月 2日から、東平遺跡における工事用道路取付部分の重機による表土除去を開始した。8日から遺構調査を開始した。25日から、東平遺跡全域への重機による表土除去と遺構確認作業を開始した。
- 8 月 6日に重機による表土除去が完了した。12日に坂ノ上塚群の地形測量を行い、19日から、東平遺跡の調査と並行して、坂ノ上塚群の発掘調査を開始した。
- 9 月 2日から3日にかけて坂ノ上塚群での重機による表土除去を行った。8日に坂ノ上塚群第1号・第2号塚の調査が完了した。10日に第1号塚の下層から第1号住居跡を確認した。18日に坂ノ上塚群の重機による埋め戻しを行い、坂ノ上塚群の調査が完了した。東平遺跡については、遺構調査を継続して実施した。
- 10 月 8日に東平遺跡の航空写真撮影を行った。14日には、110m程の調査に入れなかった部分を除いて、東平遺跡の調査が完了した。
- 12 月 10月からは古峯A遺跡の調査を実施していたが、12月に入り東平遺跡の未調査部分について調査ができることになり、9日から発掘調査を開始した。17日には遺構調査が終了し、東平遺跡のすべての調査が完了した。

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

寺山遺跡は茨城県西茨城郡友部町大字住吉字寺ノ内1187番地の25ほかに、東平遺跡は西茨城郡友部町大字下加賀田字東平372番地ほかに、坂ノ上塚群は西茨城郡友部町大字下加賀田字坂上414番地の2ほかに、それぞれ所在している。

友部町は茨城県のほぼ中央部に位置し、東部は東茨城郡内原町、同茨城町に、南部は涸沼川を隔てて西茨城郡岩間町に、西部は笠間市に隣接している。町域は、東西約11km、南北約13km、面積は約59km²で、人口は34,989人で、世帯数は10,857戸（平成10年3月現在）である。町の北部を国道50号線、西部を国道355号線が走っており、JR常磐線と水戸線が友部駅で分岐している。また、常磐自動車道が町の南端部を通過している。北関東自動車道は、これとジャンクションで結ばれ、北関東圏における東西交通の幹線として機能することを期待され、建設が進められている。

友部町の地形は、山地及び丘陵地、台地、沖積低地の三つの地域に分けられる。北部・西部は鶏足山塊から南西へ延びる丘陵地（友部丘陵）で、標高50～90mで広い平坦面を残している。丘陵を構成する層は友部層と呼ばれている更新世の海成砂礫層で、上層には関東ローム層をのせている。中央部から南東部の台地は、東茨城台地の一部をなしている。基盤となる第三紀層は見和層上層部と呼ばれ、砂・礫・粘土層によって構成されており、上層には関東ローム層をのせている。南西部の山地は金比羅山を中心に構成され、山地東側は涸沼川によって開析されている。中央部の台地北側には、北部丘陵を水源とする涸沼前川が北西から南東に流れ、流域には水田が拓かれている。南西部の山地と友部丘陵とのあいだには、涸沼川が東へ流れ、その沖積低地は水田となっている。

寺山遺跡は、涸沼川左岸の標高30～40mの東茨城台地縁辺部に立地し、現況は畑地である。東平遺跡と坂ノ上塚群は涸沼川右岸の、南西部山地を東側に下った標高40～55mの丘陵地に立地し、現況はともに山林である。

参考文献

・友部町史編さん委員会 『友部町史』 1990年3月

第2節 歴史的環境

友部町は、地形の9割がゆるやかな丘陵地と平地で構成されており、涸沼川、涸沼前川など中小河川にも恵まれている。こうしたすばらしい自然環境のもとに、町域には古代からの多くの遺跡が確認されている。ここでは、寺山遺跡、東平遺跡、坂ノ上塚群周辺の主な遺跡について時代を追って述べることにする。

旧石器時代の遺跡は、石山神遺跡（38）があり、ナイフ形石器や尖頭器が出土している。

縄文時代の遺跡は、町内で42か所が確認されている。遺跡は、涸沼川流域をはじめ涸沼前川、枝折川の沿岸及び周辺の小河川の洪積台地に多く分布している。早・前期の遺跡は、沈線文土器（三戸式など）や羽状縄文、菱形状縄文土器（黒浜式）が出土している前出の石山神遺跡がある。中期の遺跡には、阿玉台式土器、加曾利EⅡ式土器が出土している柏井遺跡（4）、仁古田遺跡（14）がある。住吉遺跡（17）からは、加曾利EⅠ式、阿玉台式、勝坂式等の土器片が採集されている。長兎路遺跡（12）、下宿遺跡（9）も中期の遺跡として確認

されている。後期の遺跡には、堀之内式土器片が採集されている善九郎遺跡〈13〉がある。上郷遺跡〈35〉からは、安行Ⅱ式土器が出土している。中期から後期へかけての遺跡として確認されているものとして、坂場遺跡〈27〉、下加賀田遺跡〈36〉、南小泉遺跡〈15〉、内田遺跡〈6〉、完全寺裏遺跡〈37〉、花咲遺跡〈33〉、橋爪遺跡〈7〉がある。晩期の遺跡では、安行Ⅲa式土器片が採集されている前述の柏井遺跡がある。

弥生時代の遺跡は、山之内金山遺跡〈8〉、随分附遺跡〈16〉、完全寺裏遺跡の3遺跡があり、その他町内では、8地区（仁古田、湯崎、大古山、橋爪、大田町、鴻巣、小原、上市原）で弥生土器片の出土が確認されている。土器片は弥生時代後期後半の十王台式のものが中心である。

古墳時代の遺跡では、26の古墳または古墳群が確認されている。これまでに発掘調査が行われたのは、高寺2号墳・4号墳〈18〉、諏訪山古墳〈24〉、慈救堂古墳〈5〉、である。高寺2号墳は、直径18m、高さ5.6mの円墳で、埋葬施設は花崗岩の割石を用いた片袖式の横穴式石室である。高寺4号墳は、円墳であるが、墳丘の規模などは不明である。諏訪山古墳は、直径20m、高さ3.2mの上円下方墳である。埋葬施設は粘土槨で鉄剣一振が出土している。慈救堂古墳では、箱式石棺が確認されている。仁古田の釈迦堂、南小泉の善九郎、大古山の本内など町域の各所から、この時代の土器片が発見されており、この時代の集落跡が存在する可能性がある。寺山遺跡南側の涸沼川を挟んだ対岸は、岩間町土師地区である。土師器などの製作にかかわったとされる、土師部一族が居住した地と考えられている。この地域の台地上にも遺跡が点在する。土師遺跡〈42〉、鳥屋敷遺跡〈43〉は古墳、奈良・平安時代の複合遺跡である。

奈良・平安時代の友部地方は、茨城と那珂の両郡にまたがっていた。この時代の遺跡には、端上遺跡〈26〉、五万堀遺跡〈32〉、大古山遺跡〈10〉、大古山本内遺跡〈29〉、北平遺跡〈28〉、がある。仁古田に所存する五万堀遺跡の古道は、古代の東海道につながる官道と推定されている。『日本後紀』や『延喜式』の中で記されている安侯駅家は、岩間町安居に比定されている。安居は、仁古田とは涸沼川を挟んだ対岸の位置にある。町域北西部の笠間市との境界近くに位置する端上遺跡で、須恵器窯跡が発見されている。この窯跡の北側の台地斜面には、笠間市大淵窯跡群〈45〉が4地点にわたって確認されている。8世紀後期から、9世紀初頭の時期にかけて操業されたと思われる須恵器の窯跡である。端上遺跡を含めて、この一帯には須恵器生産が行われた一大窯跡群が想定される。

中世以降の遺跡は、城館跡として長兎路城跡〈20〉、湯崎住吉城跡〈19〉、住吉城跡〈21〉、宍戸城跡〈22〉、古館〈23〉などがある。平安時代末期、涸沼川流域一帯は桓武系常陸平氏が支配権をもっていた。建久4年(1193)に下野武士八田知家がこの地へ進出してきた。やがて八田氏流の家周が常陸国守護職に補任され、常陸武家の総指揮官となり常陸宍戸氏が成立する。しかし、戦国時代末期に佐竹氏の南進策の中で、宍戸領の佐竹領化が進み、宍戸氏は佐竹氏配下の将となっていく。これらの城館は、こうした武士の拠点となったものである。この時代の寺跡には、光照院寺跡〈11〉、新善光寺跡〈34〉がある。万部塚〈30〉、千部塚〈31〉、東原製鉄跡〈25〉、岩間町の土師十三塚遺跡〈44〉もこの時期の遺跡である。

近世の友部地方は、佐竹氏の秋田移封のあとに、秋田氏が宍戸城に拠って5万石を領した。秋田氏が去ったあと幕府の直轄地に編入されるが、天和2年(1682)からは、徳川頼房の七男頼雄が松平氏を名乗り1万石の宍戸藩主となった。これ以降の友部地方は、宍戸藩領のほか笠間藩領、旗本領、天領の村々が入り組んで存在していた。当時の江戸街道として、宍戸城から涸沼川を跨いで南西方向にのびる古道がある。坂ノ上塚群は、涸沼川を過ぎ下加賀田へ入った街道筋の丘陵地に立地している。今回調査した高土台塚群は、涸沼川左岸の丘陵地に立地している。いずれも宍戸の集落の西側から南側の丘陵地に所在しており、この地区が当時の信仰と関係していた可能性もある。

宍戸の地では江戸時代から陶器が生産され、宍戸焼として現在も操業している。宍戸焼のおこりは、江戸時代後期、宍戸の山口勘兵衛が平町小人町に窯を築き、ハケ目の土瓶などを作ったこととされる。山口の窯は、明治の中頃に磯部秋次郎が譲り受け、磯部窯として現在に至っている。寺山遺跡では、明治期の陶器窯跡を確認しており、宍戸焼や笠間焼との関連も考えられる。

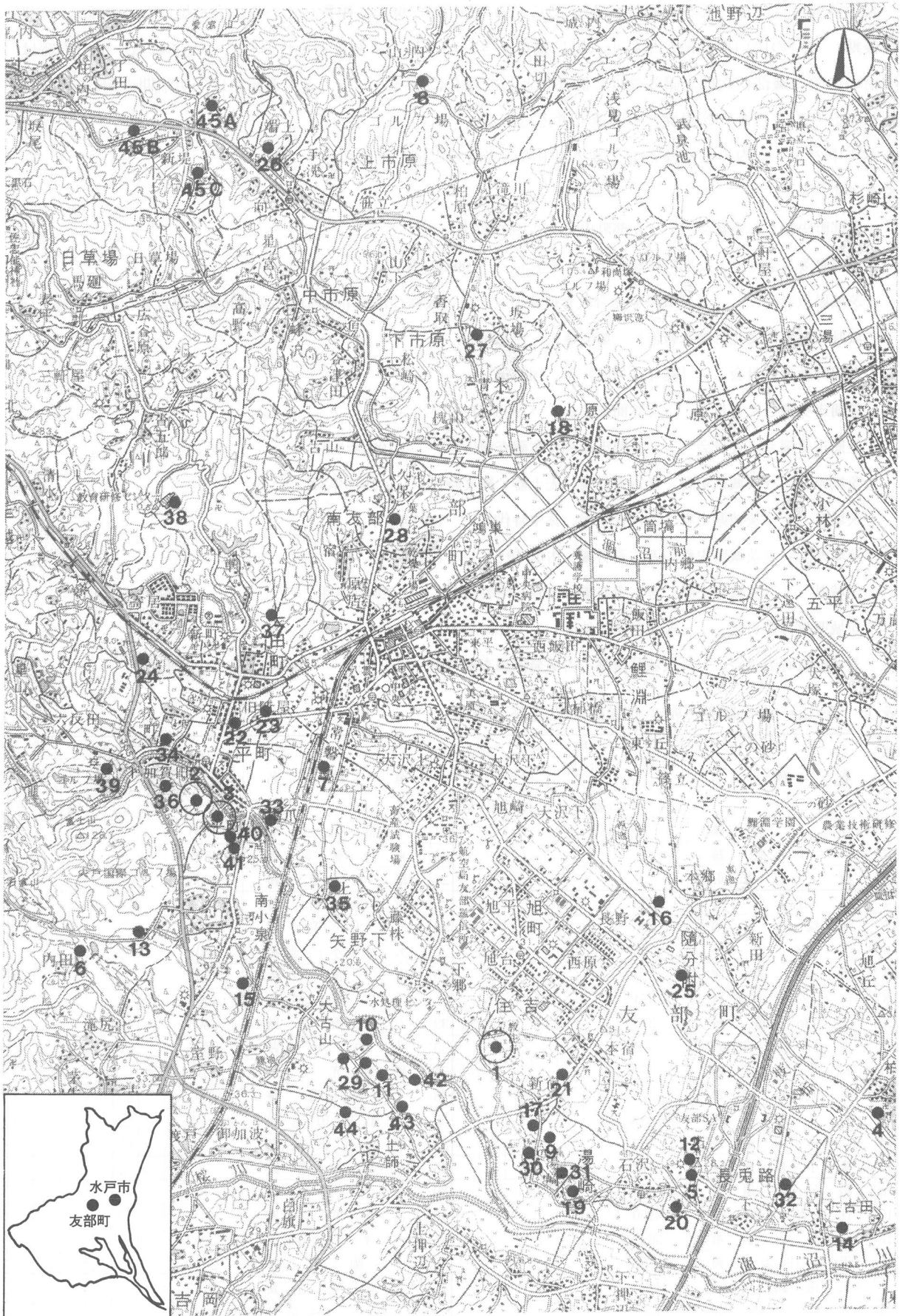
※本文中の〈 〉内の番号は表1・第2図中の該当番号と同じである。

参考文献

- ・友部町史編さん委員会 『友部町史』 1990年3月
- ・友部町委員会 「友部町埋蔵文化財一覧表」 1998年3月
- ・茨城県教育財団 「茨城県立総合教育研修センター（仮称）建設用地内埋蔵文化財調査報告書石山神遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』 第62集 1990年9月
- ・友部町教育委員会 『高寺2号墳』 1976年3月
- ・笠間市史編さん委員会 『笠間市史』 1993年12月
- ・笠間市史編さん委員会 『笠間市遺跡分布調査報告書』 1992年3月
- ・茨城県 『茨城県史料 考古資料編 先土器・縄文時代』 1979年3月
- ・茨城県 『茨城県史料 考古資料編 弥生時代』 1991年3月
- ・茨城県 『茨城県史料 考古資料編 古墳時代』 1991年3月
- ・茨城県 『茨城県史料 考古資料編 奈良・平安時代』 1995年3月
- ・茨城県教育委員会 『茨城県遺跡地図』 1990年3月
- ・茨城県教育委員会 『茨城県遺跡・古墳発掘調査報告書 VI～VIII』 1993年3月～1997年3月

表1 寺山・東平遺跡，坂ノ上塚群周辺遺跡一覧表

番 号	遺 跡 名	県 遺 跡 番 号	時 代					番 号	遺 跡 名	県 遺 跡 番 号	時 代						
			旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈 平				中 近	旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈 平	中 近
①	寺 山 遺 跡		○	○		○	○	○	24	諏 訪 山 古 墳	4590				○		
②	東 平 遺 跡			○	○	○	○	○	25	東 原 製 鉄 跡	4595						○
③	坂 ノ 上 塚 群					○		○	26	端 上 遺 跡	4596		○			○	
4	柏 井 遺 跡	359		○					27	坂 場 遺 跡	4598		○				
5	慈 救 堂 古 墳	360				○			28	北 平 遺 跡	4599		○			○	
6	内 田 遺 跡	368		○					29	大 古 山 本 内 遺 跡	4601		○			○	
7	橋 爪 遺 跡	372		○					30	万 部 塚	4602						○
8	山之内金山遺跡	374		○	○				31	千 部 塚	4603						○
9	下 宿 遺 跡	375		○					32	五 万 掘 遺 跡	4605		○				
10	大 古 山 遺 跡	376		○		○	○		33	花 咲 遺 跡	4606		○				
11	光 照 院 寺 跡	377						○	34	新 善 光 寺 跡	4610						○
12	長 兎 路 遺 跡	379		○					35	上 郷 遺 跡			○				○
13	善 久 郎 遺 跡	381		○					36	下 加 賀 田 遺 跡			○				○
14	仁 古 田 遺 跡	382		○					37	完 全 寺 裏 遺 跡			○	○			
15	南 小 泉 遺 跡	2672		○					38	石 山 神 遺 跡		○	○				
16	随 分 附 遺 跡	2673		○	○				39	高 土 台 塚 群							○
17	住 吉 遺 跡	3160		○					40	古 峯 A 遺 跡		○	○			○	○
18	高 寺 古 墳 群	3651				○			41	古 峯 B 遺 跡			○		○	○	○
19	湯 崎 住 吉 城 跡	3652						○	42	土 師 遺 跡	2674		○		○	○	
20	長 兎 路 城 跡	4122						○	43	鳥 屋 敷 遺 跡	3165		○		○	○	
21	住 吉 城 跡	4589						○	44	土 師 十 三 塚 遺 跡	385						○
22	宍 戸 城 跡	4121						○	45	大 淵 窯 跡 群	4144					○	
23	古 館	4123						○									



第2図 寺山・東平遺跡，坂ノ上塚群周辺遺跡分布図



第3章 寺山遺跡

第1節 遺跡の概要

寺山遺跡は、友部町の南東部、涸沼川左岸の標高26mほどの台地の縁辺部に所在している。調査区域は、東西約230m、南北約55m、面積12,046㎡であり、現況は畑地である。

今回の調査によって、住居跡5軒（古墳時代中期2軒、後期2軒、奈良時代1軒）、井戸状遺構2基、土坑197基（縄文時代6基）、溝5条、道路跡2条、集石遺構7か所（縄文時代）、窯跡1基（近代）、不明遺構2基（縄文時代）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に65箱出土した。古墳時代中・後期の住居跡からは、土師器・須恵器、奈良時代の住居跡からは須恵器・刀子が出土している。土坑の一つからは珧状耳飾りが出土している。窯跡からは焼台、窯跡に伴う土坑からは、笠間焼の陶器、銅製軸柄杓が出土している。遺構外からは、旧石器時代のナイフ形石器と剥片、縄文土器（浮島式等）が出土している。

第2節 基本層序

調査区内（C7b6区）にテストピットを掘り、基本土層の観察を行った。（第3図）

第1層は、20～40cmの厚さの黒褐色をした耕作土層である。

第2層は、13～35cmの厚さで、暗褐色をした腐植土層とローム層との漸移層である。

第3層は、10～30cmの厚さで、暗褐色をしたソフトローム層である。

第4層は、30～50cmの厚さで、褐色をしたハードローム層である。

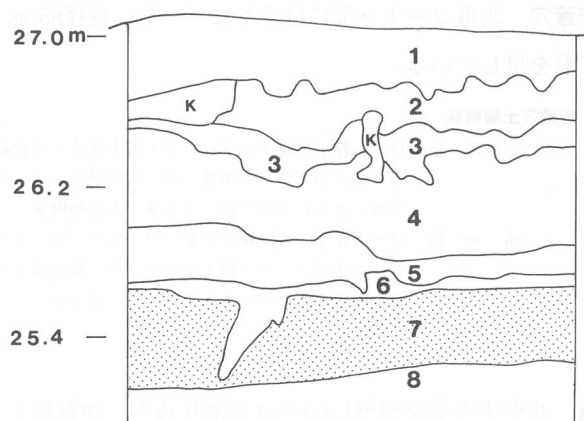
第5層は、10～30cmの厚さで、褐色をしたハードローム層である。スコリア少量と鹿沼パミス粒子微量を含んでいる。

第6層は、5～10cmの厚さで、黄褐色をしたハードロームと鹿沼パミスの混合土層である。鹿沼パミス粒子を多量に含んでいる。

第7層は、35～50cmの厚さで、明黄褐色をした鹿沼パミスの純粹層である。

第8層は、10～15cmの厚さで、褐色のハードローム層である。スコリア微量を含んでいる。

住居跡などの遺構は、第2層上面で確認した。



第3図 寺山遺跡基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 竪穴住居跡

当遺跡からは、古墳時代の竪穴住居跡4軒（第2～5号住居跡）、奈良時代の竪穴住居跡1軒（第1号住居跡）が確認されている。

第1号住居跡（第4図）

位置 調査区東部，B6g8区。

重複関係 第38号土坑に南東部壁面を掘り込まれており，本跡の方が古い。

規模と平面形 一辺3.90mの隅丸方形をしている。

主軸方向 N-8°-W

壁 壁高は70cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝 壁下を全周している。上幅20cm前後，下幅10cm前後，深さ3～8cmで，断面形は緩やかなU字状である。

床 中央部が踏み固められている。

ピット 5か所（P1～P5）。P1～P4の4か所は，長径50～80cm，短径40～55cmの円形及び楕円形で，深さ38～65cmである。いずれも，各コーナー部に寄った位置から検出され，規模と配置から支柱穴と考えられる。

P5は，長径55cm，短径45cmの楕円形で，深さ40cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に付設されている。長径85cm，短径65cmの楕円形で，深さ20cmである。断面形は逆台形を呈している。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|---|-------|---|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック中量，ローム中ブロック・小ブロック・粘土中ブロック少量，炭化物微量 | 3 暗褐色 | 焼土粒子・粘土粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック中量，ローム中ブロック・粘土中ブロック少量，粘土大ブロック・KP大ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量，ローム大ブロック・粘土中ブロック微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量 |
| | | 5 褐色 | ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量 |

竈 北壁中央部を壁外に60cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は長さ140cm，幅110cmである。

袖部は，床面上に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床面は，一辺30cmの円形で，深さ7cmである。

煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。煙出し部は，硬化したブロック状の粘土でつくられており，円形に遺存している。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|---|------|---|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子多量，ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土大ブロック・炭化粒子・粘土小ブロック少量 | 5 褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子多量，焼土中ブロック中量，ローム粒子・焼土大ブロック・粘土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | 焼土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量 | 6 褐色 | 焼土粒子多量，焼土小ブロック・粘土粒子中量，ローム粒子・焼土中ブロック少量，炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック・粘土粒子中量，ローム中ブロック・炭化物・粘土中ブロック少量，礫微量 | 7 褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子少量，ローム大ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子，粘土粒子少量 | 8 褐色 | 粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム大ブロック微量 |

- 9 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子中量, ローム小ブロック・炭化物少量, 焼土中ブロック・粘土小ブロック微量
- 10 極暗褐色 ローム粒子少量
- 11 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量

覆土 10層からなる自然堆積である。中・下層に竈からの流れ込みの焼土等が堆積し、上層にローム・焼土を含む黒褐色土がレンズ状に堆積している。

土層解説

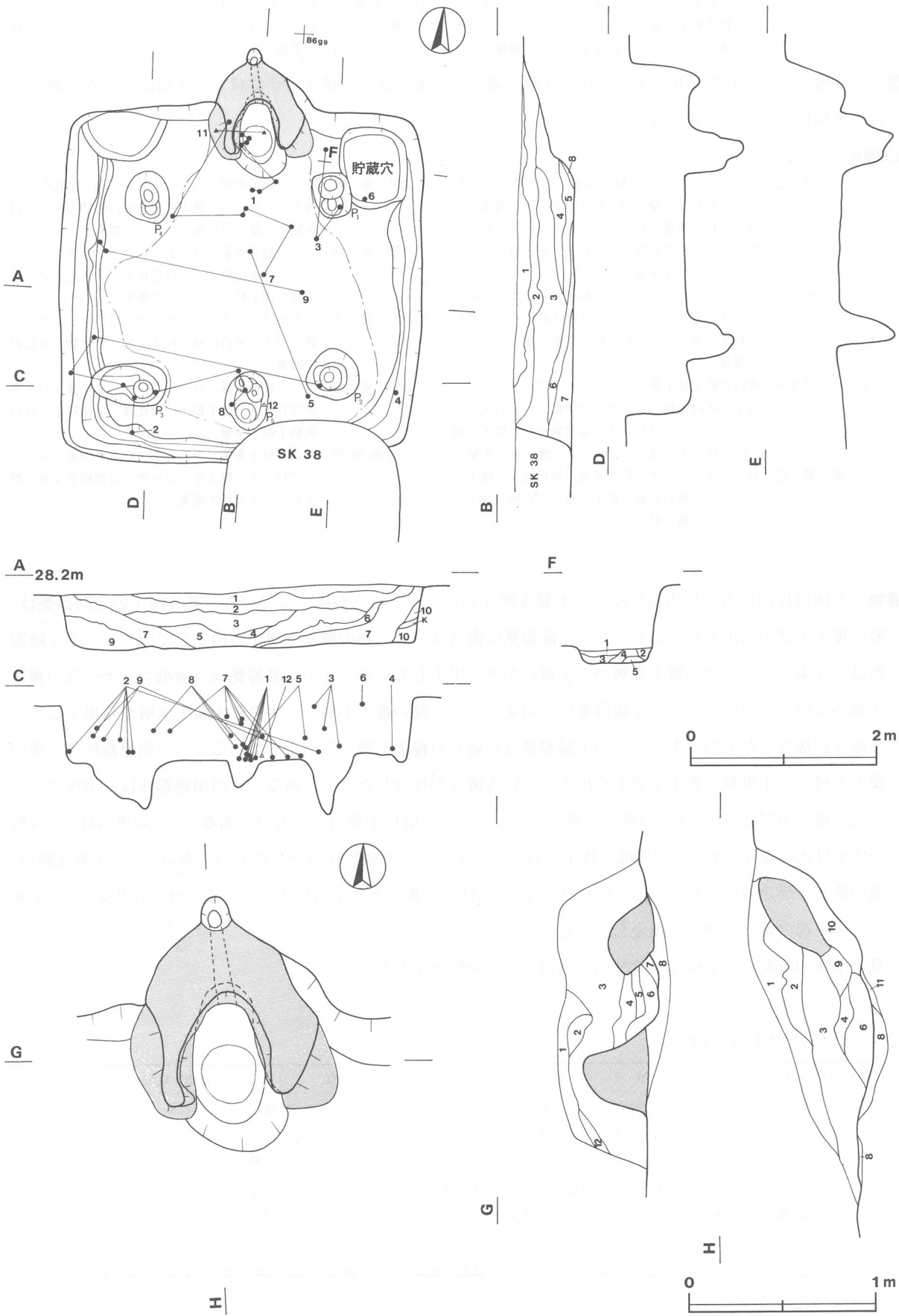
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・粒子中量, 炭化物・炭化粒子・白色粒子少量, 焼土粒子・スコリア微量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子・焼土粒子・スコリア・白色粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子・焼土粒子・灰白色粘土粒子・スコリア・白色粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 4 にぶい黄褐色 灰白色粘土粒子多量, ローム小ブロック・ローム粒子・灰白色粘土小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・粒子多量, 炭化粒子・焼土小ブロック・灰白色粘土粒子中量, 炭化物・焼土中ブロック・焼土粒子少量
- 6 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・灰白色粘土粒子・白色粒子少量, 炭化物・スコリア微量
- 7 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子・灰白色粘土ローム小ブロック少量, 焼土粒子・スコリア微量
- 8 暗褐色 焼土中ブロック・小ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子・灰白色粘土粒子少量, 炭化物・炭化粒子微量
- 9 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・灰白色粘土粒子少量
- 10 極暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子・スコリア微量

遺物 土師器片1010点, 須恵器片83点, 土製支脚片45点, 刀子1点が出土している。第5図1の土師器甕は、竈の覆土下層から出土している。2の土師器甕は南西コーナー部の覆土下層から出土している。3の土師器甕は、北東コーナー部の覆土上層から下層にかけて出土している。4の土師器甕は、南東コーナー部の覆土下層から出土している。5の土師器甕は、南東コーナー部の覆土中層と、中央部の覆土下層から出土している破片が接合したものである。6の土師器甕は貯蔵穴の覆土上層から出土している。7の須恵器坏は、竈の覆土下層と、中央部の覆土下層から出土している破片が接合したものである。8の須恵器坏は、南西コーナー部の覆土中層と、P5付近の覆土下層から出土している破片が接合したものである。9の須恵器坏は、西壁際中央付近の覆土中層と、中央部の覆土下層から出土している破片が接合したものである。11の土製支脚は、竈の覆土下層から出土している。12の刀子は、P5付近の覆土下層から出土している。10の須恵器片は、北東コーナー部の覆土下層から出土している。

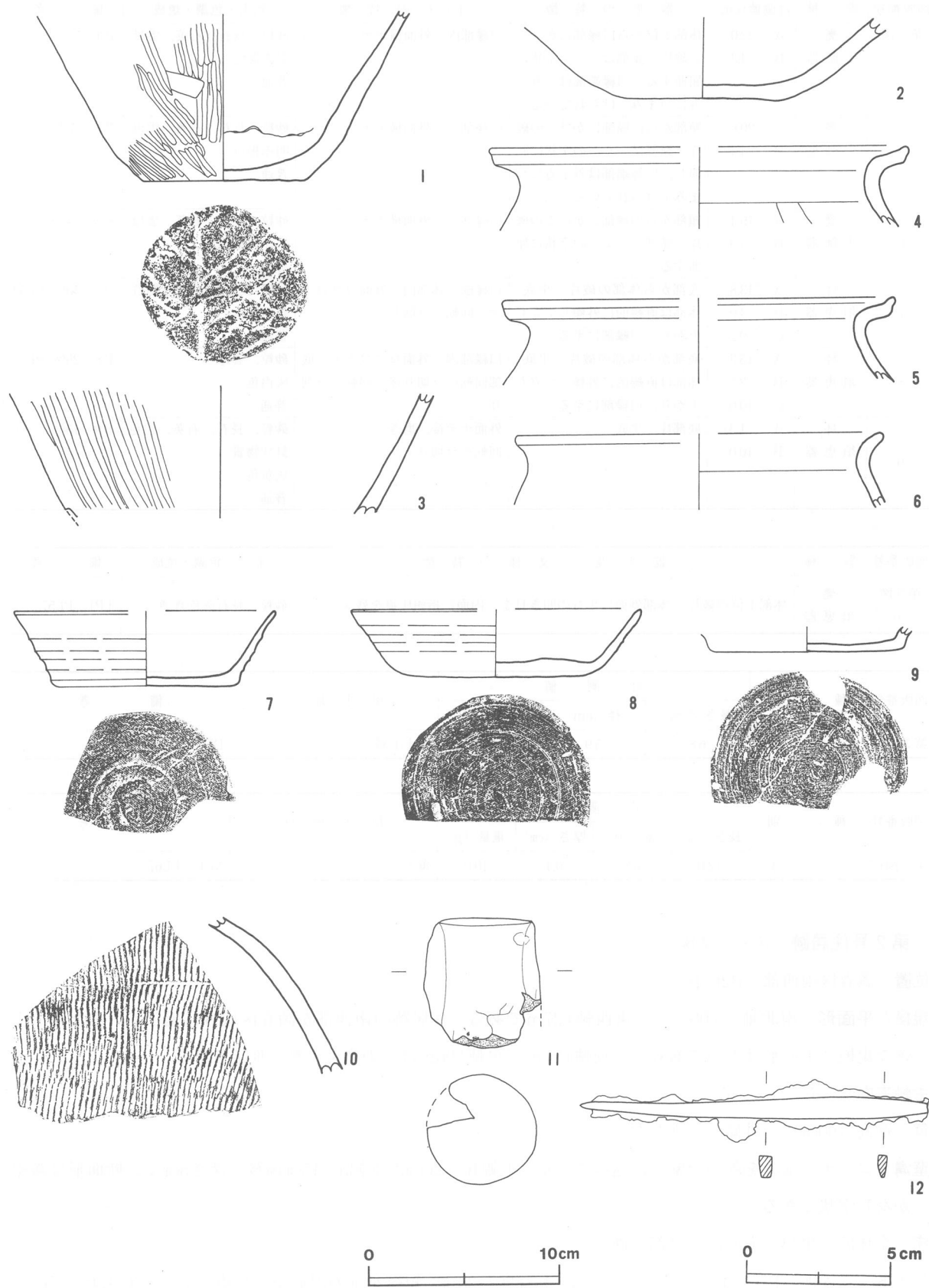
所見 本跡の時期は、遺構の形状や出土遺物から8世紀前半と考えられる。

第1号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第5図 1	甕 土師器	B (8.7)	体部下位から底部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後、ヘラナデ。内面ヘラナデ。	砂粒, 長石, 石英 にぶい赤褐色 普通	P1 20% PL53
		C 8.4				
2	甕 土師器	B (4.7)	体部下位から底部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ナデ。	砂粒, 長石, 石英 褐色 普通	P2 10%
		C 8.0				
3	甕 土師器	B (6.0)	体部下位の破片。	体部外面縦位のヘラ磨き。内面横位のナデ。	砂粒, 長石, 石英, 雲母 にぶい赤褐色 普通	P3 5%



第4図 第1号住居跡実測図



第5图 第1号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第5図 4	甕 土師器	A 22.0	体部上位から口縁部にかけての破片。頸部は「く」の字状に屈曲する。口縁端部は、外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒、長石、石英、雲母 明赤褐色 普通	P4 5%
		B 4.3				
5	甕 土師器	A 20.6	頸部から口縁部にかけての破片。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒、長石、石英、雲母 明赤褐色 普通	P5 5%
		B 4.4				
6	甕 土師器	A 19.4	頸部から口縁部にかけての破片。頸部は「く」の字状に屈曲する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒、長石、石英、雲母 にぶい赤褐色 普通	P6 5%
		B 4.0				
7	坏 須恵器	A [13.8]	底部から体部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。回転ヘラ削り。	砂粒、長石、白色針状物質 暗灰黄色 普通	P7 40% PL53
		B 4.0				
		C 9.2				
8	坏 須恵器	A [15.3]	底部から体部の破片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、回転ヘラ削り。	砂粒、雲母 灰白色 普通	P8 25% PL53
		B 3.5				
		C 10.0				
9	坏 須恵器	A [1.3]	底部片。平底。	外面ナデ後、磨き。回転ヘラ削り。	砂粒、長石、石英、白色 針状物質 灰黄色 普通	P9 15%
		B 10.0				

図版番号	器種	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第5図 10	甕 須恵器	体部上位の破片。体部外面に平行の叩き目を、内面に指頭圧痕を残す。	砂粒、長石灰色普通	TP1 PL57

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	重量(g)		
第5図11	土製支脚	6.8	5.9	200.0	覆土下層	DP1 PL64

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第5図12	刀子	12.0	0.8	0.4	10.0	覆土	M1 PL67

第2号住居跡（第6・7図）

位置 調査区南西部，B2f6区。

規模と平面形 南北軸 [4.00] m，東西軸4.27mである。住居跡の南西部が調査区域外に延びているため，正確な規模や平面形は不明であるが，長軸4.27m，短軸4.00mほどの隅丸方形と推定される。

主軸方向 [N - 8° - W]

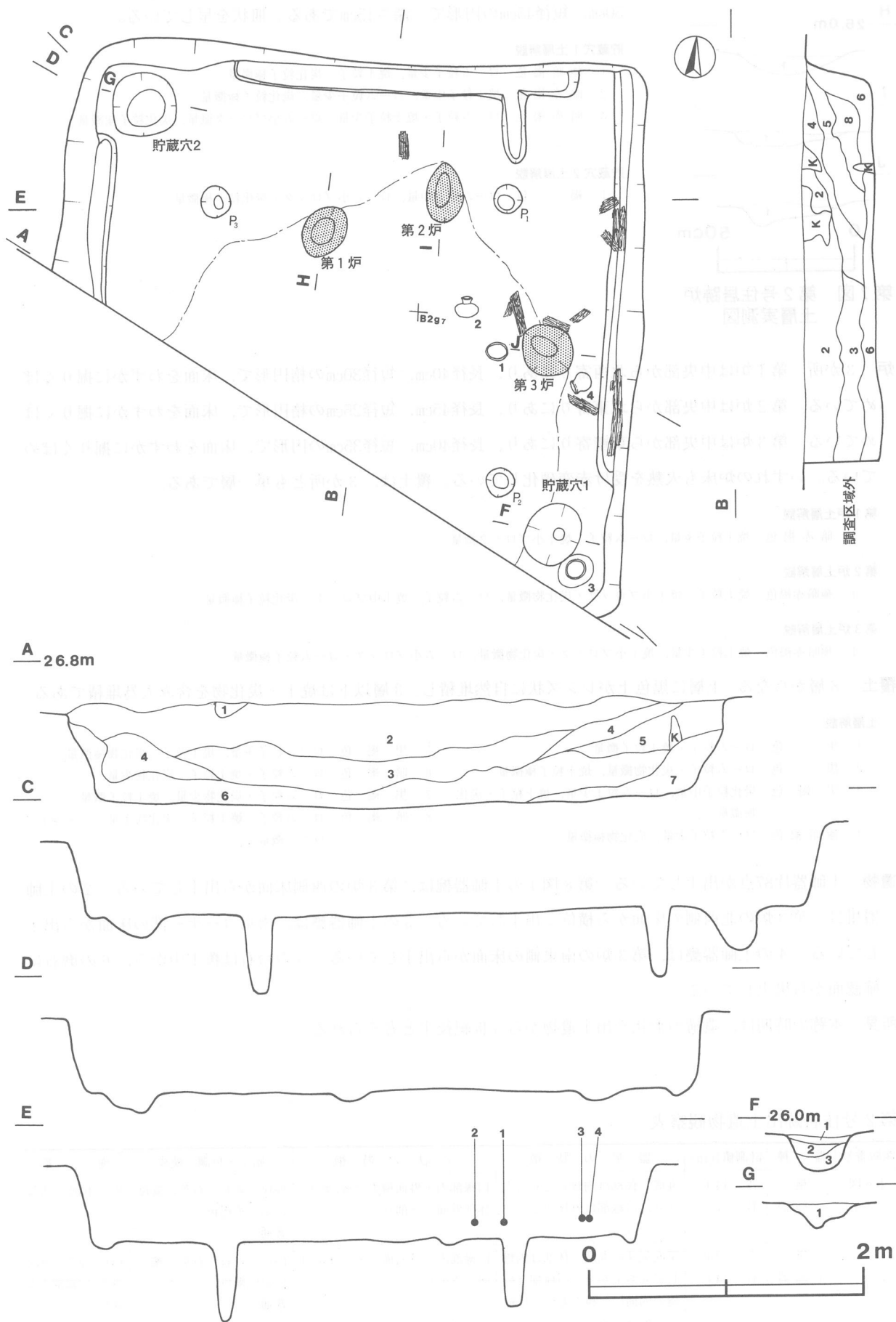
壁 壁高は60cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝 コーナー部分を除いた壁下に巡っている。上幅10～20cm，下幅5～15cm前後，深さ5cmで，断面形は緩やかなU字状である。

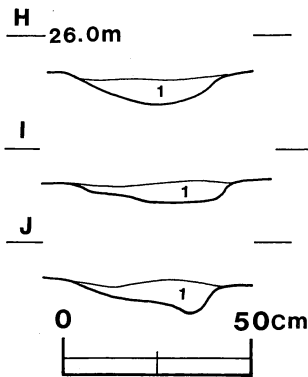
床 全体的に平坦であり，中央部が硬化している。

ピット 3か所（P1～P3）。P1～P3は，長径20～23cm，短径20cmの円形ないし楕円形で，深さ50～55cmである。いずれも各コーナー部に寄った位置にあり，規模と配置から主柱穴と考えられる。

貯蔵穴 2か所検出された。貯蔵穴1は南東コーナー部に，貯蔵穴2は北西コーナー部に付設されている。貯蔵穴1は，長径45cm，短径40cmの円形で，深さ30cmである。断面形はU字状をしている。貯蔵穴2は，長径



第6图 第2号住居跡実測図



第7図 第2号住居跡炉
土層実測図

50cm, 短径45cmの円形で、深さ15cmである。皿状を呈している。

貯蔵穴1土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子極微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子極微量
- 3 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量

貯蔵穴2土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化粒子極微量

炉 3か所。第1炉は中央部から北西寄りにあり、長径40cm, 短径30cmの楕円形で、床面をわずかに掘りくぼめている。第2炉は中央部から北東寄りにあり、長径45cm, 短径25cmの楕円形で、床面をわずかに掘りくぼめている。第3炉は中央部から東壁寄りにあり、長径40cm, 短径35cmの円形で、床面をわずかに掘りくぼめている。いずれの炉床も火熱を受け赤変硬化している。覆土は、3か所とも単一層である。

第1炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・焼土小ブロック微量

第2炉土層解説

- 1 極暗赤褐色 焼土粒子・焼土小ブロック・炭化物微量, ローム粒子・焼土中ブロック・炭化粒子極微量

第3炉土層解説

- 1 極暗赤褐色 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物微量, ローム小ブロック・ローム粒子極微量

覆土 8層からなる。上層に黒色土がレンズ状に自然堆積し、3層以下は焼土・炭化物を含み人為堆積である。

土層解説

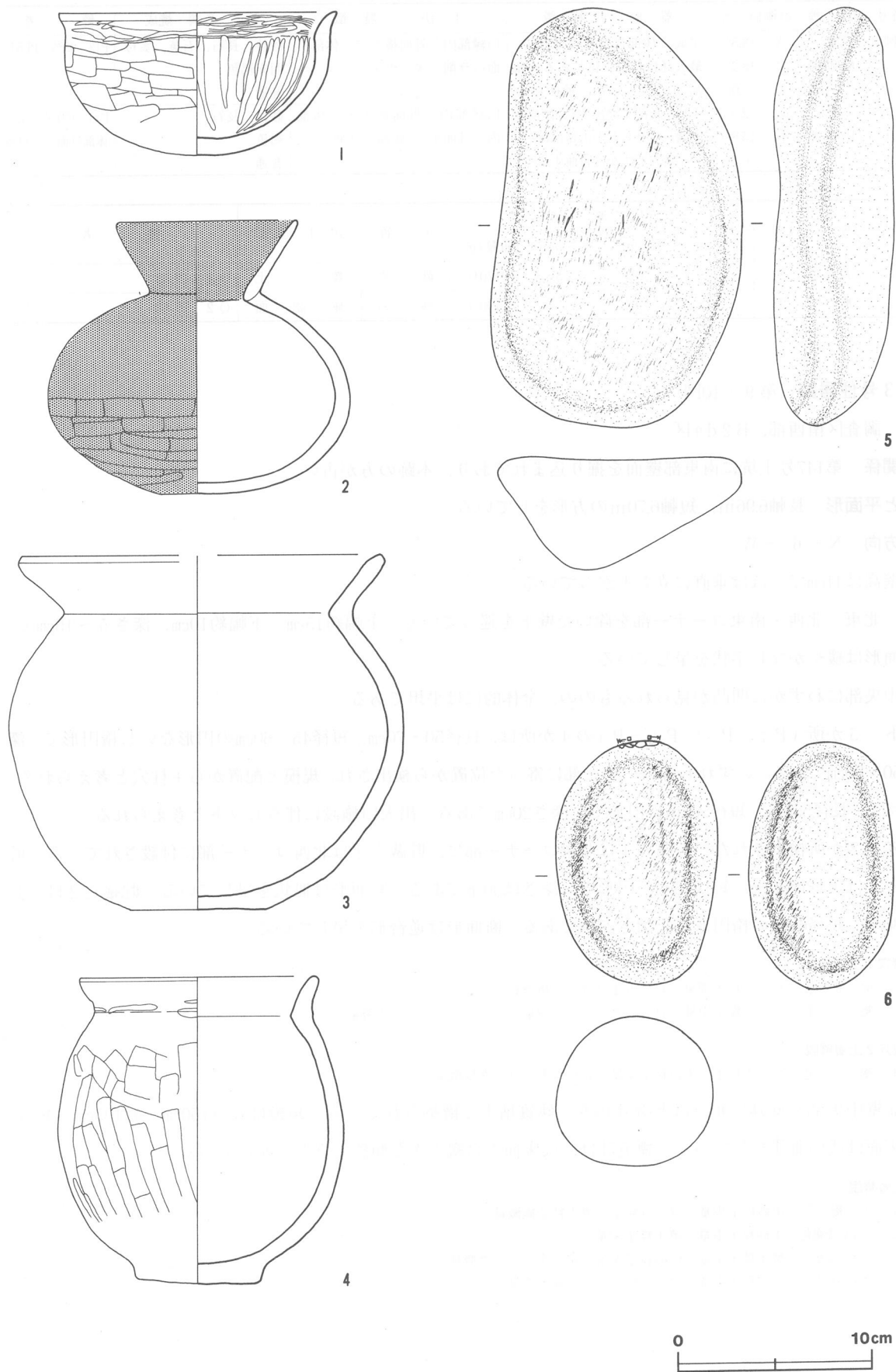
- | | | | |
|--------|-----------------------------|-------|------------------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物極微量 |
| 2 黒色 | ローム粒子・炭化物微量, 焼土粒子極微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量 | 7 黒褐色 | ローム粒子・炭化物少量, 焼土粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化物極微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物少量, ローム小ブロック微量 |

遺物 土師器片87点が出土している。第8図1の土師器碗は、第3炉の西側床面から出土している。2の土師器埴は、第3炉の北西側の床面から横位で出土している。3の土師器甕は、南東コーナー部の床面から出土している。4の土師器甕は、第3炉の南東側の床面から出土している。5の台石は覆土中から、6の磨石は確認面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形状や出土遺物から5世紀後半と考えられる。

第2号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第8図 1	碗 土師器	A 14.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ後、磨き。体部外面へラ削り。	砂粒, 長石, 石英, 雲母 に おい黄褐色 普通	P10 100% PL53
		B 7.4				
2	埴 土師器	A 9.4	平底気味の丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境の内面に、稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。	砂粒, 長石, 石英, 礫 に おい褐色 普通	P11 100% PL53 外面・口縁部内面 赤彩
		B 14.1				



第8图 第2号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第8図 3	甕 土師器	A [18.5]	平底。体部は扁平な球状で、最大径は体部上位にある。頸部は「く」の字状に屈曲する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。	砂粒、長石、石英、雲母 明赤褐色 普通	P12 95% PL53
		B 18.3				
		C 7.0				
4	甕 土師器	A 12.0	平底。底部は突出する。体部は内彎して立ち上がり、頸部は「く」の字状にわずかに屈曲する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。底部ヘラ削り。	砂粒、長石 褐色 普通	P13 100% PL53 体部外面スス附着
		B 15.8				
		C 6.2				

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第8図5	台石	21.8	12.6	5.8	2170.0	砂岩	覆土	Q1 PL63
6	磨石	12.8	8.2	7.5	1190.0	砂岩	確認面	Q2 PL63

第3号住居跡（第9・10図）

位置 調査区南西部，B2d9区。

重複関係 第147号土坑に南東部壁面を掘り込まれており，本跡の方が古い。

規模と平面形 長軸6.96m，短軸6.70mの方形をしている。

主軸方向 N-6°-W

壁 壁高は41cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝 北東・北西・南東コーナー部を除いた壁下を巡っている。上幅約15cm，下幅約10cm，深さ5～15cmで，断面形は緩やかなU字状を呈している。

床 中央部にわずかに凹凸が見られるものの，全体的には平坦である。

ピット 5か所（P1～P5）。P1～P4の4か所は，長径50～70cm，短径45～60cmの円形ないし楕円形で，深さ50～80cmである。いずれも各コーナー部に寄った位置から検出され，規模と配置から支柱穴と考えられる。

P5は，長径55cm，短径50cmの円形で，深さ20cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 2か所検出された。貯蔵穴1は北東コーナー部に，貯蔵穴2は北西コーナー部に付設されている。貯蔵穴1は，長径80cm，短径75cmの円形で，深さは30cmである。断面形は皿状を呈している。貯蔵穴2は，長径80cm，短径60cmの楕円形で，深さ25cmである。断面形は逆台形を呈している。

貯蔵穴1土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量，ローム小ブロック極微量
- 2 褐色 ローム粒子中量，ローム大ブロック少量，ローム小ブロック極微量

貯蔵穴2土層解説

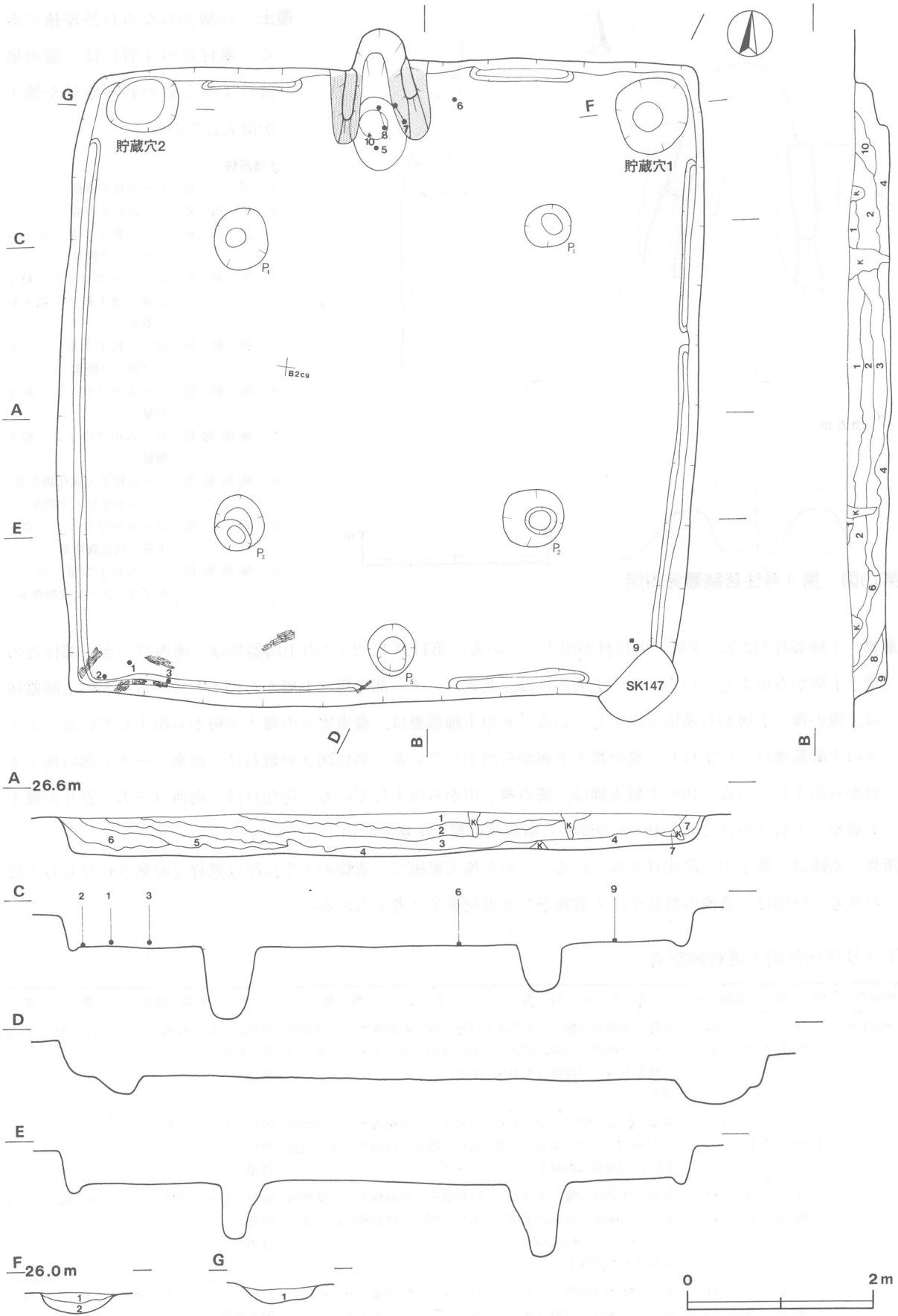
- 1 褐色 ローム粒子・黒色粒子少量，ローム大ブロック極微量

竈 北壁中央部を壁外に40cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は長さ150cm，幅105cmである。

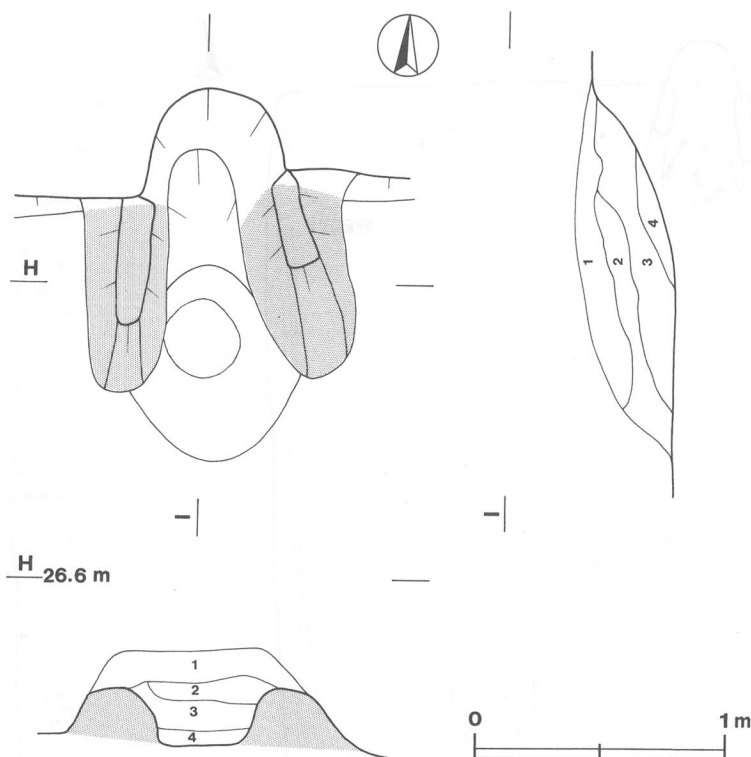
火床面は浅い皿状をしている。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 灰褐色 山砂粒子少量，ローム粒子・焼土粒子極微量
- 2 におい赤褐色 山砂粒子中量，焼土粒子少量
- 3 におい赤褐色 焼土粒子中量，山砂粒子少量，焼土小ブロック微量
- 4 におい赤褐色 山砂粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量



第9図 第3号住居跡実測図



第10図 第3号住居跡竈実測図

覆土 10層からなる自然堆積である。竈付近の4層には、竈の崩落によると思われる竈材や焼土が混入している。

土層解説

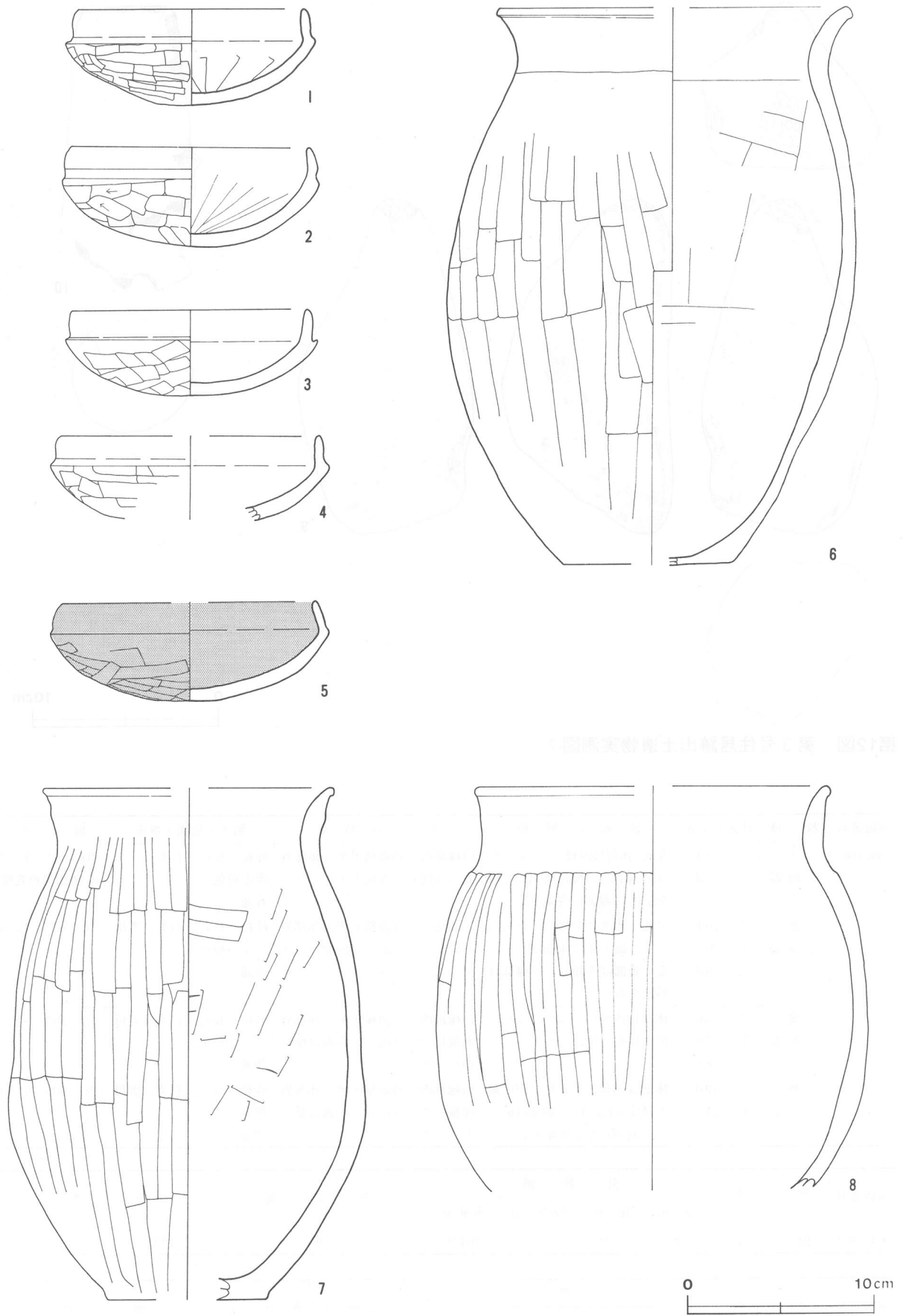
- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 7 極暗褐色 ローム小ブロック・粒子微量
- 8 極暗褐色 ローム粒子・炭化物少量、ローム小ブロック微量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量、炭化物微量
- 10 極暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化物微量

遺物 土師器片342点、少量の炭化材が出土している。第11図1・2・3の土師器坏は、南西コーナー部付近の覆土上層から出土している。4の土師器坏は、北東コーナー部の覆土上層から出土している。5の土師器坏は、竈の覆土下層から逆位で出土している。6の土師器甕は、竈東寄りの覆土下層から出土している。7・8の土師器甕は、いずれも、竈の覆土下層から出土している。第12図9の敲石は、南東コーナー部の覆土下層から出土している。10の土製支脚は、竈の覆土中から出土している。炭化材は、南西コーナー寄りの覆土上層から下層にかけてと、P5の西側から南西側の覆土下層から出土している。

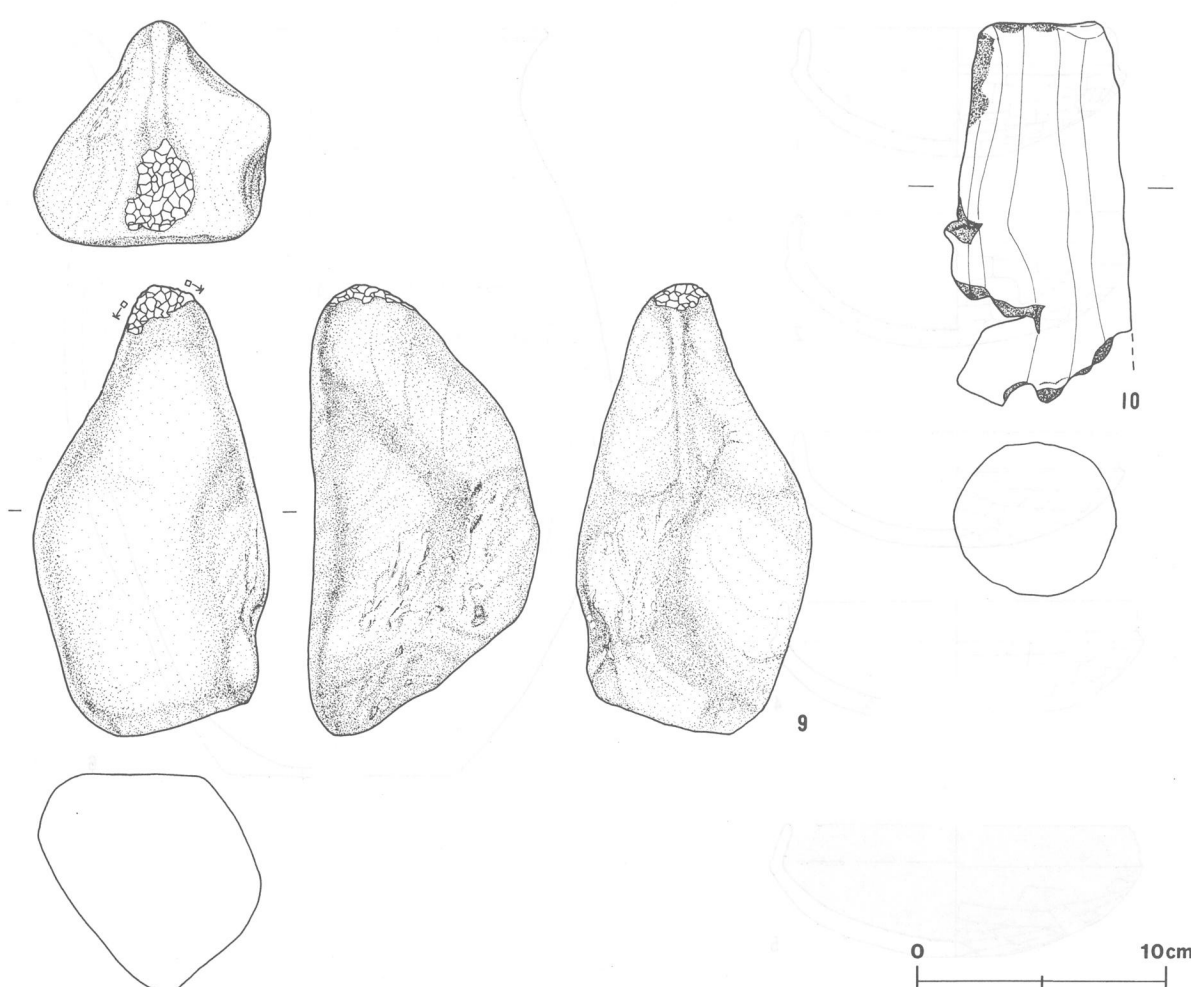
所見 本跡は、覆土中に炭化材がみられることから焼失家屋で、遺物の大半は埋没過程で廃棄されたものと思われる。時期は、遺構の形状や出土遺物から6世紀後半と考えられる。

第3号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第11図 1	坏 土師器	A 12.1 B 5.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に突出した稜をもつ。口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、ナデ。内面へらナデ。	砂粒、長石、石英 明赤褐色 普通	P14 100% PL53
2	坏 土師器	A 12.8 B 5.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に突出した稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ後、内面へらナデ。	砂粒、長石、石英 橙色 普通	P15 95% PL53
3	坏 土師器	A 12.8 B 4.7	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に突出した稜をもつ。口縁部は直立し、端部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面横位のへらナデ。	砂粒、長石、雲母 橙色 普通	P16 80% PL53
4	坏 土師器	A 14.0 B 4.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に突出した稜をもつ。口縁部は直立し、端部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へらナデ。内面ナデ。	砂粒、長石、石英、雲母 明赤褐色 普通	P17 55% PL53



第11图 第3号住居跡出土遺物実測図(1)



第12図 第3号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第11図 5	坏 土師器	A [13.4] B 5.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に突出した稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒、長石、石英 明赤褐色 普通	P18 40% PL53 内・外面黒色処理
6	甕 土師器	A [19.1] B 30.4 C [8.8]	平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径は体部中位にある。頸部は内傾し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒、長石、石英、雲母 にぶい橙色 普通	P19 60% PL54
7	甕 土師器	A [15.6] B 27.6 C [8.6]	体部は内彎して立ち上がり、最大径を下位にもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	砂粒、長石、石英、雲母 にぶい褐色 普通	P20 30% PL54
8	甕 土師器	A [19.0] B (21.8)	体部は内彎して立ち上がり、最大径は中位にある。頸部は直立し、口縁部はやや外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面は横位のヘラナデ。	砂粒、長石、石英、雲母 橙色 普通	P21 30% PL54

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第12図9	敲石	18.1	9.5	9.3	1640.0	砂岩	覆土	Q 3 PL63

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	重量(g)		
第12図10	土製支脚	15.4	7.4	590.0	覆土下層	DP 2

第4号住居跡 (第13図)

位置 調査区南西部, B3g1区。

重複関係 本跡が, 第148号土坑を掘り込んでおり, 本跡の方が新しい。

規模と平面形 長軸4.74m, 短軸3.46mの隅丸長方形をしている。

主軸方向 N-18°-W

壁 壁高は50cmで, ほぼ垂直に立ち上がっている。

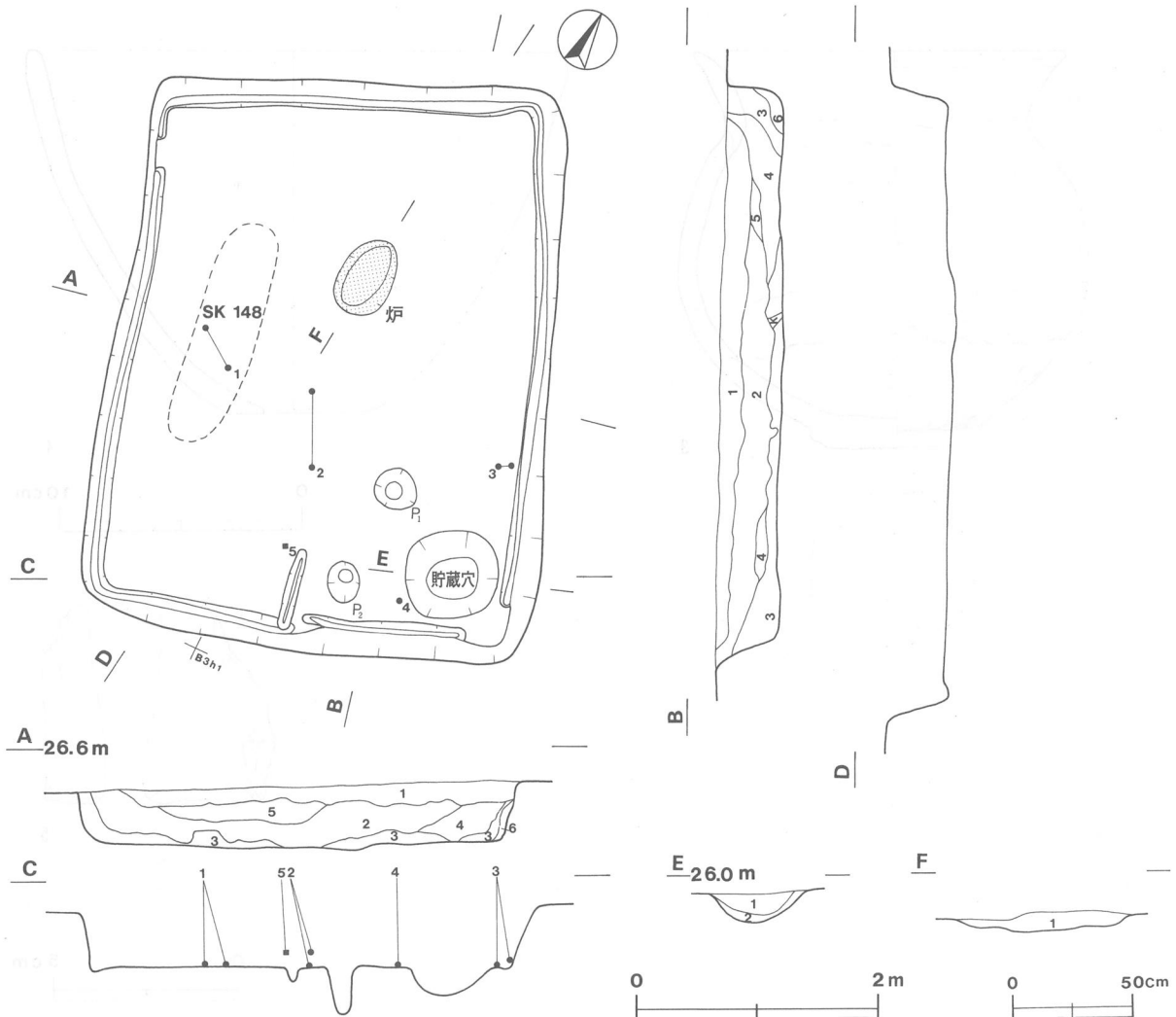
床 軟質なローム土で形成されており, ほぼ平坦である。南壁中央部から, 中央部へ向かって延びる溝が確認されている。長さ70cm, 上幅8~12cm, 深さ12cmで, 断面形はU字状である。

ピット 2か所。P₁は径約37cmの円形で, 南東コーナー部に寄った位置にある。規模と配置から柱穴と考えられる。P₂は, 長径34cm, 短径27cmの楕円形で, 深さ38cmである。南壁中央部寄りに位置する。出入口施設に伴うピットと考えられる。

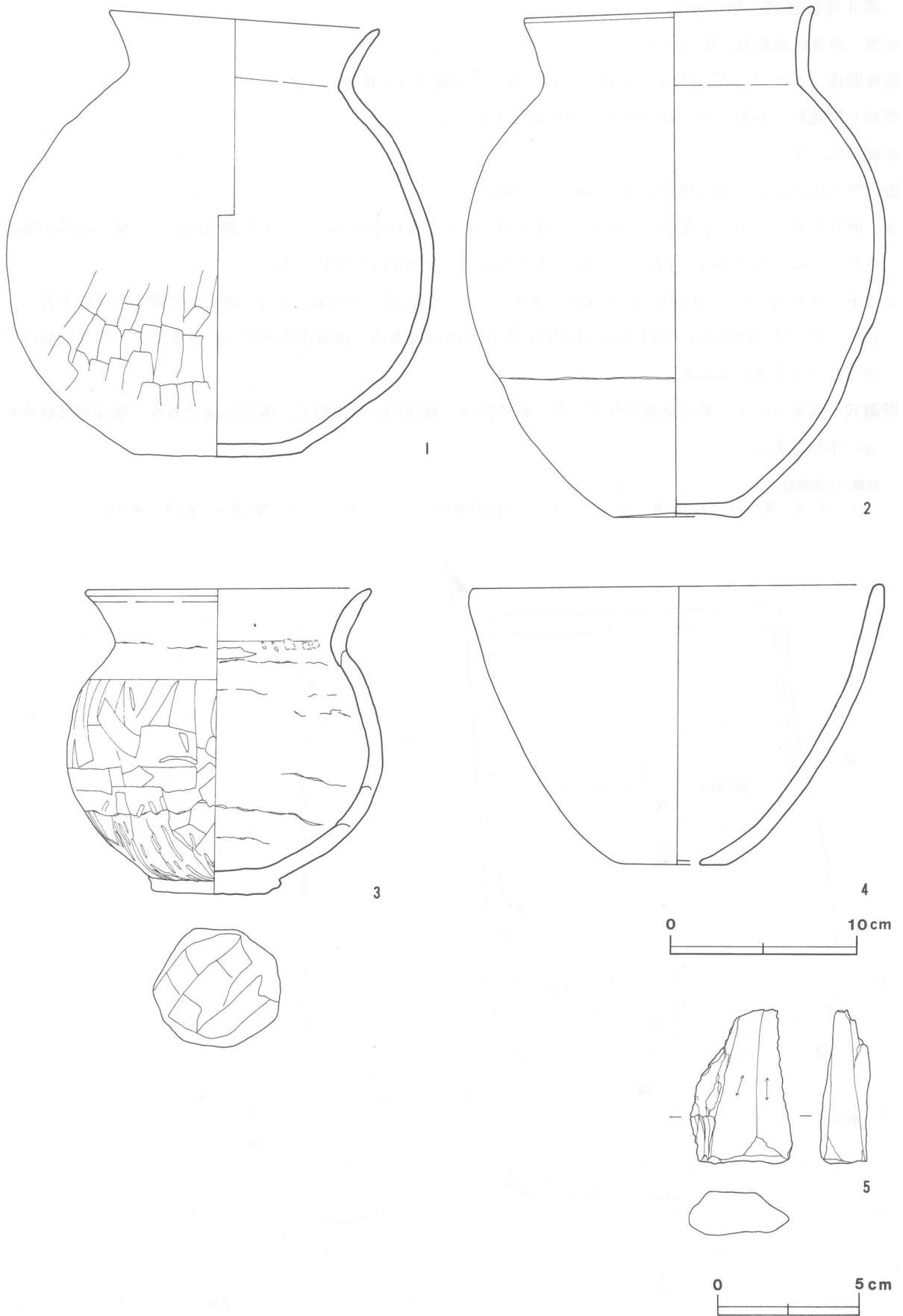
貯蔵穴 南東コーナー部に付設されている。長径75cm, 短径70cmの円形で, 深さ25cmである。断面形は緩やかなU字状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化物極微量 2 褐色 焼土粒子・黒色粒子極微量



第13図 第4号住居跡実測図



第14図 第4号住居跡出土遺物実測図

炉 中央部から北東寄りにあり、長径57cm、短径45cmの楕円形で、床面をわずかに掘りくぼめている。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子微量

覆土 6層からなる自然堆積である。上層から下層にかけて黒褐色土、黒色土がレンズ状に堆積する。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子微量
 2 黒色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量
 3 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量、焼土粒子微量
 4 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量
 5 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量
 6 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量、焼土粒子微量

遺物 土師器片76点、須恵器片2点が出土している。第14図1の土師器甕は、炉西側の覆土下層から出土している。2の土師器甕は、中央部の覆土下層から出土している。3の土師器甕は、P1東側の覆土下層から出土している。4の土師器甕は、貯蔵穴西側の床面から逆位で出土している。5の砥石は、南壁中央部側の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から5世紀後半と考えられる。

第4号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第14図 1	甕 土師器	A 14.5 B 24.0 C 9.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径は体部中位にある。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。	砂粒、長石、石英、スコリア 赤褐色 普通	P22 95% PL54
2	甕 土師器	A 15.6 B 26.4 C 6.8	平底。体部は倒卵形で、最大径は上位にある。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部ヘラ削り。内面ナデ。	砂粒、長石、石英 スコリア にぶい橙色 普通	P23 80% PL54
3	甕 土師器	A 15.2 B 16.4 C 6.8	平底。体部は内彎して立ち上がり、最大径は体部中位にある。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面削り後、ナデ。体部内面に輪積み痕が残る。	砂粒、長石、雲母 赤褐色 普通	P24 90% PL53
4	甕 土師器	A 22.1 B 17.0 C 5.6 孔径 2.6	単孔式。体部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部下位ヘラ削り後、ナデ。	砂粒、長石、石英 にぶい褐色 普通	P25 95% PL55

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第14図5	砥石	5.6	3.6	1.7	40.0	凝灰岩	覆土	Q7 PL63

第5号住居跡 (第15・16図)

位置 調査区中央西部、A2g7区。

規模と平面形 長軸5.16m、短軸5.13mの隅丸方形である。

主軸方向 N-17°-W

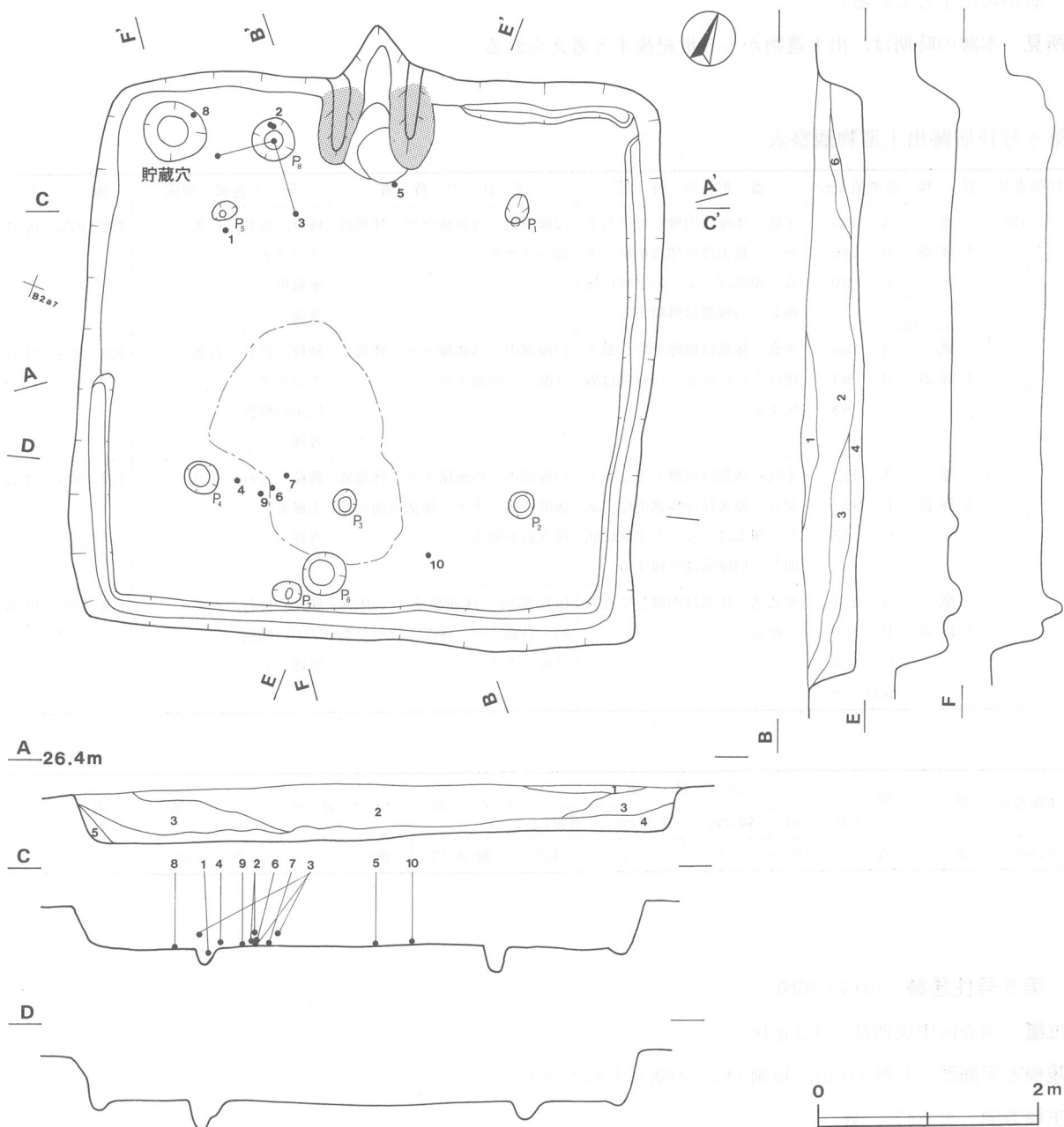
壁 壁高は47cmで、わずかに外傾して立ち上がる。

床 出入口付近では硬化面が確認されている。中央部分は木の根の攪乱を受けている。

ピット 8か所 (P₁~P₈)。P₁・P₂・P₄・P₅は、長径25~35cm、短径15~28cmの円形及び楕円形で、深さ10~25cmである。いずれも各コーナー部に寄った位置から検出され、規模と配置から支柱穴と考えられる。P₆は、直径40cmの円形で、深さ15cmである。南壁中央部に隣接しており、出入口施設に伴うピットと考えられる。P₃は、長径25cm、短径21cmの楕円形で、南壁中央部に寄った位置にある。P₇は、P₆の西側に隣接しており、長径26cm、短径20cmの楕円形で、深さ15cmの掘り込みをもっている。P₈は竈西袖に隣接しており、直径40cmの円形である。いずれも性格は不明である。

貯蔵穴 北西コーナー部に付設されている。長径55cm、短径50cmの円形で、深さ10cmで断面形は皿状を呈している。

竈 北壁中央部を壁外に40cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は長さ150cm、幅105cmである。

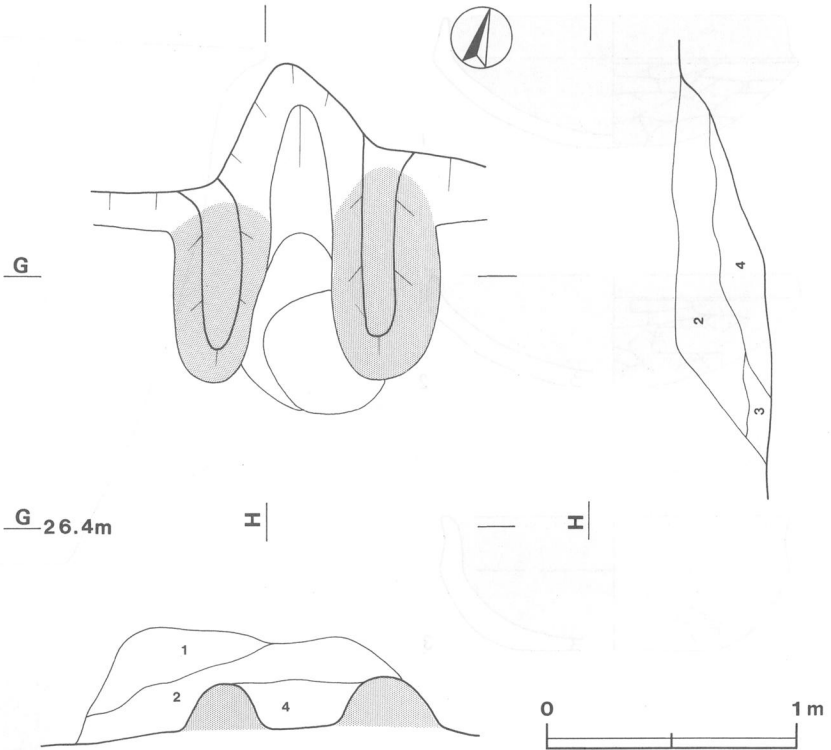


第15図 第5号住居跡実測図

火床面は浅い皿状をしている。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量, ローム小ブロック極微量
- 2 にぶい赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・山砂粒子少量, 焼土小ブロック・小礫極微量
- 3 にぶい赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 焼土小ブロック・山砂粒子微量, 小礫極微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム小ブロック・山砂粒子少量



覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量
- 6 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子中量

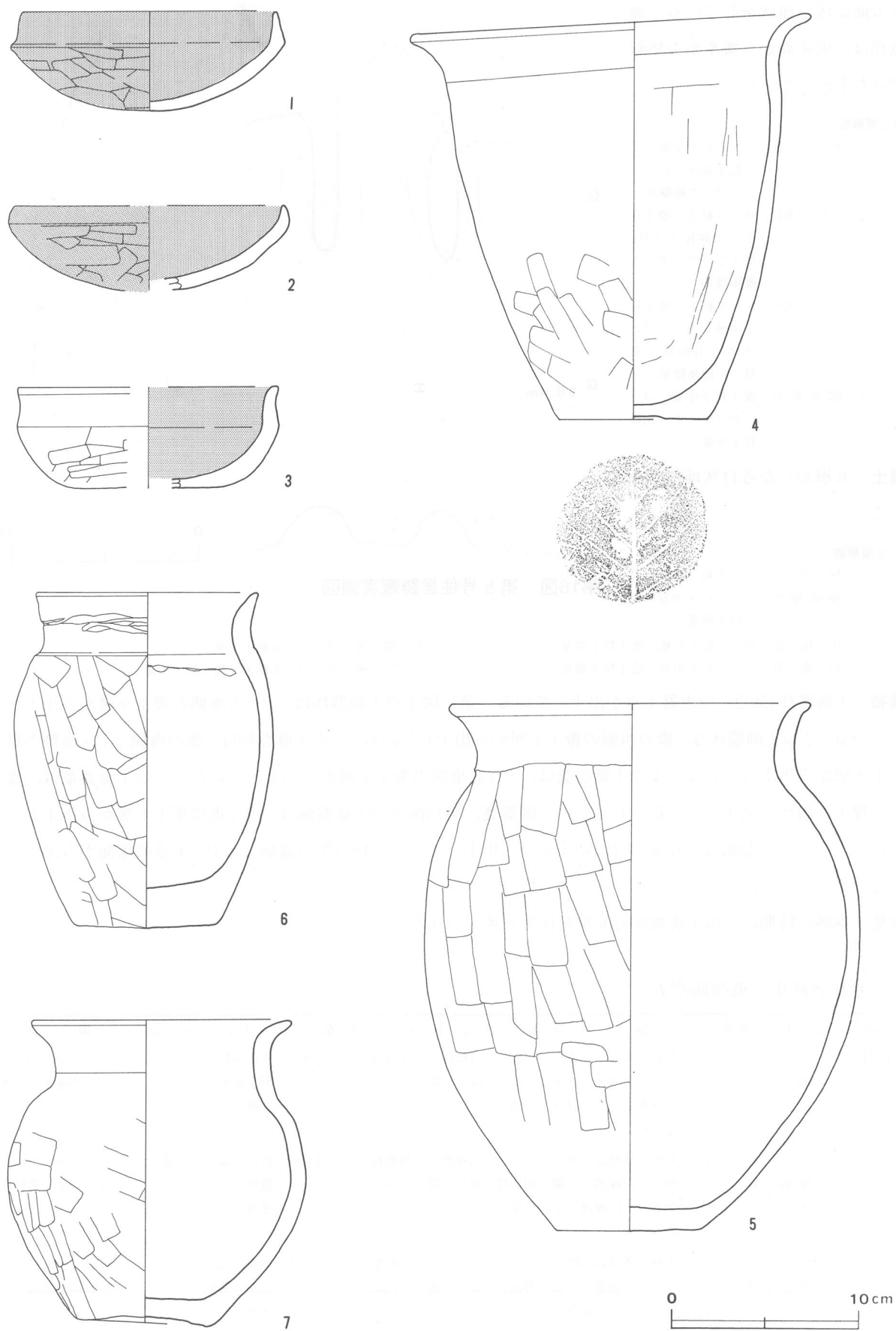
第16図 第5号住居跡竈実測図

遺物 土師器片159点, 須恵器1点が出土している。第17図1の土師器坏は、P5の南側の覆土下層から出土している。2の土師器坏は、竈の西側の覆土下層から出土している。3の土師器坏は、竈の西側とP8南側の覆土下層から出土している。4の土師器甕は、P4北東側の覆土下層から出土している。5の土師器甕は、竈の覆土下層から出土している。6と7の土師器甕, 第18図9の土師器甕は、P4東側覆土下層から出土している。8の土師器甕は、貯蔵穴付近の床面から出土している。10の須恵器甕は、P3東側の床面から出土している。

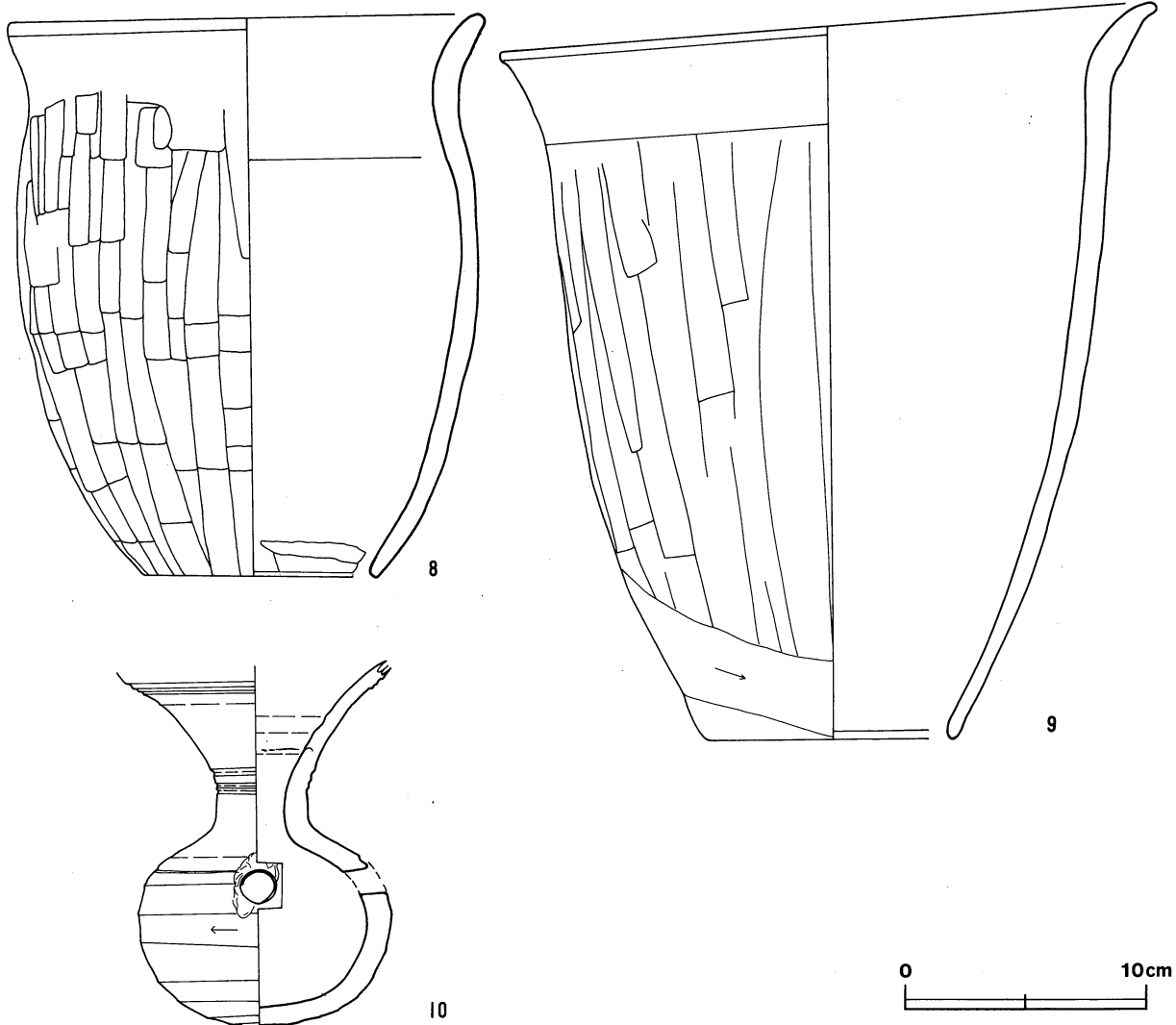
所見 本跡の時期は、出土遺物から6世紀後半と考えられる。

第5号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第17図 1	坏 土師器	A 13.6	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に突出した稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。	砂粒, 長石, 石英, 雲母 明赤褐色 普通	P26 100% PL54 内・外面黒色処理
		B 5.3				
2	坏 土師器	A 14.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラ削り。内面ナデ。	砂粒, 長石, 石英 橙色 普通	P27 50% PL54 内・外面黒色処理
		B 4.5				
3	坏 土師器	A 14.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境の外面に稜をもつ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒, 長石, 雲母 にぶい褐色 普通	P28 30% PL54 内面黒色処理
		B 5.4				
		C (7.4)				



第17图 第5号住居跡出土遺物実測図(1)



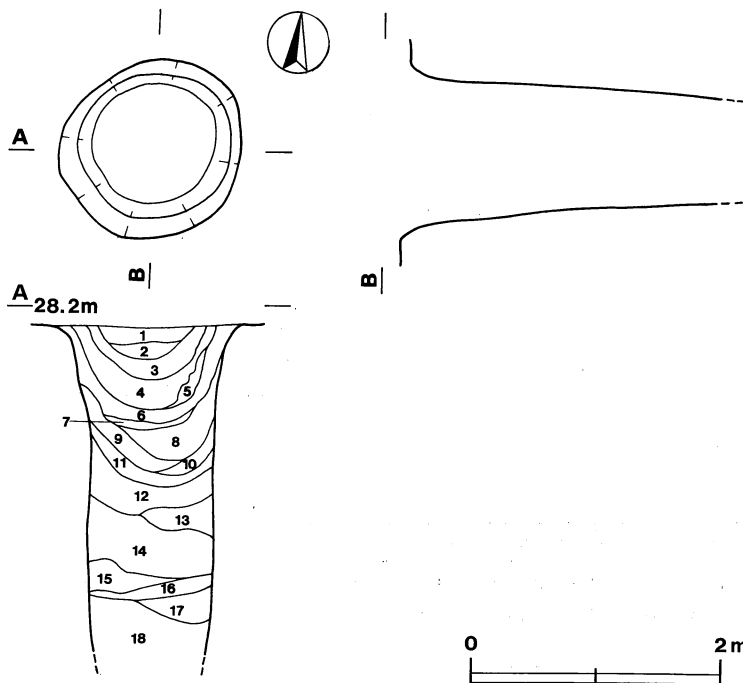
第18図 第5号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第17図 4	甕 土師器	A 21.3 B 21.6 C 7.9	平底。体部は内彎して立ち上がり、上位ではほぼ直立する。口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。内面縦位のナデ。	砂粒，長石，雲母，礫にぶい黄褐色 普通	P29 80% PL54
5	甕 土師器	A 19.3 B 28.3 C [7.9]	平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を上位にもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒，長石，石英，雲母 明赤褐色 普通	P30 60% PL55
6	甕 土師器	A 12.0 B 8.0 C 7.2	平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を上位にもつ。頸部は直立し，口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。底面ヘラ削り。	砂粒，長石，石英，雲母 橙色 普通	P31 70% PL54
7	甕 土師器	A 13.7 B 16.3 C 7.0	平底。体部は倒卵形で，最大径は中位にある。頸部はほぼ直立し，口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒，長石，石英，雲母 明褐色 普通	P32 40%
第18図 8	甗 土師器	A 19.7 B 23.6 C 9.8	無底式。体部は内彎して立ち上がり，口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面横位のヘラナデ。	砂粒，長石，石英 赤褐色 普通	P33 100% PL56

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第18図 9	甌 土師器	A 27.0 B 30.6 C 10.1	無底式。体部はわずかに内彎して立ち上がり、上位で直立する。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面横ナデ。	砂粒、長石、石英 明赤褐色 普通	P34 65% PL56
10	甌 須恵器	B (15.1) 孔径 1.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、頸部は「く」の字状に屈曲する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、横ナデ。	砂粒、長石、石英、雲母 灰白色 良好	P35 90% PL55

表2 寺山遺跡住居跡一覧表

住居跡 番号	位置	主(長)軸 方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考 (古→新)
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	出入口	炉・竈			
1	B6g8	N-8°-W	隅丸方形	3.90 × 3.90	70	平坦	有	4	1	5	1	竈	自然	土師器(甌), 須恵器(坏), 土製支脚, 刀子	SI1 → SK38
2	B2t6	[N-4°-W]	[隅丸長方形]	4.27 × [4.00]	60	平坦	有	3	2	3	-	炉	人為	土師器(碗, 埴, 甕)	3層以下人為堆積
3	B2d9	N-6°-W	方形	6.96 × 6.70	41	平坦	有	4	2	5	1	竈	自然	土師器(坏, 甕)	SI3 → SK147
4	B3g1	N-18°-W	隅丸長方形	4.74 × 3.46	50	平坦	有	-	1	2	-	炉	自然	土師器(甕, 甌)	SK148 → SI4
5	A2g7	N-17°-W	隅丸方形	5.16 × 5.13	47	平坦	有	4	1	7	1	竈	自然	土師器(坏, 甕, 甌), 須恵器(甌)	



第19図 第1号井戸実測図

2 井戸

当遺跡からは、井戸2基が検出されている。

第1号井戸 (第19図)

位置 調査区北部, B7b2区。

規模と形状 掘り方は、上面径1.14mの円筒形をしている。深さ2.40mまで掘り込んだところで、壁の崩落の危険があるために、それ以下の調査を打ち切った。

覆土 18層からなる。1～3層は自然堆積、4～18層はロームが多量に含まれていることから人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|--|---------|---|
| 1 褐色 | ローム粒子・砂粒中量, ローム小ブロック・炭化物少量 | 13 極黒褐色 | ローム中ブロック・小ブロック・粒子中量, 黒色小ブロック・砂礫少量 |
| 2 褐色 | ローム小ブロック・粒子多量, 砂粒中量, 炭化物微量 | 14 黒褐色 | ローム小ブロック・粒子中量, ローム大ブロック・中ブロック・小礫・黒色小ブロック・砂礫少量 |
| 3 褐色 | ローム粒子多量, ローム中ブロック・砂粒中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化物・小礫少量 | 15 褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・KP粒子中量, KPブロック・小礫・砂礫少量 |
| 4 褐色 | ローム小ブロック・粒子多量, 砂粒中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化物・小礫少量 | 16 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・KPブロック・KP粒子中量, ローム大ブロック・中ブロック少量 |
| 5 明褐色 | ローム小ブロック・粒子多量, 炭化物微量 | 17 黒褐色 | ローム小ブロック・粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・KPブロック・KP粒子少量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量, 砂粒少量, 炭化粒子微量 | 18 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・砂礫中量, 小礫・KPブロック少量 |
| 7 黒色 | 腐植土層 | | |
| 8 極暗褐色 | ローム粒子中量 | | |
| 9 暗褐色 | ローム小ブロック・粒子・砂礫中量, ローム中ブロック・炭化物少量 | | |
| 10 極暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化物微量 | | |
| 11 黒褐色 | ローム小ブロック・粒子少量, 砂礫微量 | | |
| 12 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・黒色小ブロック・砂礫少量 | | |

遺物 覆土中から、流れ込みと思われる陶器片1点が出土している。

所見 本跡の時期は、底面まで掘り下げていないことや、時期を特定できる遺物が出土していないことから、不明である。

第2号井戸 (第20図)

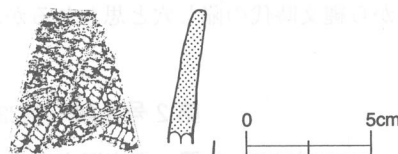
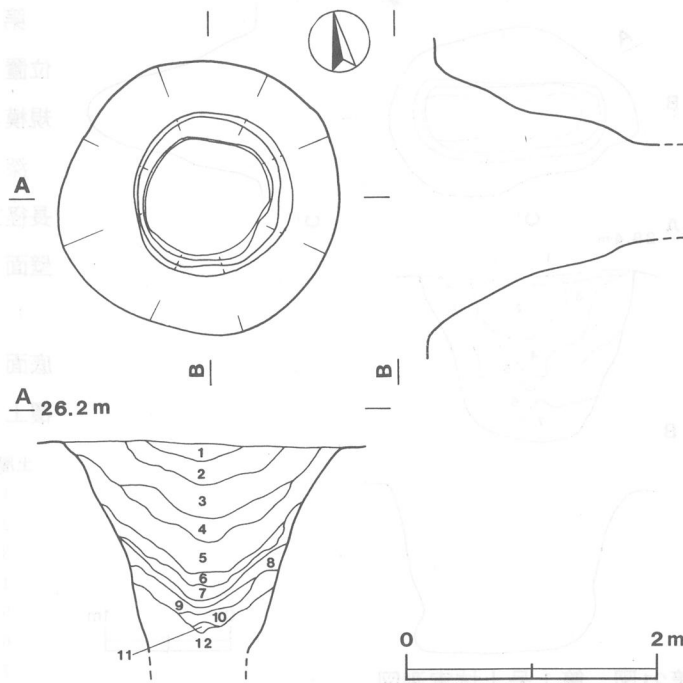
位置 調査区中央部、A2h0区。

規模と形状 掘り方は、上面が径2.20～2.26mの円形をしており、確認面から約1.50mの深さまで漏斗状に傾斜し、そこから下は径0.92～1.00mの円筒形をしている。深さ1.80mまで掘り込んだところで、壁の崩落の危険があるために、それ以下の調査を打ち切った。

覆土 12層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黄褐色 小礫微量、ローム粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量、黒色小ブロック極微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック微量、ローム中ブロック極微量
- 4 極暗褐色 ローム粒子微量、黒色小ブロック極微量
- 5 暗褐色 黒色小ブロック微量、ローム粒子極微量
- 6 褐色 ローム粒子中量
- 7 黒褐色 ローム粒子中量、黒色中ブロック極微量
- 8 褐色 ローム粒子多量



第20図 第2号井戸・出土遺物実測図

- 9 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 10 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
- 11 黒色 ローム粒子微量
- 12 褐色 ローム小ブロック・KP粒子少量

遺物 覆土中から、流れ込みと思われる第20図1の縄文土器片1点、土師器片2点が出土している。

所見 本跡の時期は、底面まで掘り下げていないことや、時期を特定できる遺物が出土していないことから、不明である。

第2号井戸出土遺物観察表

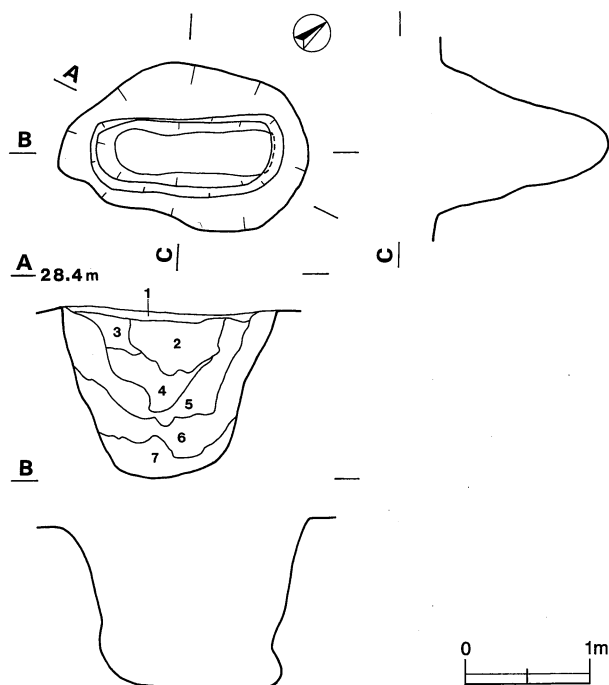
図版番号	器形及び文様の特徴	備考
第20図1	胴部片。LRの単節縄文が施されている。	TP72 PL58

表3 寺山遺跡井戸一覧表

井戸番号	位置	平面形	規模			壁面	覆土	出土遺物	備考
			長径×短径 (m)		深さ (m)				
			上面	底面					
1	B7b2	円形	1.14 × 1.14	(0.98 × 0.96)	(2.40)	円筒形	人為	陶器片	
2	A2h0	円形	2.26 × 2.20	(1.00 × 0.92)	(1.80)	漏斗状	人為	土師器片	

3 土坑

当遺跡からは、土坑が197基検出されている。出土遺物から、縄文時代前期のものが多いと考えられるが、正確な時期や性格は不明なものが多い。ここでは、形状や出土遺物が特徴的な土坑について記述し、他は一覧表に記載する。第224・225・226号土坑については、竈跡に関連する土坑であるので、7の竈跡の項で記載する。



第21図 第1号土坑実測図

第1号土坑 (第21図)

位置 調査区南東部, B6i9区。

規模と平面形 長径2.00m, 短径1.26mの楕円形で, 深さは140cmである。

長径方向 N-37°-E

壁面 垂直に立ち上がり, 東部がオーバーハングしている。

底面 平坦である。

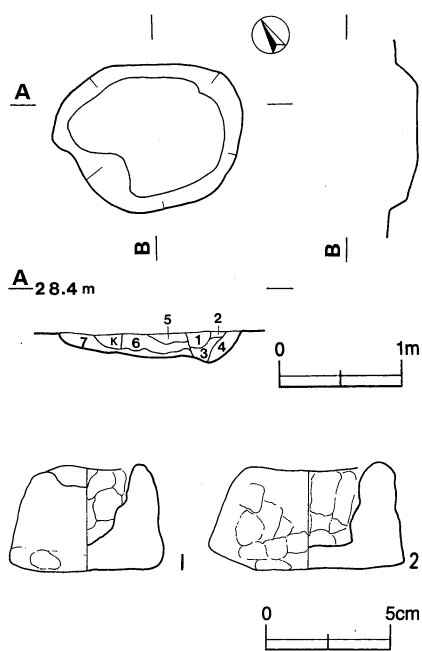
覆土 7層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒色 ローム粒子微量, ローム小ブロック極微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 7 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

遺物 出土していない。

所見 本跡は, 遺構の形態から縄文時代の陥し穴と思われるが, 遺物がなく詳細な時期については不明である。



第22図 第2号土坑・出土遺物実測図

第2号土坑 (第22図)

位置 調査区南東部, B7e1区。

規模と平面形 長径0.75m, 短径0.59mの楕円形で, 深さは24cmである。

長径方向 N-30°-E

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 皿状である。

覆土 7層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・白色粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・白色粒子微量
- 5 極暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 7 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

遺物 手捏土器2点が出土している。第22図1・2の2点の土器とも, 東部の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期や性格は不明である。

第2号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第22図 1	手捏土器 土師器	A	4.0	平底。体部は器厚を減じながら, 内傾して立ち上がり, 口縁部に至る。	体部内・外面に指頭によるナデ。指頭圧痕が残る。	砂粒, 長石, 石英, 雲母, スコリア, にぶい赤褐色普通
		B	4.3			
		C	5.9			

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第22図 2	手捏土器 土師器	A 5.0	平底。体部は器厚を減じながら、やや内傾して立ち上がり、口縁部に至る。	体内・外面に指頭によるナデ。指頭圧痕が残る。	砂粒、長石、石英、雲母にぶい橙色 普通	P37 100% PL56
		B 4.3				
		C 7.3				

第38号土坑 (第23図)

位置 調査区南東部, B6h9区。

重複関係 本跡が第1号住居跡を掘り込んでいる。

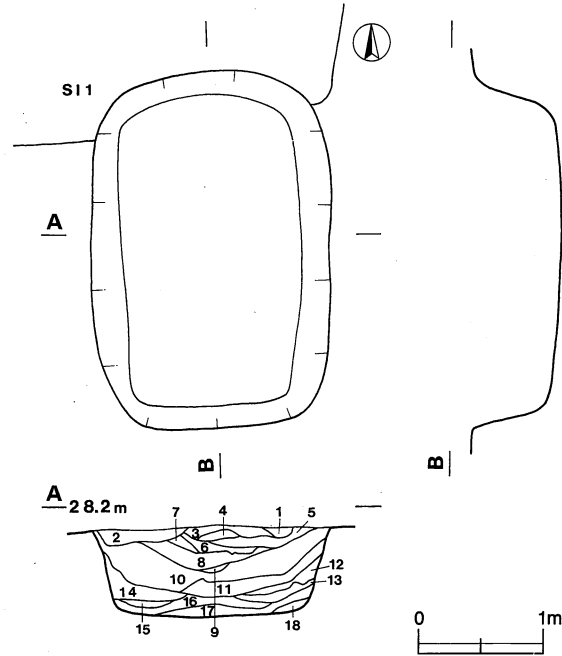
規模と平面形 長軸2.58m, 短軸1.92mの隅丸長方形で、深さは70cmである。

長軸方向 N-0°

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 18層からなり、1~15層は自然堆積である。16~18層は人為堆積で、炭化物、焼土が多量に含まれている。底面は被熱により赤変硬化している。本跡内で何かを燃やしたあと、土を被せたものと考えられる。



第23図 第38号土坑実測図

土層解説

1 極暗褐色	ローム粒子・炭化物多量, ローム小ブロック中量, ローム粒子少量	11 黒褐色	ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子多量, 炭化物中量, ローム小ブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子多量, ローム中ブロック・小ブロック少量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子多量, 炭化物中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	13 黒褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子多量, ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
4 暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量	14 褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック少量, 焼土大ブロック・炭化物微量
5 極暗褐色	ローム粒子多量, 炭化物中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, 焼土小ブロック微量	15 黒褐色	炭化物多量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量, 焼土小ブロック少量
6 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量, 焼土中ブロック微量	16 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子多量, ローム中ブロック・焼土中ブロック・小ブロック中量, ローム小ブロック少量
7 褐色	ローム小ブロック・粒子多量, 炭化物微量	17 黒色	ローム粒子・炭化物・炭化粒子多量, ローム小ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量
8 暗褐色	ローム粒子多量, 炭化物・炭化粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量	18 暗赤褐色	ローム粒子・焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子多量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子少量
9 黒色	炭化物多量, ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量		
10 黒褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量		

遺物 覆土中から第1号住居跡からの流れ込みと思われる多量の土師器片, 少量の須恵器片や支脚片と思われる土製品, 鉄滓が出土している。

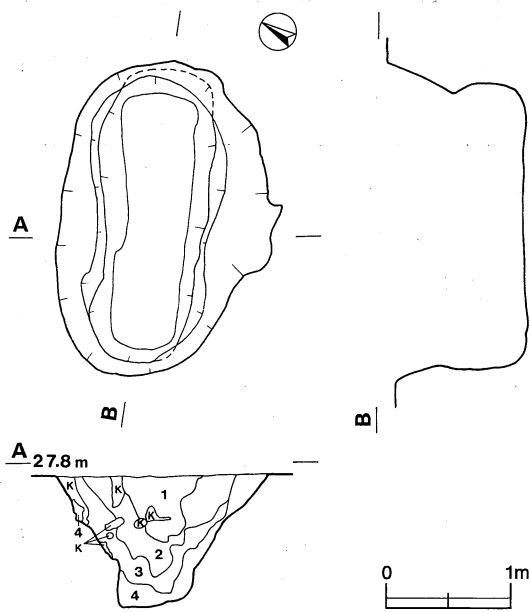
所見 第1号住居跡との重複関係から, 8世紀前半以降と考えられるが, 本跡の詳細な時期, 性格は不明である。

第72号土坑 (第24図)

位置 調査区北東部, A6j6区。

規模と平面形 長径2.52m, 短径1.16mの不整楕円形で、深さは110cmである。

長径方向 N-63°-E



第24図 第72号土坑実測図

壁面 下位から中位まで内彎して立ち上り、深さ50cmのところから上はやや外傾して立ち上がる。東部がオーバーハングしている。

底面 平坦である。

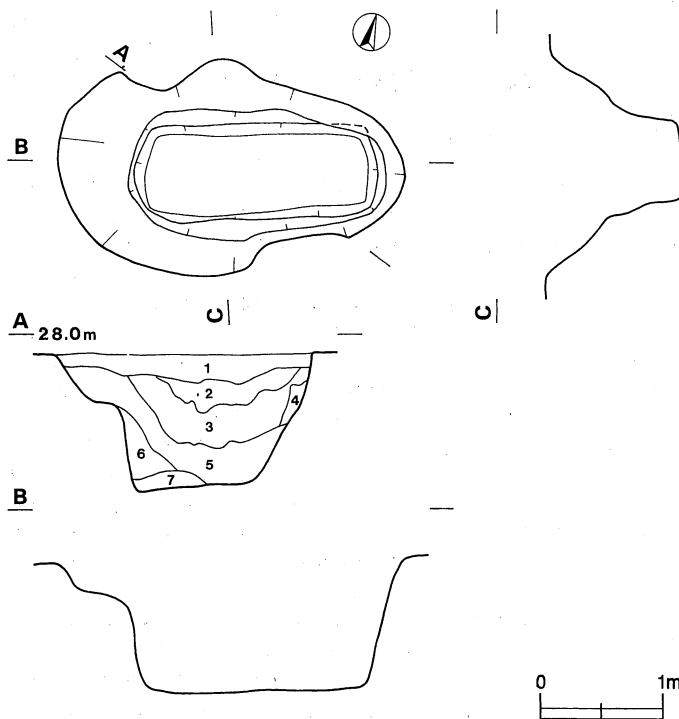
覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・白色粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子・スコリア微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子多量, 白色粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量, 白色粒子少量, 炭化粒子・スコリア微量
- 4 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量

遺物 出土していない。

所見 本跡は、遺構の形態から縄文時代の陥し穴と思われるが、出土遺物がなく詳細な時期については不明である。



第25図 第73号土坑実測図

第73号土坑 (第25図)

位置 調査区東部, A6d6区。

規模と平面形 長径2.70m, 短径1.55mの不整楕円形で、深さは105cmである。

長径方向 N-72°-E

壁面 下位から中位までほぼ垂直に立ち上がり、深さ50cmのところから上は外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 7層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, 白色粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・白色粒子中量, ローム大ブロック・中ブロック少量, 炭化粒子・スコリア微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・白色粒子少量, 炭化粒子・スコリア微量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・小ブロック少量, 炭化粒子・スコリア・白色粒子微量

- 5 褐色 ローム小ブロック・粒子多量, 炭化粒子・スコリア・白色粒子微量
- 6 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量, 炭化粒子・白色粒子微量
- 7 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量, KP粒子少量

遺物 出土していない。

所見 本跡は、遺構の形態から縄文時代の陥し穴と思われるが、出土遺物がなく詳細な時期については不明である。

第136号土坑 (第26図)

位置 調査区中央部, A4h8区。

規模と平面形 長径1.40m, 短径1.28mの円形で, 深さは17cmである。

長径方向 N-37°-W

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 皿状である。

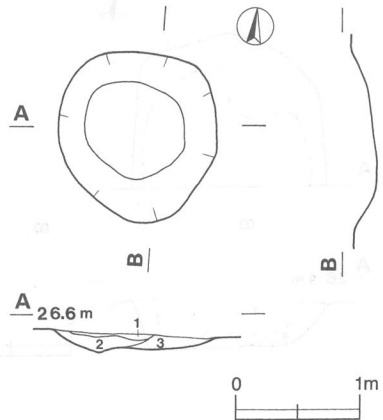
覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・粒子中量, 白色粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック・白色粒子少量, 炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, スコリア・白色粒子少量, 炭化粒子微量

遺物 覆土中から, 流れ込みと思われる, 第26図1を含む縄文土器片2点, 土師器片1点が出土している。

所見 本跡の時期や性格は不明である。



第26図 第136号土坑・出土遺物実測図

第151号土坑 (第28図)

位置 調査区南西部, B2e4区。

重複関係 本跡は第7号集石遺構と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径2.23m, 短径1.07mの楕円形で, 深さは25cmである。

長径方向 N-50°-E

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 皿状である。

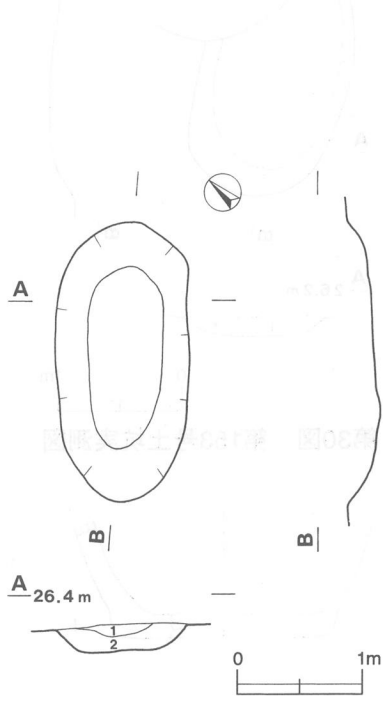
覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説

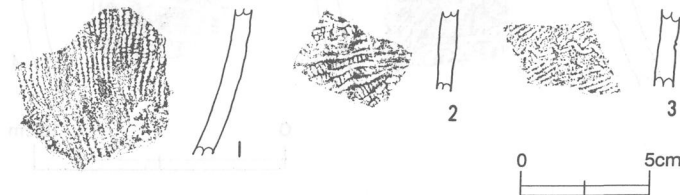
- 1 褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

遺物 覆土中から, 流れ込みと思われる, 第27図1~3を含む縄文土器片13点, 土師器片6点が出土している。

所見 本跡の時期や性格は不明である。



第28図 第151号土坑実測図

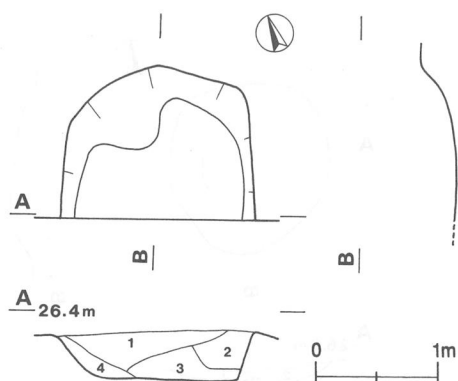


第27図 第151号土坑出土遺物実測図

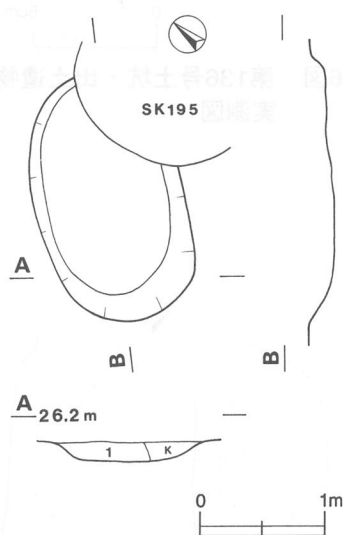
第152号土坑 (第29図)

位置 調査区南西部, B2e3区。

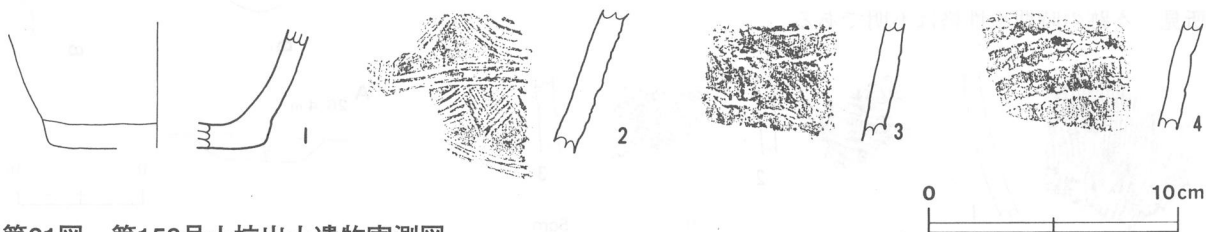
規模と平面形 長軸1.50m, 短軸 [1.24] mで, 南西部が調査区外のため正確な平面形は不明である。深さは



第29図 第152号土坑・出土遺物実測図



第30図 第153号土坑実測図



第31図 第153号土坑出土遺物実測図

第153号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第31図 1	甕 土師器	B 4.8 C 8.8	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面横ナデ。	砂粒、長石、石英、雲母 橙色 普通	P38 5%

45cmである。

長径方向 N-20°-E

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 皿状である。

覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量 3 褐色 ローム粒子多量
2 黒褐色 ローム粒子少量 4 暗褐色 ローム粒子少量

遺物 覆土中から、流れ込みと思われる、第29図1を含む縄文土器片3点、土師器片7点が出土している。

所見 本跡の時期や性格は不明である。

第153号土坑 (第30図)

位置 調査区北部、B2d2区。

重複関係 本跡が第195号土坑に掘り込まれており、本跡の方が古い。

規模と平面形 長径1.96m、短径1.22mの楕円形で、深さは28cmである。

長径方向 N-25°-E

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 単一層で、自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量

遺物 覆土中から、流れ込みと思われる、第31図2~4を含む縄文土器片14点、土師器片10点が出土している。1の土師器甕は、南西部の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期や性格は不明である。

第154号土坑 (第32図)

位置 調査区南西部, B2d1区。

規模と平面形 長径1.40m, 短径1.22mの楕円形で, 深さは22cmである。

長径方向 N-68°-W

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

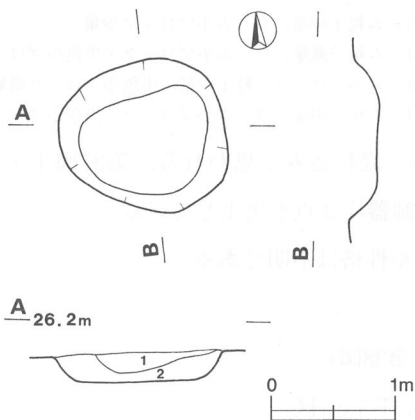
覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説

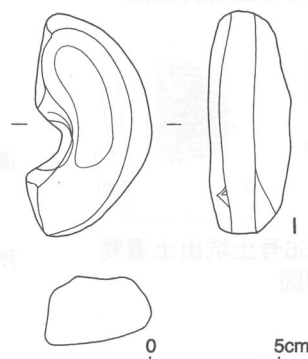
- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・黒色小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量・黒色粒子微量

遺物 覆土中から, 流れ込みと思われる, 第33図1の珧状耳飾り, 縄文土器片7点, 土師器片11点が出土している。

所見 本跡の時期や性格は不明である。



第32図 第154号土坑実測図



第33図 第154号土坑出土遺物実測図

第154号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第33図1	珧状耳飾り	3.0	(1.7)	1.1	(4.5)	覆土中層	DP3 PL64

第155号土坑 (第34図)

位置 調査区北部, B1d0区。

規模と平面形 径約1.30mの円形で, 深さは21cmである。

長径方向 N-54°-W

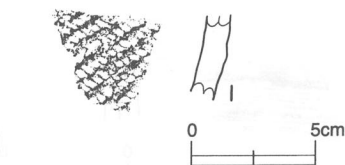
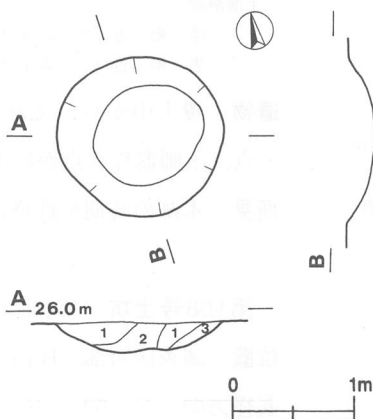
壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 皿状である。

覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子微量, 焼土小ブロック・炭化粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量, 黒色小ブロック微量, 焼土粒子極微量
- 3 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 焼土小ブロック極微量

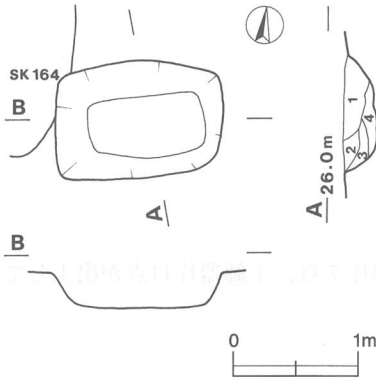


第35図 第155号土坑出土遺物実測図

第34図 第155号土坑実測図

遺物 覆土中から、第35図1を含む縄文土器片10点、石鏃1点が出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代前期で、性格は不明である。



第36図 第156号土坑実測図



第37図 第156号土坑出土遺物実測図

第156号土坑 (第36図)

位置 調査区南西部, B1c0区。

重複関係 本跡が第164号土坑を掘り込んでおり、本跡が新しい。
規模と平面形 長軸1.34m, 短軸0.94mの長方形で、深さは29cmである。

長軸方向 N-75°-E

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

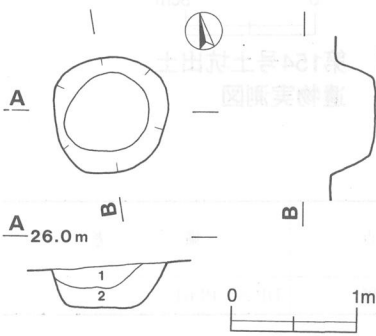
覆土 4層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量, ローム小ブロック・黒色小ブロック極微量
- 3 極暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量・黒色小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・黒色小ブロック極微量

遺物 覆土中から、流れ込みと思われる、第37図1・2を含む縄文土器片7点、土師器片3点が出土している。

所見 本跡の時期や性格は不明である。



第38図 第157号土坑出土遺物実測図



第157号土坑 (第38図)

位置 調査区西部, B1c0区。

規模と平面形 径約1.00mの円形で、深さは35cmである。

長径方向 N-38°-E

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック微量・黒色小ブロック極微量

遺物 覆土中から、流れ込みと思われる、第38図1の縄文土器片1点、土師器片3点が出土している。

所見 本跡の時期や性格は不明である。



第39図 第158号土坑出土遺物実測図

第158号土坑 (第40図)

位置 調査区西部, B1c0区。

長径方向 N-52°-E

規模と平面形 径約1.00mの円形で、深さは45cmである。

壁面 垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

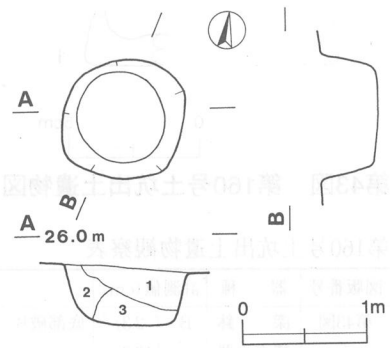
覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック少量, ローム小ブロック・粒子微量, 炭化物極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・小ブロック微量
- 3 極暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量

遺物 覆土中から, 流れ込みと思われる第39図1の縄文土器片1点, 土師器片6点が出土している。

所見 本跡の時期や性格は不明である。



第40図 第158号土坑実測図

第159号土坑 (第41図)

位置 調査区西部, B1a9区。

規模と平面形 径約1.00mの円形で, 深さは15cmである。

長径方向 N-0°

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 皿状である。

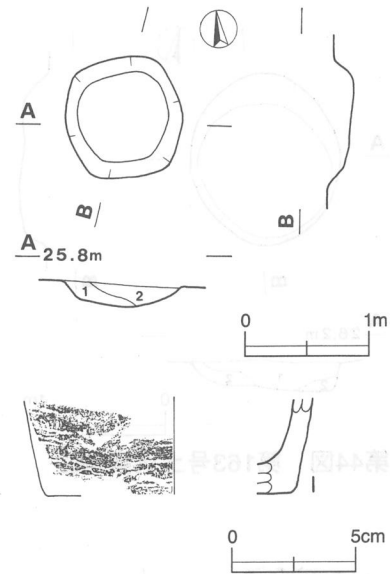
覆土 2層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 炭化物極微量

遺物 覆土中から, 流れ込みと思われる, 第41図1を含む縄文土器片2点が出土している。

所見 本跡の時期や性格は不明である。



第41図 第159号土坑・出土遺物実測図

第159号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第41図 1	深鉢 縄文土器	B 3.9 C 7.6	底部破片。平底。胴部は外傾して立ち上がっている。	砂粒, 長石, 石英, 雲母 明赤褐色 普通	P39 5%

第160号土坑 (第42図)

位置 調査区南西部, B2c3区。

規模と平面形 長径2.52m, 短径1.00mの楕円形で, 深さは15cmである。

長径方向 N-54°-E

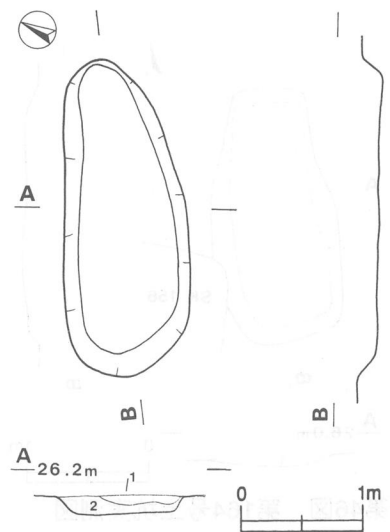
壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

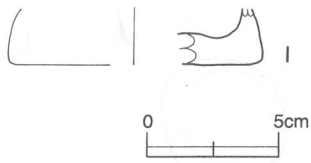
覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量



第42図 第160号土坑実測図



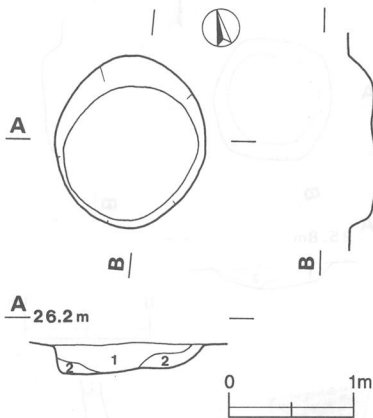
遺物 覆土中から、流れ込みと思われる、第43図1を含む縄文土器片4点、土師器片8点が出土している。

所見 本跡の時期や性格は不明である。

第43図 第160号土坑出土遺物図

第160号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第43図 1	深鉢 縄文土器	B (2.3) C [10.0]	底部破片。平底。胴部は内傾気味に立ち上がっている。	砂粒 にぶい褐色 普通	P40 5%



第44図 第163号土坑実測図

第163号土坑 (第44図)

位置 調査区西部, B2d3区。

規模と平面形 長径1.35m, 短径1.18mの楕円形で, 深さは21cmである。

長径方向 N-19°-E

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

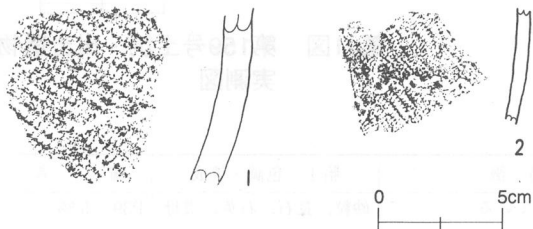
覆土 2層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 黒色小ブロック極微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

遺物 第45図1・2を含む縄文土器片3点が出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代中期前葉で, 性格は不明である。



第45図 第163号土坑出土遺物実測図

第164号土坑 (第46図)

位置 調査区西部, B1c0区。

重複関係 本跡が第156号土坑に掘り込まれており, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸2.03m, 短軸0.99mの長方形で, 深さは14cmである。

長軸方向 N-6°-E

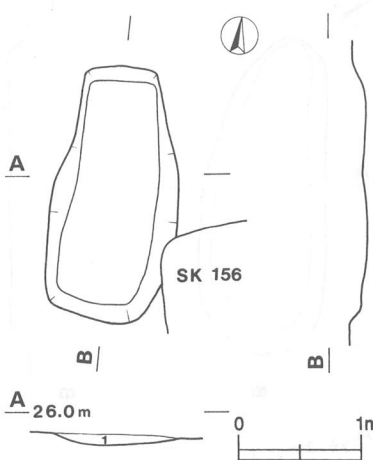
壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 皿状である。

覆土 単一層で, 自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化物少量, 炭化粒子微量



第46図 第164号土坑実測図

遺物 覆土中から、流れ込みと思われる、第47図1・2を含む

縄文土器片5点、土師器片3点が出土している。

所見 本跡の時期や性格は不明である。



第47図 第164号土坑出土遺物実測図

第166号土坑 (第48図)

位置 調査区西部, B1a0区。

規模と平面形 長径1.11m, 短径1.00mの楕円形で, 深さは25cmである。

長径方向 N-0°

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 2層からなる人為堆積である。

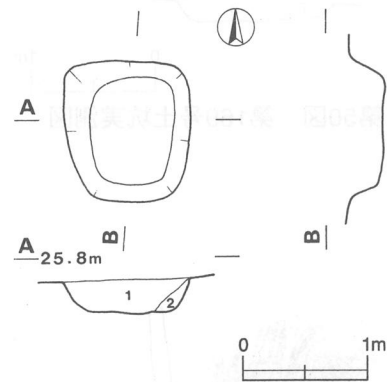
土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

遺物 覆土中から、流れ込みと思われる、第48図1を含む縄文土器片

3点、土師器片6点が出土している。

所見 本跡の時期や性格は不明である。



第48図 第166号土坑・出土遺物実測図

第168号土坑 (第49図)

位置 調査区西部, B2b1区。

規模と平面形 長径1.45m, 短径1.13mの楕円形で, 深さは

18cmである。

長径方向 N-14°-W

壁面 断面はU字状で, 壁はほぼ垂直に立ち上がり, 中位で外傾する。

底面 平坦である。

覆土 2層からなる人為堆積である。

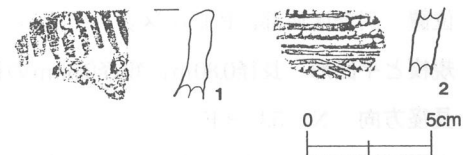
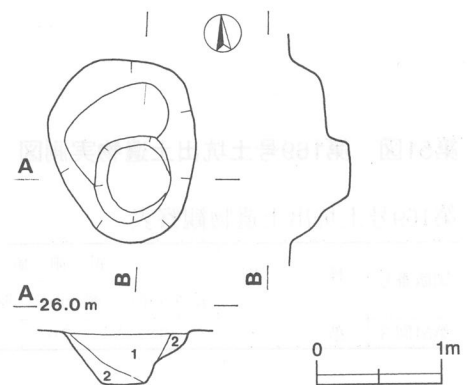
土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・粒子微量, ローム中ブロック・黒色小ブロック極微量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・粒子少量, 黒色中ブロック極微量

遺物 覆土中から、流れ込みと思われる、第49図1・2を含む

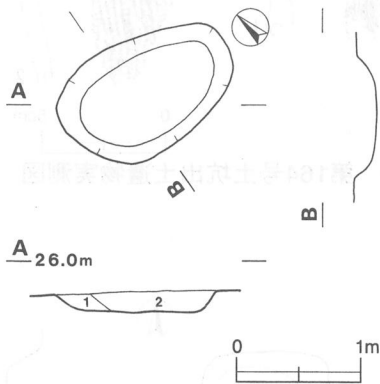
縄文土器片2点、土師器片2点が出土している。

所見 本跡の時期や性格は不明である。



第49図 第168号土坑・出土遺物実測図

第169号土坑 (第50図)



第50図 第169号土坑実測図

位置 調査区南西部, B2a1区。

規模と平面形 長径1.44m, 短径0.89mの楕円形で, 深さは15cmである。

長径方向 N-67°-W

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 皿状である。

覆土 2層からなる人為堆積である。

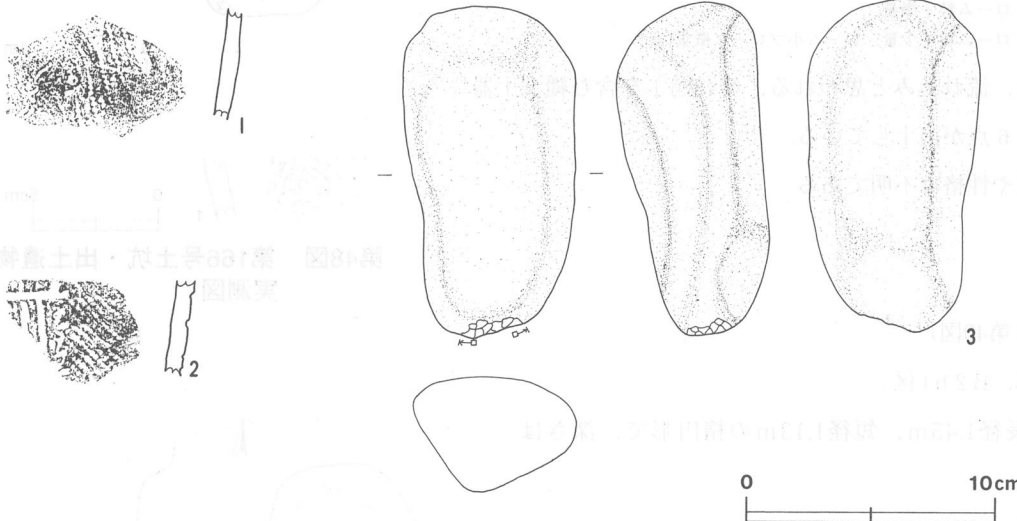
土層解説

1 暗褐色 骨片少量, ローム粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子微量

遺物 覆土中から, 流れ込みと思われる, 第51図1・2を含む縄文土器片4点, 土師器片4点, 3の敲石1点 が出土している。

所見 本跡の時期や性格は不明である。



第51図 第169号土坑出土遺物実測図

第169号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値 (cm)				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第51図3	敲石	13.2	7.0	6.1	630.0	砂岩	覆土	Q8 PL63

第172号土坑 (第52図)

位置 調査区西部, B1a0区。

規模と平面形 長径0.80m, 短径0.56mの楕円形で, 深さは30cmである。

長径方向 N-53°-E

壁面 断面はU字状で, 壁はほぼ垂直に立ち上がり, 上位で外傾する。

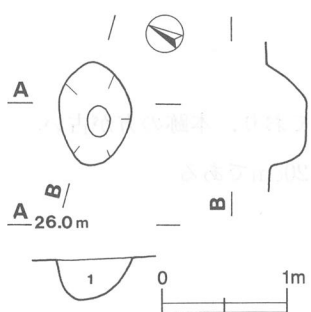
底面 平坦である。

覆土 単一層で, 自然堆積である。

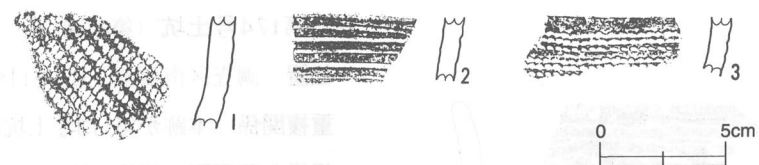
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量

遺物 覆土中から、流れ込みと思われる、第53図1～3を含む縄文土器片12点、土師器片5点が出土している。
 所見 本跡の時期や性格は不明である。



第52図 第172号土坑実測図



第53図 第172号土坑出土遺物実測図

第173号土坑 (第54図)

位置 調査区南西部, B2d1区。

重複関係 本跡が第174号土坑を掘り込んでおり、本跡が新しい。

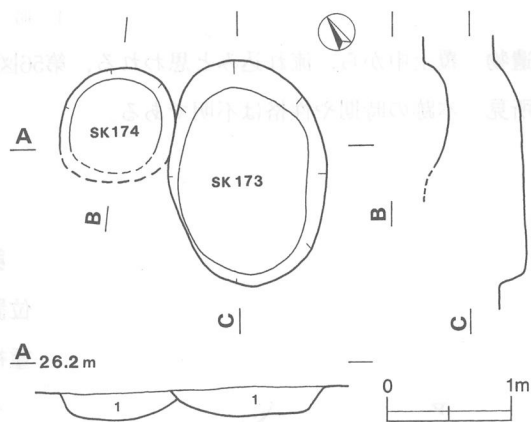
規模と平面形 長径1.79m, 短径1.29mの楕円形で、深さは20cmである。

長径方向 N-30°-E

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

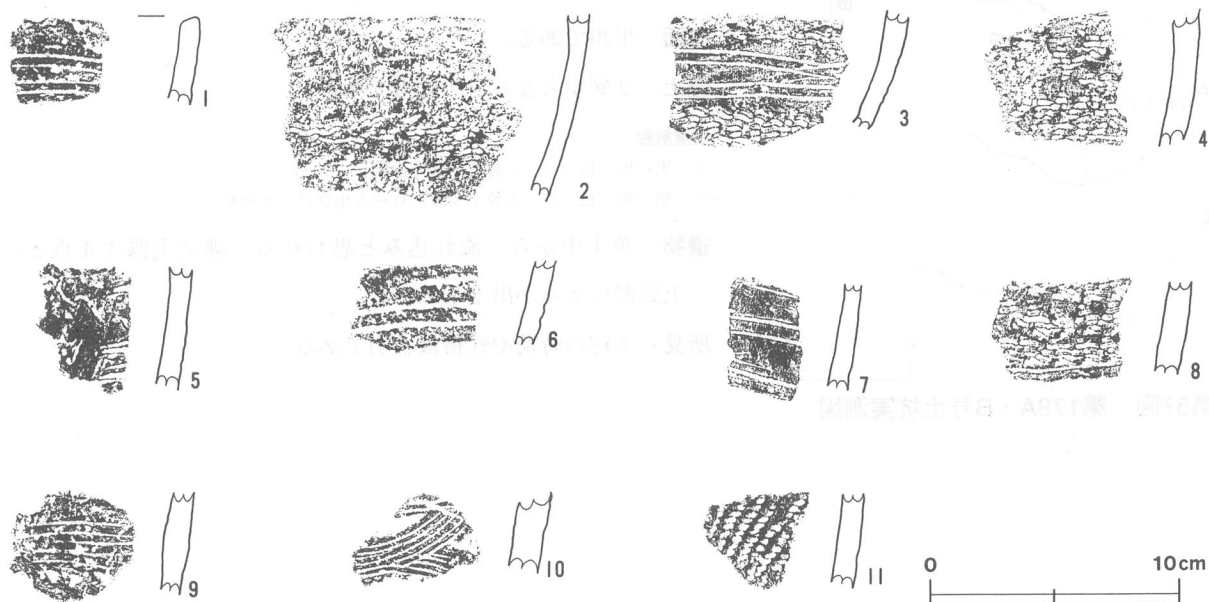
覆土 単一層で、人為堆積である。



第54図 第173・174号土坑実測図

土層解説

1 暗褐色 ローム小ブロック・骨片少量, ローム粒子微量



第55図 第173号土坑出土遺物実測図

遺物 覆土中から、流れ込みと思われる、第55図1～11を含む縄文土器片13点、土師器片10点が出土している。
 所見 本跡の時期や性格は不明である。



第56図 第174号土坑出土遺物
実測図

第174号土坑 (第54図)

位置 調査区南西部, B2c1区。

重複関係 本跡が第173号土坑に掘り込まれており, 本跡の方が古い。

規模と平面形 径約0.90mの円形で, 深さは20cmである。

長径方向 N-31°-E

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 単一層で, 人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・骨片少量, ローム小ブロック微量

遺物 覆土中から、流れ込みと思われる、第56図1を含む縄文土器片13点、土師器片3点が出土している。
 所見 本跡の時期や性格は不明である。

第178A号土坑 (第57図)

位置 調査区中央部, A2g7区。

重複関係 第178B号土坑に, 本跡の壁面を掘り込まれており, 本跡の方が古い。

規模と平面形 長径1.60m, 短径1.08mの楕円形で, 深さは52cmである。

長径方向 N-29°-E

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 2層からなる自然堆積である。

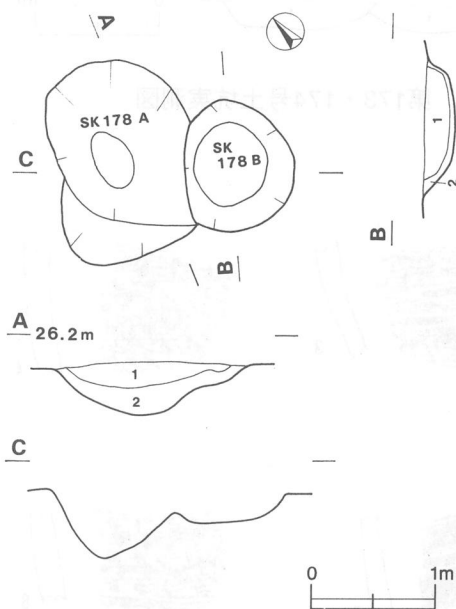
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・骨片少量

2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

遺物 覆土中から、流れ込みと思われる、縄文土器片4点と、土師器片2点が出土している。

所見 本跡の時期や性格は不明である。



第57図 第178A・B号土坑実測図

第178B号土坑 (第57図)

位置 調査区中央部, A2g7区。

重複関係 本跡が第178A号土坑の壁面を掘り込んでおり, 本跡の方が新しい。

規模と平面形 長径1.03m, 短径0.84mの楕円形で, 深さは24cmである。

長径方向 N-29°-E

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

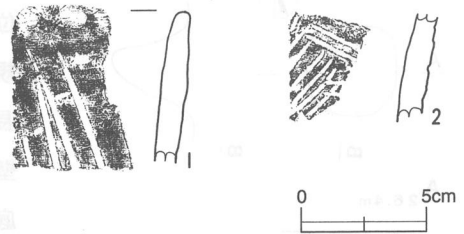
覆土 2層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒色 黒色粒子多量, ローム小ブロック・炭化物少量, 2 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物・黒色粒子少量
ローム粒子・焼土粒子微量

遺物 流れ込みと思われる, 第58図1・2を含む縄文土器片5点と, 土師器片4点が出土している。

所見 本跡の時期や性格は不明である。



第58図 第178B号土坑出土遺物実測図

第182号土坑 (第59図)

位置 調査区中央部, A3i1区。

規模と平面形 長径1.78m, 短径1.34mの楕円形で, 深さは37cmである。

長径方向 N-80°-E

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

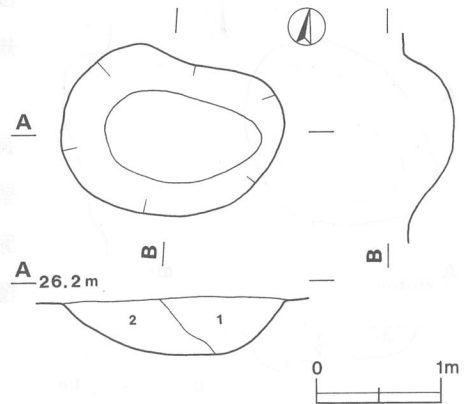
覆土 2層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量

遺物 第59図1の唐津系陶器(碗)1点と, 流れ込みと思われる土師器片1点が出土している。

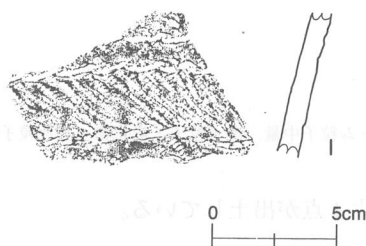
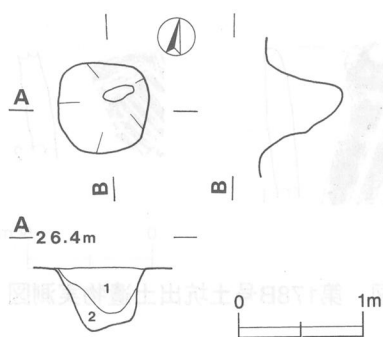
所見 出土した陶器の生産年代が17世紀後葉に位置付けられることから, 本跡の時期は17世紀後葉以降と思われる。性格は不明である。



第59図 第182号土坑・出土遺物実測図

第182号土坑出土遺物観察表

図版番号	器形	器質	計測値(cm)				残存率	胎土色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	備考
			A	B	D	E						
第59図 1	灰釉碗	陶器	—	(4.2)	4.4	0.6	30%	灰褐色 暗オリーブ	呉須絵 灰釉	体部下位から高 台露胎	唐津系 17C後葉	P41



第60図 第185号土坑出土遺物
実測図

第185号土坑 (第60図)

位置 調査区南部, B2c0区。

規模と平面形 長径0.74m, 短径0.72mの円形で, 深さは58cmである。

長径方向 N-0°

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 U字状である。

覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

遺物 第60図1の縄文土器片1点が出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から縄文時代中期前葉で, 性格は不明である。

第192号土坑 (第61図)

位置 調査区中央部, B3c5区。

規模と平面形 長径1.75m, 短径1.30mの楕円形で, 深さは35cmである。

長径方向 N-58°-E

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 皿状である。

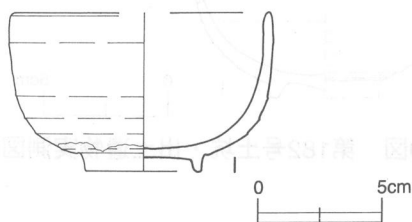
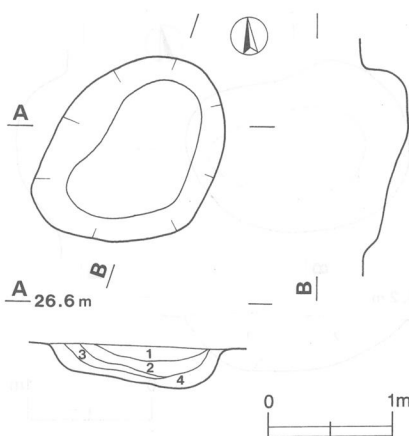
覆土 4層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 骨片少量

遺物 第61図1の陶器(碗)1点が出土している。灰釉が施されている瀬戸御室茶碗である。

所見 出土した陶器の生産年代が17世紀前葉に位置付けられることから, 本跡の時期は17世紀前葉以降と考えられる。性格は不明である。



第61図 第192号土坑出土遺物
実測図

第192号土坑出土遺物観察表

図版番号	器形	器質	計測値 (cm)				残存率	胎土色調	絵付・釉薬	文様・特徴	産地・年代	備考
			A	B	D	E						
第61図 1	御室茶碗	陶器	[10.4]	6.4	4.6	0.7	30%	浅黄色 淡黄色	呉須絵 灰釉	畳付無釉	瀬戸・美濃系 18C前葉	P42

第194号土坑 (第62図)

位置 調査区西部, A2d1区。

規模と平面形 径約1.00mの円形で, 深さは38cmである。

長径方向 N-0°

壁面 ほぼ垂直に立ち上り, 上位で外傾する。

底面 平坦である。

覆土 単一層で, 自然堆積である。

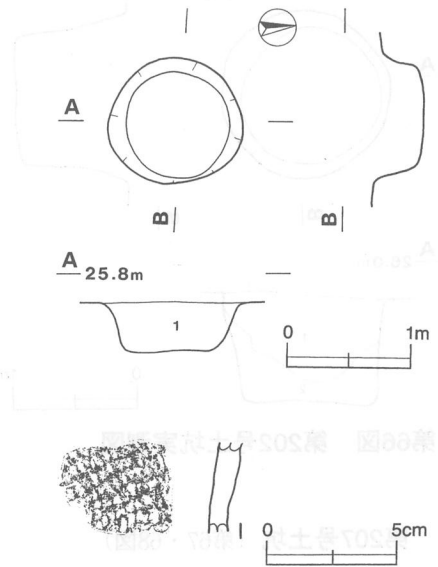
土層解説

1 黒褐色 ローム中ブロック・小ブロック・粒子中量

遺物 覆土中から, 流れ込みと思われる, 第62図1の縄文土器片1

点, 土師器片4点が出土している。

所見 本跡の時期や性格は不明である。



第62図 第194号土坑・出土遺物実測図

第195号土坑 (第63図)

位置 調査区南西部, B2d2区。

重複関係 本跡が第153号土坑を掘り込んでおり, 本跡が新しい。

長径方向 N-42°-W

規模と平面形 径約1.50mの[円形]で, 深さは19cmである。

壁面 ほぼ垂直に立ち上り, 上位で外傾する。

底面 平坦である。

覆土 単一層で, 自然堆積である。

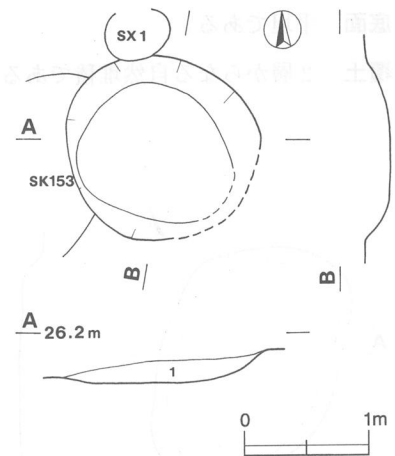
土層解説

1 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量

遺物 覆土中から, 流れ込みと思われる, 第64図1・2を含む縄文土

器片6点, 土師器片が11点出土している。

所見 本跡の時期や性格は不明である。



第63図 第195号土坑実測図

第202号土坑 (第66図)

位置 調査区西部, A2e6区。

規模と平面形 径約1.40mの円形で, 深さは88cmである。

長径方向 N-0°

壁面 ほぼ垂直に立ち上り, 上位で外傾する。

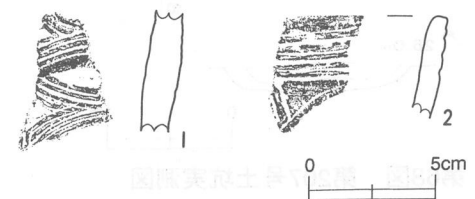
底面 平坦である。

覆土 2層からなる自然堆積である。

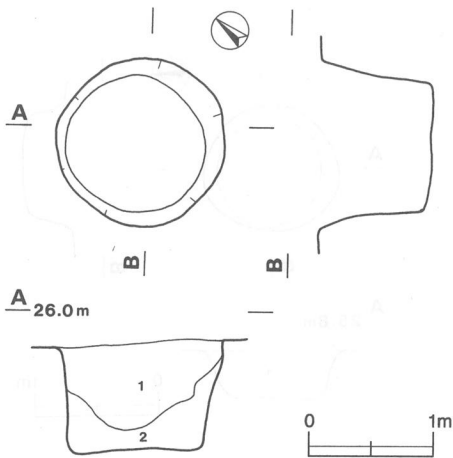
土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量, KP小ブロック少量, ローム中
ブロック・小ブロック微量, ローム大ブロック・
黒色小ブロック極微量

2 暗褐色 ローム粒子・KP粒子少量, ローム小ブロック微
量



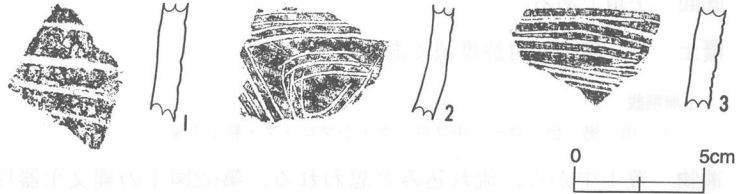
第64図 第195号土坑出土遺物実測図



第66図 第202号土坑実測図

遺物 覆土中から、流れ込みと思われる、第65図1～3を含む縄文土器片6点と土師器片4点、播鉢片1点が出土している。

所見 本跡の時期や性格は不明である。



第65図 第202号土坑出土遺物実測図

第207号土坑 (第67・68図)

位置 調査区中央部, A 2 g 5 区。

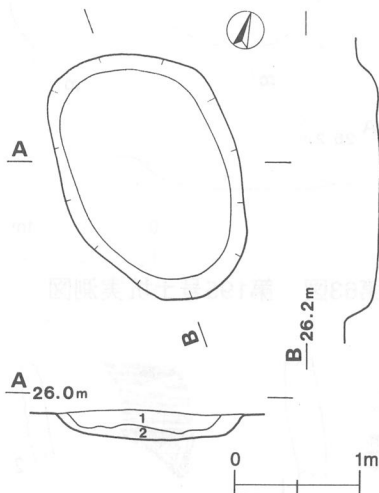
規模と平面形 長径2.04m, 短径1.43mの楕円形で、深さは23cmである。

長径方向 N-38°-W

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 2層からなる自然堆積である。



第68図 第207号土坑実測図

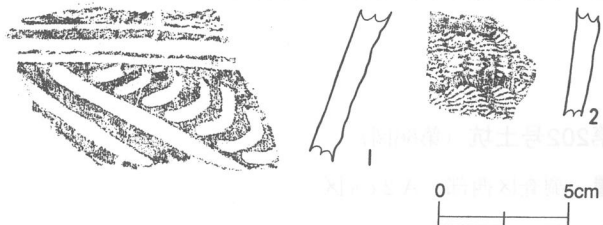
土層解説

1 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, ローム中ブロック極微量

2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量

遺物 覆土中から、流れ込みと思われる、第67図1・2を含む縄文土器片5点, 土師器片4点が出土している。

所見 本跡の時期や性格は不明である。



第67図 第207号土坑出土遺物実測図

第210号土坑 (第69図)

位置 調査区中央部, B 4 d 1 区。

重複関係 第2号溝に壁面を掘り込まれており、本跡の方が古い。

規模と平面形 長径3.43m, 短径2.28mの楕円形で、深さは32cmである。

長径方向 N-36°-W

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 3層からなる自然堆積である。

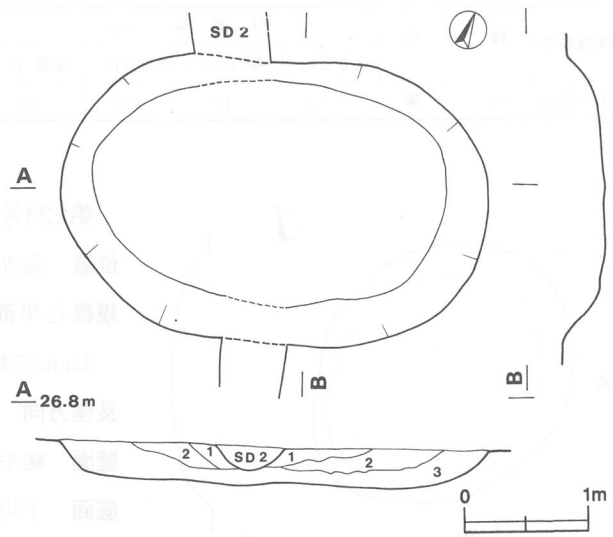
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子極微量
- 2 極暗褐色 ローム中ブロック・粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量，ローム中ブロック極微量

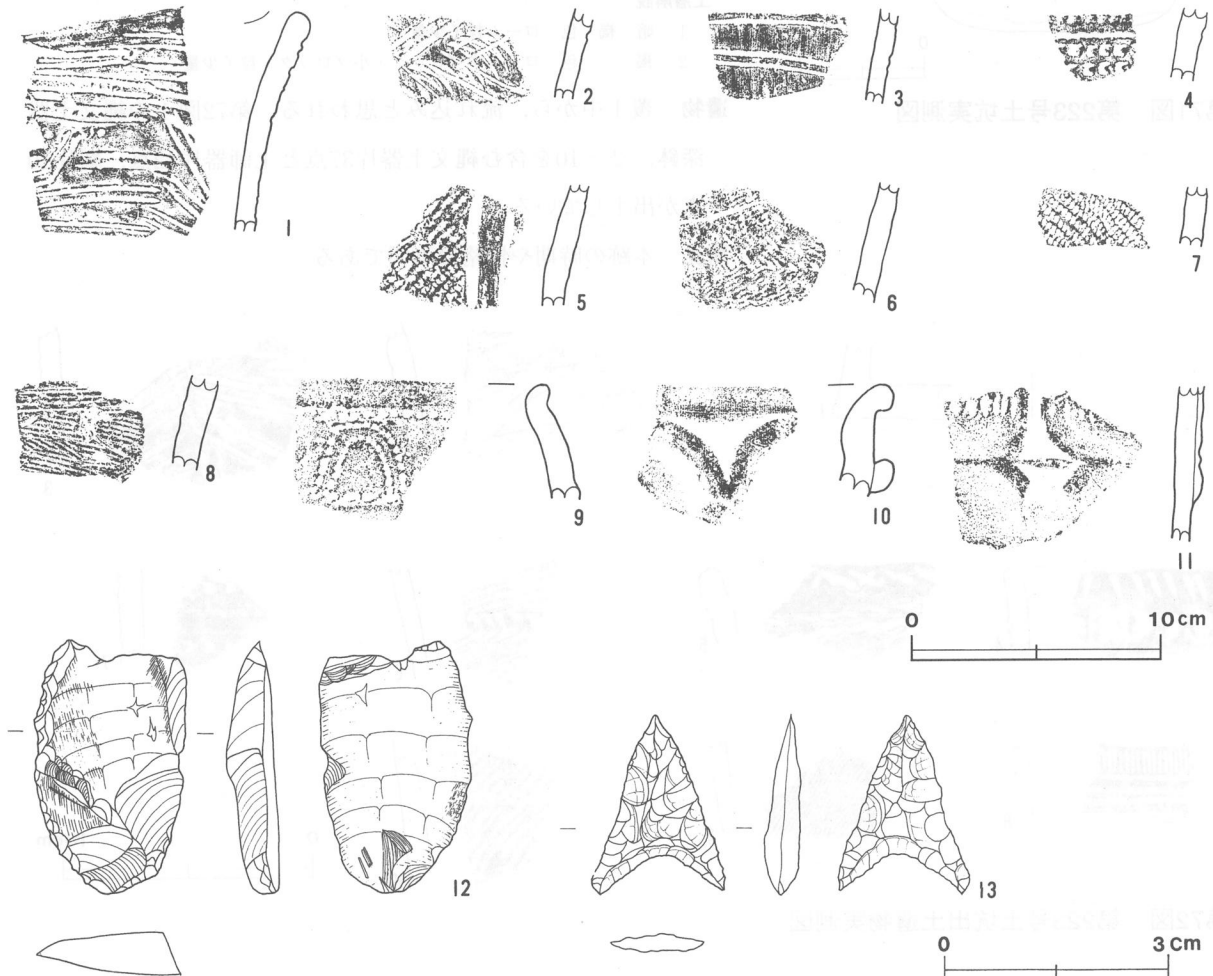
遺物 覆土中から，流れ込みと思われる，第70

図1～11を含む縄文土器片34点，土師器片55点，12のナイフ形石器，13の石鏃が出土している。

所見 本跡の時期や性格は不明である。



第69図 第210号土坑実測図

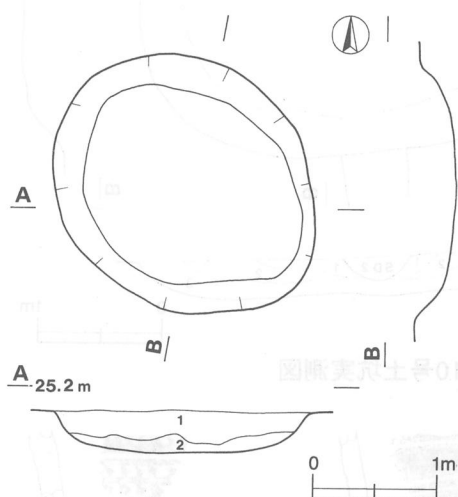


第70図 第210号土坑出土遺物実測図

第210号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値 (cm)				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第70図12	ナイフ形石器	3.4	2.0	0.7	1.1	黒曜石	覆土	Q46

図版番号	種 別	計 測 値 (cm)				石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第70図13	石 鏃	2.5	1.8	0.5	0.8	チャート	覆 土	Q11 PL63



第71図 第223号土坑実測図

第223号土坑 (第71図)

位置 調査区西部, A1f0区。

規模と平面形 長径2.35m, 短径1.93mの楕円形で, 深さは31cmである。

長径方向 N-46°-W

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

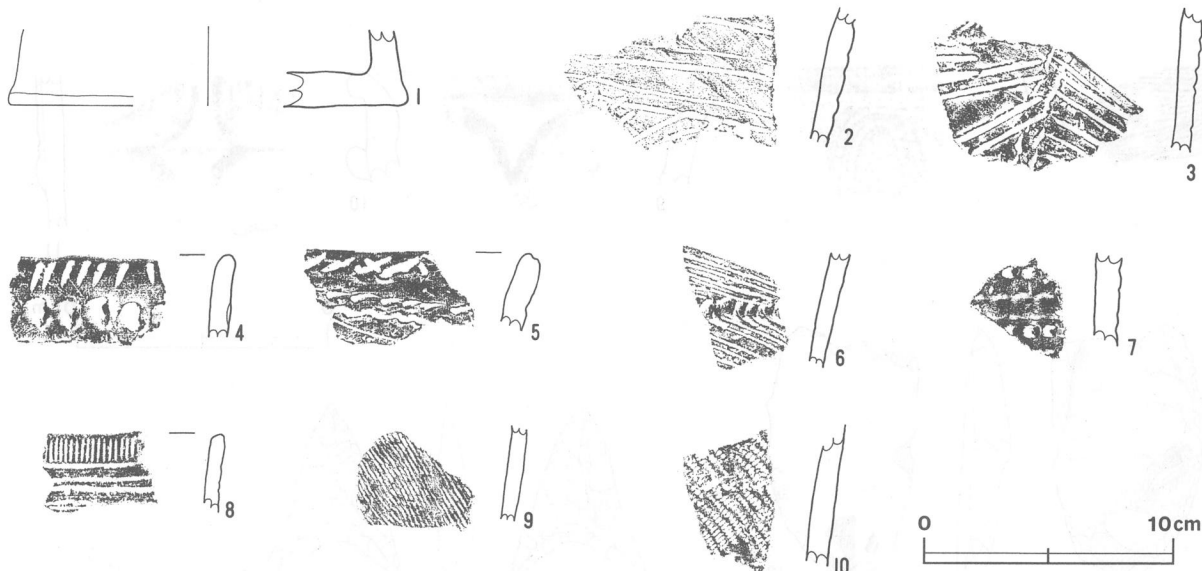
覆土 2層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量

遺物 覆土中から, 流れ込みと思われる, 第72図1の縄文土器深鉢, 2~10を含む縄文土器片37点と土師器片42点, 剥片10点が出土している。

所見 本跡の時期や性格は不明である。



第72図 第223号土坑出土遺物実測図

第223号土坑出土遺物観察表

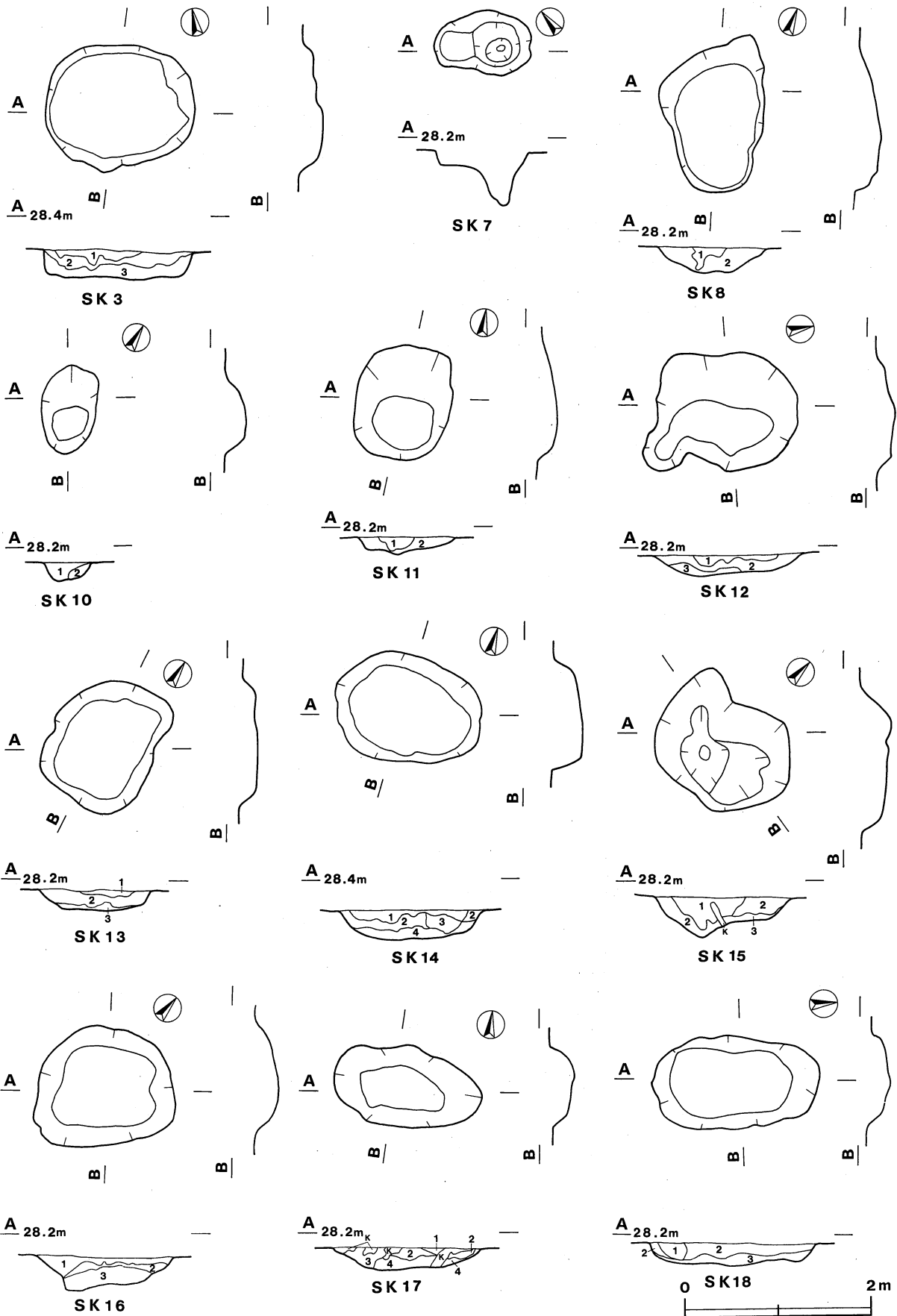
図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第72図 1	深鉢 縄文土器	B (3.2) C [16.0]	底部破片。平底。胴部下端はやや突出しており, 内傾気味に立ち上がっている。	砂粒, 長石, 石英 にぶい褐色 普通	P43 5%

土坑出土遺物観察表

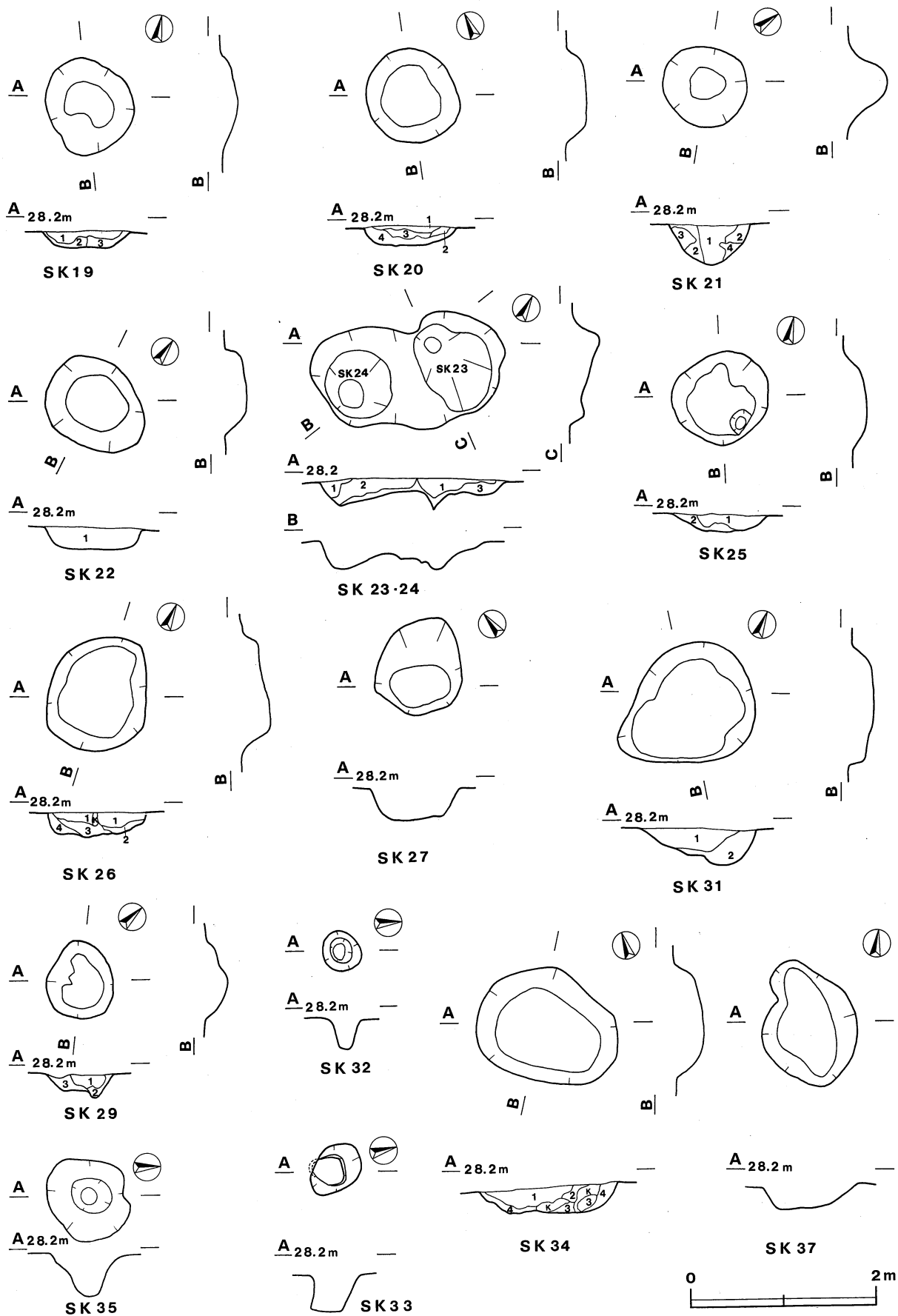
図版番号	遺構名	器形及び文様の特徴	備考
第26図 1	第136号土坑	口縁部片。口唇部に押圧文をもち、その下に半截竹管状工具による平行沈線が施されている。	TP 4 PL57
第27図 1～3	第151号土坑	胴部片。RLの単節縄文が施されている。3には綾線文が平行に施されている。	TP 5～7 PL57
第29図 1	第152号土坑	胴部片。結節浮線文でジグザグ状の文様帯が構成され、三角印刻文が施されている。	TP 8 PL57
第31図 2	第153号土坑	胴部片。結節浮線文でジグザグ状等の文様帯が構成されている。	TP 9 PL57
3		胴部片。綾線文が平行に施されている。	TP10 PL57
4		胴部片。半截竹管状工具により、支点を交互にかえて文様を施している。	TP11 PL57
第35図 1	第155号土坑	胴部片。RLの単節縄文が施されている。	TP12 PL57
第37図 1・2	第156号土坑	胴部片。LRの単節縄文が施されている。	TP13・14 PL57
第38図 1	第157号土坑	口縁部片。櫛歯状工具による沈線が施されている。	TP15 PL57
第39図 1	第158号土坑	口縁部片。RLの単節縄文を地文とし、綾線文が平行に施されている。	TP16 PL57
第45図 1・2	第163号土坑	胴部片。単節縄文の地文に綾線文が施されている。	TP17・18 PL57
第47図 1	第164号土坑	口縁部に条線帯をもち、その下に半截竹管状工具による凹凸文が施されている。	TP19 PL57
2		胴部片。RLの単節縄文が施されている。	TP20 PL57
第48図 1	第166号土坑	胴部片。半截竹管状工具による結節平行沈線が施されている。	TP21 PL57
第49図 1	第168号土坑	胴部片。半截竹管状工具による縦位の平行沈線が施されている。	TP22 PL57
2		胴部片。半截竹管状工具による平行沈線と結節平行沈線が施されている。	TP23 PL57
第51図 1	第169号土坑	胴部片。RLの単節縄文の地文に、綾線文が施されている。	TP24 PL57
2		胴部片。RLの単節縄文の地文に、半截竹管状工具による平行沈線が施されている。	TP25 PL57
第53図 1	第172号土坑	胴部片。RLの単節縄文が施されている。	TP26 PL57
2・3		胴部片。半截竹管状工具により、2には平行沈線が、3には結節平行沈線が施されている。	TP27・28 PL57
第55図 1・6・7・9 2・3・4・8 5 10 11	第173号土坑	1のみ口縁部で、他は胴部片。いずれも半截竹管状工具による平行沈線が施されている。	TP29・34・35・37 PL57
		胴部片。貝殻による肋のある文様が施されている。	TP30・31・32・36 PL57
		胴部片。綾線文と平行沈線が施されている。	TP33 PL57
		胴部片。半截竹管状工具による連弧状の文様が施されている。	TP38 PL57
		胴部片。RLの単節縄文が施されている。	TP39 PL57
第56図 1	第174号土坑	胴部片。半截竹管状工具による平行沈線が施されている。	TP40 PL58
第58図 1 2	第178B号土坑	口縁部片。半截竹管状工具による幅広の平行沈線が施され、口唇部には凹凸文が施されている。	TP41 PL58
		胴部片。半截竹管状工具による平行沈線が施されている。	TP42 PL58
第60図 1	第185号土坑	胴部片。LRの単節縄文の地文に、綾線文が平行に施されている。	TP43 PL58
第62図 1	第194号土坑	胴部片。LRの単節縄文が施されている。	TP44 PL58
第64図 1	第195号土坑	口縁部片。半截竹管状工具による平行沈線が施されている。	TP45 PL58
2		胴部片。半截竹管状工具による連弧状の文様が施されている。	TP46 PL58
第65図 1	第202号土坑	口縁部片。半截竹管状工具による平行沈線が施されている。	TP47 PL58
2・3		胴部片。半截竹管状工具による平行沈線が施されている。	TP48・49 PL58
第67図 1	第207号土坑	口縁部片。半截竹管状工具による太い沈線文が施されている。	TP50 PL58
2		胴部片。狭間隔に貝殻腹縁で条痕文が施されている。	TP51 PL58
第70図 1	第210号土坑	口縁部片。半截竹管状工具による平行沈線が施されている。	TP52 PL58
2		胴部片。貝殻波状文と、半截竹管状工具による平行沈線が施されている。	TP53 PL58
3		胴部片。半截竹管状工具による平行沈線が施されている。	TP54 PL58
4		胴部片。半截竹管状工具による変形爪形文のような押印文が施されている。	TP55 PL58
5		胴部片。単節縄文を地文とし、太い平行沈線が施されている。	TP56 PL58
6		胴部片。LとRの無節縄文で、羽状文が施されている。	TP57 PL58
7		胴部片。RLの単節縄文が施されている。	TP58 PL58
8		胴部片。貝殻条痕文が施されている。	TP59 PL58
9		口縁部片。結節沈線が施されている。	TP60 PL58
11・12		11は口縁部片。12は胴部片。ともに隆帯で文様が施されている。	TP61・62 PL58
第72図 2	第223号土坑	口縁部片。半截竹管状工具による平行沈線が施されている。	TP63 PL58
3		胴部片。半截竹管状工具による平行沈線が施されている。	TP64 PL58
4		口縁部片。口唇部に条線帯をもち、その下に粘土を逆立てた凹凸文が施されている。	TP65 PL58
5		口縁部片。口唇部外面に斜方向にきざみをもち、その下に棒状工具による刺突文や波状沈線が施されている。	TP66 PL58
6		胴部片。半截竹管状工具による爪形文と平行沈線が施されている。	TP67 PL58
7		胴部片。半截竹管状工具によるC字文が施されている。	TP68 PL58
8		口縁部片。口唇部に細い条線帯をもち、その下に半截竹管状工具による平行沈線が施されている。	TP69 PL58
9		胴部片。撚糸文が施されている。	TP70 PL58
10		口縁部片。LRの単節縄文が施されている。	TP71 PL58

その他の土坑

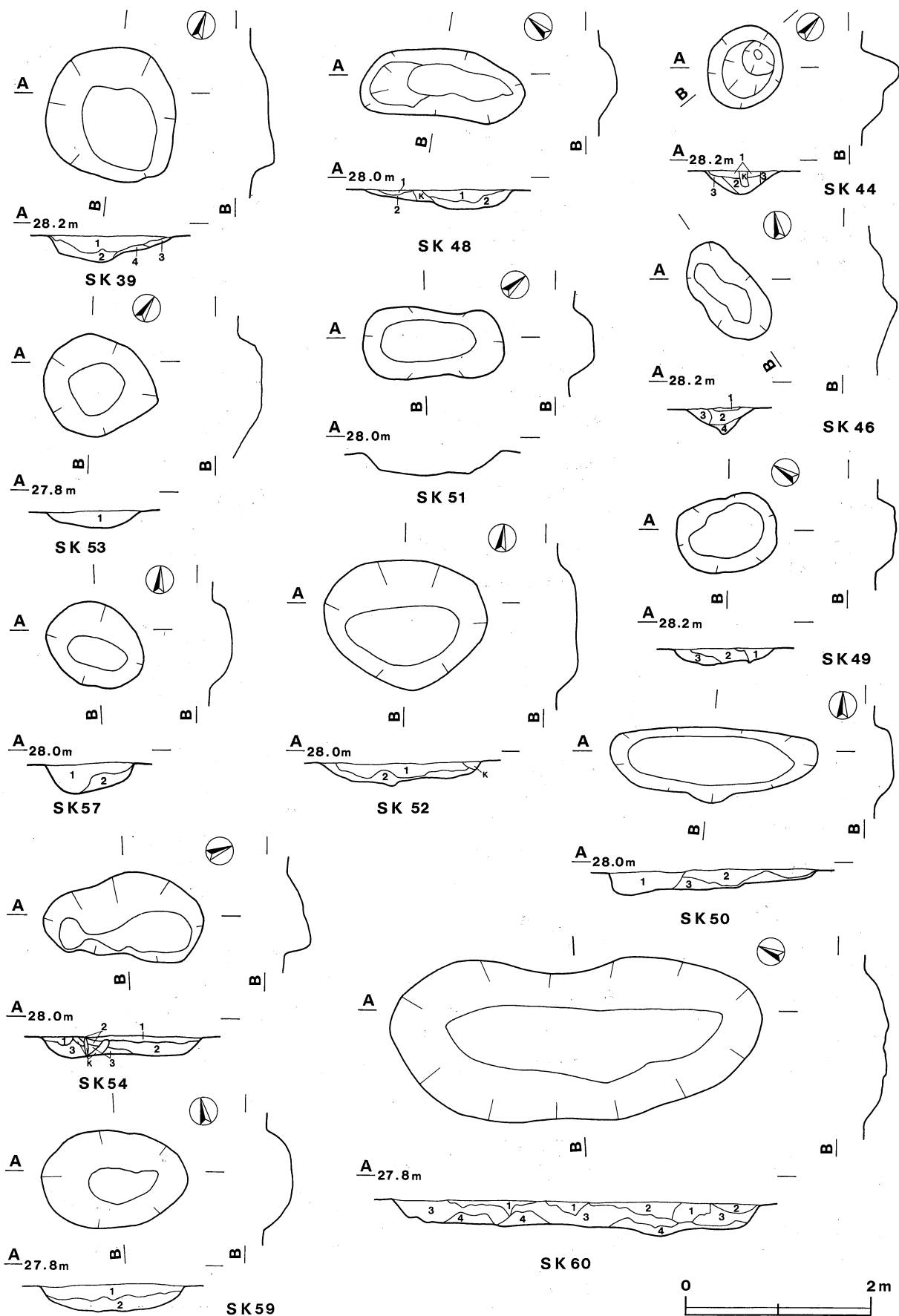
157基検出された。(第73～84図)



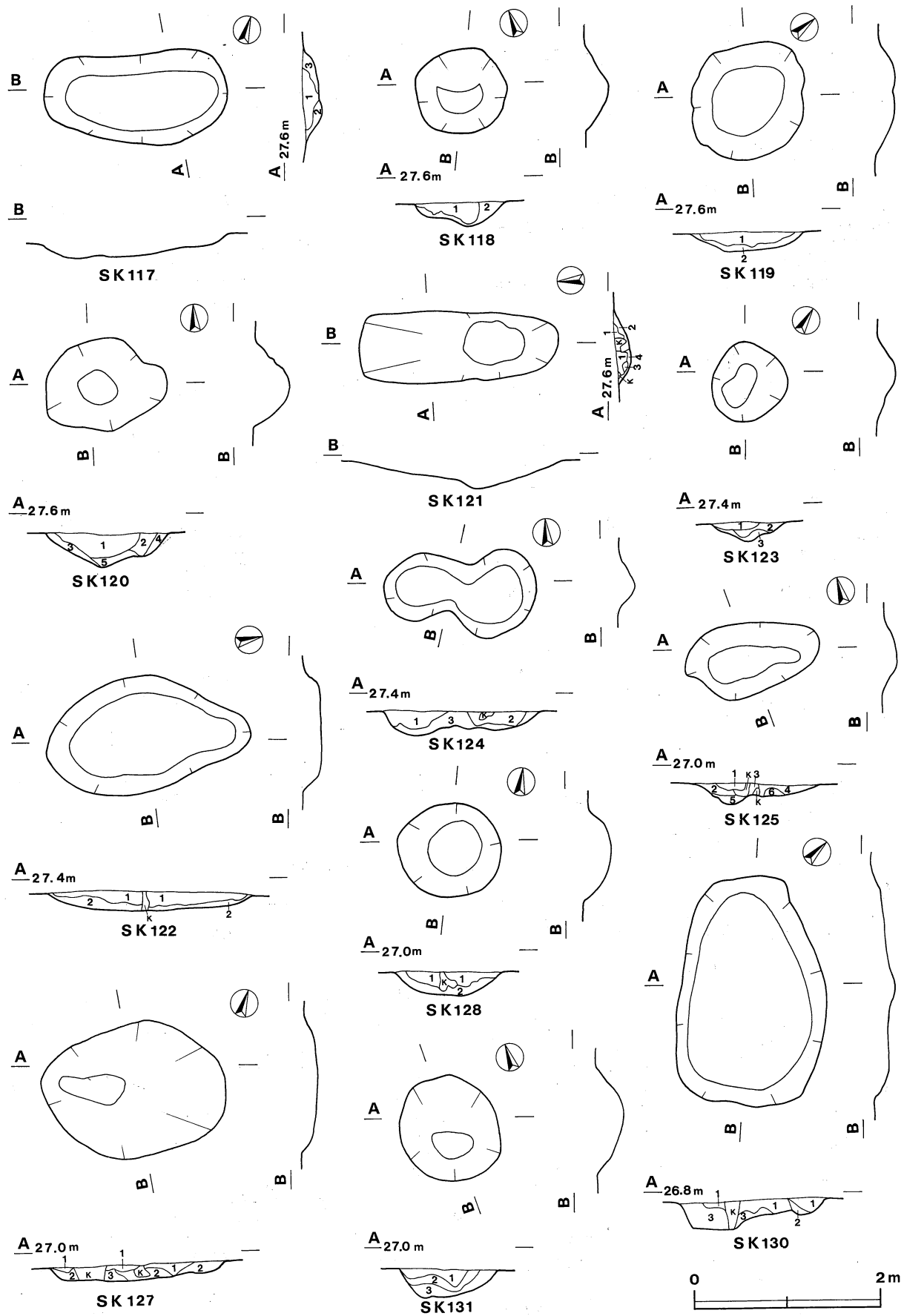
第73図 その他の土坑実測図(1)



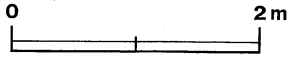
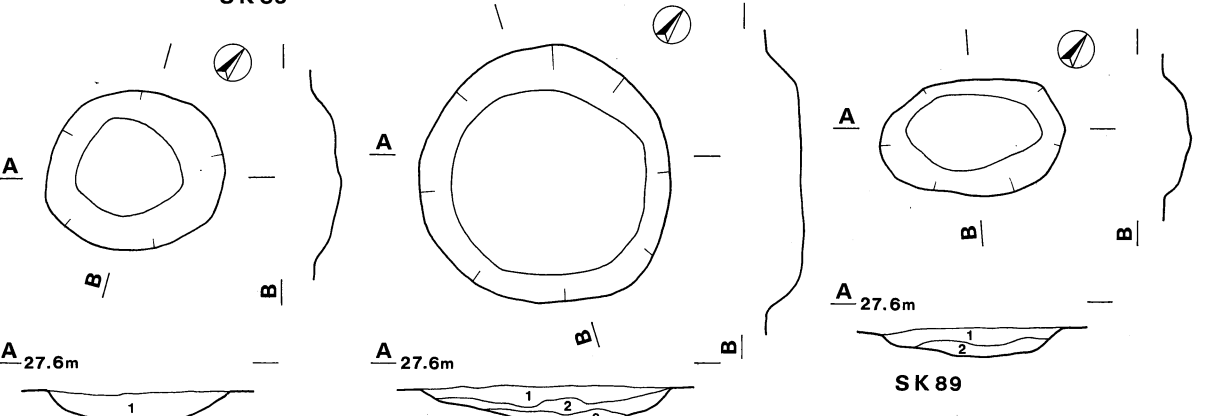
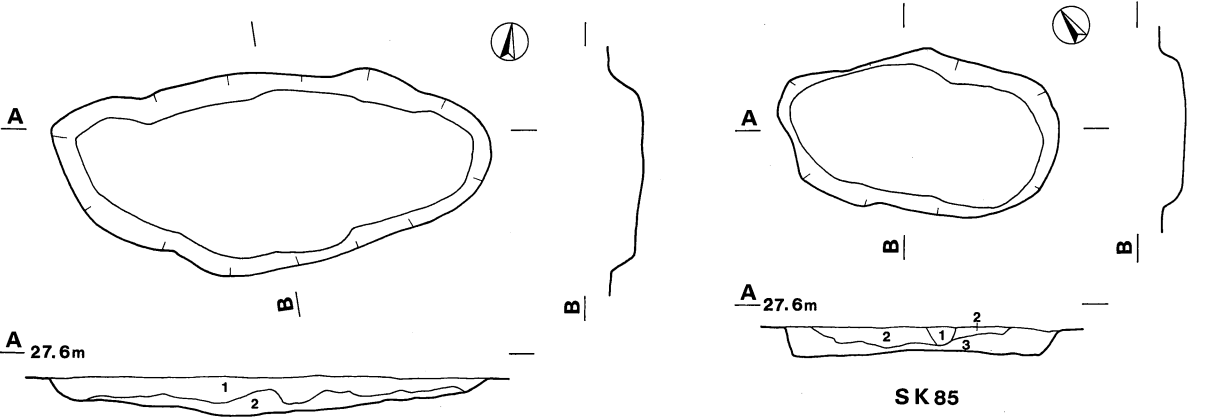
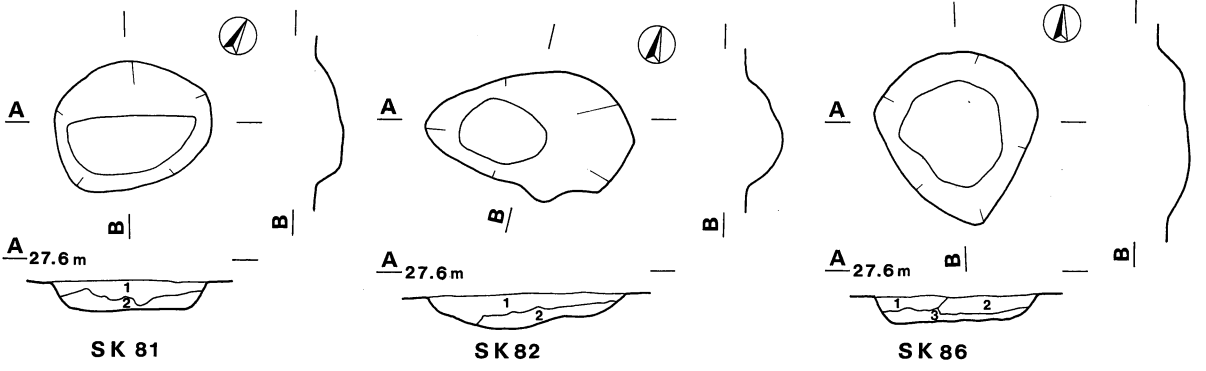
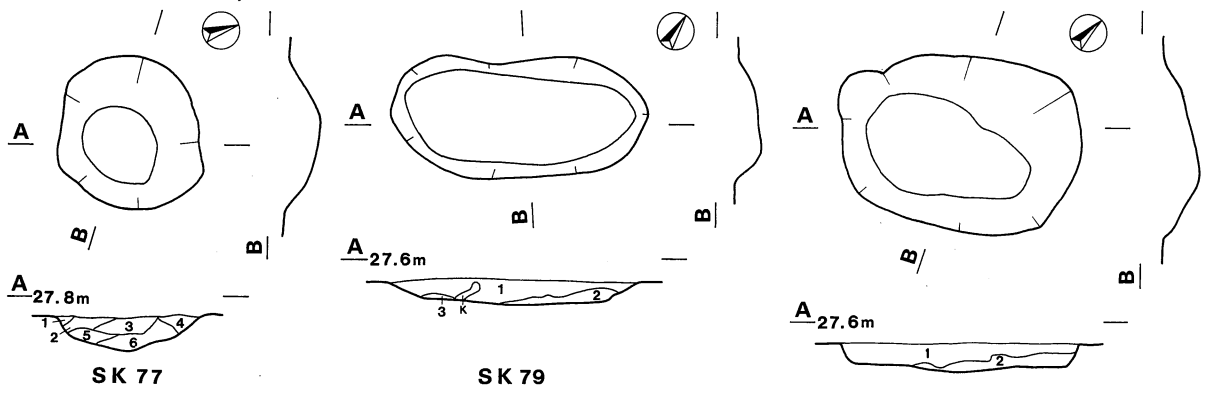
第74図 その他の土坑実測図(2)



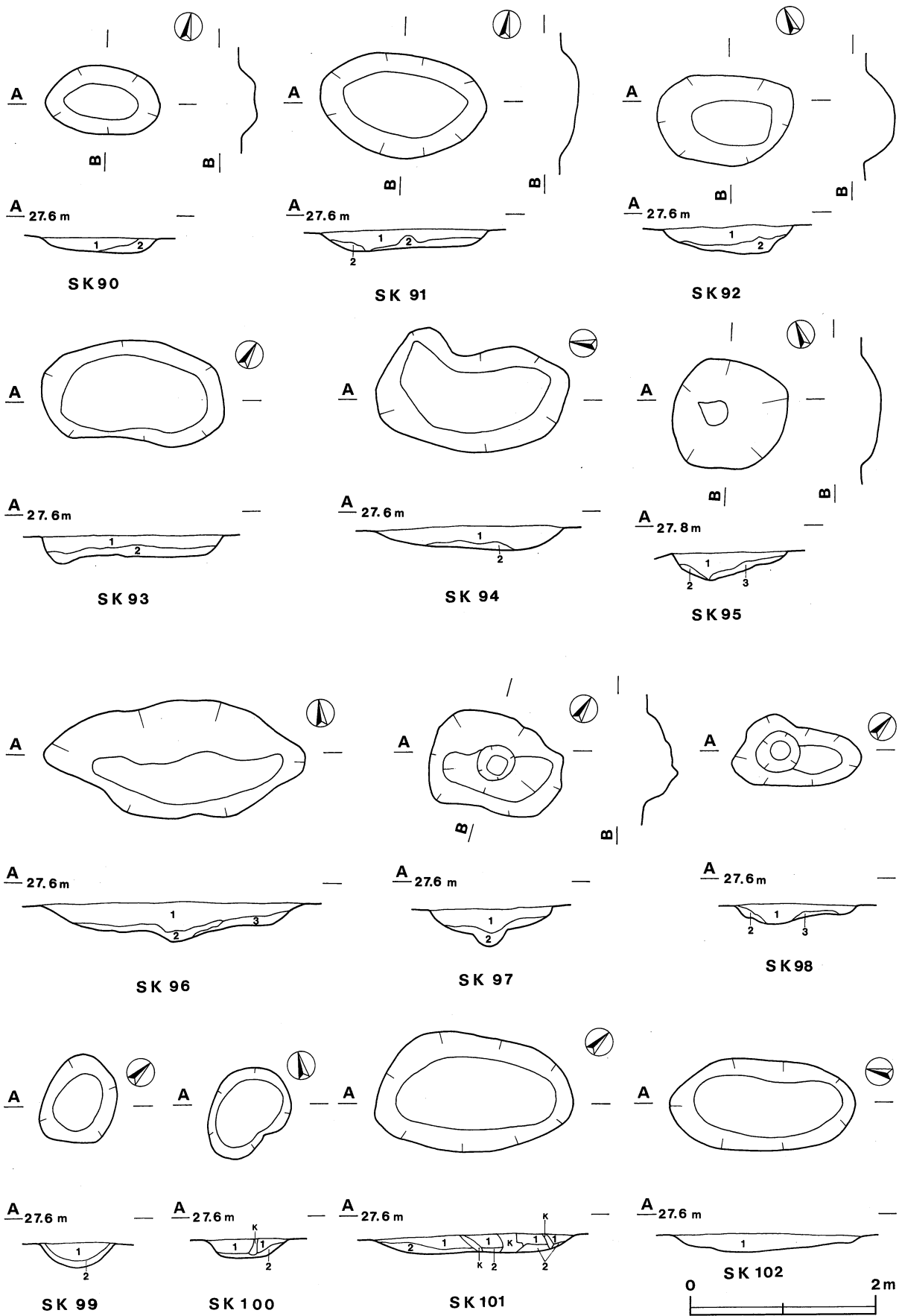
第75図 その他の土坑実測図(3)



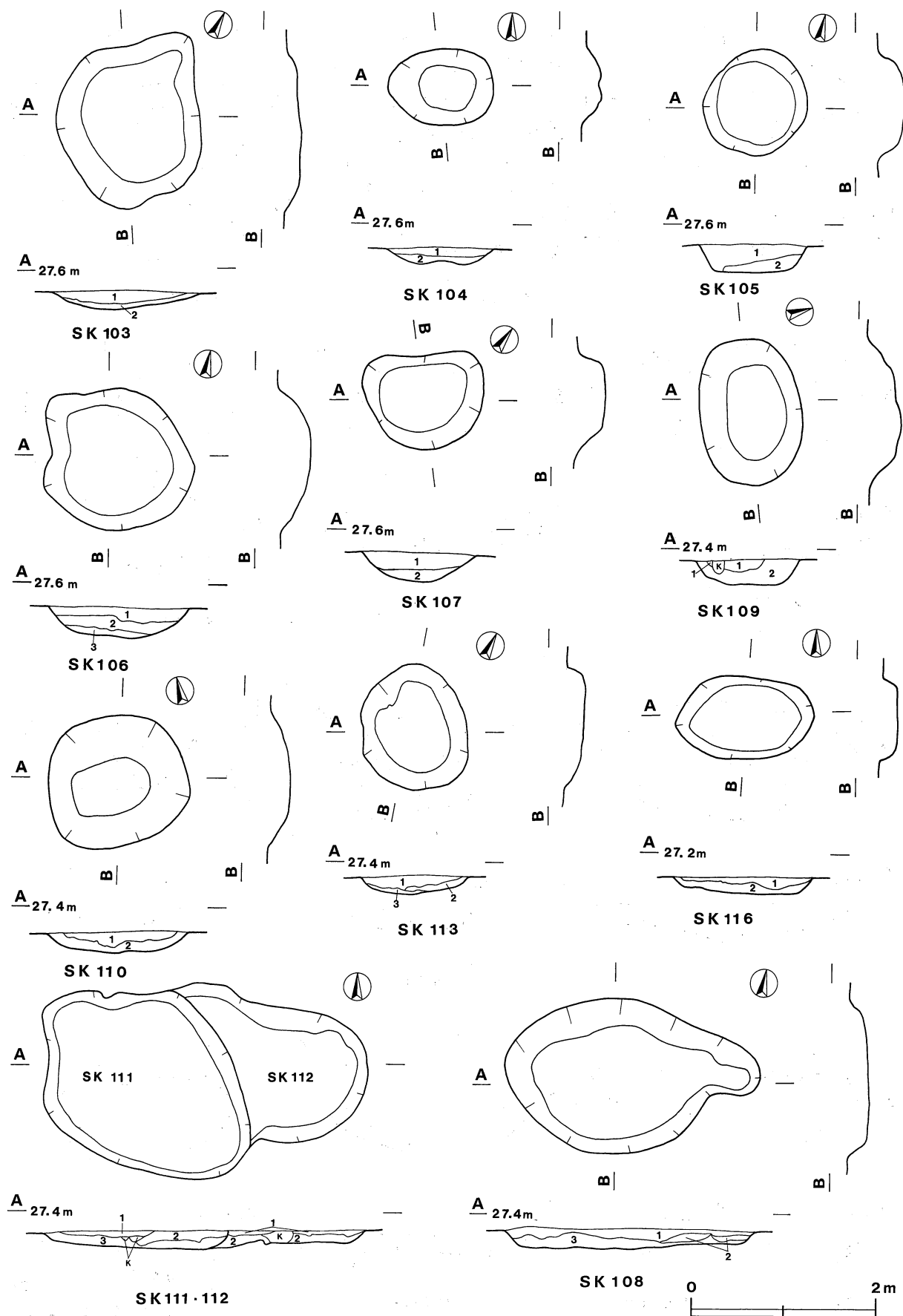
第76図 その他の土坑実測図(4)



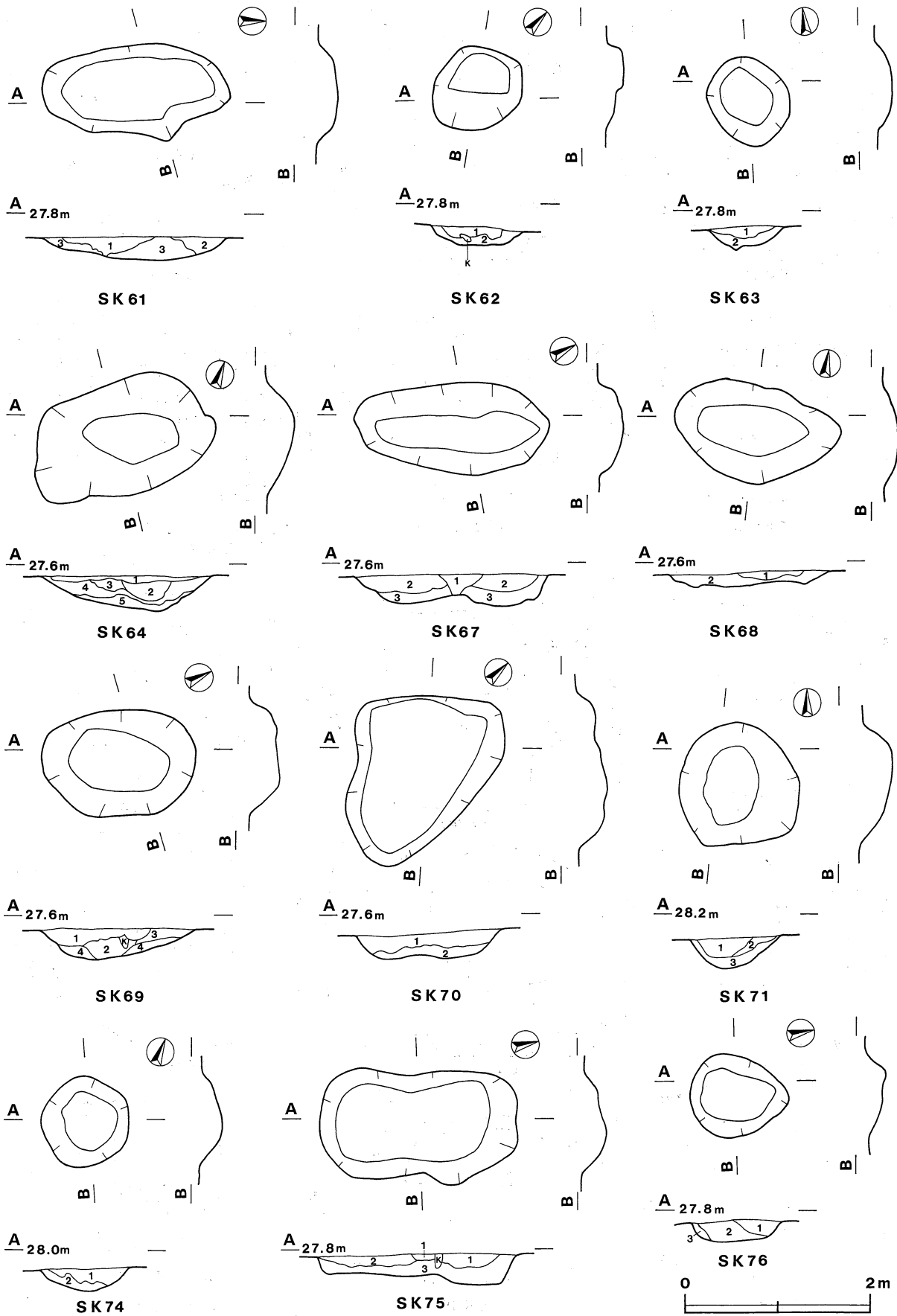
第77図 その他の土坑実測図(5)



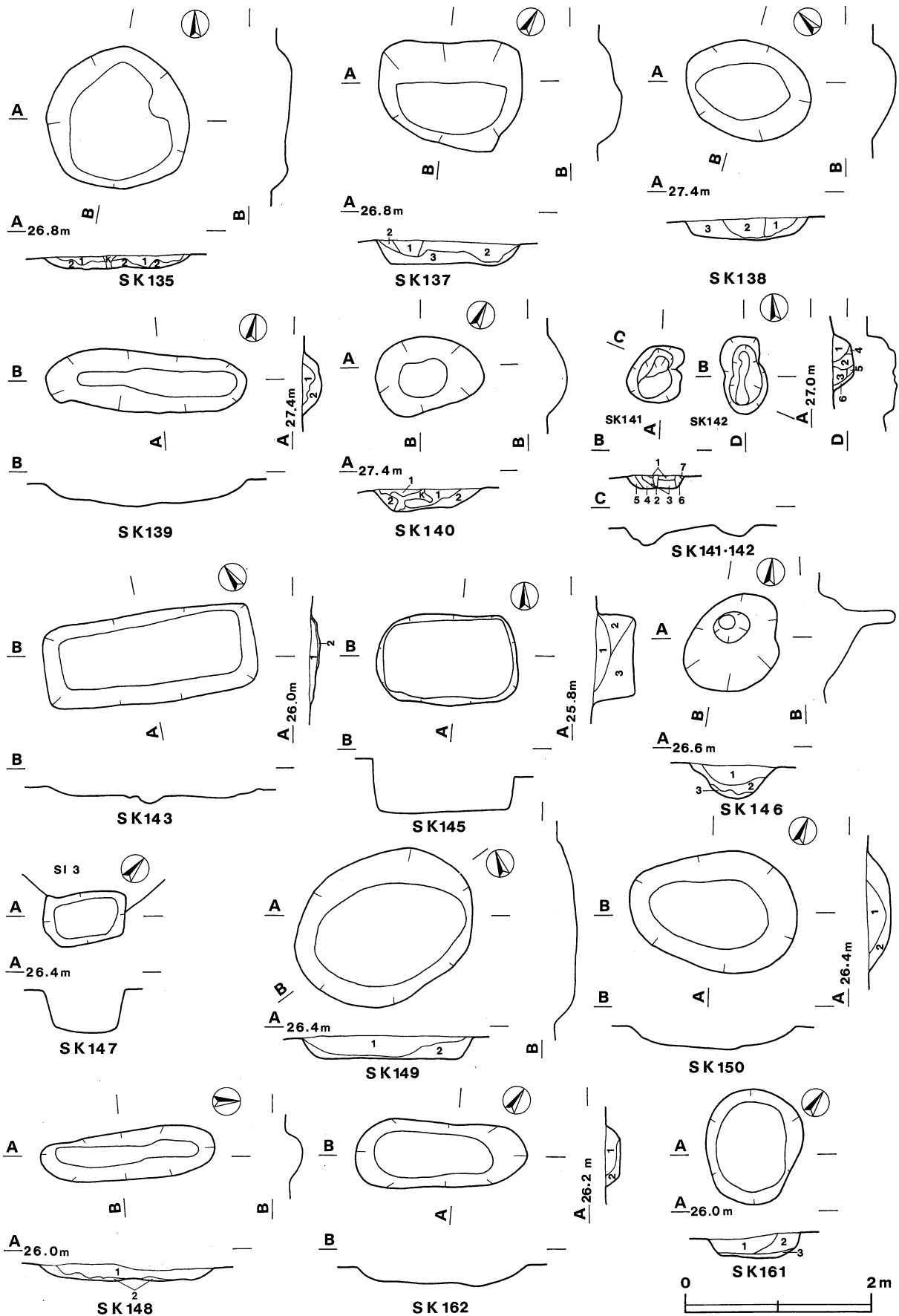
第78図 その他の土坑実測図(6)



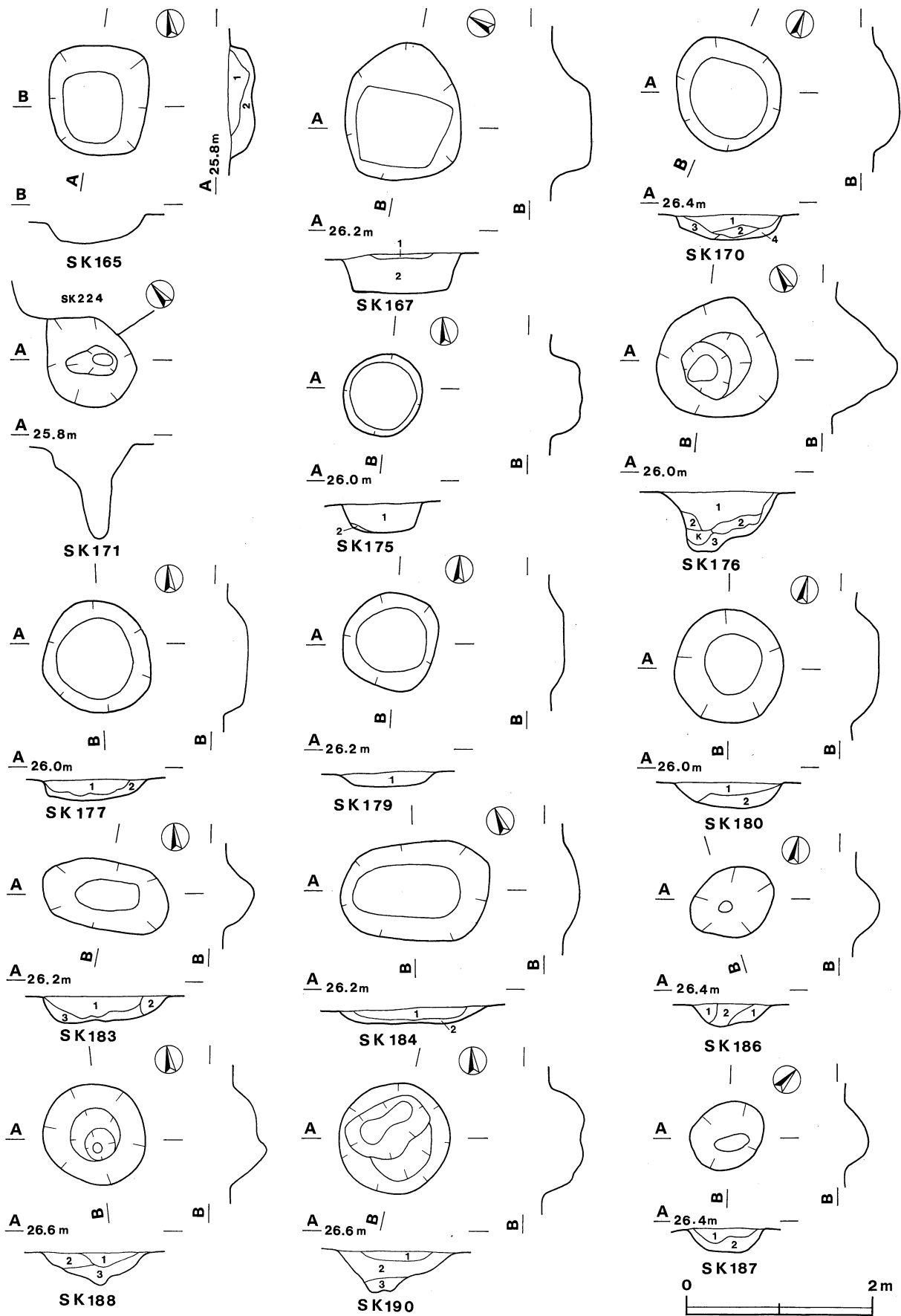
第79図 その他の土坑実測図(7)



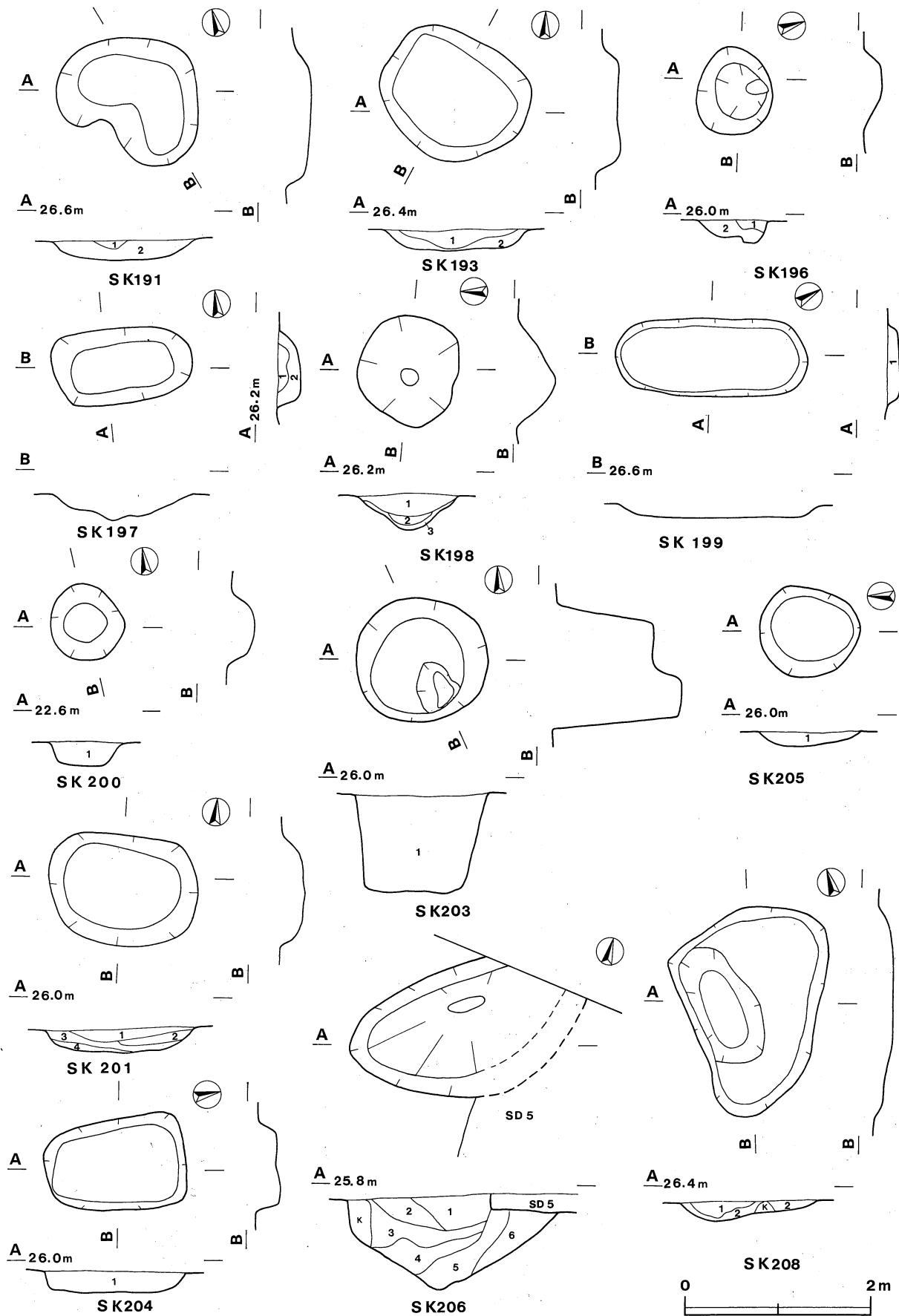
第80図 その他の土坑実測図(8)



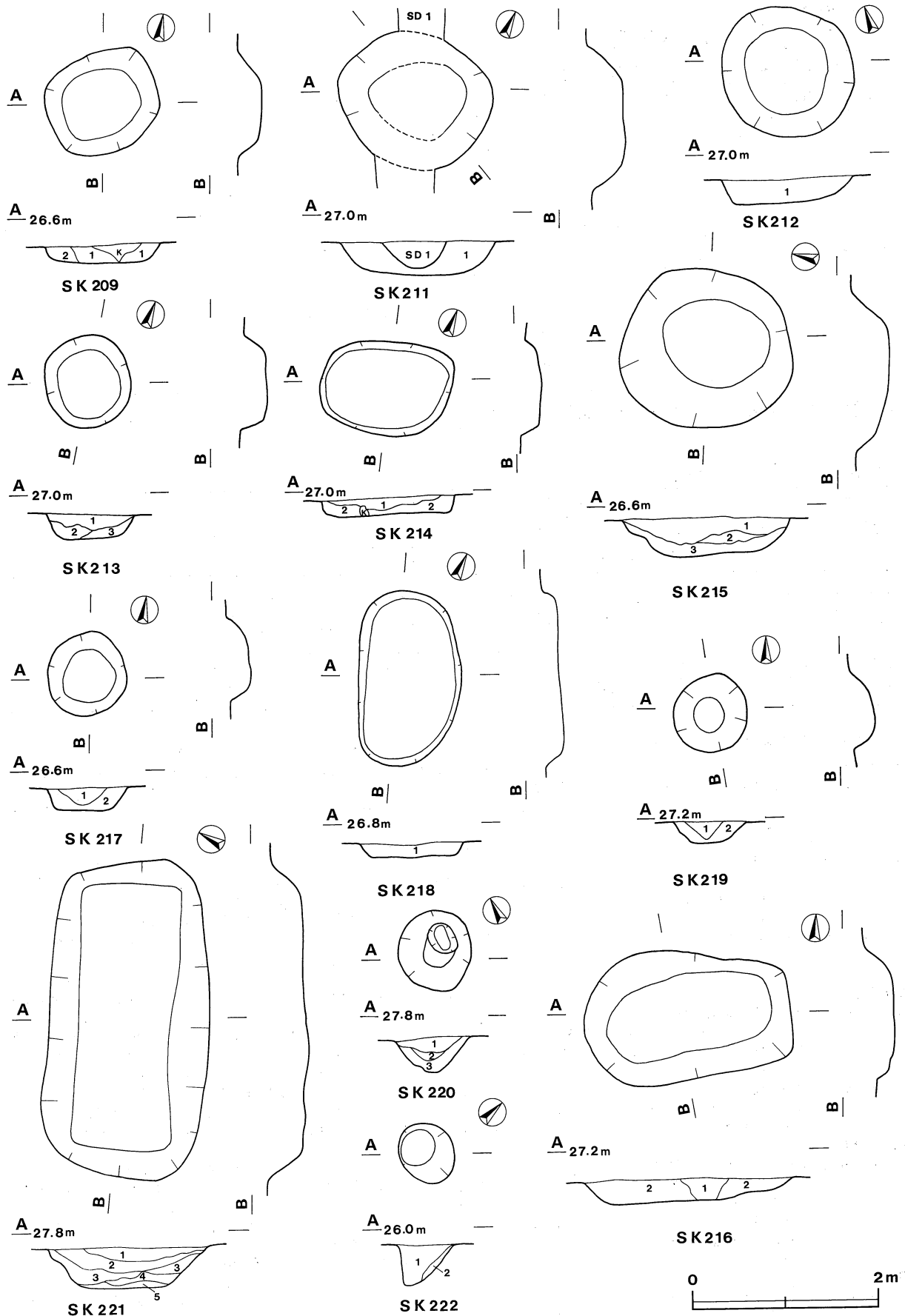
第81図 その他の土坑実測図(9)



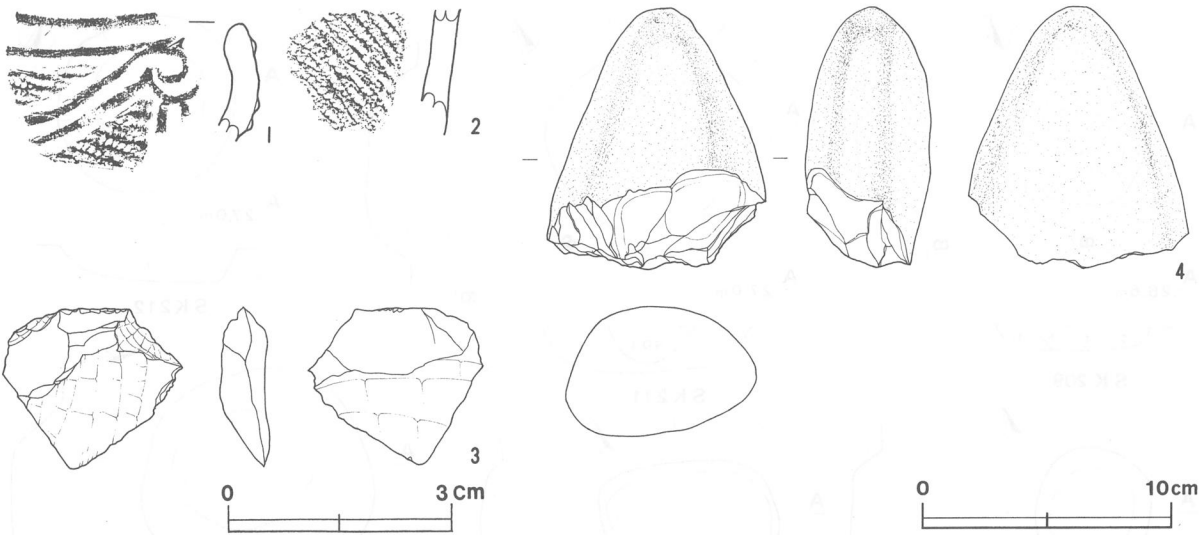
第82図 その他の土坑実測図(10)



第83図 その他の土坑実測図(11)



第84図 その他の土坑実測図(12)



第85図 その他の土坑出土遺物実測図

その他の土坑出土遺物観察表

図版番号	器形及び文様の特徴	備考
第85図 1~2	口縁部片。単節縄文を地文とし、太い平行沈線が施されている。 胴部片。LRの単節縄文が施されている。	TP2 PL57 TP3 PL57

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第85図3	剥片	4.2	4.3	1.3	20.0	安山岩	覆土	SK171 Q9
第85図4	礫器	10.5	8.7	5.0	540.0	砂岩	覆土	SK205 Q10 PL63

その他の土坑土層解説

第3号土坑

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・小ブロック少量, ローム大ブロック・白色粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子多量, ローム大ブロック・中ブロック中量, 焼土粒子・炭化物炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・粒子多量, ローム小ブロック中量

第8号土坑

- 1 黒褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・小ブロック少量, 焼土中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化物微量

第10号土坑

- 1 極暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子中量, ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック少量, 白色粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム大ブロック中量

第11号土坑

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 白色粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム大ブロック中量, ローム中ブロッ

第12号土坑

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・白色粒子少量, 焼土粒子・炭化物炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・中ブロック少量, 炭化物微量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック少量, 炭化物・炭化粒子微量

第13号土坑

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム大ブロック・小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・小ブロック中量, ローム大ブロック少量
- 3 褐色 ローム大ブロック・中ブロック多量, ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

第14号土坑

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量, ローム大ブロック微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子多量, ローム大ブロック・中ブロック中量, 炭化粒子・白色

- 3 暗褐色 粒子微量
ローム粒子中量, ローム中ブロック・小ブロック少量, ローム大ブロック・炭化粒子微量
 - 4 褐色 ローム大ブロック・粒子多量, ローム中ブロック・小ブロック中量
- 第15号土坑
- 1 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・小ブロック少量, 白色粒子微量
 - 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・中ブロック少量
 - 3 暗褐色 ローム小ブロック・粒子多量, ローム大ブロック・中ブロック中量
- 第16号土坑
- 1 極暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・小ブロック中量, ローム大ブロック少量
 - 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
 - 3 暗褐色 ローム大ブロック・中ブロック多量
- 第17号土坑
- 1 暗褐色 ローム粒子中量
 - 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
 - 3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブ

4 褐色 ロック中量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック・白色粒子微量
ローム大ブロック・中ブロック・粒子中量, ローム小ブロック少量

第18号土坑

1 極暗褐色 ローム小ブロック・粒子中量, ローム大ブロック・中ブロック少量, 白色粒子微量
2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子中量, ローム大ブロック・中ブロック少量, 白色粒子微量
3 暗褐色 ローム中ブロック・小ブロック・粒子多量, ローム大ブロック中量

第19号土坑

1 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・中ブロック少量
2 暗褐色 ローム中ブロック・粒子中量, ローム小ブロック少量
3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム大ブロック・中ブロック少量, 白色粒子微量

第20号土坑

1 暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, ローム大ブロック・中ブロック少量
2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック少量
3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
4 暗褐色 ローム大ブロック・中ブロック・粒子少量, ローム小ブロック中量

第21号土坑

1 極暗褐色 ローム中ブロック・小ブロック少量, ローム粒子・白色粒子微量
2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・中ブロック少量
3 暗褐色 ローム大ブロック・粒子少量
4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・中ブロック少量

第22号土坑

1 暗褐色 ローム中ブロック・粒子多量, ローム大ブロック中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量

第23号土坑 (SK24と一括)

1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・白色粒子微量
3 褐色 ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック少量

第24号土坑 (SK23と一括)

2 極暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子微量

第25号土坑

1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子中量, ローム中ブロック少量, 白色粒子微量
2 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・粒子中量, ローム小ブロック少量

第26号土坑

1 暗褐色 ローム粒子中量, 白色粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐色 ローム粒子多量, ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック中量, 炭化粒子微量
3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・白色粒子少量, 炭化物・炭化粒子微量
4 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量, 炭化粒子・白色粒子少量

第29号土坑

1 黒褐色 ローム粒子・白色粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量
2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム小ブロック・白色粒子少量, 炭化粒子微量
3 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量, 白色粒子少量

第31号土坑

1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・炭化物少量
2 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子中量, 炭化物少量

第34号土坑

1 黒褐色 ローム粒子少量
2 黒褐色 ローム粒子少量, しまり強い
3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・小ブロック中量
4 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量

第39号土坑

1 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・白色粒子少量, 炭化粒子・スコリア微量
2 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量, 白色粒子少量, 炭化粒子微量
3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量
4 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量, 白色粒子微量

第44号土坑

1 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・黒色粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・黒色小ブロック・黒色粒子少量
3 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック・中ブロック・白色粒子少量, 炭化粒子微量

第46号土坑

1 黒褐色 ローム粒子・黒色粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・白色粒子少量, 炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・黒色粒子中量, 白色粒子少量
3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・

白色粒子少量
4 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量

第48号土坑

1 暗褐色 ローム粒子中量, 白色粒子少量, 炭化物・炭化粒子・スコリア微量
2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック中量, 炭化粒子・白色粒子微量

第49号土坑

1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化粒子微量
3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・中ブロック少量, 炭化物・炭化粒子微量

第50号土坑

1 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック・白色粒子少量, 炭化物微量
2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 白色粒子少量, 炭化物・炭化粒子微量
3 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量, 白色粒子少量, 炭化物微量

第52号土坑

1 褐色 ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック中量, 白色粒子少量, 炭化粒子微量
2 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量, 白色粒子少量, 炭化粒子・スコリア微量

第53号土坑

1 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量, 炭化物・炭化粒子・スコリア・白色粒子微量

第54号土坑

1 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子・白色粒子微量
2 暗褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量, 白色粒子少量, 炭化粒子微量
3 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量, 白色粒子少量, 炭化粒子微量

第57号土坑

1 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・小ブロック中量, ローム大ブロック少量, 炭化粒子・白色粒子微量
2 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量

第59号土坑

1 暗褐色 ローム粒子多量, 白色粒子中量
2 褐色 ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量, 白色粒子中量, 炭化粒子微量

第60号土坑

1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック少量, 炭化粒子・スコリア・白色粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子中量, 白色粒子微量
3 暗褐色 ローム小ブロック・粒子多

	量, ローム大ブロック・中ブロック中量, スコリア少量, 炭化粒子・白色粒子微量				
4	褐色	ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量, 炭化粒子・白色粒子微量			
第61号土坑					
1	黒褐色	ローム粒子・黒色粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量			
2	暗褐色	ローム粒子多量, 黒色粒子中量, ローム小ブロック・白色粒子少量, 炭化粒子微量			
3	褐色	ローム小ブロック・粒子多量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・黒色粒子・白色粒子少量, 炭化粒子微量			
第62号土坑					
1	暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・白色粒子少量, 炭化粒子微量			
2	褐色	ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量, 炭化物・炭化粒子・白色粒子微量			
第63号土坑					
1	黒褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・中ブロック少量, 炭化粒子微量			
2	暗褐色	ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック・粒子多量, 炭化粒子・白色粒子微量			
第64号土坑					
1	黒褐色	ローム粒子微量			
2	褐色	ローム粒子少量			
3	褐色	ローム粒子・炭化粒子微量			
4	褐色	ローム粒子・白色粒子微量			
5	褐色	ローム粒子多量			
第67号土坑					
1	黒褐色	ローム粒子少量			
2	暗褐色	ローム粒子微量			
3	褐色	ローム粒子中量			
第68号土坑					
1	黒褐色	ローム粒子・黒色粒子少量, 炭化粒子微量			
2	暗褐色	ローム粒子多量, 白色粒子少量, 炭化粒子微量			
第69号土坑					
1	黒褐色	ローム粒子・黒色小ブロック微量			
2	暗褐色	ローム粒子少量			
3	暗褐色	ローム粒子微量			
4	褐色	ローム粒子中量			
第70号土坑					
1	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量			
2	褐色	ローム粒子中量			
第71号土坑					
1	暗褐色	黒色小ブロック少量, ローム粒子微量			
2	暗褐色	黒色小ブロック中量, ローム粒子微量			
3	褐色	ローム粒子中量, 黒色小ブロック少量			
第74号土坑					
1	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量			
2	褐色	ローム粒子中量			
第75号土坑					
1	暗褐色	ローム粒子微量			
2	暗褐色	ローム粒子少量			
3	褐色	ローム粒子多量			
第76号土坑					
1	暗褐色	ローム粒子中量			
2	暗褐色	ローム粒子微量			
3	褐色	ローム粒子少量			
第77号土坑					
1	褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量			
2	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量			
3	暗褐色	ローム粒子微量			
4	暗褐色	ローム粒子少量			
5	褐色	ローム粒子微量			
6	暗褐色	ローム小ブロック・粒子微量			
第79号土坑					
1	黒褐色	ローム粒子微量			
2	暗褐色	ローム粒子少量			
3	褐色	ローム粒子少量			
第80号土坑					
1	暗褐色	ローム粒子・白色粒子微量			
2	暗褐色	ローム粒子少量, 白色粒子微量			
第81号土坑					
1	暗褐色	ローム粒子・白色粒子微量			
2	褐色	ローム粒子微量			
第82号土坑					
1	暗褐色	ローム粒子微量			
2	褐色	ローム粒子中量			
第83号土坑					
1	黒褐色	ローム粒子微量			
2	褐色	ローム粒子中量			
第85号土坑					
1	黒褐色	ローム粒子微量			
2	黒褐色	ローム粒子・白色粒子微量			
3	暗褐色	ローム粒子少量			
第86号土坑					
1	黒褐色	ローム粒子微量			
2	黒褐色	ローム粒子・白色粒子微量			
3	褐色	ローム粒子中量			
第87号土坑					
1	黒褐色	ローム粒子・白色粒子微量			
第88号土坑					
1	極暗褐色	ローム粒子極微量			
2	暗褐色	ローム粒子微量, 炭化粒子極微量			
3	褐色	ローム粒子少量			
第89号土坑					
1	黒褐色	白色粒子微量, ローム粒子極微量			
2	暗褐色	ローム粒子少量			
第90号土坑					
1	極暗褐色	ローム粒子極微量			
2	暗褐色	ローム粒子・黒色粒子微量			
第91号土坑					
1	暗褐色	ローム粒子極微量			
2	暗褐色	ローム粒子微量			
第92号土坑					
1	暗褐色	ローム粒子極微量			
2	暗褐色	ローム粒子微量			
第93号土坑					
1	暗褐色	ローム粒子極微量			
2	褐色	ローム粒子中量			
第94号土坑					
1	黒褐色	白色粒子微量, ローム粒子極微量			
2	暗褐色	ローム粒子微量			
第95号土坑					
1	暗褐色	ローム粒子微量			
2	褐色	ローム粒子少量, 黒色粒子微量			
3	暗褐色	ローム粒子微量			
第96号土坑					
1	黒褐色	ローム粒子極微量			
2	褐色	ローム粒子少量, しまり強い			
3	褐色	ローム粒子少量			
第97号土坑					
1	黒褐色	ローム粒子極微量			
2	褐色	ローム粒子中量			
第98号土坑					
1	暗褐色	ローム粒子極微量			
2	暗褐色	ローム粒子少量			
3	褐色	ローム粒子中量			
第99号土坑					
1	黒褐色	ローム粒子微量			
2	褐色	ローム粒子中量			
第100号土坑					
1	暗褐色	ローム粒子極微量			
2	褐色	ローム粒子少量			
第101号土坑					
1	黒褐色	ローム粒子微量			
2	褐色	ローム粒子少量			
第102号土坑					
1	暗褐色	ローム粒子極微量			
第103号土坑					
1	暗褐色	白色粒子微量, ローム粒子極微量			
2	褐色	ローム粒子中量			
第104号土坑					
1	暗褐色	ローム粒子極微量			
2	暗褐色	ローム粒子微量			
第105号土坑					
1	暗褐色	ローム粒子極微量			
2	褐色	ローム粒子中量			
第106号土坑					
1	暗褐色	ローム粒子極微量			
2	褐色	ローム粒子少量			
3	褐色	ローム粒子多量			
第107号土坑					
1	暗褐色	ローム粒子極微量			
2	褐色	ローム粒子微量			
第108号土坑					
1	極暗褐色	ローム粒子・白色粒子中量, ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子少量			
2	暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 白色粒子少量, 炭化物微量			
3	暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック・白色粒子中量, ローム中ブロック少量, 炭化物・スコリア微量			
第109号土坑					
1	極暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量			
2	暗褐色	ローム小ブロック・粒子多量, ローム大ブロック・中ブロック中量, 炭化粒子微量			
第110号土坑					
1	黒褐色	ローム小ブロック・粒子中量, ローム大ブロック・中ブロック少量			
2	褐色	ローム小ブロック・粒子多量, ローム大ブロック・中ブロック中量, 炭化物微量			
第111号土坑					
1	暗褐色	ローム粒子少量, 炭化物・スコリア・白色粒子微量			
2	黒褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, スコリア・白色粒子微量			
3	暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量, 炭化物・スコリア・白色粒子微量			
第112号土坑					
1	黒褐色	ローム粒子中量, 炭化物・ス			

2 褐色 コリア・白色粒子微量
ローム大ブロック・中ブ
ロック・小ブロック・粒子多量

第113号土坑

1 黒褐色 ローム小ブロック・粒子中
量, ローム中ブロック少量
2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブ
ロック中量, ローム中ブロッ
ク少量, ローム大ブロック・
白色粒子微量
3 褐色 ローム大ブロック・中ブロッ
ク多量, ローム小ブロック・
粒子中量

第116号土坑

1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム中ブ
ロック・ローム小ブロック・
スコリア・白色粒子少量, 焼
土粒子炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子多
量, ローム中ブロック中量,
ローム大ブロック・スコリア
粒子・白色粒子少量, 炭化
物・炭化粒子微量

第117号土坑

1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム中ブ
ロック・白色粒子少量, 炭化
粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブ
ロック・白色粒子中量, 炭化
粒子微量
3 褐色 ローム大ブロック・中ブロッ
ク・小ブロック・粒子多量,
炭化物微量

第118号土坑

1 極暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブ
ロック中量, ローム中ブロッ
ク・白色粒子少量
2 褐色 ローム大ブロック・中ブロッ
ク・小ブロック・粒子多量,
炭化物微量

第119号土坑

1 黒褐色 ローム粒子中量, 白色粒子少
量, 炭化物微量
2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブ
ロック中量, ローム小ブロッ
ク・白色粒子少量, 炭化物微
量

第120号土坑

1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブ
ロック少量, ローム大ブロッ
ク・炭化粒子微量, 粘性・し
まり弱い
2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブ
ロック中量, ローム中ブロッ
ク少量
3 暗褐色 ローム小ブロック・粒子多
量, ローム中ブロック中量
4 褐色 ローム小ブロック・粒子多
量, ローム中ブロック中量
5 褐色 ローム小ブロック・粒子多
量, ローム大ブロック・中ブ
ロック中量, 炭化粒子少量,
スコリア微量

第121号土坑

1 極暗褐色 ローム小ブロック・粒子中
量, ローム中ブロック少量
2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子多量
3 褐色 ローム小ブロック・粒子多
量, 粘性強い
4 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブ
ロック中量, ローム中ブロッ
ク少量

第122号土坑

1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子多
量, ローム中ブロック中量,
ローム大ブロック少量, 炭化
粒子微量
2 褐色 ローム大ブロック・中ブロッ
ク・小ブロック・粒子多量,
炭化粒子少量

第123号土坑

1 黒褐色 ローム小ブロック・粒子中
量, 炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブ
ロック中量, ローム中ブロッ
ク少量, 炭化粒子微量
3 褐色 ローム中ブロック・小ブロッ
ク・粒子多量, ローム大ブロッ
ク少量, 白色粒子微量, 粘
性・しまり強い

第124号土坑

1 黒褐色 ローム小ブロック・粒子中
量, ローム中ブロック少量,
焼土粒子・炭化粒子微量
ローム小ブロック・粒子中
量, ローム中ブロック少量
2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブ
ロック中量, ローム大ブロッ
ク・中ブロック少量

第125号土坑

1 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多
量, ローム粒子・焼土中ブロッ
ク中量, 炭化物少量
2 暗褐色 ローム粒子・焼土小ブロック
中量, 焼土粒子・炭化物・炭
化粒子少量
3 暗褐色 ローム粒子・焼土小ブロッ
ク・焼土粒子・炭化物・炭化
粒子少量
4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
5 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブ
ロック・小ブロック中量, 炭
化粒子微量
6 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブ
ロック中量, 炭化粒子微量

第127号土坑

1 極暗褐色 ローム小ブロック・粒子中
量, 炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム中ブロック・小ブロッ
ク多量, ローム大ブロック・
粒子中量
3 褐色 ローム大ブロック・中ブロッ
ク・小ブロック・粒子多量,
白色粒子微量

第128号土坑

1 黒褐色 ローム粒子・白色粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子微量

第130号土坑

1 黒褐色 炭化物・炭化粒子多量, ロー
ム粒子中量, 粘性・しまり弱
い
2 黒褐色 炭化材・炭化物・炭化粒子多
量, ローム粒子中量, 粘性・
しまり強い
3 暗褐色 ローム大ブロック・中ブロッ
ク・小ブロック・粒子多量,
炭化粒子中量, 炭化物少量

第131号土坑

1 黒褐色 ローム中ブロック・小ブロッ
ク・粒子少量, 炭化粒子・白
色粒子微量
2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子多
量, ローム中ブロック中量,
ローム大ブロック少量, 炭化

粒子・白色粒子微量
3 褐色 ローム大ブロック・中ブロッ
ク・小ブロック・粒子多量,
白色粒子微量, 粘性・しまり
強い

第135号土坑

1 極暗褐色 ローム小ブロック・粒子多
量, ローム中ブロック中量,
ローム大ブロック少量・炭化
物微量
2 褐色 ローム大ブロック・中ブロッ
ク・小ブロック・粒子多量,
白色粒子微量

第137号土坑

1 極黒褐色 ローム粒子中量, ローム中ブ
ロック・小ブロック・白色粒
子少量, 炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブ
ロック中量, 白色粒子少量,
炭化粒子微量
3 褐色 ローム大ブロック・中ブロッ
ク・小ブロック・粒子多量,
白色粒子少量・炭化物微量

第138号土坑

1 黒褐色 ローム粒子多量, ローム中ブ
ロック・白色粒子少量, ロー
ム大ブロック・小ブロック微
量
2 黒褐色 ローム粒子中量, 白色粒子少
量, 炭化粒子微量
3 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブ
ロック・ローム小ブロック・
炭化粒子・白色粒子少量

第139号土坑

1 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブ
ロック・白色粒子少量, 焼土
粒子・炭化物・炭化粒子・ス
コリア微量
2 暗褐色 ローム中ブロック・小ブロッ
ク・粒子多量, ローム大ブロッ
ク中量, 白色粒子少量, 炭
化物・スコリア微量

第140号土坑

1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子中
量, ローム大ブロック・中ブ
ロック少量, 炭化物微量
2 褐色 ローム中ブロック・小ブロッ
ク・粒子多量, ローム大ブロッ
ク中量, 白色粒子微量

第141号土坑

1 灰褐色 粘土ブロック中量, ローム粒
子少量
2 褐色 粘土ブロック多量, ローム粒
子少量
3 褐色 粘土ブロック中量, ローム粒
子微量
4 褐色 ローム大ブロック・粒子中量
5 褐色 ローム粒子・粘土ブロック少
量
6 褐色 ローム大ブロック・粒子中量

第142号土坑

1 暗褐色 粘土ブロック少量, ローム小
ブロック微量
2 褐色 ローム小ブロック少量
3 褐色 粘土ブロック中量
4 濃い赤褐色 焼土大ブロック・中ブロッ
ク中量
5 暗褐色 粘土ブロック少量, ローム粒
子微量
6 褐色 焼土大ブロック中量, ローム
粒子少量
7 褐色 ローム粒子中量

第143号土坑			
1 黒褐色	炭化粒子中量, ローム粒子・炭化物少量, ローム小ブロック・焼土粒子極微量	2 黒色	ク微量 炭化物中量, ローム小ブロック少量, ローム粒子微量, 焼土粒子極微量
2 褐色	黒色粒子微量, 焼土小ブロック・炭化物極微量	第179号土坑	
第145号土坑		1 黒褐色	ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量, ローム粒子微量
1 暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量	第180号土坑	
2 暗褐色	ローム中ブロック微量	1 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム中ブロック・小ブロック・粒子中量	2 黒褐色	炭化粒子中量, ローム粒子微量
第146号土坑		第183号土坑	
1 黒褐色	ローム粒子微量, しまり極めて弱い	1 暗褐色	ローム粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子微量, 粘性強い	2 暗褐色	ローム粒子少量
3 褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック微量	3 暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
第148号土坑		第184号土坑	
1 暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック極微量	1 黒褐色	炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック極微量	2 黒褐色	炭化粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量
第149号土坑		第186号土坑	
1 褐色	ローム粒子微量	1 暗褐色	ローム粒子少量
2 褐色	ローム粒子少量	2 黒褐色	ローム粒子微量
第150号土坑		第187号土坑	
1 暗褐色	ローム粒子微量	1 黒褐色	ローム粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量	2 黒褐色	ローム粒子微量, しまり強い
第161号土坑		第188号土坑	
1 褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 黒色小ブロック極微量	1 黒褐色	ローム粒子微量
2 暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量, ローム中ブロック微量, 焼土粒子・黒色粒子極微量	2 黒褐色	ローム粒子少量
3 褐色	ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・黒色粒子極微量	3 黒褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
第162号土坑		第190号土坑	
1 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 黒色小ブロック極微量	1 黒褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
2 褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・黒色小ブロック極微量	2 黒褐色	ローム小ブロック・粒子少量
第165号土坑		3 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
1 褐色	ローム粒子少量	第191号土坑	
2 褐色	ローム小ブロック・粒子微量	1 黒褐色	ローム粒子微量
第167号土坑		2 暗褐色	ローム粒子少量
1 極暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量, 黒色小ブロック微量	第193号土坑	
2 黒褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック・小ブロック微量	1 暗褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量
第170号土坑		2 暗褐色	ローム粒子少量
1 暗褐色	ローム粒子微量	第196号土坑	
2 暗褐色	ローム粒子少量	1 暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, ローム小ブロック微量	2 褐色	ローム小ブロック・粒子中量
4 褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量	第197号土坑	
第175号土坑		1 暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量
1 暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム粒子微量	2 褐色	ローム小ブロック・粒子中量, 炭化物少量, 上部に骨片微量
2 暗褐色	ローム小ブロック・粒子微量	第198号土坑	
第176号土坑		1 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量
1 極暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量	2 黒色	ローム粒子微量
2 黒褐色	黒色小ブロック中量, ローム小ブロック微量	3 暗褐色	ローム粒子少量
3 暗褐色	ローム中ブロック中量, ローム粒子・炭化物少量	第199号土坑	
第177号土坑		1 暗褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子・炭化物少量, 焼土粒子微量
1 極暗褐色	炭化物少量, ローム小ブ	第200号土坑	
		1 暗褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子・炭化物少量, 焼土粒子微量
		第201号土坑	
		1 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量, 炭化粒子極微量
		2 暗赤褐色	焼土粒子多量, 炭化粒子微量
		3 黒色	炭化粒子中量, ローム粒子少
			量, 焼土粒子微量
			炭化物少量, ローム小ブ
			ック微量
			第203号土坑
			1 暗褐色
			ローム小ブロック・粒子少
			量, ローム中ブロック・K P
			粒子微量
			第204号土坑
			1 黒褐色
			ローム粒子少量, ローム小
			ブロック微量
			第205号土坑
			1 褐色
			ローム小ブロック中量, 黒色
			粒子極微量, 粘性が極めて強
			い
			第206号土坑
			1 黒褐色
			ローム粒子中量
			2 黒褐色
			ローム粒子微量
			3 黒褐色
			ローム小ブロック・粒子微量
			4 暗褐色
			ローム粒子少量, ローム小
			ブロック微量
			5 黒褐色
			ローム粒子微量
			6 暗褐色
			ローム粒子少量
			第208号土坑
			1 黒褐色
			黒色粒子中量, ローム小ブ
			ロック・粒子少量
			2 暗褐色
			ローム小ブロック中量, ロー
			ム粒子・黒色粒子少量
			第209号土坑
			1 暗褐色
			ローム小ブロック中量, ロー
			ム中ブロック・ローム粒子・
			黒色粒子少量
			2 暗褐色
			ローム中ブロック中量, ロー
			ム小ブロック・ローム粒子・
			黒色粒子少量
			第211号土坑
			1 黒褐色
			ローム粒子微量
			第212号土坑
			1 黒褐色
			ローム小ブロック・ローム粒
			子・黒色粒子少量
			第213号土坑
			1 黒色
			ローム粒子極微量, しまりが
			強い
			2 黒褐色
			ローム粒子極微量, しまりが
			極めて強い
			3 黒褐色
			ローム粒子少量, ローム小
			ブロック微量
			第214号土坑
			1 黒褐色
			ローム粒子・炭化粒子微量
			2 暗褐色
			ローム粒子少量, ローム小
			ブロック極微量
			第215号土坑
			1 黒色
			ローム粒子微量
			2 黒褐色
			ローム粒子少量, ローム小
			ブロック極微量
			3 褐色
			ローム粒子少量, ローム小
			ブロック微量
			第216号土坑
			1 暗褐色
			ローム粒子微量
			2 暗褐色
			ローム粒子少量, 焼土粒子微
			量
			第217号土坑
			1 暗褐色
			ローム粒子微量
			2 暗褐色
			ローム粒子少量
			第218号土坑
			1 暗褐色
			ローム粒子少量, ローム小
			ブロック・炭化粒子微量
			第219号土坑
			1 黒褐色
			ローム粒子微量
			2 暗褐色
			ローム粒子少量
			第220号土坑
			1 暗褐色
			ローム粒子・焼土粒子微量
			2 黒褐色
			ローム粒子少量

3 暗褐色 ローム粒子中量

第221号土坑

1 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子・
焼土粒子・炭化物微量, 炭化
材極微量

2 にい赤褐色 焼土粒子中量, 炭化物少量,
ローム小ブロック・焼土中ブ

ロック・焼土小ブロック・炭
化粒子微量

3 暗赤褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微
量, 焼土小ブロック・炭化物
極微量

4 黒色 炭化粒子多量, 炭化物少量
5 黒褐色 炭化粒子中量, ローム粒子・

炭化物微量

第222号土坑

1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブ
ロック極微量

2 暗褐色 ローム粒子中量

表4 寺山遺跡土坑一覽表

土坑 番号	位 置	長径方向 (長軸方向)	平 面 形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
1	B6i9	N-37°-E	楕円形	2.00 × 1.26	140	垂直	平坦	自然		陥し穴
2	B7e1	N-30°-E	楕円形	0.75 × 0.59	24	緩斜	皿状	人為	土師器(手捏), 土師器片	
3	B7i2	N-80°-W	楕円形	1.60 × 1.32	26	緩斜	凹凸	自然		
7	B7g2	N-54°-W	楕円形	1.06 × 0.70	16	外傾	平坦	—	土師器片	
8	A5g6	N-18°-W	楕円形	1.58 × 1.00	26	緩斜	皿状	自然		
10	B7g2	N-30°-W	楕円形	0.93 × 0.59	20	緩斜	皿状	自然		
11	B7g1	N-0°	楕円形	1.21 × 1.03	20	緩斜	皿状	自然		
12	B7g1	N-12°-E	楕円形	1.52 × 1.25	20	緩斜	皿状	自然		
13	B7g1	N-0°	楕円形	1.40 × 1.14	20	緩斜	平坦	自然		
14	B7g1	N-80°-W	楕円形	1.54 × 1.16	33	緩斜	皿状	自然		
15	B7e1	N-81°-E	楕円形	1.55 × 1.10	26	緩斜	凹凸	自然		
16	B7d1	N-49°-E	楕円形	1.45 × 1.25	25	緩斜	皿状	自然		
17	B7d1	N-84°-W	楕円形	1.58 × 0.88	22	緩斜	皿状	自然		
18	B6e9	N-6°-E	楕円形	1.77 × 0.98	23	緩斜	凹凸	自然		
19	B6d0	N-45°-W	楕円形	1.05 × 0.94	15	緩斜	皿状	自然		
20	B7c1	N-0°	円形	1.03 × 0.98	21	緩斜	平坦	自然		
21	B6d0	N-60°-E	円形	0.91 × 0.86	38	緩斜	皿状	自然		
22	B7b1	N-75°-W	楕円形	1.16 × 0.93	23	緩斜	平坦	人為		
23	B6e0	N-50°-W	[円形]	1.10 × [1.00]	26	緩斜	皿状	自然		SK23→SK24
24	B6e0	N-50°-W	[円形]	1.06 × [1.05]	20	緩斜	皿状	自然		SK23→SK24
25	B6e0	N-0°	円形	1.04 × 1.02	20	緩斜	皿状	自然		
26	B6f0	N-0°	楕円形	1.29 × 1.09	26	緩斜	平坦	自然		
27	B6h0	N-40°-E	楕円形	1.04 × 0.93	33	緩斜	平坦	—		
29	B6g9	N-30°-W	楕円形	0.83 × 0.71	25	緩斜	皿状	自然		
31	C6a7	N-40°-E	楕円形	1.58 × 1.28	25	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	
32	B6j8	N-0°	楕円形	0.30 × 0.25	25	外傾	皿状	—		
33	C6a6	N-35°-W	楕円形	0.62 × 0.45	41	外傾	平坦	—		
34	C6a7	N-56°-W	楕円形	1.58 × 1.24	31	緩斜	皿状	自然		
35	C6a5	N-54°-E	円形	0.88 × 0.82	43	緩斜	皿状	—		
37	B6i8	N-24°-W	楕円形	1.41 × 1.05	25	緩斜	皿状	—	須恵器片	
38	B6h9	N-0°	隅丸長方形	2.58 × 1.92	70	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 土製品, 鉄滓	
39	B6g9	N-31°-W	楕円形	1.50 × 1.43	20	緩斜	皿状	自然		
44	B6d0	N-25°-W	楕円形	0.92 × 0.82	24	緩斜	皿状	自然		
46	B6c8	N-23°-W	楕円形	1.16 × 0.64	11	緩斜	凹凸	自然		
48	B6e7	N-36°-W	楕円形	1.75 × 0.92	20	緩斜	皿状	自然		
49	B6e7	N-33°-W	楕円形	1.08 × 0.81	20	緩斜	平坦	人為	土師器片	
50	B6e6	N-87°-E	楕円形	2.25 × 0.80	20	緩斜	平坦	—	土師器片	
51	B6e6	N-39°-E	楕円形	1.51 × 0.75	25	緩斜	平坦	—		
52	B6e6	N-70°-E	楕円形	1.70 × 1.43	16	緩斜	平坦	自然	土師器片	
53	B6i3	N-70°-E	円形	1.17 × 1.10	30	緩斜	平坦	人為		
54	B6f6	N-20°-E	楕円形	1.72 × 0.88	23	緩斜	皿状	自然		
57	B6f6	N-60°-W	楕円形	1.08 × 0.87	25	緩斜	皿状	人為		
59	B6h3	N-78°-W	楕円形	1.57 × 1.03	30	緩斜	皿状	自然	土師器片	
60	B6h3	N-23°-W	楕円形	3.95 × 1.65	25	緩斜	凹凸	自然		
61	B6h3	N-2°-E	楕円形	1.96 × 0.92	22	緩斜	皿状	自然		
62	B6f4	N-50°-E	円形	0.95 × 0.90	20	緩斜	凹凸	自然	土師器片	
63	B6e4	N-45°-W	楕円形	1.00 × 0.82	18	緩斜	皿状	自然		
64	B6i2	N-59°-E	楕円形	1.83 × 1.20	30	緩斜	皿状	自然	縄文土器片	
67	B6i2	N-20°-E	楕円形	2.06 × 0.98	25	緩斜	皿状	自然		
68	B6i2	N-82°-E	楕円形	1.73 × 1.07	15	緩斜	皿状	自然	縄文土器片, 土師器片	
69	B6i2	N-22°-E	楕円形	1.65 × 1.13	29	緩斜	皿状	自然		

土坑 番号	位 置	長 径 方 向 (長軸方向)	平 面 形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
70	B6j1	N-38°-W	不整楕円形	1.80 × 1.50	28	緩斜	凹凸	自然		
71	B6b9	N-0°	円 形	1.40 × 1.30	32	緩斜	皿状	自然		
72	A6j6	N-63°-E	不整楕円形	2.52 × 1.16	110	外傾	平坦	自然		陥し穴
73	B6d6	N-72°-E	不整楕円形	2.70 × 1.55	105	外傾	平坦	自然		陥し穴
74	B6d6	N-0°	円 形	0.97 × 0.93	23	緩斜	皿状	自然		
75	B6d6	N-6°-E	楕 円 形	2.13 × 1.07	23	緩斜	皿状	自然		
76	B6c5	N-14°-E	楕 円 形	1.07 × 0.87	21	緩斜	皿状	自然		
77	B6d5	N-44°-E	楕 円 形	1.30 × 1.18	37	緩斜	皿状	自然		
79	B6j1	N-56°-E	楕 円 形	2.10 × 0.94	20	緩斜	皿状	自然		
80	B6i1	N-43°-E	楕 円 形	1.92 × 1.42	30	緩斜	皿状	自然		
81	B6i1	N-28°-E	楕 円 形	1.30 × 1.04	22	緩斜	皿状	自然		
82	B6i1	N-83°-E	楕 円 形	1.68 × 0.87	30	緩斜	皿状	自然		
83	B6i1	N-74°-E	楕 円 形	3.34 × 1.60	25	緩斜	皿状	自然		
85	B5j0	N-55°-E	楕 円 形	2.26 × 1.32	20	緩斜	平坦	自然		SK86と重複
86	B5j0	N-8°-W	楕 円 形	1.33 × 1.18	20	緩斜	平坦	自然		SK85と重複
87	B5j9	N-23°-E	楕 円 形	1.45 × 1.30	20	緩斜	皿状	自然		
88	B5j9	N-0°	円 形	2.08 × 2.03	30	緩斜	皿状	自然		
89	B5j9	N-45°-E	楕 円 形	1.50 × 0.93	22	緩斜	平坦	自然		
90	B5i0	N-82°-E	楕 円 形	1.22 × 0.72	15	緩斜	平坦	自然		
91	B6h1	N-80°-E	楕 円 形	1.80 × 1.12	20	緩斜	皿状	自然		
92	B6h1	N-61°-W	楕 円 形	1.43 × 0.96	32	緩斜	皿状	自然		
93	B6h1	N-66°-E	楕 円 形	1.95 × 1.07	24	緩斜	平坦	自然		
94	B5h0	N-0°	楕 円 形	2.04 × 1.09	25	緩斜	平坦	自然		
95	B6g3	N-0°	円 形	1.28 × 1.20	20	緩斜	平坦	自然		
96	B6f1	N-86°-W	楕 円 形	2.83 × 1.26	27	緩斜	凹凸	自然		
97	B5f0	N-80°-E	楕 円 形	1.45 × 1.06	30	緩斜	皿状	自然		
98	B5f0	N-45°-E	楕 円 形	1.30 × 0.63	16	緩斜	皿状	自然		
99	B5f8	N-46°-W	楕 円 形	0.95 × 0.75	26	緩斜	皿状	自然		
100	B5h9	N-48°-E	楕 円 形	1.04 × 0.80	20	緩斜	皿状	自然		
101	B5h9	N-48°-E	楕 円 形	2.14 × 1.30	24	緩斜	皿状	自然		
102	B5i9	N-14°-W	楕 円 形	2.00 × 0.98	20	緩斜	皿状	自然		
103	B5h8	N-31°-W	楕 円 形	1.75 × 1.54	16	緩斜	平坦	自然		
104	B5g9	N-87°-W	楕 円 形	1.10 × 0.84	15	緩斜	凹凸	自然	縄文土器片	
105	B5e0	N-0°	円 形	1.15 × 1.15	30	緩斜	平坦	自然		
106	B5e1	N-0°	円 形	1.52 × 1.46	30	緩斜	皿状	自然		
107	B5e0	N-58°-E	楕 円 形	1.23 × 1.02	28	緩斜	平坦	自然		
108	B5c7	N-80°-E	楕 円 形	2.76 × 1.66	20	緩斜	平坦	自然		
109	B6c2	N-82°-W	楕 円 形	1.59 × 1.10	30	緩斜	凹凸	自然		
110	B5b7	N-88°-W	楕 円 形	1.06 × 0.95	23	緩斜	皿状	自然		
111	B5b8	N-35°-W	楕 円 形	2.25 × [1.86]	17	緩斜	平坦	自然	縄文土器片	SK112→SK111
112	B5b8	N-80°-W	[円 形]	1.46 × [1.40]	14	緩斜	平坦	自然		SK112→SK111
113	B5c8	N-50°-W	楕 円 形	1.32 × 1.16	19	緩斜	平坦	自然		
116	B5a5	N-82°-E	楕 円 形	1.50 × 0.90	15	緩斜	平坦	自然		
117	B5b4	N-75°-E	楕 円 形	2.00 × 0.95	18	緩斜	平坦	自然		
118	B6a3	N-0°	円 形	1.00 × 0.96	25	緩斜	皿状	自然		
119	A6j2	N-0°	円 形	1.25 × 1.20	20	緩斜	皿状	自然		
120	A6j3	N-87°-E	楕 円 形	1.33 × 1.00	40	緩斜	皿状	自然		
121	A6j5	N-0°	楕 円 形	2.15 × 0.70	30	緩斜	皿状	自然		
122	B6b1	N-12°-E	楕 円 形	2.15 × 1.25	20	緩斜	平坦	自然	縄文土器片	
123	B5b0	N-0°	円 形	0.85 × 0.80	20	緩斜	皿状	自然		
124	B5b0	N-86°-W	不 定 形	1.65 × 0.70	18	緩斜	皿状	自然		
125	A5f5	N-78°-W	楕 円 形	1.40 × 0.77	15	緩斜	皿状	人為		
127	A5j4	N-71°-E	楕 円 形	2.00 × 1.46	15	緩斜	平坦	自然		
128	A5i4	N-87°-E	楕 円 形	1.15 × 1.00	25	緩斜	皿状	自然		
130	A5i1	N-40°-W	楕 円 形	2.50 × 1.55	20	緩斜	皿状	人為	縄文土器片	
131	A5i4	N-16°-E	楕 円 形	1.19 × 1.05	30	緩斜	皿状	自然		
135	A4g9	N-0°	円 形	1.60 × 1.52	15	緩斜	平坦	自然	土師器片	
136	A4h8	N-0°	円 形	1.40 × 1.28	17	緩斜	皿状	自然	縄文土器片, 土師器片	

土坑 番号	位 置	長径方向 (長軸方向)	平 面 形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
137	A5i4	N-53°-E	楕円形	1.53 × 1.08	25	緩斜	皿状	自然		
138	A5j8	N-17°-W	楕円形	1.42 × 1.04	25	緩斜	皿状	自然		
139	A6i2	N-80°-E	楕円形	2.17 × 0.63	25	緩斜	皿状	自然		
140	B5a2	N-69°-E	楕円形	1.17 × 0.83	23	緩斜	皿状	自然		
141	A5g3	N-0°	[円形]	[1.19] × [1.15]	18	緩斜	皿状	—		SK142と重複
142	A5g4	N-0°	円形	1.60 × [1.45]	12	緩斜	凹凸	—		SK141と重複
143	A2a5	N-60°-W	長方形	2.29 × 0.97	9	緩斜	凹凸	人為		
145	A3d0	N-88°-W	隅丸長方形	1.54 × 0.98	46	垂直	平坦	人為	縄文土器片	
146	B3f3	N-46°-E	楕円形	1.20 × 0.95	35	緩斜	皿状	自然		
147	B2e9	N-55°-W	楕円形	0.93 × 0.84	46	外傾	平坦	人為		SI3→SK147
148	B2g0	N-5°-W	楕円形	1.88 × 0.52	15	緩斜	皿状	自然		SK148→SI4
149	B2f6	N-80°-E	楕円形	2.00 × 1.58	24	緩斜	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片	
150	B2e5	N-80°-E	楕円形	1.85 × 1.27	24	緩斜	皿状	自然	縄文土器片, 土師器片	
151	B2e4	N-50°-E	楕円形	2.23 × 1.07	25	緩斜	皿状	自然	縄文土器片, 土師器片	
152	B2e3	N-20°-E	—	1.50 × (1.24)	45	緩斜	皿状	人為	縄文土器片, 土師器片	
153	B2d2	N-25°-E	楕円形	1.96 × 1.22	28	緩斜	平坦	自然	縄文土器片, 土師器(甕), 土師器片	SK195と重複
154	B2d1	N-68°-W	楕円形	1.40 × 1.22	22	緩斜	平坦	自然	縄文土器片, 土師器片, 玦状耳飾	
155	B1d0	N-54°-W	円形	1.32 × 1.28	21	緩斜	皿状	人為	縄文土器片, 石鏃	
156	B1c0	N-75°-E	長方形	1.34 × 0.94	29	緩斜	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片	SK164→SK156
157	B1c0	N-38°-E	円形	0.98 × 0.94	35	外傾	平坦	自然	縄文土器片, 土師器片	
158	B1c0	N-52°-E	円形	1.06 × 0.98	45	垂直	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片	
159	B1a9	N-0°	円形	0.97 × 0.94	15	緩斜	皿状	人為	縄文土器(深鉢), 縄文土器片	
160	B2c3	N-54°-E	楕円形	2.52 × 1.00	15	緩斜	平坦	自然	縄文土器(深鉢), 縄文土器片, 土師器片	
161	B1c3	N-34°-W	楕円形	1.24 × 1.04	25	外傾	平坦	自然	縄文土器片, 土師器片	
162	B2c3	N-57°-E	楕円形	1.83 × 0.66	17	緩斜	平坦	自然	土師器片, 礫	
163	B2d3	N-19°-E	楕円形	1.35 × 1.18	21	緩斜	平坦	人為	縄文土器片	
164	B1c0	N-6°-E	長方形	2.03 × 0.99	14	緩斜	皿状	自然	縄文土器片, 土師器片	SK164→SK156
165	B1a0	N-7°-E	楕円形	1.17 × 1.01	24	緩斜	皿状	自然	縄文土器片, 土師器片	
166	B1a0	N-0°	楕円形	1.11 × 1.00	25	緩斜	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片, 剥片	
167	B2b2	N-72°-E	楕円形	1.46 × 1.24	42	外傾	平坦	自然	縄文土器片, 土師器片, 剥片	
168	B2b1	N-14°-W	楕円形	1.45 × 1.13	18	外傾	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片	
169	B2a1	N-67°-W	楕円形	1.44 × 0.89	15	緩斜	皿状	人為	縄文土器片, 土師器片, 敲石	
170	B2e7	N-0°	円形	1.25 × 1.14	24	緩斜	皿状	人為	土師器片	
171	A2h1	N-0°	円形	0.80 × 0.70	25	緩斜	皿状	—	土師器片, 剥片	SK224と重複
172	B1a0	N-53°-E	楕円形	0.80 × 0.56	30	外傾	皿状	自然	縄文土器片, 土師器片	
173	B2d1	N-30°-E	[楕円形]	1.79 × [1.29]	20	緩斜	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片	
174	B2c1	N-31°-E	[円形]	[0.90] × 0.82	20	緩斜	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片	
175	A2g4	N-0°	円形	0.90 × 0.83	33	外傾	皿状	人為	縄文土器片	
176	A2f3	N-0°	円形	1.31 × 1.29	30	外傾	皿状	人為	縄文土器片, 土師器片	
177	A2h1	N-0°	円形	1.20 × 1.14	23	緩斜	平坦	人為	土師器片	
178A	A2g7	N-29°-E	楕円形	1.60 × 1.08	52	緩斜	平坦	自然	縄文土器片, 土師器片	SK178A→SK178B
178B	A2g7	N-29°-E	楕円形	1.03 × 0.84	24	緩斜	平坦	人為	縄文土器片, 土師器片	SK178A→SK178B
179	A2f9	N-0°	円形	1.03 × 1.01	15	緩斜	平坦	人為		
180	A3e1	N-0°	円形	1.22 × 1.15	26	緩斜	平坦	自然		
182	A3i1	N-80°-E	楕円形	1.78 × 1.34	37	緩斜	平坦	人為	陶器片(碗), 土師器片	
183	A3i2	N-75°-W	楕円形	1.35 × 0.70	30	緩斜	皿状	自然		
184	A2i8	N-72°-E	楕円形	1.57 × 1.05	15	緩斜	皿状	自然		
185	B2c0	N-0°	円形	0.74 × 0.72	58	外傾	U字状	自然	縄文土器片	
186	B2e1	N-50°-E	楕円形	0.94 × 0.75	25	緩斜	皿状	人為		
187	B3e1	N-15°-E	楕円形	0.84 × 0.75	25	緩斜	皿状	自然	土師器片	
188	B3e3	N-23°-W	楕円形	1.15 × 1.04	26	緩斜	皿状	自然		
190	B3g5	N-0°	円形	1.20 × 1.18	40	緩斜	皿状	自然		
191	B3d4	N-39°-W	不定形	1.61 × 1.10	35	緩斜	平坦	自然		
192	B3e5	N-58°-E	楕円形	1.75 × 1.30	35	緩斜	皿状	人為	陶器片(碗)	
193	B3a5	N-59°-W	楕円形	1.59 × 1.30	20	緩斜	平坦	自然		
194	A2d1	N-0°	円形	1.09 × 1.00	38	外傾	平坦	自然	縄文土器片, 土師器片	
195	B2d2	N-42°-W	[円形]	[1.57] × 1.50	19	外傾	平坦	自然	縄文土器片, 土師器片	SK153と重複
196	A2f9	N-80°-W	楕円形	0.96 × 0.83	20	緩斜	皿状	人為		

土坑 番号	位 置	長径方向 (長軸方向)	平 面 形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
197	A2f9	N-84°-E	楕円形	1.53 × 0.81	20	緩斜	凹凸	人為	土師器片	
198	A2f9	N-75°-W	円形	1.13 × 1.04	40	緩斜	皿状	自然		
199	A3i0	N-30°-E	楕円形	2.09 × 0.84	15	緩斜	皿状	人為		
200	A4i1	N-0°	円形	0.80 × 0.75	26	緩斜	皿状	人為		
201	A2f2	N-86°-E	楕円形	1.61 × 1.03	24	緩斜	皿状	自然	土師器片	
202	A2e6	N-0°	円形	1.37 × 1.35	88	外傾	平坦	自然	縄文土器片, 土師器片, 陶器片(播鉢)	
203	A2e8	N-0°	円形	1.42 × 1.40	105	外傾	平坦	人為	土師器片, 剥片	
204	A2e7	N-14°-E	楕円形	1.51 × 0.98	21	外傾	平坦	自然	縄文土器片, 土師器片	
205	A2f5	N-8°-E	楕円形	1.09 × 0.96	18	緩斜	平坦	自然	磨石, 剥片	
206	A3d4	N-50°-E	[楕円形]	[2.23] × 1.48	100	外傾	凹凸	自然		SK206→SD5
207	A2g5	N-38°-W	楕円形	2.04 × 1.43	23	緩斜	平坦	自然	縄文土器片, 土師器片	
208	B4b1	N-7°-W	不整楕円形	2.20 × 1.55	18	緩斜	皿状	自然		
209	A4i2	N-57°-E	隅丸長方形	1.24 × 1.07	25	緩斜	平坦	自然		
210	B4d1	N-36°-W	楕円形	3.43 × 2.28	32	緩斜	平坦	自然	縄文土器片, 土師器片, 石鏃	SK210→SD2
211	B3f0	N-86°-W	[楕円形]	1.58 × [1.43]	38	緩斜	皿状	自然		SK211→SD1
212	B4f2	N-0°	円形	1.46 × 1.38	30	緩斜	平坦	自然		
213	B4f3	N-40°-W	円形	0.99 × 0.93	28	緩斜	平坦	自然		
214	B4f4	N-75°-E	楕円形	1.41 × 1.02	20	緩斜	皿状	自然		
215	B4c3	N-0°	円形	1.85 × 1.77	40	緩斜	皿状	自然		
216	B4e6	N-77°-E	楕円形	2.24 × 1.40	28	緩斜	平坦	人為		
217	B4a5	N-0°	円形	0.90 × 0.86	20	緩斜	皿状	自然		
218	A3j7	N-28°-W	楕円形	1.88 × 1.11	20	外傾	平坦	自然		
219	B4d0	N-15°-E	楕円形	0.88 × 0.78	25	緩斜	皿状	自然		
220	B5g1	N-0°	円形	0.88 × 0.79	38	緩斜	皿状	自然		
221	B5g2	N-63°-E	隅丸長方形	3.40 × 1.75	36	緩斜	平坦	自然		
222	A2e7	N-82°-W	楕円形	0.66 × 0.58	[44]	垂直	皿状	人為		
223	A1f0	N-46°-W	楕円形	2.35 × 1.93	31	緩斜	平坦	人為	縄文土器(深鉢), 縄文土器片, 土師器片, 剥片	
224	A1f0	N-4°-W	長楕円形	6.40 × 1.80	68	外傾	平坦	人為	障壁材(耐火煉瓦, 焼台破片)	SK171→SK224
225	B2b1	N-45°-E	隅丸長方形	2.40 × 1.75	32	外傾	平坦	人為	窯壁材(耐火煉瓦, 焼台破片)	
226	A2e3	N-0°	不整楕円形	2.30 × 1.25	32	外傾	凹凸	人為	陶器(德利), 窯道具(焼台破片)	

4 溝

当遺跡からは、溝5条が検出されている。ここでは、溝の形状、規模、覆土の状態及び出土遺物等について記載する。

第1号溝 (付図1 第86図)

位置 調査区中央部, A3d4~B4h1区。第2号溝と約4mを隔てて平行に延びている。

重複関係 本跡がB3a7区で第211号土坑を掘り込んでおり、本跡の方が新しい。

規模と形状 A3d4区からB4h1区まで直線状に延びている。上幅0.50~0.83m, 下幅

0.20~0.25m, 深さは30~50cmで、確認長約63.0mである。断面形はU字状である。

底面は平坦で、壁面は緩やかに外傾して立ち上がる。

主軸方向 N-25°-W

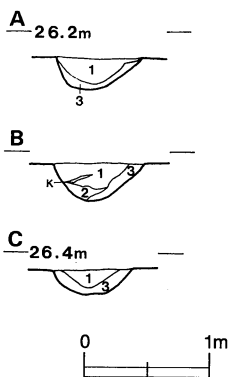
覆土 3層からなり、自然堆積と考えられる。全体にローム粒子が含まれ、下層は特に粘性が強い。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|-------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・黒色粒子極微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子微量 | | |

遺物 出土していない。

所見 本跡は、第2号溝とともに第1号道路跡の側溝として機能していたものと思われる。遺物はなく、時期は不明である。



第86号 第1号溝断面
実測図

第2号溝 (付図1・第87図)

位置 調査区中央部, A3d5~B4h2区。第1号溝と約4mを隔てて平行に延びている。

重複関係 本跡が, B3d0区で第210号土坑を掘り込んでおり, 本跡の方が新しい。

規模と形状 A3d5区からB4h2区に直線状に延びている。上幅0.50~0.72m, 下幅0.18~0.30m, 深さは30~53cmで, 確認長約60.0mである。断面形はU字状である。底面は平坦で, 壁面は緩やかに外傾して立ち上がる。

主軸方向 N-25°-W

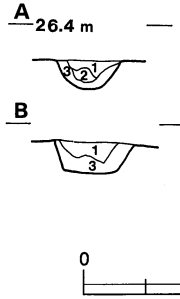
覆土 3層からなり, 自然堆積と考えられる。第1号溝と同様の覆土である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム中ブロック少量, ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・黒色粒子極微量

遺物 出土していない。

所見 本跡は, 第1号溝とともに第1号道路跡の側溝として機能していたものと思われる。遺物はなく, 時期は不明である。



第87図 第2号溝断面実測図

第3号溝 (付図1・第88図)

位置 調査区中央部, A3c1~A3g4区。

規模と形状 A3c1区からA3g4区まで直線状に延びている。上幅0.45~2.00m, 下幅0.30~1.80m, 深さは15~25cmで, 確認長約24.0mである。断面形は逆台形である。壁面は, 緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦で, 北部寄りにはV字状である。

主軸方向 N-25°-W

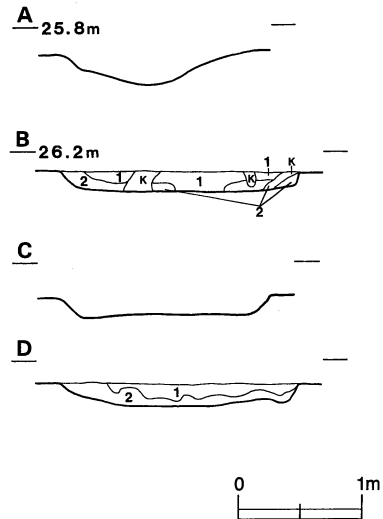
覆土 2層からなり, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック・粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量

遺物 縄文土器片3点, 土師器片43点が出土している。いずれも細片であり, 流れ込みと考えられる。

所見 本跡の時期は不明である。覆土第2層に硬質のロームブロックが連続して含まれているので, 道路跡の可能性もある。



第88図 第3号溝断面実測図

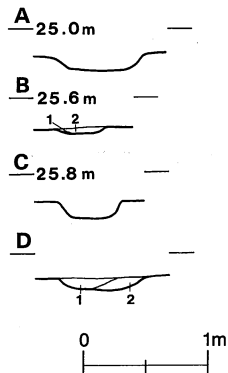
第4号溝 (付図1・第89図)

位置 調査区北西部, A2a2区~A1j0区。

規模と形状 A2a2区から南東方向に延び, A2d2区から南西方向へ緩やかに湾曲し, A1j0区まで延びている。上幅0.43~0.70m, 下幅0.20~0.50m, 深さは20~30cmで, 確認長約36.0mである。断面形は弧状である。底面は平坦で, 壁面は緩やかに外傾して立ち上がる。

主軸方向 N-15°-E

覆土 2層からなり, 自然堆積と考えられる。



第89図 第4号溝断面実測図

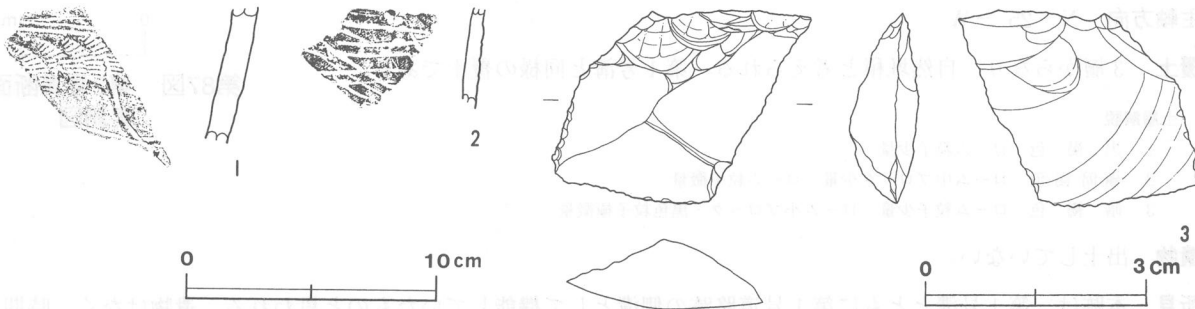
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

2 極暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

遺物 第90図1・2を含む縄文土器片8点, 土師器片10点, 3の削器が出土している。土器片はいずれも細片であり, 削器も含め流れ込みと考えられる。

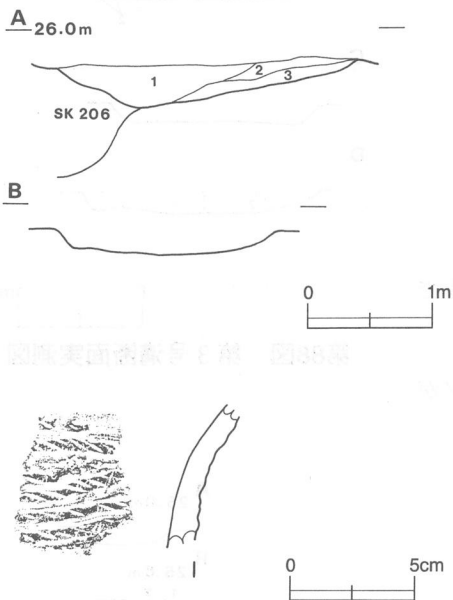
所見 本跡の時期は不明である。A1h0区, A1i0区, A2c2区, A2d2区に, 断続的にまとまりをもって硬質のロームブロックが含まれているので, 道路跡の可能性もある。



第90図 第4号溝出土遺物実測図

第4号溝出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第90図3	削器	2.6	3.4	0.9	5.6	チャート	覆土	Q12 PL64



第91図 第5号溝断面・出土遺物実測図

第5号溝 (付図1・第91図)

位置 調査区北部, A3c5区~A3e5区。

重複関係 本跡が, A3c5区で第206号土坑を掘り込んでおり, 本跡の方が新しい。

規模と形状 A3c5区から南東方向へ向かい, A3e5区まで延びている。上幅1.47~2.20m, 下幅1.22~1.75m, 深さは15~20cmで, 確認長約7.0mである。断面形は弧状である。底面は平坦で, 壁面は, 緩やかに外傾して立ち上がる。

主軸方向 N-25°-W

覆土 3層からなり, 自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

3 黒褐色 ローム粒子少量

2 黒褐色 ローム粒子微量

遺物 第91図1を含む縄文土器片3点, 陶器片1点が出土している。いずれも細片であり, 流れ込みと考えられる。

所見 本跡の時期は不明である。

第4・5号溝出土遺物観察表

図版番号	遺構名	器形及び文様の特徵	備考
第90図1・2	第4号溝	胴部片。ともに半截竹管状工具による平行沈線が施され, 1には貝殻腹縁による狭間隔な条痕文が施されている。	TP73・74 PL58
第91図1	第5号溝	胴部片。平行に浮線文が施されている。	TP75 PL58

表5 寺山遺跡溝一覧表

溝番号	位置	方向	断面	規模				壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				確認長(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
1	A3d4~B4h1	N-25°-W	U字状	(62.8)	0.50~0.83	0.20~0.25	30~50	緩斜	平坦	自然		SK211→SD 1
2	A3d5~B4h2	N-25°-W	U字状	(59.9)	0.50~0.72	0.18~0.30	30~53	緩斜	平坦	自然		SK210→SD 2
3	A3c1~A3g4	N-25°-W	逆台形	(24.2)	0.45~2.00	0.30~1.80	15~25	緩斜	平坦	自然	縄文土器片, 土師器片	道路状遺構?
4	A2a2~A1j0	N-15°-E	V字状	(35.6)	0.43~0.70	0.20~0.50	20~30	緩斜	平坦	自然	縄文土器片, 土師器片, 削器	道路状遺構?
5	A3c5~A3e5	N-25°-W	弧状	(7.2)	1.47~2.20	1.22~1.75	15~20	緩斜	平坦	自然	縄文土器片, 陶器片	SK206→SD 5

5 道路跡

当遺跡からは、道路跡2条が検出されている。以下、検出された道路跡について記載する。

第1号道路跡 (付図1)

位置 調査区中央部, A3d4~B4h2区。

重複関係 本跡は、第5号溝, 第206・210・211号土坑と重複している。第1・2号溝は本跡の側溝の役割を果たしていたと考えられる。第1・2号溝が本跡の側溝とすれば、第210号土坑の覆土を第2号溝が、第211号土坑の覆土を第1号溝がそれぞれ掘り込んでいるので、本跡が新しい。第206号土坑, 第5号溝との重複関係は不明である。

規模と形状 調査できた範囲で長さ59.7m, 幅2.8~3.2mである。

主軸方向 N-25°-W

方向 調査区北西部から南方向に、南北方向に検出され、調査区外に延びている。

所見 本跡は、両側に側溝を伴う道路として利用されたものと思われる。遺物はなく、時期は不明である。

第2号道路跡 (付図1・第92図)

位置 調査区西部, A2a2~A2f2区。

規模と形状 調査できた範囲で長さ19.9m, 上幅0.80~1.35m, 下幅0.40~0.80m, 深さは40~60cmである。断面形は弧状である。遺構の北部, 中央部, 南部のそれぞれ底面に、長さ約2~4mのまとまりとして硬化面を検出している。

主軸方向 N-0°

覆土 3層からなり、自然堆積と考えられる。

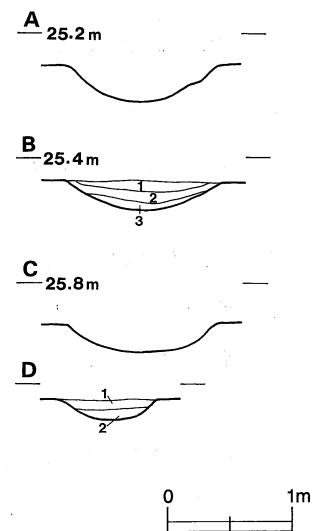
土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

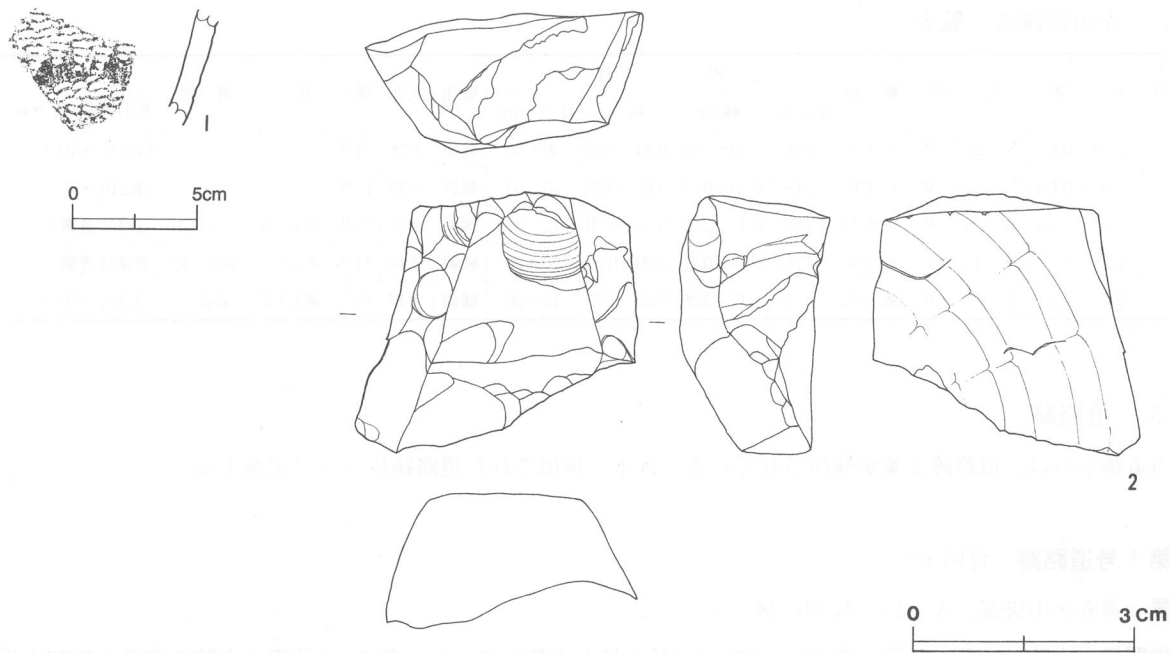
遺物 流れ込みと思われる、第93図1を含む縄文土器片23点と土師器片31点, 2の石核1点が出土している。

所見 本跡は、底面に硬化面があり、道路として利用されたものと思われる。

時期は不明である。



第92図 第2号道路跡断面実測図



第93図 第2号道路跡出土遺物実測図

第2号道路跡出土遺物観察表

図版番号	遺構名	器形及び文様の特徴	備考
第93図1	第2号道路跡	胴部片。狭間隔に貝殻腹縁で条痕文が施されている。	TP76 PL58

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第93図2	石核	3.5	3.6	2.0	20.0	チャート	覆土	Q13 PL64

表6 寺山遺跡道路跡一覧表

道路跡番号	位置	方向	断面	規模				壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				確認長(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
1	A3d4~B4h2	N-25°-W	—	(59.7)	2.80~3.20	—	—	—	—	—	—	SK210・211→SF1
2	A2a2~A2f2	N-0°	弧状	(19.9)	0.80~1.35	0.40~0.80	40~60	緩斜	平坦	自然	縄文土器片, 土師器片, 石核	

6 集石遺構

当遺跡からは、集石遺構7か所が検出されている。以下、検出された集石遺構について記載する。

第1号集石遺構 (第94・96図)

位置 調査区南西部, B1c9・B1c0・B1d9・B1d0区。

重複関係 本跡は, B1c9区で第161号土坑と, B1c0区で第159号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模 表土除去後の遺構確認面に, 礫の散乱したような広がりを検出した。確認範囲は長径約8m, 短径約5mで, 平面形がほぼ楕円形を呈している。

遺物 礫が132点, 第99図1~4を含む縄文土器片29点, 16の石鏃を含む石器6点が出土している。礫は, 115点に焼けた痕跡がある。

所見 多量の焼けた礫と縄文時代中期の土器片を検出しているので, 縄文時代中期の調理場遺構と考えられる。

第2号集石遺構（第94・96図）

位置 調査区南西部，B1b9・B2b1・B2c1区。

重複関係 本跡は，B1b9区で第168号土坑と重複している。新旧関係は不明である。

規模 表土除去後の遺構確認面に，礫の散乱したような広がりを検出した。確認範囲は長径約7m，短径約6mで，平面形がほぼ楕円形を呈している。

遺物 礫86点，第99図5を含む縄文土器片20点が出土している。礫は，81点に焼けた痕跡がある。

所見 多量の焼けた礫と縄文時代前期の土器片を検出しているので，縄文時代前期の調理場遺構と考えられる。

第2号集石遺構内石囲炉跡（第94・96図）

位置 調査区南西部，B2a1・B2b1区。

規模 表土除去後の遺構確認面に，礫の円形状の広がりを検出した。確認範囲は長径約25cm，短径約13cmで，平面形が楕円形を呈している。

炉 1か所。深さ40cmで，覆土は1層である。

炉土層解説

1 極暗褐色 炭化物少量，焼土粒子微量，ローム粒子極微量

遺物 炉を囲う礫10点，炉跡の南東側に礫12点が出土している。いずれの礫にも焼けた痕跡がある。

所見 石囲炉跡とその周辺に焼けた礫を検出しており，第2号集石遺構とほぼ同時期である炉を伴った調理場遺構と思われる。

第3号集石遺構（第95・97図）

位置 調査区南西部，A2e3・A2e4・A2e5・A2f3・A2f4・A2f5・A2g5区。

規模 表土除去後の遺構確認面に，礫の散乱したような広がりを検出した。確認範囲は長径約11m，短径約11mで，平面形は不整楕円形を呈している。

遺物 礫201点，石器1点，第99図6・7を含む多量の縄文土器片が出土している。礫は，152点に焼けた痕跡がある。

所見 多量の焼けた礫と縄文時代前期の土器片を検出しているので，縄文時代前期の調理場遺構と思われる。

第4号集石遺構（第95・97図）

位置 調査区南西部，A2c2・A2c3・A2d1・A2d2・A2d3区。

規模 表土除去後の遺構確認面に，礫の散乱したような広がりを検出した。確認範囲は長径約7m，短径約5mで，平面形はほぼ楕円形を呈している。

遺物 礫64点，石器1点，第99図8～11を含む多量の縄文土器片が出土している。礫は，58点に焼けた痕跡がある。

所見 多量の焼けた礫と縄文時代前期の土器片を検出しているので，縄文時代前期の調理場遺構と思われる。

第5号集石遺構（第94・96図）

位置 調査区南西部，B1c9・B1c0区。

規模 表土除去後の遺構確認面に，礫の散乱したような広がりを検出した。確認範囲は径約3mで，平面形は

ほぼ円形を呈している。

遺物 礫22点，縄文土器片7点が出土している。礫は，21点に焼けた痕跡がある。

所見 多量の焼けた礫と縄文時代前期の土器片を検出しているので，縄文時代前期の調理場遺構と思われる。

第6号集石遺構 (第95・98図)

位置 調査区西部，A2f8・A2f9・A2f0・A2g8・A2g9・A2g0区。

重複関係 本跡は，A2f9区で第179・196・197・198号土坑と重複している。新旧関係は不明である。

規模 表土除去後の遺構確認面に，礫の散乱したような広がりを検出した。確認範囲は長径約5m，短径約4mで，平面形はほぼ楕円形を呈している。

遺物 礫117点，第99図12を含む縄文土器片5点，石器1点が出土している。礫は，104点に焼けた痕跡がある。

所見 多量の焼けた礫と縄文時代前期の土器片を検出しているので，縄文時代前期の調理場遺構と思われる。

第7号集石遺構 (第94・98図)

位置 調査区南部，B2d4・B2d5・B2e4・B2e5区。

重複関係 本跡は，B2e4区で第151号土坑と重複している。新旧関係は不明である。

規模 表土除去後の遺構確認面に，礫の散乱したような広がりを検出した。確認範囲は長径約8m，短径約6mで，平面形はほぼ楕円形を呈している。

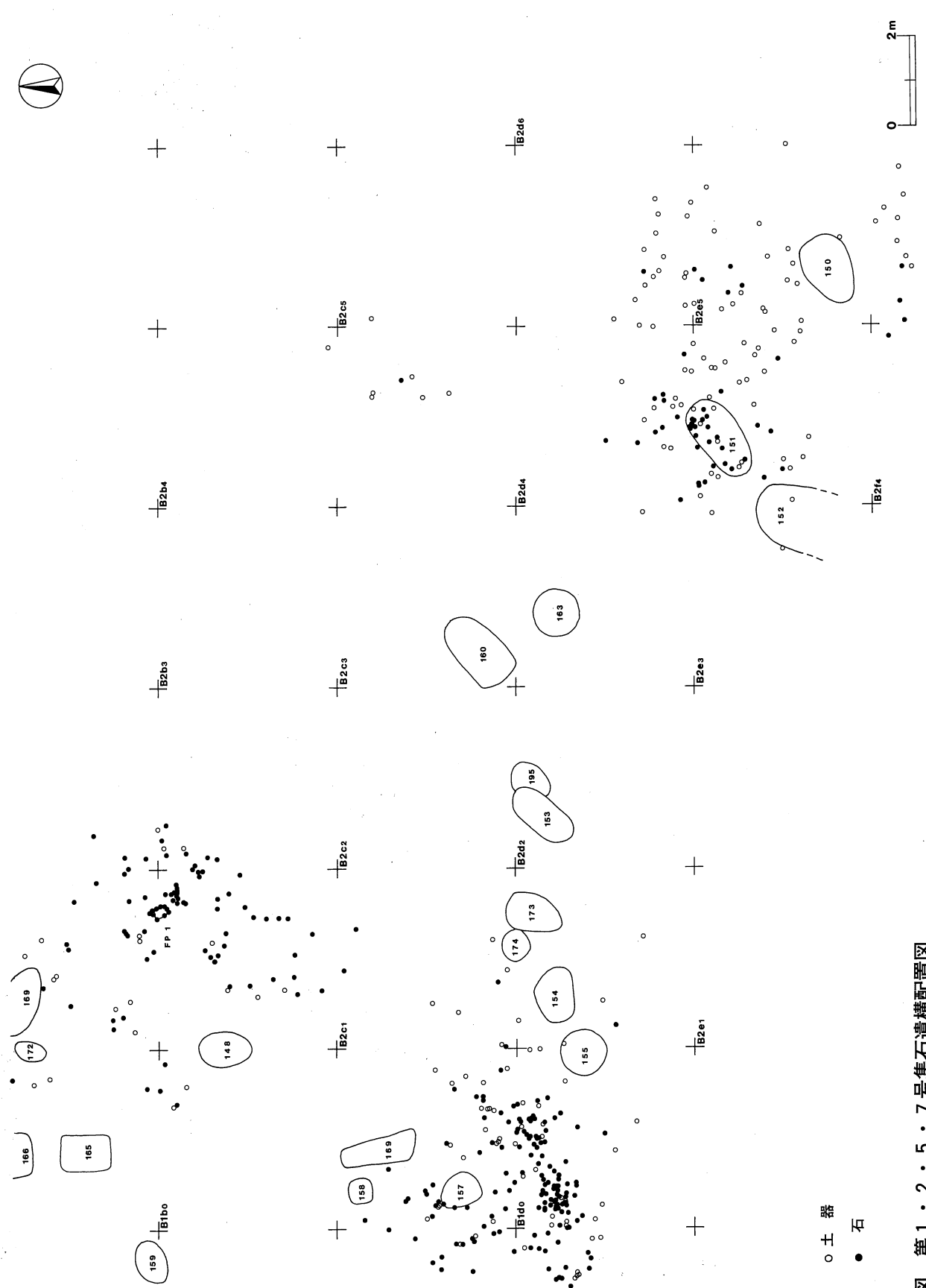
遺物 礫44点と，第99図13～15を含む多量の縄文土器片が出土している。礫は，31点に焼けた痕跡がある。

所見 多量の焼けた礫と縄文時代前期の土器片を検出しているので，縄文時代前期の調理場遺構と思われる。

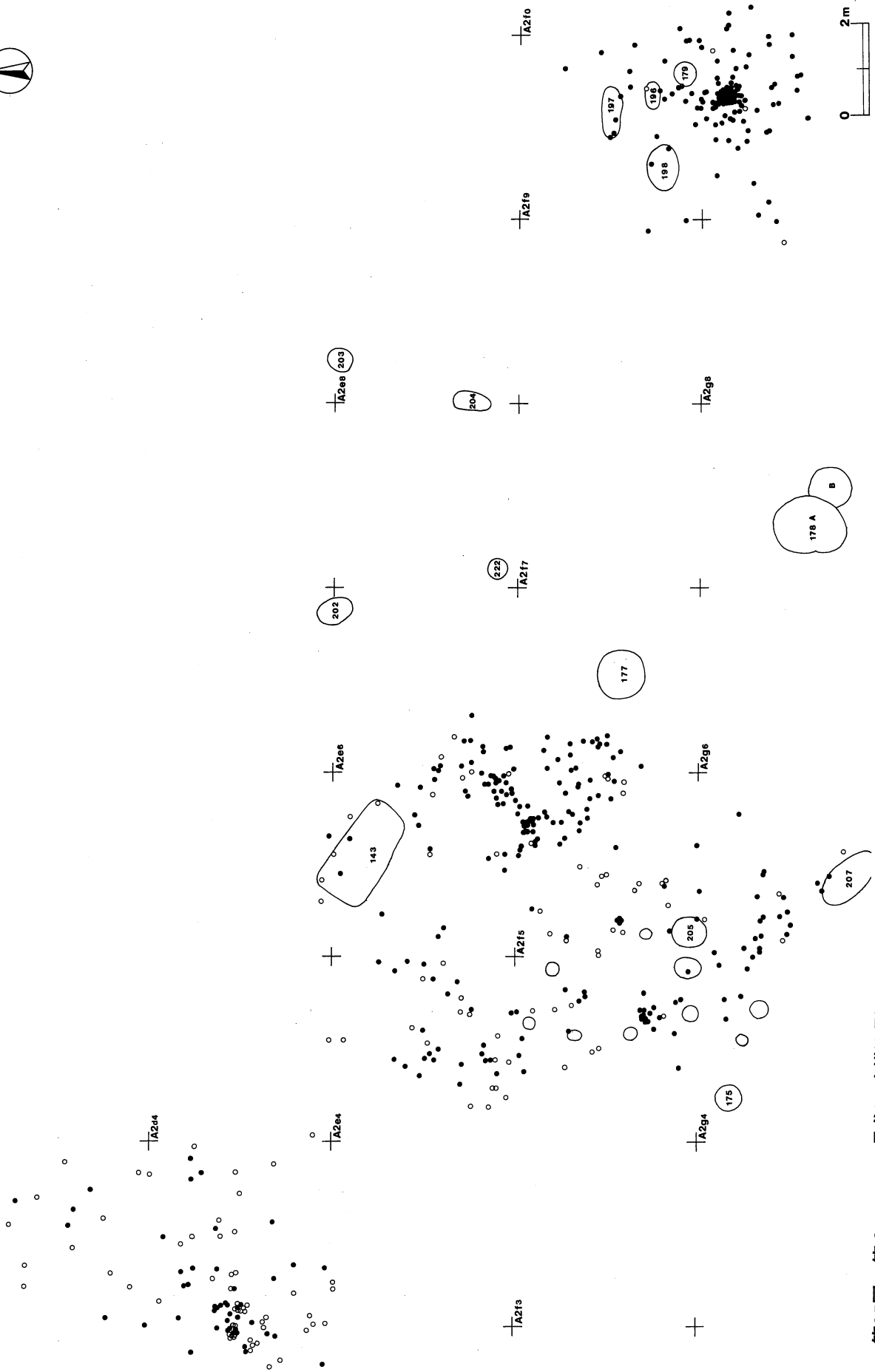
第1～4・6・7号集石遺構出土遺物観察表

図版番号	遺構名	器形及び文様の特徵	備考
第99図1・2	第1号集石遺構	口縁部片。口唇部に押圧文を伴う隆帯が巡り，その下に半截竹管状工具による平行沈線が施されている。	TP88・89 PL59
3・4		3は口縁部片。4は胴部片。ともにLRの単節縄文が施されている。	TP90・91 PL59
第99図5	第2号集石遺構	胴部片。半截竹管状工具による刺突文が施されている。	TP93 PL59
第99図6・7	第3号集石遺構	胴部片。狭間隔に貝殻腹縁で条痕文が施されている。	TP94・95 PL59
第99図8	第4号集石遺構	口縁部片。口唇部は条線帯をもち，その下に半截竹管状工具により変形爪形文のような押引文が施されている。	TP97 PL59
9		胴部片。半截竹管状工具による平行沈線が施されている。	TP98 PL59
10		胴部片。狭間隔に貝殻腹縁で条痕文が施されている。	TP99 PL59
11		胴部片。LRの単節縄文が施されている。	TP100 PL59
第99図12	第6号集石遺構	胴部片。半截竹管状工具による平行沈線が施されている。	TP101 PL59
第99図13	第7号集石遺構	口縁部片。撚糸文を地文とし，口唇部直下に半截竹管状工具による結節平行沈線が巡らせている。口縁部には半截竹管状工具による平行沈線が施されている。	TP102 PL59
14		胴部片。半截竹管状工具による平行沈線と爪形文が施されている。	TP103 PL59
15		胴部片。撚糸文が施されている。	TP104 PL59

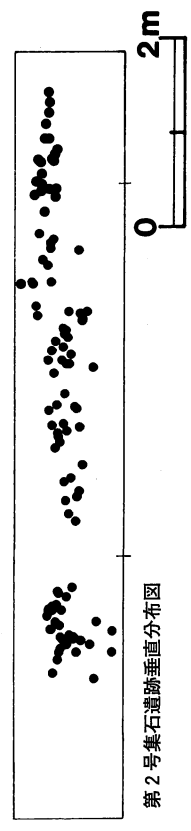
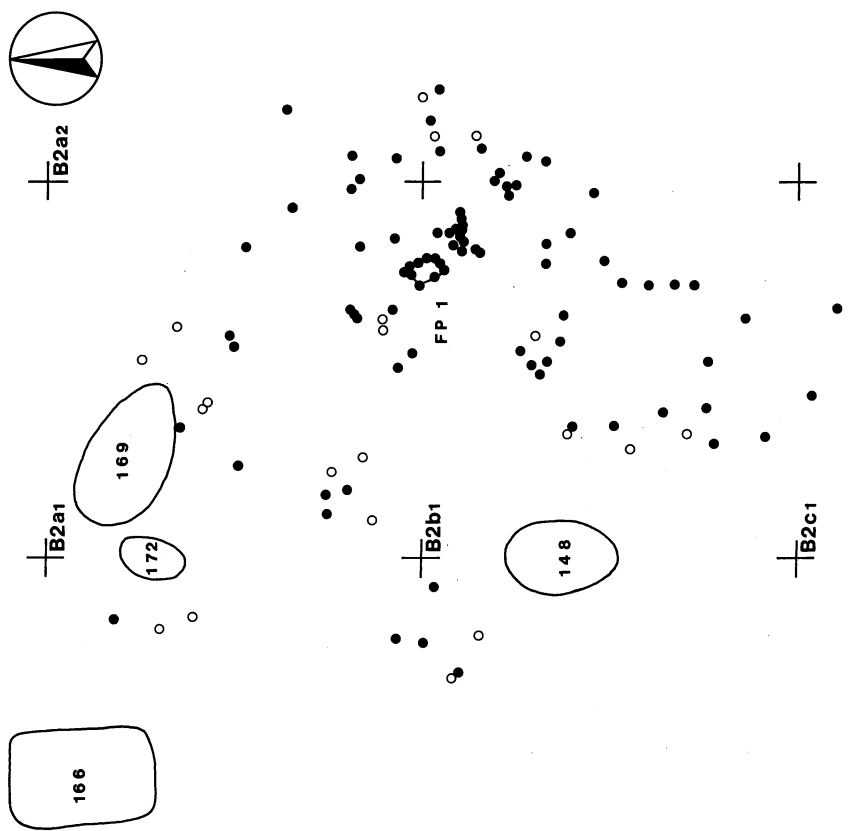
図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第99図16	石鏃	3.0	1.8	0.3	1.4	安山岩	確認面	Q14 PL63



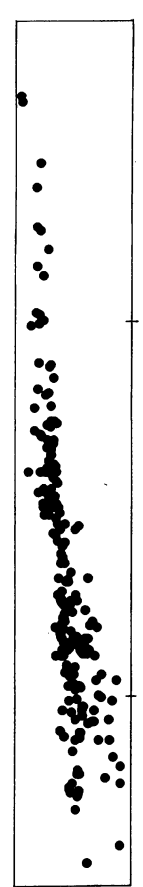
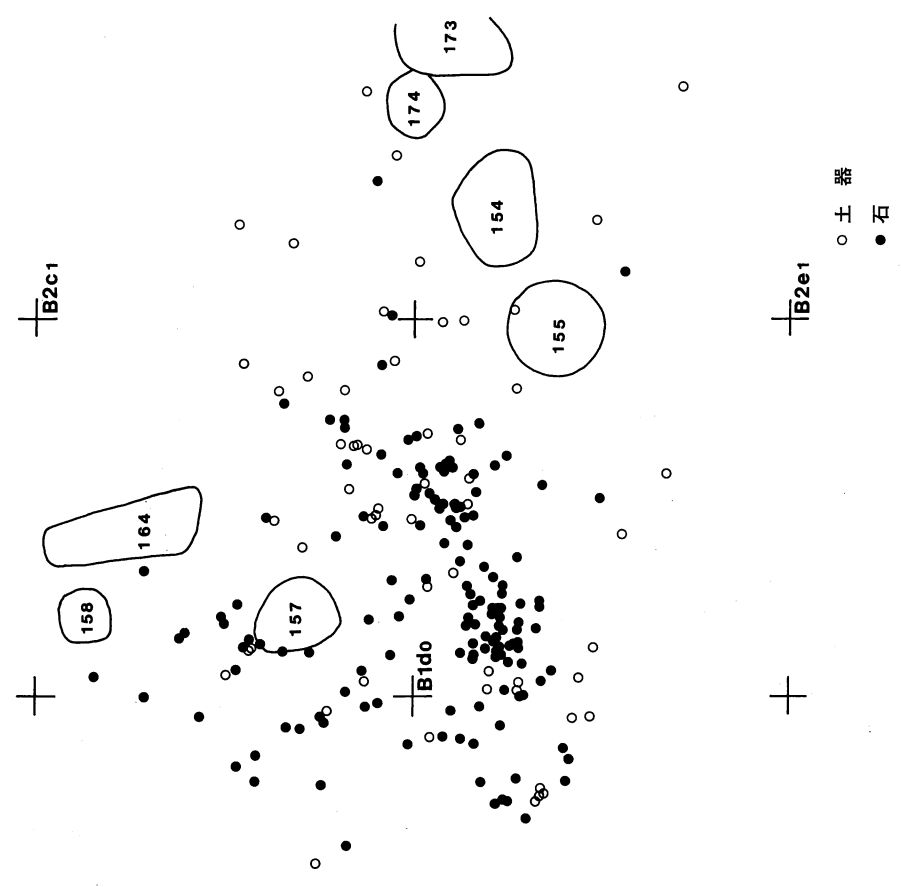
第94图 第1・2・5・7号集石遺構配置図



第95図 第3・4・6号集石遺構配置図



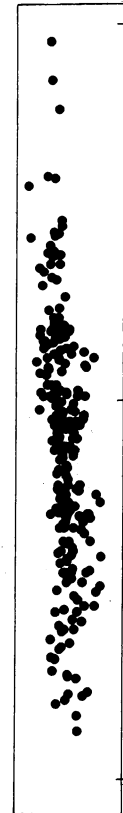
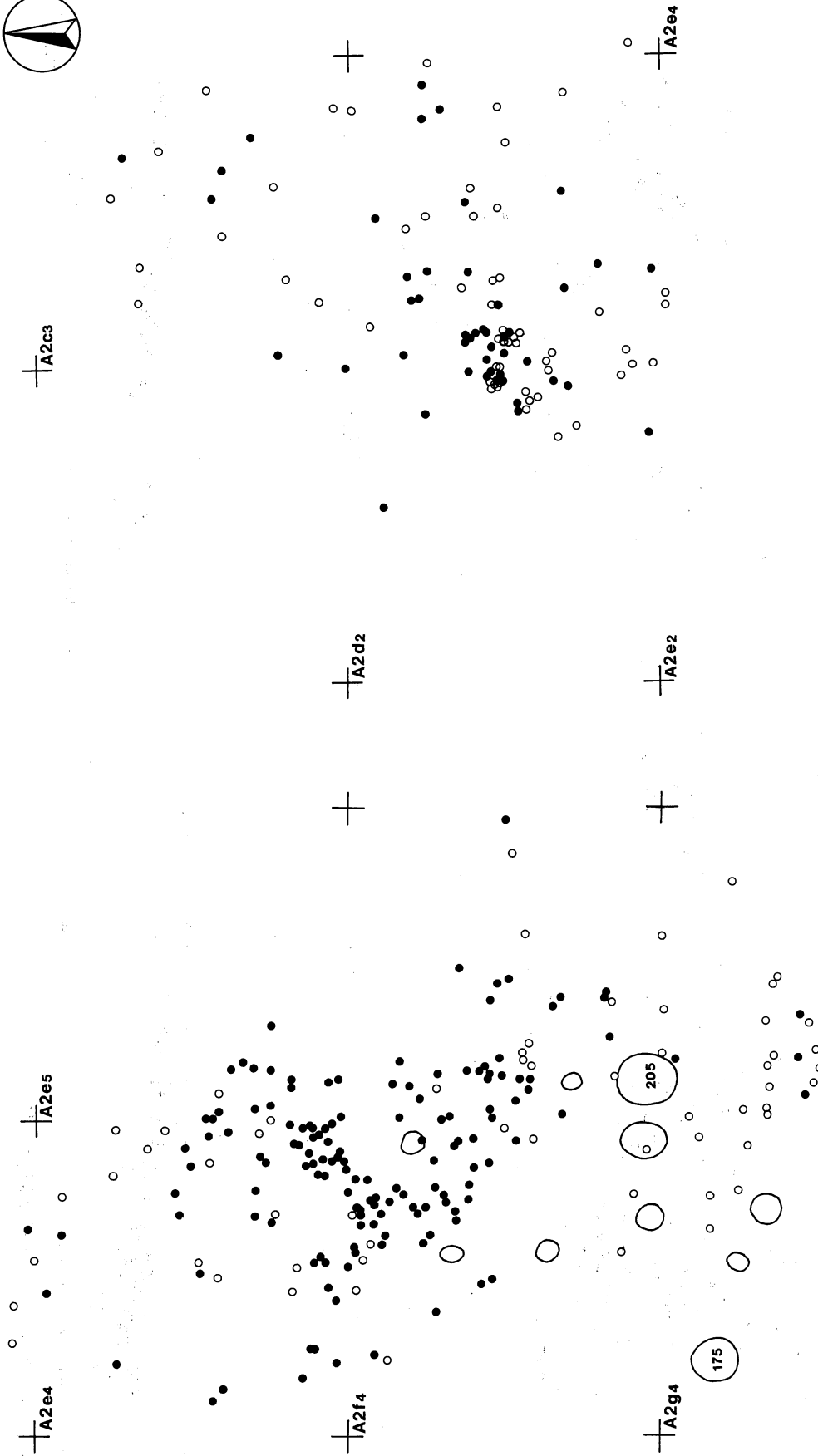
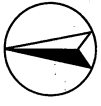
第2号集石遺跡垂直分布図



●土器・石

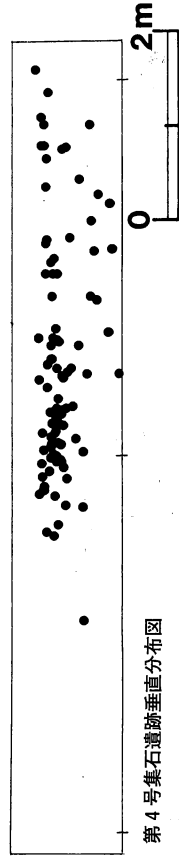
第1・5号集石遺跡垂直分布図

第96図 第1・2・5号集石遺構実測図

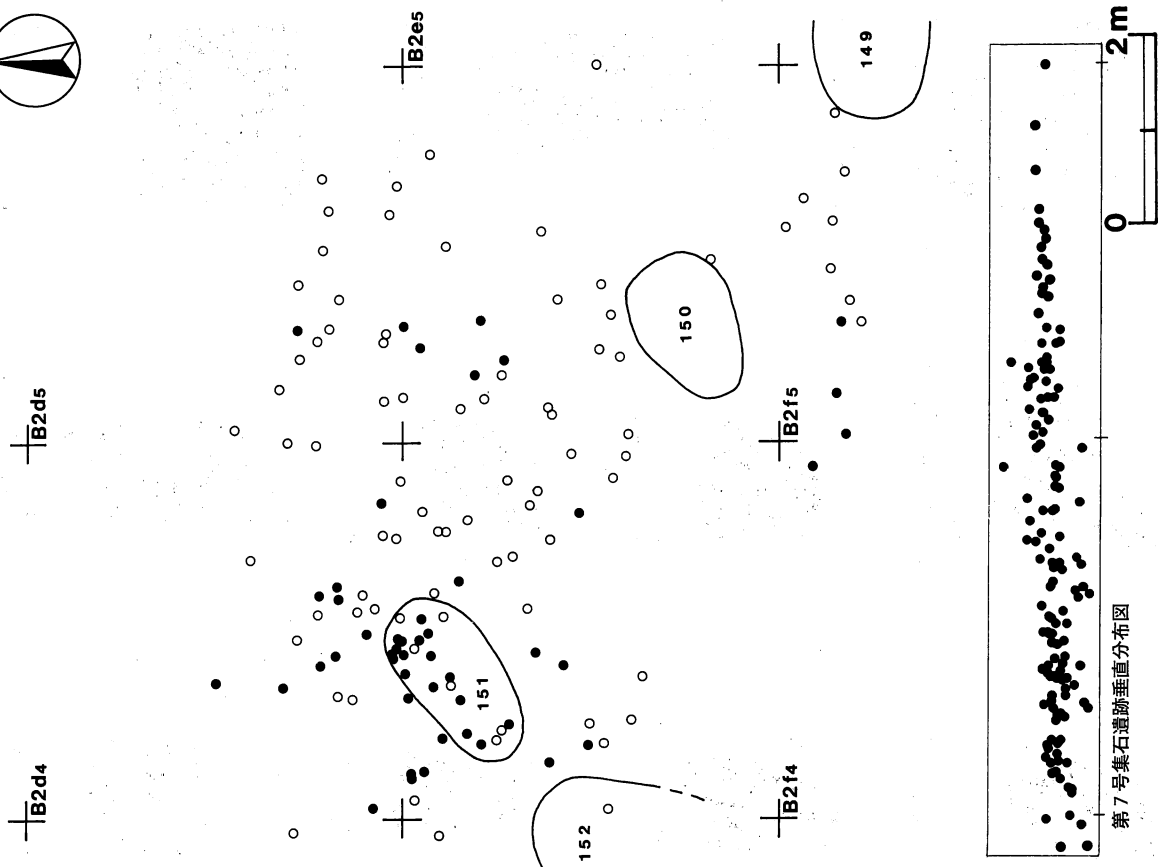
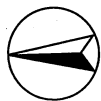


第3号集石遺跡垂直分布図

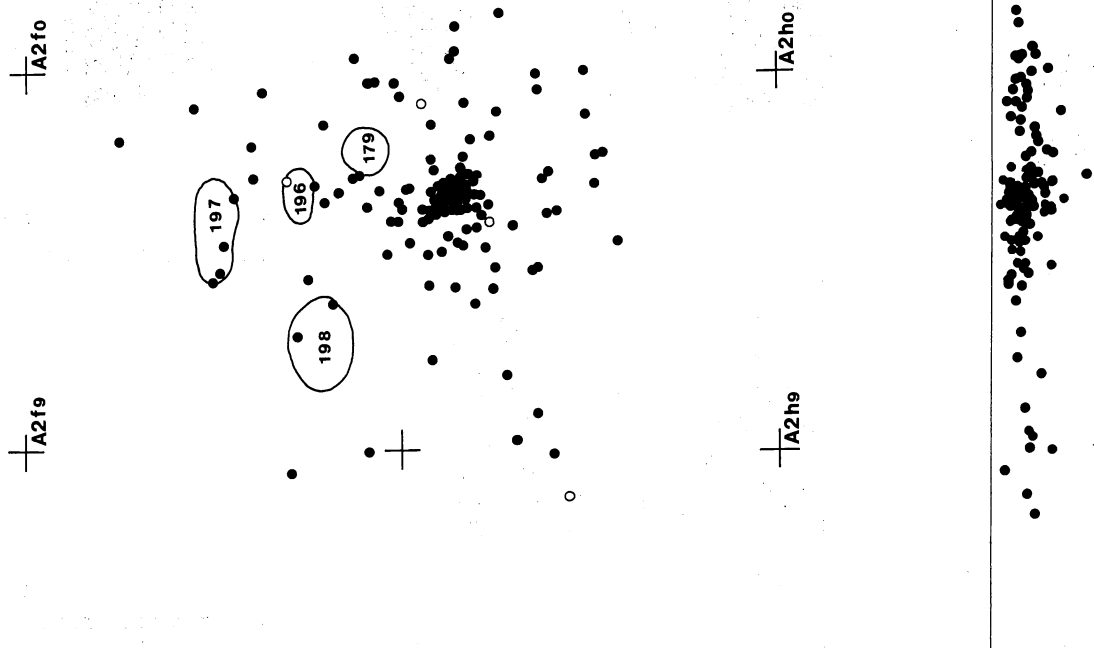
第97図 第3・4号集石遺構実測図



第4号集石遺跡垂直分布図

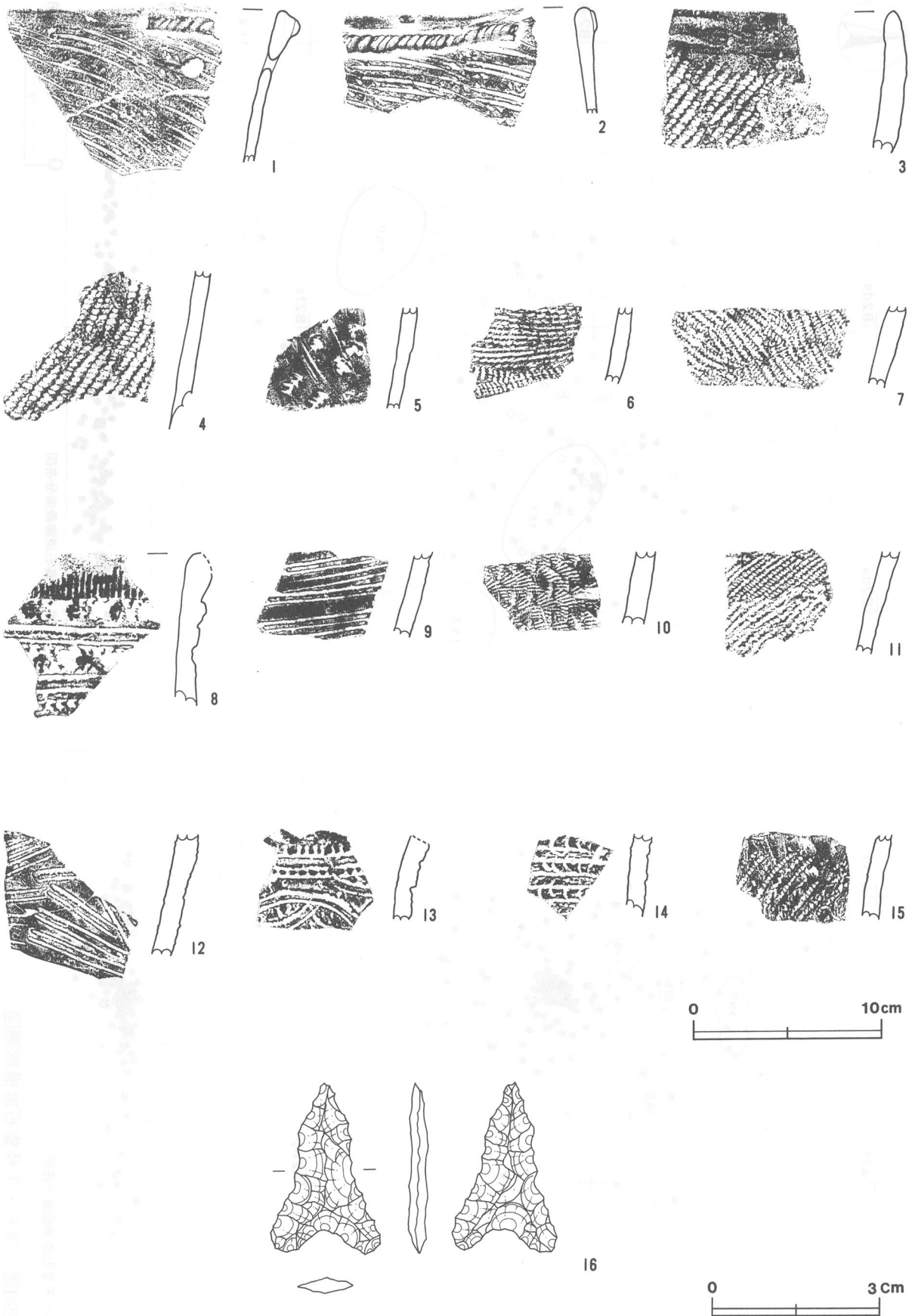


第7号集石遺跡垂直分布図



第6号集石遺跡垂直分布図

第98図 第6・7号集石遺構実測図



第99图 第1~4·6·7号集石遺構出土遺物実測図

7 窯跡

当遺跡からは、窯跡1か所、窯跡に関連する土坑3基が検出されている。以下、検出された遺構と遺物について記載する。

第1号窯跡（第100・101図）

位置 調査区北西部，A2c5区。

規模と平面形 長軸4.12m，短軸3.55mの長方形である。窯の長軸が主軸となっており，主軸線上に，東壁側から西壁側に向かって，焚口部，燃焼室，煙道部が連続する。

主軸方向 N-88°-E

壁 壁はほとんど削平され，全容は不明であるが，残存部分で15cmほどほぼ垂直に立ち上がっている。壁面は粘土により構築されていたものと思われる。

焚口部 東側壁面中央部を掘りくぼめて構築されており，遺存長0.75m，最大幅1.00m，深さ0.66mである。

燃焼部 東側壁面から中央部寄りに，底面を掘りくぼめ，焼台を補強材として使用して構築されている。遺存長1.10m，最大幅0.90m，深さ1.10mである。

焼成部 中央の煙道部を挟んだ，平場状に粘土を貼った床面部分が焼成室と考えられる。

煙道部 燃焼室中央部から，西側壁面方向に向かって25度の傾斜で立ち上がる。床面から上部については不明である。

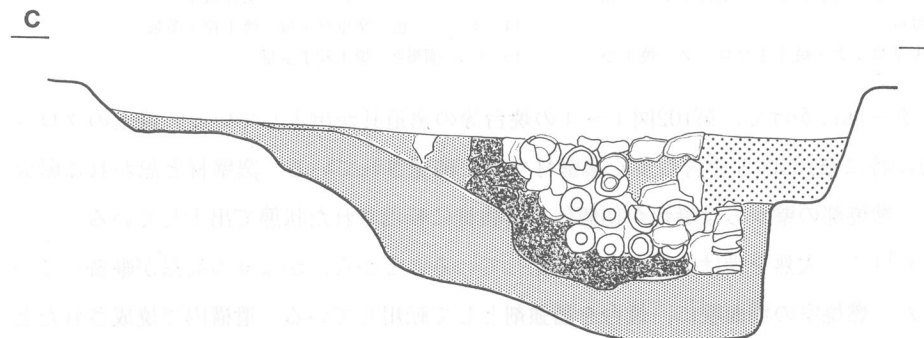
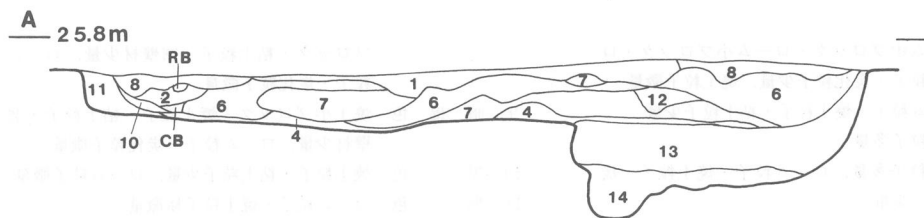
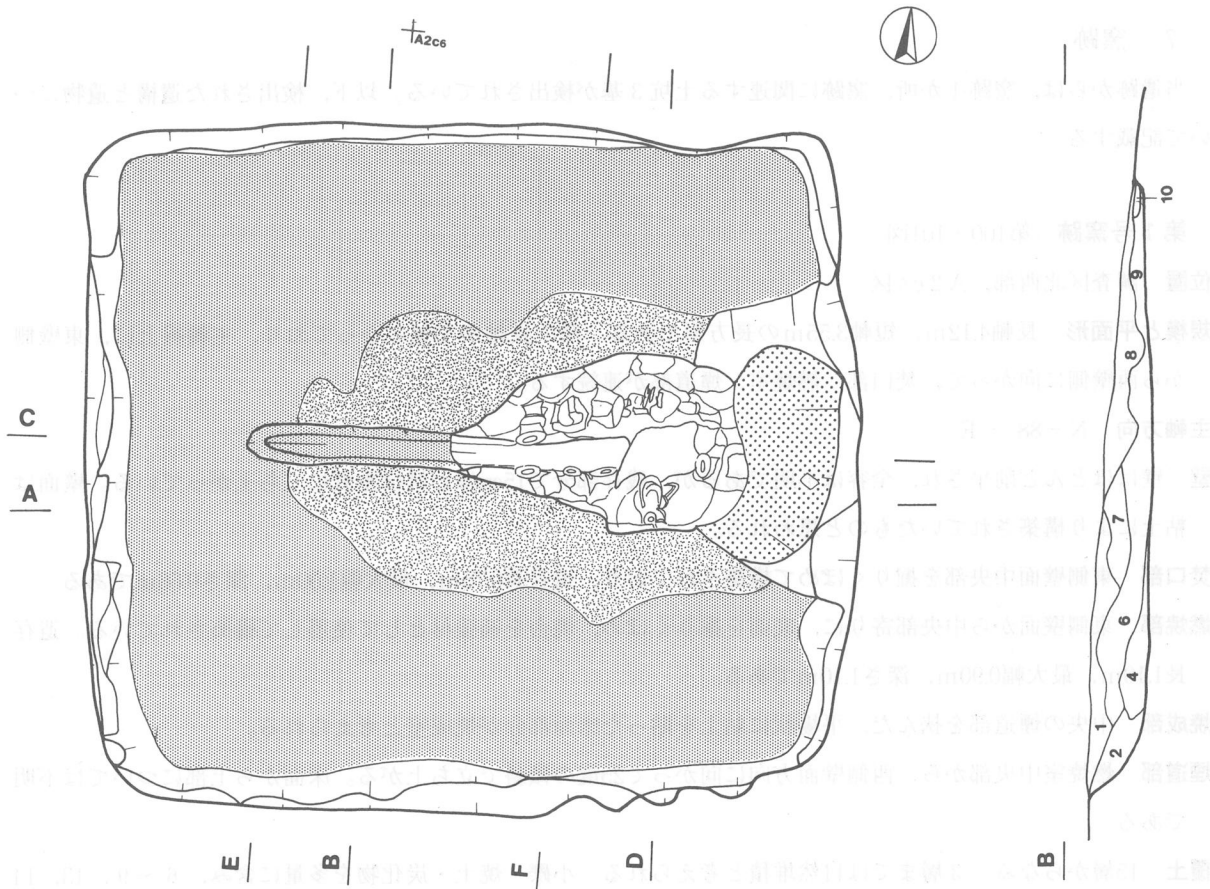
覆土 15層からなる。3層までは自然堆積と考えられる。小礫・焼土・炭化物を多量に含み，6～9，13，14層には窯壁材も含まれている。

土層解説

1	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量	9	暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・窯壁材少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2	黒色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量	10	黒色	焼土粒子・粘土粒子少量，ローム粒子微量
3	赤褐色	焼土粒子多量	11	黒色	ローム粒子・焼土粒子極微量
4	暗灰黄色	粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	12	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量，焼土粒子微量
5	褐色	焼土粒子・炭化粒子微量	13	赤黒色	粘土粒子中量，焼土粒子・窯壁材少量，ローム中ブロック極微量
6	赤黒色	焼土中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・窯壁材少量	14	赤色	窯壁材少量，焼土粒子多量
7	褐色	ローム粒子・KP粒子・窯壁材少量，炭化粒子微量	15	にぶい黄褐色	焼土粒子少量
8	暗褐色	焼土大ブロック・焼土中ブロック・焼土小			

遺物 中央部から南西コーナー部にかけて，第102図1～4の焼台等の窯道具が出土している。焼土のブロックや粒子が含まれる中層に特に第103図5を含む多く窯壁材や礫が確認されている。窯壁材と思われる耐火煉瓦も1点出土している。燃焼部の壁からは焼台が13個体，補強材に転用された状態で出土している。

所見 焚口部から燃焼室にかけて，火熱を受け粘土が赤変硬化していることから，かなりの高温が継続していたことがうかがえる。また，燃焼室の側面壁に，焼台を補強剤として転用している。遺構内で焼成されたと思われる製品は発見されなかった。出土した焼台の使用年代が，明治の初めのころに位置付けられていることから，本跡の時期は，明治初期以降と思われる。窯跡の残存形状から陶器焼成に関連した遺構と思われる。

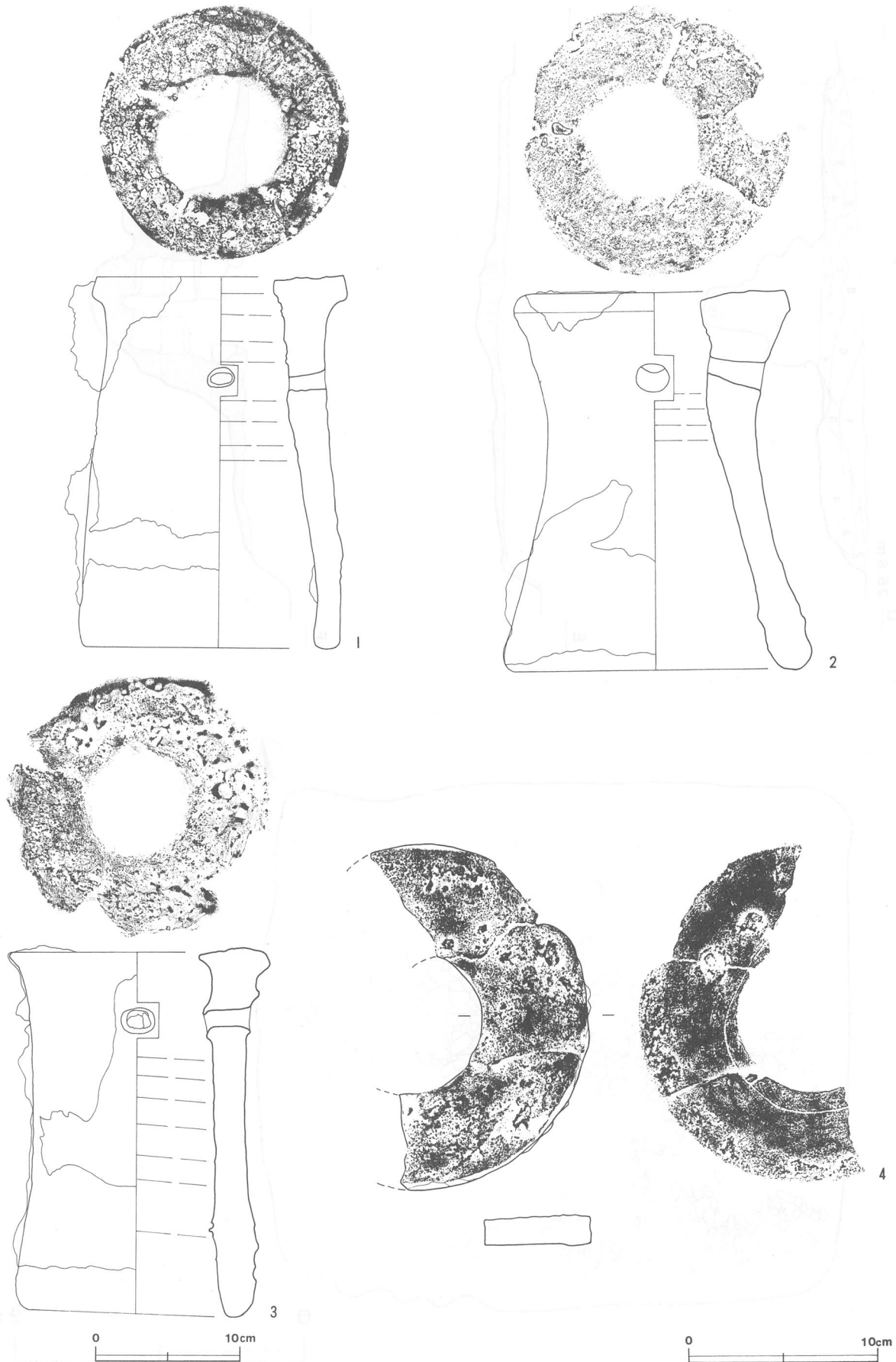


第100图 第1号窯跡実測图(1)



第101图 第1号窟迹实测图(2)

图例: 窟迹(点)、土台(点)、洞窟(点)



第102图 第1号窟迹出土遗物实测图(1)

第1号窯跡出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値 (cm, g)				形状・特徴	胎土	色調 焼成	出土地点	備考
		A	B	C	重さ					
第102図 1	土製品 焼台 大台	15.8	25.9	16.0	5000	円筒状 ロクロ成形 体部に穿孔 天井部に孔	砂粒, 長石, 石英	暗赤褐色 普通	覆土	DP 5 100% PL65
2	土製品 焼台 大台	18.3	26.5	20.2	6100	円筒状 ロクロ成形 体部に穿孔 天井部に孔	砂粒, 長石, 石英	普通	覆土	DP 4 95% PL65
3	土製品 焼台 大台	17.8	25.3	14.8	5200	円筒状 ロクロ成形 体部に穿孔 天井部に孔	砂粒, 長石, 石英	暗赤色 普通	覆土	DP 9 95% PL65
4	土製品 焼台 トチ	18.1	2.3	5.6	(310)	円盤状 中心部に孔	砂粒	暗赤褐色 普通	覆土	DP 6 50% PL67 上部に釉付着
第103図 5	土製品 耐火煉瓦	(12.7)	9.2	(8.8)	1260	直方体	砂粒, 長石, 石英	にぶい赤褐色 普通	覆土	DP 7 PL64 窯壁材

第224号土坑 (第104・105図)

位置 調査区西部, A2h1区。

重複関係 本跡が第171号土坑を掘り込んでいることから, 本跡が新しい。

規模と平面形 長径6.40m, 短径1.80mの長楕円形で, 深さは68cmである。

長径方向 N-87°-E

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

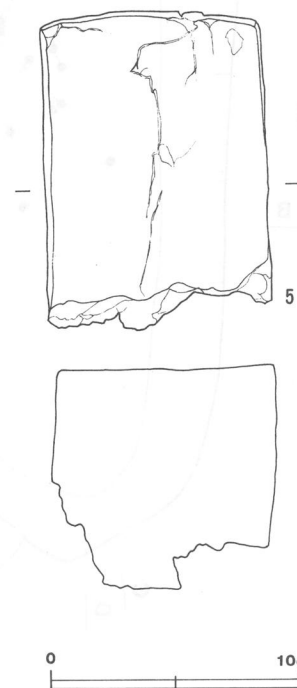
覆土 4層からなる人為堆積である。

土層解説

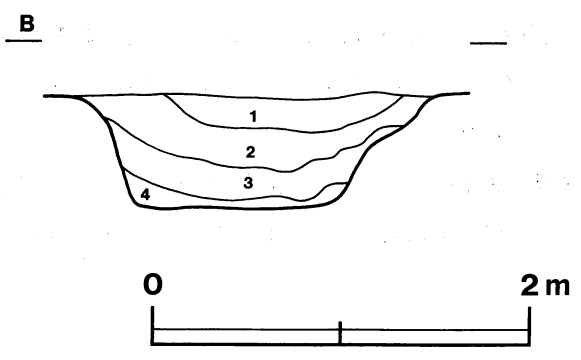
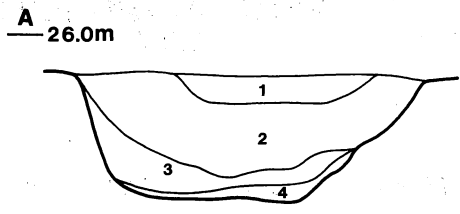
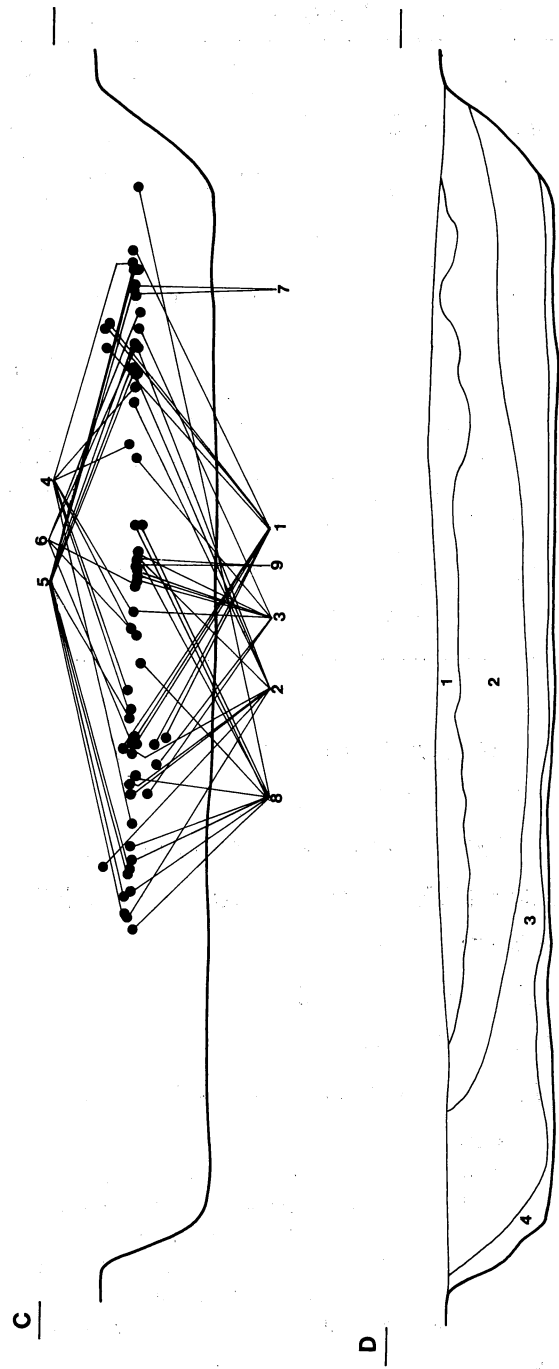
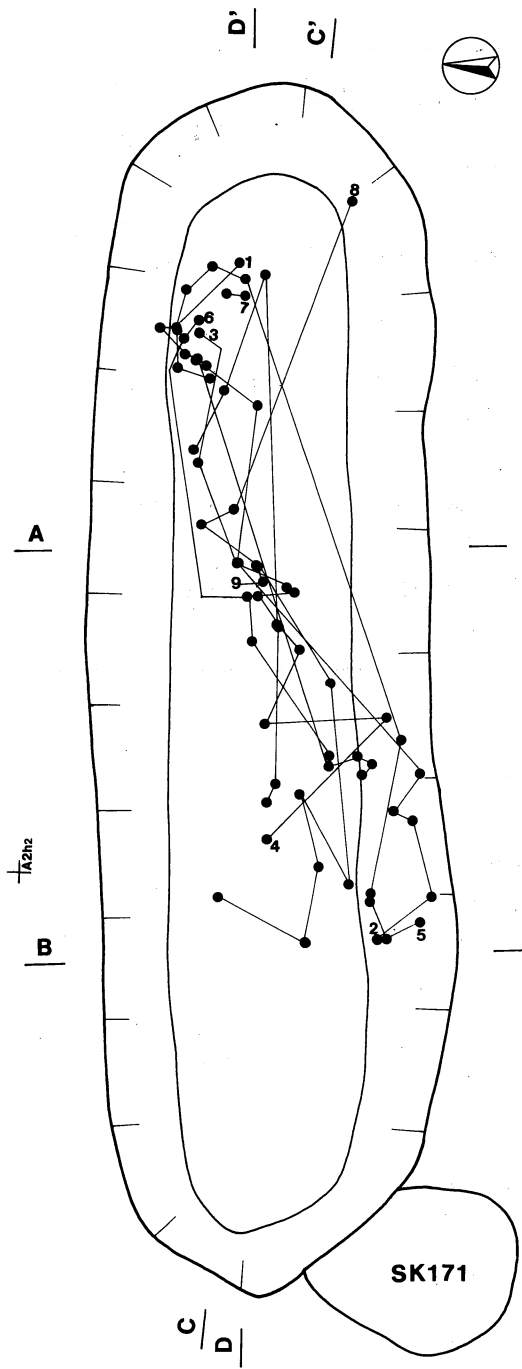
- 1 暗褐色 ローム粒子, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化粒子極微量
- 2 黒色 炭化粒子多量, 焼土粒子・炭化物少量, ローム粒子・焼土小ブロック微量, ローム小ブロック・焼土大ブロック・焼土中ブロック極微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子極微量
- 4 にぶい黄褐色 炭化物少量, ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量

遺物 第106~109図10, 11~16の焼台を含む多量の窯道具, 17~19の耐火煉瓦を含む中量の窯壁材, 1~9の陶器を含む中量の陶磁器, 20の銅製品(釉柄杓), ガラス破片が出土している。陶器の甕や徳利等, 磁器の小碗(筒形)片, ガラス破片は, 生活用品の一部として, 当時使用されたものと思われる。

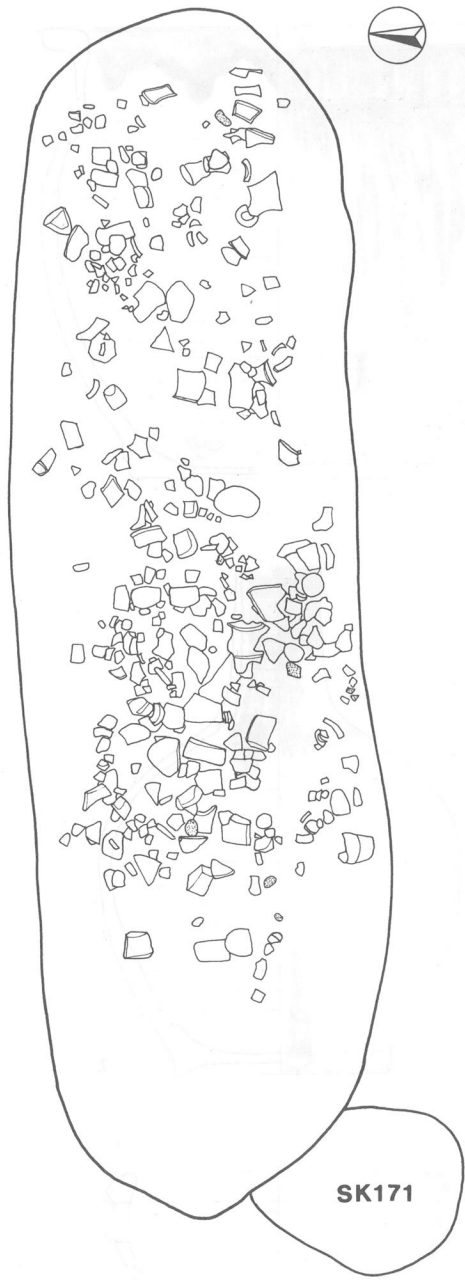
所見 覆土中から多量の窯道具等が出土し, 第1号窯跡から出土した焼台との多数の接合資料が得られた。窯道具の出土状況から, 第1号窯跡と同時期のものと考えられる。性格は不明である。



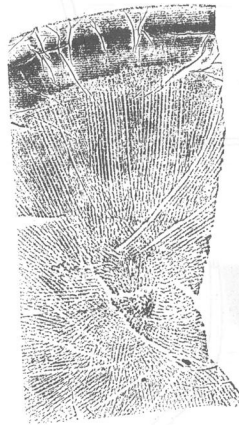
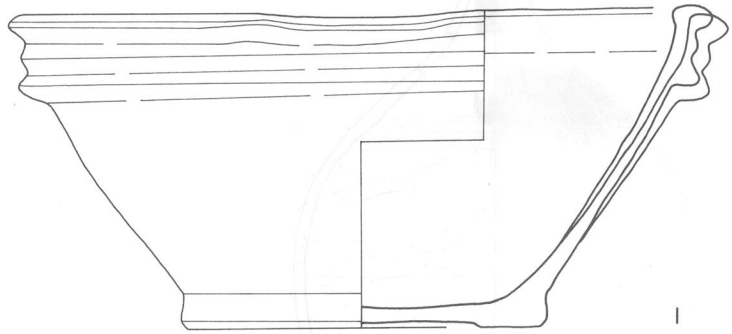
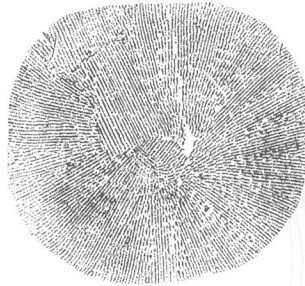
第103図 第1号窯跡出土遺物実測図(2)



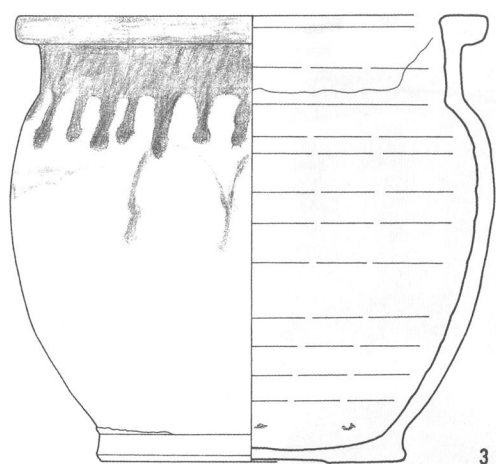
第104图 第224号土坑实测图



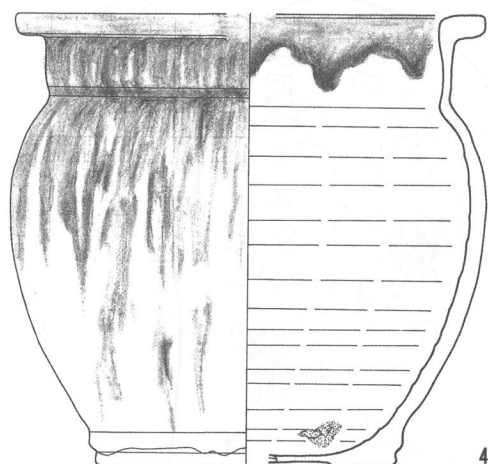
第105图 第224号土坑遺物出土位置图



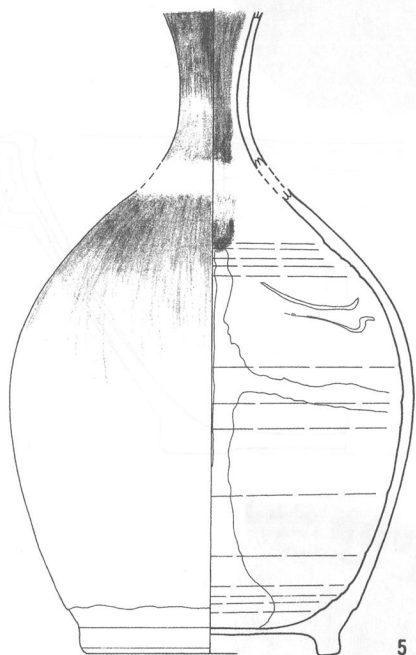
第106图 第224号土坑出土遺物実測图(1)



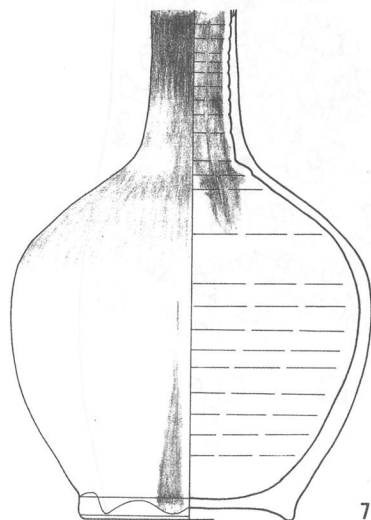
3



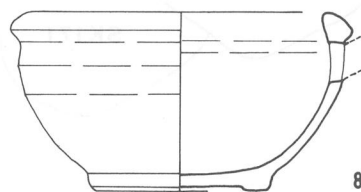
4



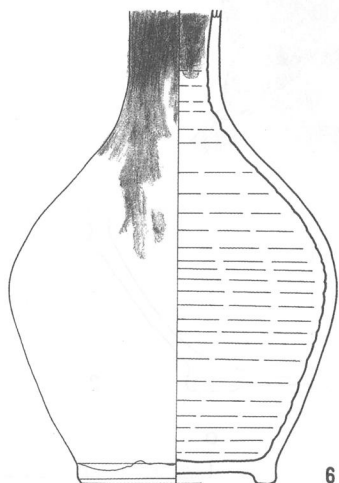
5



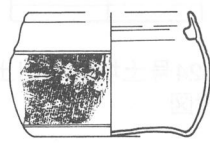
7



8



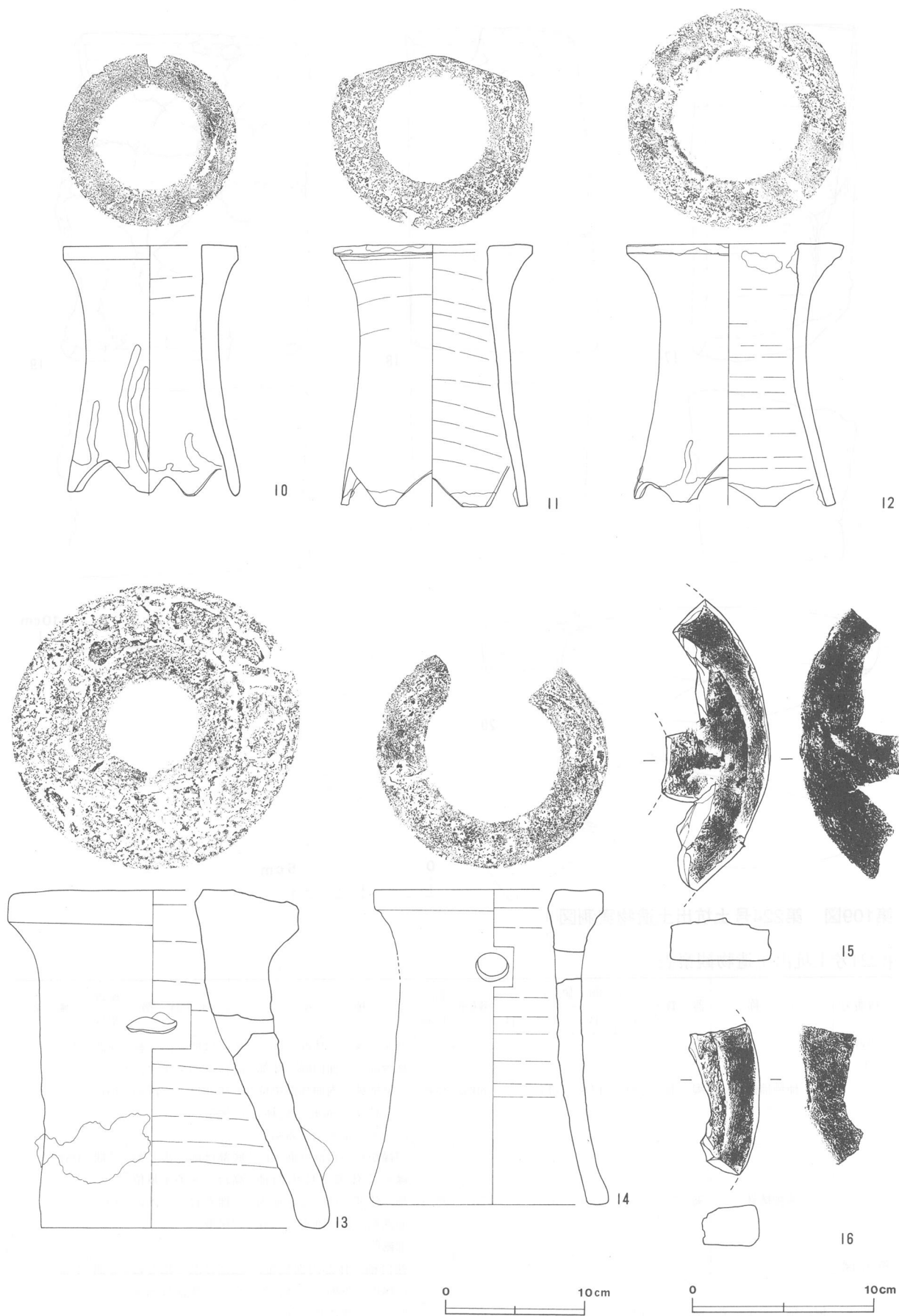
6



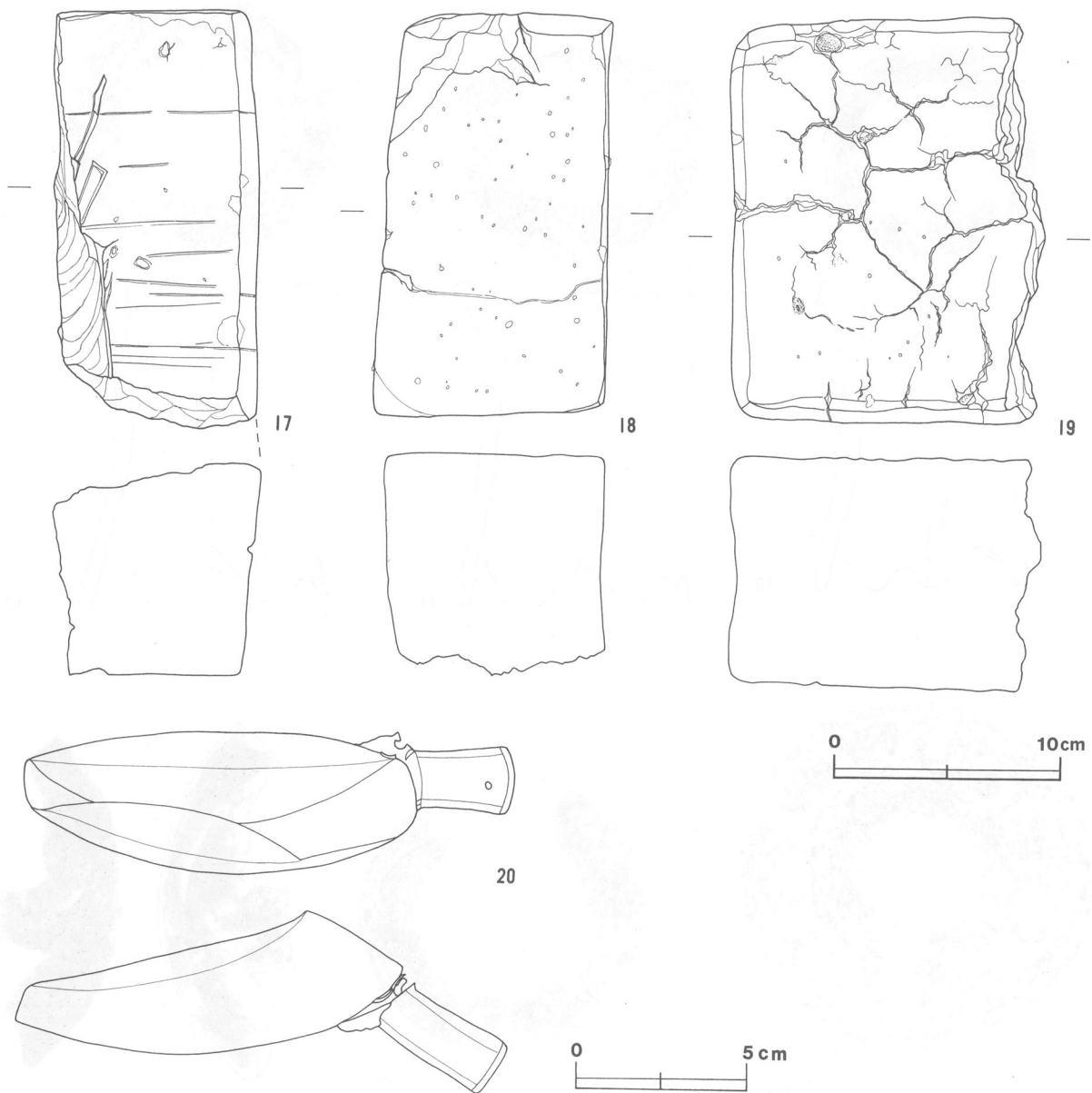
9



第107图 第224号土坑出土遗物实测图(2)



第108图 第224号土坑出土遺物実測図(3)



第109図 第224号土坑出土遺物実測図(4)

第224号土坑出土遺物観察表

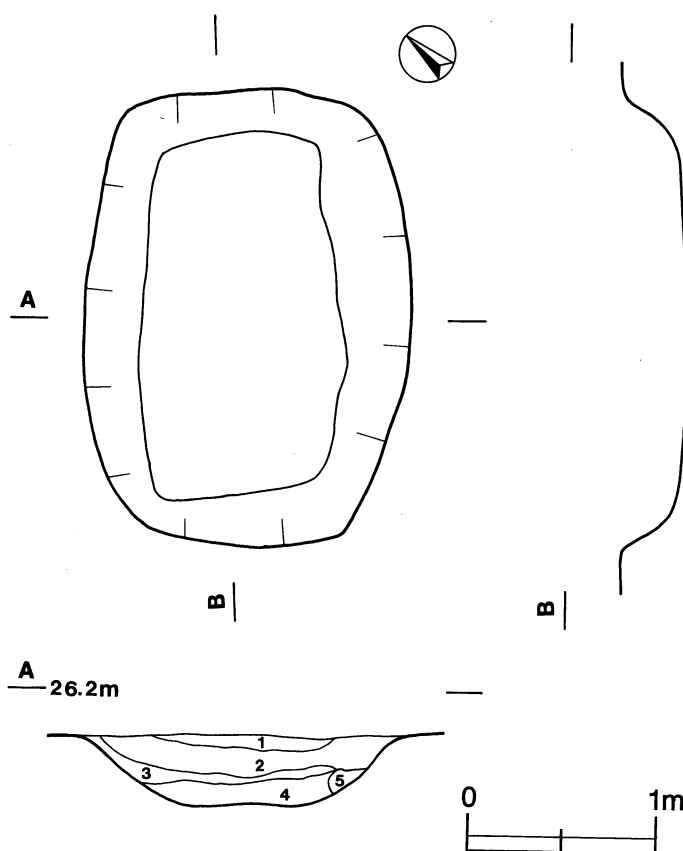
図版番号	名称	器質	計測値 (cm)				残存率	胎土色調	釉薬	器形・特徴	産地年代	備考
			A	B	C	D						
第106図 1	柿釉播鉢	陶器	29.1	12.8	14.7	—	80%	橙色	外面口縁から体部下位・高台部・内面口縁～体部上位柿釉，内面体部中位～下位・内面底部鉄釉，高台部下端・底部露胎	底部は削り出し輪高台。14条1単位の播り目。三段の口縁帯。片口。	笠間 19C	P50
2	柿釉播鉢	陶器	17.5	7.3	10.0	—	70%	橙色	口縁から高台部外面・口縁から体部上位内面柿釉，体部中位から底部内面鉄釉，高台部下端・底部露胎	底部は削り出し輪高台。6条1単位の播り目。二段の口縁帯。	笠間 19C	P51
第107図 3	糠白釉二彩流掛甕	陶器	19.0	18.1	12.0	—	80%	にぶい赤褐色	糠白釉，体部内面鉄釉，口縁内・外面から体部外面中位黒釉流掛，体部外面中位緑釉流掛	底部は削り出し輪高台。体部は内彎して立ち上がり，頸部はほぼ直立する。鉤縁口縁。	笠間 19C	P45

図版番号	名称	器質	計測値 (cm)				残存率	胎土色調	釉薬	器形・特徴	産地年代	備考
			A	B	C	D						
第107図 4	糠白釉二彩流掛甕	陶器	[19.0]	18.3	[11.6]	—	50%	灰色	糠白釉, 体部内面錆釉, 口縁内・外面から体部外面中位黒釉流掛, 体部外面中位緑釉流掛	底部は削り出し輪高台。体部は内彎して立ち上がり, 頸部はほぼ直立する。鉤縁口縁。	笠間 19C	P46
5	糠白釉青流掛德利	陶器	—	[25.1]	10.2	0.9	45%	橙色	糠白釉, 体部内面鉄釉, 頸部外面中位から体部外面中位緑釉流掛, 底部露胎	底部は削り出し輪高台。体部は内彎して立ち上がり, 頸部は外反する。	笠間 19C	P47 PL55
6	糠白釉青流掛德利	陶器	—	(19.2)	7.8	0.6	70%	灰色	糠白釉, 体部内面錆釉, 頸部外面中位から体部外面中位緑釉流掛, 底部外面柿釉	底部は削り出し輪高台。体部は内彎して立ち上がり, 頸部は直立する。	笠間 19C	P49
7	糠白釉青流掛德利	陶器	—	(20.6)	8.4	—	40%	灰色	糠白釉, 体部内面錆釉, 頸部外面中位から体部外面中位緑釉流掛	底部は削り出し輪高台。体部は内彎して立ち上がり, 頸部は直立する。	笠間 19C	P48
8	鉄釉片口	陶器	[13.8]	7.2	7.0	—	70%	灰色	鉄釉, 高台部下端・底部露胎	底部は削り出し輪高台。体部は内彎して立ち上がり, 上位ではほぼ直立する。口縁端部玉縁形。	笠間 19C	P52 PL55
9	急須	陶器	6.5	5.0	6.2	—	20%	灰色	鉄釉	底部から体部中位にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。体部上位と口縁部に稜をもつ。口縁部は内傾する。	不明	P53 PL55

図版番号	種別	計測値 (cm, g)				形状・特徴	胎土	色調 焼成	出土地点	備考
		A	B	C	重さ					
第108図 10	土製品 焼台 奥台	12.6	18.1	12.4	900	円筒状 ロク口成形 天井部に孔	砂粒	赤色 普通	覆土	D P 8 95% PL66
11	土製品 焼台 奥台	14.4	19.0	13.4	1000	円筒状 ロク口成形 天井部に孔	砂粒	明赤褐色 普通	覆土	D P 10 95% PL66
12	土製品 焼台 奥台	15.7	19.1	14.5	1200	円筒状 ロク口成形 天井部に孔	砂粒	暗赤色 普通	覆土	D P 12 90% PL66
13	土製品 焼台 大台	20.8	24.3	20.8	7700	円筒状 ロク口成形 体部に穿孔 天井部に孔	砂粒, 長石, 石英	暗赤褐色 普通	覆土	D P 11 90% PL65
14	土製品 焼台 大台	16.6	22.7	16.6	2200	円筒状 ロク口成形 体部に穿孔 天井部に孔	砂粒, 長石, 石英, 雲母, 礫	明赤褐色 普通	覆土	D P 13 80% PL66
15	土製品 焼台 トチ	(15.8)	2.3	20.8	(170)	円盤状 中心部に孔	砂粒, 長石, 石英	暗赤褐色 普通	覆土	D P 14 10% PL67 上部に釉付着
16	土製品 焼台 トチ	(8.3)	2.2	(3.1)	(70)	円盤状	砂粒, 長石, 石英, 雲母	明赤褐色 普通	覆土	D P 15 5% PL67 上部に釉付着

図版番号	種別	計測値 (cm, g)				形状・特徴	胎土	色調 焼成	出土地点	備考
		A	B	C	重さ					
第109図 17	土製品 耐火煉瓦	18.6	9.4	7.4	1970	直方体	砂粒, 長石, 石英	赤色 普通	覆土	DP18 PL64 窯壁材
18	土製品 耐火煉瓦	17.9	9.8	10.5	2650	直方体	砂粒, 長石, 礫	極暗赤褐色 普通	覆土	DP19 PL64 上部に釉付着 窯壁材
19	土製品 耐火煉瓦	17.8	10.2	12.8	2650	直方体	砂粒, 長石, 石英	暗褐色 普通	覆土	DP20 PL64 窯壁材

図版番号	種別	器質	計測値				出土地点	備考
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第109図20	釉柄杓	銅製	(14.4)	8.8	—	50.0	覆土	M10 PL67



第110図 第225号土坑実測図

第225号土坑 (第110図)

位置 調査区南西部, B2b1区。

規模と平面形 長径2.40m, 短径1.75mの

隅丸長方形で, 深さは32cmである。

長径方向 N-45°-E

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 極暗褐色 炭化物中量, ローム粒子微量
- 2 暗褐色 炭化物少量, ローム粒子微量
- 3 極暗褐色 炭化物中量, 焼土粒子・炭化物少量, ローム粒子極微量
- 4 黒色 炭化物多量, ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子・炭化物中量, 焼土粒子少量

遺物 耐火煉瓦3点, 窯道具(焼台)破片少量が出土している。

所見 窯道具等が出土し, 第1号窯跡から出土した焼台との接合資料が得られた。窯道具の出土状況から, 本跡も第224号土坑と同様に, 第1号窯跡と同時期のものと考えられる。性格は不明である。

第226号土坑 (第111図)

位置 調査区西部, A2e3区。

規模と平面形 長径2.30m, 短径1.25mの不整楕円形で, 深さは32cmである。

長径方向 N-0°

壁面 底面中央部から北部へ緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 南西部にU字状のくぼみがあり, 凹凸である。

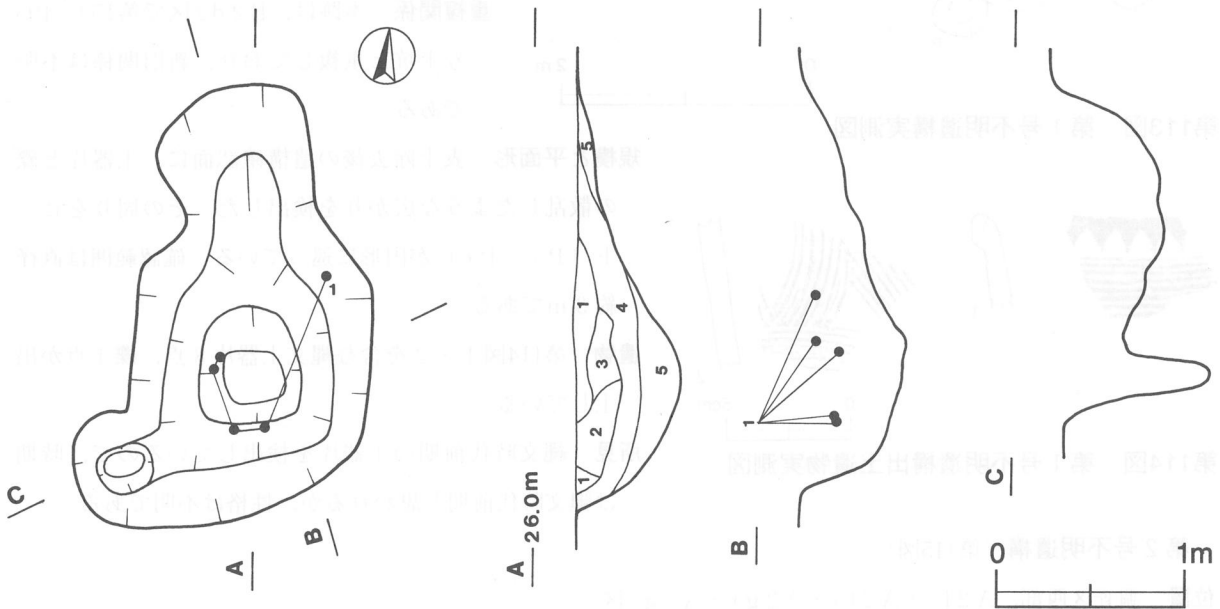
覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|-------------------|
| 1 極暗褐色 焼土小ブロック・炭化粒子極微量 | 4 黒色 炭化粒子中量, 砂粒少量 |
| 2 黒色 砂粒中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック極微量 | 5 赤褐色 焼土粒子多量 |
| 3 黒褐色 砂粒少量, 焼土粒子極微量 | |

遺物 第112図1の徳利を含む陶器破片が少量, 窯道具(焼台)が多量出土している。

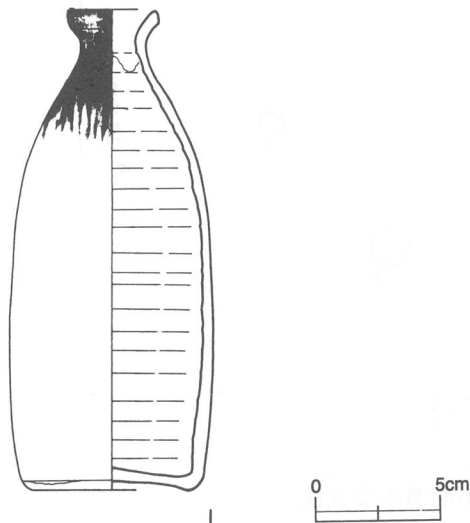
所見 窯道具等が出土し, 第224号土坑から出土した焼台との接合資料が得られた。窯道具の出土状況から, 本跡も第224号土坑と同様に, 第1号窯跡と同時期のものと考えられる。性格は不明である。



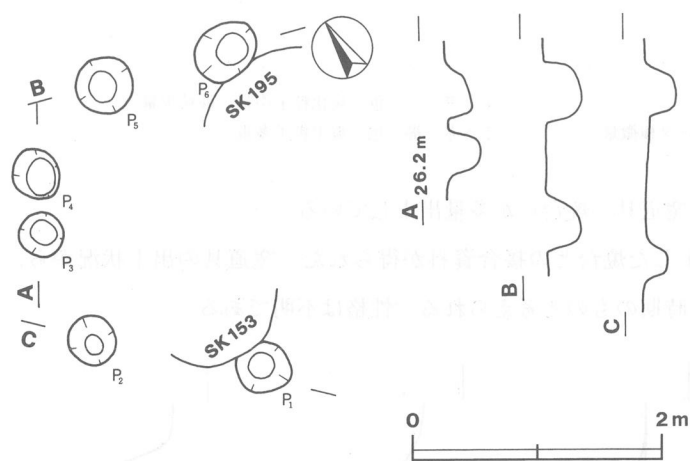
第111図 第226号土坑実測図

第226号土坑出土遺物観察表

図版番号	名称	器質	計測値 (cm)				残存率	胎土色調	釉薬	器形・特徴	産地年代	備考
			A	B	C	D						
第112図 1	糠白釉青流掛徳利	陶器	3.4	18.3	6.4	—	50%	灰色	糠白釉, 体部内面錆釉, 口縁から体部中位外面緑釉流掛	底部は削り出し輪高台。体部は内彎して立ち上がり, 頸部は外反する。口縁外帯。	笠間 19C	P54 PL55



第112図 第226号土坑出土遺物実測図



第113図 第1号不明遺構実測図

8 不明遺構

当遺跡からは、不明遺構2基が検出されている。以下、遺構の形状や特徴と遺物について記載する。

第1号不明遺構（第113図）

位置 調査区南西部，B2c2・B2d2区。

重複関係 本跡は、B2d2区で第153・195号土坑と重複しており、新旧関係は不明である。

規模と平面形 表土除去後の遺構確認面に、土器片と礫の散乱したような広がりを検出した。その周りをピット（P1～P6）が円形に巡っている。確認範囲は直径約3mである。

遺物 第114図1・2を含む縄文土器片8点、礫1点が出土している。

所見 縄文時代前期の土器片を検出しているので、時期は縄文時代前期と思われるが、性格は不明である。



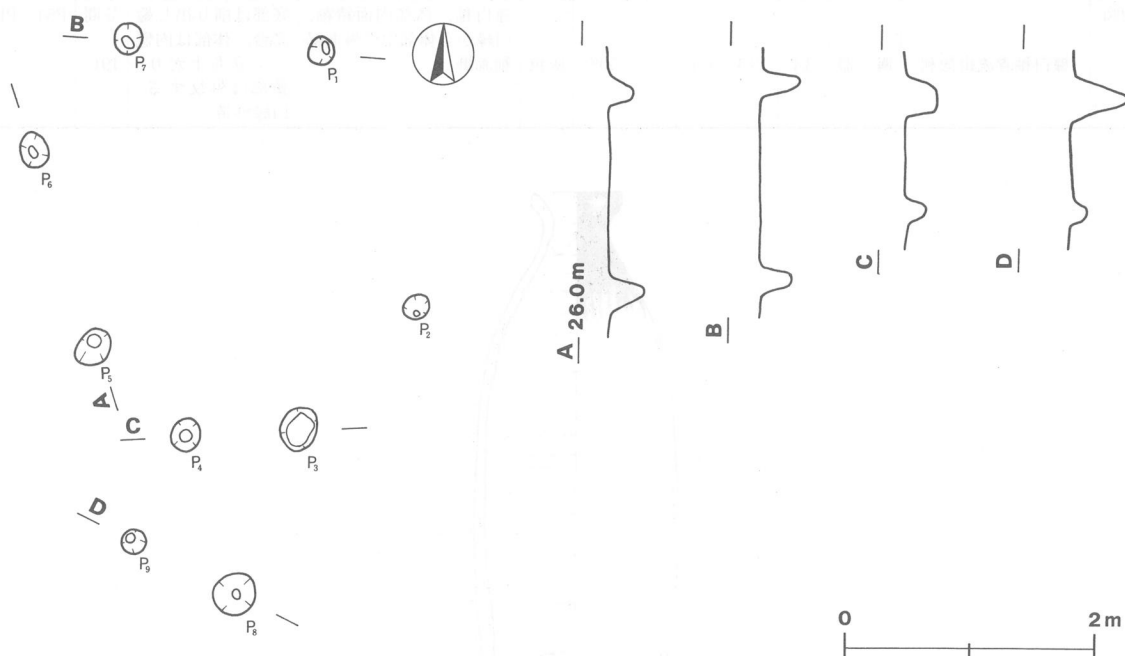
第114図 第1号不明遺構出土遺物実測図

第2号不明遺構（第115図）

位置 調査区西部，A2f4・A2f5・A2g4・A2g5区。

重複関係 本跡は、A2g4区で第175号土坑、A2f5区で第205号土坑と重複している。新旧関係は不明である。

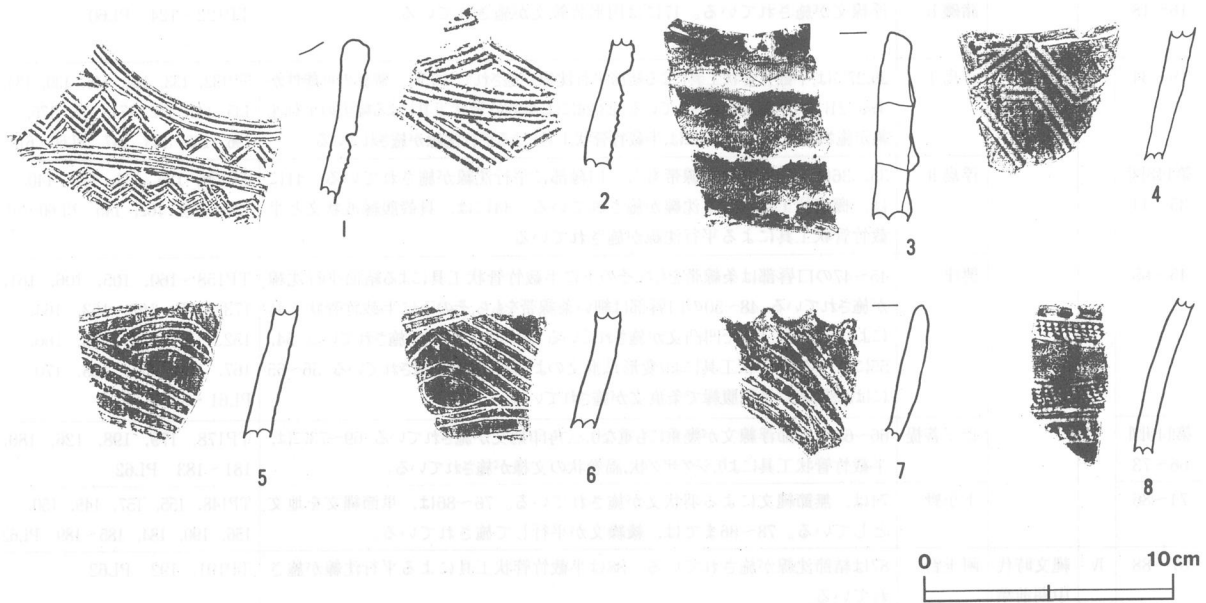
規模と平面形 表土除去後の遺構確認面に、土器片と剥片等の散乱したような広がりを検出した。その周りをピット（P1～P9）が不整楕円形に巡っている。確認範囲は長径約5m，短径約4mである。



第115図 第2号不明遺構実測図

遺物 第116図1～8の縄文土器片が8点、剥片4点、礫1点が出土している。

所見 縄文時代前期の土器片を検出しているため、時期は縄文時代前期と思われるが、性格は不明である。



第116図 第2号不明遺構出土遺物実測図

第1・2号不明遺構観察表

図版番号	遺構名	器形及び文様の特徴	備考
第114図1 2	第1号不明遺構	口縁部片。半截竹管状工具による文様と三角印刻文が施されている。	TP77 PL59
		胴部片。半截竹管状工具による文様が施されている。	TP78 PL59
第116図 1・2	第2号不明遺構	1は口縁部片。2は胴部片。ともに半截竹管状工具によるジグザグ状の文様が施されている。	TP79・80 PL59
3		口縁部片。輪積み痕が幾重にも重ねられている。	TP81 PL59
4		胴部片。L字状のランダムな平行沈線が施されている。	TP82 PL59
5・6		胴部片。半截竹管状工具による平行沈線が施されている。	TP83・84 PL59
7		口縁部片。波状口縁の波頂部に凹凸文があり、その下に半截竹管状工具による平行沈線が施されている。	TP85 PL59
8		口縁部片。沈線間に貝殻文を充填している。	TP86 PL59

9 遺構外出土遺物

当遺跡からは、遺構に伴わない旧石器から近世までの土器や石器、金属製品等が出土している。ここでは、これらの出土遺物のうち特徴的なものについて掲載する。(第117～121図)

遺構外出土遺物観察表

図版番号	群	時期	型式	器形及び文様の特徴	備考
第117図 1～4	I	縄文時代 早期中葉	田戸下層	1, 3, 4には、半截竹管状工具による刺突文が施されている。2には太い沈線文が施されている。	TP107～110 PL59 胎土に繊維混入
5～7	II	縄文時代 前期前葉	花積下層	5, 6には、羽状縄文が施されている。7には、RLの単節縄文が施されている。	TP111～113 PL60 胎土に繊維混入
8			関山	口唇部に条線帯をもち、口縁部文様帯には、半截竹管状工具による爪形文が施されている。	TP116 PL60 胎土に繊維混入
9・10			植房	半截竹管状工具による平行沈線が施されている。	TP118, 119 PL60 胎土に繊維混入
11～14			黒浜	11には幅の狭い半截竹管状工具による沈線が施されている。12, 14には、RLの単節縄文が施されている。13には、羽状縄文が施されている。	TP114, 115, 117, 120 PL60

図版番号	群	時 期	型 式	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	備 考
第117図 15	III	縄文時代 前期後葉	諸磯 a	半截竹管状工具による爪形文が施されている。	TP121 PL60
16~18			諸磯 b	浮線文が施されている。17には円形竹管文が施されている。	TP122~124 PL60
19~34			浮島 I	26,27には、半截竹管状工具による結節平行沈線が施されており、同一個体の可能性がある。21には、木葉文が施されている。23,24には、半截竹管状工具による幅広の平行沈線が施されている。25~34には、半截竹管状工具による平行沈線が施されている。	TP132, 133, 144, 146, 130, 134, 135, 141, 142, 174, 175, 176, 196, 136, 143, 147 PL60・61
第118図 35~44			浮島 II	35, 36は、口唇部に条線帯もち、口縁部に平行沈線が施されている。41には、櫛歯状工具による沈線が施されている。44には、貝殻腹縁波状文と半截竹管状工具による平行沈線が施されている。	TP128, 129, 131, 172, 140, 137~139, 162, 145 PL60・61
45~65			興津	45~47の口唇部は条線帯もち、その下に半截竹管状工具による結節平行沈線が施されている。48~50の口唇部は細い条線帯もち、その下に半截竹管状工具により粘土を逆立てた凹凸文が施されている。53には、C字文が施されている。54, 55には、半截竹管状工具により変形爪形文のような押し文が施されている。56~65には、狭間隔に貝殻腹縁で条痕文が施されている。	TP158~160, 105, 106, 161, 173, 177, 165, 163, 164, 152, 151, 154, 153, 166, 167, 169, 171, 168, 170 PL61・62
第119図 66~73			十三菩提	66~68は、結節浮線文が幾重にも重なり、三角印刻文が施されている。69~73には、半截竹管状工具により、ジグザグ状、渦巻状の文様が施されている。	TP178, 179, 198, 126, 180, 181~183 PL62
74~86			下小野	74は、無節縄文による羽状文が施されている。76~86は、単節縄文を地文としている。78~86までは、綾線文が平行して施されている。	TP148, 155, 157, 149, 150, 156, 190, 184, 185~189 PL62
87・88	IV	縄文時代 中期前葉	阿玉台	87は結節沈線が施されている。88は半截竹管状工具による平行沈線が施されている。	TP191, 192 PL62
89	V	縄文時代 中期中葉	加曾利EI	単節縄文を地文とし、太い平行沈線が施されている。	TP197 PL62
90~92	VI	縄文時代 後期後葉	安行	口唇部に押圧文を伴う隆帯が巡り、その下に半截竹管状工具による平行沈線が施されている。	TP193~195 PL62

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 及 び 文 様 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第120図 1	尖底土器 縄文土器	B (11.8)	尖底部片。砲弾状を呈している。無文。	砂粒、長石、石英 にぶい橙色 普通	P44 5% PL56
2	深鉢 縄文土器	B (6.2)	扇状の把手部及び口縁部片。把手部と口縁部には、半截竹管による、波状の結節平行沈線文を施している。	砂粒、長石、石英、雲母 にぶい褐色 普通	P55 5% PL56

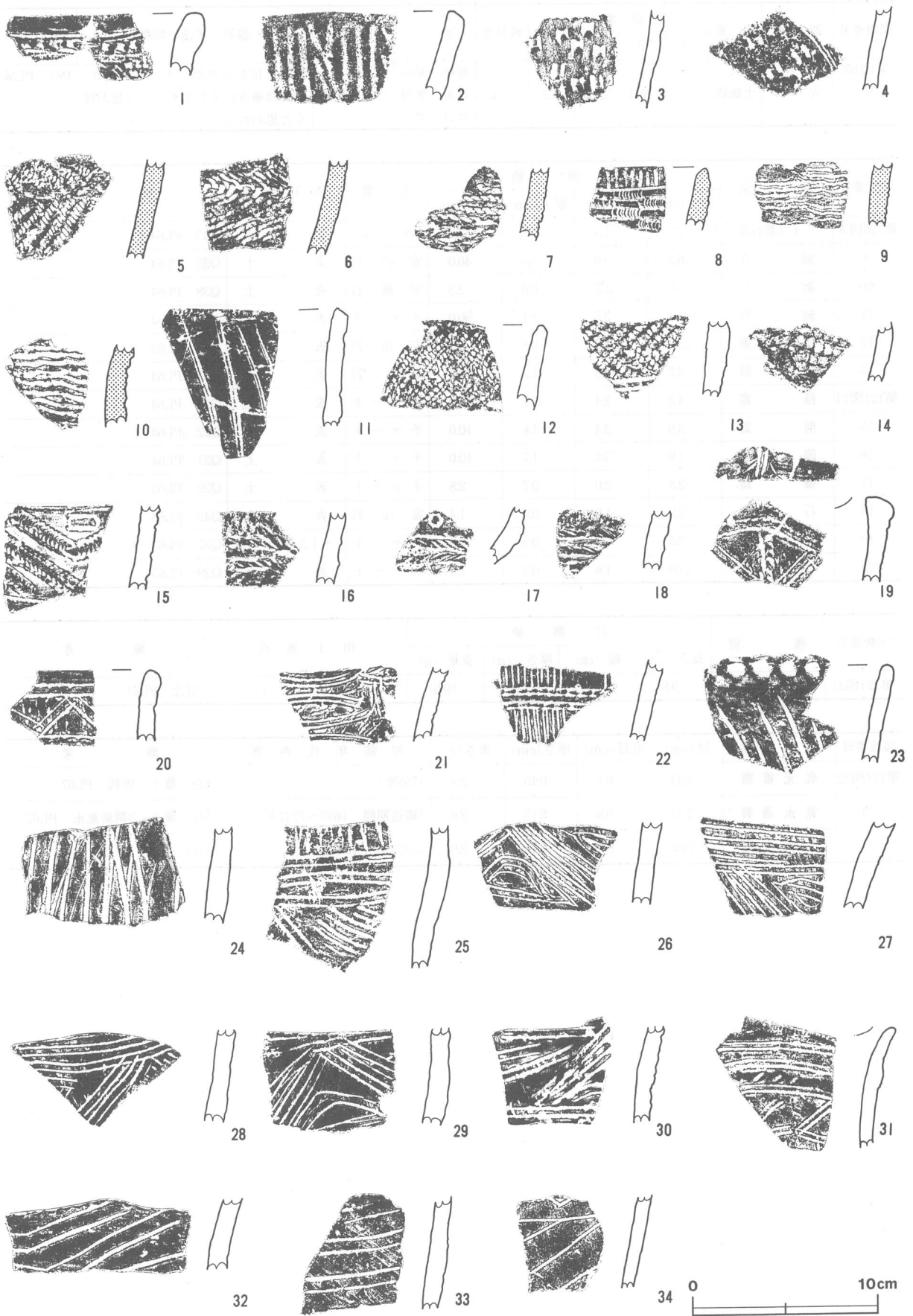
図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第120図 3	手捏土器 土師器	A 3.1	平底。体部は器厚を減じながら、内傾して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面に指頭によるナデ。指頭圧痕が残る。	砂粒、長石、石英 にぶい赤褐色 普通	P58 100% PL56
		B 4.0				
		C 4.0				
4	手捏土器 土師器	A 3.6	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面に指頭によるナデ。指頭圧痕が残る。	砂粒、長石、雲母 にぶい橙色 普通	P60 100% PL56
		B 3.0				
5	甕 土師器	A [25.0]	体部上位から口縁部の破片。頸部は「く」の字状に外反し、口縁部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒、長石、雲母 橙色 普通	P57 5%
		B (6.3)				
6	坏 須恵器	B (3.3)	平底。底部、体部破片。体部は、直線的に外傾して立ち上がる。	底部回転ヘラ切り後、全面ヘラ削り。体部下端横位のヘラ削り後、ナデ。	砂粒、長石、石英 灰オリーブ 普通	P59 10%
		C [8.6]				

図版番号	器形	器質	計測値 (cm)				残存率	胎土	色調	器形・手法の特徴	備考
			A	B	C	E					
第120図 7	火鉢	土師質	—	(6.3)	[20.6]	3.5	5%	砂粒, 長石 石英, 雲母 スコリア	にぶい赤褐色	体部下位から底部にかけての破片。 体部は垂直に立ち上がり, 三足が付 くと思われる。	P61 PL56

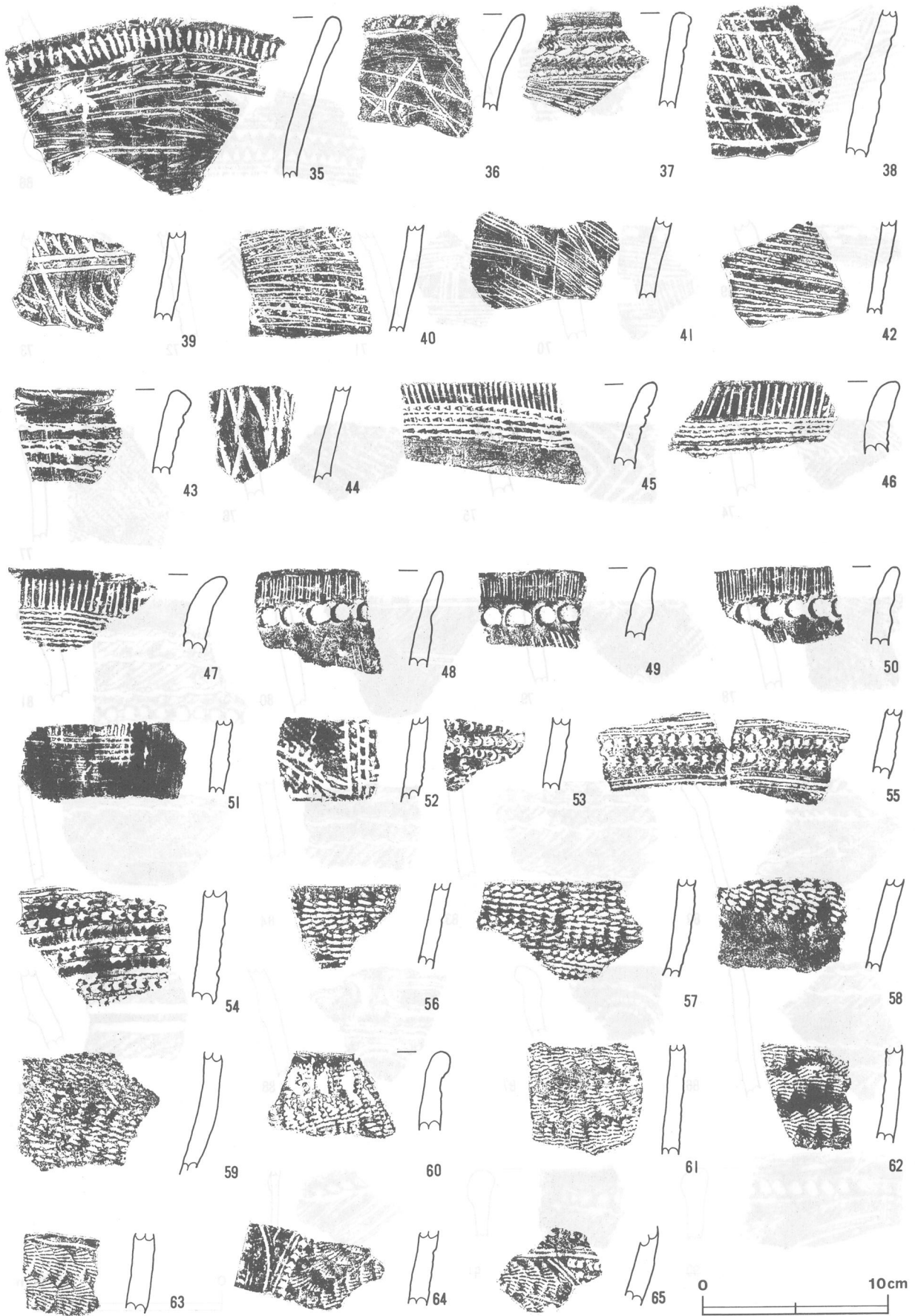
図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第120図8	ナイフ形石器	2.7	1.5	0.8	2.6	ホルンフェルス	表 土	Q43 PL64
9	剥片	6.2	5.0	1.5	40.0	安山岩	表 土	Q35 PL64
10	剥片	3.8	1.7	0.6	2.3	黒曜石	表 土	Q38 PL64
11	剥片	5.1	2.5	2.1	50.0	チャート	表 土	Q20 PL64
12	石錐	3.2	1.9	0.8	2.2	安山岩	表 土	Q45 PL63
13	搔器	3.7	4.3	1.2	20.0	頁岩	表 土	Q23 PL64
第121図14	搔器	4.2	2.4	0.7	10.0	チャート	表 土	Q25 PL64
15	削器	3.9	3.4	1.6	10.0	チャート	表 土	Q22 PL64
16	削器	4.9	3.1	1.7	10.0	チャート	表 土	Q21 PL64
17	搔器	2.8	2.0	0.7	2.8	チャート	表 土	Q29 PL64
18	石錐	3.9	1.0	0.5	1.4	安山岩	表 土	Q42 PL63
19	石鏃	2.5	1.8	0.5	2.0	チャート	SI3覆土中	Q37 PL63
20	石鏃	2.9	1.6	0.3	1.4	チャート	表 土	Q39 PL63

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第121図21	刀子	(9.8)	(1.1)	(0.25)	(10.0)	表 土	M12 PL67

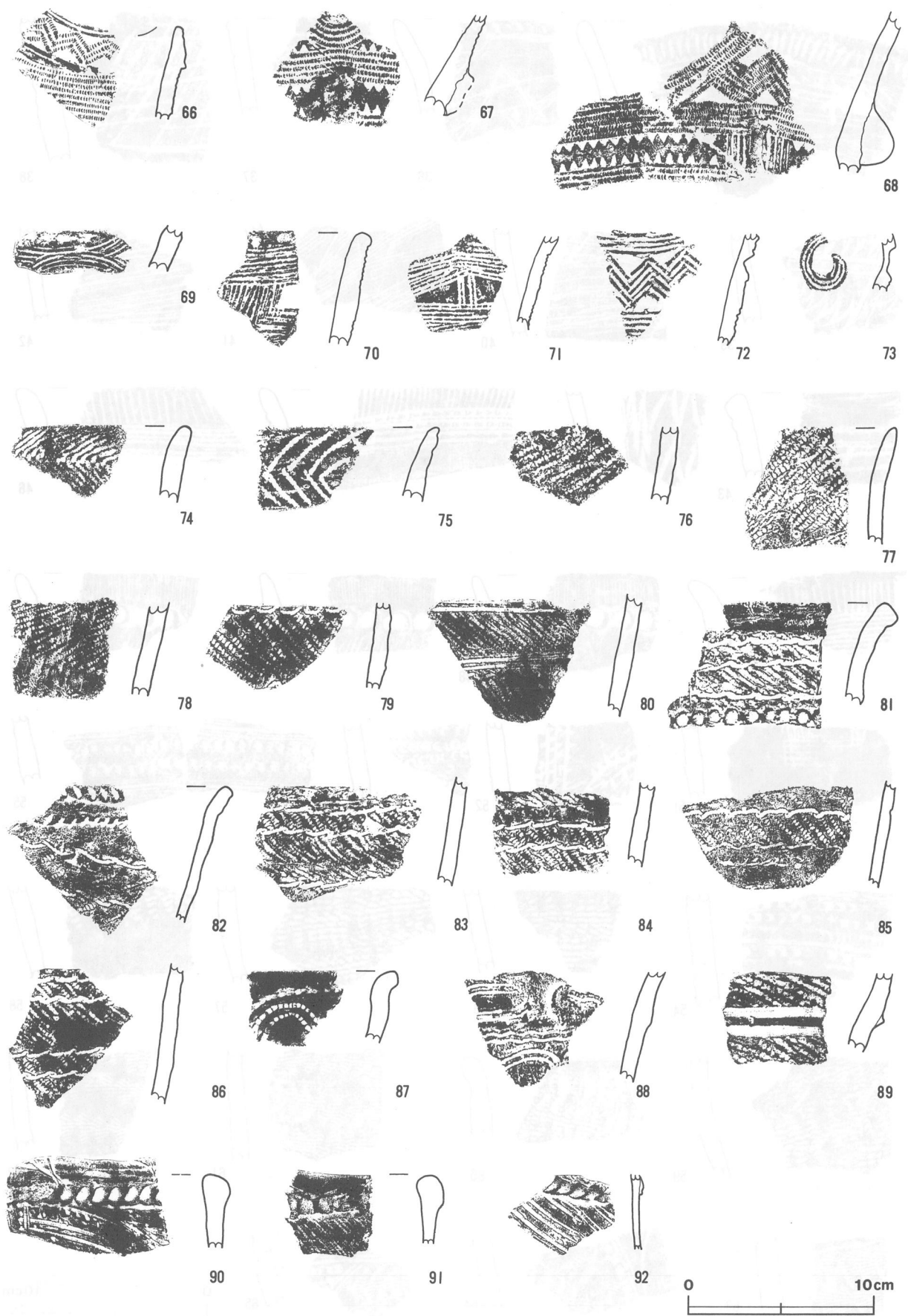
図版番号	銭銘	径 (cm)	孔径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	初鑄年代 (西暦)	備考
第121図22	軋元重寶	2.34	0.7	0.15	2.3	(758年)	M8 覆土 唐銭 PL67
23	寛永通寶	2.44	0.6	0.15	2.6	(鑄造期間 1697~1747年)	M9 覆土 3期新寛永 PL67
24	文久永寶	2.65	0.7	0.10	2.9	文久3年 (1863年)	M11 表土 PL67



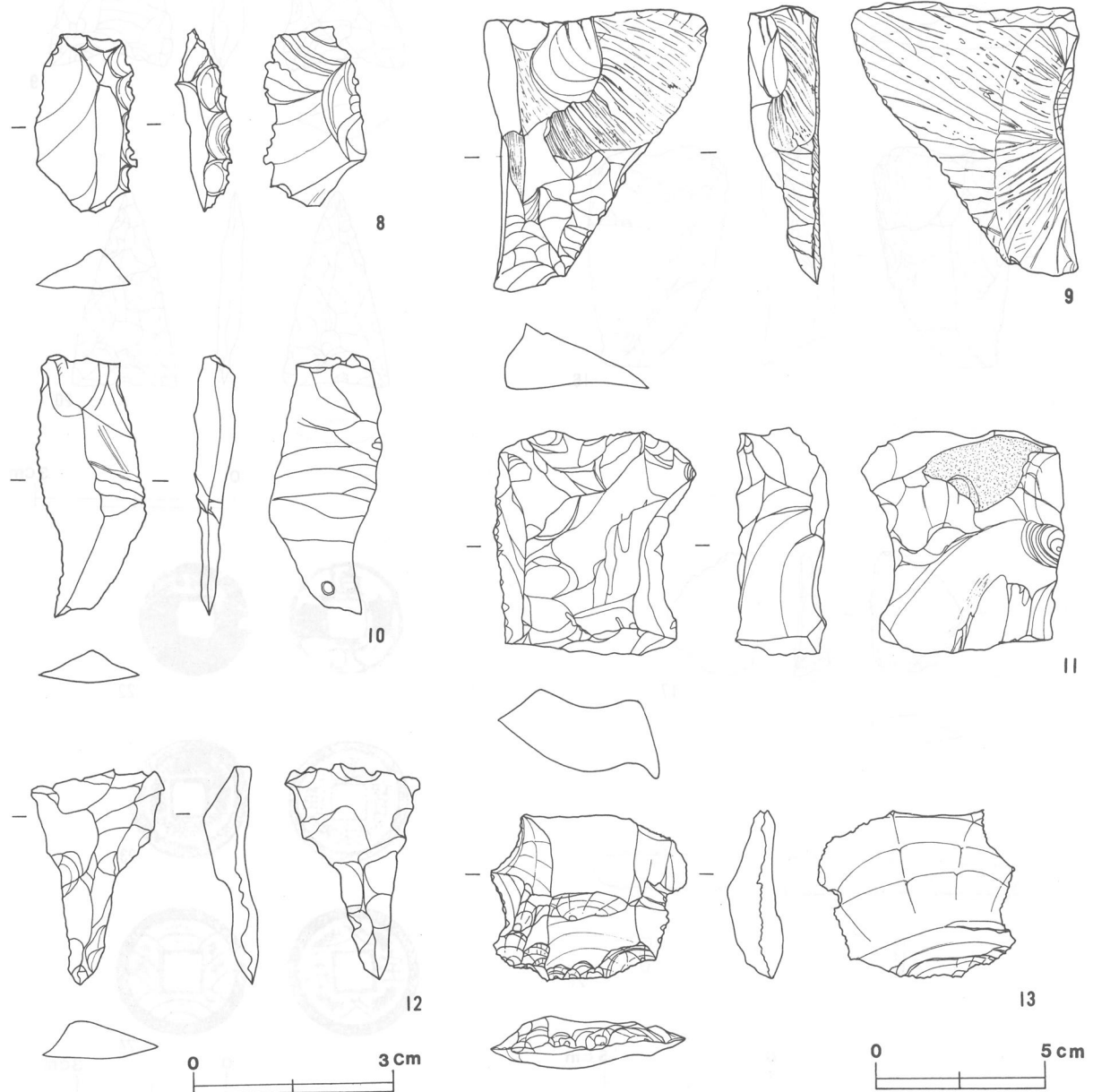
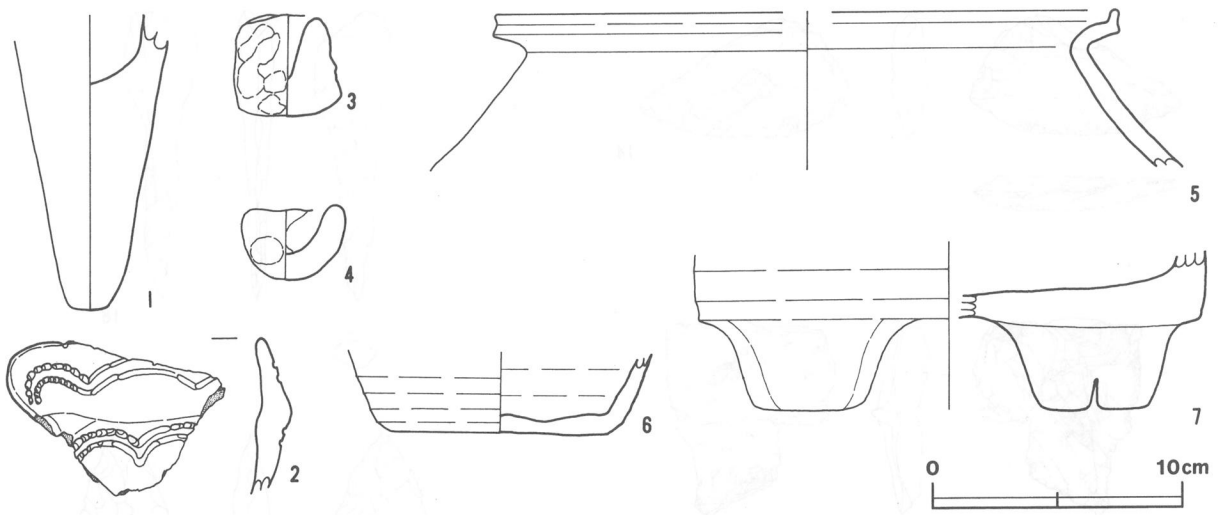
第117图 遺構外出土遺物実測図(1)



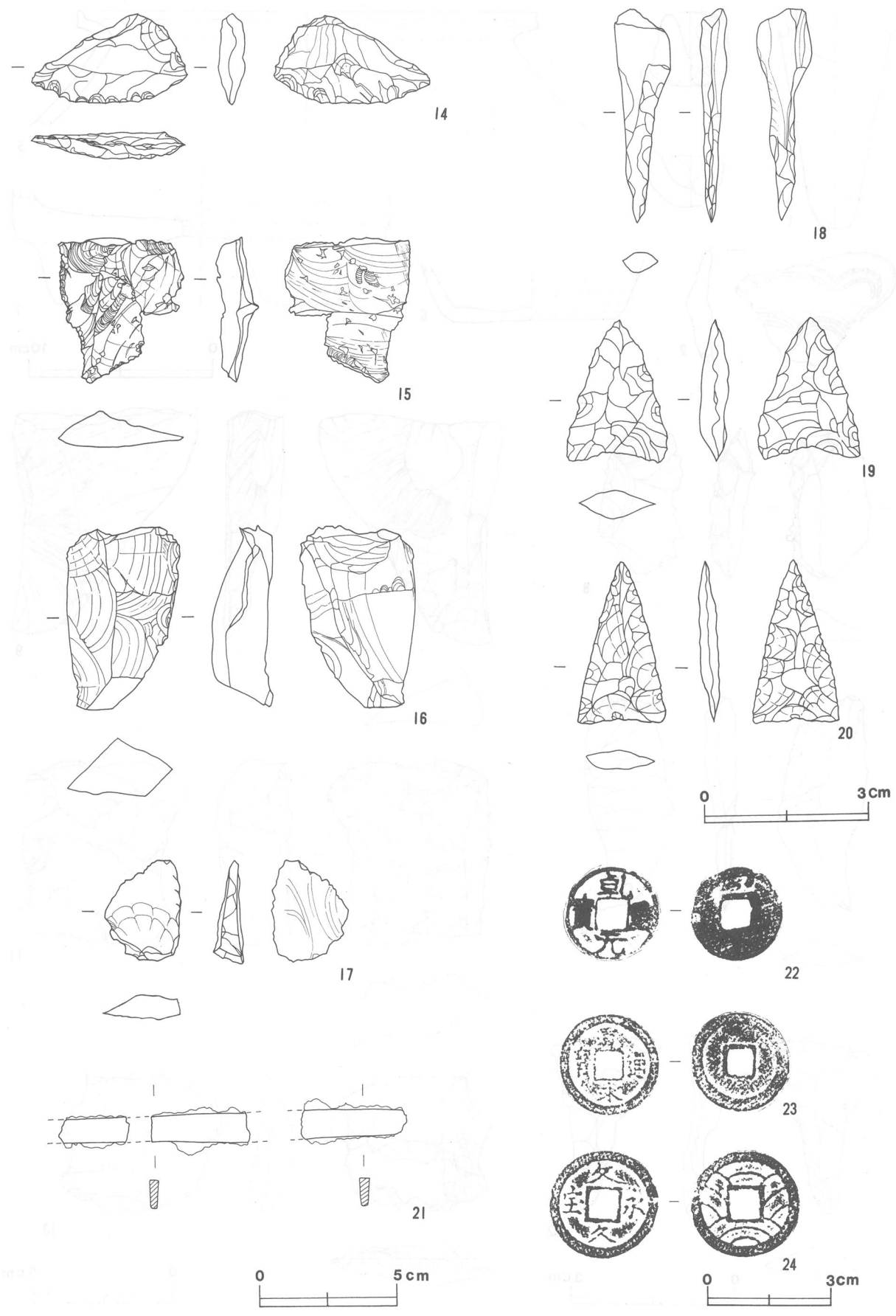
第118图 遺構外出土遺物実測図(2)



第119图 遺構外出土遺物実測図(3)



第120图 遺構外出土遺物実測図(4)



第121图 遺構外出土遺物実測図(5)

第4節 まとめ

今回の調査で寺山遺跡から検出された遺構は、竪穴住居跡5軒、井戸状遺構2基、土坑197基、溝5条、道路跡2条、集石遺構7か所、窯跡1基、不明遺構2基である。時期は、旧石器時代、縄文時代、古墳時代、奈良時代、近世、近代である。ここでは、各時期別に主な遺構と遺物について述べ、まとめをしたい。

1 旧石器時代

第171号土坑から、遺構に伴わない遺物として、ナイフ形石器1点が出土している。石質はガラス質黒色安山岩である。遺構外出土遺物として、ナイフ形石器1点と剥片2点を検出している。石質は、ナイフ形石器がホルンフェルス、剥片がガラス質黒色安山岩と黒曜石である。

2 縄文時代

当該期の遺構として、7か所の集石遺構と2基の不明遺構を確認している。集石遺構は、遺構の位置から北部集石遺構群と南部集石遺構群に分けられる。南部集石遺構群は、調査区域南西部に位置する第1号集石遺構と、それに隣接する第5号集石遺構、第2号集石遺構、第1号集石遺構の東方向に位置する第7号集石遺構で構成されている。第2号集石遺構は、南東側で第1号不明遺構と隣接している。第2号・第7号集石遺構からは、縄文時代前期後葉の浮島式の土器片が出土している。第1号集石遺構からは、縄文時代中期中葉の加曾利EⅡ式の土器片、縄文時代後期中葉加曾利BⅢ式の土器片が出土している。北部集石遺構群は、調査区域北西部に位置する第4号集石遺構と、その南東方向に位置する第3号集石遺構、第6号集石遺構という並びの構成である。第3号集石遺構の南側には、第2号不明遺構が隣接している。北部集石遺構群からは、縄文時代前期後葉の浮島式、興津式の土器片が出土している。各集石遺構からは、安山岩を主な石材とする礫が、集中度は低いものの、多数検出されている。いずれの遺構から出土している礫も焼けており、調理場遺構と推定できる痕跡を残している。

第1号不明遺構は、6か所のピットが円形に、第2号不明遺構は9か所のピットが不整楕円形に巡っている。両遺構のピットとも、住居跡の主柱穴と思えるような配置であるが、内部施設の炉跡や壁等は検出していない。第1号不明遺構としたピットの一つからは、縄文時代前期後葉の十三菩提式の土器片が出土している。第2号不明遺構からも、同様に十三菩提式と浮島式の土器片、縄文時代中期前葉の下小野式の土器片が出土している。

本跡では、上記の時期以外の遺物も出土している。遺構外から、縄文時代早期中葉の田戸下層式の土器片、縄文時代前期前葉の花積下層式・黒浜式等、縄文時代中期の阿玉台式・加曾利EⅠ式、縄文時代後期の安行式の土器片を検出している。特に、遺物の出土量は、浮島式・興津式の土器片が圧倒的に多い。また、県内で出土例の少ない十三菩提式の土器片は、貴重な資料になるとと思われる。

3 古墳時代

この時代の遺構としては、調査区域西部から竪穴住居跡4軒が検出されている。時期別にみると、調査区域南寄りの第2号住居跡と第4号住居跡の2軒と、それより中央寄りの第3号住居跡と第5号住居跡とに二分できる。

第2・4号住居跡はともに内部施設に炉をもち、規模と平面形においても類似点がある。検出された遺物は、どちらの遺構とも5世紀後半の様相を呈している。第3・5号住居跡は、ともに内部施設として北壁中央部に竈をもつ。支柱穴も各コーナー部に寄った位置から検出されており、こちらの住居跡の形態にも類似点がある。出土遺物は、二つの遺構とも6世紀後半のものである。

古墳時代中期と後期の住居跡が検出されたことから、この時代に小集落が形成されたことが明らかになった。また、遺跡が涸沼川左岸の台地縁辺部という地形に立地していることを考えると、調査区域の周辺地域にも集落が続いている可能性が高い。

4 奈良時代

当該期の遺構として、調査区域東部から竪穴住居跡1軒が検出されている。8世紀前半の遺構と思われる。出土遺物は、甕を主体とする多量の土師器片があり、坏の口縁部を中心とする須恵器片と土製品、鉄製品も少量検出している。出土している須恵器坏の胎土には、白色針状物質が含まれている。また、底部は回転ヘラ切り技法で切り離した後、回転ヘラ削りの調整が施されている。体部下端は調整されていない。これらのことから、本跡出土の須恵器坏は、木葉下窯で生産されたものと思われる。

5 近世

この時代の遺構として、第182号と第192号の土坑を確認している。2基とも調査区域西部に位置している。第182号土坑からは唐津系の陶器片が、第192号土坑からは瀬戸・美濃系の陶器片が出土している。時期は、出土遺物から、第182号土坑は17世紀後葉以降、第192号土坑は17世紀前葉以降と思われる。性格は明らかにできなかった。

6 近代

当該期の遺構として、調査区域西部に位置している第1号窯跡と第224～226号土坑を検出している。第1号窯跡は、平面が長方形の小規模な平窯である。

出土遺物として、操業時の窯体を推定できる量の窯壁材は検出できていない。燃焼室の側面壁は、粘土と補強剤としての焼台とで構築されている。焼台は、上面を燃焼室側に向け横倒しの状態で、3段重ねで転用されている。焼台の構築材への転用例は、栃木県益子町大羽の地藏院窯跡でも見られる。(1) 遺構中央部から南西コーナー部にかけて、窯壁材と見られる耐火煉瓦と破損した焼台が多く検出された。この焼台は窯壁材へ転用された可能性がある。第1号窯跡、第224～226号土坑出土の焼台破片には接合関係があり、ほぼ完形に接合された焼台が多数確認されている。第224号土坑からは、耐火煉瓦3点が出土している。このことから、第1号窯の操業停止以降、窯壁材が上記土坑に廃棄されたものと思われる。

本跡からは、本跡で焼成されたと確認できる製品は出土していない。しかし、焼成室にかなりの高温になったと思われる痕跡があり、陶器の窯道具としての焼台が多数出土している。また、窯出しのかけらやかけら場も検出されていないが、かけらをシャモット（素焼素地などの不用品を粉末にしたもの）にし、原料として再利用すれば、かけら等が検出されないこともうなずける。窯壁材に転用された焼台は、他の本焼窯で使用されたものを、再利用したものと思われる。このように考えると、陶器の素焼きを行った可能性は高いと思われる。しかし、遺構の位置している地形、規模、焚口部を東側にもつ構造等、陶器を焼成した窯跡としては特異な点も多い。

本跡は、近代窯跡の稀少な例として貴重な資料である。友部町には、近世末からの陶器窯として操業している宍戸焼があり、隣接する笠間市の笠間焼もよく知られている。宍戸焼、笠間焼との関連等は今後解明すべき課題といえよう。

註

(1) 国土館大学文学部考古学研究室 『益子の近代陶業遺跡』 1992年3月

参考文献

小林達雄 小川忠博 『縄文土器大観1』 小学館 1989年4月

瓦吹堅 「北茨城市の陶器窯跡と窯道具について」『北茨城市史壇6』 北茨城市史編さん委員会 1986年3月

茨城県立歴史館 「笠間焼について」『笠間焼200年のあゆみ』 1997年2月

第4章 東平遺跡

第1節 遺跡の概要

東平遺跡は、友部町の北西部、涸沼川右岸の標高42～55mほどの丘陵地の南斜面に所在している。調査区域は、幅約140m、長さ約84m、面積5,896㎡であり、調査前の現況は山林である。

今回の調査によって、住居跡40軒（縄文時代早期1軒、古墳時代前期1軒、古墳時代後期1軒、平安時代37軒）、土坑95基（縄文時代7基、古墳時代1基、平安時代1基、時期不明86基）、溝10条（平安時代2条、近世1条、時期不明7条）、不明遺構6基を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に20箱出土した。縄文時代早期の住居跡からは縄文土器片が出土している。古墳時代前期の住居跡からは、弥生土器片と土師器が出土している。古墳時代後期の住居跡からは土師器、平安時代の住居跡からは土師器・須恵器・金属製品が出土している。遺構外からは、弥生土器片・古銭が出土している。

第2節 基本層序

調査区内（B1is区）にテストピットを掘り、基本土層の観察を行った。（第122図）

第1層は、25～40cmの厚さの耕作土層で、黒褐色をしている。ローム粒子を少量含んでいる。

第2層は、5～30cmの厚さで、褐色をしている。今市・七本桜ロームに由来すると思われる赤褐色スコリア粒子と黄白色スコリア粒子を極微量含んでいる。

第3層は、10～30cmの厚さで、明黄褐色をしたソフトローム層である。炭化粒子と火山ガラス粒子を極微量含んでいる。

第4層は、10～20cmの厚さで、黄褐色をしたハードローム層である。炭化粒子と火山ガラス粒子を極微量含んでいる。

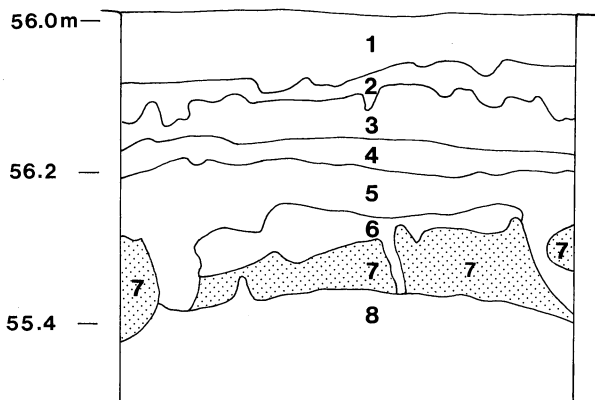
第5層は、20～35cmの厚さで、オリーブ褐色をしたハードローム層である。炭化粒子と火山ガラス粒子を極微量含んでいる。

第6層は、5～30cmの厚さで、にぶい黄褐色をしたハードロームと鹿沼パミスの混合土である。鹿沼パミス大・小ブロックを多量、鹿沼パミス中ブロック・粒子を中量含んでいる。

第7層は、15～45cmの厚さで、明黄褐色をした鹿沼パミスの純粋層である。

第8層は、10～15cmの厚さで、暗褐色のハードローム層である。

住居跡などの遺構は、第2層上面で確認した。



第122図 東平遺跡基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 竪穴住居跡

当遺跡からは、縄文時代の竪穴住居跡1軒（第41号住居跡）、古墳時代の竪穴住居跡2軒（第1・10号住居跡）、平安時代の竪穴住居跡37軒が確認されている。以下、遺構番号順に記載する。

第1号住居跡（第123図）

位置 調査区北西部，A2j5区。

重複関係 本跡の北部が第10号土坑を，本跡の南東部が第23号土坑を掘り込んでいるので，いずれよりも本跡が新しい。

規模と平面形 一辺3.50mの方形である。

主軸方向 N-22°-E

壁 壁高は30～60cmで，外傾して立ち上がっている。

壁溝 壁下を全周している。上幅7～16cm，下幅4～14cm前後，深さ5～10cmで，断面形は緩やかなU字状である。

床 中央部にわずかに凹凸が見られるものの，全体的には平坦である。

ピット 6か所（P1～P6）。P1～P6は，長径20～40cm，短径15～38cmの円形及び楕円形で，深さ14～45cmの柱穴である。P1は北東コーナー部，P6は北西コーナー部，P3・P4は南壁際に，P2は東壁中央部寄りに，P5は西壁中央部に位置している。

竈 北壁中央部を壁外に35cmほど掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は長さ105cm，幅80cmである。火床面は，浅い皿状を呈し，赤変硬化している。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|---|----------|--|
| 1 灰褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量，ローム小ブロック・
焼土粒子極微量 | 3 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量，焼土小ブロック・粘土粒子少量，
焼土中ブロック・小石微量 |
| 2 にぶい褐色 | 粘土粒子中量，焼土粒子少量，ローム粒子・焼土
小ブロック微量，ローム小ブロック極微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量，焼土中ブロック微量，焼土粒子
極微量 |

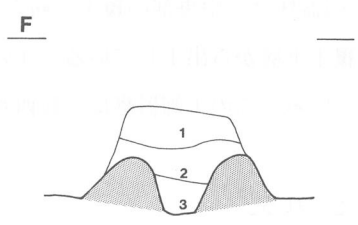
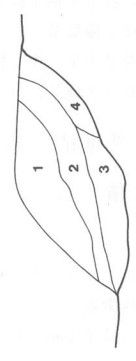
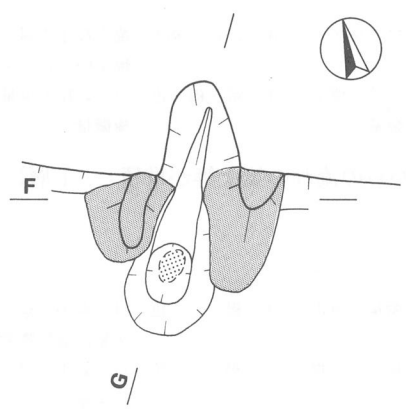
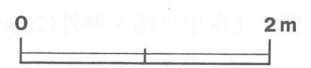
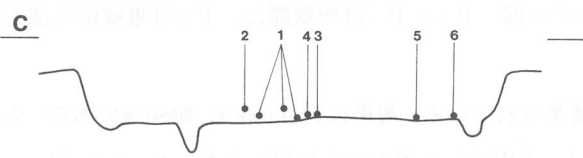
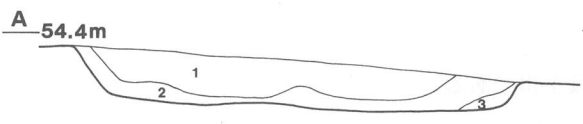
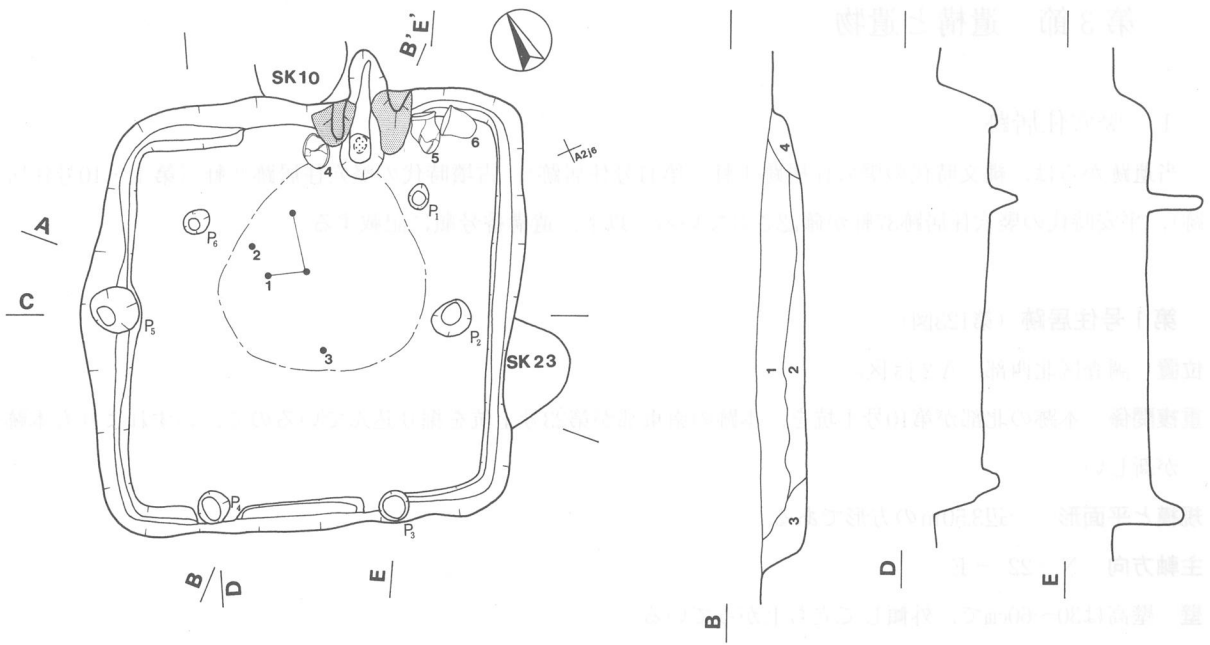
覆土 4層からなる自然堆積である。下層に竈からの流れの焼土等が堆積し，上層にはローム・焼土を含む黒褐色土がレンズ状に堆積する。

土層解説

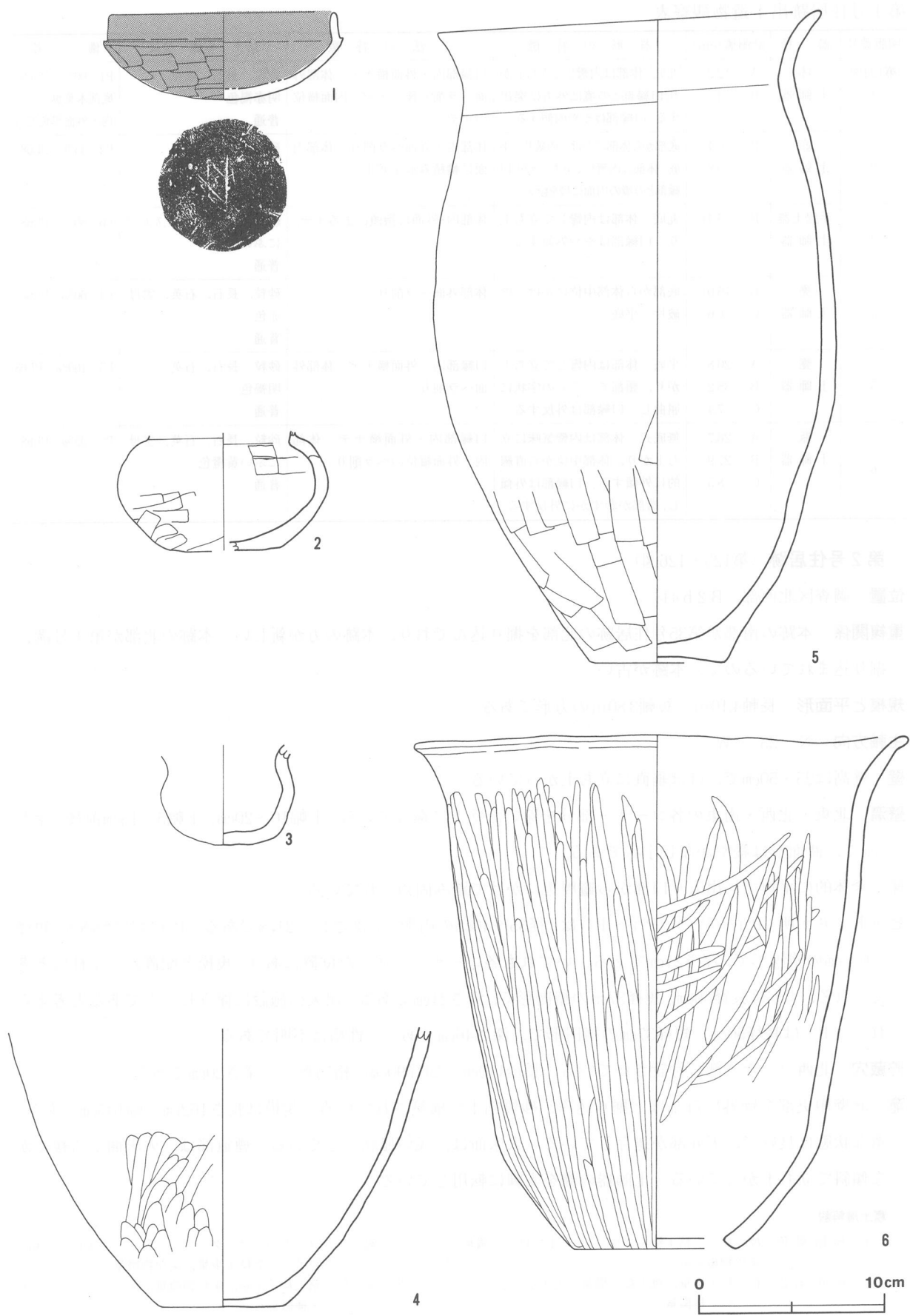
- | | | | |
|-------|---------------------------------|------|------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・粒子少量，炭化物微量，焼土
粒子極微量 | 3 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・黒色小ブロック
少量，炭化物微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化物
微量 | 4 褐色 | ローム小ブロック・粒子中量，焼土粒子・砂質粘
土少量 |

遺物 土師器片39点が出土している。第124図1の土師器坏は，中央部の覆土下層から逆位で，出土している。2の土師器壺，3の土師器手捏土器は，中央部の覆土下層から出土している。4の土師器甕と，6の土師器甌は横位で，竈東側の壁際の覆土下層から出土している。5の土師器甕は，竈西袖の南の覆土下層から横位で，出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から6世紀後半と考えられる。



第123图 第1号住居跡実测图



第124图 第1号住居跡出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第124図 1	坏 土師器	A 12.2 B 4.7	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境は外方に突出する。口縁部はやや内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面横位のナデ。	砂粒、長石、雲母 明赤褐色 普通	P1 90% PL68 底部木葉痕 内・外面黒色処理
2	壺 土師器	B (6.4) C [5.8]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境の内面に稜をもつ。	体部内・外面へラ削り。体部内面に輪積み痕を残す。	砂粒、長石、石英 橙色 普通	P2 35% PL68
3	手捏土器 土師器	B (5.4)	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はやや外傾する。	体部内・外面に指頭によるナデ。	砂粒、長石、石英、雲母、スコリア にぶい橙色 普通	P6 80% PL68
4	甕 土師器	B (15.0) C 6.6	底部から体部中位にかけての破片。平底。	体部外面へラ削り。	砂粒、長石、石英、雲母 赤色 普通	P4 60% PL68
5	甕 土師器	A 20.8 B 35.2 C 7.4	平底。体部は内彎して立ち上がり、頸部で「く」の字状に屈曲し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。	砂粒、長石、石英 明褐色 普通	P3 100% PL68
6	甗 土師器	A 26.7 B 27.9 C 8.5	無底式。体部は内彎気味に立ち上がり、体部中位から直線的に外傾する。口縁部は外傾し、端部がわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面縦位のへラ削り。	砂粒、長石、石英、雲母 にぶい黄褐色 普通	P5 95% PL68

第2号住居跡 (第125・126図)

位置 調査区北西部、B2b6区。

重複関係 本跡の南部が第35号住居跡の北部を掘り込んでおり、本跡の方が新しい。本跡の北部が第1号溝に掘り込まれているので、本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.10m、短軸3.80mの方形である。

主軸方向 N-23°-W

壁 壁高は25~50cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝 北東・北西・南東の各コーナー部分を除いた壁下に巡っている。上幅10~20cm、下幅5~13cm前後、深さ5cmで、断面形は緩やかなU字状である。

床 全体的に平坦で、出入り口部から竈周辺にかけて踏み固められている。

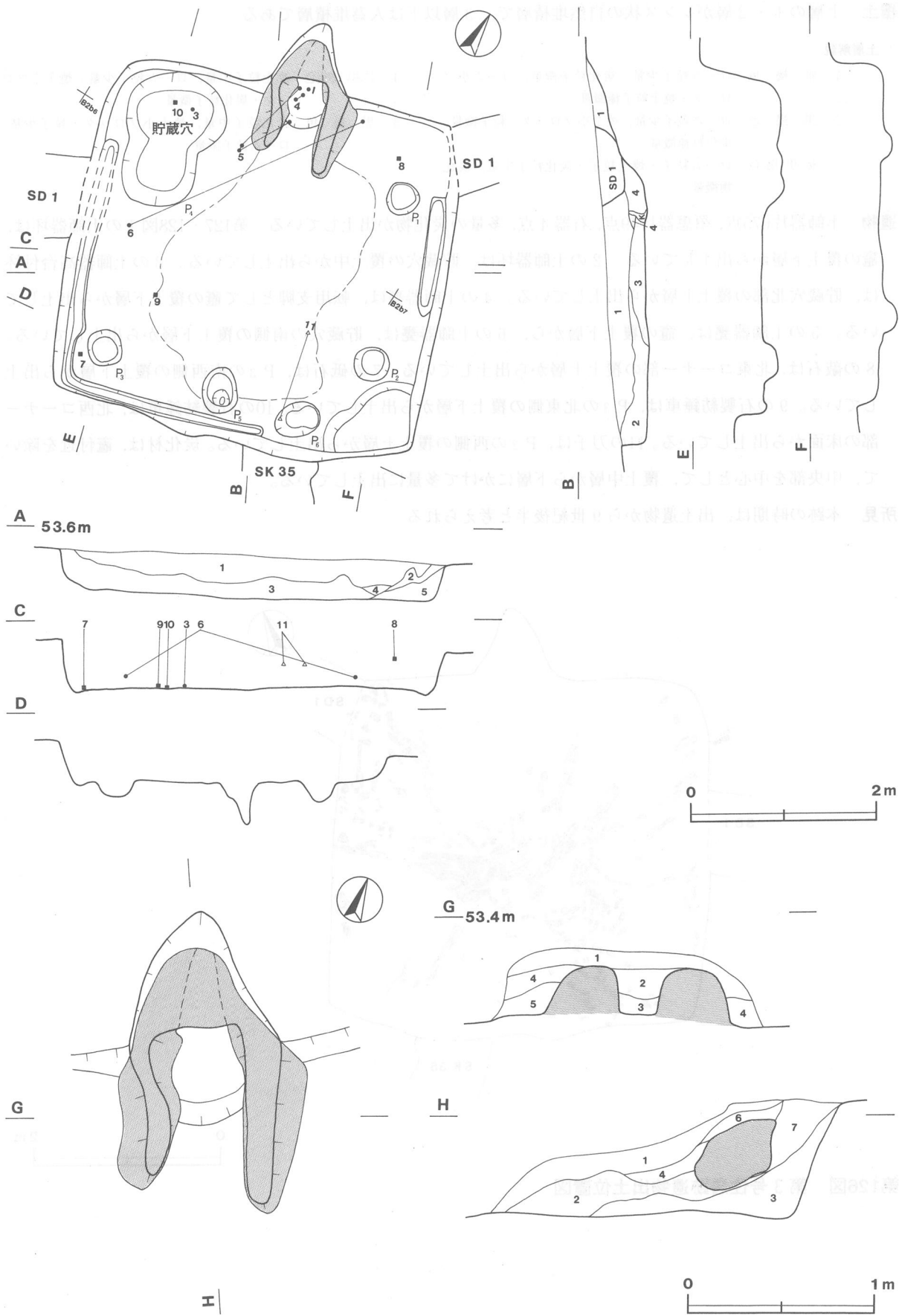
ピット 6か所(P1~P6)。P1~P3は、径35~40cmの円形で、深さ15~21cmである。P4は長径80cm、短径[70]cmの楕円形で、深さ21cmである。いずれも各コーナーに寄った位置にあり、規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は長径50cm、短径37cmの楕円形で、深さ21cmである。出入口施設に伴うピットであると考えられる。P6は長径50cm、短径37cmの楕円形で、深さ46cmである。性格は不明である。

貯蔵穴 北西コーナー部に付設されている。長径110cm、短径90cmの楕円形で、深さ20cmである。

竈 北壁中央部を壁外に71cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は長さ162cm、幅105cmである。遺存状態は良好で、天井部が遺存している。火床面は、浅い皿状をしている。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。土師器の甕を支脚に転用している。

竈土層解説

1 極暗褐色	焼土粒子・粘土粒子少量、ローム小ブロック微量、炭化物極微量	5 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・KP粒子少量、炭化物微量
2 灰黄褐色	粘土粒子中量、焼土粒子微量、焼土小ブロック・炭化粒子極微量	6 黒褐色	粘土粒子中量、炭化物微量、焼土小ブロック・粒子極微量
3 にぶい赤褐色	焼土粒子多量、粘土粒子少量	7 にぶい赤褐色	焼土粒子・粘土粒子少量、焼土小ブロック・炭化物極微量
4 極暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量、ローム粒子微量		



第125図 第2号住居跡実測図

覆土 上層の1・2層がレンズ状の自然堆積層で、3層以下は人為堆積層である。

土層解説

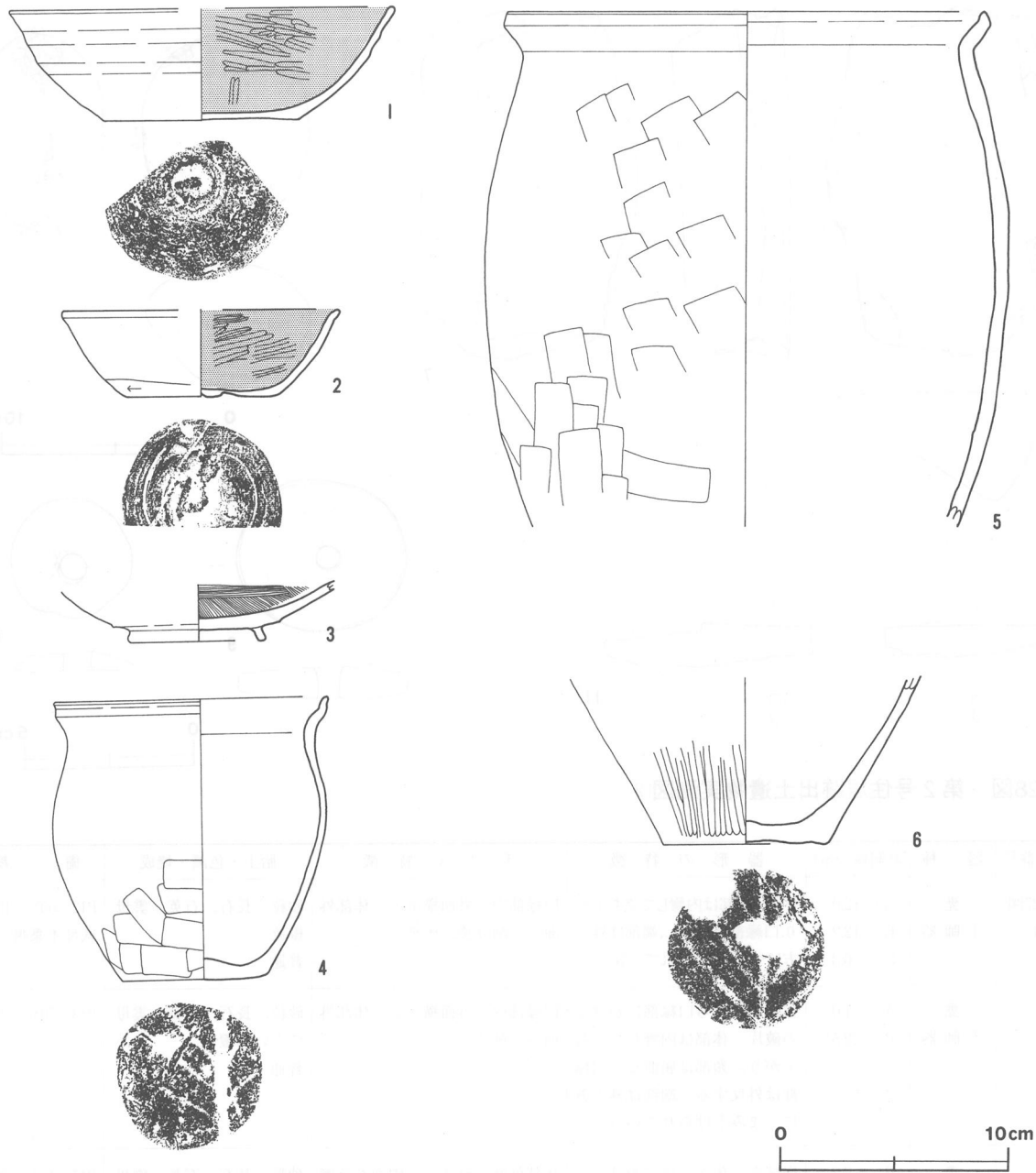
- | | | | |
|--------|---------------------------------|----------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量，ローム小ブロック・焼土粒子極微量 | 4 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量，ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土小ブロック・粒子微量，炭化材極微量 | 5 黒褐色 | 炭化粒子中量，焼土小ブロック・粒子少量，ローム粒子微量 |
| 3 極黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，炭化物微量 | | |

遺物 土師器片675点，須恵器片49点，石器4点，多量の炭化物が出土している。第127・128図1の土師器坏は，竈の覆土下層から出土している。2の土師器坏は，貯蔵穴の覆土中から出土している。3の土師器高台付坏は，貯蔵穴北部の覆土上層から出土している。4の土師器甕は，転用支脚として竈の覆土下層から出土している。5の土師器甕は，竈の覆土下層から，6の土師器甕は，貯蔵穴の南側の覆土下層から出土している。8の敲石は，北東コーナー部の覆土上層から出土している。7の砥石は，P3の南西側の覆土下層から出土している。9の石製紡錘車は，P3の北東側の覆土下層から出土している。10の石製紡錘車は，北西コーナー部の床面から出土している。11の刀子は，P2の西側の覆土上層から出土している。炭化材は，竈付近を除いて，中央部を中心として，覆土中層から下層にかけて多量に出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から9世紀後半と考えられる。



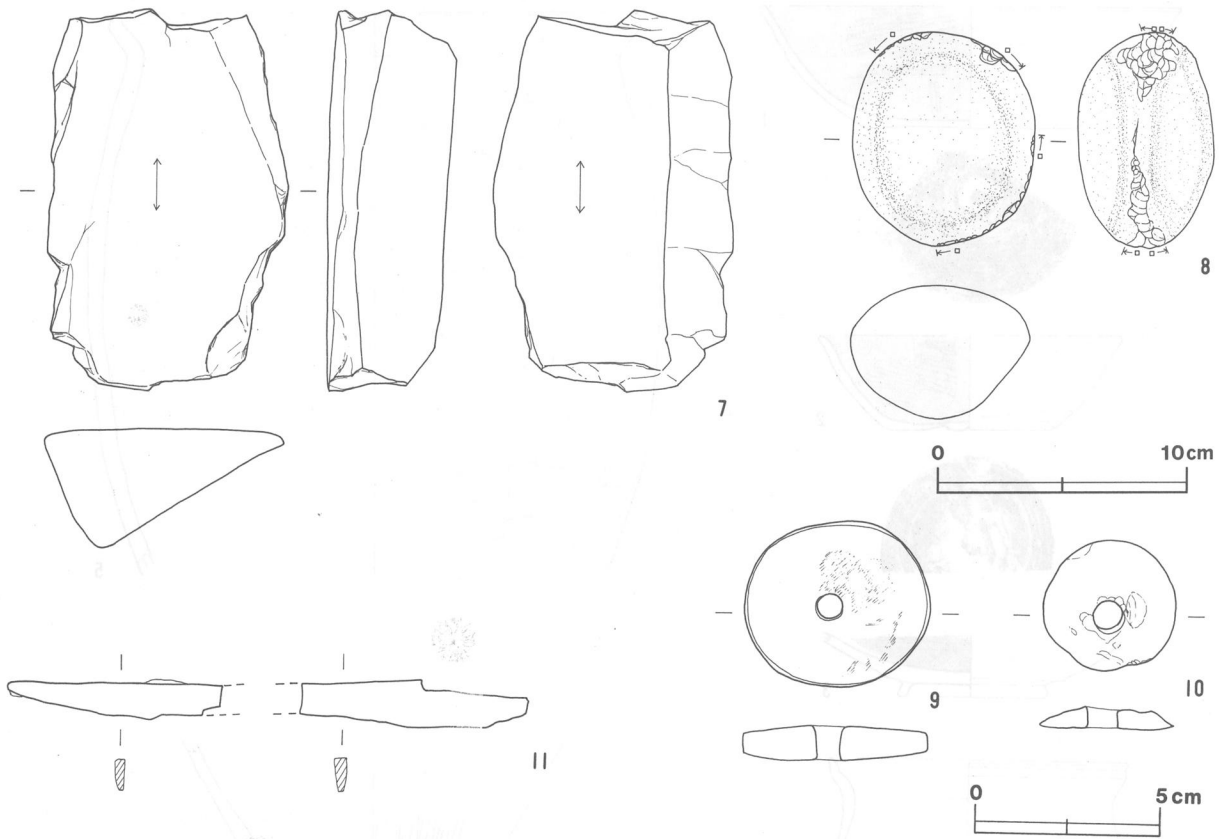
第126図 第3号住居跡遺物出土位置図



第127図 第2号住居跡出土遺物実測図(1)

第2号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第127図 1	坏 土師器	A [14.4] B 7.4 C 8.6	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面へら磨き。底部回転へら切り後、回転へら削り。	砂粒、長石、石英、雲母、スコリア にぶい黄橙色 普通	P7 25% PL68 内面黒色処理
2	坏 土師器	A [12.2] B 3.8 C 6.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。体部内面へら磨き。底部回転へら切り後、回転へら削り。	砂粒、長石、石英、礫、スコリア にぶい橙色 普通	P9 40% PL68 内面黒色処理
3	高台付坏 土師器	B (2.5) D 6.0 E 0.5	底部から体部下位にかけての破片。平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部内面へら磨き。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒、長石、雲母 明褐色 普通	P11 45% PL68



第128図 第2号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第127図 4	甕 土師器	A 12.0 B 12.2 C 6.3	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反し、端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後、ナデ。	砂粒、長石、石英、雲母 橙色 普通	P12 60% PL69 底部木葉痕
5	甕 土師器	A 21.0 B (22.5)	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部は屈曲し、口縁部は外反する。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。	砂粒、長石、石英、雲母 にぶい黄橙色 普通	P13 70% PL69
6	甕 土師器	B (7.3) C 7.2	底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部外面へら削り。内面へら磨き。	砂粒、長石、石英、雲母 褐色 普通	P15 10% PL69 底部木葉痕

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第128図7	砥石	10.2	6.4	3.2	241	凝灰岩	覆土	Q2 PL78
8	敲石	8.6	7.4	5.3	459	砂岩	覆土	Q1 PL78

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第128図9	紡錘車	4.9	1.0	0.8	30	泥岩	覆土	Q3 PL78
10	紡錘車	3.6	0.5	0.8	8	泥岩	覆土	Q4 PL78

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第128図11	刀子	(11.7)	1.3	0.4	(10.0)	覆土	M1 PL79

第3号住居跡 (第129・130図)

位置 調査区中央部, B2e9区。

重複関係 本跡が第10号住居跡の南東部を掘り込んでいて, 本跡が新しい。

規模と平面形 斜面に立地し, 南壁は残存していないため, 正確な規模は不明であるが, 長軸5.18m, 短軸4.83mほどの方形と推定される。

主軸方向 N-10°-W

壁 壁高は20~35cmで, ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝 南東コーナー部から南西コーナー部を除いた壁下を巡っている。上幅22~26cm, 下幅3~10cm, 深さ6~10cmで, 断面形はU字状である。

床 全体的に平坦である。竈付近から中央部西側にかけて踏み固められている。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4の4か所は, 長径54~69cm, 短径48~65cmの円形で, 深さ50~92cmである。いずれも各コーナー部に寄った位置から検出され, 規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は径29cmの円形で, 深さ13cmの出入口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部を壁外に60cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は長さ158cm, 幅110cmである。火床面は浅い皿状をしている。煙道部は, 火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。天井部の構築材の一部が崩落し, 竈の覆土に残存している。

竈土層解説

1 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・KP粒子微量, 焼土小ブロック・炭化物極微量	5 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子極微量
2 褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量	6 にぶい赤褐色	焼土粒子中量, 焼土小ブロック・粘土小ブロック微量, ローム小ブロック極微量
3 灰褐色	焼土粒子・粘土小ブロック少量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック微量	7 にぶい褐色	KP粒子中量, 焼土粒子微量
4 灰赤色	焼土粒子・粘土小ブロック少量, 焼土小ブロック		

覆土 6層からなる自然堆積である。

土層解説

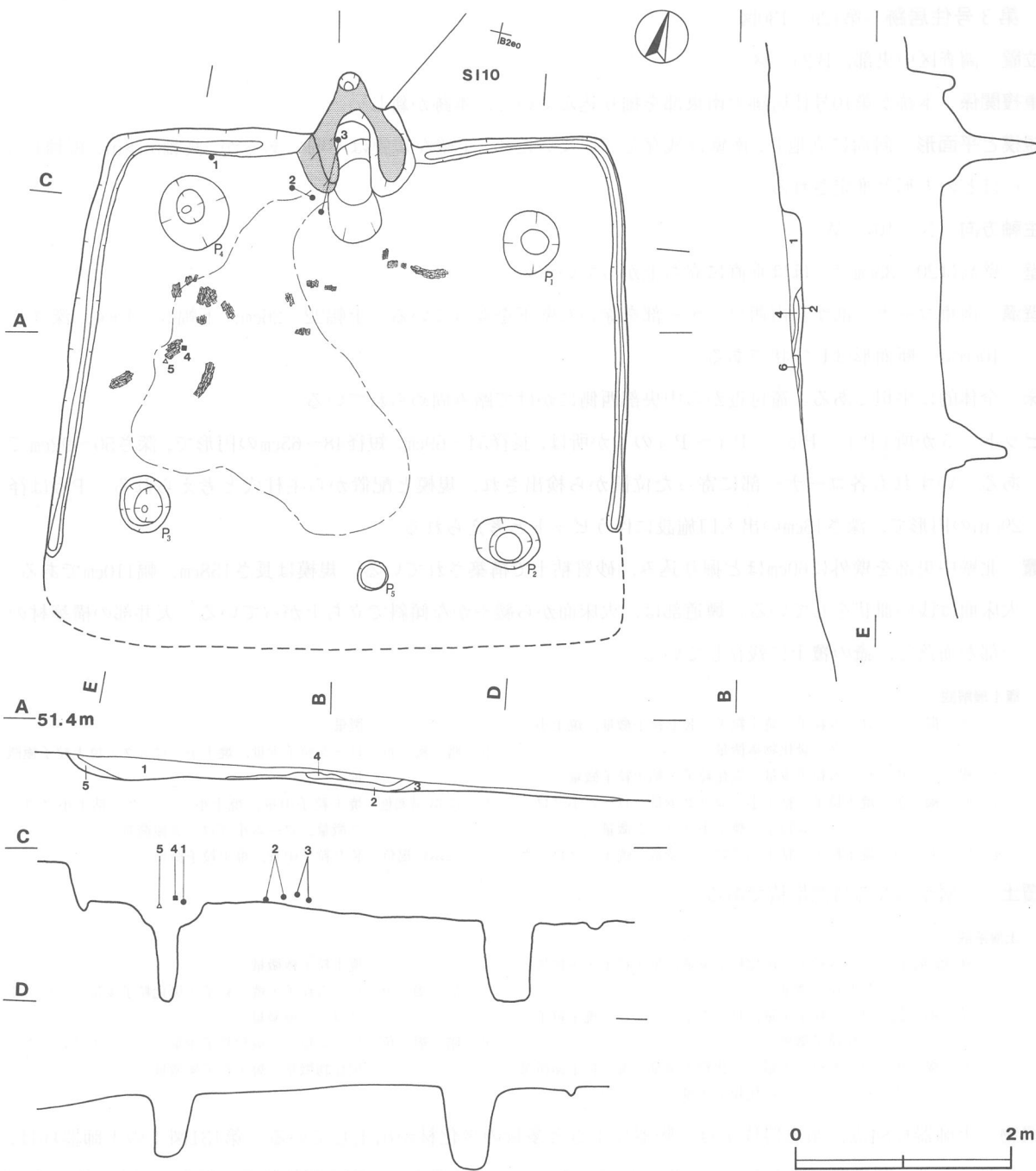
1 極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子・炭化物・KP粒子微量	5 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量, ローム中ブロック極微量
2 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック・炭化物微量, 焼土粒子極微量
3 暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量, 焼土粒子極微量		
4 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック・		

遺物 土師器片84点, 須恵器片1点, 陶器片1点と多量の炭化材が出土している。第131図1の土師器坏は, 北西コーナー部付近の覆土下層から出土している。2の土師器甕は, 竈西側袖付近の覆土下層から出土している。3の土師器甕は, 竈の覆土下層から出土している。4の砥石と5の刀子は, とともに中央部の西壁寄りの覆土下層から出土している。炭化材は, 竈寄りの中央部と西壁側のP3とP4までの間に点在して, 覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形状や出土遺物から, 9世紀後半から10世紀前半と考えられる。

第3号住居跡出土遺物観察表

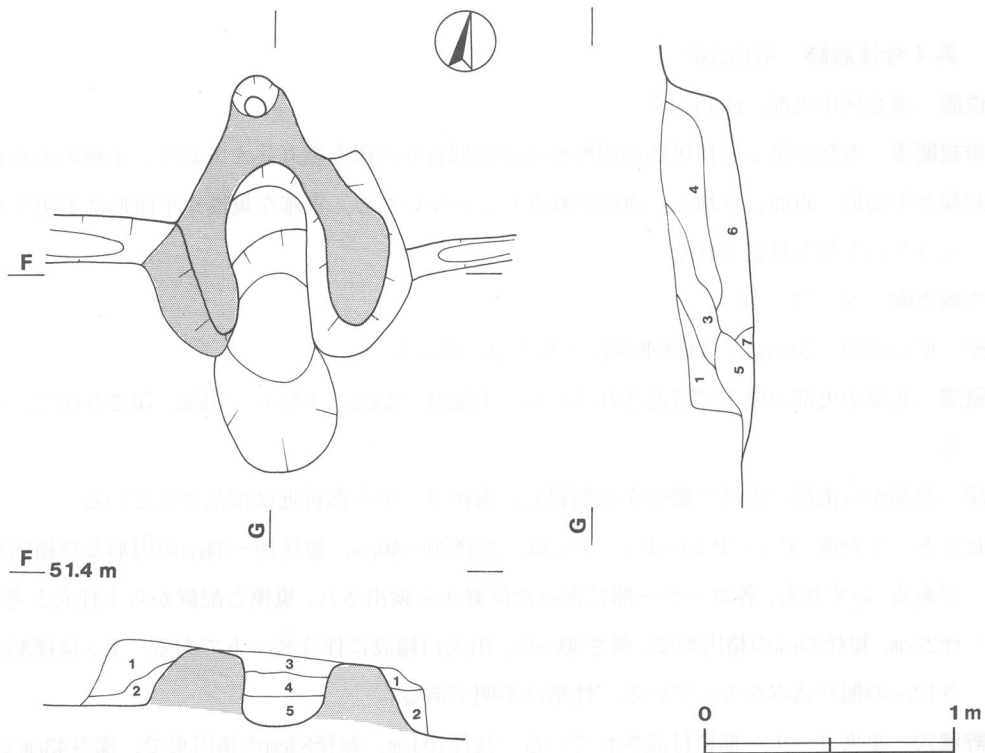
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第131図 1	坏 土師器	A 14.3	平底。体部は内彎して立ち上がり, 体部中位から直線的に延び, 口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り後, 回転ヘラ削り。	砂粒, 雲母 明褐色 普通	P17 100% PL69 底部外面墨書「廿」 内面黒色処理底部 外面ヘラ記号「ハ」
		B 4.2				
		C 6.1				



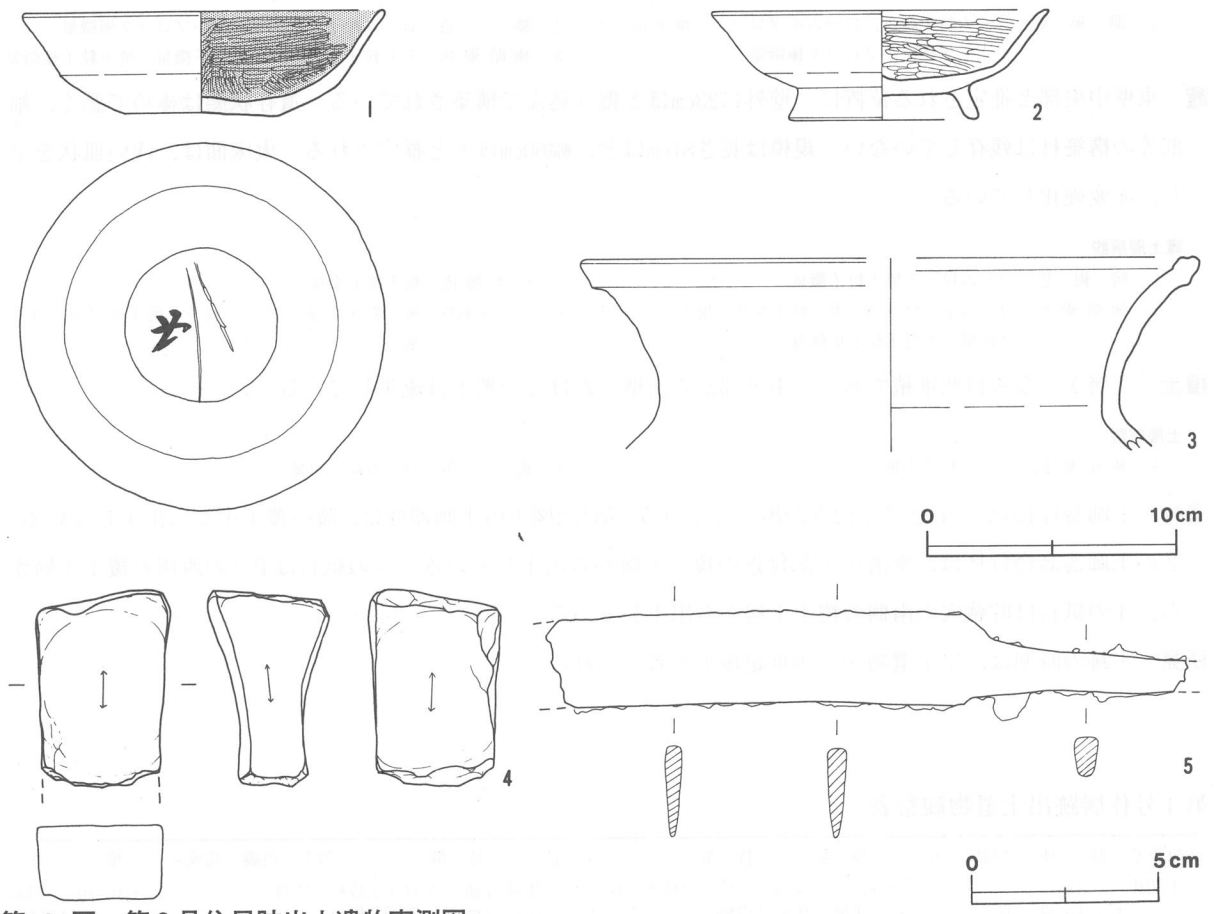
第129図 第3号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第131図 2	高台付坏 土師器	A 13.5	平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒、長石、石英、雲母にぶい橙色普通	P18 95% PL69
		B 4.3				
		D 7.6				
		E 1.4				
3	甕 土師器	A [24.7]	頸部から口縁部かけての破片。頸部が「く」の字状に屈曲する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒、長石、石英、雲母にぶい褐色普通	P19 10% PL69
		B (7.7)				

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第131図4	砥石	5.3	3.5	2.0	64	凝灰岩	覆土	Q5 PL78



第130図 第3号住居跡竈実測図



第131図 第3号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第131図5	刀 子	(16.8)	2.1	0.5	(66.0)	覆 土	M3 PL79

第4号住居跡（第132図）

位置 調査区中央部，B3j3区。

重複関係 本跡が第5号住居跡の南壁から中央部寄りの床を掘り込んでおり，本跡の方が新しい。

規模と平面形 斜面に立地し，南壁が残存していないため，正確な規模や平面形は不明であるが，一辺〔3.80〕mほどの方形と推定される。

主軸方向 N-73°-E

壁 壁高は12~20cmで，ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝 北壁中央部の壁下で確認されている。上幅21~25cm，下幅6~10cm，深さ9cmで，断面形はU字状である。

床 北部から南部にかけて緩やかに傾斜し，南西コーナー部付近は攪乱されている。

ピット 5か所（P1~P5）。P1~P3は，長径20~40cm，短径19~34cmの円形及び楕円形で，深さ10~35cmである。いずれも，各コーナー部に寄った位置から検出され，規模と配置から主柱穴と考えられる。P4は長径27cm，短径23cmの楕円形で，深さ30cmの，出入口施設に伴うピットである。P5は径30cmほどの円形で，深さ12cmの掘り込みをもっている。性格は不明である。

貯蔵穴 北東コーナー部に付設されている。長径104cm，短径83cmの楕円形で，深さ43cmである。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------------|------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・黒色土小ブロック極微量 | 2 褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック極微量 |
| 3 極暗褐色 | KP粒子少量，ローム粒子微量，焼土粒子極微量 | | |

竈 東壁中央部と推定される位置に，壁外に23cmほど掘り込んで構築されている。遺存状態は極めて悪く，袖部等の構築材は残存していない。規模は長さ81cmほど，幅60cmほどと推定される。火床面は，浅い皿状を呈し，赤変硬化している。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------------|----------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 暗赤褐色 | 焼土粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子少量，焼土小ブロック微量，黒色土粒子極微量 | 4 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量，ローム粒子・焼土小ブロック少量 |

覆土 2層からなる自然堆積である。中央部から南壁にかけての覆土は流失している。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------|------|---------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量 | 2 褐色 | ローム粒子中量 |
|--------|---------|------|---------|

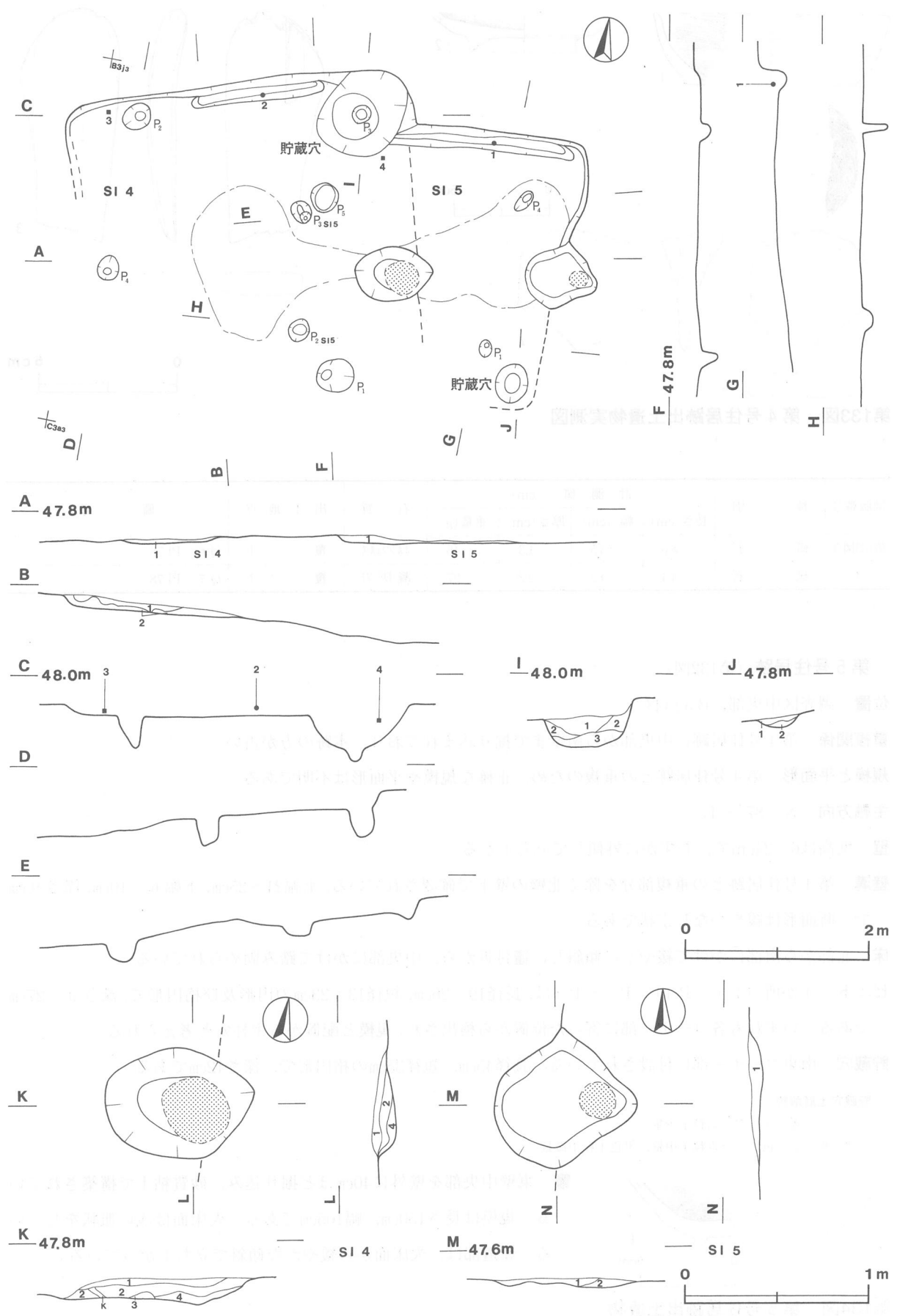
遺物 土師器片134点，須恵器片12点が出土している。第133図1の土師器坏は，竈の覆土中から出土している。

2の土師器高台付坏は，壁溝中央部付近の覆土下層から出土している。3の砥石はP2の西側の覆土下層から，4の砥石は貯蔵穴の南側の覆土下層から出土している。

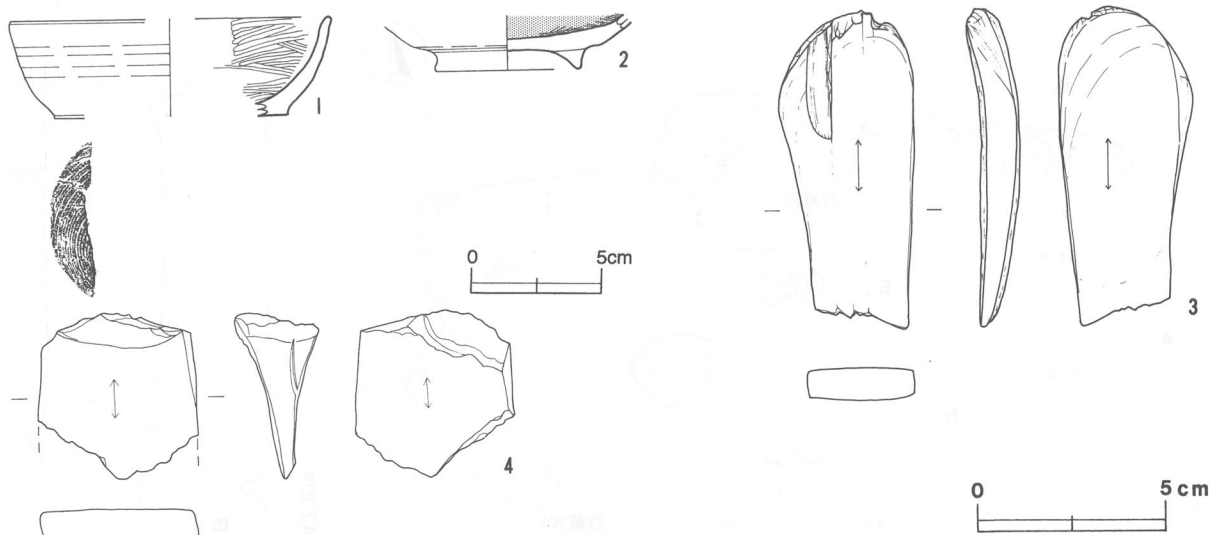
所見 本跡の時期は，出土遺物から10世紀後半と考えられる。

第4号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第133図 1	坏 土師器	A [13.0] B 3.9 C [9.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁端部はわずかに，外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。底部回転糸切り。	砂粒，雲母 橙色 普通	P20 10% PL68
2	高台付坏 土師器	B (2.2) D 5.9 E 0.8	底部から体部下位にかけての破片。平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。高台貼り付け後，ナデ。	砂粒，雲母 にぶい橙色 普通	P21 30% PL68 内面黒色処理



第132图 第4・5号住居跡実測图



第133図 第4号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値 (cm)				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第133図3	砥石	8.5	3.5	1.3	46	ホソフェルス	覆土	Q6 PL78
4	砥石	(4.4)	4.2	2.2	27	凝灰岩	覆土	Q7 PL78

第5号住居跡 (第132図)

位置 調査区中央部, B3j4区。

重複関係 第4号住居跡に中央部から南壁まで掘り込まれており, 本跡の方が古い。

規模と平面形 第4号住居跡との重複のため, 正確な規模や平面形は不明である。

主軸方向 N-87°-E

壁 壁高は6~24cmで, わずかに外傾して立ち上がる。

壁溝 第4号住居跡との重複部分を除く北壁の壁下で確認されている。上幅21~25cm, 下幅6~10cm, 深さ9cmで, 断面形は緩やかなU字状である。

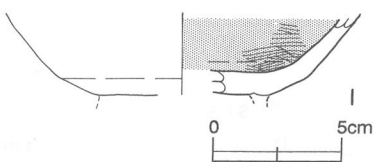
床 北部から南部にかけて緩やかに傾斜し, 竈付近から, 中央部にかけて踏み固められている。

ピット 4か所 (P1~P4)。P1~P4は, 長径19~26cm, 短径13~23cmの円形及び楕円形で, 深さ9~27cmである。いずれも各コーナー部に寄った位置から検出され, 規模と配置から支柱穴と考えられる。

貯蔵穴 南東コーナー部に付設されている。長径45cm, 短径35cmの楕円形で, 深さ12cmである。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 黒色土粒子微量



竈 東壁中央部を壁外に40cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は長さ150cm, 幅105cmである。火床面は浅い皿状をしている。煙道部は, 火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

第134図 第5号住居跡出土遺物実測図

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子・山砂粒子少量, ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子極微量
2 にぶい赤褐色 焼土粒子微量, 焼土小ブロック極微量

覆土 単一層でなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量

遺物 土師器片73点が出土している。第134図1の土師器高台付坏は、北壁中央部の壁際の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀後半と考えられる。

第5号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第134図 1	高台付坏 土師器	B (22)	底部から体部中位にかけての破片。高台は接合面から剥離している。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。体部下端回転ヘラ削り。高台貼り付け。	砂粒, 雲母にぶい橙色 普通	P22 30% PL69 内面黒色処理

第6号住居跡 (第135図)

位置 調査区中央部, B3j5区。

重複関係 第22号土坑に南西コーナー部を床まで掘り込まれており、本跡の方が古い。

規模と平面形 北東部が調査区域外に延びているため、正確な規模や平面形は不明である。一辺5mほどの方形と推定される。

主軸方向 N-7°-W

壁 壁高は15~35cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝 第22号土坑との重複部分を除き、壁下を巡っている。上幅8~24cm, 下幅3~14cm, 深さ10cmで、断面形はU字状である。

床 西部から東部にかけては緩やかに傾斜している。中央部から東部にかけて踏み固められている。

ピット 4か所(P1~P4)。P1~P3は、長径18~60cm, 短径16~50cmの円形及び楕円形で、深さ13~60cmである。いずれも、各コーナー部に寄った位置から検出され、規模と配置から支柱穴と考えられる。P4は長径44cm, 短径37cmの楕円形で、深さ45cmである。出入口施設に伴うピットである。

貯蔵穴 北西コーナー部に付設されている。長径70cm, 短径52cmの楕円形で、深さ28cmである。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック少量, ローム小ブロック・粒子微量, 焼土中ブロック極微量

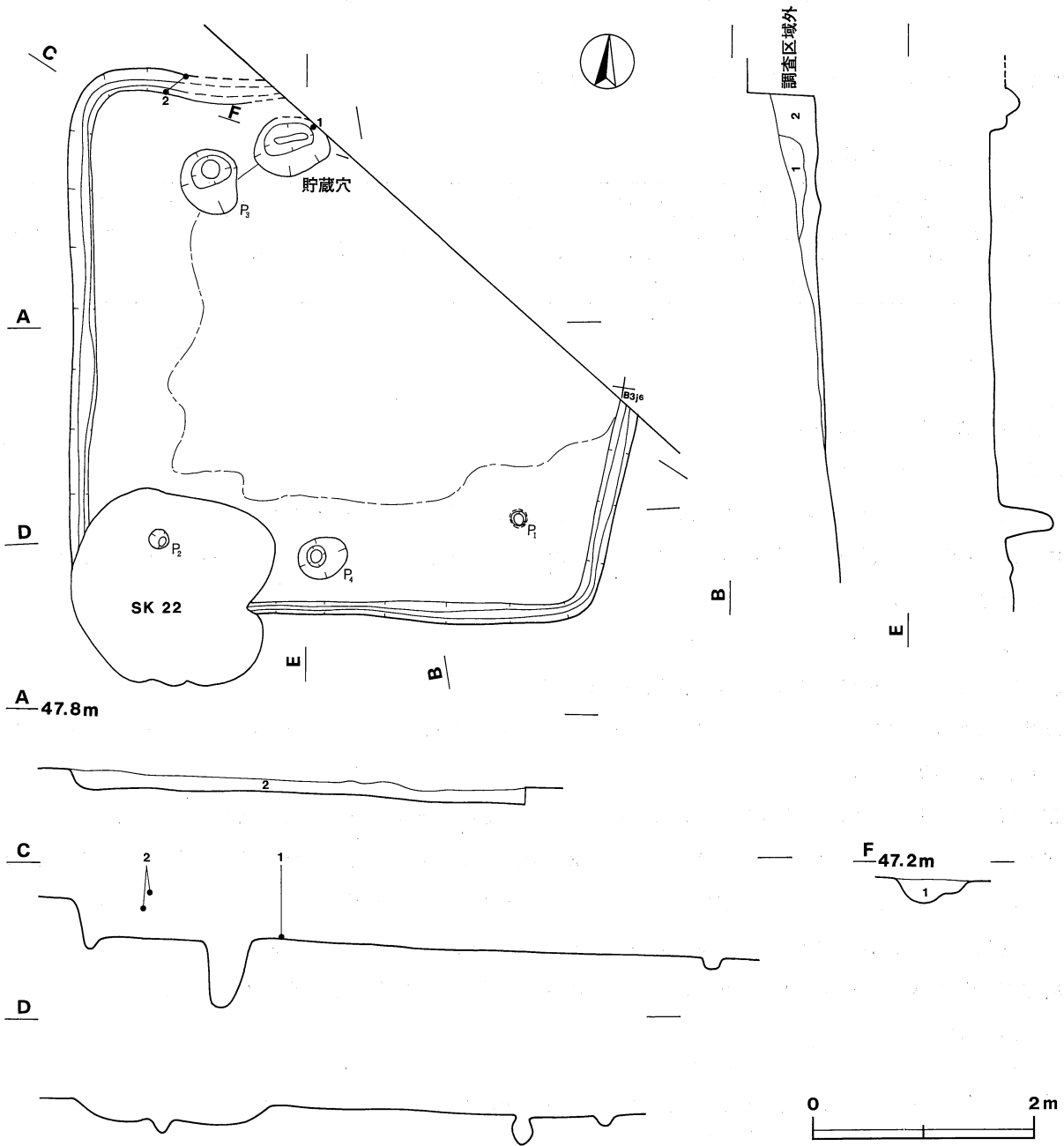
覆土 2層からなる自然堆積である。中央部から南壁にかけての覆土は流失している。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック極微量

遺物 土師器片182点, 須恵器片3点, 陶器片1点, 土製品1点が出土している。第136図1の土師器高台付坏は, 貯蔵穴の東側の床面から出土している。2の土師器高台付坏は, 北西のコーナー部の覆土上層から出土している。3の土製紡錘車は, 南側の覆土中から出土している。陶器片は攪乱により混入したものと思われる。

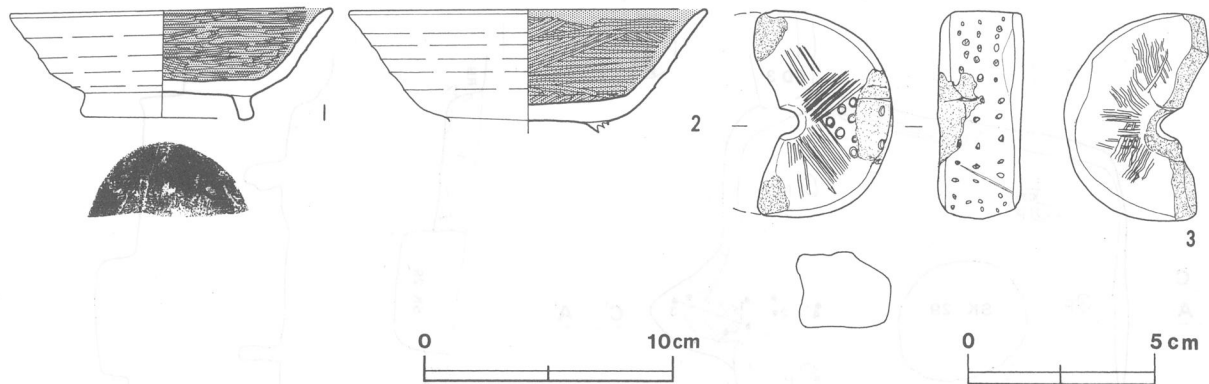
所見 本跡の時期は, 出土遺物から9世紀後半から10世紀前半と考えられる。



第135図 第6号住居跡実測図

第6号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第136図 1	高台付坏 土師器	A 12.9 B 4.6 D 6.7 E 1.0	平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。高台貼り付け後, ナデ。	砂粒, 長石, 石英 明赤褐色 普通	P23 100% PL69 内面黒色処理 底部外面ヘラ記号「 」



第136図 第6号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
2	高台付坏土師器	A 14.4 B (4.9) E (0.5)	高台部破損。平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒、長石、雲母、礫、スコリア 橙色 普通	P24 80% PL69 内面黒色処理

図版番号	種別	計測値				材質	出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第136図3	紡錘車	5.5	2.3	0.6	(49.0)	土製	覆土	DP1 PL78

第7号住居跡 (第137図)

位置 調査区南東部、C3b7区。

重複関係 第3号溝に北東コーナー部の壁を、第29号土坑に中央部の床を掘り込まれており、いずれよりも本跡の方が古い。

規模と平面形 長軸3.25m、短軸2.75mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-86°-E

壁 壁高は10~35cmで、ほぼ垂直である。

壁溝 北壁・南壁の中央部の壁下で確認されている。上幅8~24cm、下幅3~14cm、深さ8cmで、断面形はU字状である。

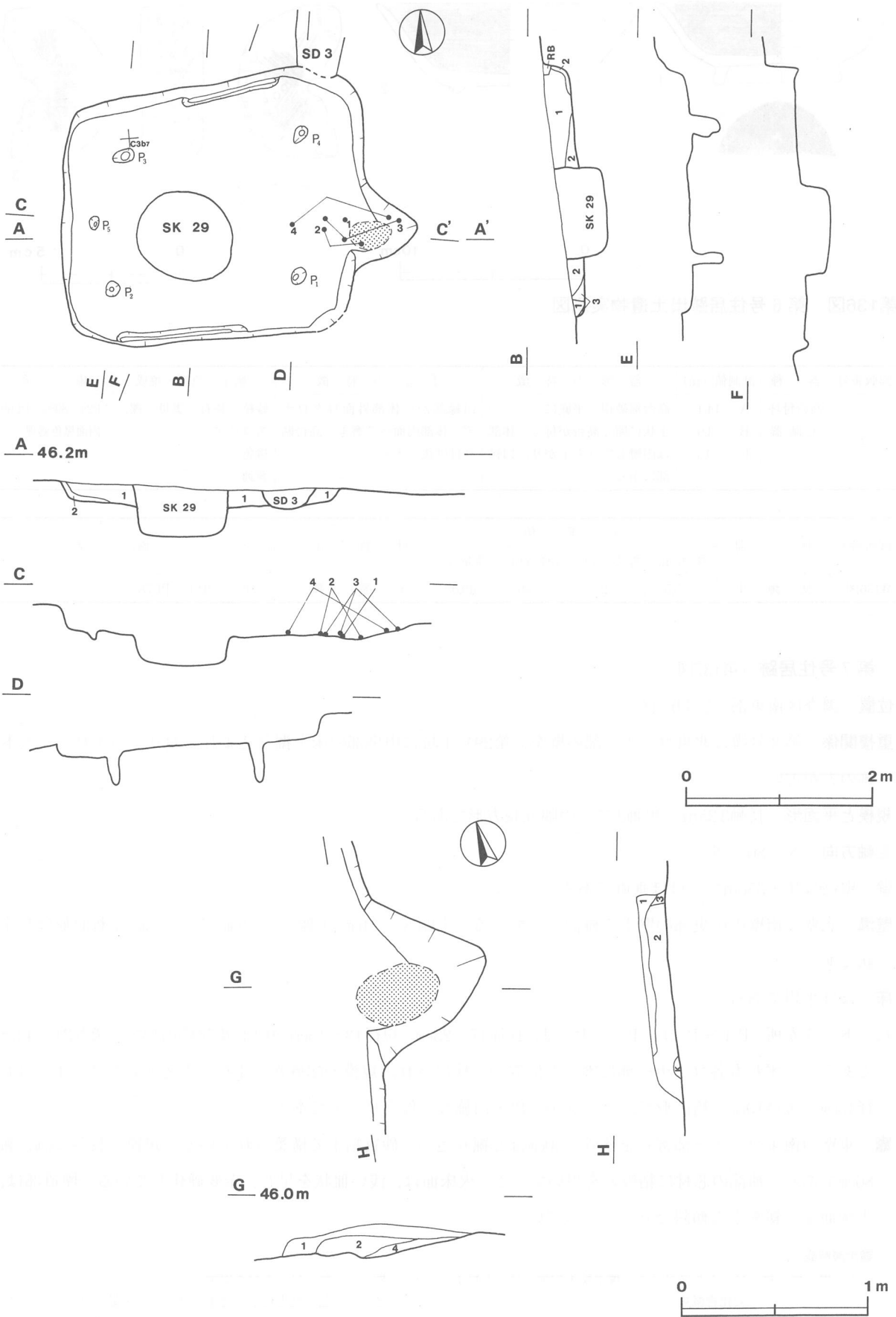
床 ほぼ平坦である。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は、長径17~23cm、短径13~15cmの円形及び楕円形で、深さ31~43cmである。いずれも各コーナー部に寄った位置から検出され、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は長径15cm、短径10cmの楕円形で、深さ9cmの出入口施設に伴うピットである。

竈 東壁の南東コーナー部寄りを壁外に60cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は長さ73cm、幅86cmである。袖部の芯材に粘板岩を用いている。火床面は、浅い皿状を呈し、赤変硬化している。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|-------|--|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子・炭化物微量 | 3 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子少量、ローム粒子・炭化物微量 | 4 暗褐色 | 焼土粒子・焼土小ブロック中量、ローム小ブロック少量、ローム粒子・炭化物極微量 |



第137图 第7号住居跡実測图

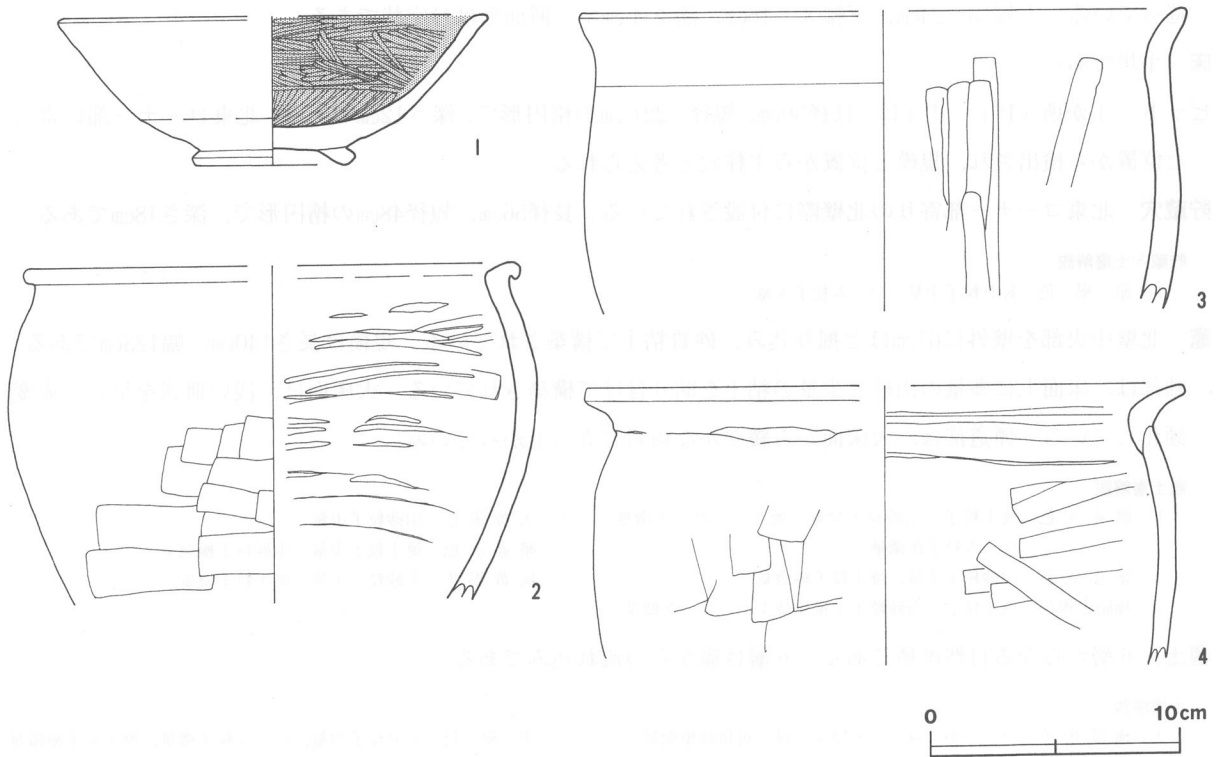
覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

遺物 土師器片209点, 須恵器片10点, 陶器片1点が出土している。第138図1の土師器高台付坏, 2~4の土師器甕は, いずれも竈の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から10世紀前半と考えられる。



第138図 第7号住居跡出土遺物実測図

第7号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第138図 1	高台付坏 土師器	A [17.1] B 6.0 D 6.2 E 0.7	平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。高台貼り付け後, ナデ。	砂粒, 長石, 石英, 雲母にぶい黄橙色 普通	P27 40% PL69 内面黒色処理
2	甕 土師器	A [20.0] B (13.5)	体部中位から口縁部にかけての破片。最大径は体部上位にある。口縁部は複合口縁を呈している。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り。	砂粒, 長石, 石英, 雲母にぶい黄橙色 普通	P28 15% PL70
3	甕 土師器	A [24.4] B (12.0)	体部中位から口縁部にかけての破片。最大径は体部上位にある。口縁部はわずかに外傾している。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ削り。	砂粒, 長石, 石英, 雲母明黄褐色 普通	P29 10% PL70
4	甕 土師器	A [24.0] B (11.3)	体部中位から口縁部にかけての破片。頸部は「く」の字状に屈曲し, 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り。輪積み痕を残す。	砂粒, 長石, 石英, 雲母にぶい橙色 普通	P30 5% PL70

第8号住居跡 (第139図)

位置 調査区南東部, C4d1区。

規模と平面形 大半が調査区域外にあり, 北壁から北東コーナー部にかけての北部のみの確認のため, 規模や平面形は不明である。東西は約5mである。

主軸方向 N-3°-E

壁 壁高は16~50cmで, ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝 竈東袖から北東コーナー部手前までと, 竈西袖から北西コーナー部まで, 調査できた範囲内は, 壁下を巡っている。上幅15~24cm, 下幅8~16cm, 深さ4cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦である。

ピット 1か所(P1)。P1は, 長径30cm, 短径(22)cmの楕円形で, 深さ12cmである。北東コーナー部に寄った位置から検出され, 規模と位置から支柱穴と考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部寄りの北壁際に付設されている。長径56cm, 短径48cmの楕円形で, 深さ18cmである。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 KP粒子中量, ローム粒子少量

竈 北壁中央部を壁外に67cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は長さ140cm, 幅123cmである。袖部は, 床面上に多量の山砂と少量の粘土を貼り付けて構築されている。火床面は, 浅い皿状を呈し, 赤変硬化している。煙道部は, 火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗赤灰色 焼土粒子・山砂粒子少量, 焼土小ブロック微量, ローム粒子極微量
- 2 暗赤灰色 山砂粒子少量, 焼土粒子極微量
- 3 極暗赤褐色 焼土粒子・山砂粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 4 灰黄褐色 山砂粒子中量
- 5 暗赤灰色 焼土粒子少量, 山砂粒子極微量
- 6 灰黄褐色 山砂粒子少量, 焼土粒子微量

覆土 6層からなる自然堆積である。6層は竈からの流れ込みである。

土層解説

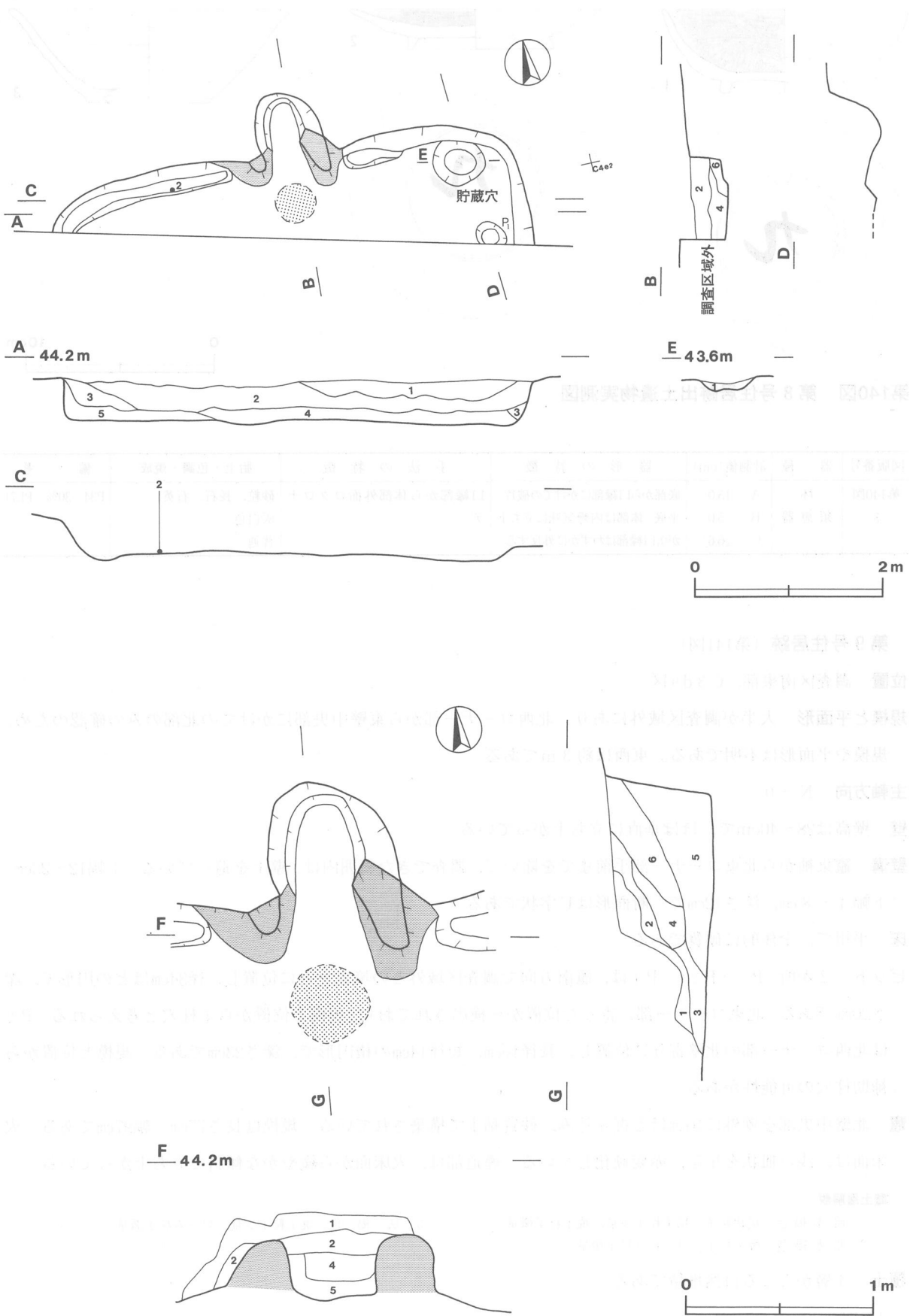
- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 炭化物極微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量, 炭化粒子・粘土粒子極微量
- 4 黒褐色 KP粒子少量, ローム粒子微量, 焼土粒子極微量
- 5 黒褐色 KP粒子少量, ローム粒子微量
- 6 黒褐色 山砂粒子中量, 焼土粒子少量

遺物 土師器片92点, 須恵器片14点, 鉄滓2点が出土している。第140図1の土師器高台付坏は, 覆土中から出土している。2の土師器高台付皿は, 北西コーナー部寄りの北壁際の床面から出土している。1と2はともに内面黒色処理され, 底部外面に「九」と墨書されている。3の須恵器坏は, 竈の覆土中から出土している。

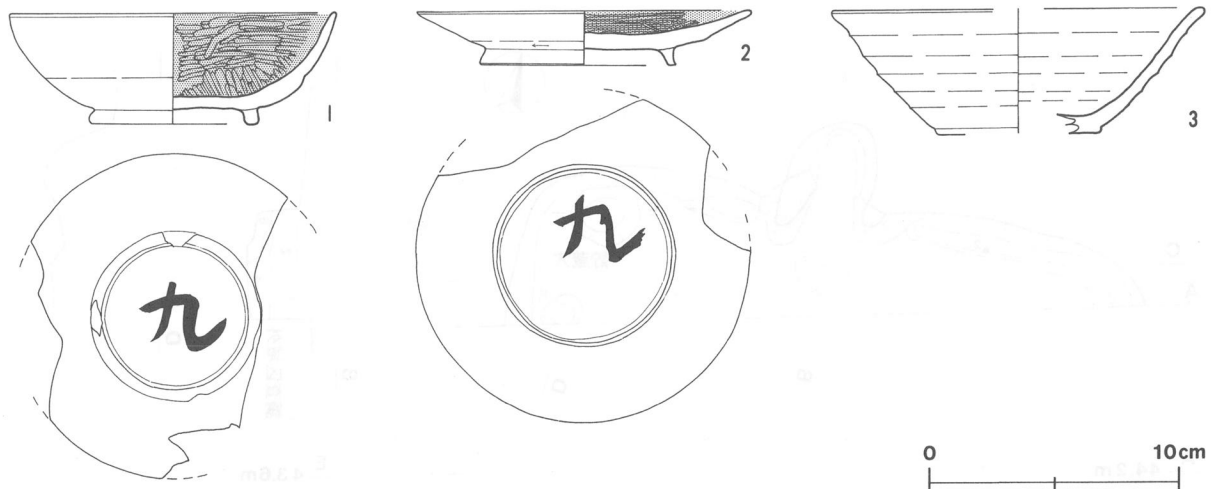
所見 本跡の時期は, 出土遺物から9世紀後半と考えられる。

第8号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第140図 1	高台付坏 土師器	A	13.0	平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。高台貼り付け後, ナデ。	砂粒, 長石, 石英, 雲母 橙色 普通
		B	4.4			
		D	6.9			
		E	1.2			
2	高台付皿 土師器	A	13.4	平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部に至る。体部下位に稜をもつ。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。高台貼り付け後, ナデ。体部下端回転ヘラ削り。	砂粒, 長石, 石英, スズリ にぶい褐色 普通
		B	2.2			
		D	7.8			
		E	0.7			



第139图 第8号住居跡実測図



第140図 第8号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第140図 3	坏 須恵器	A 15.0 B 5.0 C [6.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。	砂粒、長石、石英 灰白色 普通	P34 30% PL71

第9号住居跡 (第141図)

位置 調査区南東部, C3d9区。

規模と平面形 大半が調査区域外にあり、北西コーナー部から東壁中央部にかけての北部のみの確認のため、規模や平面形は不明である。東西は約3mである。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は28~40cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝 竈東袖から北東コーナー部手前までを除いて、調査できた範囲内は、壁下を巡っている。上幅12~23cm、下幅4~8cm、深さ12cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、全体的に硬質である。

ピット 2か所(P1・P2)。P1は、竈南方向で調査区域外との境界付近に位置し、径34cmほどの円形で、深さ20cmである。北東コーナー部に寄った位置から検出されており、規模と位置から主柱穴と考えられる。P2は北西コーナー部の北壁寄りに位置し、長径16cm、短径14cmの楕円形で、深さ23cmである。規模と位置から補助柱穴の可能性はある。

竈 北壁中央部を壁外に16cmほど掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は長さ77cm、幅97cmである。火床面は、浅い皿状を呈し、赤変硬化している。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

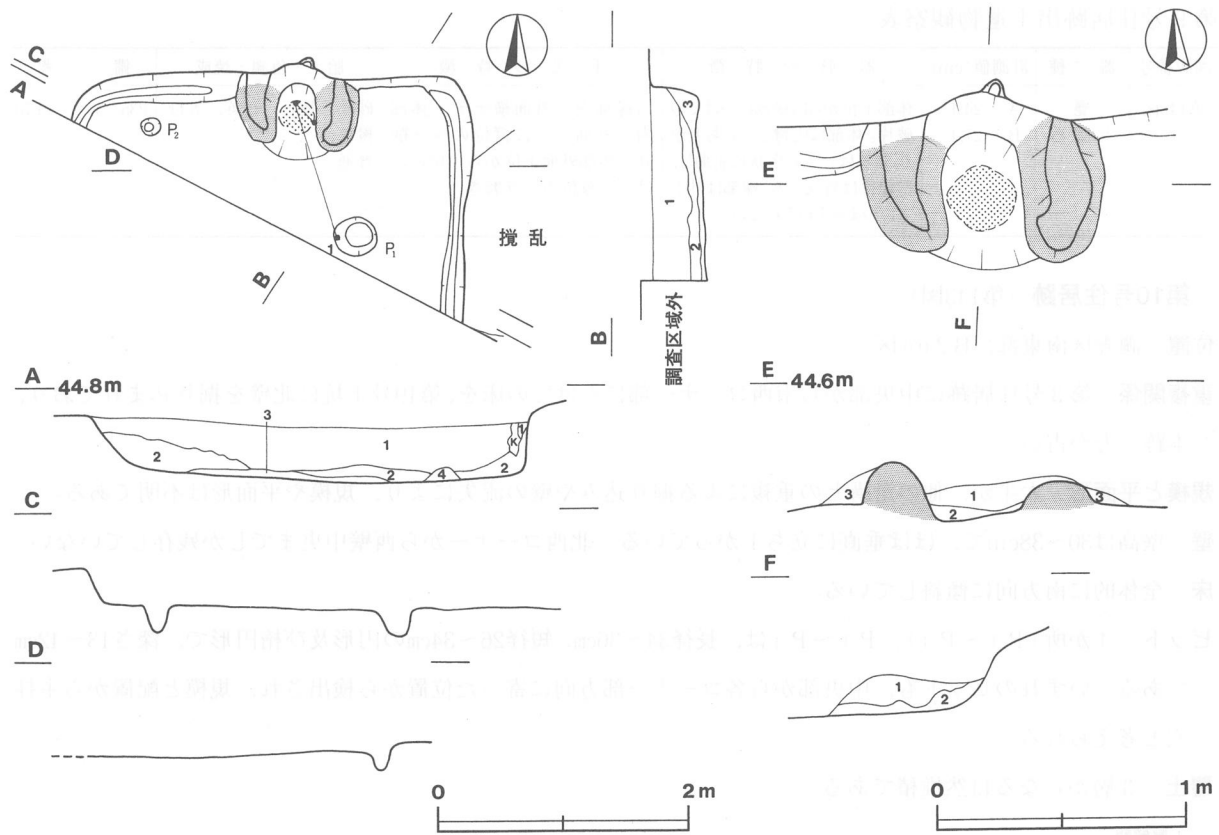
竈土層解説

- | | |
|----------------------------|-----------------------|
| 1 暗赤褐色 炭化粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子微量 | 3 灰褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子少量, KP粒子微量 | |

覆土 4層からなる自然堆積である。

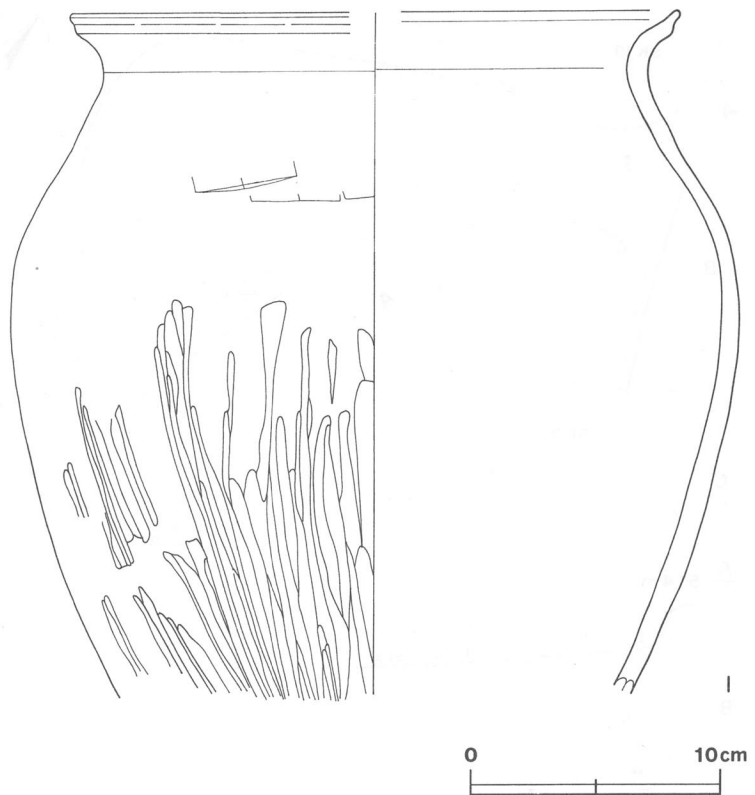
土層解説

- | | |
|---|---------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量, ローム小ブロック・炭化物極微量 | 3 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量, 焼土粒子極微量 | 4 赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック微量 |



第141図 第9号住居跡実測図

遺物 土師器片52点，須恵器片5点，
土製支脚片20点が出土している。
第142図1の土師器甕は，竈の覆土
下層から出土している。
所見 本跡の時期は，出土遺物から
9世紀後半と考えられる。



第142図 第9号住居跡出土遺物実測図

第9号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第142図 1	甕 土師器	A [24.4] B (27.4)	体部下位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁部は外反する。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面上位に縦位のへら削り。体部外面下位から中位にかけて、縦位のへら磨き。	砂粒、長石、石英、雲母 橙色 普通	P35 30% PL70

第10号住居跡 (第143図)

位置 調査区南東部, B2e0区。

重複関係 第3号住居跡に中央部から南西コーナー部にかけての床を, 第19号土坑に北壁を掘り込まれており, 本跡の方が古い。

規模と平面形 大半が, 他の遺構との重複による掘り込みや壁の流失により, 規模や平面形は不明である。

壁 壁高は30~38cmで, ほぼ垂直に立ち上がっている。北西コーナーから西壁中央までしか残存していない。

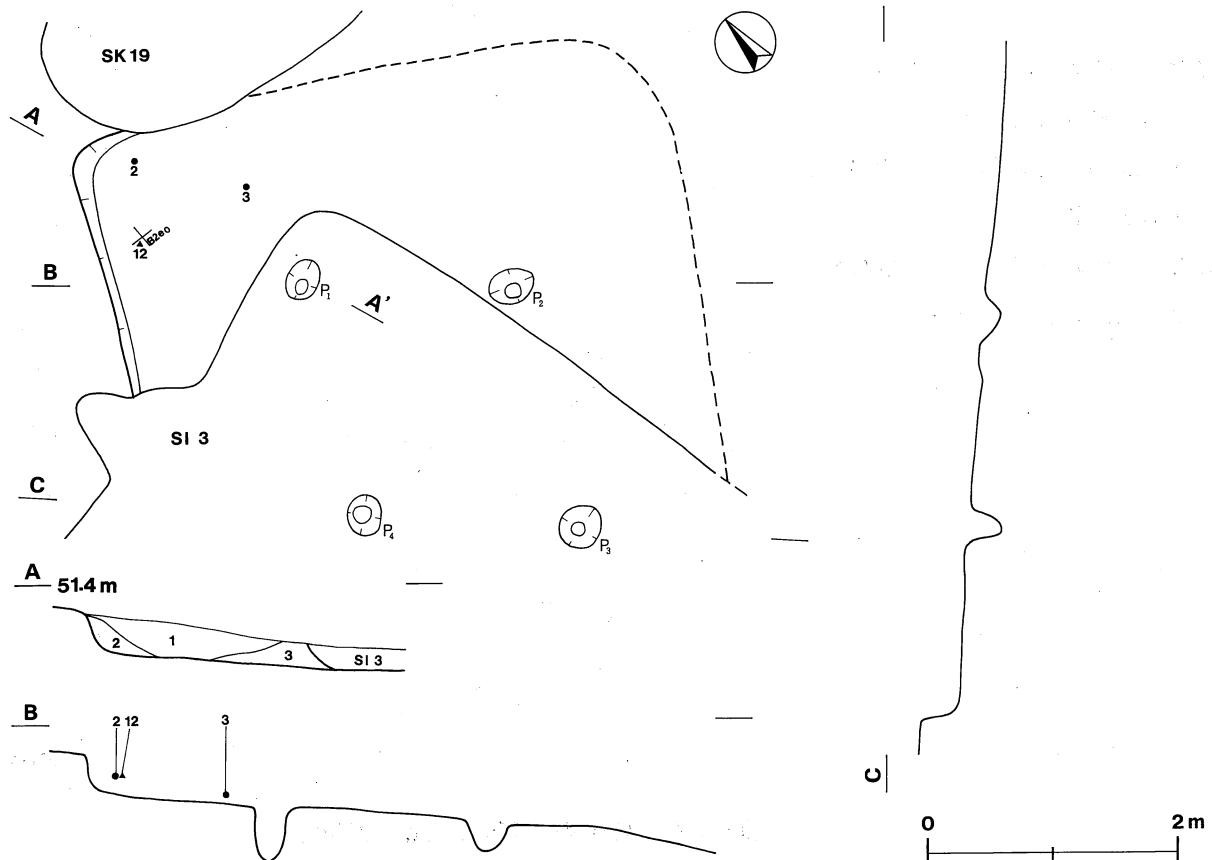
床 全体的に南方向に傾斜している。

ピット 4か所(P1~P4)。P1~P4は, 長径34~36cm, 短径26~34cmの円形及び楕円形で, 深さ13~42cmである。いずれのピットも, 中央部から各コーナー部方向に寄った位置から検出され, 規模と配置から支柱穴と考えられる。

覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説

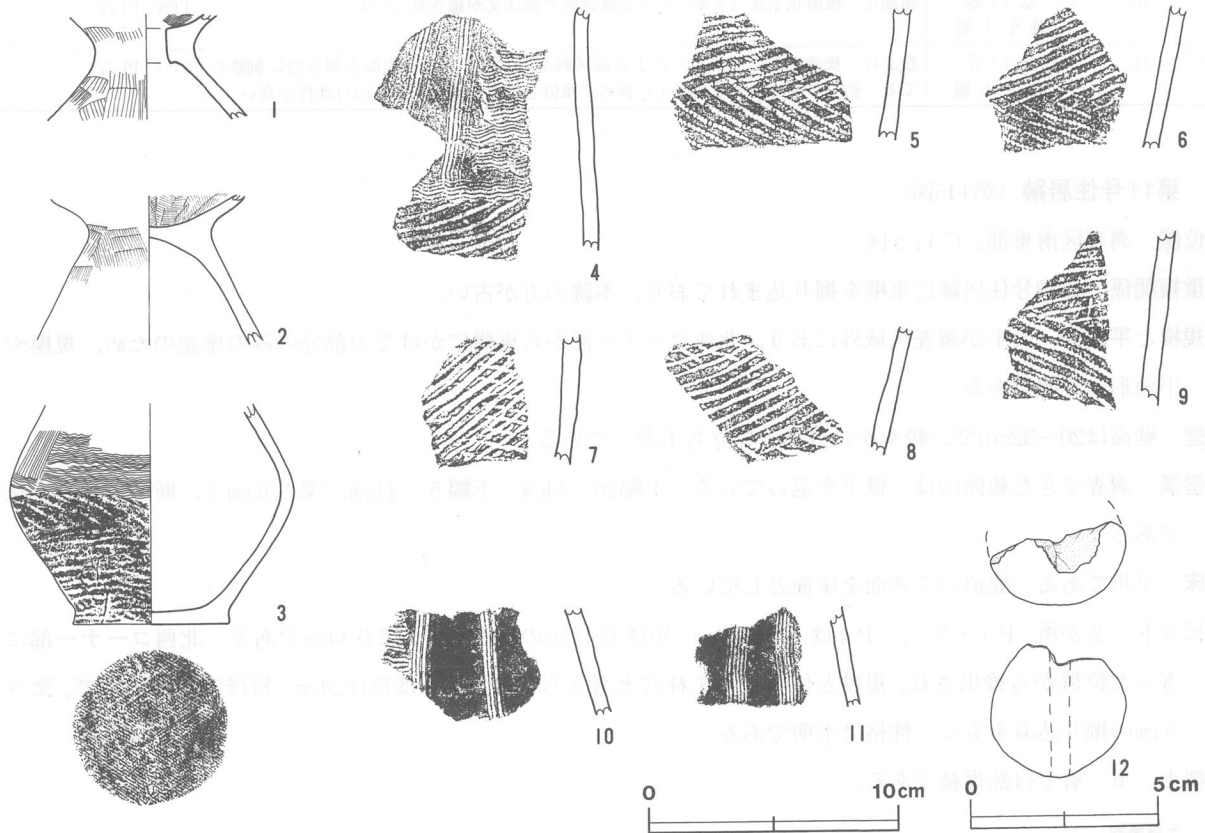
- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 褐色 KP粒子少量, ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子・KP粒子微量



第143図 第10号住居跡実測図

遺物 土師器片 9 点, 弥生土器片 54 点, 土製品 1 点が出土している。第 144 図 1 の土師器器台は, 覆土中から出土している。3 の弥生土器壺, 2 の土師器台付甕は, ともに P1 の北側の覆土中層から出土している。12 の土玉は, 北西コーナー部の覆土中層から出土している。4 ~ 11 は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。出土している弥生土器は十王台式であり, 混入の可能性が考えられる。



第144図 第10号住居跡出土遺物実測図

第10号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第144図 1	器台 土師器	B (4.2)	脚部片。脚部は「ハ」の字状に開く。器受部中央に貫通孔を穿つ。	台部外面縦位の8条のハケ目調整。器受部内面ハケ目調整。	砂粒, 長石, 石英 赤褐色 普通	P36 10% PL71
2	台付甕 土師器	B (6.0)	台部から体部下端にかけての破片。台部は「ハ」の字状に開く。	台部外面縦位のハケ目調整。底部内面ハケ目調整。	砂粒, 長石, 石英 赤褐色 普通	P38 10% PL71

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第144図 3	広口壺 弥生土器	B (8.7) C 6.2	頸部から底部にかけての破片。頸部は楕円状工具(5本)による縦区画により分割され, 区画内には波状文が施されている。胴部は附加条二種(附加1条)の縄文が施され, 羽状構成をとる。底部には布目の痕跡を残す。	砂粒, 長石, 石英, スコ7 にぶい黄褐色 普通	P37 35% PL70

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第144図12	土玉	(3.6)	(3.5)	(0.5)	(19.0)	覆土	DP 2 PL78

図版番号	器種	器形及び文様の特徴	備考
第144図 4	広口壺 弥生土器	胴部から頸部にかけての破片。破片上部は頸部であり、櫛歯状工具（6本）による縦区画と波状文が施されている。下部は胴部で附加条二種（附加1条）の縄文が施されている。内面は剥離している。	TP2 PL77
5～7	広口壺 弥生土器	胴部片。附加条二種（附加1条）の縄文が施されている。羽状構成である。	TP3～5 PL77
8・9	広口壺 弥生土器	胴部片。附加条二種（附加1条）の縄文が施されている。羽状構成である。内面は部分的に剥離している。	TP6・7 PL77
10	広口壺 弥生土器	頸部片。櫛歯状工具（3本）による縦区画と波状文が施されている。	TP8 PL77
11	広口壺 弥生土器	頸部片。櫛歯状工具（6本）による縦区画が施されている。内面が部分的に剥離している。胎土や縦区画の手法が4に極めて類似しており、同一個体の可能性が高い。	TP9 PL77

第11号住居跡（第145図）

位置 調査区南東部，C4e2区。

重複関係 第12号住居跡に東壁を掘り込まれており，本跡の方が古い。

規模と平面形 大半が調査区域外にあり，北西コーナー部から東側にかけての部分のみの確認のため，規模や平面形は不明である。

壁 壁高は20～32cmで，緩やかに外傾して立ち上がっている。

壁溝 調査できた範囲内は，壁下を巡っている。上幅20～34cm，下幅5～11cm，深さ6cmで，断面形はU字状である。

床 平坦である。鹿沼パミス面を床面としている。

ピット 2か所（P1・P2）。P2は，長径30cm，短径（14）cmの楕円形で，深さ44cmである。北西コーナー部に寄った位置から検出され，規模と位置から支柱穴と考えられる。P1は長径24cm，短径22cmの円形で，深さ9cmの掘り込みをもつ。性格は不明である。

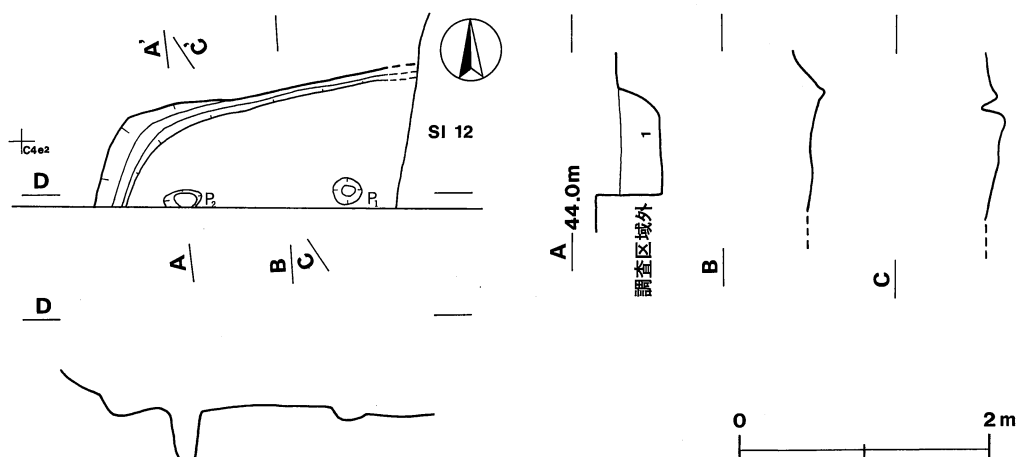
覆土 単一層で自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 K P粒子中量，ローム小ブロック・粒子少量，ローム中ブロック微量

遺物 土師器片52点，須恵器片3点，陶器片1点が出土している。いずれも細片で図示できなかった。

所見 本跡の時期は，出土遺物から9世紀代と考えられる。



第145図 第11号住居跡実測図

第12号住居跡 (第146図)

位置 調査区南東部, C4d3区。

重複関係 第11号住居跡を掘り込んでおり, 本跡の方が新しい。

規模と平面形 南部が調査区域外に延びているため, 規模や平面形は不明である。

壁 西壁の壁高は32~52cmで, ほぼ垂直に立ち上がっている。東壁は残存していない。

壁溝 北西コーナー部を除いて, 調査できた範囲内は, 壁下を巡っている。上幅21~26cm, 下幅6~10cm, 深さ8cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦である。鹿沼パミス面を床面としている。

ピット 1か所 (P1)。P1は, 長径33cm, 短径28cmの楕円形で, 深さ26cmである。ほぼ中央部から検出されている。性格は不明である。

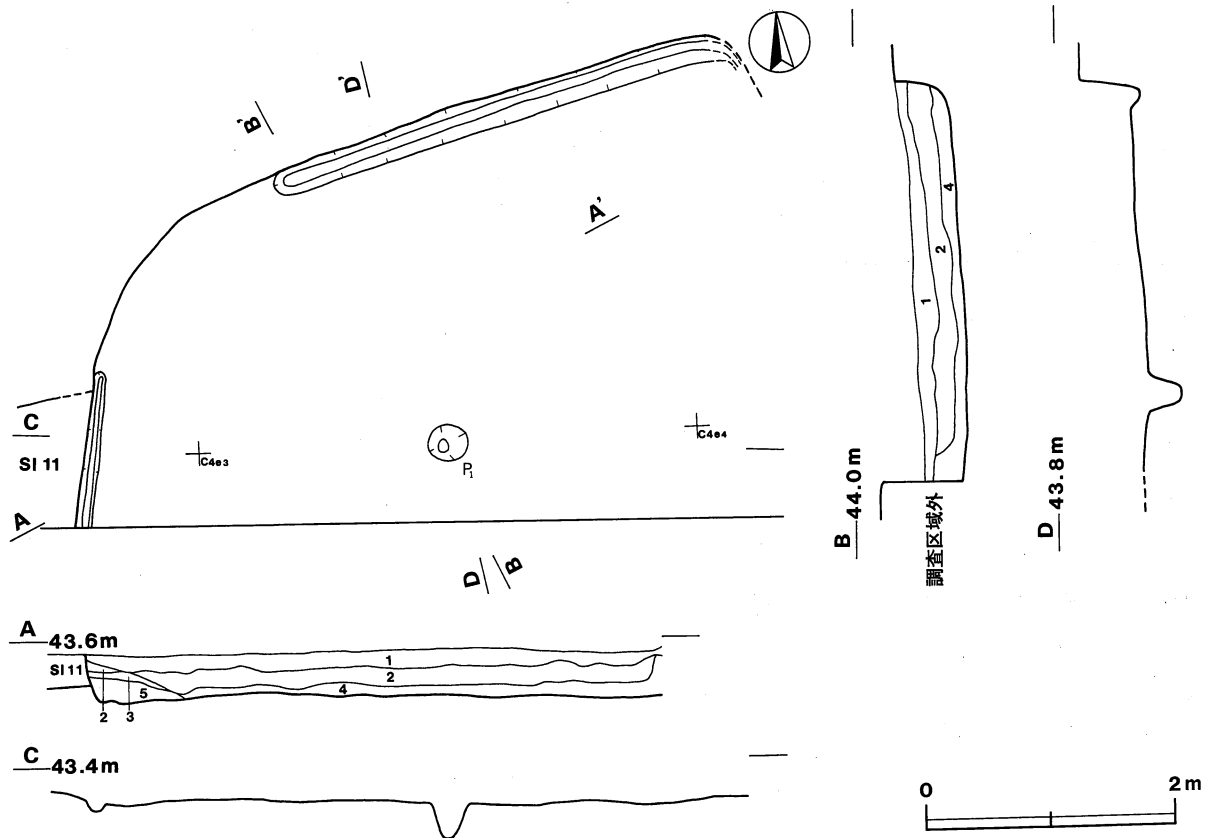
覆土 5層からなる自然堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------------------------------|------------------------------------|
| 1 暗褐色 K P粒子少量, ローム粒子微量, 焼土粒子極微量 | 3 黒褐色 ローム粒子・K P粒子微量, 焼土粒子極微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・K P粒子微量, 焼土粒子・炭化物極微量 | 4 暗褐色 K P粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| | 5 黒褐色 ローム小ブロック・K P粒子少量, K P小ブロック微量 |

遺物 土師器片257点, 須恵器片27点, 陶器片1点, 鉄製品1点が出土している。第147図1の鎌は, 覆土中から出土している。

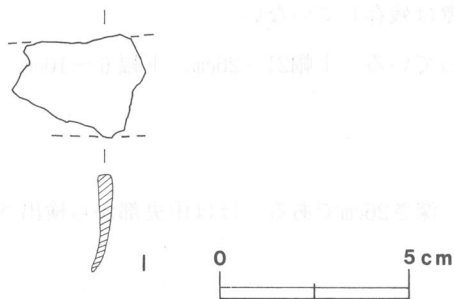
所見 本跡の時期は, 出土遺物から9世紀代と考えられる。



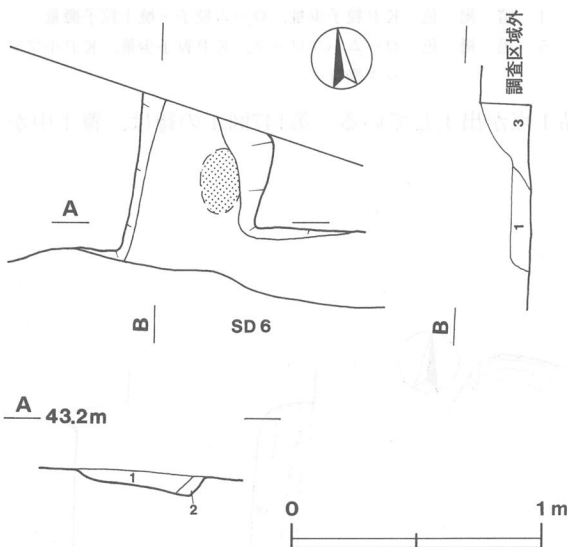
第146図 第12号住居跡実測図

第12号住居跡出土遺物観察表

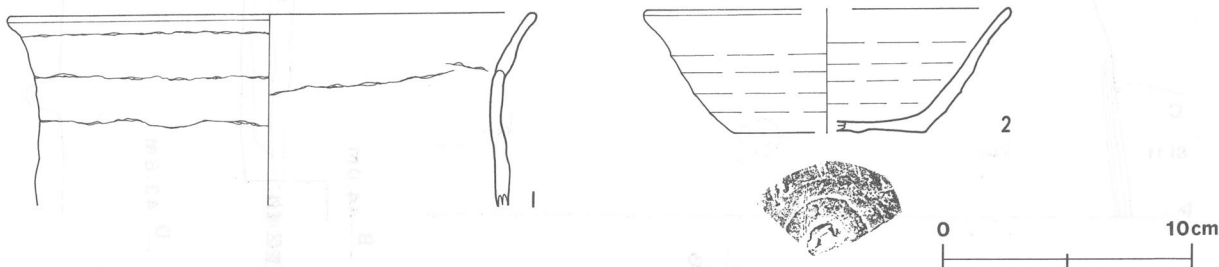
図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第147図 1	鎌	(2.7)	3.6	0.6	(7.1)	覆 土	M5 PL79



第147図 第12号住居跡出土遺物実測図



第148図 第13号住居跡実測図



第149図 第13号住居跡出土遺物実測図

第13号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第149図 1	甕 土師器	A 19.7 B (7.7)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面に輪積みの痕を残す。	砂粒, 長石, 石英 明赤褐色 普通	P40 10% PL70
2	坏 須恵器	A [14.6] B 4.9 C [7.9]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾し、口縁端部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、回転ヘラ削り。	砂粒, 長石, 礫, スコリア 灰色 普通	P41 35% PL71

第13号住居跡 (第148図)

位置 調査区南東部, C3e6区。

重複関係 第6号溝に北部の床を掘り込まれており、本跡の方が古い。

規模と平面形 耕作による削平で竈のみの確認のため、規模や平面形は不明である。

竈 削平されていることと煙道が調査区域外のため、規模や平面形は不明である。北壁を壁外に (54) cmほど掘り込み、砂質粘土で構築している。規模は長さ (63) cm, 幅60cmである。火床面は、浅い皿状を呈し、赤変硬化している。

竈土層解説

- 1 にぶい赤褐色 焼土粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 3 黒褐色 焼土粒子・山砂粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物極微量

遺物 覆土中から、土師器片30点, 須恵器片2点が出土している。第149図1の土師器甕, 2の須恵器坏は、ともに竈の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀後半と考えられる。

第14号住居跡 (第150・151図)

位置 調査区南東部, C3c5区。

重複関係 本跡が第15号住居跡と第95号土坑の覆土を掘り込んでおり, 本跡の方が新しい。第47号土坑に本跡が掘り込まれており, 本跡の方が古い。

規模と平面形 南部が調査区域外にあり, 規模や平面形は不明である。東西は約4mである。

主軸方向 N-86°-E

壁 壁高は20~30cmで, ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝 第47号土坑の東側付近の壁下に残存している。上幅10~13cm, 下幅3~5cmである。断面形はU字状である。

床 平坦である。第15号住居跡と重複部分は, 貼床にされていたものと思われる。

ピット 7か所(P1~P7)。P1~P4は, 長径21~43cm, 短径19~23cmの円形及び楕円形で, 深さ8~15cmである。いずれも各コーナー部に寄った位置から検出され, 規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は長径43cm, 短径24cmの楕円形で, 出入口施設に伴うピットである。P6は長径20cm, 短径(13)cmの楕円形で, 深さ21cmの掘り込みをもっている。P7は径(20)cmの円形で, 深さ25cmの掘り込みをもっている。P6とP7は, ともに性格は不明である。

竈 東壁中央部を壁外に60cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は長さ130cm, 幅67cmである。遺存状態は悪い。袖部は, 北袖のみ残存している。火床面は浅い皿状をしている。煙道部は, 火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | |
|---|--------|------------------------|
| 1 黒褐色 粘土粒子少量, 焼土小ブロック・粒子微量, ローム小ブロック極微量 | 粘土粒子微量 | 3 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子極微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子・ | | |

覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説

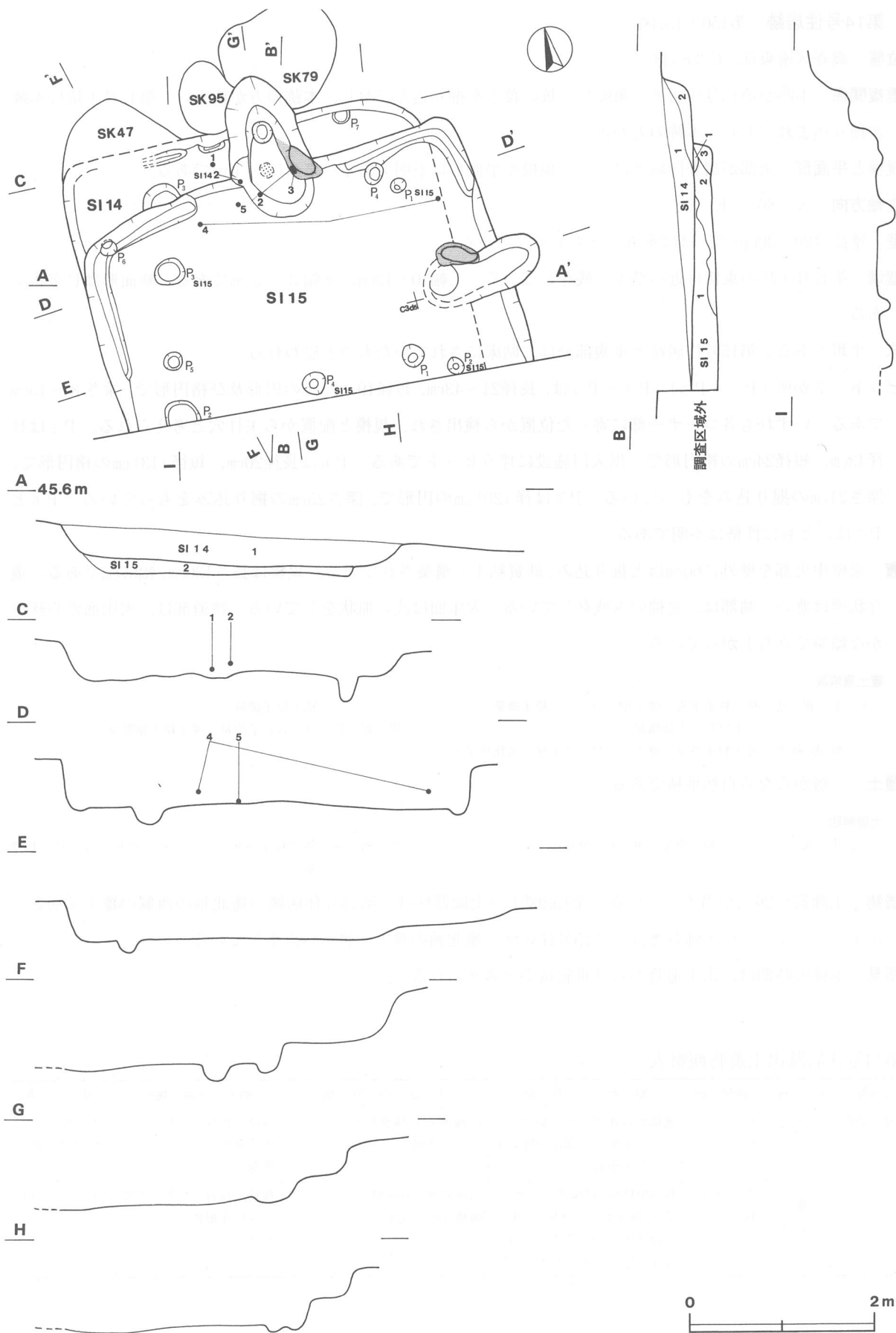
- | | |
|------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子極微量 | 2 黒褐色 粘土粒子少量, ローム粒子微量, 焼土粒子極微量 |
|------------------------|--------------------------------|

遺物 土師器片26点が出土している。第152図1の土師器坏は, 第15号住居跡の竈北袖の西側の覆土下層から出土している。2の土師器甕は, 第15号住居跡の竈北袖の覆土下層から出土している。

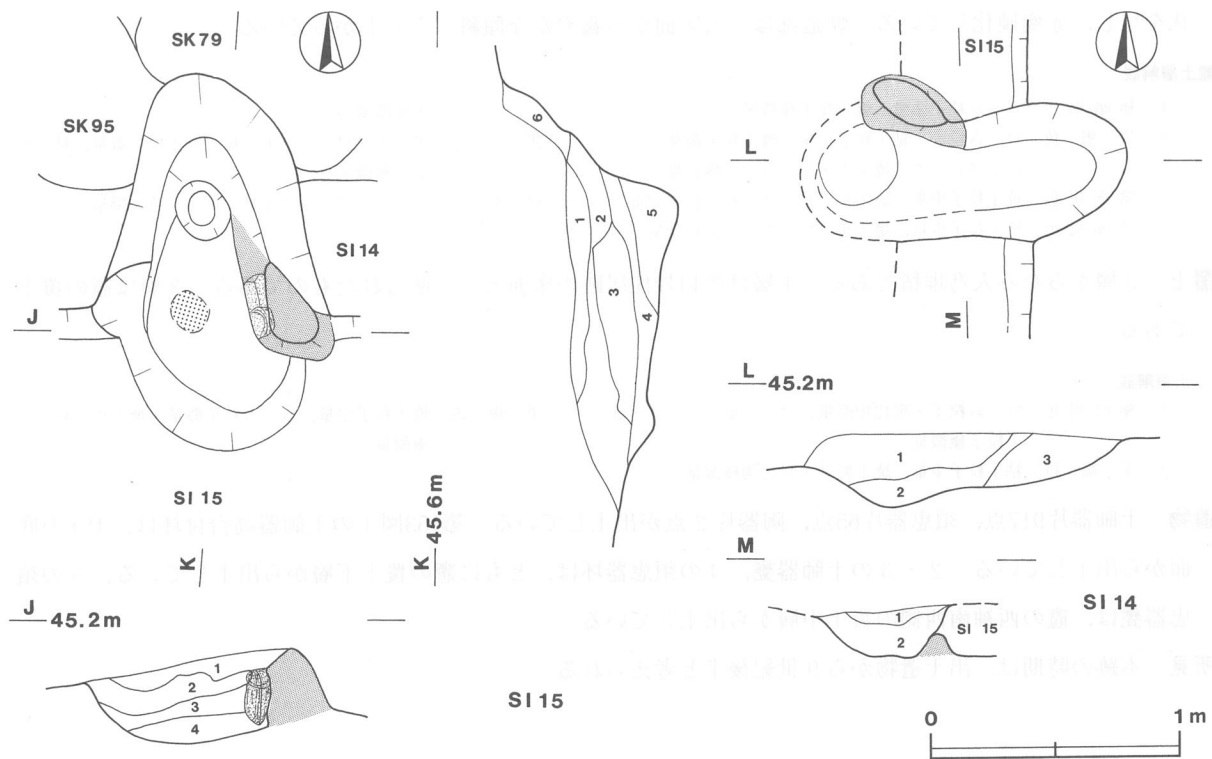
所見 本跡の時期は, 出土遺物から9世紀後半と考えられる。

第14号住居跡出土遺物観察表

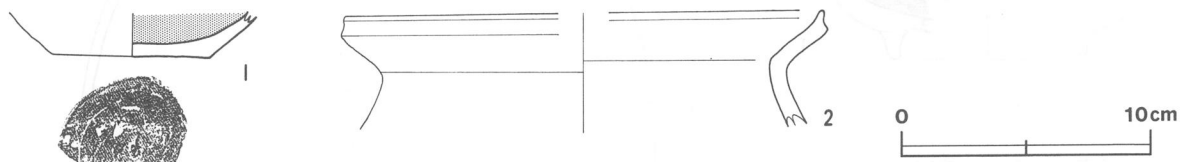
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第152図 1	坏 土師器	B (1.8) C [6.3]	底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部から体部外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒, 長石, 石英 明赤褐色 普通	P42 10% PL71 内面黒色処理
2	甕 土師器	A [19.4] B (4.7)	体部中位から口縁部にかけての破片。頸部は「く」の字状に屈曲し, 口縁部外面中位に稜をもつ。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。輪積み痕を残す。	砂粒, 長石, 石英, 雲母 におい赤褐色 普通	P43 5% PL71



第150图 第14・15号住居跡実測图



第151図 第14・15号住居跡竈実測図



第152図 第14号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡 (第150・151図)

位置 調査区南東部, C3c5区。

重複関係 第14号住居跡に覆土を掘り込まれており, 本跡の方が古い。第79・95号土坑を本跡が掘り込んでおり, 本跡が新しい。

規模と平面形 南部が調査区域外にあり, 規模や平面形は不明である。

主軸方向 N-4°-W

壁 壁高は44~52cmで, ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝 竈の両袖脇から, 北東・北西各コーナー部にかけての壁下を巡っている。上幅17~28cm, 下幅6~10cm, 深さ7~10cmである。断面形はU字状である。

床 平坦である。

ピット 4か所(P1~P4)。P1~P3は, 長径18~38cm, 短径15~28cmの円形及び楕円形で, 深さ7~17cmである。いずれも各コーナー部に寄った位置から検出され, 規模と配置から支柱穴と考えられる。P4は長径18cm, 短径15cmの楕円形である。性格は不明である。

竈 北壁中央部を壁外に94cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は長さ151cm, 幅97cmである。袖部は, 床面上に山砂と粘土を貼り付けて構築されており, 礫を補強材として用いている。火床面は, 浅い皿

状を呈し、赤変硬化している。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | |
|--------|---|------------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子微量, 焼土粒子極微量 | 土極微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子微量, ローム小ブロック・焼土中・小ブロック極微量 | 5 黒色 焼土中ブロック・灰少量, 焼土粒子微量, 粘土粒子 極微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・粘土粒子少量 | 6 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物微量, 粘 | |

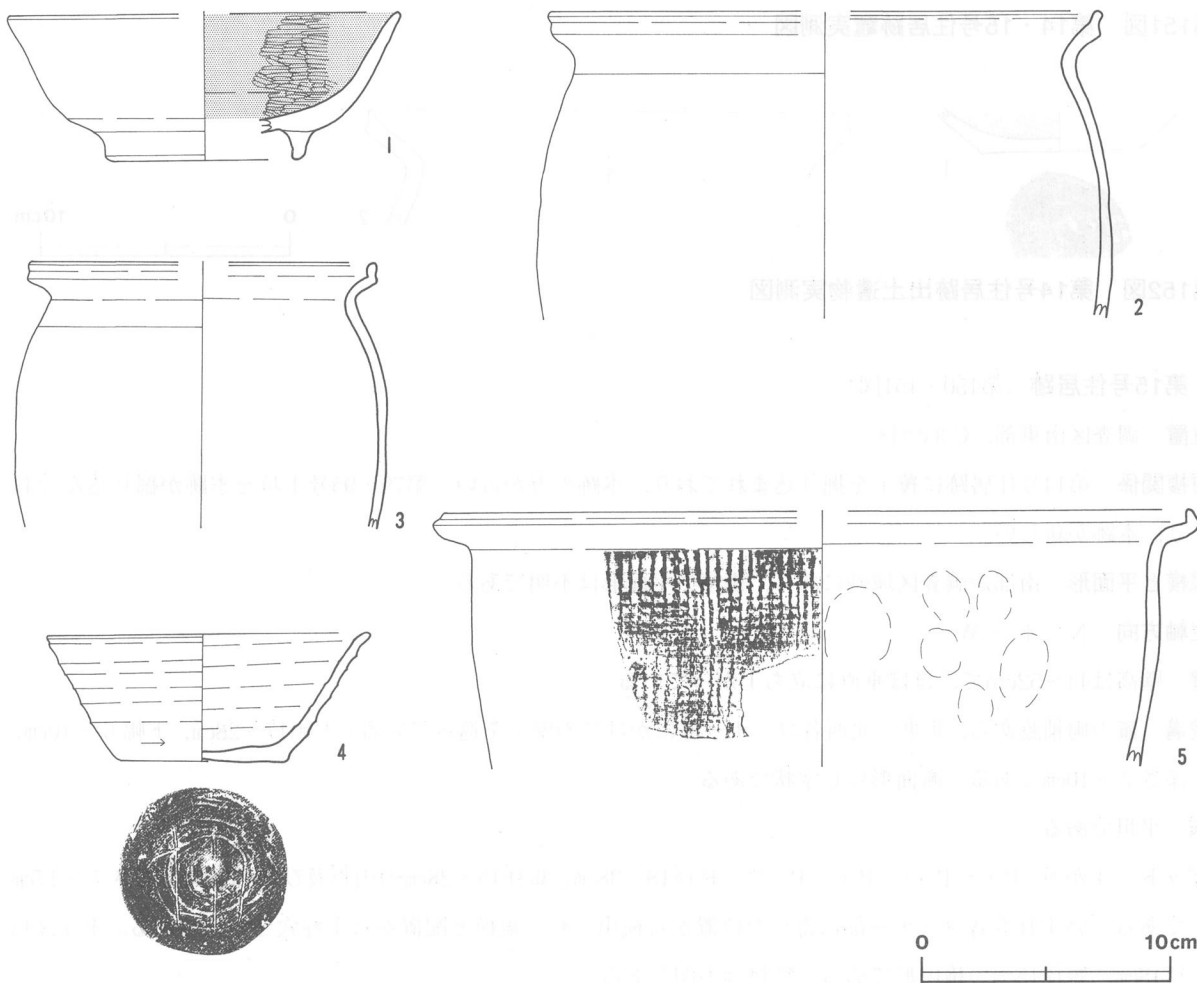
覆土 3層からなる人為堆積である。1層は第14号住居跡の床面として貼られたものである。3層は竈の覆土である。

土層解説

- | | | |
|--------|-------------------------------|------------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・炭化物微量, ローム小ブロック・焼土粒子極微量 | 3 黒褐色 焼土粒子中量, ローム粒子微量, 焼土小ブロック 極微量 |
| 2 黒褐色 | 粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化物極微量 | |

遺物 土師器片917点, 須恵器片65点, 陶器片2点が出土している。第153図1の土師器高台付坏は, P1の底面から出土している。2・3の土師器甕, 4の須恵器坏は, とともに竈の覆土下層から出土している。5の須恵器甕は, 竈の西袖南西側の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から9世紀後半と考えられる。



第153図 第15号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第153図 1	高台付坏 土師器	A [15.7] B 5.9 D 8.0 E 1.2	底部から口縁部にかけての破片。平底に直線的に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒、長石、石英、雲母 スコリア にぶい黄橙色 普通	P44 30% PL71 内面黒色処理
2	甕 土師器	A [22.0] B (12.3)	体部中位から口縁部にかけての破片。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁部外面中位に稜をもつ。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒、長石、石英、礫 明赤褐色 普通	P46 20% PL71
3	甕 土師器	A [13.8] B (10.6)	体部中位から口縁部にかけての破片。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁部外面中位に稜をもつ。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒、長石、石英、雲母 明赤褐色 普通	P48 20% PL71
4	坏 須恵器	A 12.8~13.4 B 5.2 C 6.7	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾し、口縁端部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。底部回転へラ切り後、回転へラ削り。	砂粒、長石、礫、スコリア 黄褐色 普通	P49 100% PL71 底部外面へラ記号「ㇿ」
5	甕 須恵器	A [30.6] B (10.2)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は強く外反している。口縁部外面中位に稜をもち、端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面に指頭圧痕を残す。	砂粒、長石、雲母 黄灰色 普通	P50 5% PL71

第16号住居跡 (第154図)

位置 調査区中央部、C3d2区。

重複関係 東部では、覆土を第2号溝に掘り込まれており、本跡の方が古い。南部では、第46号土坑の覆土を掘り込んでおり、本跡の方が新しい。

規模と平面形 東壁を第2号溝に掘り込まれており、規模や平面形は不明であるが、長軸4.10m、短軸[3.35]mの隅丸長方形と推定される。

主軸方向 N-7°-W

壁 壁高は8~10cmで、外傾して立ち上がっている。傾斜部に立地しているため、自然条件による表土流出とともに、壁の相当部分が流失していると思われる。

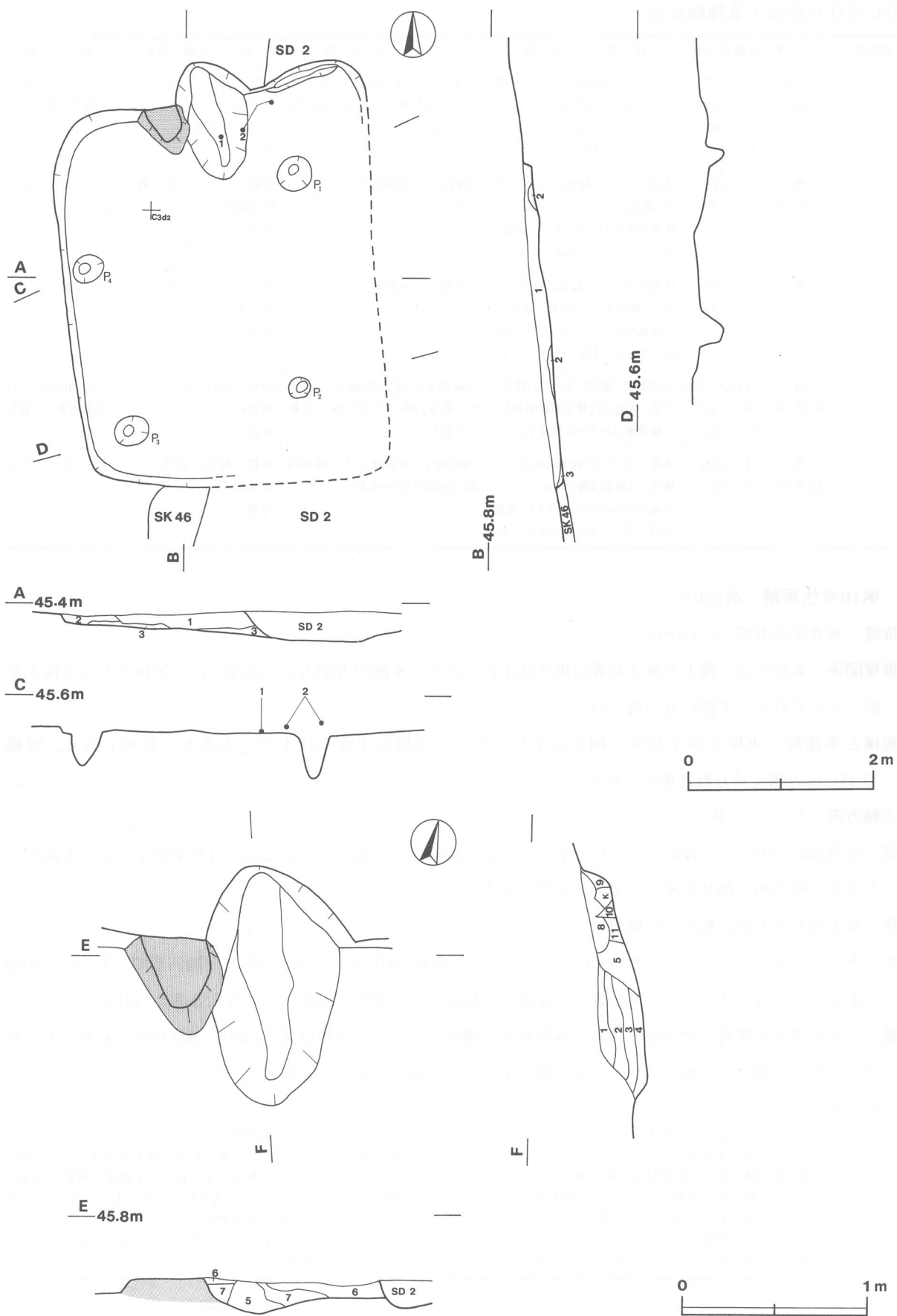
床 東方向と南方向に緩やかに傾斜している。

ピット 4か所(P1~P4)。P1~P4は、長径23~38cm、短径20~36cmの円形及び楕円形で、深さ18~50cmである。いずれも各コーナー部に寄った位置から検出され、規模と配置から支柱穴と考えられる。

竈 北壁中央部を壁外に42cm掘り込み、砂質粘土で構築している。規模は長さ130cm、幅116cmである。火床面は、わずかに掘りくぼめた状態である。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗褐色	粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	7 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・KP粒子少量、粘土粒子微量、砂粒極微量
2 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子中量、焼土中・小ブロック・粘土粒子少量、ローム粒子・砂粒微量	8 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、KP粒子・粘土粒子微量
3 黒褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒少量、焼土中・小ブロック微量	9 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、粘土粒子微量
4 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック少量、粘土小ブロック・粘土粒子・砂粒微量	10 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量
5 暗褐色	焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量、焼土小ブロック・粘土粒子・砂粒微量	11 褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量、粘土粒子微量
6 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・KP粒子少量、炭化		



第154图 第16号住居跡実測图

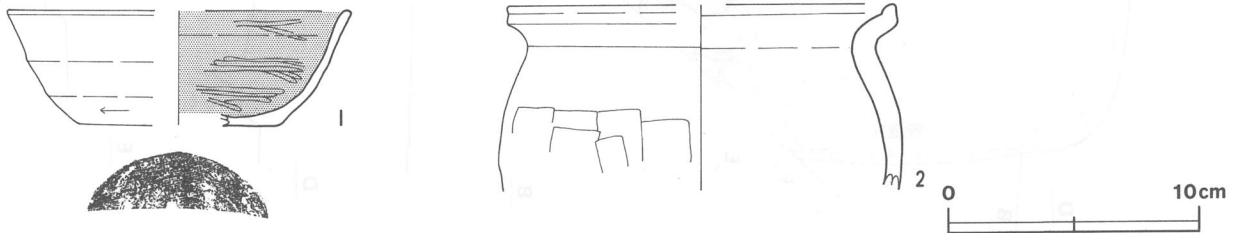
覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・KP粒子微量, 焼土粒子・KP小ブ
 ロック極微量
 2 暗褐色 ローム粒子・KP粒子微量
 3 暗褐色 ローム粒子微量, KP粒子極微量

遺物 土師器片206点, 須恵器片11点が出土している。第155図1の土師器坏は, 竈の覆土下層から出土している。2の土師器甕は, 竈の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から9世紀後半と考えられる。



第155図 第16号住居跡出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第155図 1	坏 土師器	A [13.8] B 4.7 C [8.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁端部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り。	砂粒, 長石, 石英にぶい黄褐色普通	P51 15% PL71 内面黒色処理
2	甕 土師器	A [15.6] B (7.4)	体部中位から口縁部にかけての破片。頸部は「く」の字状に外反している。口縁部外面中位に稜をもつ。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒, 長石, 石英, 雲母, 礫にぶい橙色普通	P52 10% PL71

第17号住居跡 (第156図)

位置 調査区中央部, C3e2区。

重複関係 中央部では, 覆土を第2号溝に掘り込まれており, 本跡の方が古い。本跡の北西コーナー部が, 第46号土坑の覆土を掘り込んでおり, 本跡の方が新しい。

規模と平面形 南東コーナー部は調査区域外に延びており, また南壁を第2号溝に掘り込まれているので, 規模や平面形は不明であるが, 長軸3.30m, 短軸2.70mほどの長方形と推定される。

主軸方向 N-106°-E

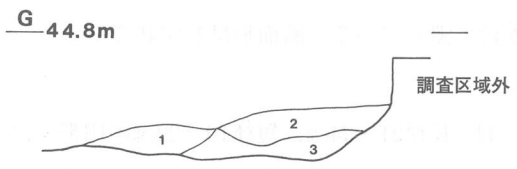
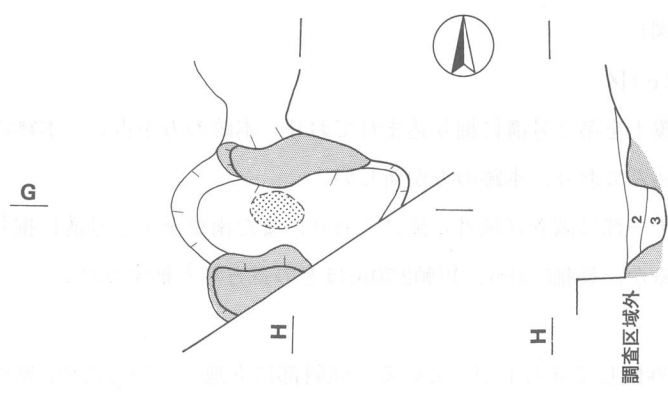
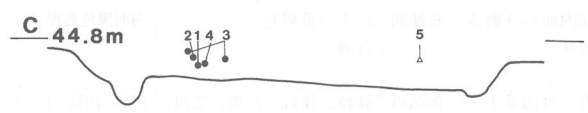
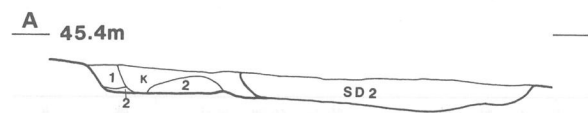
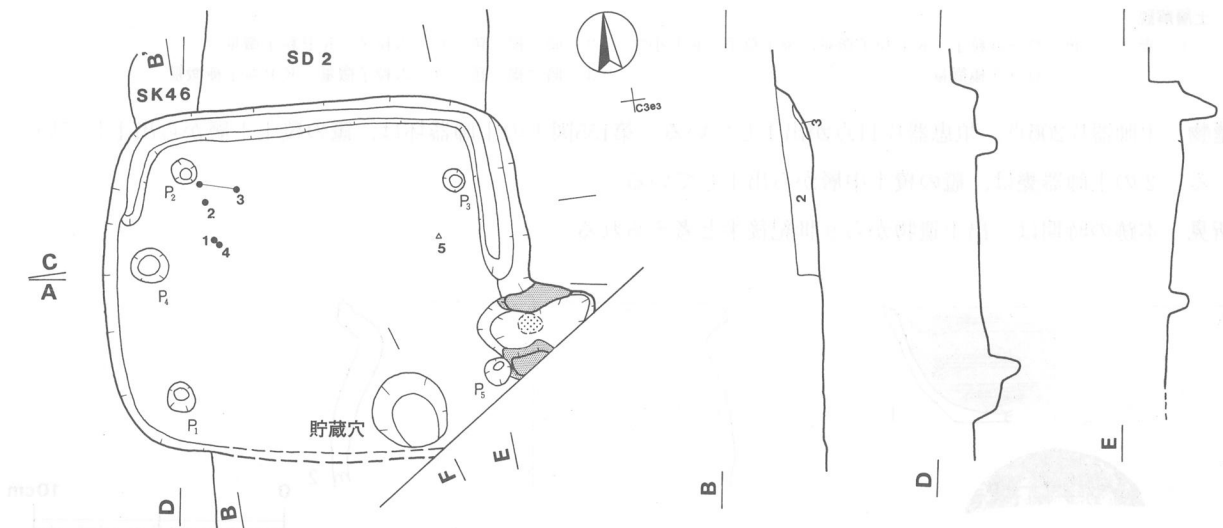
壁 壁高は20~24cmで, 外傾して立ち上がっている。傾斜部に立地しているため, 壁の相当部分が流失していると思われる。

壁高 竈北袖脇から北西コーナー部にかけて巡っている。断面形はU字状である。

床 南方向に緩やかに傾斜している。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P3は, 長径21~24cm, 短径19~22cmの円形で, 深さ14~22cmである。いずれも各コーナー部に寄った位置から検出され, 規模と配置から支柱穴と考えられる。P4は長径30cm, 短径28cmの円形で, 深さ19cmの, 出入口施設に伴うピットである。P5は長径23cm, 短径20cmの円形で, 深さ28cmの掘り込みをもっている。性格は不明である。

貯蔵穴 南東コーナー部に付設されている。長径63cm, 短径58cmの円形で, 深さ7cmである。



第156図 第17号住居跡実測図

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・KP粒子極微量

竈 南部の一部が調査区域外にあるため、規模や平面形は不明である。東壁南東コーナー部寄りを壁外に50cm掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は長さ95cm、幅(76)cmである。火床面は、浅い皿状をしている。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗褐色 KP粒子少量, ローム粒子極微量
 2 灰褐色 焼土小ブロック微量, ローム粒子・焼土粒子極微量
 3 にぶい赤褐色 焼土粒子少量, 粘土粒子・KP粒子微量

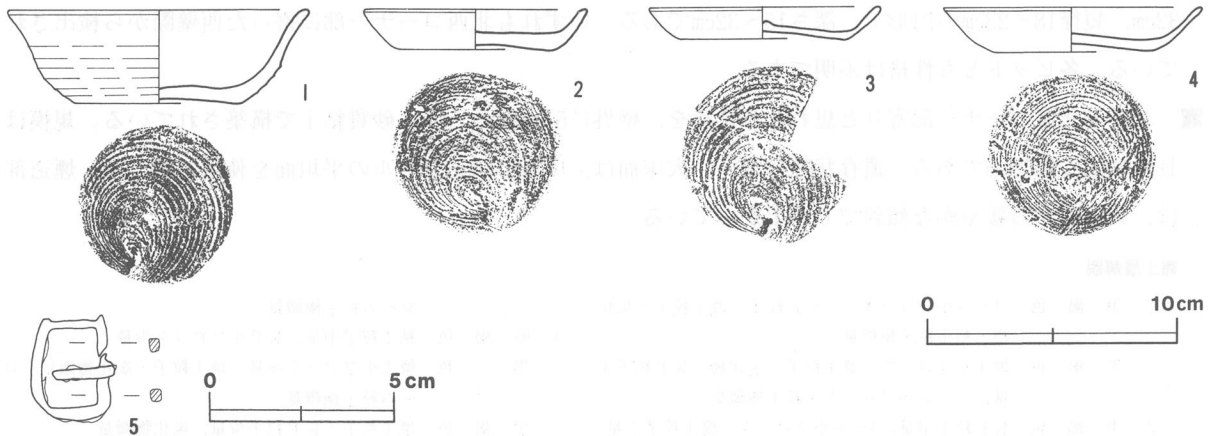
覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
 2 極暗褐色 KP粒子微量, ローム粒子・焼土粒子極微量
 3 黒褐色 KP粒子少量

遺物 土師器片89点, 須恵器片15点, 鉄製品2点が出土している。第157図2~4の土師器小皿と1の土師器坏は、北西コーナー部の覆土上層から出土している。5の鉸具は、P3の南側の覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から10世紀後半と思われる。



第157図 第17号住居跡出土遺物実測図

第17号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第157図 1	坏 土師器	A 12.0	平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁端部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒, 長石, 石英 にぶい黄褐色 普通	P54 70% PL71
		B 4.8				
		C 6.5				
2	小皿 土師器	A 9.0	平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒, 長石, 石英, 雲母 にぶい黄橙色 普通	P55 100% PL71
		B 1.6				
		C 6.2				
3	小皿 土師器	A 9.2	平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒, 長石, 石英 にぶい橙色 普通	P56 80% PL71
		B 1.3				
		C 6.8				
4	小皿 土師器	A 10.4	平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒, 長石, 石英 にぶい橙色 普通	P57 70% PL71
		B 1.8				
		C 6.4				

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第157図5	鉸 具	2.9	2.3	0.4	3.0	覆 土	M9 PL79

第18号住居跡 (第158図)

位置 調査区中央部, C3f1区。

重複関係 北東コーナー部を第2号溝に, 西部を第48号土坑に掘り込まれており, いずれよりも本跡の方が古い。

規模と平面形 東部が調査区域外に延びており, また南西コーナー部は攪乱のため, 規模や平面形は不明である。

主軸方向 N-5°-E

壁 壁高は6~10cmで, 垂直に立ち上がっている。傾斜部に立地しているため, 壁の相当部分が流失していると思われる。

床 南方向に緩やかに傾斜している。

ピット 3か所(P1~P3)。P1は, 長径33cm, 短径30cmの円形で, 深さ32cmである。P2・P3は長径21~32cm, 短径18~23cmの円形で, 深さ15~32cmである。いずれも北西コーナー部に寄った西壁際から検出されている。各ピットとも性格は不明である。

竈 北壁の北東コーナー部寄りと思われる位置を, 壁外に51cm掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は長さ56cm, 幅79cmである。遺存状態は悪い。火床面は, 床面と同じレベルの平坦面を使用している。煙道部は, 火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | |
|-------|---|--------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・粘土粒子極微量 | ローム粒子極微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・KP粒子少量, ローム小ブロック・粒子極微量 | 4 暗褐色 粘土粒子中量, KP小ブロック少量 |
| 3 黒褐色 | KP粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子少量, | 5 黒色 焼土小ブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量, ローム粒子極微量 |
| | | 6 黒褐色 焼土粒子・KP粒子少量, 炭化物微量 |

覆土 単一層で自然堆積である。

土層解説

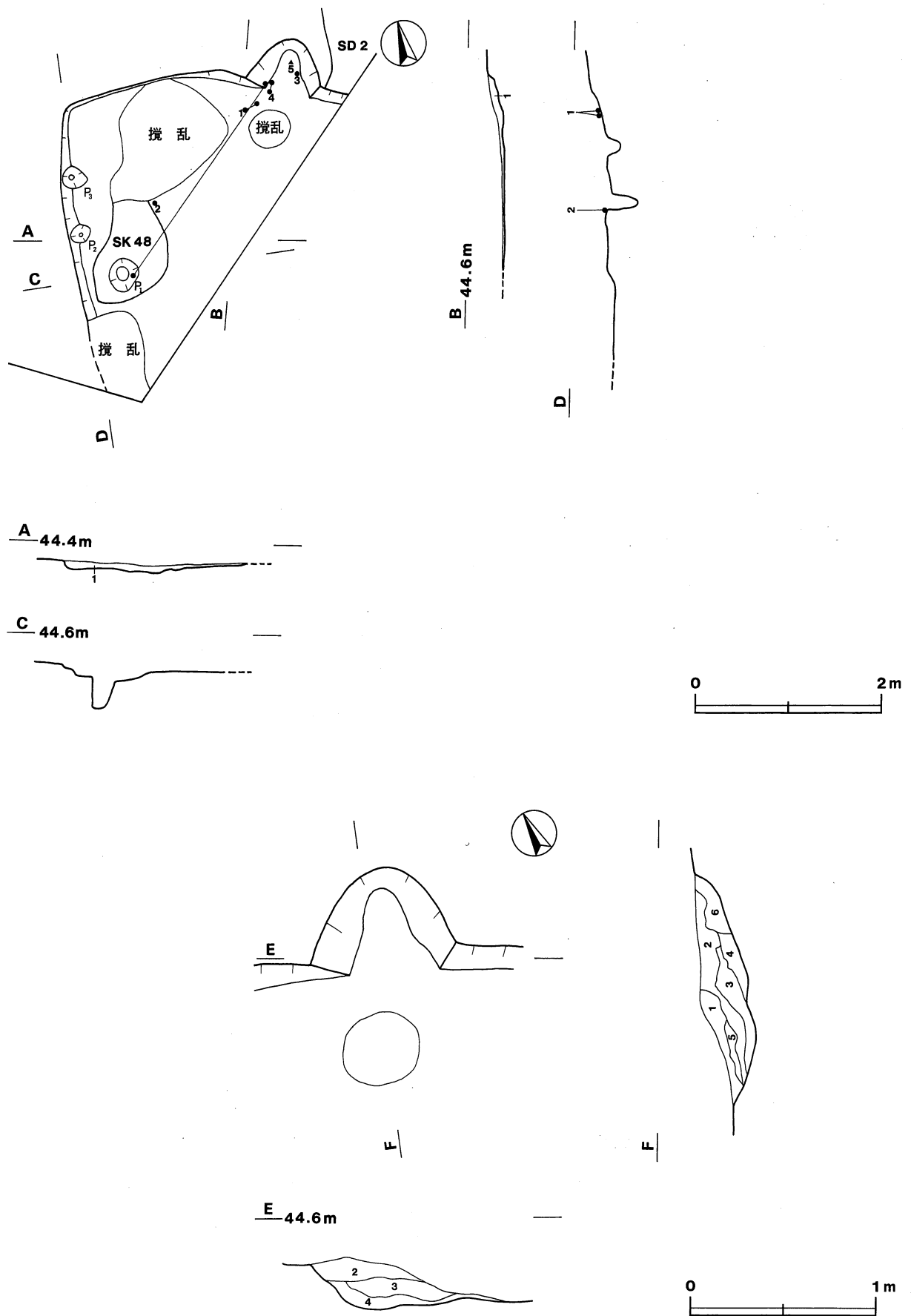
- 1 暗褐色 ローム粒子微量

遺物 土師器片149点, 須恵器片11点, 土製品1点が出土している。第159図1の土師器坏は, 竈西袖の南側の覆土下層から出土している。2の土師器高台付坏は, 中央部の西側の覆土下層から出土している。3の土師器甕と4の土師器甌, 5の土製支脚は, 竈の覆土下層から出土している。

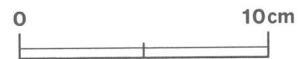
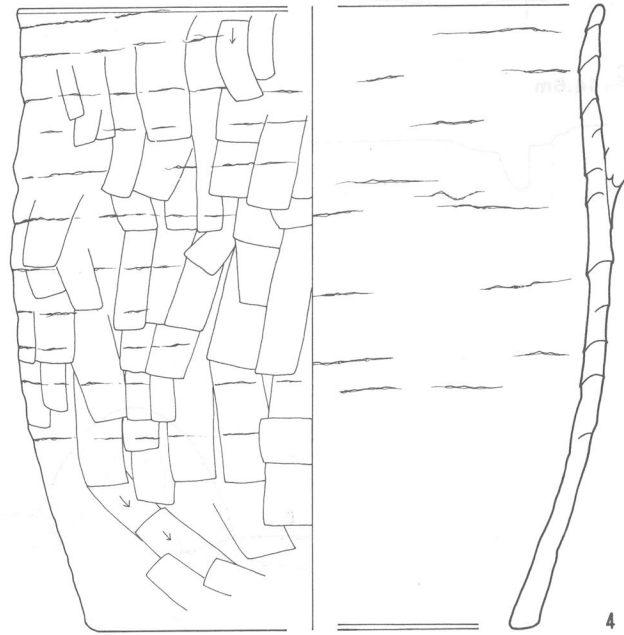
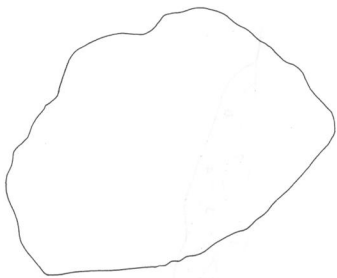
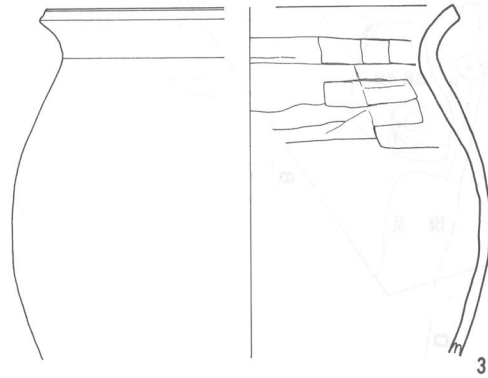
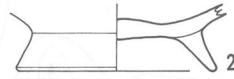
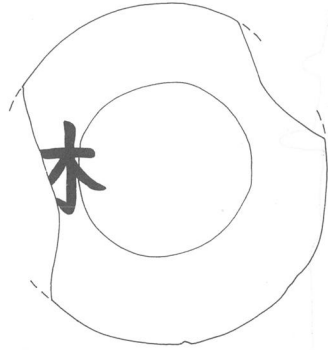
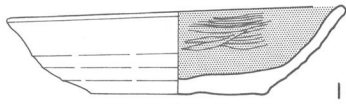
所見 本跡の時期は, 出土遺物から9世紀後半と考えられる。

第18号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第159図 1	坏 土師器	A 12.0	平底。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁端部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒, 長石, 石英 にぶい黄褐色 普通	P58 80% PL71 内面黒色処理 体部外面墨書「不」
		B 4.8				
		C 6.5				



第158图 第18号住居跡実測图



第159図 第18号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第159図 2	高台付坏 土師器	B (2.7) D [7.8] E 1.7	底部破片。平底に「ハ」の字 状に開く高台が付く。	高台貼り付け後、ナデ。	砂粒, 長石, 石英, 雲母 橙色 普通	P59 10%
3	甕 土師器	A [16.4] B (14.0)	体部下位から口縁部にかけての破 片。頸部は「く」の字状に外反する。 口縁部上位の外面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内 面横位のヘラ削り。	砂粒, 長石, 石英, 礫 明赤褐色 普通	P60 15% PL71

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第159図 4	甗 土師器	A [23.5] B (25.0) C [18.2]	体部から口縁部にかけての破片。無底式。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	体部全面に縦位のヘラ削り。体部外面上位と内面上位から中位にかけて、輪積み痕を残す。	砂粒、長石、石英にぶい黄褐色普通	P62 30% PL72

図版番号	種別	計測値			材質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	重量(g)			
第159図5	支脚	(17.3)	13.5	(2150.0)	土製	覆土	DP3 PL78

第19号住居跡 (第160図)

位置 調査区中央部、B2h0区。

重複関係 中央部の覆土を第5号溝に掘り込まれており、本跡の方が古い。

規模と平面形 北西コーナー部から竈付近以外は、第5号溝に掘り込まれており、規模や平面形は不明である。

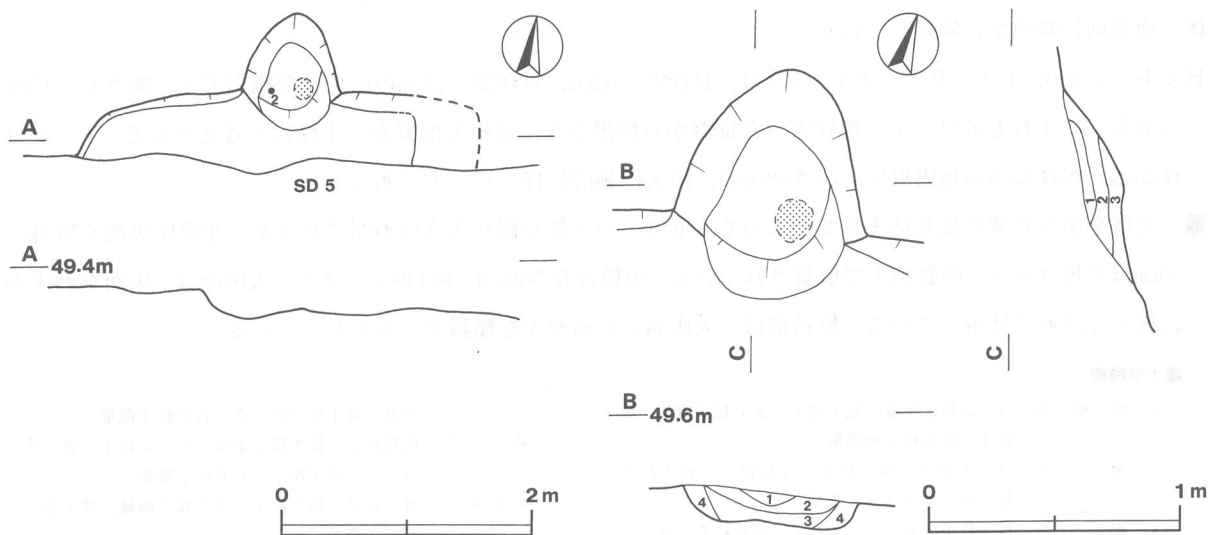
竈 北壁の北東コーナー部寄りと思われる位置を、壁外に60cm掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は長さ92cm、幅80cmである。遺存状態は悪い。火床面は、床面と同じレベルの面を使用し、南東部の一部が赤変硬化している。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

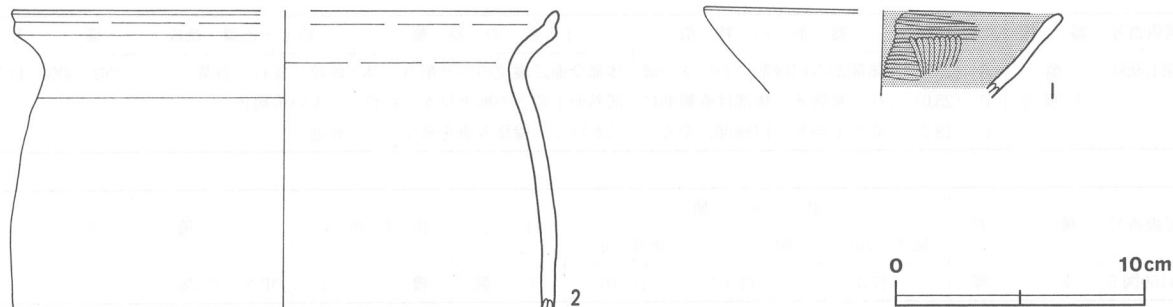
- | | |
|--------------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量、炭化粒子極微量 | 4 暗褐色 粘土粒子少量、焼土粒子・KP粒子微量 |
| 2 極暗赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子極微量 | |
| 3 暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子・KP粒子微量 | |

遺物 土師器片44点、須恵器片1点が出土している。第161図1の土師器坏、2の土師器甕は、ともに竈の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀後半と考えられる。



第160図 第19号住居跡実測図



第161図 第19号住居跡出土遺物実測図

第19号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第161図 1	坏 土師器	A [14.4] B (3.4)	体部下位から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。	砂粒にふい褐色 普通	P63 10% 内面黒色処理
2	甕 土師器	A [22.0] B (12.0)	体部中位から口縁部にかけての破片。頸部は「く」の字状に屈曲する。口縁部外面の中位に稜をもつ。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横位のヘラナデ。	砂粒, 長石, 石英, 礫 明赤褐色 普通	P65 10% PL72

第20号住居跡 (第162図)

位置 調査区中央部, B2i9区。

重複関係 竈北部を第5号溝に掘り込まれており, 本跡の方が古い。

規模と平面形 南東コーナー部周辺の壁が残存しておらず, 正確な平面形は不明であるが, 長軸3.95m, 短軸3.10mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-5°-W

壁 壁高は10~30cmで, ほぼ垂直に立ち上がっている。東壁中央部から南壁中央部までの壁は残存していない。

床 南方向に緩やかに傾斜している。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は, 長径25~32cm, 短径25~27cmの円形及び楕円形で, 深さ8~15cmである。いずれも各コーナー部に寄った位置から検出され, 規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は長径25cm, 短径17cmの楕円形で, 深さ18cmの, 出入口施設に伴うピットである。

竈 北部を第5号溝に掘り込まれているので, 壁外への正確な掘り込みは不明であるが, 北壁中央部を壁外に55cmほど掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は長さ97cm, 幅149cmである。火床面は, 床面をわずかに掘りくぼめて使用している。煙道部は, 火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

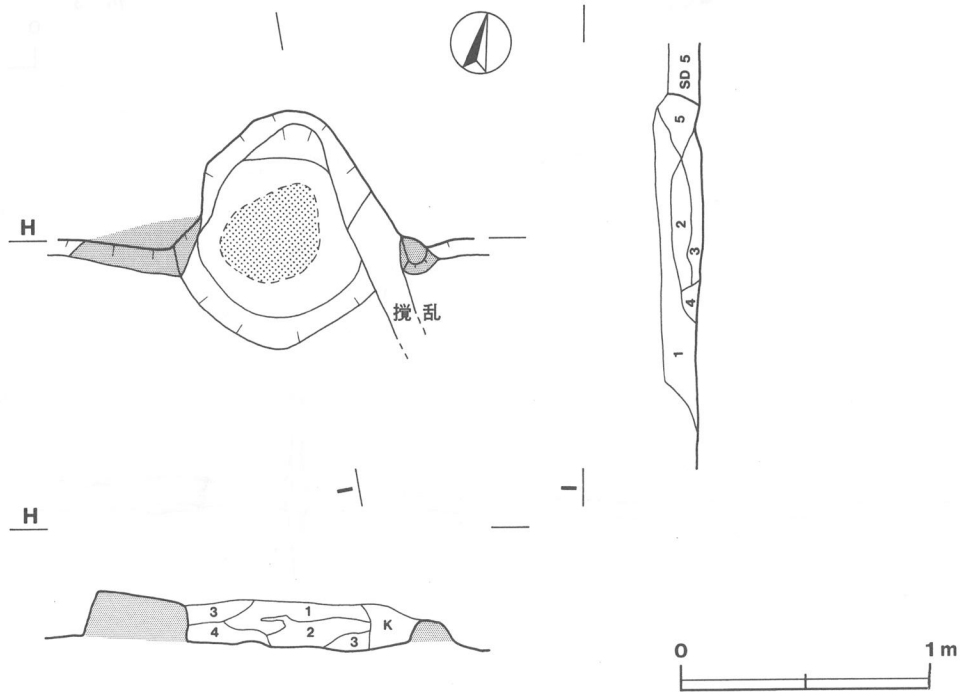
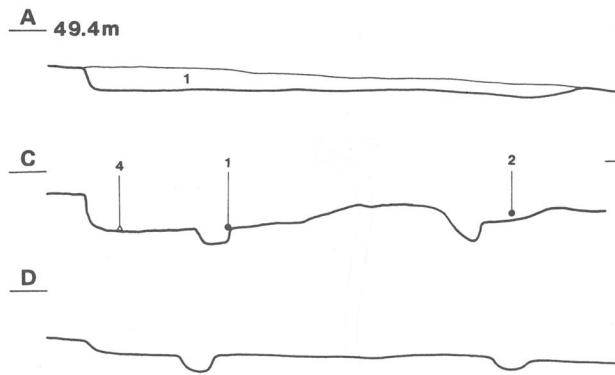
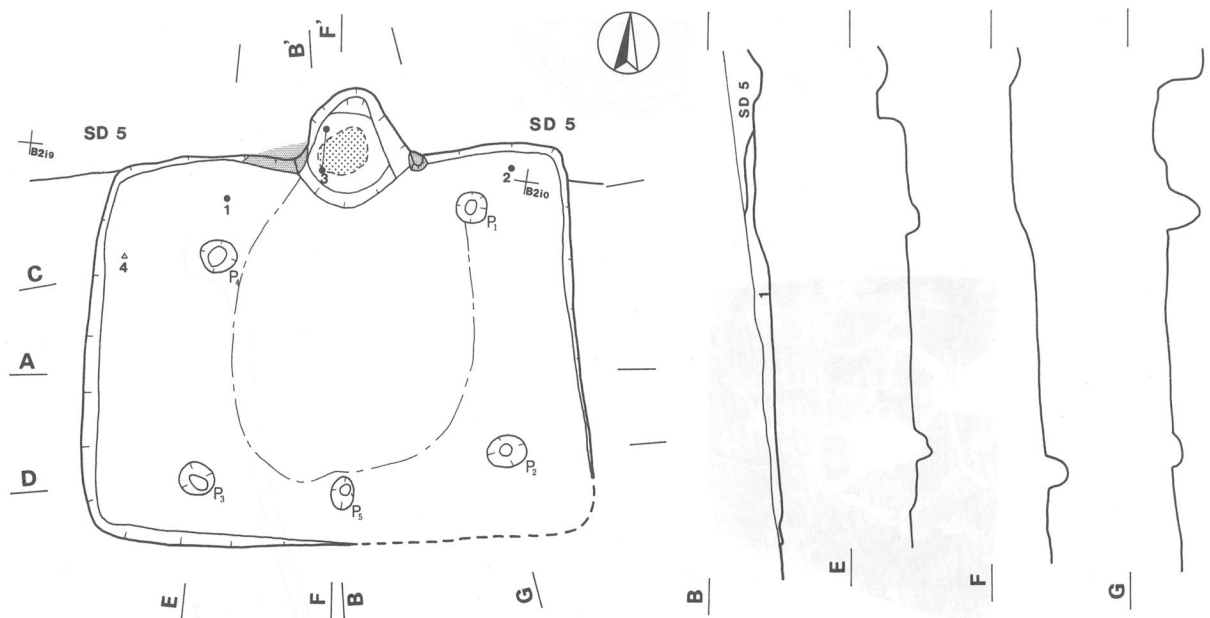
竈土層解説

- | | | |
|-------|------------------------------------|---|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 粘土粒子・KP粒子微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量 | 少量, 焼土小ブロック・KP粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック微量 | 4 褐色 炭化粒子・粘土粒子少量, ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・KP粒子微量 |
| 3 褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子 | 5 極暗褐色 焼土粒子・粘土粒子・KP粒子微量, 焼土小ブロック極微量 |

覆土 単一層で自然堆積である。

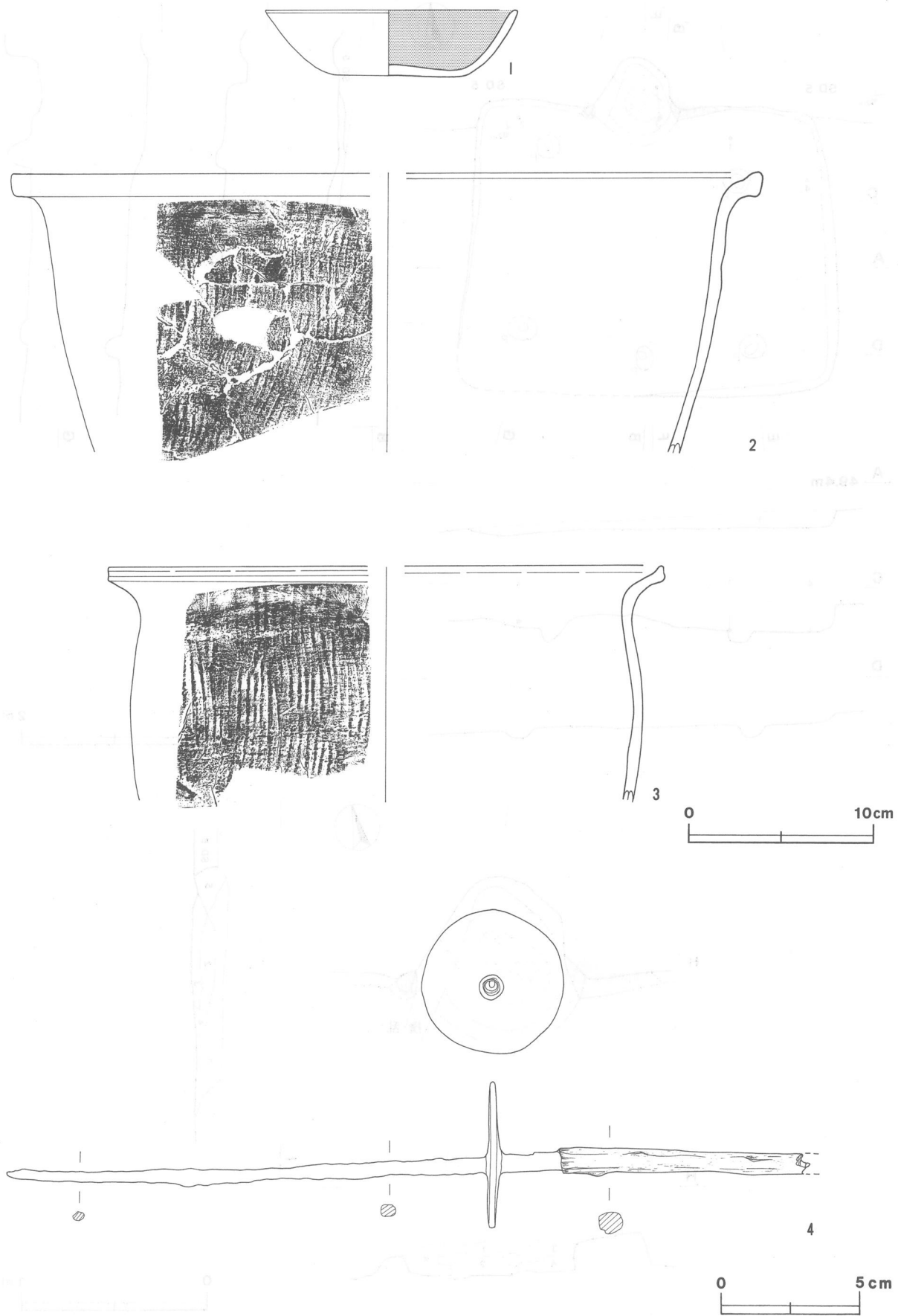
土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・KP小ブロック・KP粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量



第162图 第20号住居跡実測图

图例 实测图 出土物 遗迹 剖面图 比例尺 1:50



第163图 第20号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片261点, 須恵器片30点, 鉄製品2点が出土している。第163図1の土師器坏は, P4の北側の床面から出土している。2の須恵器甌は, 北東コーナー部北壁寄りの覆土下層から出土している。3の須恵器甌は, 竈の覆土下層から出土している。4の鉄製紡錘車は, P4の西側で西壁寄りの床面から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から9世紀後半と考えられる。

第20号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第163図 1	坏 土師器	A 13.5	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部から体部外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒, 長石, 石英 にぶい褐色 普通	P66 50% PL72 内面黒色処理
		B 3.6				
		C 7.4				
2	甌 須恵器	A [40.2]	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位に平行叩き目を残す。	砂粒, スコリア, 雲母 にぶい褐色 普通	P67 10% PL72
		B (15.0)				
3	甌 須恵器	A [30.0]	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部は強く外反する。口縁端部はわずかに外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面に平行叩き目を残す。	砂粒, スコリア にぶい黄褐色 普通	P68 10% PL72
		B (12.6)				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	紡輪径(cm)	紡輪厚さ(cm)	重量(g)		
第163図4	鉄製紡錘車	(28.6)	5.2	0.4	(39.0)	覆土 M11 PL79	竹製筒装着 筒部分の長さ(8.5cm)

第21号住居跡 (第164図)

位置 調査区中央部, B3 j 1区。

規模と平面形 南壁中央部や南東コーナー部周辺の壁が残存しておらず, 正確な平面形は不明であるが, 長軸4.80m短軸4.65mの隅丸方形と推定される。

主軸方向 N-3°-W

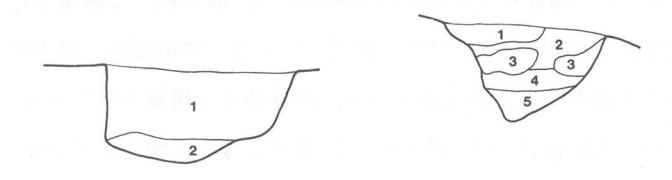
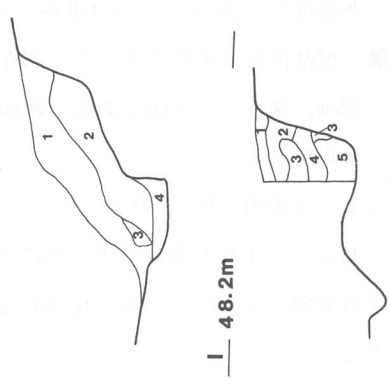
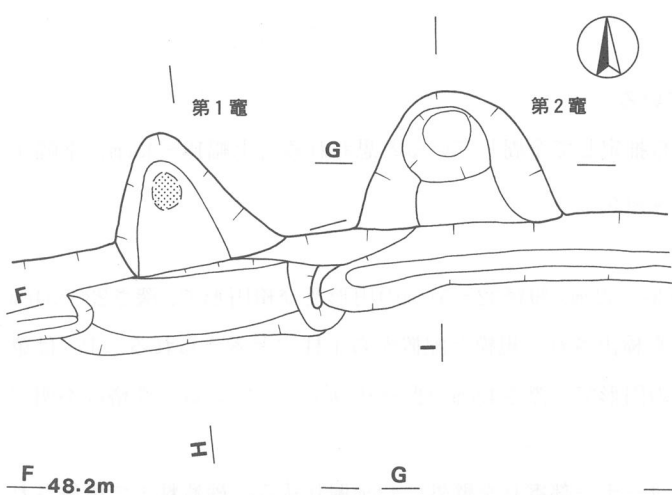
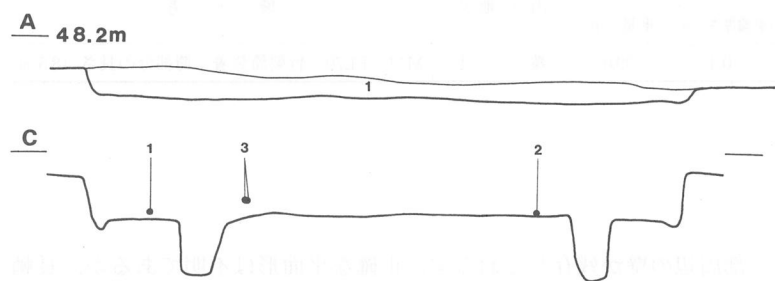
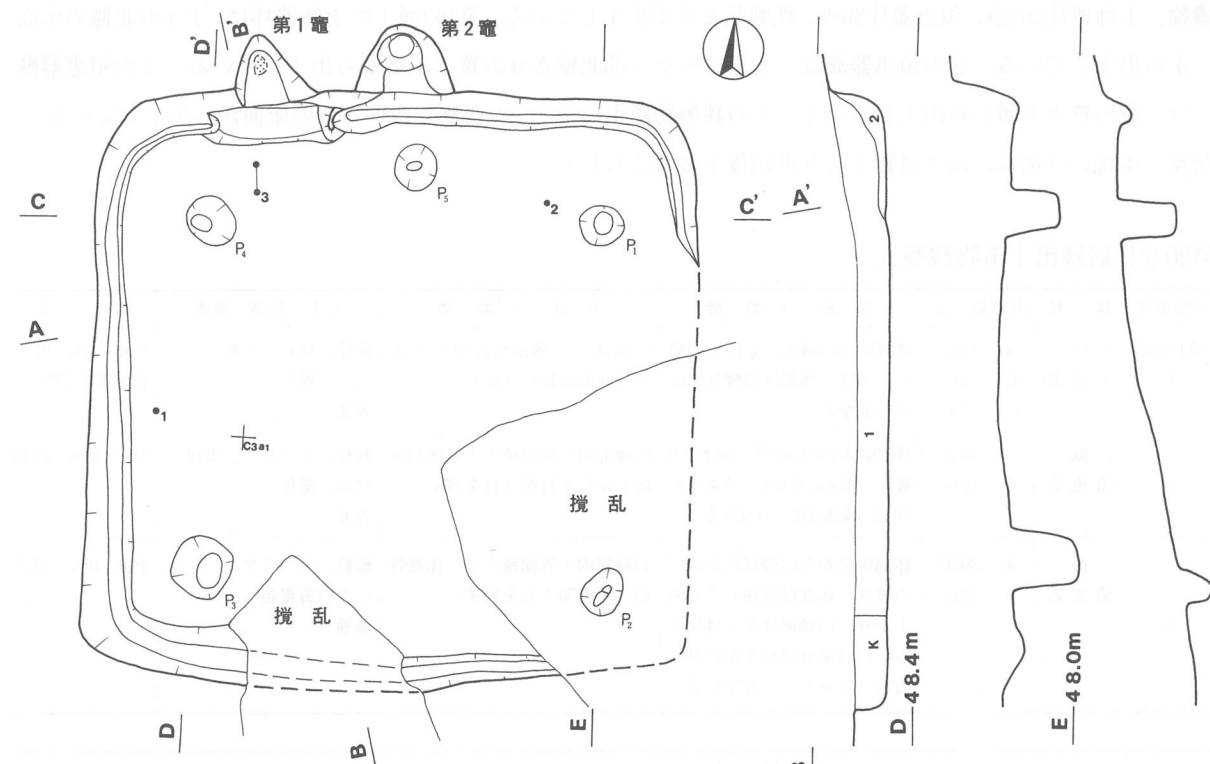
壁 壁高は35~50cmで, ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝 攪乱部分は不明であるが, 調査した範囲から推定して全周していると思われる。上幅18~48cm, 下幅4~22cm, 深さ3~8cmである。断面形はU字状である。

床 平坦である。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は, 長径36~52cm, 短径32~51cmの円形及び楕円形で, 深さ23~54cmである。いずれも各コーナー部に寄った位置から検出され, 規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は第2竈南側に位置している。長径37cm, 短径34cmの円形で, 深さ42cmの掘り込みをもっている。性格は不明である。

竈 2か所構築されている。第1竈は北壁の北西コーナー部寄りを壁外に43cm掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は長さ58cm, 幅65cmである。火床面は, 床面を掘りくぼめて使用している。煙道部は, 火床面から外傾して立ち上がっている。第2竈は北壁中央部を壁外に55cm掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は長さ55cm, 幅81cmである。遺存状態は悪い。火床面は, 床面をわずかに掘りくぼめて使用している。煙道部は, 火床面から垂直に立ち上がっている。第2竈と床面の間に壁溝が巡っていることや残存状態からみて, 第1竈の方が, 第2竈より新しい。



第164图 第21号住居迹实测图

第1 竈土層解説

- | | | | |
|-------|---|-------|--|
| 1 黒褐色 | K P 粒子・山砂粒子少量, ローム小ブロック微量, ローム粒子極微量 | 3 褐色 | 焼土粒子多量, K P 粒子中量, ローム粒子微量 |
| 2 褐灰色 | 山砂粒子中量, K P 粒子少量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | K P 粒子多量, K P 小ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子・山砂粒子少量 |

第2 竈土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------|---------------------------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 粘土粒子・K P 粒子微量, 焼土中ブロック極微量 | |
| 2 暗褐色 | ローム粒子微量, 焼土小ブロック極微量 | 5 暗赤灰色 | 焼土粒子・灰粒子少量, 焼土小ブロック・粘土粒子・K P 粒子微量 |
| 3 暗褐色 | K P 粒子中量, 焼土粒子微量 | | |
| 4 極暗赤褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子 | | |

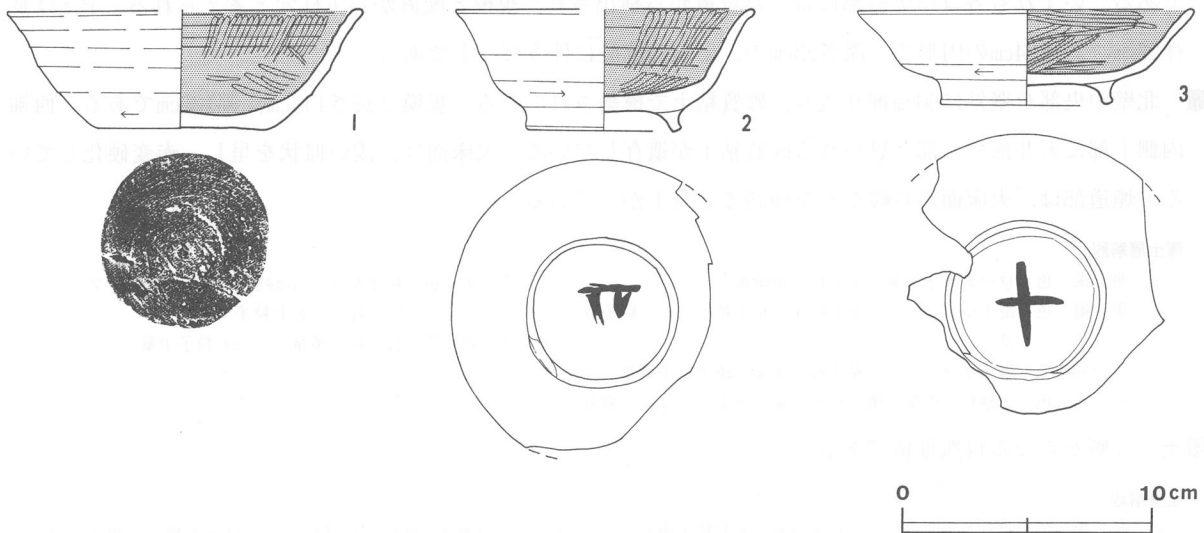
覆土 2層からなり人為堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|--------|---|-------|---|
| 1 極暗褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・K P 粒子・K P 小ブロック少量, ローム粒子微量 | 2 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・K P 粒子・K P 小ブロック少量, ローム粒子・黒色土小ブロック微量 |
|--------|---|-------|---|

遺物 土師器片286点, 須恵器片26点, 陶器片1点が出土している。第165図1の土師器坏は, 西壁中央部際の覆土下層から出土している。2の土師器高台付坏は, P1の西側の床面から出土している。3の土師器高台付坏は, 第1竈の南側の覆土下層から出土している。陶器片は, 攪乱により混入したものである。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から9世紀後半と考えられる。



第165図 第21号住居跡出土遺物実測図

第21号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第165図 1	坏 土師器	A [14.2]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部はやや外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。体部下端ヘラ削り。底部回転ヘラ切り。	砂粒 にふい褐色 普通	P71 50% PL72 内面黒色処理
		B 4.8				
		C 6.6				
2	高台付坏 土師器	A [12.0]	平底に, 「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がり, 体部中位からは直線的に延び, 口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。体部下端ヘラ削り。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後, ナデ。	砂粒, スコリア, 雲母 褐色 普通	P72 65% PL72 内面黒色処理 底部外面墨書「π」
		B 4.9				
		D 6.2				
		E 0.8				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第165図 3	高台付坏 土師器	A 13.6 B 3.8 D 6.8 E 0.9	平底に、直線的に開く高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がり、体部中位からわずかに外傾して延び、口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。体部下端ヘラ削り。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒、スコリア、雲母 にぶい褐色 普通	P73 50% PL72 内面黒色処理 底部外面墨書「十」

第22号住居跡 (第166図)

位置 調査区中央部, C2a9区。

規模と平面形 南東部が調査区域外に延びているので、正確な平面形は不明であるが、長軸4.20m, 短軸4.05mの隅丸方形と推定される。

主軸方向 N-3°-E

壁 壁高は20~40cmで、垂直に立ち上がっている。南壁と東壁の上部は、斜面部に立地しているため流失し、残存していない。

壁溝 竈の両袖脇から、北東コーナー部・西壁中央部にかけての壁下を巡っている。上幅12~27cm, 下幅2~16cm, 深さ4~8cmである。断面形はU字状である。

床 南西コーナー部方向にわずかに傾斜している。

ピット 4か所(P1~P4)。P1~P3は、長径26~36cm, 短径24~32cmの円形及び楕円形で、深さ22~28cmである。いずれも各コーナー部に寄った位置から検出され、規模と配置から主柱穴と考えられる。P4は長径28cm, 短径24cmの円形で、深さ23cmの、出入口施設に伴うピットである。

竈 北壁中央部を壁外に60cm掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は長さ144cm, 幅125cmである。西袖内側上部に天井部の一部と思われる砂質粘土が遺存している。火床面は、浅い皿状を呈し、赤変硬化している。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------------|-------|--------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子極微量 | 5 赤灰色 | 粘土粒子・山砂粒子中量, 焼土小ブロック・
焼土粒子・KP粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・KP粒子微量 | 6 明褐色 | KP粒子多量, ローム粒子中量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 焼土小ブロック・粘土粒子少量, 焼土粒子微量 | | |
| 4 灰赤色 | 山砂粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック微量 | | |

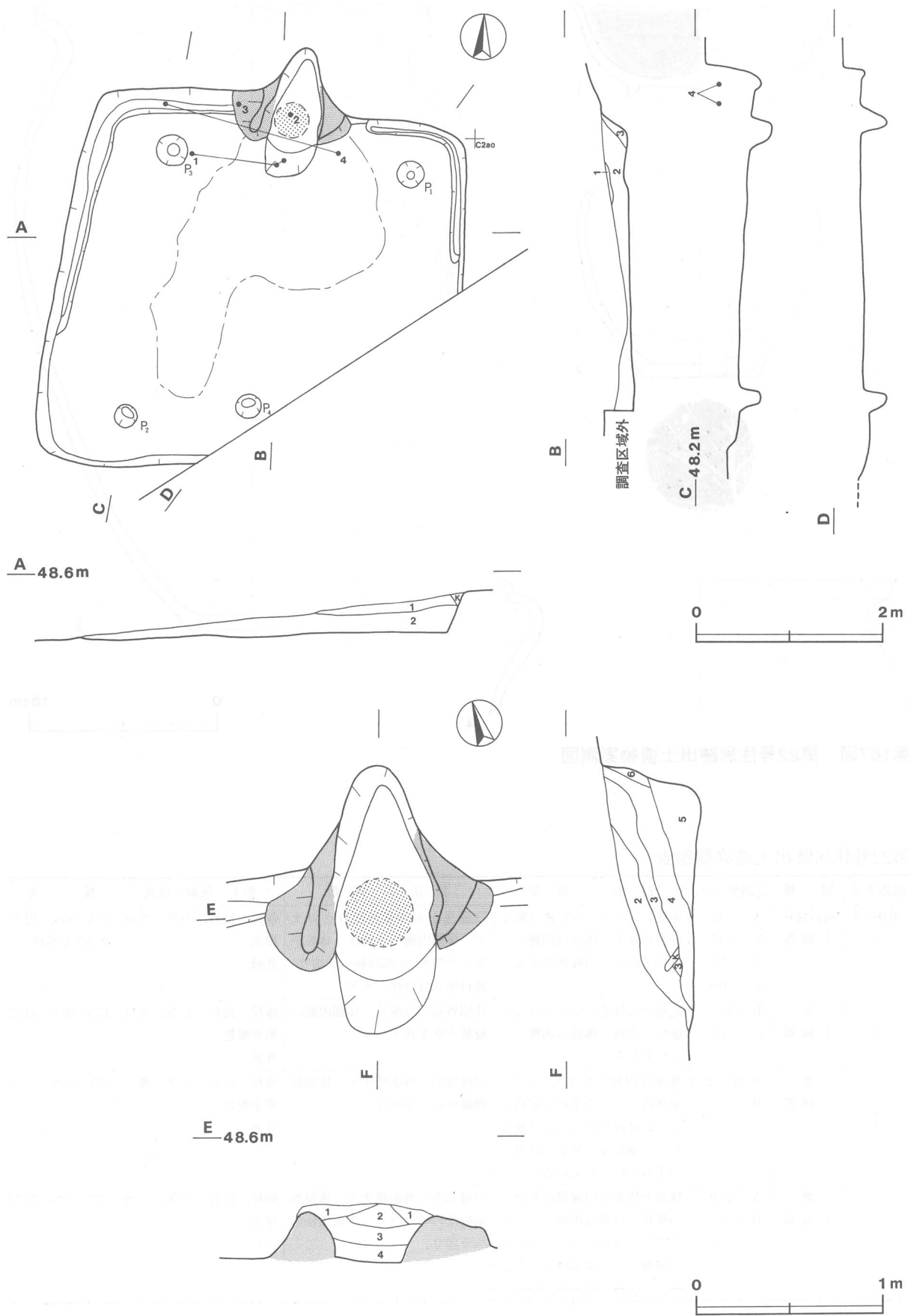
覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説

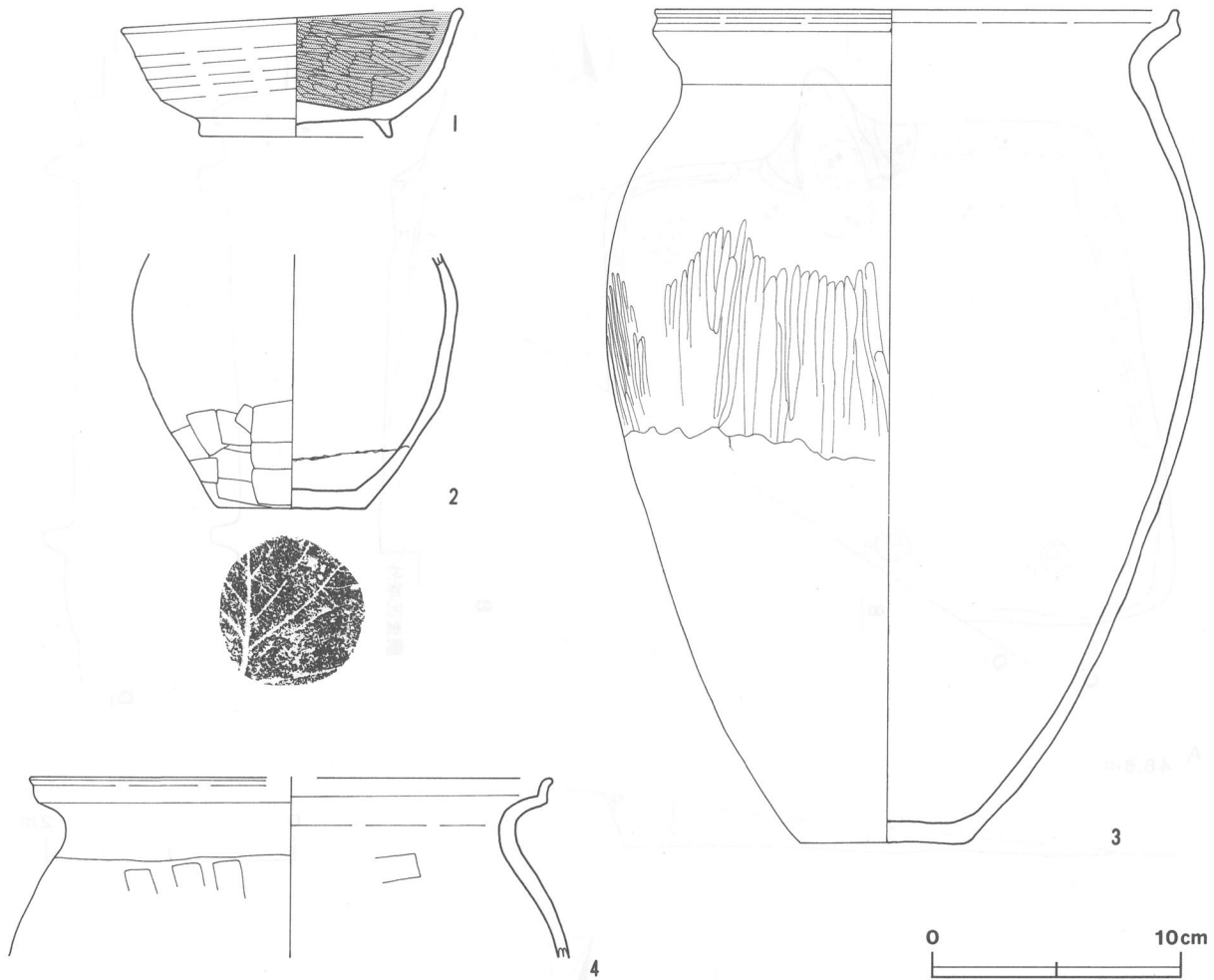
- | | | | |
|--------|--------------------------------------|----------|--|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・粒子少量, KP粒子微量 | 3 にぶい赤褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・
焼土粒子・粘土粒子・山砂粒子・砂礫少量 |
| 2 極暗褐色 | KP粒子少量, ローム粒子・焼土中ブロック・
土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物 土師器片87点, 須恵器片8点が出土している。第167図1の土師器高台付坏は、竈の南側の覆土中層から出土している。2の土師器壺, 3の土師器甕は、竈の覆土中層から出土している。4の土師器甕は、竈東袖の南側の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から9世紀後半と考えられる。



第166図 第22号住居跡実測図



第167図 第22号住居跡出土遺物実測図

第22号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第167図 1	高台付坏 土師器	A 13.7 B 5.1 D 7.8 E 0.8	平底に、「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。体部下端ヘラ削り。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒, 長石, 石英, 雲母 橙色 普通	P74 90% PL73 内面黒色処理
2	壺 土師器	B (10.2) C 6.0	底部から体部上位にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。体部内面に輪積み痕を残す。	砂粒, 長石, 石英, 雲母 明赤褐色 普通	P75 50% PL72
3	甕 土師器	A 20.0~21.0 B 33.5 C 6.7	体部は内彎して立ち上がり、頸部は「く」の字状に屈曲する。口縁部外面の中位に稜をもつ。端部は、外上方に強くつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。	砂粒, 長石, 石英, 礫 明赤褐色 普通	P76 95% PL72
4	甕 土師器	A [21.0] B (22.5)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部は「く」の字状に屈曲する。端部は外上方に強くつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。内面横位のヘラ削り。	砂粒, 長石, 石英, 雲母 橙色 普通	P77 10% PL73

第23号住居跡 (第168図)

位置 調査区中央部, C2d0区。

重複関係 本跡の西壁が第25号住居跡を掘り込んでおり, 本跡の方が新しい。本跡の南東コーナー部が第24号住居跡に掘り込まれており, 本跡の方が古い。

規模と平面形 長軸3.45m, 短軸3.30mの隅丸方形と推定される。

主軸方向 N-2°-E

壁 北西部の壁高は12~36cmで, 垂直に立ち上がっている。その他の壁は, 斜面部に立地しているため流失し, 残存状態が極めて悪い。

壁溝 竈の両袖脇から壁下をほぼ巡っている。上幅8~16cm, 下幅4~8cm, 深さ6cmである。断面形はU字状である。

床 暗赤褐色のローム面を床面にしており, 南方向にわずかに傾斜している。

ピット 4か所(P1~P4)。P1~P3は, 長径38~48cm, 短径32~(40)cmの円形及び楕円形で, 深さ6~10cmである。P1は南東コーナー部に, P2とP3は隣接して南西コーナー部に寄った位置から検出されている。いずれも掘り込みが浅く, 性格は不明である。P4は長径48cm, 短径46cmの円形で, 深さ18cmである。出入口施設に伴うピットであると考えられる。

竈 北壁中央部を壁外に85cm掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は長さ130cm, 幅103cmである。両袖とも礫を補強材に使用している。火床面は, 浅い皿状を呈し赤変硬化している。煙道部は, 火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|---|---|
| 1 極暗褐色 粘土粒子多量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子極微量 | 4 極暗褐色 粘土粒子多量, 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 粘土粒子多量, 焼土中ブロック少量, 焼土小ブロック微量 | 5 暗褐色 粘土粒子少量, 焼土粒子極微量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子極微量 | 6 暗褐色 焼土粒子・粘土粒子微量, 焼土小ブロック極微量 |

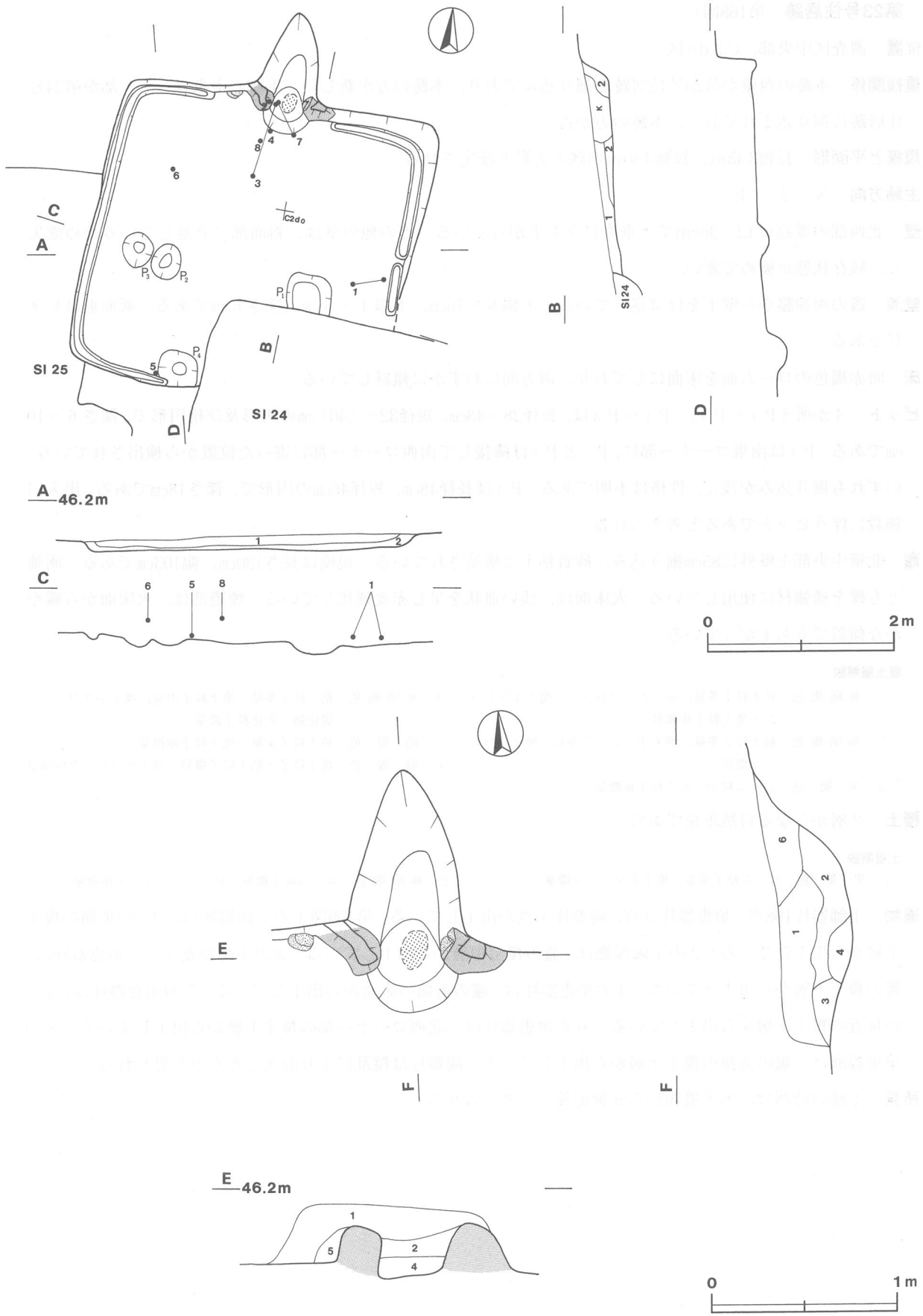
覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説

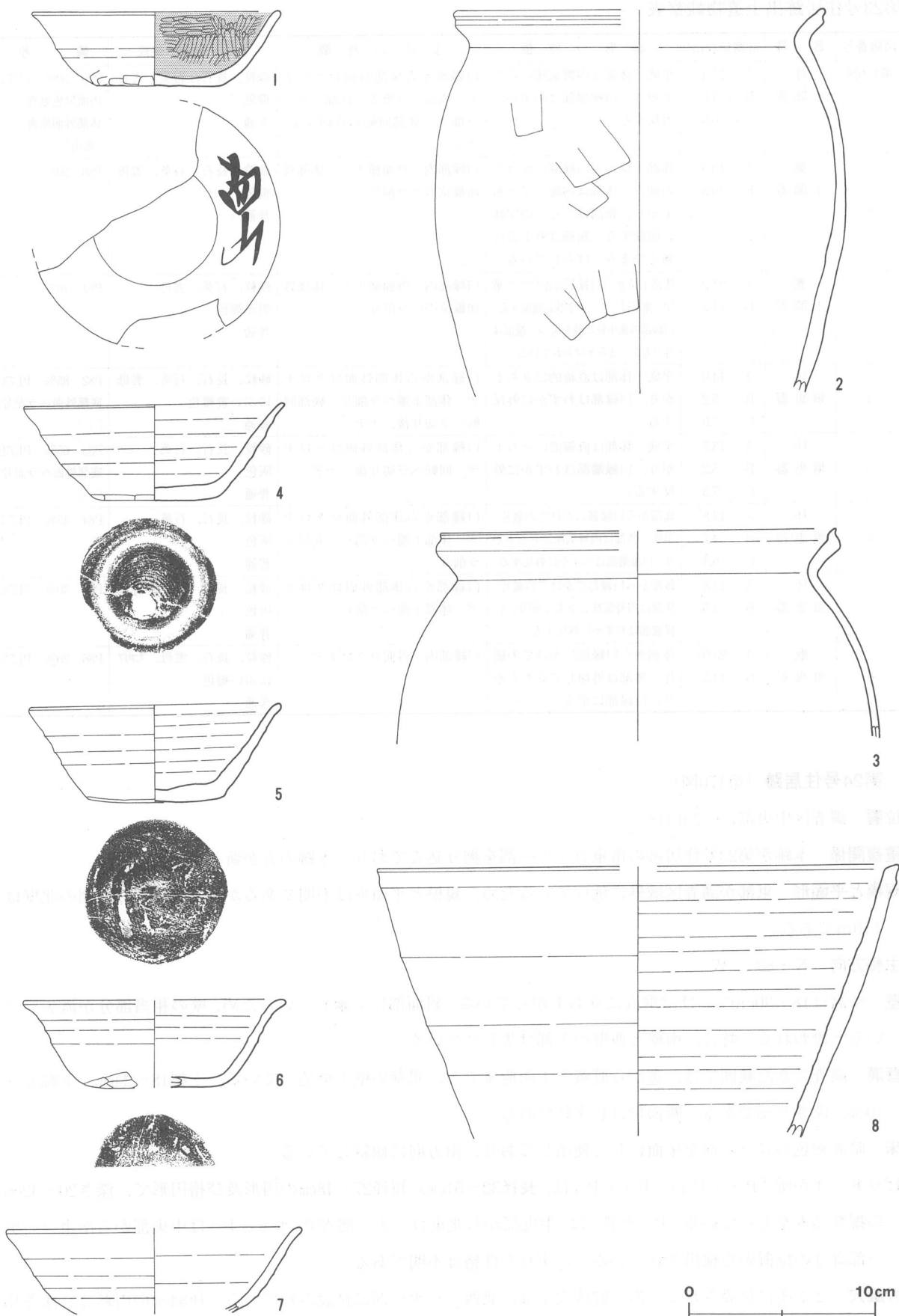
- | | |
|--------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量 | 2 極暗褐色 ローム粒子微量, ローム小ブロック極微量 |
|--------------------------|-----------------------------|

遺物 土師器片198点, 須恵器片9点, 陶器片1点が出土している。第169図1の土師器坏は, P1の東側の覆土下層から出土している。2の土師器甕は, 竈の覆土中層から出土している。3の土師器甕と7の須恵器坏は, 竈の覆土下層から出土している。4の須恵器坏は, 竈の南側の床面から出土している。5の須恵器坏は, P4の付近の覆土下層から出土している。6の須恵器坏は, 北西コーナー部の覆土上層から出土している。8の須恵器甕は, 竈の南側の覆土上層から出土している。陶器片は攪乱により混入したものと思われる。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から9世紀後半と考えられる。



第168図 第23号住居跡実測図



第169图 第23号住居跡出土遺物実測図

第23号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第169図 1	坏 土師器	A 13.4 B 4.0 C 6.6	平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁端部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。体部下端ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒、長石、石英、雲母 橙色 普通	P79 50% PL73 内面黒色処理 体部外面墨書 「西山」 ^カ
2	甕 土師器	A [19.5] B (20.5)	体部下位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部は「く」の字状に屈曲する。端部は外上方に強くつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。	砂粒、長石、石英、雲母 橙色 普通	P80 20%
3	甕 土師器	A [21.2] B (11.2)	体部上位から口縁部にかけての破片。頸部は「く」の字状に屈曲する。口縁部外面中位に稜をもつ。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。	砂粒、石英、雲母 明赤褐色 普通	P81 10%
4	坏 須恵器	A 14.0 B 5.2 C 7.0	平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部下端ヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒、長石、石英、雲母 にぶい黄橙色 普通	P82 85% PL73 底部外面ヘラ記号 「 」
5	坏 須恵器	A 13.5 B 5.2 C 7.3	平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。回転ヘラ切り後、ナデ。	砂粒、長石、石英 灰色 普通	P83 65% PL73 底部外面ヘラ記号 「 」
6	坏 須恵器	A [13.8] B 4.7 C [6.4]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁端部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部下端ヘラ削り。底部ヘラ削り。	砂粒、長石、石英 灰色 普通	P84 45% PL73
7	坏 須恵器	A [15.8] B (4.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁端部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部下端ヘラ削り。	砂粒、長石、石英、雲母 灰色 普通	P85 30% PL73
8	甕 須恵器	A [28.0] B (14.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒、長石、雲母、スコリア にぶい褐色 普通	P86 20% PL73

第24号住居跡 (第170図)

位置 調査区中央部、C2d0区。

重複関係 本跡が第23号住居跡の南東コーナー部を掘り込んでおり、本跡の方が新しい。

規模と平面形 東部が調査区域外に延びているため、規模と平面形は不明であるが、調査できた範囲の北壁は3.10mである。

主軸方向 N-83°-W

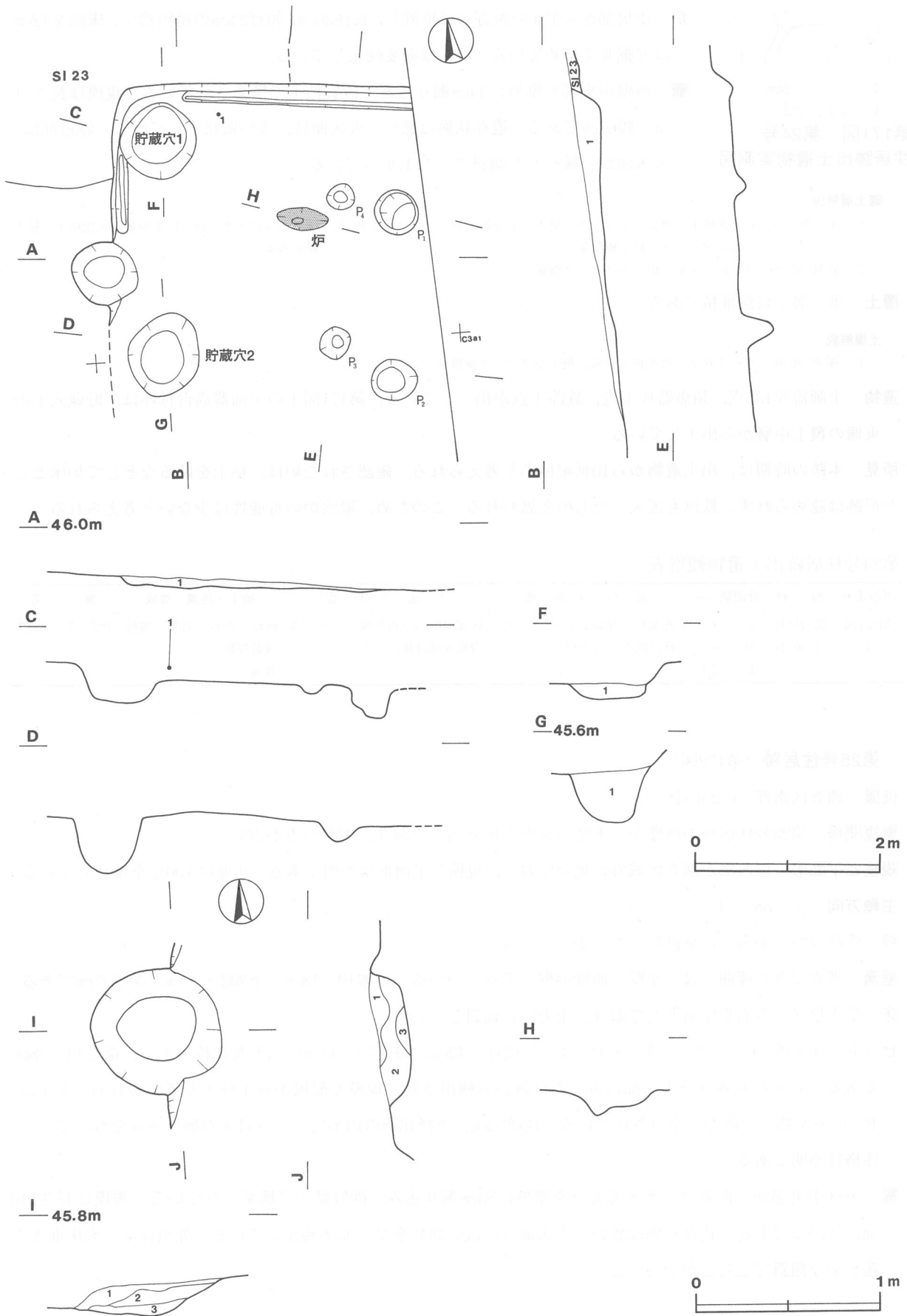
壁 壁高は18~30cmで、ほぼ垂直に立ち上がっている。斜面部に立地しているため、壁の相当部分が流失していると思われる。特に、南壁と西壁の上部は失われている。

壁溝 調査できた範囲では、竈から貯蔵穴1西側までと、北壁の壁下を巡っている。上幅18~24cm、下幅4~10cm、深さ6cmである。断面形はU字状である。

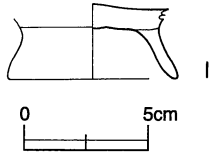
床 暗赤褐色のローム面を床面にして使用しており、南方向に傾斜している。

ピット 4か所(P1~P4)。P1~P4は、長径32~51cm、短径27~48cmの円形及び楕円形で、深さ20~32cmの掘り込みをもっている。P1とP4は、中央部から北東コーナー部寄り、P2とP3は中央部から南東コーナー部寄りの位置から検出されている。いずれも性格は不明である。

貯蔵穴 2か所に付設されている。貯蔵穴1は、北西コーナー部に付設されている。径84cmの円形で、深さ18cmである。貯蔵穴2は、竈南袖の南東側に付設されている。長径92cm、短径84cmの楕円形で、深さ54cmである。



第170图 第24号住居跡実測図



第171図 第24号
住居跡出土遺物実測図

炉 中央部からP4の西寄りに位置し、長径30cm、短径24cmの楕円形で、床面を12cmほど掘りくぼめている。炉床は赤変硬化している。

竈 西壁中央部を壁外に44cm掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は長さ71cm、幅67cmである。遺存状態は悪い。火床面は、浅い皿状をしている。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 赤黒色 ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量、ローム小ブロック・粒子極微量
- 2 極暗褐色 焼土粒子少量、焼土小ブロック微量
- 3 極暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量

覆土 単一層で自然堆積である。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、焼土小ブロック極微量

遺物 土師器片135点、須恵器片1点、鉄滓1点が出土している。第171図1の土師器高台付坏は、貯蔵穴1の東側の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から10世紀前半と考えられる。確認された炉は、粘土を貼るなどして炉床とした形跡は認められず、鉄滓も流入したものと思われる。このため、鍛冶炉の可能性は少ないと考えられる。

第24号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第171図 1	高台付坏 土師器	B (3.0) D 6.2 E 2.0	底部片。平底に、「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部回転ヘラ切り後、ナデ。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒、長石、石英、雲母 浅黄橙色 普通	P87 5% PL73

第25号住居跡 (第172図)

位置 調査区南部、C2d9区。

重複関係 第23号住居跡の西壁が、本跡の東壁を掘り込んでおり、本跡の方が古い。

規模と平面形 南西部が調査区域外に延びており、規模と平面形は不明である。北壁は3.00mを確認している。

主軸方向 N-88°-E

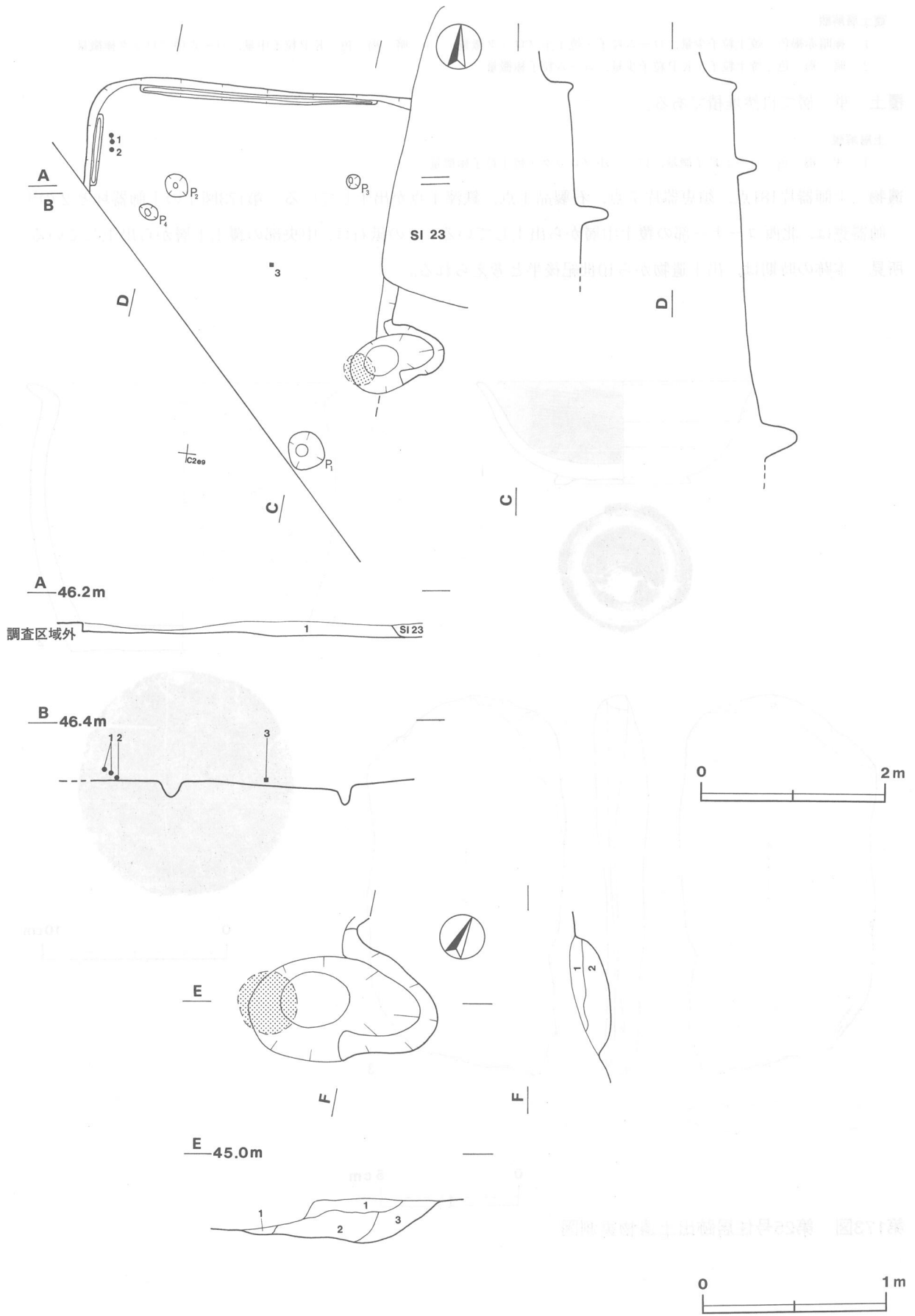
壁 壁高は28~30cmで、垂直に立ち上がっている。

壁溝 調査できた範囲では、北壁と西壁の壁下を巡っている。上幅10~18cm、下幅2~4cm、深さ6cmである。

床 暗赤色ローム面を床面としており、南方向に傾斜している。

ピット 4か所(P1~P4)。P1~P3は、長径16~42cm、短径15~42cmの円形及び楕円形で、深さ14~38cmである。いずれも各コーナー部に寄った位置から検出され、規模と配置から支柱穴と考えられる。P4は、P2の南西側の位置から検出されている。長径22cm、短径16cmの円形で、深さ34cmの掘り込みをもっている。性格は不明である。

竈 東壁中央部から南東コーナー部寄りを壁外に53cm掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は長さ110cm、幅75cmである。遺存状態は悪い。火床面は、浅い皿状を呈し赤変硬化している。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。



第172図 第25号住居跡実測図

竈土層解説

- 1 極暗赤褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・焼土小ブロック微量 3 暗褐色 K P粒子中量, ローム中ブロック極微量
2 暗褐色 焼土粒子・K P粒子少量, ローム粒子極微量

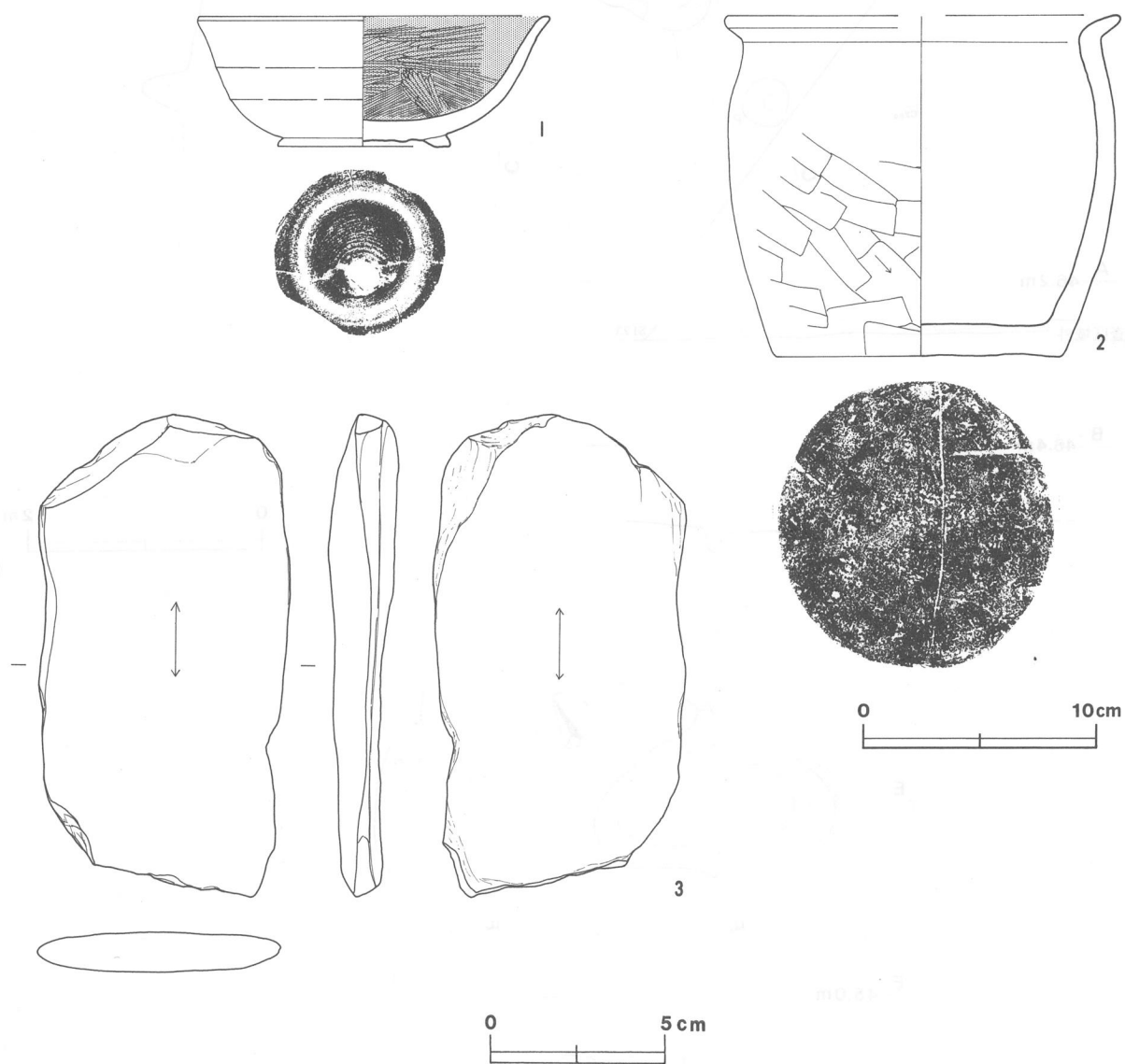
覆土 単一層で自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量, ローム小ブロック・焼土粒子極微量

遺物 土師器片181点, 須恵器片7点, 石製品1点, 鉄滓1点が出土している。第173図1の土師器坏と2の土師器甕は, 北西コーナー部の覆土中層から出土している。3の砥石は, 中央部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から10世紀後半と考えられる。



第173図 第25号住居跡出土遺物実測図

第25号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第173図 1	高台付坏 土師器	A 15.1	平底に、「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。底部回転糸切り。	砂粒、長石、石英、雲母 におい黄橙色 普通	P88 95% PL73 内面黒色処理
		B 5.6				
		D 7.4				
		E 0.5				
2	甕 土師器	A [17.0]	体部は内彎して立ち上がり、頸部は「く」の字状に屈曲する。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部外面下位から中位にかけて横位のヘラ削り。	砂粒、長石、石英 橙色 普通	P89 85% PL73 底部外面ヘラ記号「 」
		B 14.6				
		C 12.4				

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第173図3	砥石	13.7	8.8	1.3	204	凝灰岩	覆土	Q8 PL78

第26号住居跡 (第174図)

位置 調査区西部, B2i2区。

重複関係 本跡が第31号住居跡の東壁を掘り込んでおり、本跡の方が新しい。

規模と平面形 長軸4.24m, 短軸3.50mの長方形である。

主軸方向 N-40°-W

壁 壁高は12~25cmで、外傾して立ち上がっている。

壁溝 竈東袖の東側の北壁と、竈西袖から西壁の壁下を巡っている。上幅10~18cm, 下幅2~4cm, 深さ6cmである。

床 暗赤色ローム面を床面にして使用しており、南方向に傾斜している。中央部の南東側と西側が踏み固められている。

ピット 6か所(P1~P6)。P1~P4は、長径37~48cm, 短径25~44cmの円形及び楕円形で、深さ15~20cmである。いずれも各コーナー部に寄った位置から検出され、規模と配置から主柱穴と考えられる。P6は、径25cmほどの円形で、出入口施設に伴うピットと考えられる。P5は南東部の位置から検出されている。径17cmほどの円形である。性格は不明である。

貯蔵穴 南西コーナー部に付設されている。長径58cm, 短径51cmの楕円形で、深さ16cmである。

竈 北壁中央部から北東コーナー部寄りを壁外に77cm掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は長さ136cm, 幅100cmである。火床面は、浅い皿状を呈し、赤変硬化している。煙道部は、火床面から傾斜して立ち上がっている。

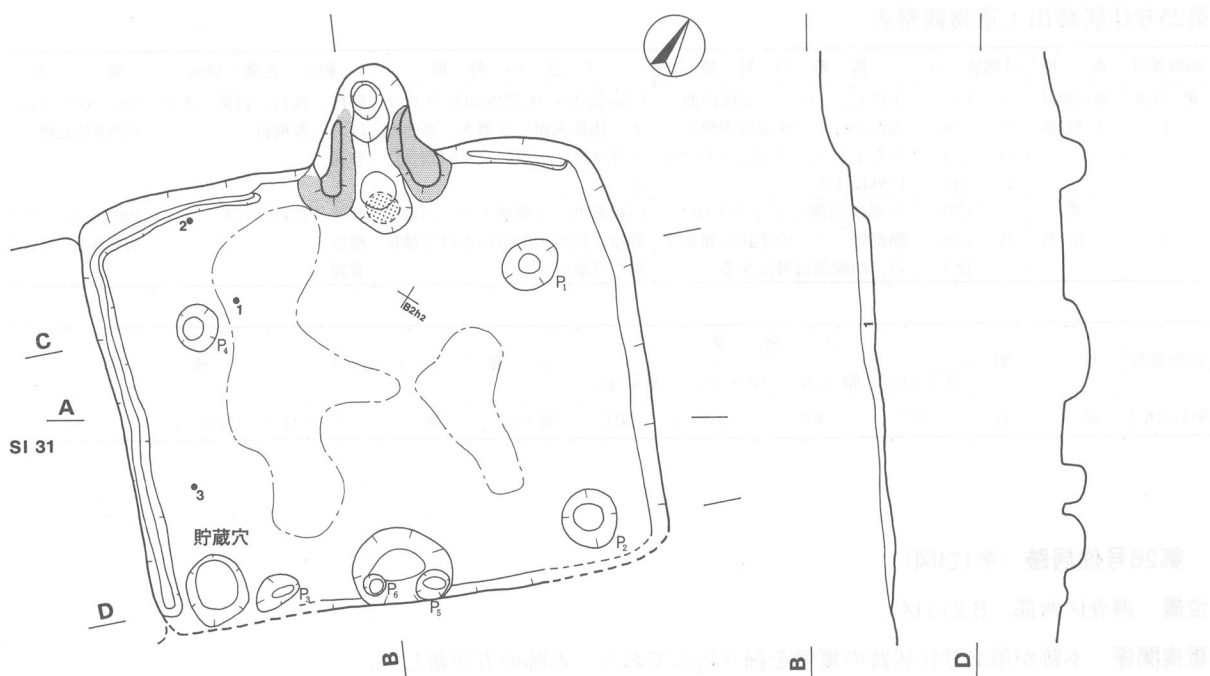
竈土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック微量, 炭化粒子極微量	微量	5 極暗褐色	焼土粒子微量, 焼土小ブロック極微量
2 極暗赤褐色	ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・粘土小ブロック微量		6 暗赤褐色	焼土粒子中量, 焼土小ブロック・粘土小ブロック微量
3 暗赤褐色	焼土粒子・粘土小ブロック少量, 焼土小ブロック微量		7 黒褐色	ローム粒子・粘土小ブロック微量, ローム小ブロック・焼土小ブロック極微量
4 暗赤褐色	焼土粒子少量, 焼土小ブロック・粘土小ブロック			

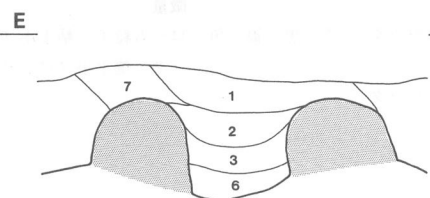
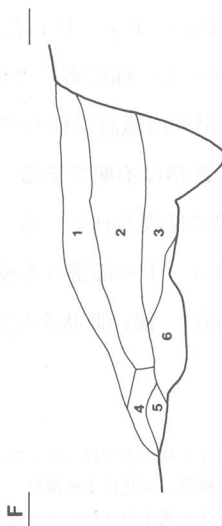
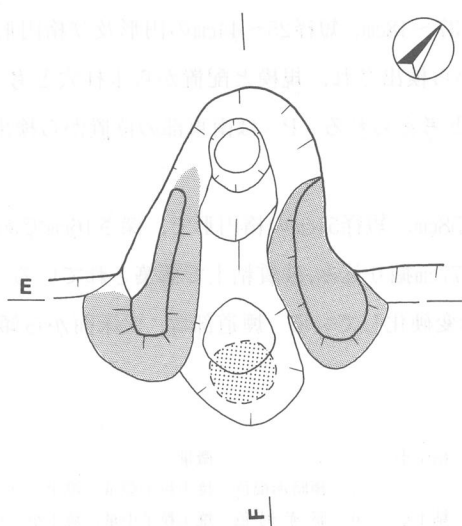
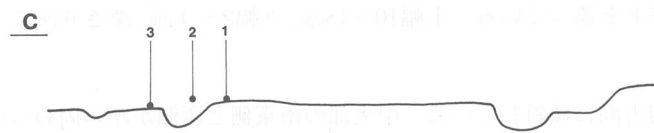
覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子・KP粒子微量	2 極暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
-------	----------------------------	--------	-------------------------------



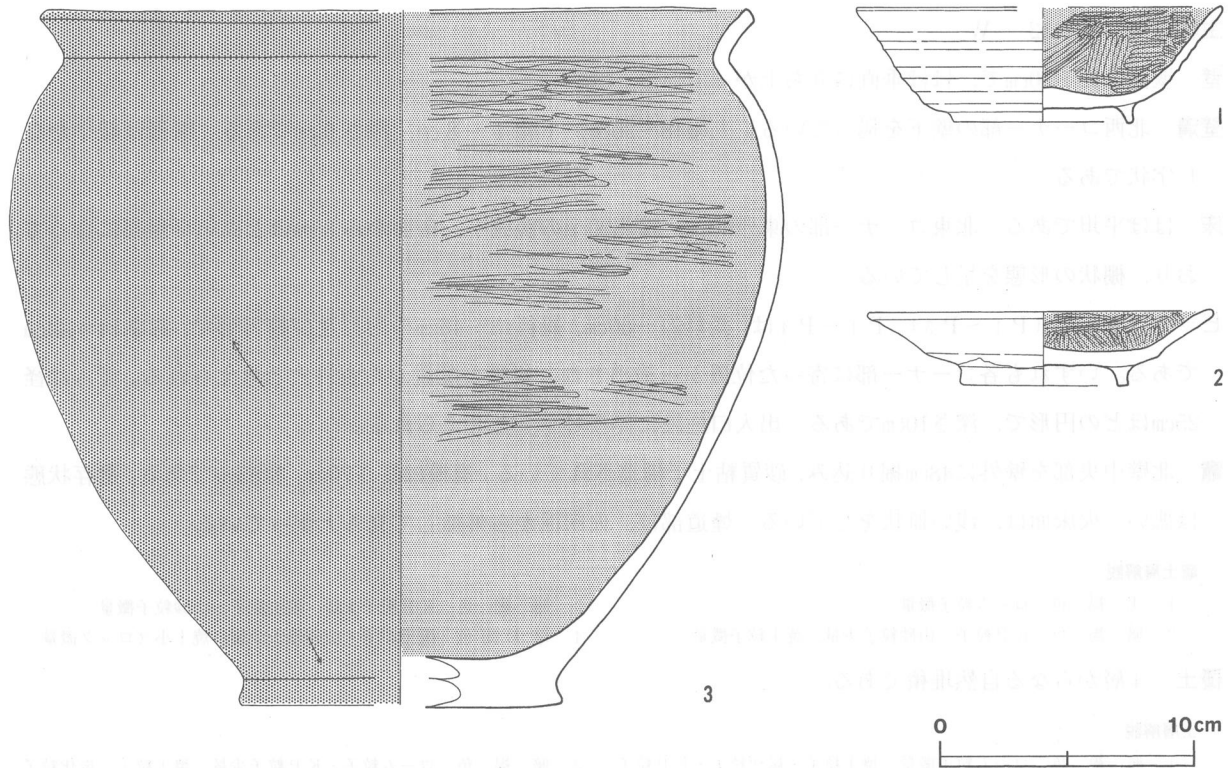
A 53.0m



第174图 第26号住居跡実測图

遺物 土師器片339点, 須恵器片38点, 陶器片1点, 鉄滓1点が出土している。第175図1の土師器高台付坏は, P4の東側の床面から出土している。2の土師器高台付皿は, 北西コーナー部の覆土下層から出土している。3の土師器甕は, 貯蔵穴の北側の床面から出土している。陶器片は攪乱により混入したものと思われる。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から9世紀後半と考えられる。



第175図 第26号住居跡出土遺物実測図

第26号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第175図 1	高台付坏 土師器	A 14.2 B 4.5 D 7.0 E 0.9	平底に, わずかに開く高台が付く。体部は直線的に立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。高台貼り付け後, ナデ。	砂粒, 長石, 石英 明褐色 普通	P90 90% PL73 内面黒色処理
2	高台付皿 土師器	A 13.6 B 3.0 D 6.5 E 0.8	平底に, わずかに開く高台が付く。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部に至る。端部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。体部下端回転ヘラ削り。高台貼り付け後, ナデ。	砂粒, 長石, 石英, 雲母 橙色 普通	P91 95% PL73 内面黒色処理
3	甕 土師器	A [27.6] B 27.3 C [11.7~ 12.7]	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 頸部は「く」の字状に屈曲する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横位のヘラ磨き。	砂粒, 長石, 石英 にぶい赤褐色 普通	P92 65% PL74 外面赤彩 内面黒色処理

第27号住居跡 (第176図)

位置 調査区西部, B2i6区。

重複関係 第5号溝に中央部を掘り込まれており, 本跡の方が古い。

規模と平面形 南東コーナー部が残存しておらず, 規模や平面形は不明であるが, 長軸3.50m, 短軸2.80mの隅丸長方形と推定される。

主軸方向 N-12°-W

壁 壁高は18~30cmで, ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝 北西コーナー部の壁下を巡っている。上幅18~26cm, 下幅4~8cm, 深さ6cmである。断面は緩やかなU字状である。

床 ほぼ平坦である。北東コーナー部の東西80cm, 南北90cmの範囲が, 床面から8cmほど高い平坦部になっており, 棚状の形態を呈している。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は, 長径21~60cm, 短径18~46cmの円形及び楕円形で, 深さ14~22cmである。いずれも各コーナー部に寄った位置から検出され, 規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は径25cmほどの円形で, 深さ10cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部を壁外に48cm掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は長さ70cm, 幅85cmである。遺存状態は悪い。火床面は, 浅い皿状をしている。煙道部は, 火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 KP粒子・山砂粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 KP粒子少量, 焼土粒子・山砂粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子・山砂粒子少量, 焼土小ブロック微量

覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

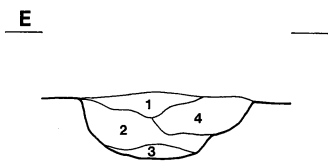
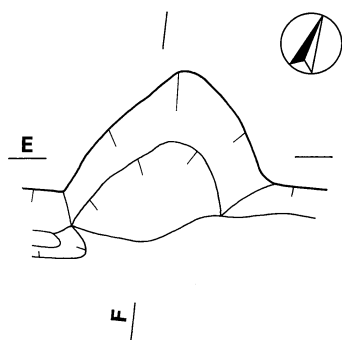
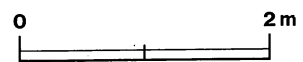
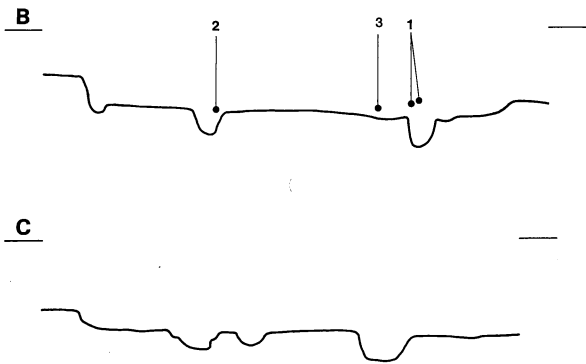
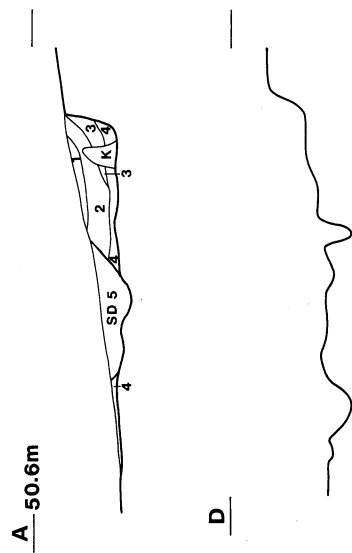
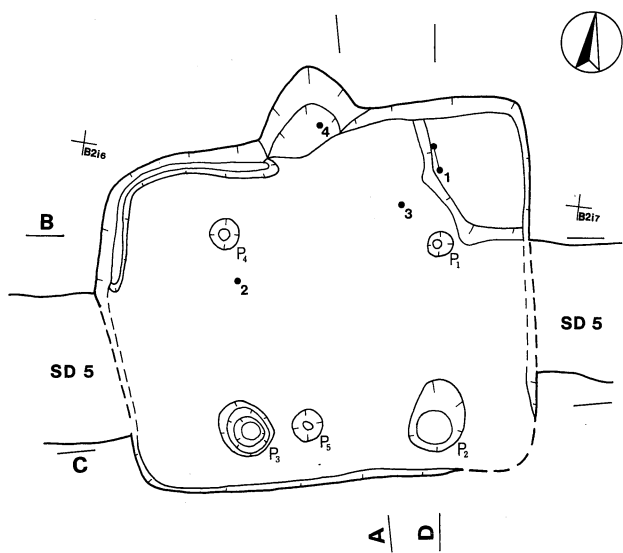
- 1 暗褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子・炭化粒子・KP粒子 極微量
- 2 暗褐色 KP粒子少量, ローム粒子微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・KP粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 KP粒子多量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック・KP小ブロック極微量

遺物 土師器片203点, 須恵器片17点, 鉄滓1点が出土している。第177図1の土師器高台付坏は, 北東コーナー部の覆土中層から出土している。2の土師器小皿は, P4の南側の床面から出土している。3の土師器坏は, P1の北西側の覆土下層から出土している。4の土師器甕は, 竈の覆土上層から出土している。

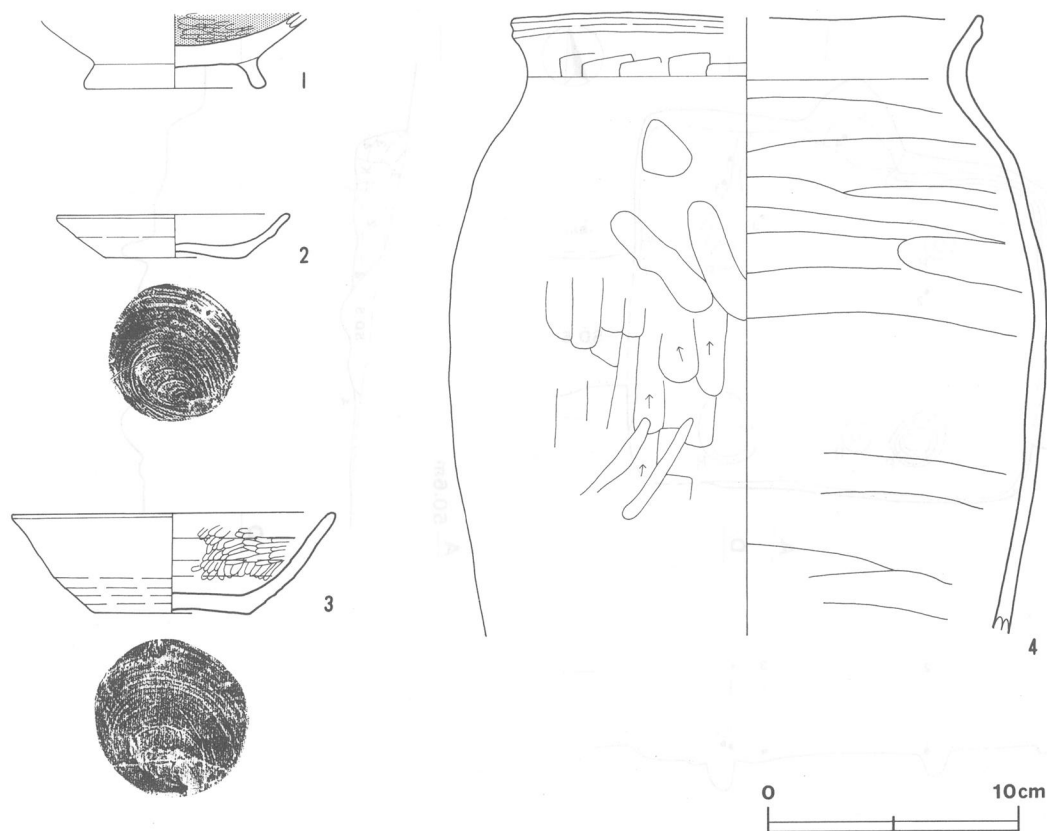
所見 本跡の時期は, 出土遺物から10世紀後半と考えられる。

第27号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第177図 1	高台付坏 土師器	B (3.0)	底部片。平底に, 「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がる。	底部内面へラ磨き。底部回転へラ切り。高台貼り付け後, ナデ。	砂粒, 長石, 石英, 雲母にぶい黄橙色 普通	P93 30% PL74 内面黒色処理
		D 7.3				
		E 1.3				
2	小皿 土師器	A 9.2	平底。体部は直線的に立ち上がり, 口縁端部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒, 長石, 雲母 明赤褐色 普通	P94 70% PL74
		B 1.7				
		C 5.4				



第176图 第27号住居跡実測図



第177図 第27号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第177図 3	坏 土師器	A 13.2 B 4.1 C 6.2	体部は内彎気味に立ち上がる。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。底部回転糸切り。	砂粒, 長石, 石英, 雲母 橙色 普通	P101 100% PL74
4	甕 土師器	A [19.0] B (24.7)	体部下位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部は「く」の字状に屈曲する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部外面下位縦位のヘラ削り。体部外面上位縦位のヘラ削り。内面横位のヘラ削り。	砂粒, 長石, 石英, 雲母 橙色 普通	P95 30% PL74

第28号住居跡 (第178図)

位置 調査区西部, C2a7区。

重複関係 本跡が第52号土坑の覆土を掘り込んでいるので, 本跡の方が新しい。第53号土坑とも重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と平面形 南東・南西両コーナー部と南壁が残存しておらず, 規模や平面形は不明である。

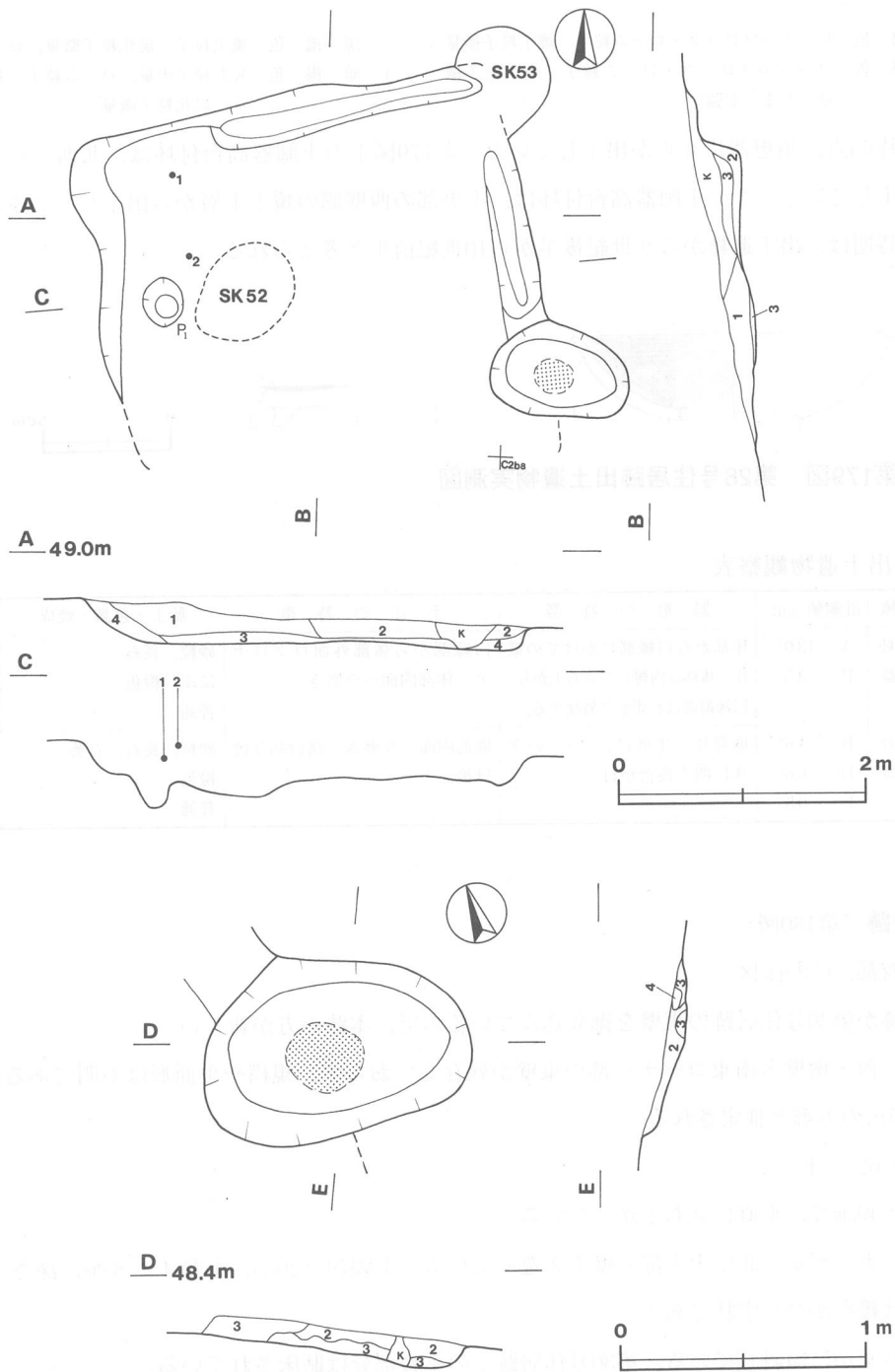
主軸方向 N-102°-E

壁 壁高は28~38cmで, 垂直に立ち上がっている。

壁溝 北・東壁の中央部の壁下を巡っている。上幅22~38cm, 下幅10~20cm, 深さ5cmである。断面形は緩やかなU字状である。

床 南方向にわずかに傾斜している。

ピット 1か所。P1は長径40cm, 短径34cmの楕円形で, 深さ24cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。



第178図 第28号住居跡実測図

竈 東壁の南東コーナー部寄りを壁外に75cm掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は長さ112cm、幅77cmである。遺存状態は悪い。火床面は、浅い皿状を呈し、赤変硬化している。煙道部は、火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| 1 灰褐色 K P粒子少量, 焼土粒子微量 | 3 暗赤褐色 焼土小ブロック少量, 焼土粒子・K P粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・K P粒子微量 | 4 赤色 焼土ブロック多量 |

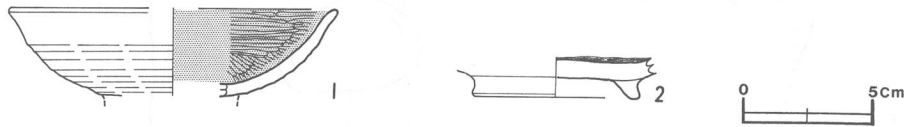
覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量, しまりが強い
 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量, ローム粒子微量
 4 暗褐色 KP粒子中量, ローム粒子・KP小ブロック少量, 炭化粒子微量

遺物 土師器片65点, 須恵器片6点が出土している。第179図1の土師器高台付坏は, 北西コーナー部の覆土中層から出土している。2の土師器高台付坏は, 中央部の西壁側の覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から9世紀後半から10世紀前半と考えられる。



第179図 第28号住居跡出土遺物実測図

第28号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第179図 1	高台付坏 土師器	A [13.0] B (3.5)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁端部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。	砂粒, 長石 にぶい橙色 普通	P139 10% 内面黒色処理
2	高台付坏 土師器	B (1.6) D (6.6) E 0.8	底部片。平底に, 「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部内面ヘラ磨き。高台貼り付け後, ナデ。	砂粒, 長石, 石英 橙色 普通	P138 10% 内面黒色処理

第29号住居跡 (第180図)

位置 調査区西部, C2a5区。

重複関係 本跡が第30号住居跡の東壁を掘り込んでいるので, 本跡の方が新しい。

規模と平面形 西・南壁と南東コーナー部の東壁が残存しておらず, 規模や平面形は不明であるが, 長軸2.80m, 短軸2.65mの方形と推定される。

主軸方向 N-62°-E

壁 壁高は26~40cmで, 垂直に立ち上がっている。

壁溝 北東コーナー部から北壁中央部の壁下を巡っている。上幅14~20cm, 下幅4~8cm, 深さ1~6cmである。断面形は緩やかなU字状である。

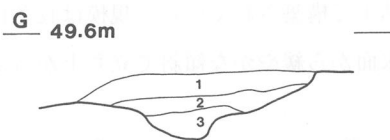
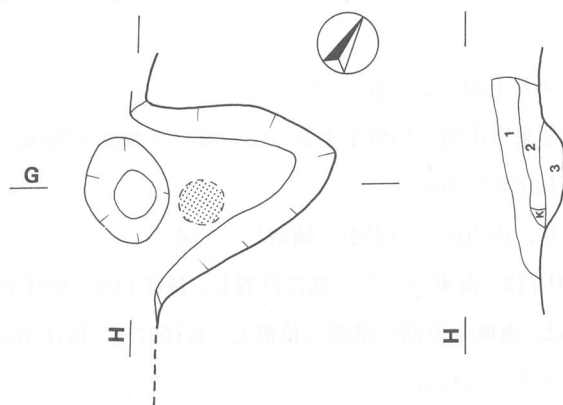
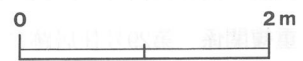
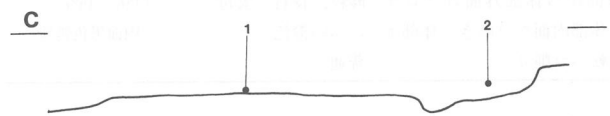
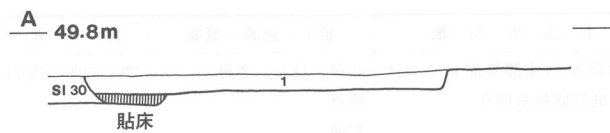
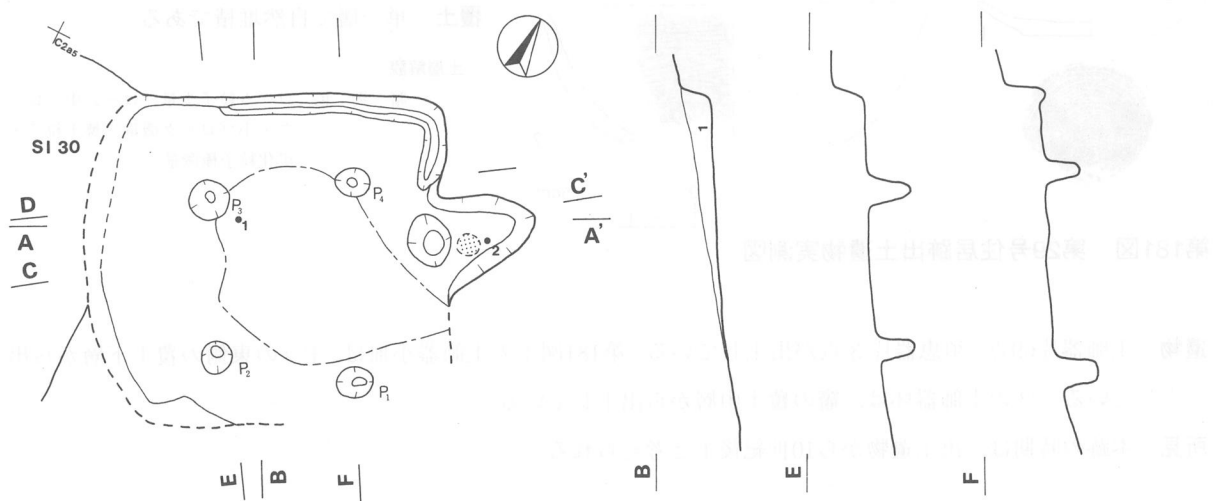
床 南方向にわずかに傾斜している。第30号住居跡との重複部分は貼床されている。

ピット 4か所(P1~P4)。P1~P4は, 長径28~32cm, 短径22~32cmの円形及び楕円形で, 深さ28~34cmである。いずれも各コーナー部に寄った位置から検出され, 規模と配置から支柱穴と考えられる。

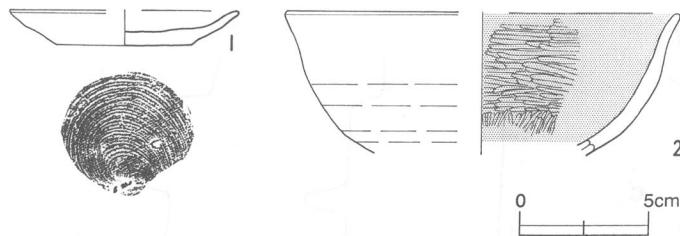
竈 東壁中央部を壁外に75cm掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は長さ80cm, 幅92cmである。遺存状態は悪い。火床面は, 浅い皿状を呈し, 赤変硬化している。煙道部は, 火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。火床面の西側に, 長径42cm, 短径32cmの楕円形の掘り込みが確認されているが, 性格は不明である。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量, 焼土小ブロック・炭化物極微量
 2 黒褐色 粘土粒子中量, ローム粒子・焼土粒子微量
 3 黒色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック微量



第180图 第29号住居跡実測图



覆土 単一層で自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量，ローム中ブロック・小ブロック微量，焼土粒子・炭化粒子極微量

第181図 第29号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片69点，須恵器片3点が出土している。第181図1の土師器小皿は，P₃の東側の覆土下層から出土している。2の土師器坏は，竈の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から10世紀後半と考えられる。

第29号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第181図 1	皿 土師器	A [9.2] B 1.4 C 5.2	平底。体部は直線的に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒，長石，雲母 橙色 普通	P96 50% PL74
2	坏 土師器	A [13.4] B (6.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁端部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。体部下端回転ヘラ削り。	砂粒，長石，雲母 にぶい橙色 普通	P97 15% 内面黒色処理

第30号住居跡 (第182図)

位置 調査区西部，C2a4区。

重複関係 第29号住居跡に東壁を掘り込まれているので，本跡の方が古い。

規模と平面形 南西コーナー部が調査区域外に延びており，北東コーナー部も第29号住居跡に掘り込まれているため，正確な平面形は不明であるが，長軸3.75m，短軸3.15mの隅丸長方形と推定される。

主軸方向 N-0°

壁 壁高は40~62cmで，垂直に立ち上がっている。

壁溝 北西コーナー部から西壁と東壁中央部の壁下を巡っている。上幅20~32cm，下幅8~12cm，深さ4~6cmである。断面形は緩やかなU字状である。

床 中央部が踏み固められており，南方向にわずかに傾斜している。

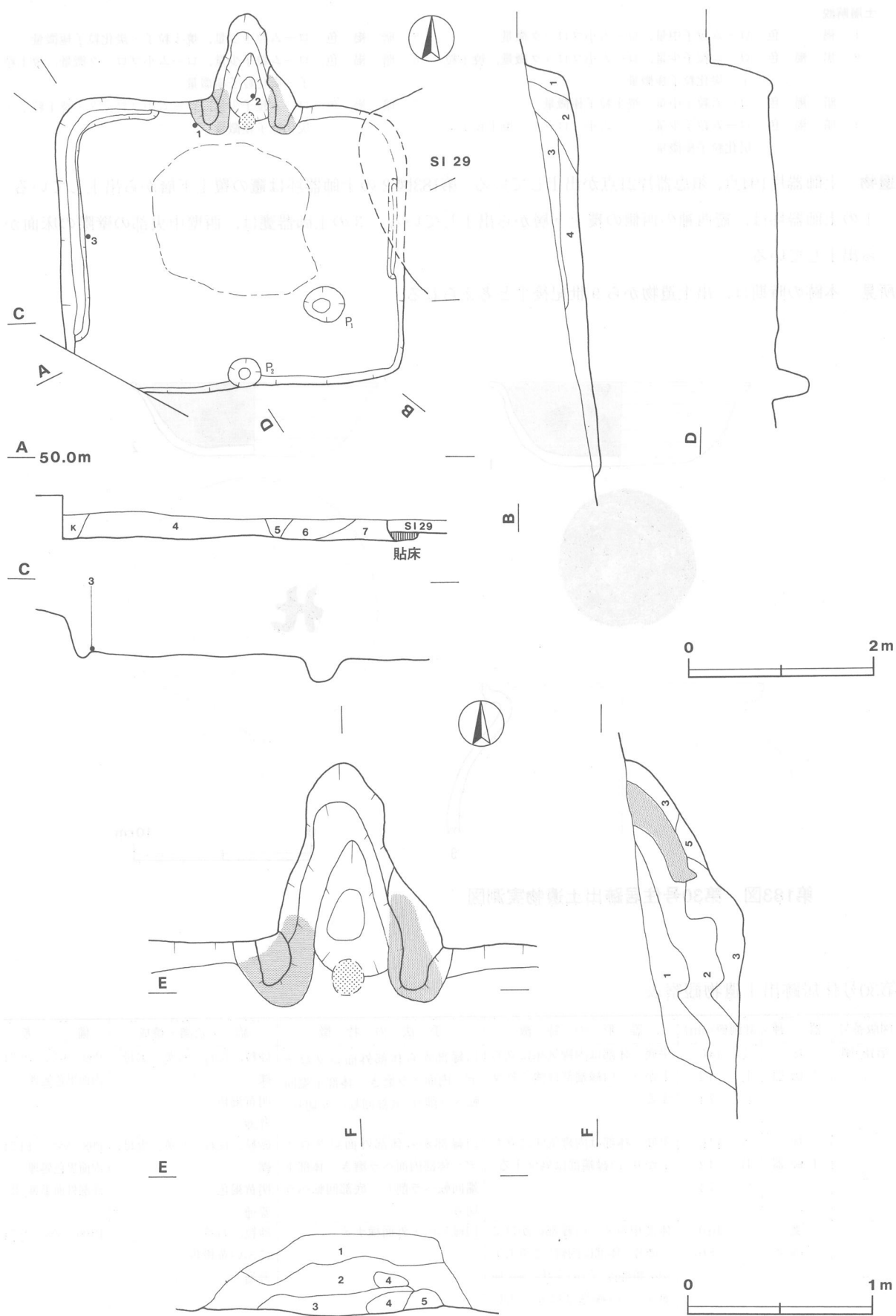
ピット 2か所(P₁・P₂)。P₁は，南東コーナー部に位置し，長径43cm，短径40cmの円形で，深さ26cmである。性格は不明である。P₂は，南壁中央部の壁際に位置し，長径37cm，短径30cmの楕円形で，深さ36cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部を壁外に96cm掘り込み，砂質粘土で構築されている。規模は長さ134cm，幅115cmである。火床面は，浅い皿状をしている。煙道部は，火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | |
|---------|------------------------|-----------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子微量，焼土粒子・粘土粒子極微量 | 微量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子・山砂粒子微量，炭化物極微量 | 4 灰褐色 |
| 3 極暗赤褐色 | 焼土粒子少量，山砂粒子微量，焼土小ブロック極 | 山砂粒子中量，焼土粒子少量 |
| | | 5 灰褐色 |
| | | 粘土粒子少量，焼土粒子・灰微量 |

覆土 7層からなる人為堆積である。



第182图 第30号住居跡実測图

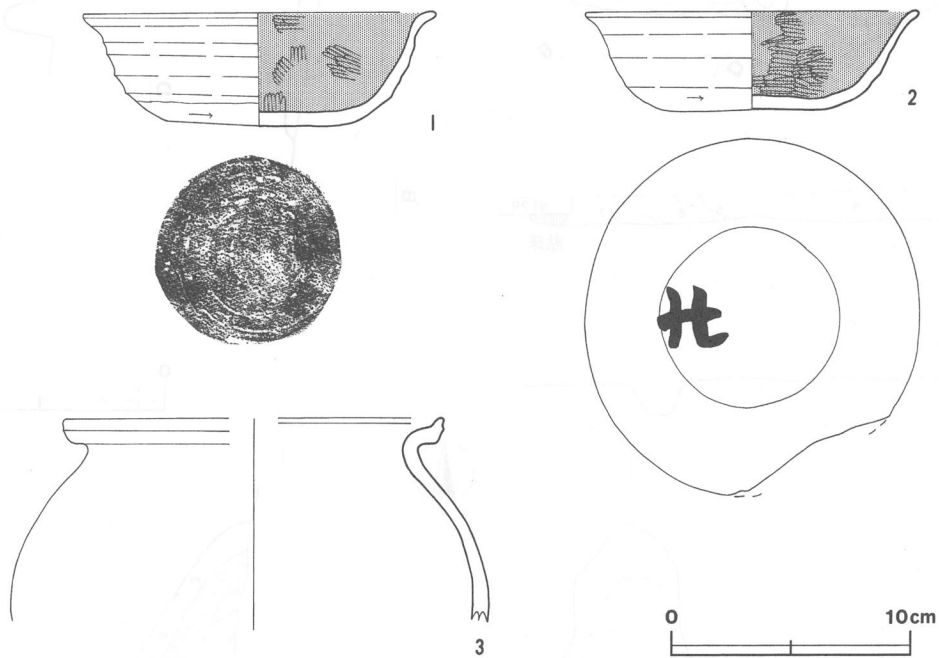
土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------------|-------|-----------------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子極微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子極微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量 | | |

遺物 土師器片194点, 須恵器片21点が出土している。第183図2の土師器坏は竈の覆土下層から出土している。

1の土師器坏は, 竈西袖の西側の覆土下層から出土している。3の土師器甕は, 西壁中央部の壁際の床面から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から9世紀後半と考えられる。



第183図 第30号住居跡出土遺物実測図

第30号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第183図 1	坏 土師器	A 14.0 B 4.2 C 7.4	平底。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁端部は強く外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。内面ヘラ磨き。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り。	砂粒, 長石, 石英, 雲母, 礫 明黄褐色 普通	P99 95% PL74 内面黒色処理
2	坏 土師器	A 14.0 B 4.2 C 7.4	平底。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁端部は外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り。	砂粒, 長石, 石英, 雲母, 礫 明黄褐色 普通	P98 95% PL74 内面黒色処理 底部外面墨書「廿」
3	甕 土師器	A [16.0] B (8.6)	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 頸部は「く」の字状に強く屈曲する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒, 石英 にぶい黄橙色 普通	P100 5% PL74

第31号住居跡 (第184図)

位置 調査区西部, B2h1区。

重複関係 第26号住居跡に東壁を掘り込まれており, 本跡の方が古い。

規模と平面形 南壁は残存しておらず, 東壁も第26号住居跡との重複により確認できないので, 規模や平面形は不明である。

主軸方向 N-43°-W

壁 壁高は14~22cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 南方向にわずかに傾斜しており, 中央部から竈焚口部にかけて踏み固められている。

ピット 6か所 (P1~P6)。P1~P4は, 長径14~20cm, 短径13~20cmの円形で, 深さ11~22cmである。いずれも各コーナー部に寄った位置から検出され, 規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は径50cmの円形で, 深さ8cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は竈東袖の南側から検出されている。長径31cm, 短径24cmの楕円形で, 深さ30cmの掘り込みをもっている。性格は不明である。

竈 北壁中央部を壁外に113cm掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は長さ149cm, 幅125cmである。火床面は, 浅い皿状をしている。煙道部は, 火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子微量, 焼土小ブロック微量, 炭化粒子極微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子・焼土小ブロック少量, ローム粒子・粘
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

覆土 単一層で自然堆積である。

土層解説

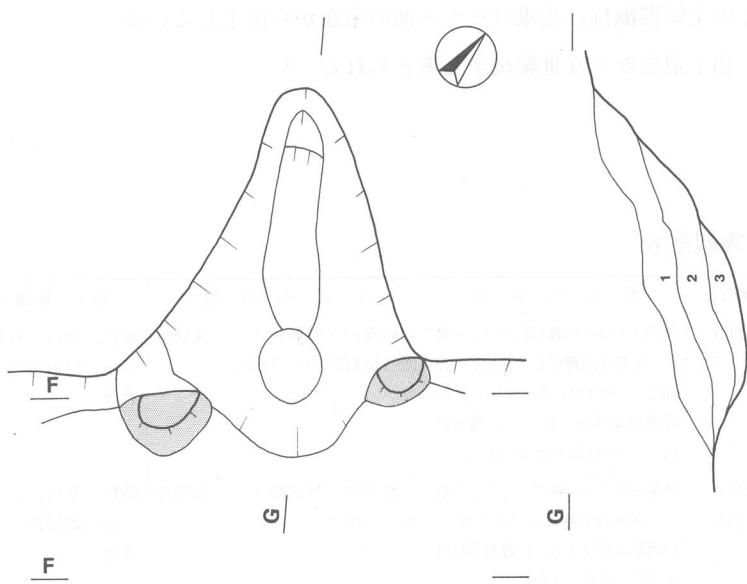
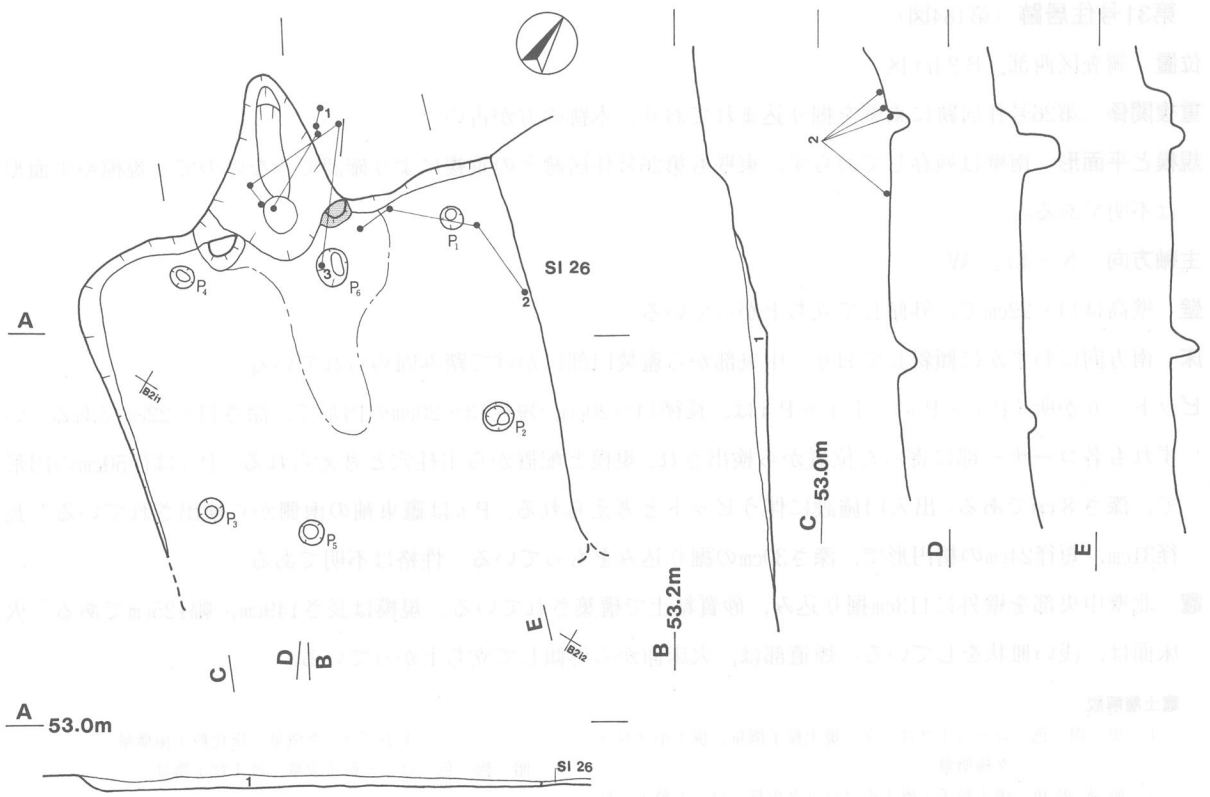
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・KP粒子少量, 焼土粒子微量

遺物 土師器片21点, 須恵器片5点が出土している。第185図1の土師器甕, 3の須恵器坏は, 竈の覆土下層から出土している。2の土師器甌は, 北東コーナー部の床面から出土している。

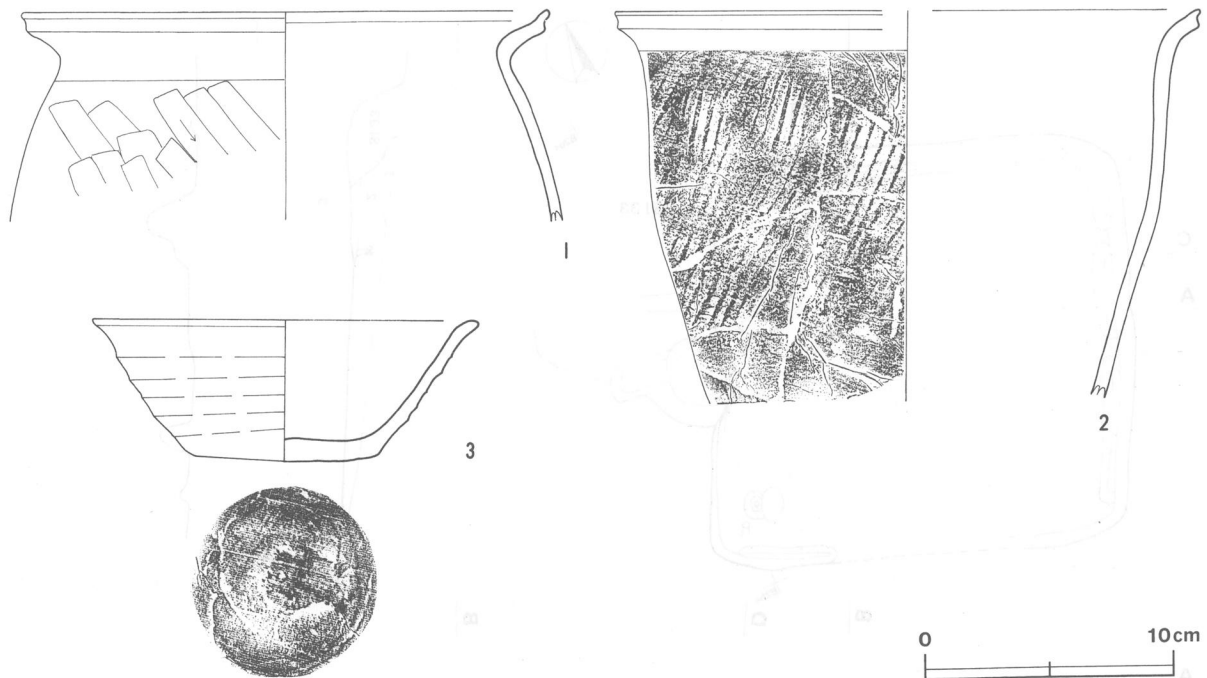
所見 本跡の時期は, 出土遺物から9世紀後半と考えられる。

第31号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第185図 1	甕 土師器	A 21.0 B (8.5)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 頸部は「く」の字状に強く屈曲する。口縁部外面中位に稜をもつ。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位縦位のヘラ削り。	砂粒, 長石, 石英 にぶい橙色 普通	P103 10% PL74
2	甌 土師器	A [23.4] B (15.6)	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は直線的に立ち上がり, 口縁部は外反する。口縁端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面平行叩き。	砂粒, 長石, 石英 にぶい黄褐色 普通	P104 10% PL74
3	坏 須恵器	A 15.4 B 5.7 C 7.2	平底。体部は直線的に立ち上がり, 口縁端部は外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り後, ナデ。	砂粒, 長石, 石英 暗灰黄色 普通	P105 80% PL74 底部外面ヘラ記号 「 」



第184図 第31号住居跡実測図



第185図 第31号住居跡出土遺物実測図

第32号住居跡 (第186図)

位置 調査区西部, B2g3区。

重複関係 本跡が第33号住居跡の南西コーナー部を掘り込んでいるので, 本跡の方が新しい。

規模と平面形 東壁の一部と南壁中央部が残存しておらず, 正確な平面形は不明であるが, 長軸3.40m, 短軸3.30mの隅丸方形と推定される。

主軸方向 N-70°-E

壁 壁高は26~44cmで, 垂直に立ち上がっている。

壁溝 北壁と西壁の壁下を巡っている。上幅16~30cm, 下幅4~8cm, 深さ4~5cmである。断面形は緩やかなU字状である。

床 ほぼ平坦であり, 中央部から南東コーナー部にかけて硬化している。

ピット 2か所(P₁, P₂)。P₁は, 南東コーナー部に位置し, 長径32cm, 短径20cmの楕円形で, 深さ28cmである。P₂は竈の西側に位置し, 長径68cm, 短径50cmの楕円形で, 深さ23cmである。ともに規模と配置から支柱穴と考えられる。

竈 東壁中央部を壁外に96cm掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は長さ100cm, 幅73cmである。遺存状態は極めて悪い。火床面は, 浅い皿状をしている。

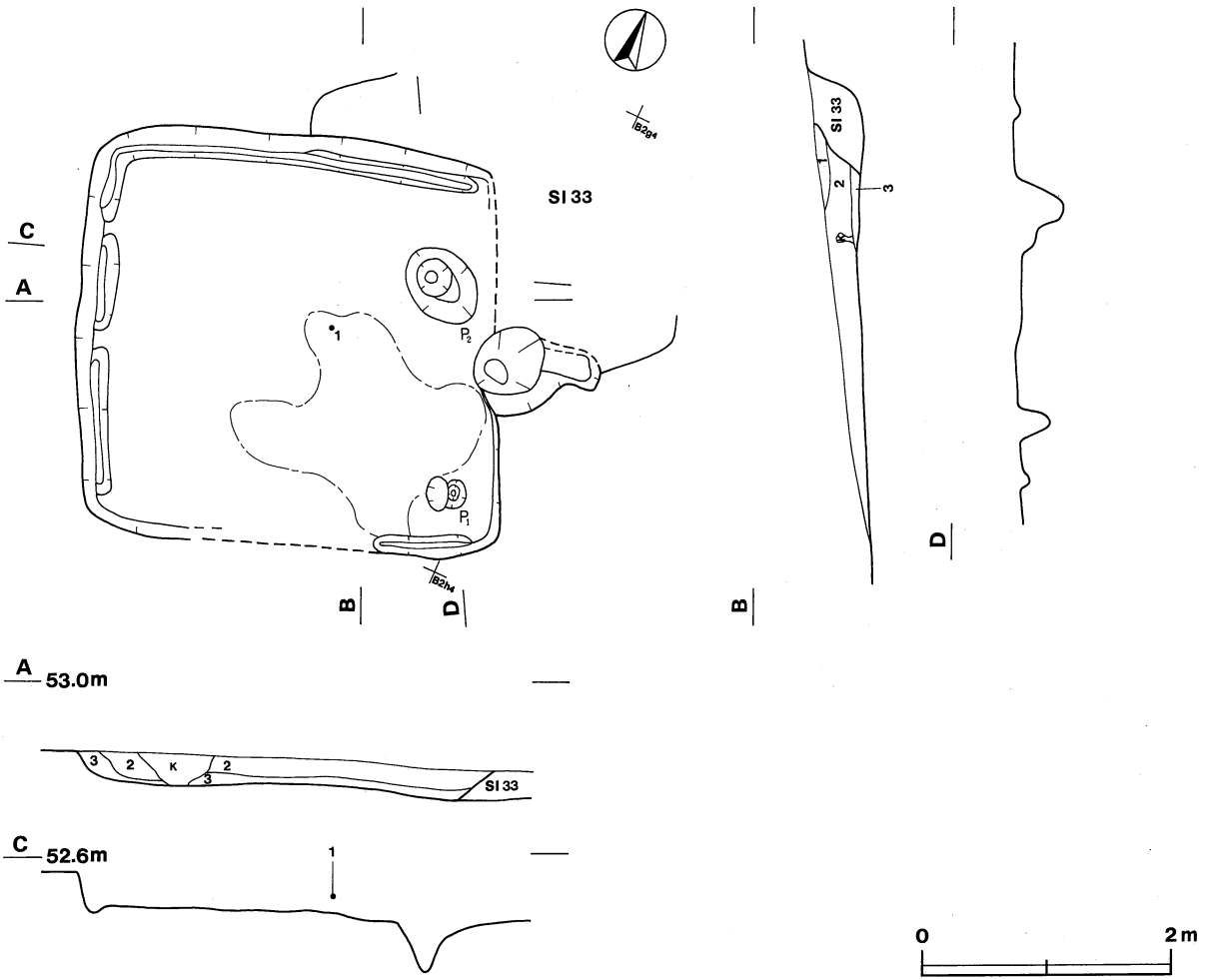
竈土層解説

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1 極暗褐色 焼土粒子微量, ローム粒子極微量 | 3 にぶい赤色 焼土粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック微量 | 4 黒褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子極微量 |

覆土 3層からなる自然堆積である。

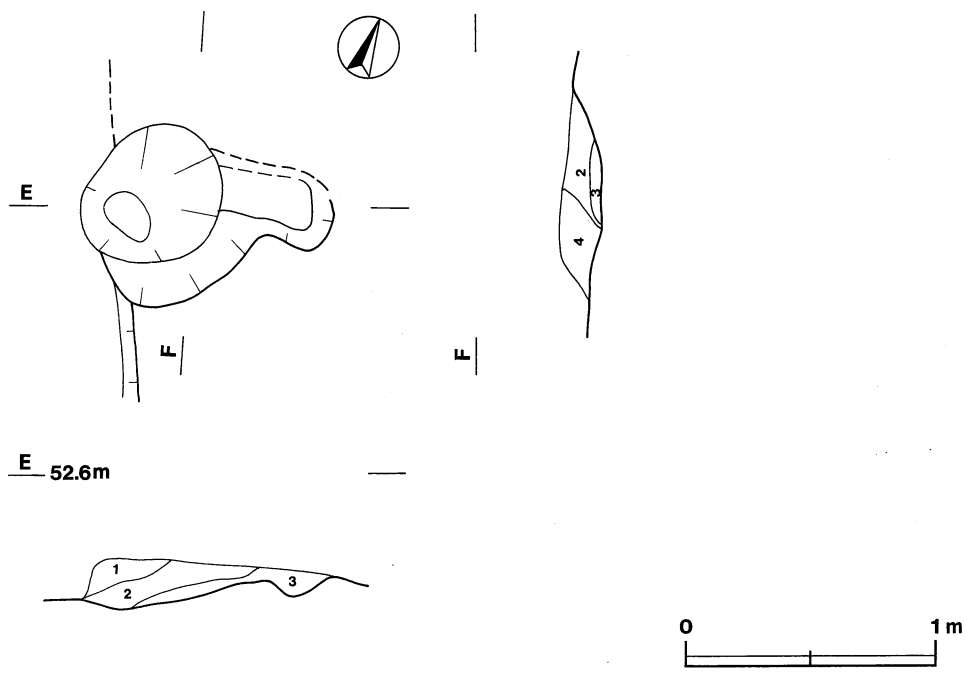
土層解説

- | | |
|--------------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 量 |
| 2 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 3 極暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子微量 |



A 53.0m

C 52.6m

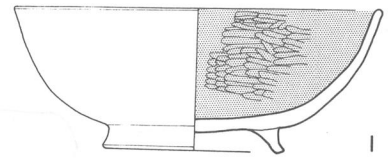


E 52.6m

第186图 第32号住居跡実測図

遺物 土師器片212点, 須恵器片32点が出土している。第187図1の土師器高台付坏は, 中央部の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から10世紀前半と考えられる。



第187図 第32号住居跡出土遺物
実測図

第32号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第187図 1	高台付坏 土師器	A 14.8	平底に, 「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内面へラ磨き。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け後, ナデ。	砂粒, 雲母, スコリアにぶい橙色普通	P107 80% PL74 内面黒色処理
		B 5.9				
		D 7.3				
		E 1.0				

第33号住居跡 (第188図)

位置 調査区西部, B2g3区。

重複関係 第32号住居跡に西部を掘り込まれており, 本跡の方が古い。

規模と平面形 西壁と南西コーナー部が残存しておらず, 正確な平面形は不明であるが, 一辺2.65mほどの隅丸方形と推定される。

主軸方向 N-27°-E

壁 壁高は24~41cmで, 垂直に立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。中央部から第1竈付近が踏み固められている。

ピット 1か所。P1は, 中央部に位置し, 径22cmの円形で, 深さ24cmである。性格は不明である。

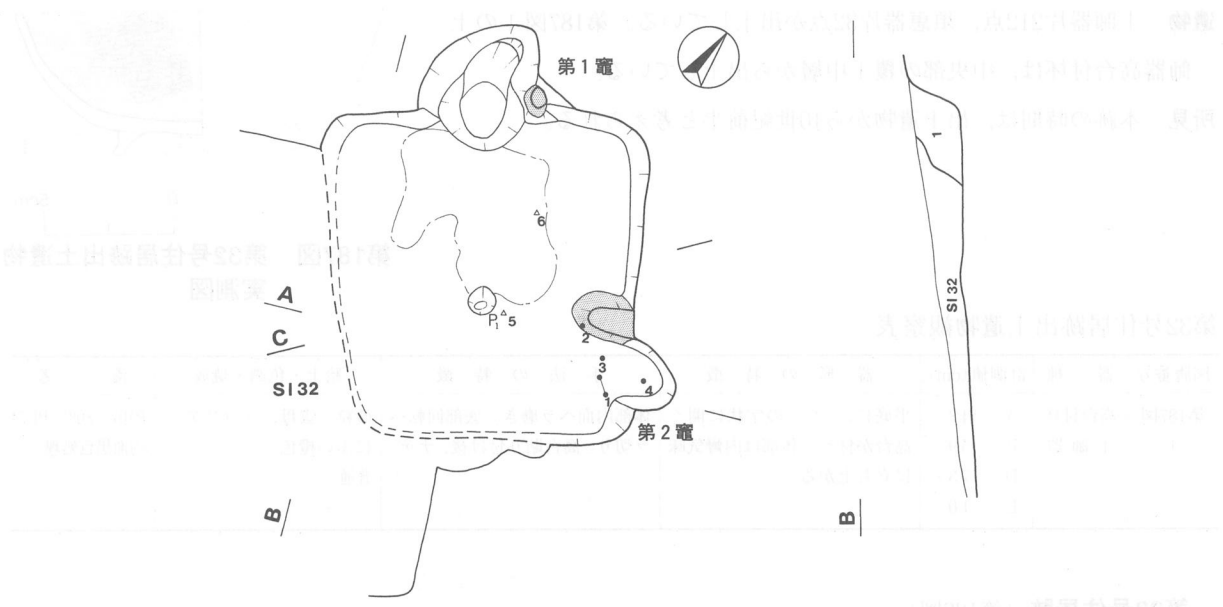
竈 2か所。第1竈は北壁中央部を壁外に76cm掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は長さ110cm, 幅110cmである。遺存状態は悪い。袖部は, 東側が部分的に残存している。火床面は, 浅い皿状をしている。煙道部は, 火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。第2竈は, 東壁南東コーナー部寄りを壁外に32cm掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は長さ87cm, 幅93cmである。遺存状態は悪い。袖部は, 北側が残存している。火床面は, 浅い皿状をしている。煙道部は, 火床面から緩やかな傾斜で立ち上がっている。第1竈と第2竈の新旧関係は不明である。第1竈付近の床がよく踏み固められているので, 第1竈が長期間使用されたと思われる。

第1竈土層解説

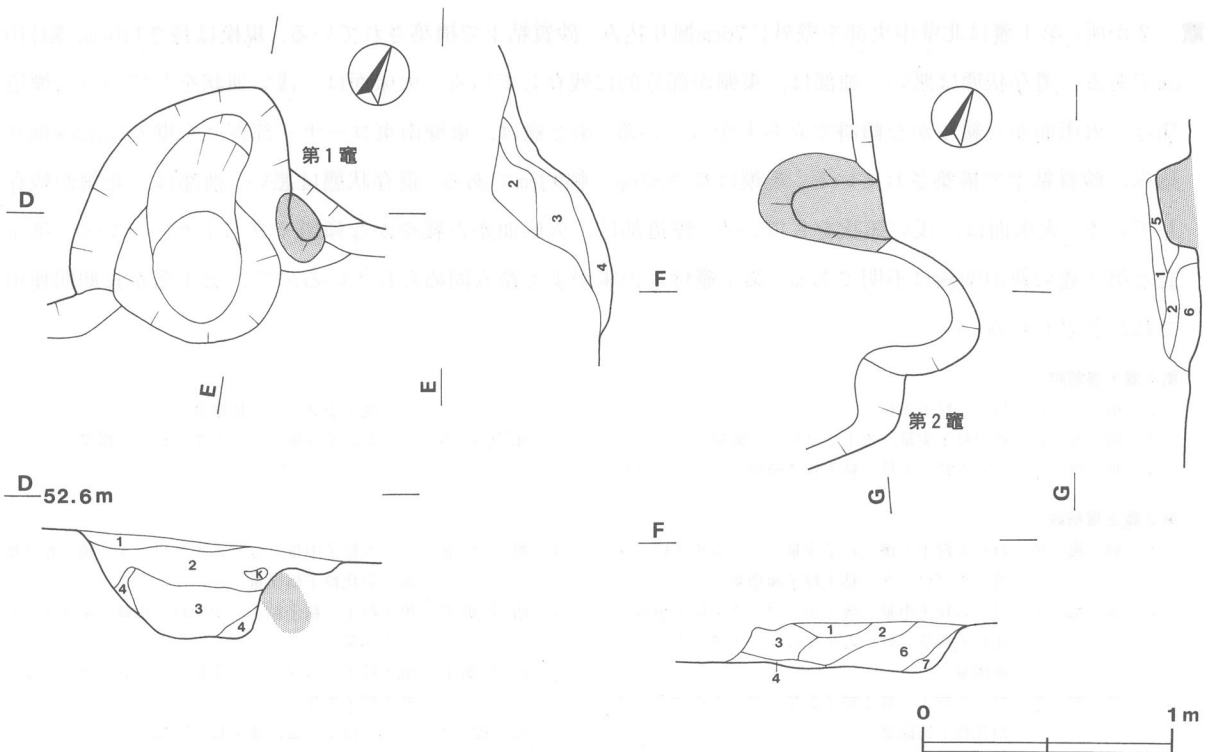
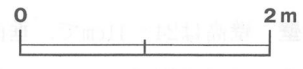
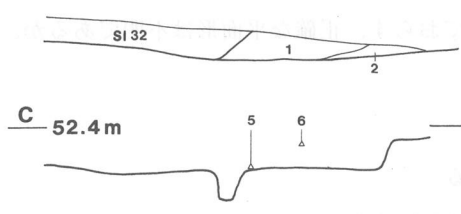
- | | | |
|---------|--------------------------|--------------|
| 1 褐 色 | ローム粒子少量 | ク・焼土小ブロック極微量 |
| 2 暗 褐 色 | 粘土粒子少量, 焼土小ブロック微量 | 4 極 暗 褐 色 |
| 3 暗 褐 色 | ローム粒子少量, 粘土粒子微量, ローム小ブロッ | |

第2竈土層解説

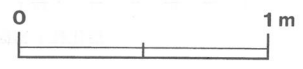
- | | | | |
|---------|--|-----------|-----------------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子少量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・粘土粒子極微量 | 4 褐 色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・焼土粒子微量, 炭化粒子極微量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子中量, 焼土小ブロック・粒子少量, 炭化粒子微量, ローム小ブロック・焼土中ブロック極微量 | 5 暗 赤 褐 色 | 焼土粒子・粘土粒子・山砂粒子中量, 焼土小ブロック少量 |
| 3 暗 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子極微量 | 6 暗 赤 褐 色 | 焼土粒子・小ブロック中量, ローム小ブロック・粘土粒子少量 |
| | | 7 暗 褐 色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量 |



A 53.0m



D 52.6m



第188図 第33号住居跡実測図

覆土 2層からなる自然堆積である。

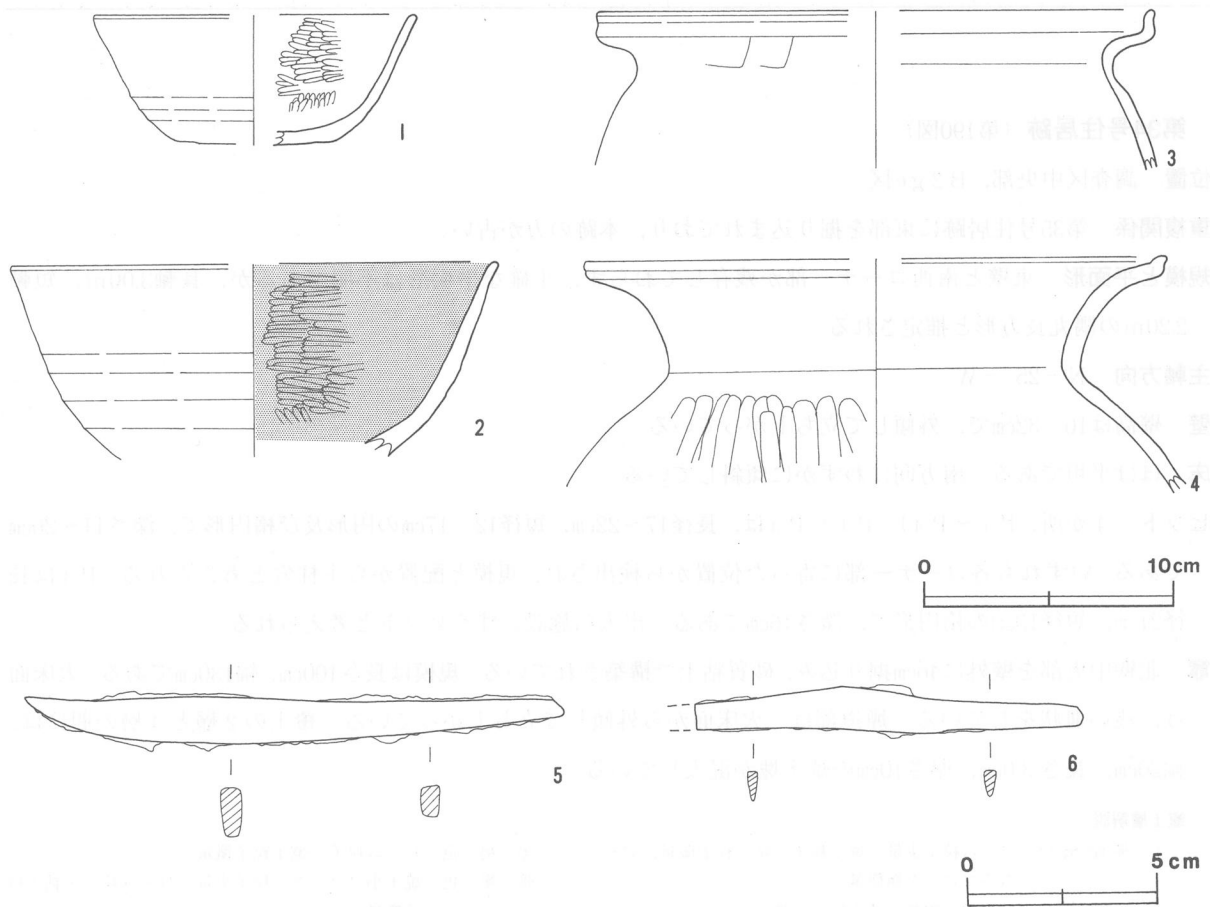
土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

2 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子微量

遺物 土師器片99点, 須恵器片8点, 刀子2点が出土している。第189図1の土師器坏は, 第2竈の手前の覆土中層から出土している。2の土師器椀は, 第2竈の北袖際の覆土上層から出土している。3の土師器甕は, 第2竈の手前の床面から出土している。4の須恵器甕は, 第2竈の火床面から出土している。5の刀子は, P1の東寄りの床面から出土している。6の刀子は, 中央部の北東コーナー部寄りの覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から9世紀後半と考えられる。



第189図 第33号住居跡出土遺物実測図

第33号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第189図 1	坏 土師器	A [13.0] B (5.2) C [6.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁端部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。底部回転ヘラ切り。	砂粒, 長石, 石英, 雲母, スコリア 褐灰色 普通	P108 40% PL74
2	椀 土師器	A [19.6] B (7.8)	体部下位から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁端部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。	砂粒, 雲母 にぶい灰橙色 普通	P109 35% PL75 内面黒色処理

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第189図 3	甕 土師器	A [22.4] B (6.5)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部は「く」の字状に強く屈曲する。口縁部外面中位に稜をもつ。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部下位横位のヘラ削り。	砂粒、長石、石英にぶい橙色普通	P110 5% PL75
4	甕 須恵器	A [23.4] B [9.5]	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部は「く」の字状に強く屈曲する。口縁部外面中位に稜をもつ。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位縦位のヘラ削り。	砂粒、長石、石英にぶい黄褐色普通	P112 5% PL75

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第189図5	刀子	14.2	1.2	0.5	28.0	覆土	M16 PL79
6	刀子	(10.3)	1.2	0.3	(8.4)	覆土	M17 PL79

第34号住居跡 (第190図)

位置 調査区中央部, B2g6区。

重複関係 第35号住居跡に東部を掘り込まれており, 本跡の方が古い。

規模と平面形 東壁と南西コーナー部が残存しておらず, 正確な平面形は不明であるが, 長軸3.00m, 短軸2.20mの隅丸長方形と推定される。

主軸方向 N-25°-W

壁 壁高は16~32cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 ほほ平坦である。南方向にわずかに傾斜している。

ピット 4か所 (P1~P4)。P1~P3は, 長径17~22cm, 短径12~17cmの円形及び楕円形で, 深さ11~26cmである。いずれも各コーナー部に寄った位置から検出され, 規模と配置から支柱穴と考えられる。P4は長径21cm, 短径13cmの楕円形で, 深さ16cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部を壁外に46cm掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は長さ100cm, 幅130cmである。火床面は, 浅い皿状をしている。煙道部は, 火床面から外傾して立ち上がっている。覆土の2層と4層の間には, 幅20cm, 長さ30cm, 厚さ10cmの焼土塊が混入している。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------------|-------|----------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・粘土粒子微量, ローム小ブロック極微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 灰赤褐色 | 粘土粒子中量, 焼土粒子少量 | 4 暗褐色 | 焼土小ブロック・粒子少量, ローム粒子・粘土粒子微量 |

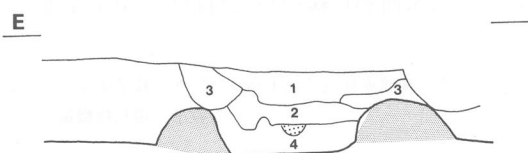
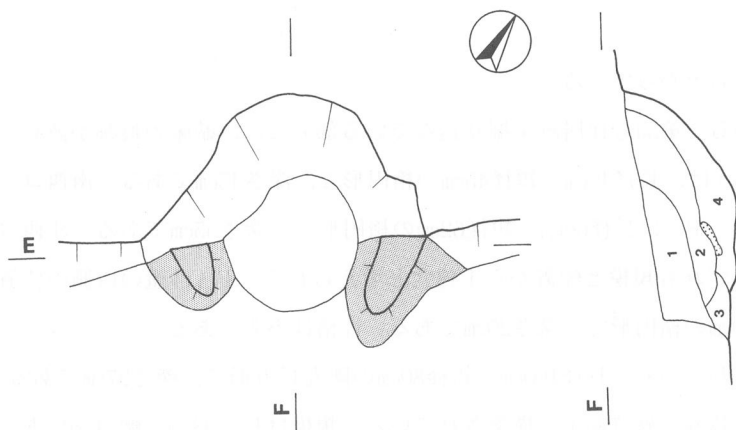
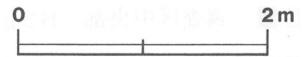
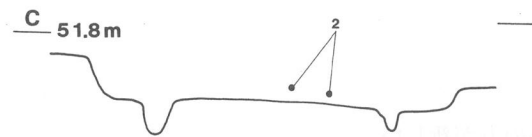
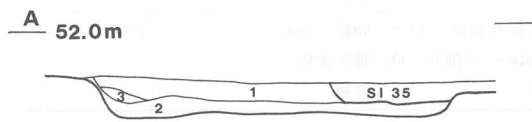
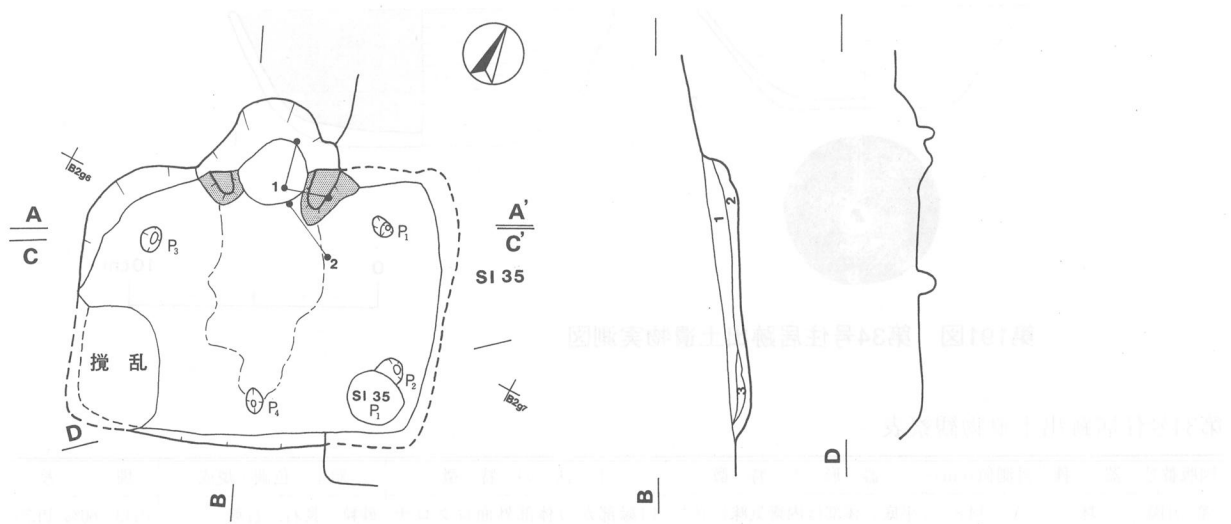
覆土 3層からなる。各層にロームブロックが含まれることから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

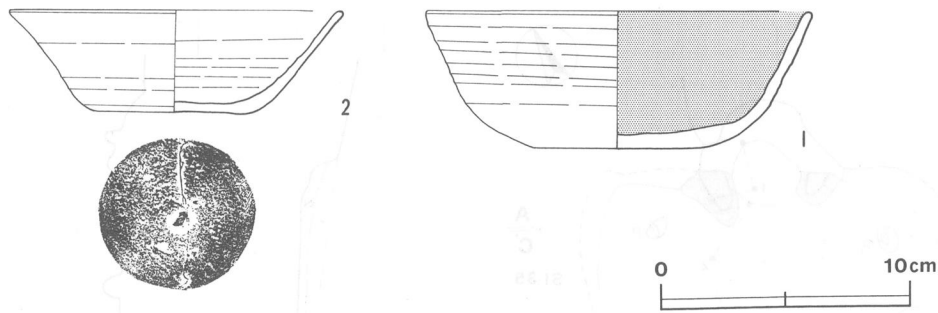
- | | | | |
|--------|---|-------|---------------|
| 1 暗褐色 | ローム中ブロック中量・ローム粒子・KP中ブロック・KP粒子少量, 炭化物微量, 焼土粒子極微量 | 3 黒褐色 | ローム小ブロック・粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・KP中 | | |

遺物 土師器片173点, 須恵器片2点が出土している。第191図1の須恵器坏と2の土師器坏は, ともに竈の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から9世紀後半と考えられる。



第190图 第34号住居跡実測图



第191図 第34号住居跡出土遺物実測図

第34号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第191図 1	坏 土師器	A 14.8	平底。体部は内彎気味に立ち上がり口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒, 長石, 石英にぶい褐色普通	P113 60% PL75 内面黒色処理
		B 5.9				
		C 7.3				
2	坏 須恵器	A 13.4	平底。体部は直線的に立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。底部回転ヘラ切り。	砂粒, 長石 暗灰黄色 普通	P115 70% PL75
		B 5.2				
		C 6.2				

第35号住居跡 (第192図)

位置 調査区中央部, B2g6区。

重複関係 本跡が第34号住居跡の東部を掘り込んでおり, 本跡の方が新しい。

規模と平面形 西壁中央部から南壁と南東コーナー部が残存しておらず, 正確な規模と平面形は不明であるが, 長軸 [3.70] m, 短軸3.30mの隅丸長方形と推定される。

主軸方向 N-72°-E

壁 壁高は20~30cmで, 垂直に立ち上がっている。

床 南方向にわずかに傾斜している。第34号住居跡を掘り込んでいる部分には, 貼床の痕跡が認められる。

ピット 3か所 (P1~P3)。P1は, 長径49cm, 短径45cmの楕円形で, 深さ45cmである。南西コーナー部に寄った位置から検出されている。P2は長径66cm, 短径62cmの楕円形で, 深さ55cmである。北西コーナー際の位置から検出されている。いずれも規模と配置から主柱穴と考えられる。P3は竈の西側の位置から検出されている。長径45cm, 短径40cmの楕円形で, 深さ20cmである。性格は不明である。

貯蔵穴 南西コーナー部に付設されている。長径100cm, 短径80cmの隅丸長方形で, 深さ27cmである。

竈 東壁中央部を壁外に63cm掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は長さ98cm, 幅71cmである。遺存状態は悪い。火床面は, 浅い皿状をしている。煙道部は, 火床面から緩やかに傾斜して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム小ブロック・焼土粒子少量, ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物微量
- 2 極暗赤褐色 焼土小ブロック・粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム粒子・炭化物微量

覆土 2層からなる自然堆積である。

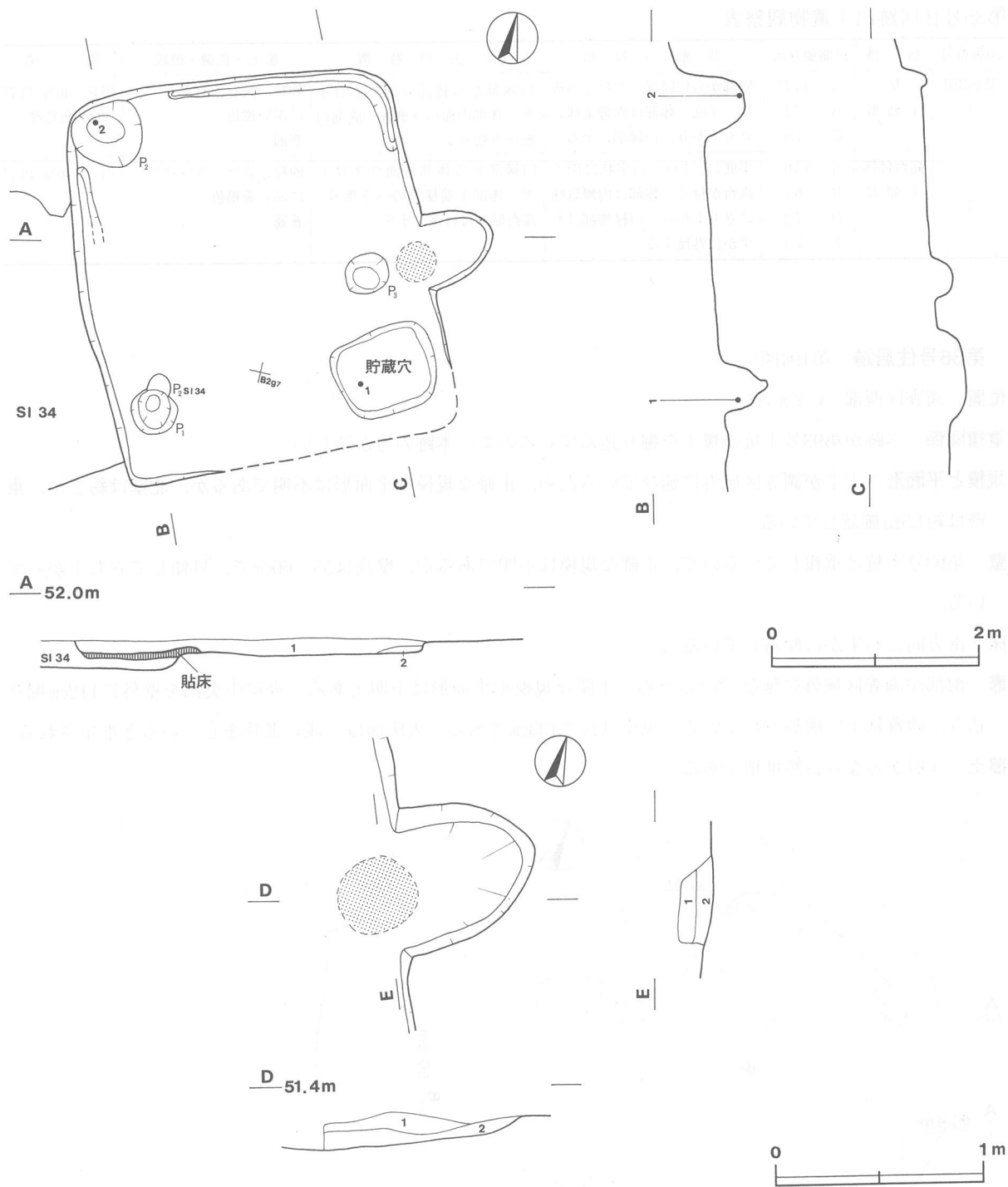
土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子・炭化物・KP小ブロック微量
- 2 暗赤褐色 ローム小ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子・焼土小ブロック・山砂粒子少量

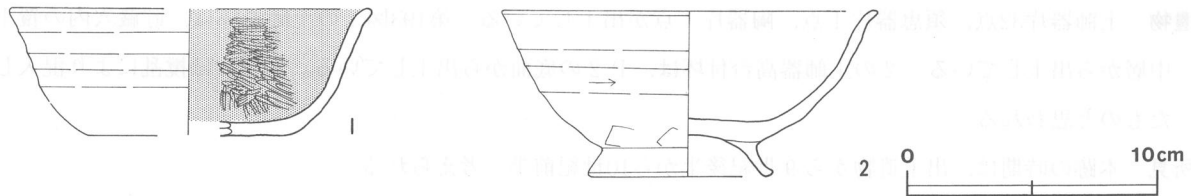
遺物 土師器片32点, 須恵器片 1点, 陶器片 1点が出土している。第193図1の土師器坏は, 貯蔵穴内の覆土中層から出土している。2の土師器高台付坏は, P 2の底面から出土している。陶器片は攪乱により混入したものである。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から9世紀後半から10世紀前半と考えられる。

図192 第35号住居跡実測図



第192図 第35号住居跡実測図



第193図 第35号住居跡出土遺物実測図

第35号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第193図 1	坏 土師器	A [14.4] B (5.1) C [7.6]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面へら磨き。底部回転へら切り。	砂粒、長石、石英にぶい橙色 普通	P116 40% PL75 内面黒色処理
2	高台付坏 土師器	A 15.0 B 6.7 D 7.2 E 1.5	平底に、「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁端部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部下端横位のへら削り。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒、雲母、スコリアにぶい黄褐色 普通	P117 80% PL75

第36号住居跡 (第194図)

位置 調査区西部, C2a3区。

重複関係 本跡が第93号土坑の覆土を掘り込んでいるので、本跡の方が新しい。

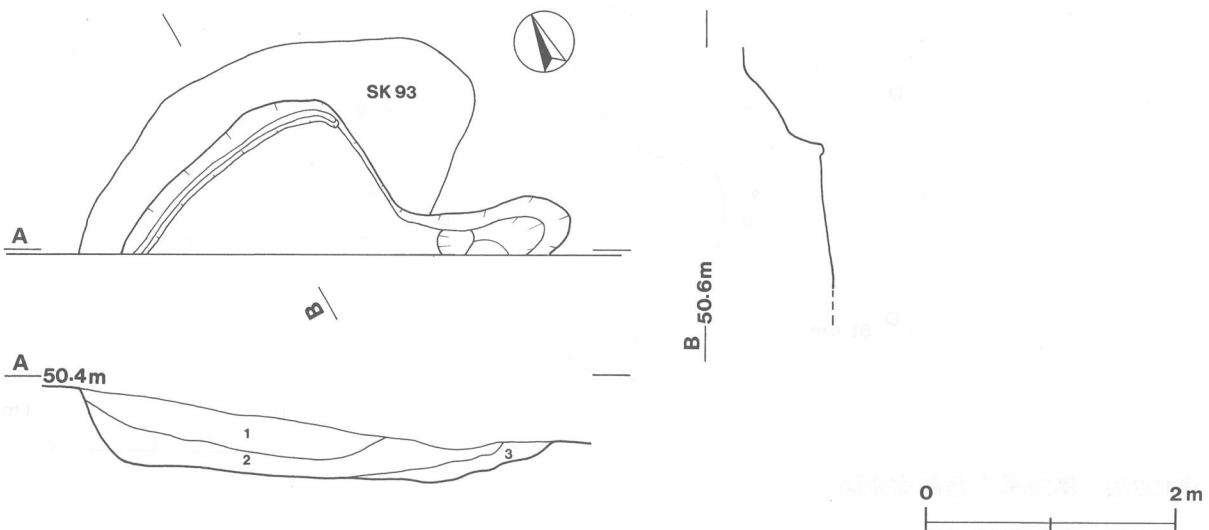
規模と平面形 大半が調査区域外に延びているため、正確な規模や平面形は不明であるが、北壁は約2m、東壁は約1.5m確認している。

壁 第93号土坑と重複しているので、正確な規模は不明であるが、壁高は55~60cmで、外傾して立ち上がっている。

床 南方向にわずかに傾斜している。

竈 南部が調査区域外に延びているため、正確な規模や平面形は不明である。東壁中央部を壁外に112cm掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は長さ133cmである。火床面は、浅い皿状をしていると推定される。

覆土 3層からなる自然堆積である。



第194図 第36号住居跡実測図

土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム小ブロック・粒子微量, 焼土小ブロック・
焼土粒子・炭化物極微量
- 2 黒 褐 色 ローム小ブロック微量, 焼土小ブロック極微量
- 3 暗 赤 褐 色 焼土粒子中量, 焼土大ブロック・焼土小ブロッ
ク・粘土粒子少量, ローム粒子微量

遺物 土師器片101点, 須恵器片9点が出土している。いずれも細片で図示できなかった。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から9世紀代と考えられる。

第38号住居跡 (第195・196図)

位置 調査区北部, B1e0区。

重複関係 本跡が第39号住居跡の東部を掘り込んでいるので, 本跡の方が新しい。第77号土坑に北東コーナ
部を掘り込まれており, 本跡の方が古い。

規模と平面形 北壁と西壁が残存しておらず, 正確な平面形は不明である。

主軸方向 N-76°-E

壁 壁高は16~28cmで, 緩やかに傾斜して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。中央部が踏み固められている。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は, 長径14~26cm, 短径8~25cmの円形及び楕円形で, 深さ12~42cm
である。いずれも各コーナー部に寄った位置から検出され, 規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は長
径12cm, 短径6cmの楕円形で, 深さ12cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南東コーナー部に付設されている。長径58cm, 短径52cmの円形で, 深さ15cmである。

竈 東壁南東コーナー部を壁外に106cm掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は長さ114cm, 幅76cmであ
る。遺存状態は悪い。火床面は, 浅い皿状をしている。煙道部は, 火床面から緩やかに傾斜して立ち上がっ
ている。

竈土層解説

- 1 黒 色 炭化物少量, ローム小ブロック・粘土粒子微量
- 2 暗 赤 褐 色 焼土粒子少量, 焼土小ブロック微量, ローム中ブ
ロック・粒子極微量
- 3 褐 色 焼土粒子微量, 焼土小ブロック極微量
- 4 褐 色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・粒子極微量
- 5 暗 赤 褐 色 焼土粒子少量, 焼土小ブロック微量, 焼土中ブ
ロック極微量

覆土 単一層で自然堆積である。

土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子微量

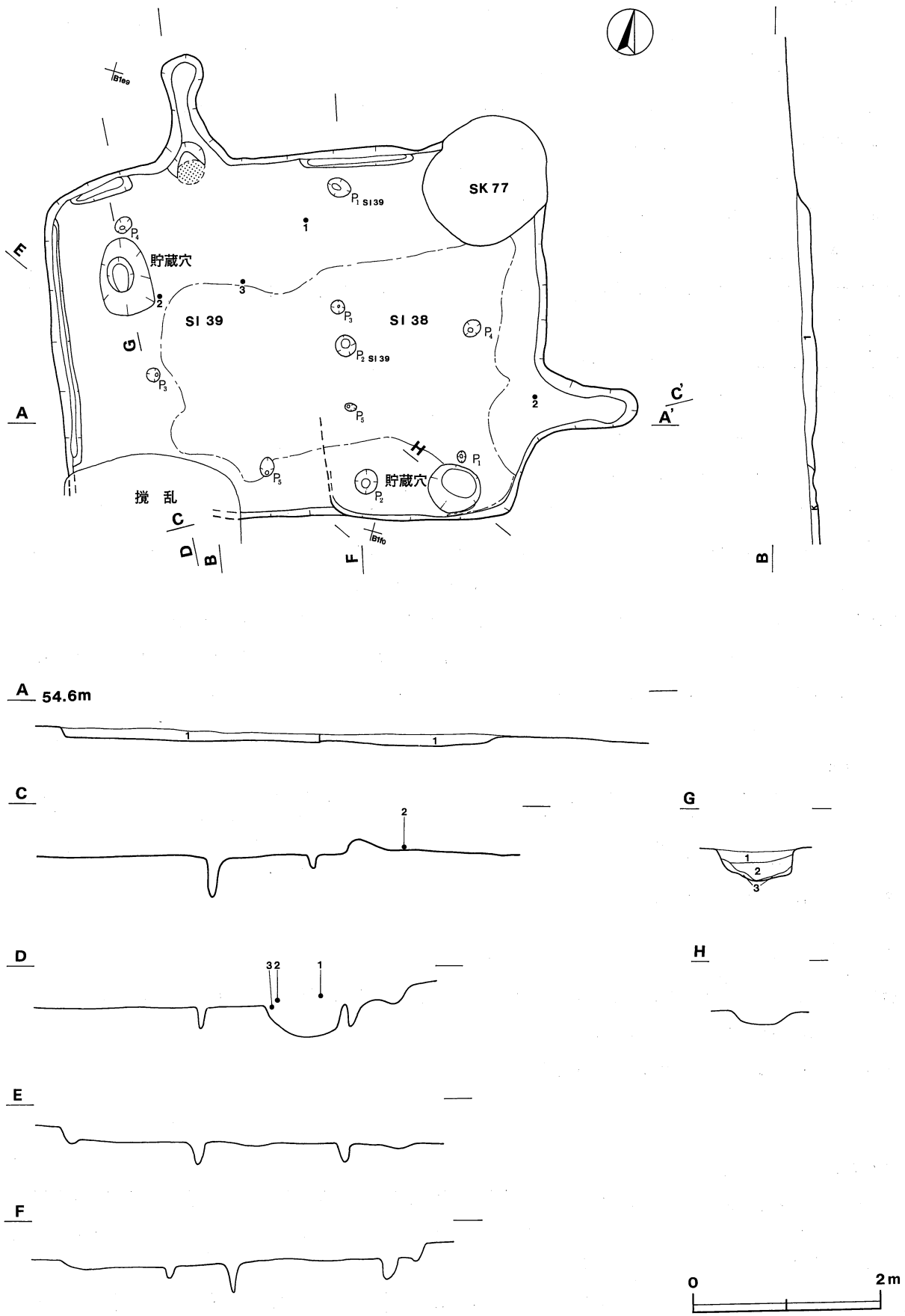
遺物 土師器片16点, 須恵器片2点が出土している。第197図1の土師器坏は, 竈の覆土中層から出土している。

2の土師器高台付坏は, 竈の覆土下層から出土している。

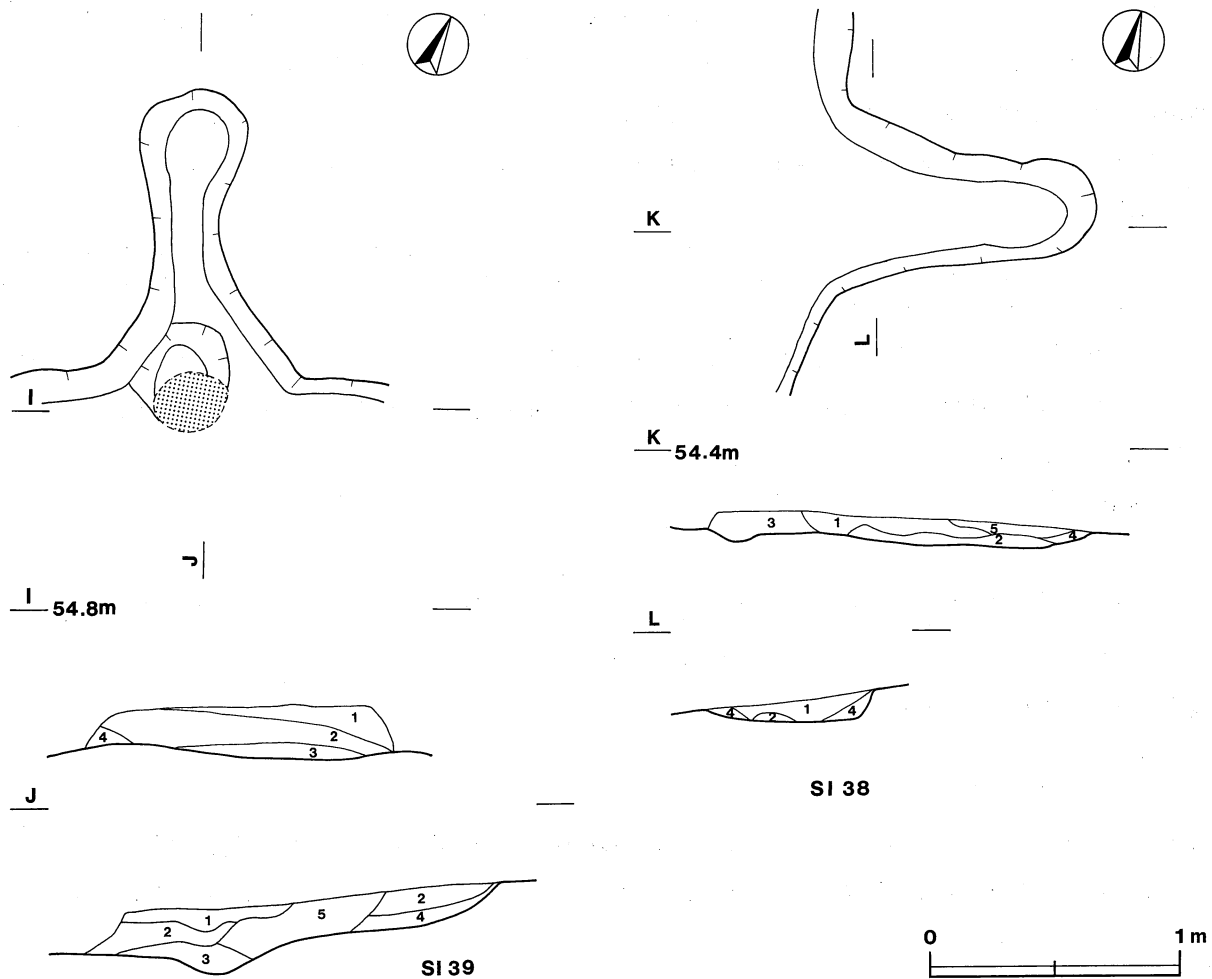
所見 本跡の時期は, 出土遺物から10世紀後半と考えられる。

第38号住居跡出土遺物観察表

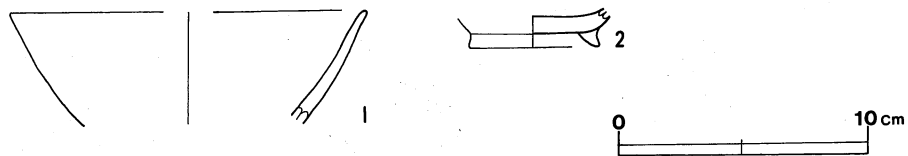
図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第197図 1	坏 土師器	A [14.4] B (4.6)	体部下位から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。	砂粒, 長石, 石英 にぶい橙色 普通	P141 10%
2	高台付坏 土師器	B (1.5) D 5.3 E 0.6	底部片。平底に, 「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部内面へラ磨き。高台貼り付け後, ナデ。	砂粒, 長石, 石英, 雲母 にぶい橙色 普通	P142 10%



第195图 第38・39号住居跡実測图



第196図 第38・39号住居跡竈実測図



第197図 第38号住居跡出土遺物実測図

第39号住居跡 (第195・196図)

位置 調査区北部, B1e9区。

重複関係 第38号住居跡に東部を掘り込まれており, 本跡の方が古い。

規模と平面形 東壁と南壁の一部が残存しておらず, 正確な平面形は不明であるが, 南北軸3.90mである。

主軸方向 N-22°-W

壁 壁高は18~24cmで, 外傾して立ち上がっている。

壁溝 北壁と西壁の壁下を巡っている。上幅12~24cm, 下幅3~10cm, 深さ4cmである。断面形は緩やかなU字状である。

床 ほぼ平坦である。中央部から東部にかけて硬化している。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は, 長径16~26cm, 短径12~21cmの円形及び楕円形で, 深さ20~23cm

である。いずれも各コーナー部に寄った位置から検出され、規模と配置から支柱穴と考えられる。P5は長径20cm、短径14cmの楕円形で、深さ18cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北西コーナー部に付設されている。長径82cm、短径55cmの楕円形で、深さ35cmである。覆土は3層からなり、各層にロームブロックや焼土、炭化物が混入していることから人為堆積と考えられる。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|---------|--|-------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化物微量、ローム粒子極微量 | 3 暗褐色 | ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 極暗赤褐色 | 炭化物・山砂粒子中量、ローム小ブロック・焼土 | | |

竈 北壁の北西コーナー部寄りを壁外に112cm掘り込み、砂質粘土で構築されている。規模は長さ138cm、幅80cmである。遺存状態は悪い。火床面は、浅い皿状を呈し、赤変硬化している。煙道部は、火床面から緩やかに傾斜して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|----------------------------------|--------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子微量、ローム小ブロック極微量 | 5 暗赤褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、焼土中ブロック・粘土粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子少量 | | |

覆土 単一層で人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・KP粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
|-------|-----------------------------------|

遺物 土師器片80点、須恵器片4点が出土している。第198図1の土師器坏は、P1の南西側の覆土下層から出土している。2の土師器小皿は、貯蔵穴の東側の覆土下層から出土している。3の土師器小皿は、中央部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から10世紀後半と考えられる。



第198図 第39号住居跡出土遺物実測図

第39号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第198図 1	土師器 坏	A 15.7 B 5.4	体部下位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。	砂粒、長石、石英にぶい黄橙色普通	P118 35% PL75 内面黒色処理
2	土師器 小皿	A 15.0 B 6.7 C 7.2	平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒、長石、雲母、スリア 灰黄褐色普通	P119 40% PL75
3	土師器 小皿	A [12.0] B 2.0 C (6.0)	平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部で内傾する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。底部は外方へわずかに突出する。底部回転糸切り。	砂粒、長石、石英、雲母 橙色普通	P140 40%

第40号住居跡 (第199図)

位置 調査区北部, A110区。

重複関係 本跡が第5号不明遺構, 第86・92・94号土坑の覆土を掘り込んでおり, いずれよりも本跡の方が新しい。

規模と平面形 一辺3.30mほどの方形である。

主軸方向 N-28°-E

壁 壁高は34~40cmで, ほぼ垂直に立ち上がっている。

壁溝 西壁中央部から北西コーナー部にかけてと, 南壁中央部の壁下を巡っている。上幅16~28cm, 下幅5~12cm, 深さ12~15cmである。断面形はU字状である。

床 ほぼ平坦である。竈手前から南壁にかけての中央部が硬化している。

ピット 1か所。P1は, 南壁中央部寄りの位置から検出されている。径15cmの円形で, 深さ17cmである。出入口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部を壁外に70cm掘り込み, 砂質粘土で構築されている。規模は長さ113cm, 幅111cmである。火床面は, 浅い皿状をしている。煙道部は, 火床面から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|--|--------|---|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量, 粘土粒子微量 | 3 暗赤褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子微量, ローム小ブロック極微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・粒子微量, 炭化物・炭化粒子極微量 | 4 暗赤褐色 | 山砂粒子少量, 焼土小ブロック・粒子微量, ローム粒子極微量 |

覆土 4層からなる人為堆積である。

土層解説

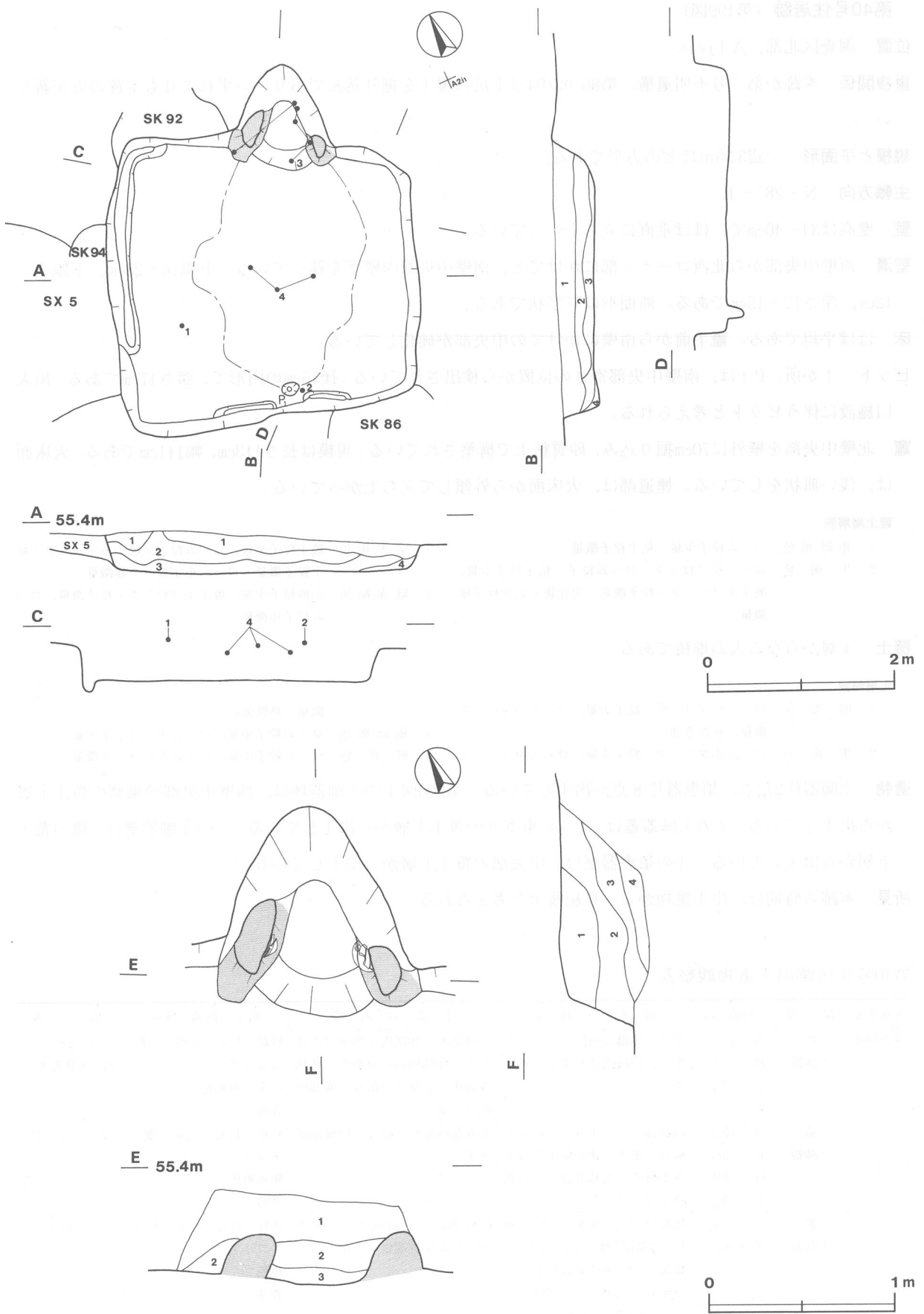
- | | | | |
|-------|---------------------------------|--------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・粒子少量, ローム中ブロック微量, 粘性強い | 3 極暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・粒子少量, ローム中ブロック | 4 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック微量 |

遺物 土師器片212点, 須恵器片8点が出土している。第200図1の土師器坏は, 西壁中央部の東側の覆土上層から出土している。2の土師器蓋は, P1の東寄りの覆土上層から出土している。3の土師器甕は, 竈の覆土下層から出土している。4の須恵器甕は, 中央部の覆土上層から出土している。

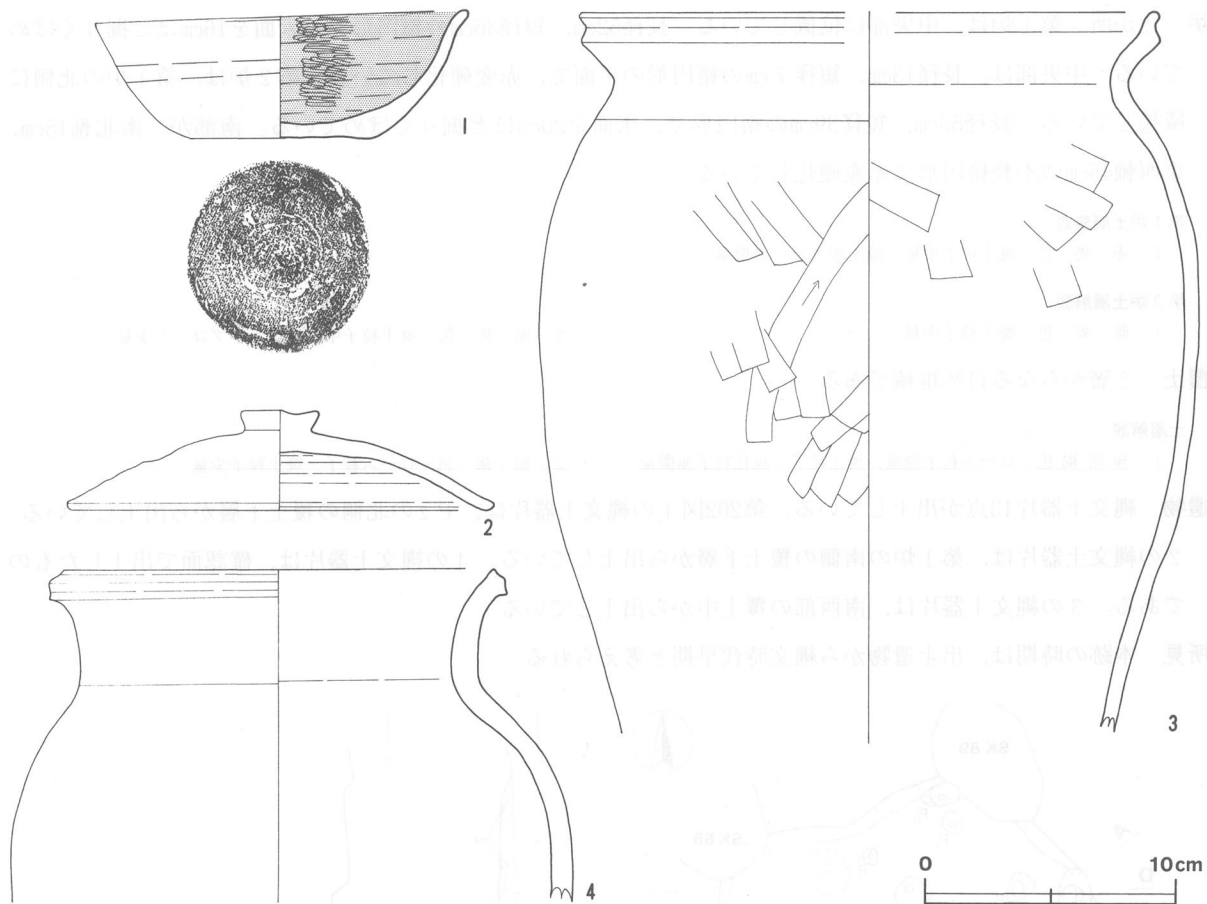
所見 本跡の時期は, 出土遺物から9世紀後半と考えられる。

第40号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第200図 1	坏 土師器	A 15.0	平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。体部外面中・下位へラ削り。底部回転へラ切り。	砂粒, 長石, 石英, 雲母, スコリア にぶい黄褐色 普通	P121 85% PL75 内面黒色処理
		B 5.1				
		C 7.4				
2	蓋 土師器	A 15.6	口縁部からつまみにかけての破片。ボタン状の扁平なつまみが付く。天井部はドーム状をしている。	天井部回転へラ削り。口縁部横ナデ。	砂粒, 長石, 石英, 礫, スコリア 明赤褐色 普通	P122 55% PL75
		B 5.0				
		G 0.9				
		F 3.2				
3	甕 土師器	A [23.3]	体部下位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 頸部は「く」の字状に外反する。口縁部中位に稜をもつ。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面中位縦位へラ削り。	砂粒, 長石, 石英, 雲母, スコリア 橙色 普通	P123 35%
		B (29.0)				



第199図 第40号住居跡実測図



第200図 第40号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
4	甕 須恵器	A 17.3 B (13.3)	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部は緩やかに外傾する。口縁部は外反し、端部は、外上方と下方につまみ出されている。口縁部中位に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒、長石、石英 灰色 普通	P125 20%

第41号住居跡 (第201図)

位置 調査区北部, B1is区。

重複関係 第76・87~89号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 南北軸3.15m, 東西軸3.25mの不定形である。

主軸方向 N-35°-E

壁 壁高は18~22cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦である。北壁中央部寄りの位置に、長径37cm, 短径33cmの楕円形の赤変したくぼみを検出している。

ピット 13か所 (P1~P13)。P2, P4~P6, P8, P13は、長径20~43cm, 短径14~34cmの円形および楕円形で、深さ15~55cmであり、規模と配列から主柱穴と考えられる。その他は、長径13~35cm, 短径12~32cmの円形及び楕円形で、深さ6~42cmである。東部に位置するP3を除き、各ピットとも北部に位置する。いずれも性格は不明である。

炉 2 か所。第 1 炉は、中央部に位置している。長径52cm、短径36cmの楕円形で、床面を16cmほど掘りくぼめている。中央部は、長径13cm、短径7cmの楕円形の平面で、赤変硬化している。第 2 炉は、第 1 炉の北側に隣接している。長径53cm、短径39cmの楕円形で、床面を20cmほど掘りくぼめている。南部が、南北軸15cm、東西軸45cmの不整楕円形に赤変硬化している。

第 1 炉土層解説

- 1 赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック微量

第 2 炉土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子中量
- 2 暗褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量

覆土 2層からなる自然堆積である。

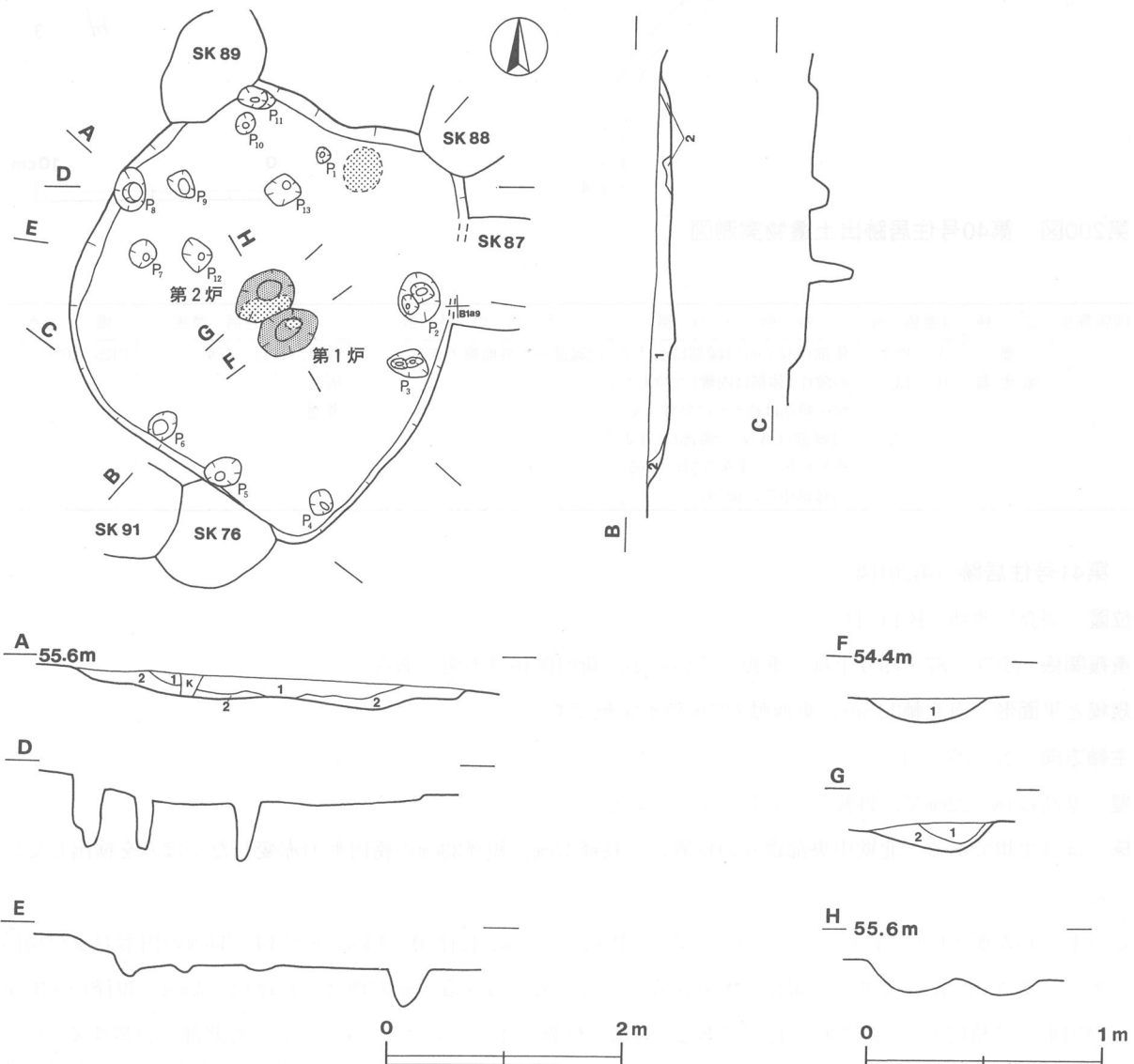
土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

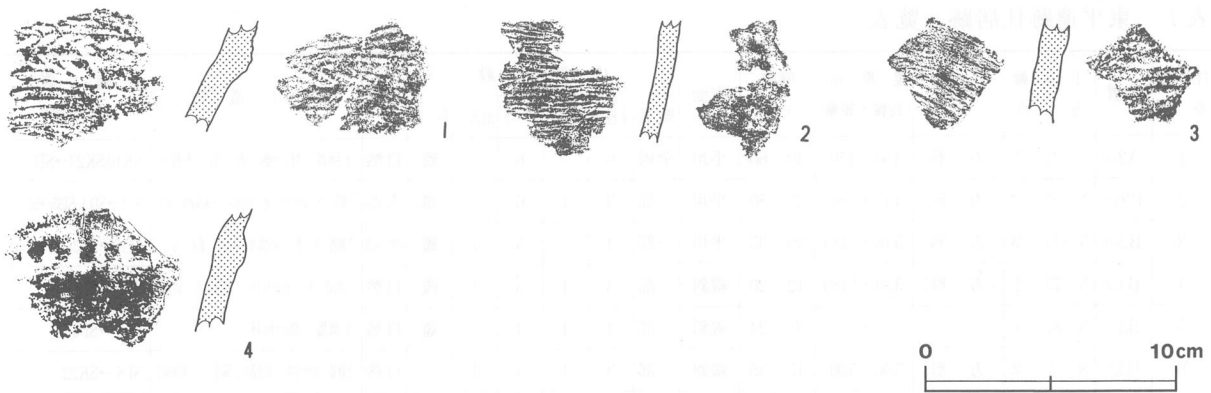
遺物 縄文土器片13点が出土している。第202図1の縄文土器片は、P₂の北側の覆土下層から出土している。

2の縄文土器片は、第1炉の南側の覆土下層から出土している。4の縄文土器片は、確認面で出土したものである。3の縄文土器片は、南西部の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から縄文時代早期と考えられる。



第201図 第41号住居跡実測図



第202図 第41号住居跡出土遺物実測図

第41号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	器形及び文様の特徴	備考
第202図 1	深鉢 縄文土器	胴部片。破片上部に隆帯が巡り、その上に半截竹管状工具によるきざみが施されている。地紋には貝殻条痕文が施されている。	TP23 PL77 繊維土器
2	深鉢 縄文土器	胴部片。破片上部に隆帯が巡り、その上に棒状工具による矢羽状の沈線が施されている。地紋には貝殻条痕文が施されている。	TP24 PL77 繊維土器
3・4	深鉢 縄文土器	胴部片。地紋に貝殻条痕文が施されている。	TP25, 26 PL77 繊維土器



表7 東平遺跡住居跡一覽表

住居跡 番号	位置	主(長)軸 方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考 (旧→新)
							壁溝	支柱穴	貯藏穴	ピット	出入口	炉・竈			
1	A2j5	N-22°-E	方形	3.50×3.50	30~60	平坦	全周	6	—	6	—	竈	自然	土師器(坏, 甕, 壺, 甌, 手捏)	SK10, SK23→SI1
2	B2b6	N-23°-W	方形	4.10×3.80	25~50	平坦	一部	3	1	6	1	竈	人為	土師器(坏, 高台付坏, 甕, 須惠器片, 石製紡錘車, 砥石)	SI2→SD1, SI35→SI2
3	B2e9	N-10°-W	[方形]	5.18×[4.83]	20~35	平坦	一部	4	—	5	1	竈	自然・人為	土師器(坏, 甕), 須惠器片, 陶器片, 砥石, 刀子	SI10→SI3
4	B3j3	N-73°-E	[方形]	3.80×[3.80]	12~20	緩斜	一部	3	1	5	1	竈	自然	土師器(坏, 高台付坏), 須惠器片, 砥石	SI5→SI4
5	B3j4	N-87°-E	—	—	6~24	緩斜	一部	4	1	4	—	竈	自然	土師器(高台付坏)	SI5→SI4
6	B3j5	N-7°-W	[方形]	[5.00×5.00]	15~35	緩斜	一部	3	1	4	1	—	自然	土師器(高台付坏), 須惠器片, 陶器片, 土製紡錘車	SI6→SK22
7	C3b7	N-86°-E	隅丸長方形	3.25×2.75	10~35	平坦	一部	4	—	5	1	竈	自然	土師器(高台付坏, 甕) 須惠器片, 陶器片	SI7→SD3, SK29
8	C4d1	N-3°-E	—	—	16~50	平坦	一部	1	1	1	—	竈	自然	土師器(坏, 高台付坏), 須惠器片, 鉄滓	
9	C3d9	N-0°	—	—	28~40	平坦	一部	1	—	2	—	竈	自然	土師器(甕), 須惠器片, 土製支脚片	
10	B2e0	—	—	—	30~38	緩斜	—	4	—	4	—	—	自然	土師器(器台, 台付甕), 弥生土器(甕), 土玉	SI10→SI3, SK19
11	C4e2	—	—	—	20~32	平坦	一部	1	—	2	—	—	自然	土師器片, 須惠器片, 陶器片	SI11→SI12
12	C4d3	—	—	—	32~52	平坦	一部	—	—	1	—	—	自然	土師器片, 須惠器片, 陶器片, 鎌, 刀子	SI11→SI12
13	C3e6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	竈	—	土師器(甕), 須惠器(坏)	SI13→SD6
14	C3e5	N-86°-E	—	—	20~30	平坦	一部	4	—	7	1	竈	自然	土師器(坏, 甕)	SI5, SK95→SI14, SK47
15	C3e5	N-4°-W	—	—	44~52	平坦	一部	3	—	4	—	竈	人為	土師器(高台付坏, 甕), 須惠器(坏, 甕), 陶器片	SI14→SI15
16	C3d2	N-7°-W	[隅丸長方形]	4.10×[3.35]	8~10	緩斜	—	4	—	4	—	竈	自然	土師器(坏, 甕), 須惠器片	SI16→SD2, SK46→SI16
17	C3e2	N-106°-E	[長方形]	3.30×2.70	20~24	緩斜	一部	3	1	5	1	竈	自然	土師器(坏, 小皿), 須惠器片, 鈎具, 鎌	SI17→SD2, SK46→SI17
18	C3f1	N-5°-E	—	—	6~10	緩斜	—	—	—	3	—	竈	自然	土師器(坏, 高台付坏, 甕, 甌), 須惠器片, 土製支脚	SI18→SD2, SK48
19	B2h0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	竈	—	土師器(坏, 甕), 須惠器片	SI19→SD5
20	B2i9	N-5°-W	[隅丸長方形]	3.95×3.10	10~30	緩斜	—	4	—	5	1	竈	自然	土師器(坏), 須惠器(甌), 鉄製紡錘車	SI20→SD5
21	B3j1	N-3°-W	[隅丸方形]	4.80×4.65	35~50	平坦	全周	4	—	5	—	竈2	人為	土師器(坏, 高台付坏), 須惠器片, 陶器片	
22	C2a9	N-3°-E	[隅丸方形]	4.20×4.05	20~40	緩斜	一部	3	—	4	1	竈	自然	土師器(高台付坏, 甕, 壺), 須惠器片	
23	C2d0	N-2°-E	[隅丸方形]	3.45×3.30	12~36	緩斜	一部	—	—	4	1	竈	自然	土師器(坏, 甕), 須惠器(坏, 甕, 甌)	SI25→SI23, SI23→SI24
24	C2d0	N-83°-W	—	—	18~30	緩斜	一部	—	2	4	—	炉・竈	自然	土師器(高台付坏), 須惠器片, 鉄滓	SI23→SI24
25	C2d9	N-88°-E	—	—	28~30	緩斜	一部	3	—	4	—	竈	自然	土師器(坏, 甕), 須惠器片, 砥石	SI25→SI23
26	B2i2	N-40°-W	長方形	4.24×3.50	12~25	緩斜	一部	4	1	6	1	竈	自然	土師器(高台付坏, 高台付甕, 甕), 須惠器片, 陶器片, 鉄滓	SI31→SI26
27	B2i6	N-12°-W	[隅丸長方形]	3.50×2.80	18~30	平坦	一部	4	—	5	1	竈	自然	土師器(坏, 高台付坏, 小皿, 甕), 須惠器片, 鉄滓	SI27→SD5
28	C2a7	N-102°-E	—	—	28~38	緩斜	一部	—	—	1	1	竈	自然	土師器, 高台付坏, 須惠器片	SK52→SI28, SK53と重複
29	C2a5	N-62°-E	[方形]	2.80×2.65	26~40	緩斜	一部	4	—	4	—	竈	自然	土師器(坏, 小皿), 須惠器片	SI30→SI29
30	C2a4	N-0°	[隅丸長方形]	3.75×3.15	40~62	緩斜	一部	—	—	2	1	竈	人為	土師器(坏, 甕), 須惠器片	SI30→SI29
31	B2h1	N-43°-W	—	—	14~22	緩斜	—	4	—	6	1	竈	自然	土師器(甕, 甌), 須惠器(坏)	SI31→SI26
32	B2g3	N-70°-E	[隅丸方形]	3.40×3.30	26~44	平坦	一部	2	—	2	—	竈	自然	土師器(高台付坏), 須惠器片	SI33→SI32
33	B2g3	N-27°-E	[隅丸方形]	2.65×2.60	24~41	平坦	—	—	—	1	—	竈2	自然	土師器(坏, 甕, 甌), 須惠器(甕), 刀子	SI33→SI32
34	B2g6	N-25°-W	[隅丸長方形]	3.00×2.20	16~32	平坦	—	3	—	4	1	竈	人為	土師器(坏), 須惠器(坏)	SI34→SI35
35	B2g6	N-72°-E	[隅丸長方形]	[3.70]×3.30	20~30	緩斜	—	2	1	3	—	竈	自然	土師器(坏, 高台付坏), 須惠器片, 陶器片	SI34→SI35
36	C2a3	—	—	—	55~60	緩斜	—	—	—	—	—	竈	自然	土師器, 須惠器片	SK93→SI36
38	B1e0	N-76°-E	—	—	16~28	平坦	—	4	1	5	1	竈	自然	土師器(坏, 高台付坏), 須惠器片	SI39→SI38, SI38→SK77
39	B1e9	N-22°-W	—	—	18~24	平坦	一部	4	1	5	1	竈	人為	土師器(坏, 小皿), 須惠器片	SI39→SI38
40	A1i0	N-28°-E	方形	3.30×3.30	34~40	平坦	一部	—	—	1	1	竈	人為	土師器(坏, 甕, 蓋), 須惠器(甕)	SK86, SK92, SK94, SK5→SI40
41	B1i8	N-35°-E	不定形	3.25×3.15	18~22	平坦	—	6	—	13	—	炉2	自然	縄文土器片	SK76, SK87→SK89と重複

2 土坑

当遺跡からは、土坑が95基検出されている。時期や性格は不明なものが多い。ここでは、形状や出土遺物が特徴的な土坑について記述し、他は一覧表に記載する。

第9号土坑（第203図）

位置 調査区北部，B2j4区。

規模と平面形 長径2.12m，短径1.10mの楕円形で，
深さ17cmである。

長径方向 N-73°-W

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。西部の底面に焼土が堆積して
いる。

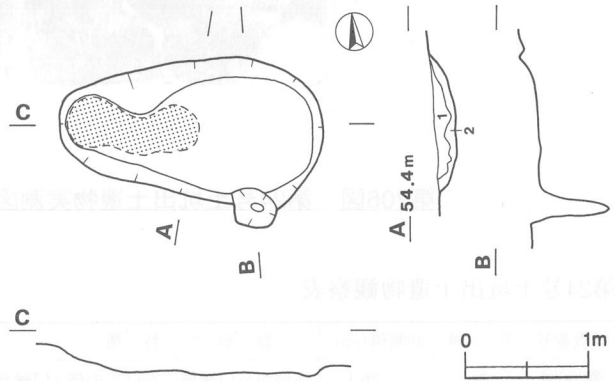
覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム
粒子・焼土小ブロック微量

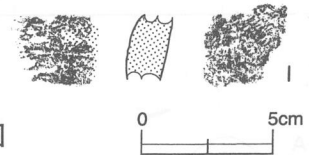
遺物 縄文土器片2点が出土している。第204図1
の縄文土器片は，覆土中から出土している。

所見 本跡は，出土遺物や遺構の形状から，縄文時代早期の炉穴と考えられる。



第203図 第9号土坑実測図

第204図 第9号土坑
出土遺物実測図



第9号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	器形及び文様の特徴	備考
第204図 1	深鉢 縄文土器	胴部の細片で，貝殻条痕文の痕跡が内・外面ともわずかに認められる。	TP27 PL77 胎土に繊維混入

第24号土坑（第205図）

位置 調査区中央部，B2d9区。

重複関係 第18号土坑を掘り込んでおり，本跡の方が新しい。

規模と平面形 北壁と東壁が残存していないため，正確な規
模や平面形は不明である。

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。東方向に緩やかに傾斜している。

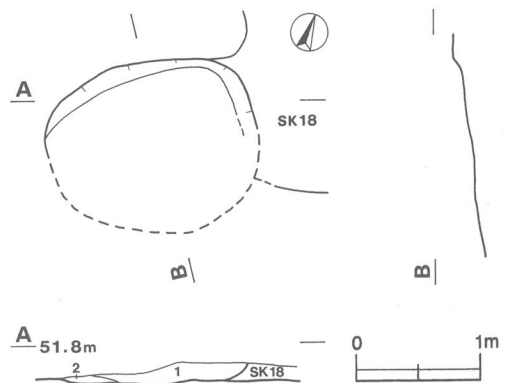
覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説

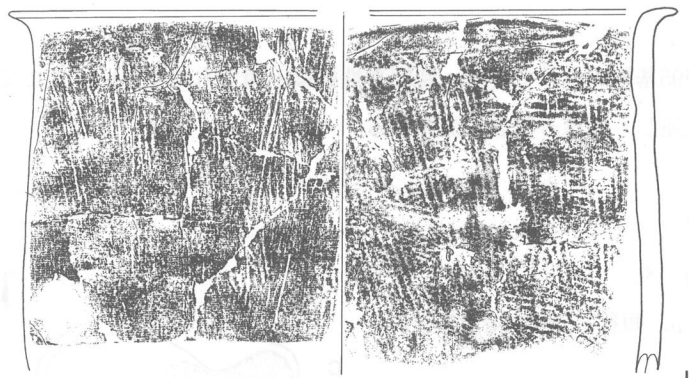
- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

遺物 土師器片11点が出土している。第206図1の土師器甑は，中央部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から古墳時代後期で，性格は不明である。



第205図 第24号土坑実測図

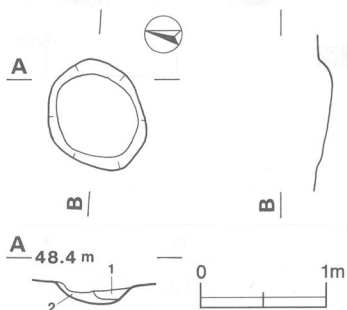


第206図 第24号土坑出土遺物実測図



第24号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第206図 1	甌 土師器	A [26.4] B (14.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は直立して立ち上がり、口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位の平行叩き。内面格子目状の叩き。	砂粒, 長石, 石英 にぶい褐色 普通	P126 10% PL75



第207図 第52号土坑実測図

第52号土坑 (第207図)

位置 調査区中央部, C2a7区。

重複関係 第28号住居跡の床下から検出されているので, 本跡の方が古い。

規模と平面形 長径0.92m, 短径0.76mの楕円形で, 深さ10cmである。

長径方向 N-58°-E

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

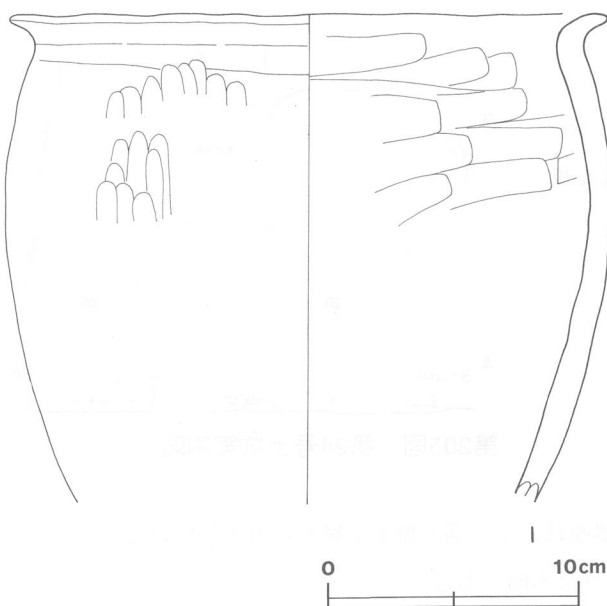
覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・KP粒子微量
- 2 極暗褐色 焼土粒子・KP小ブロック・KP粒子微量, ローム粒子極微量

遺物 土師器片122点が出土している。第208図1の土師器甕は, 中央部の底面から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から古墳時代後期で, 性格は不明である。



第208図 第52号土坑出土遺物実測図

第52号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第208図 1	甕 土師器	A 23.4 B (19.5)	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部は「く」の字状に強く屈曲する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位縦位のヘラ削り。体部内面上位横位のヘラ削り。	砂粒、石英、長石、礫 暗オリーブ色 普通	P127 15% PL76

第62号土坑 (第209図)

位置 調査区北部, B2b3区。

規模と平面形 長径2.10m, 短径1.43mの楕円形で、深さ167cmである。

長径方向 N-10°-W

壁面 下位から中位までほぼ垂直に立ち上がり、深さ95cmのところから上は外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

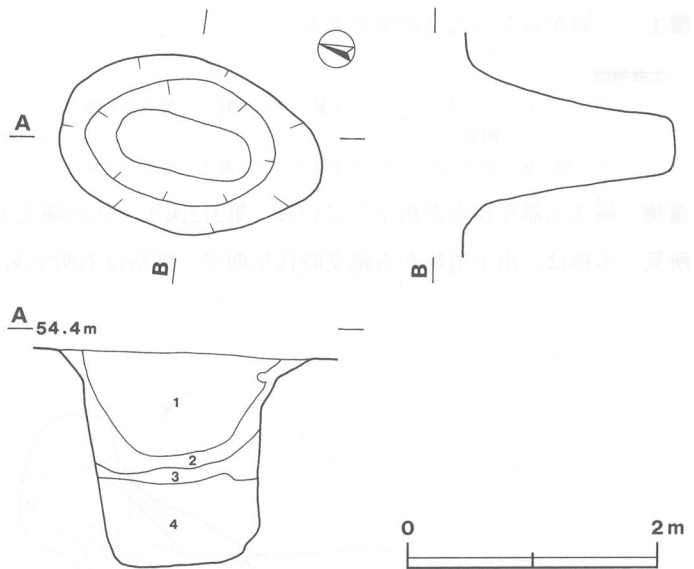
覆土 4層からなり、1・2層は自然堆積、3・4層は人為堆積であると考えられる。

土層解説

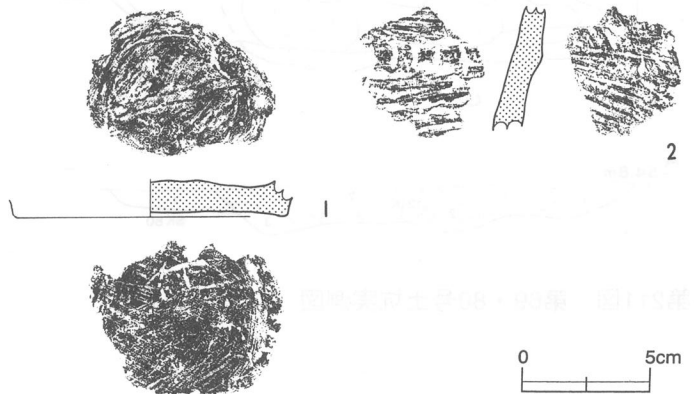
- 1 黒色 ローム小ブロック微量, ローム粒子極微量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・粒子中量

遺物 縄文土器片9点が出土している。第210図1・2の縄文土器片は、覆土中から出土している。

所見 本跡は、出土遺物と遺構の形状から、縄文時代早期の陥し穴と考えられる。



第209図 第62号土坑実測図



第210図 第62号土坑出土遺物実測図

第62号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	器形及び文様の特徴	備考
第210図 1	深鉢 縄文土器	底部片。内・外面とも貝殻条痕文が施されている。	TP31 PL77 胎土に繊維混入
2	深鉢 縄文土器	胴部片。破片上部にきざみをもつ隆帯が巡っている。内・外面とも貝殻条痕文が施されている。	TP32 PL77 胎土に繊維混入

第69号土坑 (第211図)

位置 調査区北部, B1b0区。

重複関係 第80号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と平面形 第80号土坑と重複しているため, 正確な規模と平面形は不明であるが, 長径 [3.38] m, 短径 1.09mの楕円形と推定され, 深さ27cmである。

長径方向 N-53°-E

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 凹凸である。

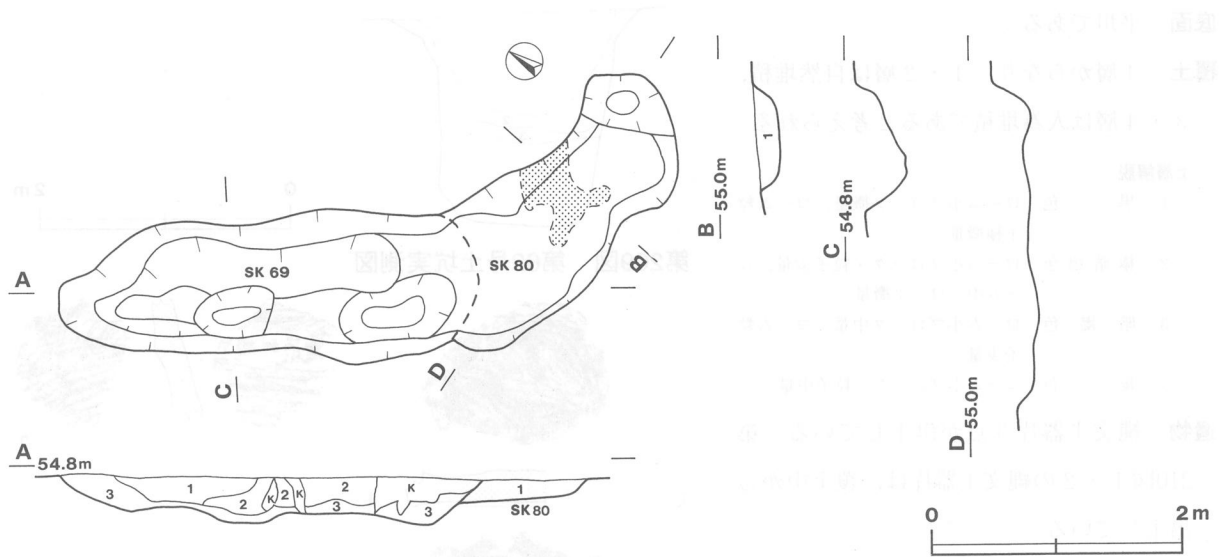
覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

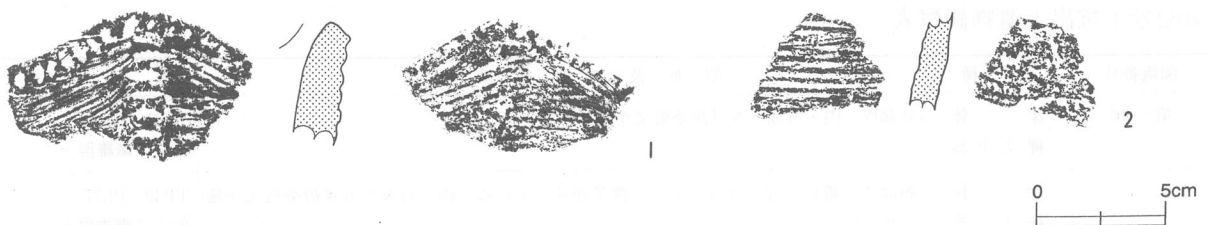
- | | | | |
|-------|---|--------|-----------------------------|
| 1 黒色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子極微量 | 3 極暗褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック少量・ローム粒子・焼土小ブロック微量, 焼土粒子・炭化物極微量 | | |

遺物 縄文土器片10点が出土している。第212図1・2の縄文土器片は, 覆土中から出土している。

所見 本跡は, 出土遺物から縄文時代早期で, 性格は不明である。



第211図 第69・80号土坑実測図



第212図 第69号土坑出土遺物実測図

第69号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	器形及び文様の特徴	備考
第212図 1	深鉢 縄文土器	口縁部片。波状口縁をもち、口唇部にはきざみが施されている。 波頂部から、きざみを有する隆帯が垂下している。内・外面に貝殻条痕文が施されている。	TP16 PL77 胎土に繊維混入
2	深鉢 縄文土器	胴部片。外面に貝殻波状文が施されている。	TP36 PL77 胎土に繊維混入

第71号土坑 (第213図)

位置 調査区北部, B1b9区。

規模と平面形 長径1.55m, 短径0.87mの楕円形で、深さ30cmである。

長径方向 N-0°

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 皿状である。南部の底面に焼土が堆積している。

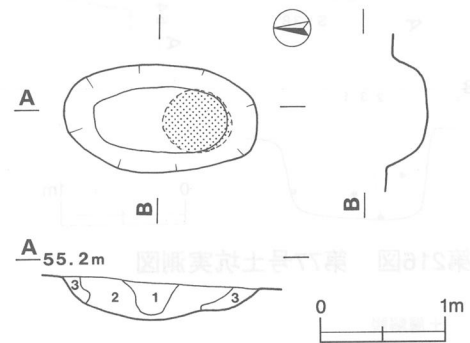
覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

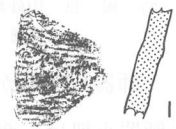
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量, ローム小ブロック極微量

遺物 縄文土器片1点が出土している。第214図1の縄文土器片は、覆土中から出土している。

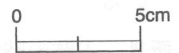
所見 本跡は、出土遺物と遺構の形状から、縄文時代早期の炉穴と思われる。



第213図 第71号土坑実測図



第214図 第71号土坑出土遺物実測図



第71号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	器形及び文様の特徴	備考
第214図 1	深鉢 縄文土器	胴部片。外面は貝殻条痕文が施されており、内面は部分的に剥離している。	TP28 PL77 胎土に繊維混入

第76号土坑 (第215図)

位置 調査区北部, B1a8区。

重複関係 第91号土坑の覆土を掘り込んでおり、本跡の方が新しい。

規模と平面形 径約1.00mの円形で、深さ30cmである。第41号住居跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

長径方向 N-80°-W

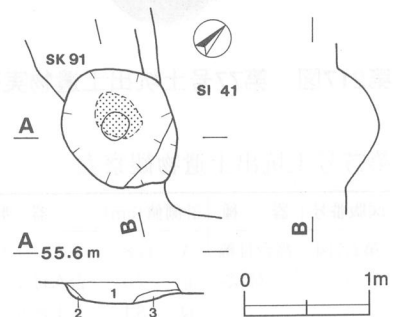
壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 皿状である。

覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

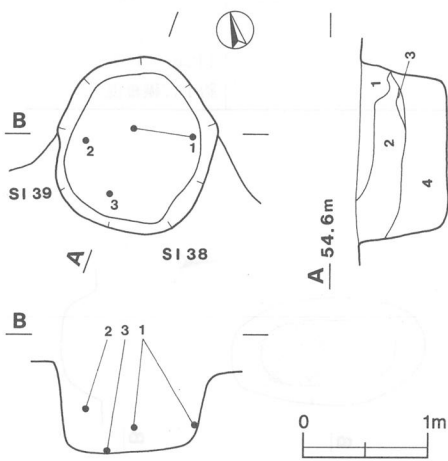
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子極微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子極微量



第215図 第76号土坑実測図

遺物 出土していない。

所見 本跡は、遺構の形状から、縄文時代の炉穴と思われる。



第216図 第77号土坑実測図

第77号土坑 (第216図)

位置 調査区北部, B1e0区。

重複関係 第38・39号住居跡の覆土を掘り込んでおり, 本跡の方が新しい。

規模と平面形 長径1.47m, 短径1.25mの楕円形で, 深さ70cmである。

長径方向 N-35° - E

壁面 垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

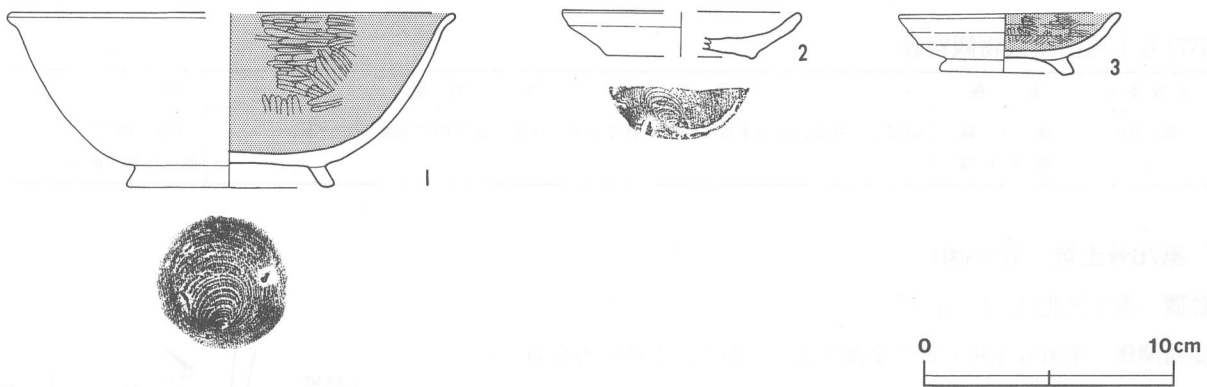
覆土 4層からなる。各層にロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子を含むことから, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------|--------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量, 焼土小ブロック極微量 | 3 極暗褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | 山砂粒子中量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・黒色小ブロック少量 |

遺物 土師器片5点が出土している。第217図1の土師器高台付椀は, 東部の覆土下層から出土している。2の土師器小皿は, 西部の覆土中層から出土している。3の土師器高台付小皿は, 南西部の底面から出土している。

所見 本跡の時期は, 第38・39号住居跡との重複関係から, 10世紀後半以降である。性格は不明である。



第217図 第77号土坑出土遺物実測図

第77号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第217図 1	高台付椀 土師器	A [17.8] B 7.0 D 8.4 E 0.9	平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり, 口縁端部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。高台貼り付け後, ナデ。	砂粒, 長石, 石英, 雲母にふい橙色普通	P129 35% PL76 内面黒色処理
2	小皿 土師器	A [9.4] B 1.8 C [5.8]	平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	口縁部から体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	砂粒, 長石, 石英, 雲母橙色普通	P130 40% PL76

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第217図 3	高台付小皿 土師器	A	平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒、長石 灰白色 普通	P131 95% PL76 内面黒色処理
		B				
		D				
		E				

第78号土坑 (第218図)

位置 調査区北部, B1b9区。

重複関係 第4号不明遺構と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径1.95m, 短径1.00mの不定形で、深さ27cmである。

長軸方向 N-88°-E

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 凹凸である。中央部の底面に焼土が堆積している。

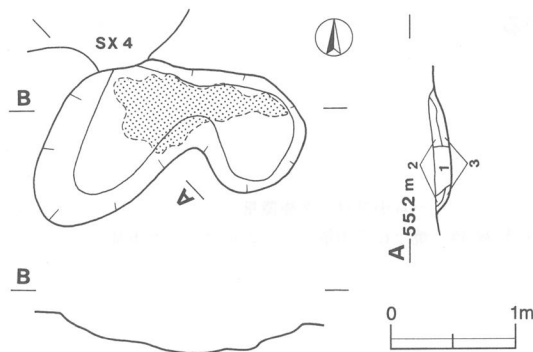
覆土 3層からなる。各層に焼土ブロック・焼土粒子を含むことから、人為堆積である。

土層解説

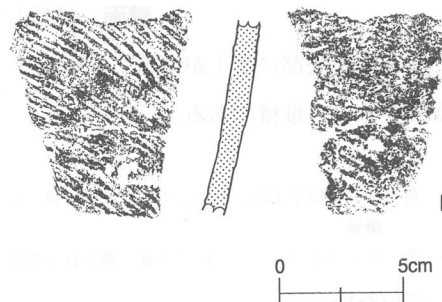
- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量・焼土小ブロック少量, 焼土大ブロック微量
 2 極暗褐色 焼土粒子微量, ローム粒子極微量
 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子極微量

遺物 縄文土器片8点が出土している。第219図1の縄文土器片は、覆土中から出土している。

所見 本跡は、出土遺物と遺構の形状から、縄文時代早期の炉穴と思われる。



第218図 第78号土坑実測図



第219図 第78号土坑出土遺物実測図

第78号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	器形及び文様の特徴	備考
第219図 1	深鉢 縄文土器	胴部片。内・外面とも貝殻条痕文が施されている。	TP29 PL77 胎土に繊維混入

第80号土坑 (第211図)

位置 調査区北部, B1b0区。

重複関係 第69号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と平面形 長径2.58m, 短径1.00mの楕円形で、深さ24cmである。

長径方向 N-0°

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 凹凸である。中央部の底面に焼土が堆積している。



第220図 第80号土坑
出土遺物実測図

覆土 単一層で自然堆積である。

土層解説

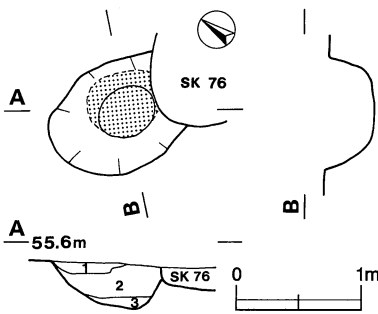
1 にぶい赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・骨粉微量, 黒色粒子極微量

遺物 縄文土器片 2点が出土している。第220図 1 縄文土器片は, 覆土中から出土している。

所見 本跡は, 出土遺物と遺構の形状から, 縄文時代早期の炉穴と思われる。

第80号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	器形及び文様の特徴	備考
第220図 1	深鉢 縄文土器	胴下部片。遺存状態が悪いが, 外面に貝殻条痕文の痕跡がわずかに認められる。	TP30 PL77 胎土に繊維混入



第91号土坑 (第221図)

位置 調査区北部, B1a8区。

重複関係 第76号土坑に掘り込まれており, 本跡の方が古い。

規模と平面形 北東部が第76号土坑と重複していたため, 正確な規模と平面形は不明であるが, 長径(1.08)m, 短径0.87mの楕円形と推定され, 深さ40cmである。

長径方向 [N-76°-W]

壁面 外傾して立ち上がる。

第221図 第91号土坑実測図

底面 皿状である。中央部に焼土が堆積している。

覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子極微量

ーム小ブロック極微量

2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子微量, ロ

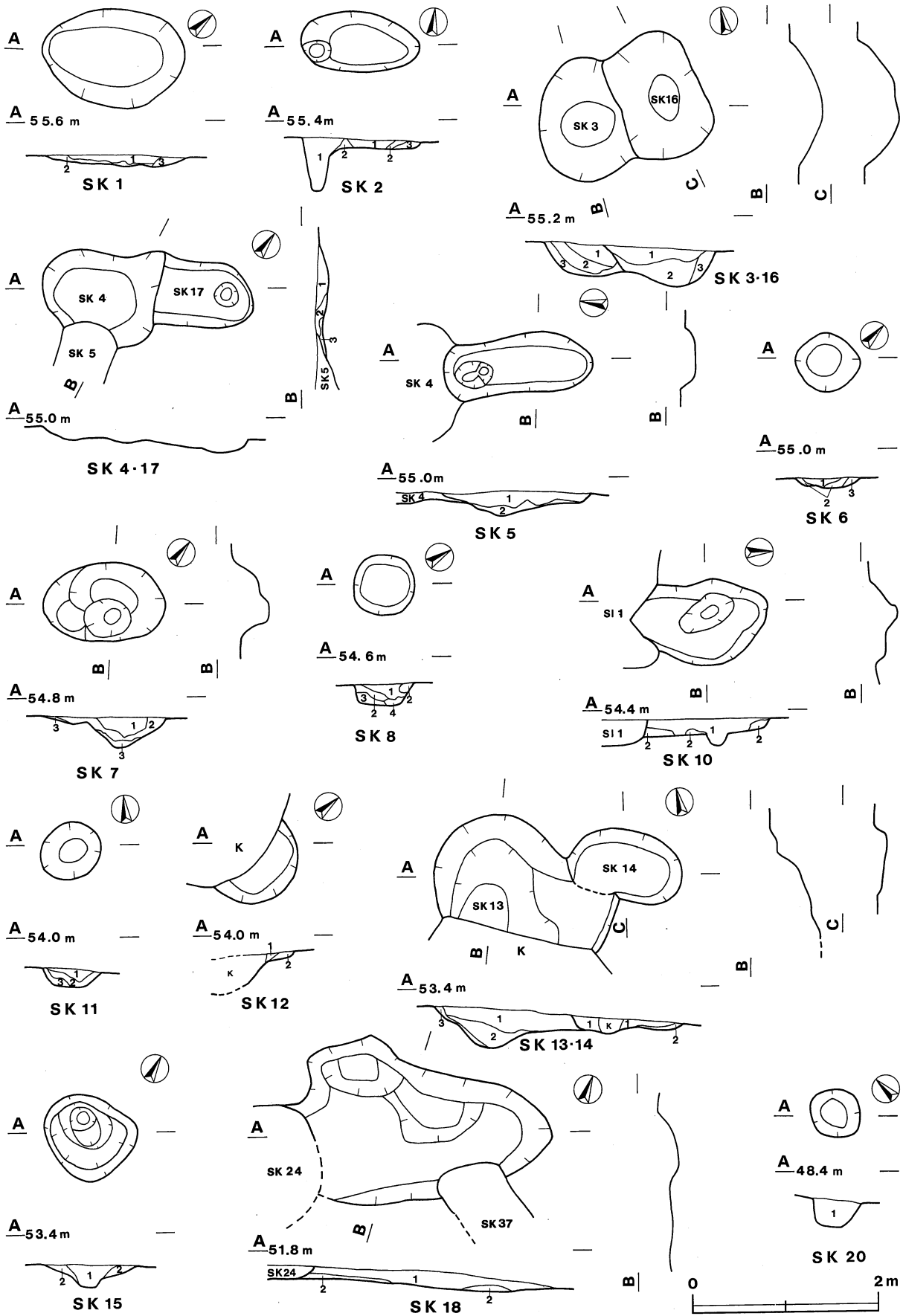
3 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム小ブロック少量

遺物 出土していない。

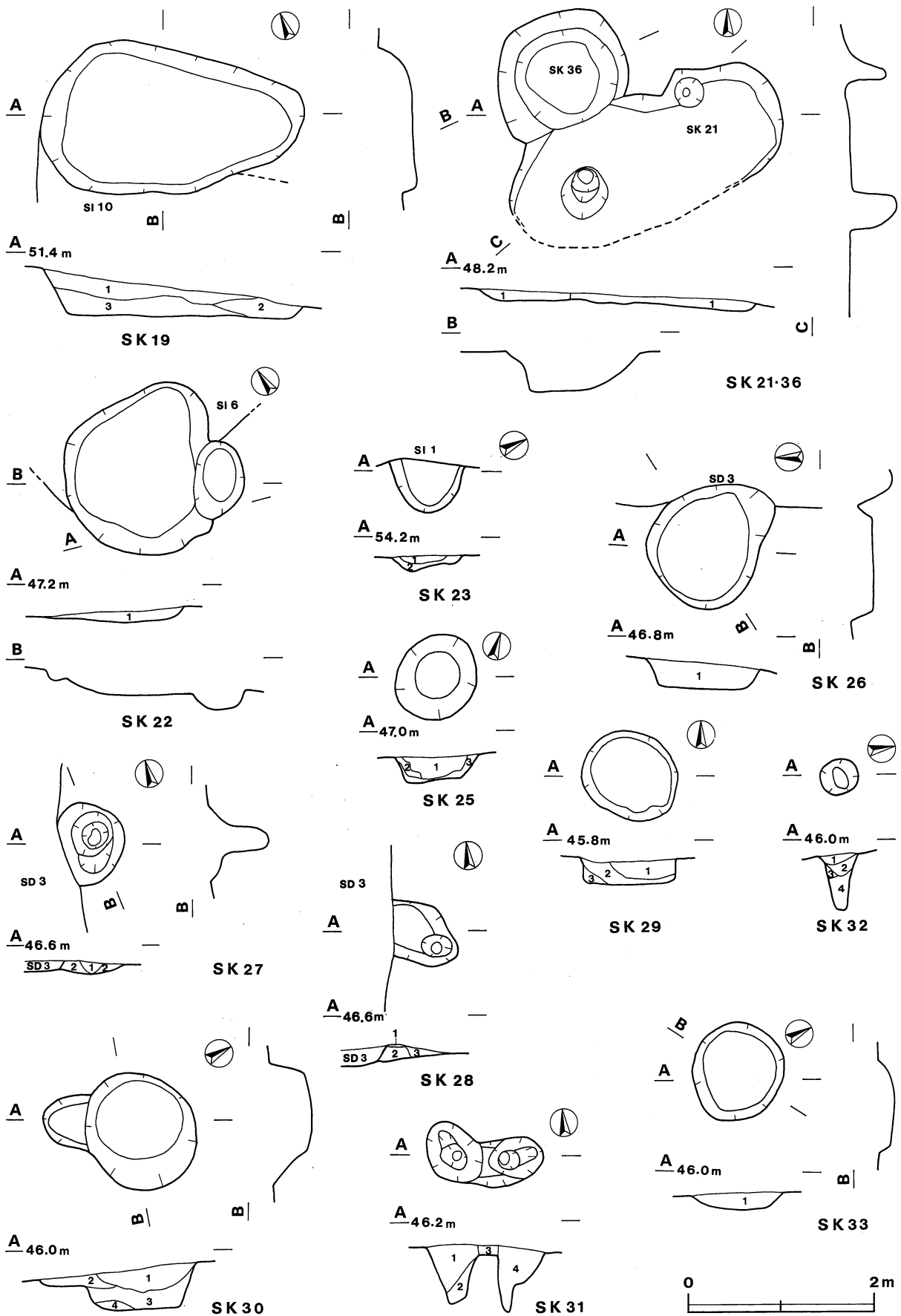
所見 本跡は, 遺構の形状から, 縄文時代の炉穴と思われる。

その他の土坑

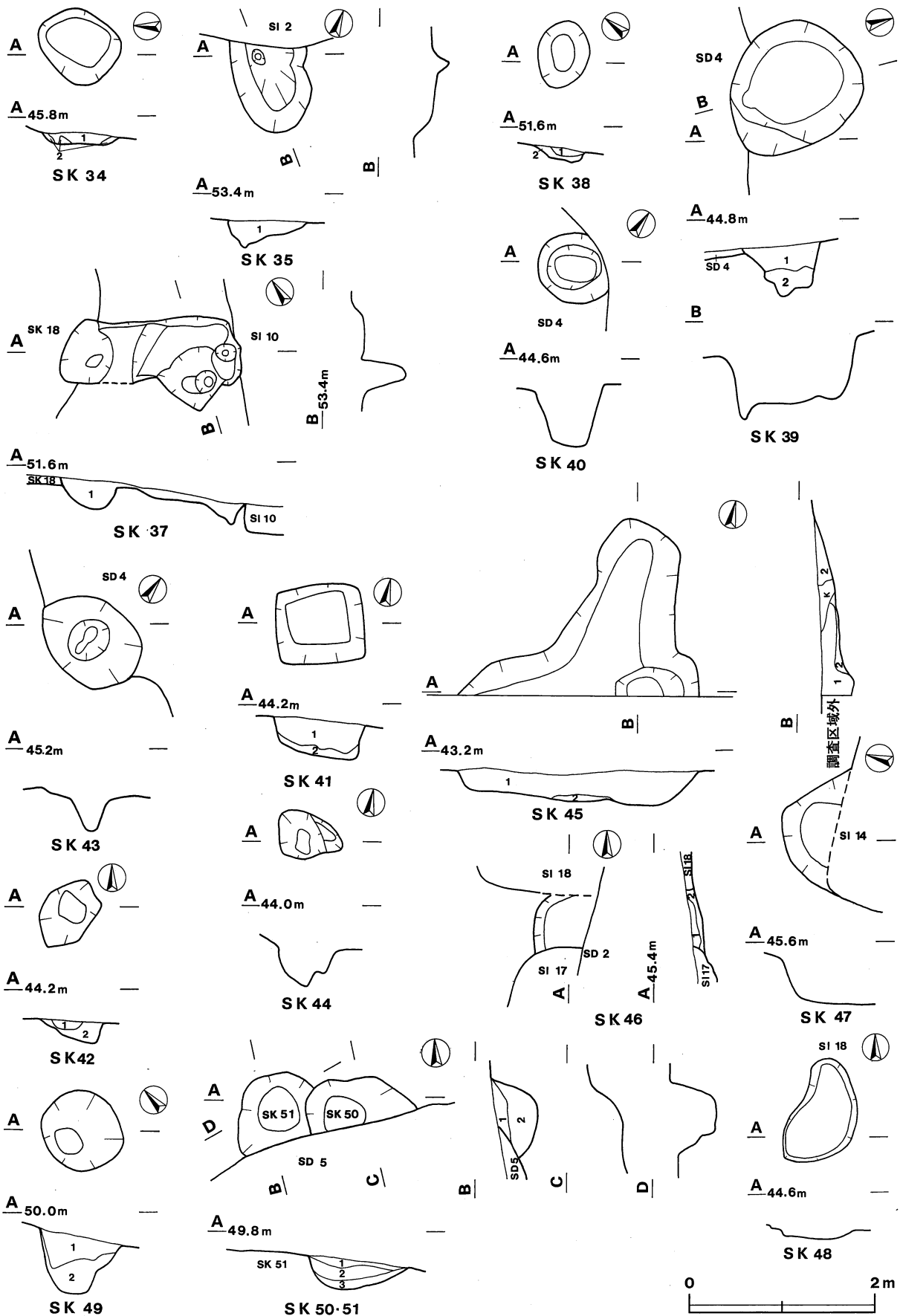
84基検出された。(第222~227図)



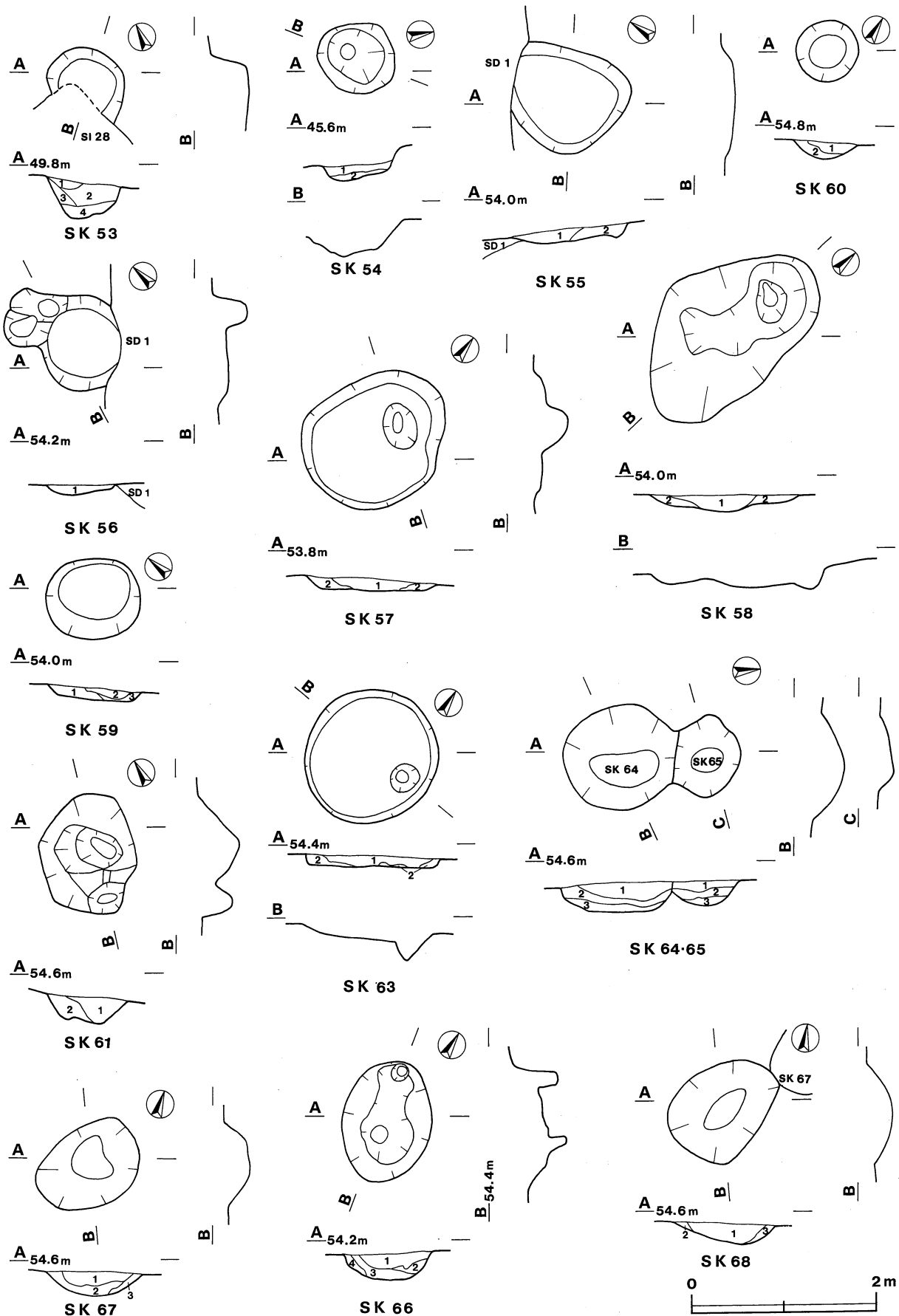
第222図 その他の土坑実測図(1)



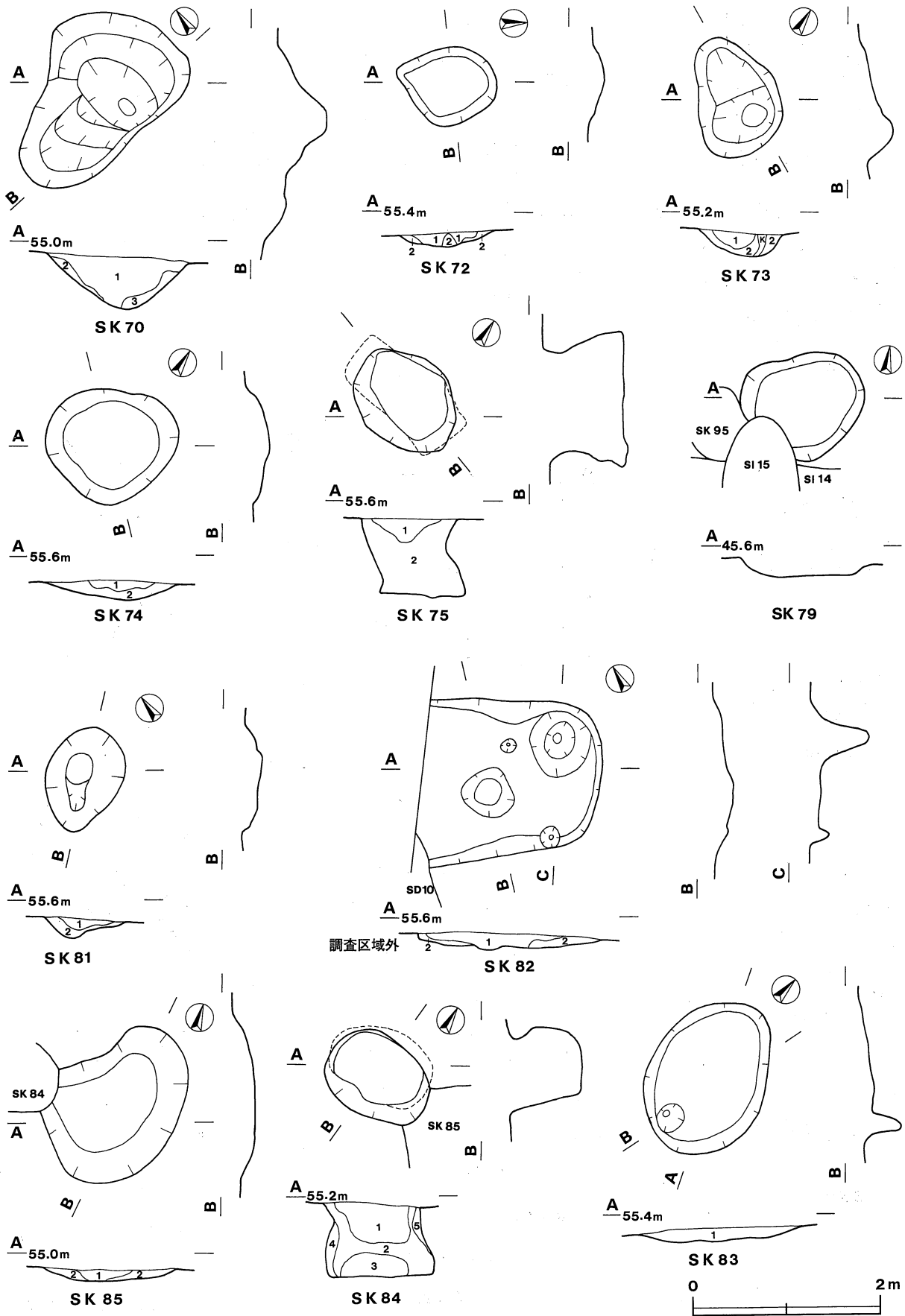
第223図 その他の土坑実測図(2)



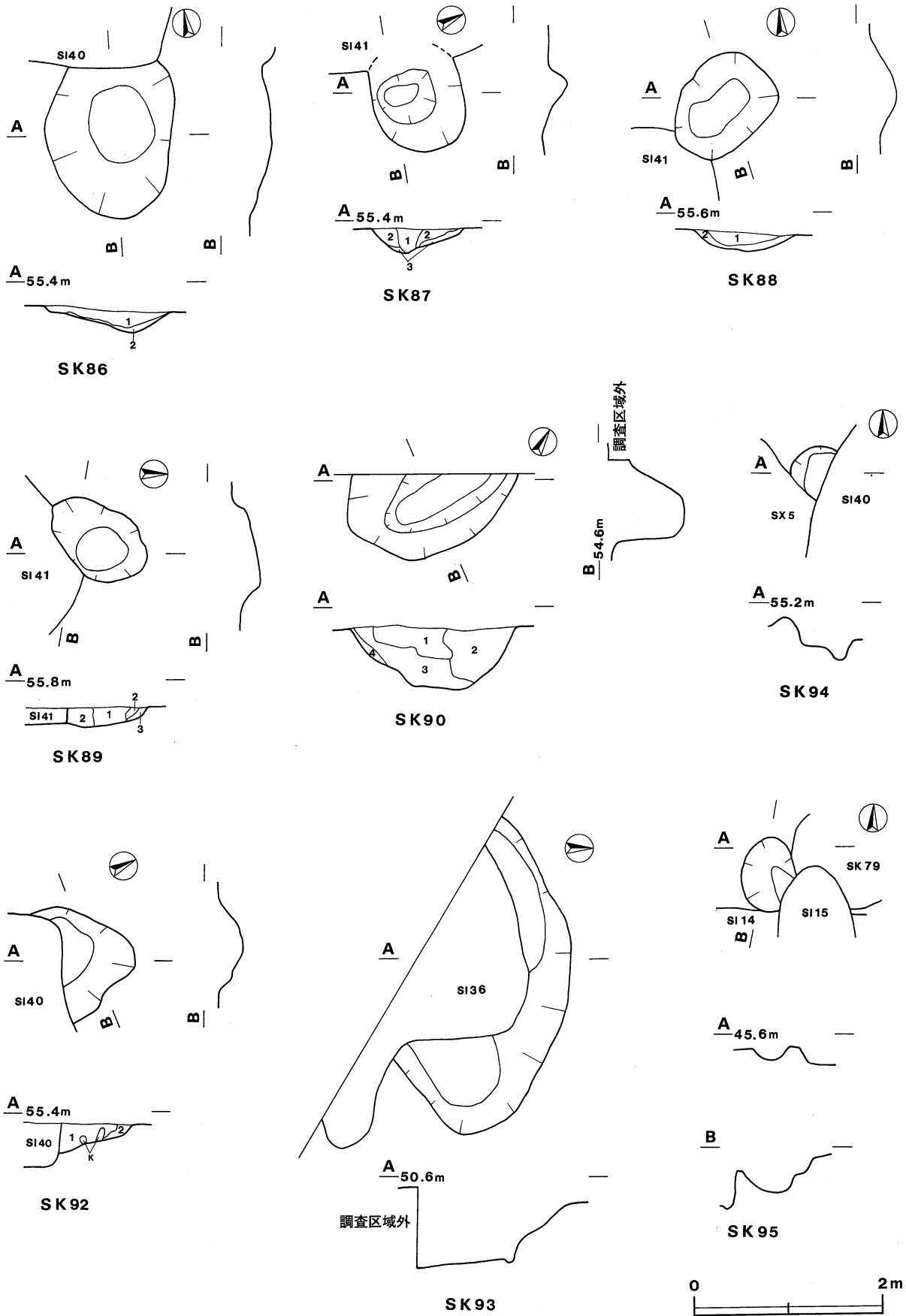
第224図 その他の土坑実測図(3)



第225図 その他の土坑実測図(4)



第226図 その他の土坑実測図(5)



第227図 その他の土坑実測図(6)

その他の土坑土層解説

第1号土坑

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック微量, 黒色粒子極微量
- 3 褐色 ローム中ブロック少量

第2号土坑

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量

第3号土坑

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子・黒色小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量

第4号土坑

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, ローム中ブロック極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子微量

第5号土坑

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 2 褐色 黒色粒子微量

第6号土坑

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック極微量
- 3 褐色 黒色粒子極微量

第7号土坑

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 黒色粒子極微量

第8号土坑

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, ローム中ブロック極微量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 黒色粒子少量

第10号土坑

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第11号土坑

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・黒色粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック微量

第12号土坑

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 黒色小ブロック微量, ローム中ブロック極微量
- 2 褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・粒子少量, 黒色小ブロック微量

第13号土坑

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量, ローム粒子極微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・炭化物少量, 焼土粒子微量, ローム粒子極微量
- 3 褐色 ローム中ブロック中量, 炭化物極微量

第14号土坑

- 1 黒褐色 ローム中ブロック・粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子中量

第15号土坑

- 1 極暗褐色 ローム粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第16号土坑

- 1 黒褐色 黒色小ブロック少量, ローム小ブロック・焼土粒子微量, ローム粒子極微量
- 2 黒褐色 黒色小ブロック多量, ローム小ブロック少量, ローム粒子極微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・粒子中量

第18号土坑

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・黒色粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量

第19号土坑

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 黒色粒子微量, 焼土粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・K P 粒子微量, ローム小ブロック極微量
- 3 褐色 K P 粒子少量, ローム粒子微量

第20号土坑

- 1 黒色 黒色小ブロック中量, ローム小ブロック・粒子少量

第21号土坑

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 黒色小ブロック極微量

第22号土坑

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子・炭化物・K P 粒子少量, 焼土粒子微量

第23号土坑

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 黒色粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 黒色粒子微量, 焼土粒子極微量

第25号土坑

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子極微量
- 2 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量

第26号土坑

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量

第27号土坑

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック微量

第28号土坑

- 1 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子極微量
- 3 褐色 ローム粒子多量, 黒色粒子極微量

第29号土坑

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量
- 3 黒褐色 K P 粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量, ローム小ブロック・焼土粒子極微量

第30号土坑

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量, 炭化粒子極微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量
- 3 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック極微量

第31号土坑

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・黒色粒子極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 黒色粒子極微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子極微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, ローム中ブロック・黒色粒子極微量

第32号土坑

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック極微量
- 2 黒褐色 ローム粒子極微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック極微量
- 4 黒褐色 ローム粒子極微量

第33号土坑

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 焼土粒子・炭化粒子極微量

第34号土坑

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック極微量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック微量, ローム中ブロック極微量

第35号土坑

- 1 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, ローム中ブロック微量, 焼土粒子極微量

第37号土坑

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, ローム中ブロック・焼土粒子極微量

第38号土坑

- 1 黒色 ローム粒子微量, ローム小ブロック極微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック極微量

第39号土坑

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・K P 粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・K P 小ブロック極微量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子・K P 粒子極微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・K P 粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子・K P 大ブロック・K P 小ブロック極微量

第41号土坑

- 1 暗褐色 ローム粒子・K P 粒子少量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量
- 2 暗褐色 K P 粒子中量, ローム粒子少量, K P 小ブロック微量, ローム中ブロック・ローム小

第42号土坑
1 褐色 K P 粒子少量, ローム粒子・炭化粒子極微量

2 褐色 K P 粒子中量, K P 小ブロック少量, K P 中ブロック微量, ローム粒子極微量

第45号土坑

1 黒褐色 K P 小ブロック・粒子少量, ローム粒子極微量

2 暗褐色 K P 小ブロック中量, K P 粒子少量, ローム粒子微量

第46号土坑

1 黒褐色 K P 粒子少量, 焼土粒子微量, ローム中ブロック・焼土中ブロック極微量

2 黒褐色 K P 粒子微量, 焼土粒子・K P 小ブロック極微量

第49号土坑

1 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・K P 小ブロック少量, 炭化粒子微量

2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・K P 小ブロック少量

第50号土坑

1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 炭化物・K P 粒子微量

2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・K P 粒子少量, 炭化物微量

3 褐色 ローム粒子・K P 中ブロック・K P 粒子少量

第51号土坑

1 暗褐色 ローム小ブロック・K P 小ブロック・K P 粒子少量, ローム粒子微量, 炭化物極微量

2 黒褐色 ローム小ブロック・K P 小ブロック・K P 粒子少量, ローム粒子・炭化物微量

第53号土坑

1 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量, 焼土粒子極微量

2 暗褐色 ローム粒子・K P 粒子少量, 炭化粒子極微量

3 褐色 K P 粒子多量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子極微量

4 暗褐色 K P 粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子極微量

第54号土坑

1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック極微量

2 暗褐色 ローム粒子・K P 粒子少量

第55号土坑

1 黒褐色 ローム小ブロック・炭化粒子少量, ローム粒子微量

2 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量

第56号土坑

1 黒色 炭化物中量, ローム粒子微量, ローム小ブロック極微量

第57号土坑

1 極暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

2 暗褐色 ローム粒子少量, 黒色小ブロック微量

第58号土坑

1 暗褐色 ローム粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック極微量

第59号土坑

1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量

2 黒褐色 ローム粒子微量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子

極微量

3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量

第60号土坑

1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

第61号土坑

1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック極微量

2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

第63号土坑

1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック極微量

2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量

第64号土坑

1 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 焼土小ブロック微量

2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子中量, 焼土小ブロック・粒子少量, 炭化物微量

3 暗褐色 ローム小ブロック・粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化物微量

第65号土坑

1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子少量

2 暗赤褐色 ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量

3 極暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子少量

第66号土坑

1 暗褐色 ローム粒子少量・ローム小ブロック極微量

2 褐色 ローム粒子極多量

3 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

4 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・小ブロック極微量

第67号土坑

1 黒褐色 ローム粒子極微量

2 黒褐色 ローム粒子少量

3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量

第68号土坑

1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック極微量

2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

3 黒褐色 ローム粒子微量, ローム小ブロック極微量

第70号土坑

1 黒褐色 ローム粒子微量

2 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック極微量

3 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

第72号土坑

1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子極微量

2 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・小ブロック極微量

第73号土坑

1 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物微量

2 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量

第74号土坑

1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子極微量

2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 焼土粒子極微量

第75号土坑

1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量

2 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック極微量

第79号土坑

1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

第81号土坑

1 黒褐色 ローム粒子微量

2 黒褐色 ローム粒子少量

第82号土坑

1 黒褐色 ローム小ブロック微量, ローム粒子極微量

2 灰褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, ローム大ブロック極微量

第83号土坑

1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック極微量

第84号土坑

1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子極微量

2 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, ローム中ブロック極微量

3 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量, ローム中ブロック微量

4 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, ローム中ブロック微量

5 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・小ブロック少量

第85号土坑

1 黒褐色 ローム粒子微量

2 黒褐色 ローム小ブロック・粒子微量

第86号土坑

1 黒褐色 ローム粒子少量

2 暗褐色 ローム粒子中量

第87号土坑

1 黒褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子極微量

2 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子極微量

3 暗褐色 ローム粒子少量

第88号土坑

1 黒褐色 ローム粒子微量, ローム中ブロック極微量

2 褐色 ローム小ブロック・粒子少量

第89号土坑

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 黒褐色 ローム粒子少量

3 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

第90号土坑

1 極暗褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子・黒色粒子極微量

2 褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子極微量

3 黒褐色 ローム小ブロック・粒子微量, 焼土粒子極微量

4 暗褐色 ローム粒子中量

第92号土坑

1 黒褐色 ローム粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子中量

第93号土坑

1 黒褐色 ローム大ブロック極微量

表8 東平遺跡土坑一覽表

土坑 番号	位 置	長径方向 (長軸方向)	平 面 形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
1	A2h1	N-41°-E	橢円形	1.55 × 1.05	12	緩斜	平坦	自然	石	
2	A2h2	N-88°-E	橢円形	1.28 × 0.65	20	緩斜	皿状	自然		
3	A2i2	N-9°-E	[橢円形]	1.34 × (0.88)	30	緩斜	皿状	人為	縄文土器片, 石	SK3→SK16
4	A2g3	N-56°-E	[橢円形]	1.23 × 0.80	13	緩斜	平坦	自然	縄文土器片, 土師器片, 石	SK17→SK4→SK5
5	A2g3	N-14°-W	橢円形	1.60 × 0.61	25	緩斜	凹凸	自然	石	SK17→SK4→SK5
6	A2h3	N-51°-E	橢円形	0.71 × 0.63	12	緩斜	平坦	自然	縄文土器片	
7	A2i4	N-53°-E	橢円形	1.30 × 0.85	25	緩斜	凹凸	自然	縄文土器片, 土師器片	
8	B2j4	N-0°	円形	0.65 × 0.65	24	外傾	平坦	人為	土師器片, 石	
9	B2j4	N-73°-W	橢円形	2.12 × 1.10	17	緩斜	平坦	自然	縄文土器片	
10	A2i5	[N-13°-E]	[橢円形]	(1.35) × 0.94	15	緩斜	凹凸	人為	弥生土器片	SK10→SI2
11	A2j6	N-50°-E	橢円形	0.67 × 0.60	19	緩斜	皿状	-		
12	B2a5	-	-	0.97 × (0.37)	18	外傾	平坦	人為		
13	B2a7	[N-54°-W]	[不定形]	2.02 × (1.22)	40	緩斜	皿状	-	弥生土器片	SK13→SK14
14	B2a7	N-63°-W	[橢円形]	1.22 × 0.74	13	緩斜	平坦	-		SK13→SK14
15	B2c6	N-61°-E	円形	0.98 × 0.93	25	緩斜	凹凸	-	縄文土器片	
16	A2i2	N-15°-W	橢円形	1.37 × 0.90	40	緩斜	皿状	人為	縄文土器片	SK3→SK16
17	A2i3	[N-55°-E]	[橢円形]	(1.03) × 0.70	13	緩斜	平坦	-		SK17→SK4→SK5
18	B2d9	N-87°-E	[不定形]	2.72 × 1.47	13	緩斜	平坦	自然	弥生土器片, 土師器片	SK18→SK24, SK18→SK37
19	B2d0	N-67°-W	橢円形	2.83 × 1.57	28	緩斜	平坦	自然	弥生土器片, 陶器片	SI10→SK19
20	B3h4	[N-30°-W]	円形	0.53 × 0.52	35	外傾	平坦	自然		
21	B3i4	[N-68°-E]	[橢円形]	4.10 × [1.26]	13	緩斜	平坦	人為	弥生土器片, 土師器片	SK36と重複
22	B3j6	N-0°	不定形	1.88 × 1.82	15	緩斜	平坦	人為	土師器片	SI6→SK22
23	A2j5	-	-	0.74 × (0.60)	11	緩斜	平坦	自然		SK23→SI1
24	B2d9	-	-	-	12	緩斜	平坦	自然	土師器(甌), 土師器片	SK18→SK24
25	C3j6	N-18°-E	橢円形	0.96 × 0.84	28	緩斜	平坦	人為	弥生土器片, 土師器片	
26	B3j7	[N-30°-W]	[橢円形]	(1.18) × 1.18	22	外傾	平坦	人為	弥生土器片, 土師器片	SD3と重複
27	B3j7	N-4°-E	[橢円形]	0.88 × (0.68)	13	緩斜	皿状	自然		SK27→SD3
28	C3a7	[N-54°-W]	[橢円形]	(0.95) × 0.64	20	緩斜	平坦	人為		SD3→SK28
29	C3b7	N-64°-W	橢円形	1.03 × 0.93	27	外傾	平坦	自然	弥生土器片, 土師器片, 石	
30	C3b8	N-75°-E	橢円形	1.30 × 1.12	43	緩斜	平坦	自然	土師器片	
31	C3a9	N-83°-W	不定形	1.25 × 0.49	30	緩斜	平坦	人為	弥生土器片, 土師器片, 須惠器片, 陶器片	
32	C3a9	N-0°	円形	0.40 × 0.39	76	外傾	皿状	自然		
33	C3a9	N-39°-W	橢円形	1.08 × 0.98	18	外傾	平坦	自然	土師器片, 須惠器片	
34	C3a0	N-30°-E	橢円形	0.87 × 0.71	14	緩斜	平坦	人為		
35	B2b7	[N-42°-W]	[橢円形]	(0.94) × 0.76	14	緩斜	平坦	人為	弥生土器片, 土師器片, 須惠器片	SK35→SI2
36	B3i4	N-64°-E	[橢円形]	1.44 × (1.22)	43	緩斜	平坦	-		SI21と重複
37	B2d9	N-57°-W	不定形	1.90 × 0.63	9	緩斜	平坦	-	弥生土器片, 土師器片	SK18→SK37
38	B2e9	N-51°-E	円形	0.59 × 0.56	13	緩斜	平坦	自然		
39	C4c0	N-49°-W	橢円形	1.50 × 1.34	57	外傾	平坦	人為	弥生土器片, 土師器片, 須惠器片, 陶器片	SD4→SK39
40	C4c1	N-79°-E	橢円形	0.84 × 0.73	62	外傾	平坦	-		SD4と重複
41	C4d2	N-80°-E	方形	0.95 × 0.86	41	外傾	平坦	人為	土師器片, 陶器片	
42	C4d3	N-44°-E	不定形	0.75 × 0.55	20	緩斜	平坦	自然		
43	C3c8	-	不定形	-	-	-	-	人為	土師器片	SD4→SK43
44	C4d2	N-85°-E	不定形	0.68 × 0.50	22	外傾	凹凸	-		SI12と重複
45	C3f4	-	-	(2.07) × 1.08	31	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須惠器片	
46	C3d2	-	-	-	-	-	-	-	土師器片, 須惠器片	SK46→SI16→SI17→SD2
47	C3c5	-	-	1.20 × (0.60)	-	-	-	-	石	SI14→SK47
48	C3f1	N-45°-E	橢円形	(1.13) × 0.7	10	緩斜	平坦	-		SI18→SK48

土坑 番号	位 置	長径方向 (長軸方向)	平 面 形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(cm)					
49	B2g0	N-27°-W	楕円形	0.93 × 0.83	53	緩斜	皿状	人為	石	
50	B2h9	N-88°-W	不定形	1.15 × 0.78	33	緩斜	皿状	自然	弥生土器片, 土師器片, 陶器片	SK51→SK50→SD 5
51	B2h9	[N-48°-E]	[不定形]	0.78 × (0.72)	40	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	SK51→SK50→SD 5
52	C2a7	N-58°-E	楕円形	0.92 × 0.76	10	緩斜	平坦	自然	土師器(甕), 土師器片	SK52→SI28
53	C2a8	N-34°-W	[楕円形]	0.89 × (0.46)	32	緩斜	皿状	自然		SI28→SK53
54	C2e9	N-33°-E	円形	0.85 × 0.80	40	外傾	凹凸	自然	土師器片	
55	B2b5	N-39°-W	不定形	[1.30] × 1.17	13	緩斜	平坦	-		SD 1 →SK55
56	B2e1	N-10°-E	不定形	1.35 × 0.92	12	緩斜	平坦	-		SD 1 →SK56
57	B2e5	N-55°-W	楕円形	1.63 × 1.38	13	緩斜	平坦	自然		
58	B2b4	N-7°-W	楕円形	2.26 × 1.42	15	緩斜	平坦	自然	縄文土器片, 弥生土器片	
59	B2b3	N-38°-W	楕円形	1.20 × 0.87	15	緩斜	平坦	自然		
60	B2j2	N-0°	円形	0.67 × 0.65	18	緩斜	皿状	自然	縄文土器片, 土師器片	
61	B2c3	N-16°-E	不定形	1.13 × 1.02	22	緩斜	凹凸	自然	縄文土器片, 石	
62	B2b3	N-10°-W	楕円形	2.10 × 1.43	167	外傾	平坦	人為	縄文土器片	
63	B2c2	N-0°	円形	1.45 × 1.42	11	外傾	平坦	自然		
64	B2b2	N-22°-W	楕円形	1.24 × 1.10	30	緩斜	皿状	自然	縄文土器片	SK64→SK65
65	B2b2	N-59°-W	楕円形	0.82 × 0.70	16	緩斜	皿状	自然		SK64→SK65
66	B2a1	N-24°-W	楕円形	1.31 × 0.96	28	外傾	平坦	自然		
67	B2c1	N-47°-E	楕円形	1.15 × 0.87	25	緩斜	平坦	自然		SK68と重複
68	B1c0	N-48°-E	楕円形	1.28 × 0.93	24	緩斜	皿状	自然	縄文土器片	SK67と重複
69	B1b0	[N-53°-E]	[楕円形]	[3.38] × 1.09	27	緩斜	凹凸	人為	縄文土器片	SK80と重複
70	B1a0	N-66°-E	不定形	2.07 × 1.30	57	緩斜	凹凸	自然	縄文土器片, 石	
71	B1b9	N-0°	楕円形	1.55 × 0.87	30	緩斜	皿状	人為	縄文土器片	
72	B1b9	N-50°-E	楕円形	1.02 × 0.85	15	緩斜	皿状	人為	縄文土器片	
73	B1a0	N-59°-W	楕円形	1.26 × 0.92	30	緩斜	皿状	自然	縄文土器片, 土師器片, 石	
74	B1b8	N-44°-E	楕円形	1.41 × 1.22	25	緩斜	皿状	自然	縄文土器片	
75	B1a8	N-73°-W	楕円形	1.25 × 1.00	85	内傾	平坦	人為	縄文土器片, 弥生土器片	
76	B1a8	N-80°-W	円形	1.00 × 0.93	30	緩斜	皿状	人為		SK91→SK76, SI41と重複
77	B1e0	N-35°-E	楕円形	1.47 × 1.25	70	垂直	平坦	人為	土師器(高台付甕, 小皿, 高台付小皿), 土師器片	SI39→SI38→SK77
78	B1b9	N-88°-E	不定形	1.95 × 1.00	27	緩斜	凹凸	人為	縄文土器片	SX 4 と重複
79	C3c5	[N-70°-E]	[楕円形]	(3.00) × 1.05	20	外傾	平坦	-	土師器片	SK79→SI15, SK95と重複
80	B1b0	N-0°	楕円形	2.58 × 1.00	24	緩斜	凹凸	自然	縄文土器片	SK69と重複
81	B1e6	N-52°-E	楕円形	1.15 × 0.83	20	緩斜	凹凸	自然	縄文土器片	
82	B1c5	-	-	(1.95) × 1.66	20	緩斜	凹凸	自然	縄文土器片, 土師器片	
83	B1d6	N-21°-W	楕円形	1.73 × 1.26	15	緩斜	凹凸	自然	縄文土器片	
84	B1f6	[N-83°-W]	[楕円形]	(1.15) × 0.83	80	内傾	平坦	人為	石	SK85と重複
85	B1f6	[N-10°-E]	[楕円形]	1.80 × (1.25)	20	緩斜	皿状	自然	縄文土器片	SK84と重複
86	B1j0	[N-10°-E]	[楕円形]	(1.60) × 1.30	18	緩斜	皿状	自然	縄文土器片	SI40と重複
87	B1j9	-	-	0.96 × (0.89)	26	緩斜	皿状	-		SI41と重複
88	B1j9	N-47°-E	楕円形	1.18 × 0.89	20	緩斜	皿状	-	石	SI41と重複
89	B1j8	N-45°-E	不定形	1.10 × 0.97	25	緩斜	凹凸	-	石	SI41と重複
90	A1i8	-	-	1.75 × (0.82)	50	緩斜	皿状	人為	縄文土器片, 土師器片, 須恵器片, 石	
91	B1a8	N-76°-W	楕円形	(1.08) × 0.87	40	外傾	皿状	自然		SK91→SK76, SI41と重複
92	A1h0	-	-	-	-	緩斜	皿状	自然		SK92→SI40
93	C2a3	-	-	-	-	-	-	-		SK93→SI36
94	A1i9	[N-16°-E]	[楕円形]	0.82 × (0.36)	65	緩斜	平坦	-		SK94→SX 5 →SI40
95	C3c5	[N-8°-E]	[楕円形]	0.77 × (0.58)	40	緩斜	皿状	-		SK95→SI15, SK74と重複

3 溝

当遺跡からは、溝が10条検出されている。ここでは、溝の形状、規模、覆土の状態及び出土遺物等について記載する。

第1号溝 (付図2 第228図)

位置 調査区北部, B2a7~B1e0区。

重複関係 B2a6区で第2号住居跡を掘り込んでおり, 本跡の方が新しい。B2c3区で第55号土坑に掘り込まれており, 本跡の方が古い。

規模と形状 B2a7区からB1e0区まで直線状に延びている。上幅0.70~1.30m, 下幅0.20~0.48m, 深さは20~35cmで, 確認長約32mである。底面は平坦で, 壁面は緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は弧状である。

主軸方向 N-40°-E

覆土 2層からなる自然堆積である。

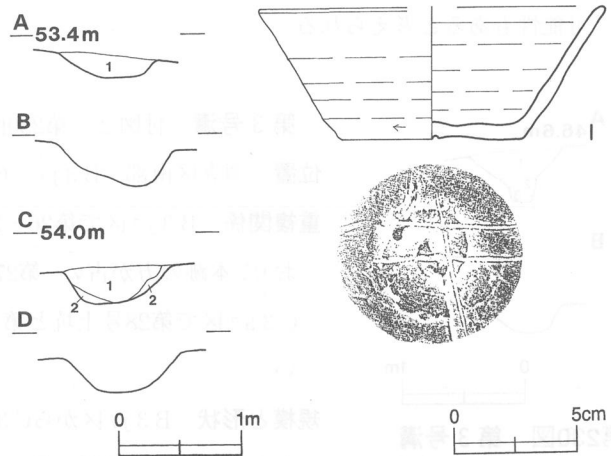
土層解説

1 極暗褐色 ローム粒子微量

2 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子微量

遺物 土師器片78点, 須恵器片10点が出土している。第228図1の須恵器坏は, 第54号土坑との重複付近の覆土上層から出土している。

所見 本跡は, 9世紀後半の時期の第2号住居跡を掘り込んでいるので, 時期は9世紀後半以降と考えられる。性格は不明である。



第228図 第1号溝断面・出土遺物実測図

第1号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第228図 1	坏 須恵器	A 14.0	底部から体部にかけての破片。平底。体部は直線的に立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部から体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り。	砂粒, 長石, 石英 褐灰色 普通	P132 65% PL76 底部外面ヘラ記号「キ」
		B 5.3				
		C 7.3				

第2号溝 (付図2 第229図)

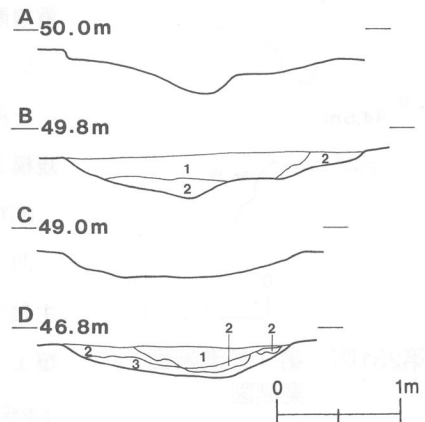
位置 調査区中央部, B3e2~C3e2区。

重複関係 C3c2区で第16号住居跡, C3c3区で第46号土坑と第17号住居跡を掘り込んでおり, 本跡の方が新しい。

規模と形状 B3e2区から南側に向かい, 斜面を下りながらC3e2区に直線状に延びている。上幅1.30~2.40m, 下幅1.00~2.00m, 深さは30cm~53cmで, 確認長約60mである。底面は平坦で, 壁面は緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は弧状である。

主軸方向 N-14°-W

覆土 3層からなる自然堆積である。



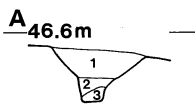
第229図 第2号溝断面実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子極微量
- 2 褐色 K P 粒子少量, ローム粒子微量
- 3 褐色 K P 粒子中量

遺物 流れ込みと思われる土師器片681点, 須恵器片28点, 陶器片10点, 鉄製品10点, 砥石1点が出土している。

所見 本跡は, 10世紀後半の時期の第17号住居跡を掘り込んでいるので, 時期は10世紀後半以降と考えられる。本跡は傾斜地に位置しており, B3e2区の標高約50mとC3e2区の標高約44mの標高差を考えると, 排水溝の可能性もあると考えられる。



第3号溝 (付図2 第230図)

位置 調査区南部, B3j7~C3a7区。

重複関係 B3j7区で第26・27号土坑と重複している。第26号土坑に掘り込まれており, 本跡の方が古い。第27号土坑は, 本跡が掘り込んでおり, 本跡の方が新しい。C3a7区で第28号土坑と第7号住居跡の覆土を掘り込んでおり, 本跡の方が新しい。

規模と形状 B3j7区からC3a7区まで直線状に延びている。北端部は調査区域外に延びており, 南端部も第7号住居跡と重複しているため, 正確な規模は不明である。調査した範囲で, 上幅0.43~0.80m, 下幅0.13~0.33m, 深さは21~22cmで, 確認

長5.4mである。底面は平坦で, 壁面は緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は弧状である。

主軸方向 N-3°-E

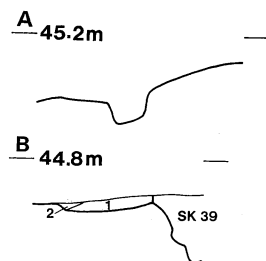
覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・小ブロック
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 焼土粒子極微量

遺物 流れ込みと思われる土師器片73点と須恵器片8点が出土している。

所見 本跡は, 10世紀前半の時期の第7号住居跡を掘り込んでいるので, 時期は10世紀前半以降と考えられる。性格は不明である。



第4号溝 (付図2 第231図)

位置 調査区南部, C3c7区~C3c0区。

重複関係 C3c7区で第43号土坑の覆土を掘り込んでおり, 本跡の方が新しい。C3c0区で第39・40号土坑と重複している。第39号土坑が, 本跡の覆土を掘り込んでおり, 本跡の方が古い。第40号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 C3c7区からC3c0区まで直線状に延びている。上幅0.43~0.70m, 下幅0.20~0.50m, 深さは20~30cmで, 確認長約36mである。底面は凹凸で, 壁面は緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は弧状である。

主軸方向 N-95°-E

覆土 2層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・炭化物少量, ローム粒子・焼土粒子極微量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子・炭化物微量

第231図 第4号溝断面実測図

遺物 流れ込みと思われる土師器片162点, 須恵器片15点, 陶器片1点, 鉄滓2点が出土している。

所見 本跡の時期と性格は不明である。

第5号溝 (付図2 第232図)

位置 調査区北部, B2i3区~B3h1区。

重複関係 B2i6区で第27号住居跡を掘り込んでおり, 本跡の方が新しい。B2h9区で第50・51号土坑を掘り込んでおり, 本跡の方が新しい。B2h0区で第19号住居跡を掘り込んでおり, 本跡の方が新しい。

規模と形状 B2i3区から東側へ向かい, 緩やかに斜面を下りB3h1区まで延びている。B2i3区で調査区域外に延びているため, 正確な規模は不明であるが, 上幅0.60~1.60m, 下幅0.24~1.30m, 深さは20~35cmで, 確認長約42mである。底面は平坦で, 壁面は緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は弧状, 逆台形と場所によって異なる。

主軸方向 N-82°-E

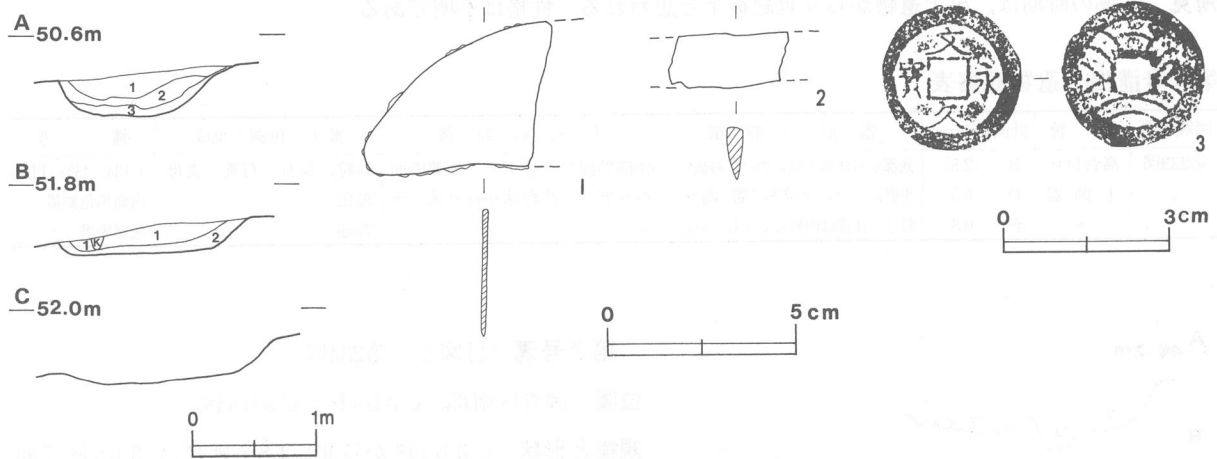
覆土 3層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・KP粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 2 暗褐色 KP粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 KP粒子多量, ローム粒子中量, 炭化粒子・KP小ブロック微量

遺物 土師器片333点, 須恵器片19点, 土師質土器片2点, 陶器片5点, 磁器1点, 鉄製品1点, 古銭1点が出土している。第232図1の鎌と2の刀子は, 第27号住居跡との重複付近の覆土上層から出土している。3の古銭「文久永寶」は, 第19号住居跡との重複付近の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から近世と考えられる。性格は不明である。

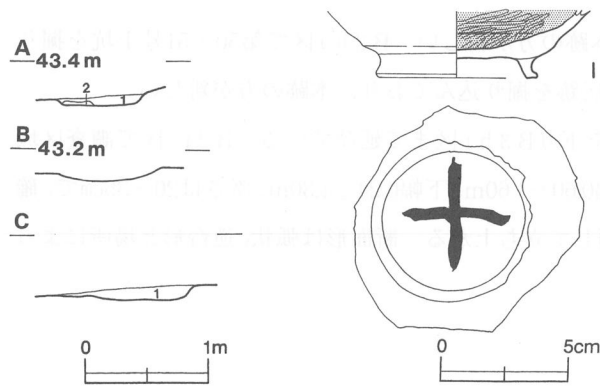


第232図 第5号溝断面・出土遺物実測図

第5号溝出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第232図 1	鎌	(4.5)	4.4	0.1	(7.5)	覆土	M13 PL79
2	刀子	(3.1)	1.4	0.5	(2.7)	覆土	M15 PL79

図版番号	銭 銘	計 測 値				初 鑄 年 代 (西 暦)	備 考
		径 (cm)	孔径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第232図 3	文久永寶	2.6	0.7	0.1	3.3	文久3年(1863年)	M18 覆土 PL79



第233図 第6号溝断面・出土遺物実測図

覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

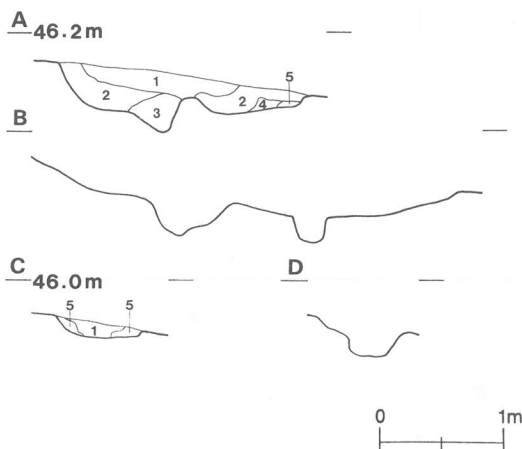
2 暗褐色 黒色粒子極微量

遺物 土師器片55点, 須恵器片5点, 土師質土器片2点, 砥石1点が出土している。第233図1の土師器高台付坏は, 東部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から9世紀後半と思われる。性格は不明である。

第6号溝出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第233図 1	高台付坏 土師器	B (2.5) D 6.5 E 0.8	底部から体部下位にかけての破片。平底に、「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。高台貼り付け後、ナデ。	砂粒, 長石, 石英, 雲母 橙色 普通	P134 45% PL76 内面黒色処置 底部墨書「十」



第234図 第7号溝断面実測図

第6号溝 (付図2 第233図)

位置 調査区南部, C3e5区~C3e8区。

重複関係 C3e6区で第13号住居跡を掘り込んでおり, 本跡の方が新しい。

規模と形状 C3e5区から直線的に東側へ向かい, C3e8区まで延びている。C3e8区で調査区域外に延びているため, 正確な規模は不明であるが, 上幅0.56~1.13m, 下幅0.26~0.94m, 深さは10~17cmで, 確認長約10.2mである。底面は平坦で, 壁面は緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は逆台形, 弧状と場所によって異なる。

主軸方向 N-77°-W

第7号溝 (付図2 第234図)

位置 調査区南部, C3b4区~C3b6区。

規模と形状 C3b4区から北へ1.8m延び, C3b5区で屈曲して東へ向かい, 緩やかな斜面を約5m下りC3b6区まで延びる。規模は, 上幅0.60~1.60m, 下幅0.24~1.30m, 深さは20~32cmで, 確認長約6.8mである。底面は平坦で, 壁面は緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は弧状, 逆台形と場所によって異なる。

主軸方向 N-19°-E (南北方向), N-93°-E (東西方向)

覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- | | |
|--|----------------------------|
| 1 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子極微量 | 3 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子極微量 |
| 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・KP粒子少量, 焼土粒子微量, 炭化物極微量 | 4 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量 |
| | 5 暗褐色 ローム小ブロック・粒子中量 |

遺物 土師器片58点, 須恵器片3点が出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から平安時代と考えられる。性格は不明である。

第8号溝 (付図2 第235図)

位置 調査区中央部, C2b6区~C2b7区。

規模と形状 C2b6区から東側へ向かい, 緩やかに傾斜を下りC2b7区まで延びている。西端部がC2b6区で調査区域外に延びているため, 正確な規模は不明であるが, 上幅0.60~0.80m, 下幅0.24~0.54m, 深さは11~25cmで, 確認長約3.4mである。底面は南側が低く傾斜し, 壁面は緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は, 弧状である。

主軸方向 N-93°-W

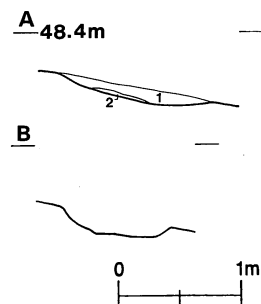
覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説

- | | |
|--------------------------------|--------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量, 炭化粒子極微量 | 2 褐色 ローム粒子中量 |
|--------------------------------|--------------|

遺物 覆土中から, 流れ込みと思われる土師器片17点, 須恵器片1点が出土している。

所見 本跡の時期と性格は不明である。



第235図 第8号溝断面実測図

第9号溝 (付図2 第236図)

位置 調査区北部, B1e5区~B1g7区。

重複関係 B1e5区で第10号溝に掘り込まれており, 本跡の方が古い。

規模と形状 B1e5区から南側へ向かい, B1g7区まで延びている。北部のB1e5区で第10号溝と重複しており, 南部は調査区域外に延びているため, 正確な規模は不明であるが, 上幅0.48~0.88m, 下幅0.16~0.38m, 深さは30~48cmで, 確認長約6.6mである。底面は平坦で, 壁面は緩やかに外傾して立ち上がる。断面形は逆台形, V字形と場所によって異なる。

主軸方向 N-35°-W

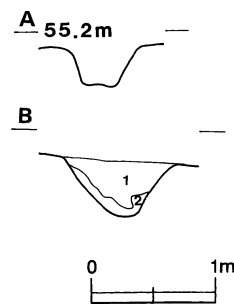
覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 2 極暗褐色 ローム粒子少量 |
|---------------|----------------|

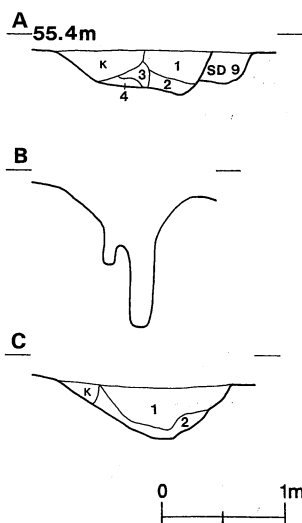
遺物 流れ込みと思われる土師器片20点, 須恵器片6点が出土している。

所見 本跡の時期と性格は不明である。



第236図 第9号溝断面実測図

第10号溝 (付図2 第237図)



第237図 第10号溝
断面実測図

位置 調査区北部, B1c5区~B1f4区。

重複関係 B1c5区で本跡が第9号溝を掘り込んでおり, 本跡の方が新しい。

規模と形状 B1c5区から南西へ向かい, B1f4区まで延びている。北部のB1d4区と西部のB1f4区が調査区域外に延びているため, 正確な規模は不明であるが, 上幅0.94~1.60m, 下幅0.10~0.30m, 深さは42~80cmで, 確認長約13mである。底面は凹凸で, 18か所のピットが不規則に点在している。壁面は外傾して立ち上がる。断面形は逆台形, V字形と場所によって異なる。

主軸方向 N-16°-E

覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック・粒子微量

遺物 流れ込みと思われる土師器片15点, 須恵器片2点が出土している。

所見 本跡の時期と性格は不明である。

表9 東平遺跡溝一覧表

溝番号	位置	方向	断面	規模				壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				確認長(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
1	B2a7~B1e0	N-40°-E	弧状	(32.0)	0.70~1.30	0.20~0.48	20~35	緩斜	平坦	自然	須恵器(坏), 土師器片	SI2→SD1, SD1→SK55
2	B3e2~C3e2	N-14°-W	弧状	(60.0)	1.30~2.40	1.00~2.00	30~53	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須恵器片, 陶器片, 鉄製品, 砥石	SI16, SI17, SK46→SD2
3	B3j7~C3a7	N-3°-E	弧状	(5.4)	0.43~0.80	0.13~0.33	21~22	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	SI7, SK27, SK28→SD3, SD3→SK26, SK26・SK27と重複
4	C3c7~C3c0	N-95°-E	弧状	(36.0)	0.43~0.70	0.20~0.50	20~30	緩斜	凹凸	人為	土師器片, 須恵器片, 陶器片, 鉄滓	SK43→SD4, SD4→SK39, SK39・SK40と重複
5	B2i3~B3h1	N-82°-E	弧状 逆台形	(42.0)	0.60~1.60	0.24~1.30	20~35	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須恵器片, 土師質土器片, 陶器片, 磁器, 鉄製品, 古銭(文入水貫)	SI19, SI27, SK50, SK51→SD5
6	C3e5~C3e8	N-77°-W	逆台形 弧状	(10.2)	0.56~1.13	0.26~0.94	10~17	緩斜	平坦	自然	土師器(高台付坏), 須恵器片, 土師質土器片, 砥石	SI13→SD6
7	C3b4~C3b6	N-19°-E N-93°-E	弧状 逆台形	(7.5)	0.60~1.60	0.24~1.30	20~32	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
8	C2b6~C2b7	N-93°-W	弧状	(3.4)	0.60~0.80	0.24~0.54	11~25	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	
9	B1e5~B1g7	N-35°-W	逆台形 V字形	(6.6)	0.48~0.88	0.16~0.38	30~48	緩斜	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	SD9→SD10
10	B1c5~B1f4	N-16°-E	逆台形 V字形	(13.0)	0.94~1.60	0.10~0.30	42~80	外傾	凹凸	自然	土師器片, 須恵器片	SD9→SD10

4 不明遺構

当遺跡からは、不明遺構が6基検出されている。以下、遺構の形状や特徴について記載する。

第1号不明遺構 (第238図)

位置 調査区南部, C3c7区。

規模と平面形 南北軸約1.5m, 東西軸約4.5mの不定形である。

壁 壁高は10cmで, 外傾して立ち上がっている。

底面 ほぼ平坦である。

ピット 3か所 (P₁~P₃)。P₁は, 南壁際の東寄りから検出されている。長径43cm, 短径22cmの楕円形で, 深さ10cmである。P₂は南壁中央部際の位置から検出されている。長径50cm, 短径15cmの不整楕円形で, 深さ7cmである。P₃は南西コーナー部付近の南壁際の位置から検出されている。径約63cmの円形で, 深さ43cmである。いずれも性格は不明である。

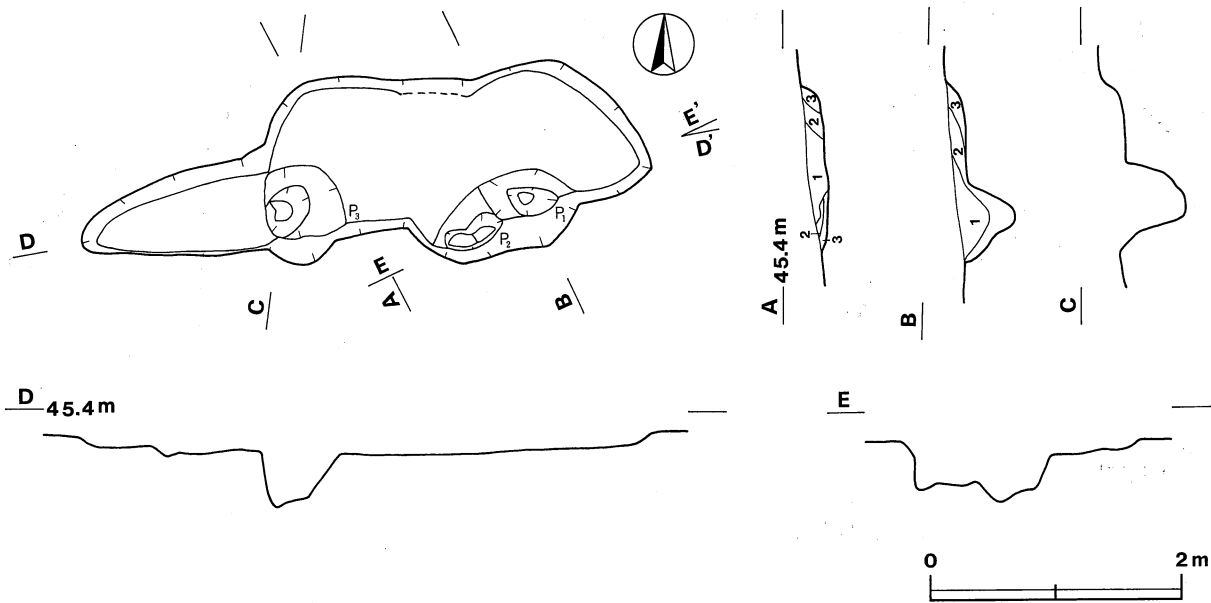
覆土 3層からなる自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------------|---------------|
| 1 極暗褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子極微量 | 3 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | |

遺物 流れ込みと思われる土師器片52点, 須恵器片7点, 鉄滓1点が出土している。

所見 本跡の時期は不明である。



第238図 第1号不明遺構実測図

第3号不明遺構 (第239図)

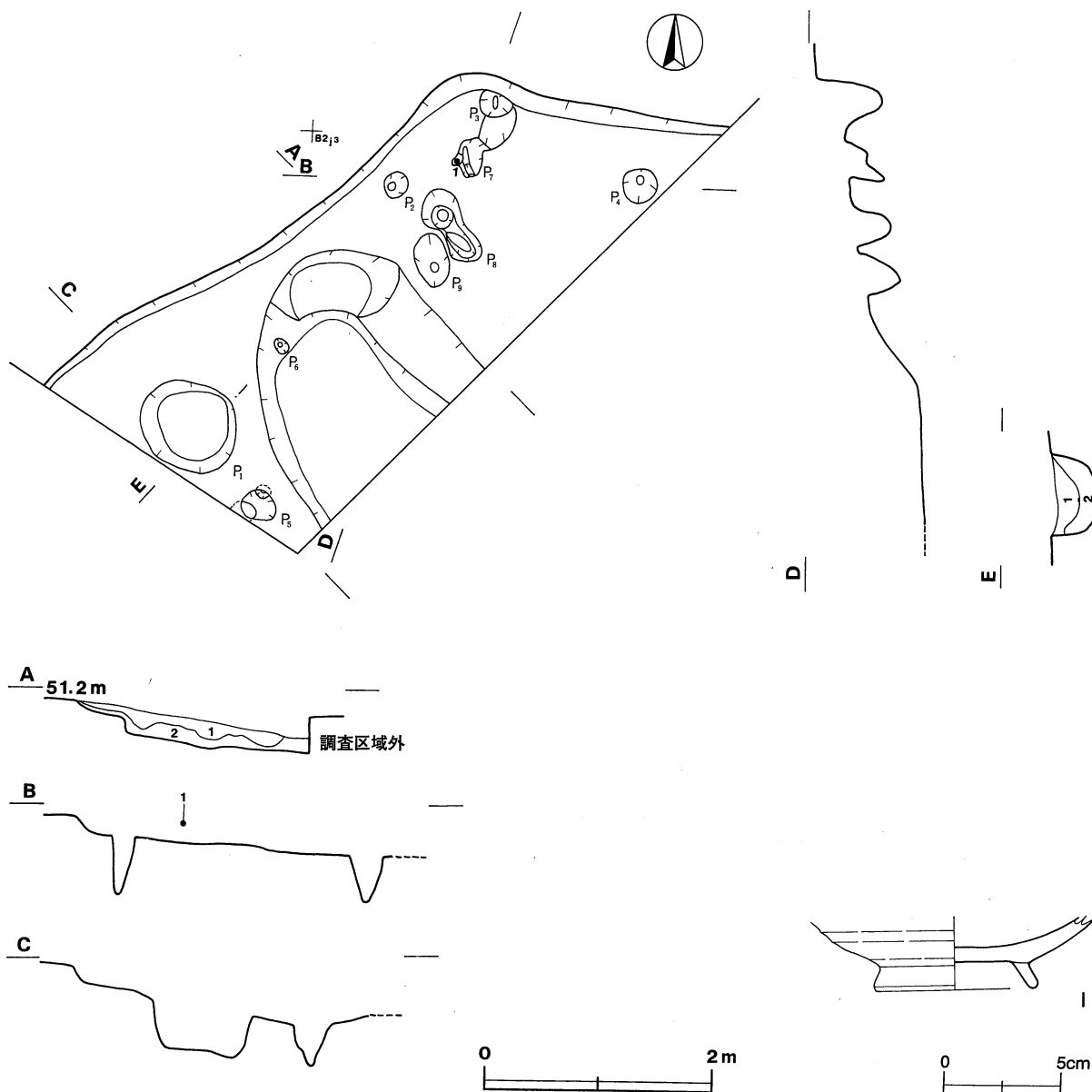
位置 調査区西部, B2j3区。

規模と平面形 東部と南部が調査区域外に延びているため, 規模や平面形は不明である。

壁 壁高は28cmで, ほぼ垂直に立ち上がっている。

底面 南方向に傾斜している。中央部付近から南東方向へ溝状の掘り込みが、幅約2mで緩やかに傾斜して延びている。

ピット 9か所 (P₁~P₉)。P₁は、南西部の調査区域境界から検出されている。長径90cm, 短径78cmの楕円形で、深さ50cmである。P₂は北西コーナー部の西壁寄りから検出されている。長径25cm, 短径20cmの楕円形で、深さ32cmである。P₃は北西コーナー部の北壁際から検出されている。径[30]cmの円形で、深さ32cmである。P₄は北東部の調査区域境際から検出されている。径約32cmの円形で、深さ41cmである。P₅はP₁の南東側から検出されている。長径30cm, 短径20cmの楕円形で、深さ36cmである。P₆は溝状掘り込みの北西部から検出されている。長径15cm, 短径10cmの楕円形である。P₇はP₃の南側から検出されている。長径45cm, 短径20cmの不整楕円形で、深さ35cmである。P₈はP₇の南側から検出されている。長径75cm, 短径35cmの不整楕円形で、深さ35cmである。P₉はP₈の南側から検出されている。長径47cm, 短径30cmの楕円形で、深さ30cmである。9か所のピットは、いずれも性格は不明である。



第239図 第3号不明遺構・出土遺物実測図

覆土 2層からなる人為堆積である。

土層解説

- | | | |
|-------|-----------------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・KP小ブロック・KP粒子中量，焼土粒子・炭化粒子極微量 | ク・中ブロック・小ブロック微量，焼土粒子・炭化粒子極微量 |
| 2 暗褐色 | KP粒子多量，ローム粒子少量，KP大ブロッ | |

遺物 土師器片34点，須恵器片1点が出土している。第239図1の土師器高台付坏は，北部の覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は，平安時代と考えられる。性格は不明である。

第3号不明遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第239図 1	高台付坏 土師器	B (3.1)	底部から体部下位にかけての破片。	体部外面ロクロナデ。体部内面	砂粒，長石，石英，雲母 にぶい橙色 普通	P135 20% PL76
		D [7.2]	平底に，「ハ」の字状に開く高台が	ヘラ磨き。高台貼り付け後，ナ		
		E 1.2	付く。体部は内彎して立ち上がる。	デ。		

第4号不明遺構 (第240図)

位置 調査区北部，B1a9区。

重複関係 第78号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と平面形 南北軸約5m，東西軸約3.5mの不定形である。

壁 壁高は25cmで，外傾して立ち上がっている。

底面 凹凸である。

ピット 6か所 (P1～P6)。P1は，北部東壁際から検出されている。長径73cm，短径45cmの楕円形である。

P2は南壁南東コーナー部から検出されている。長径80cm，短径53cmの楕円形で，深さ43cmである。P3は西壁南西コーナー部寄りから検出されている。長径58cm，短径45cmの楕円形で，深さ20cmである。P4は北壁中央部から検出されている。長径55cm，短径45cmの楕円形で，深さ35cmである。P5は西壁北西コーナー部寄りから検出されている。長径32cm，短径28cmの楕円形で，深さ16cmである。P6はP5の南側に隣接して検出されている。径20cmの円形である。6か所のピットは，いずれも性格は不明である。

覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

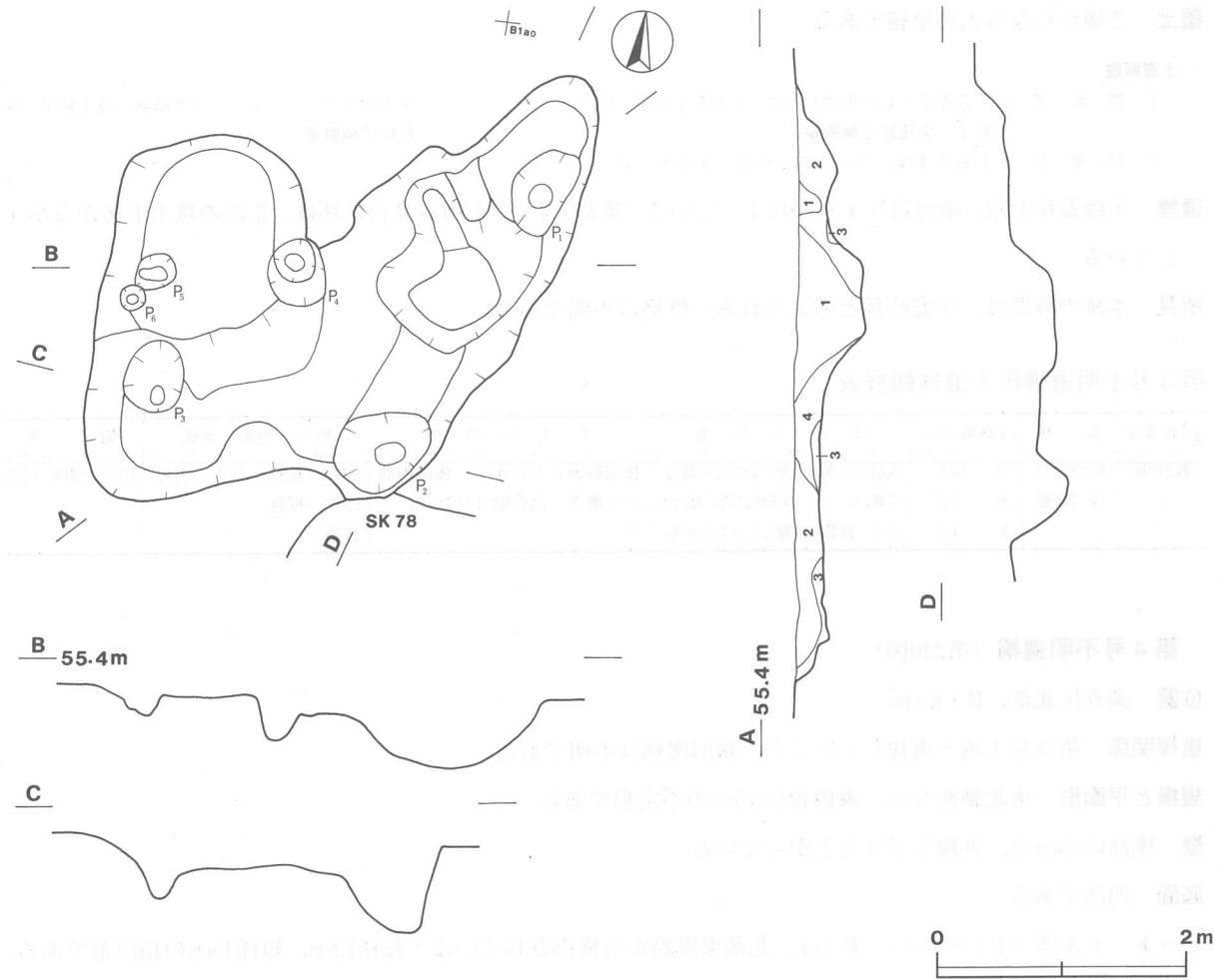
- | | | | |
|--------|-------------------|-------|-----------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子中量，ローム小ブロック少量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 黒色 | ローム粒子微量 | 4 黒色 | ローム粒子少量，炭化粒子極微量 |

遺物 縄文土器片68点が出土している。第241図1の縄文土器深鉢は，P5の覆土中層から出土している。2の縄文土器深鉢は，中央部の覆土上層から出土している。3の縄文土器深鉢は，P3の東側の覆土上層から出土している。

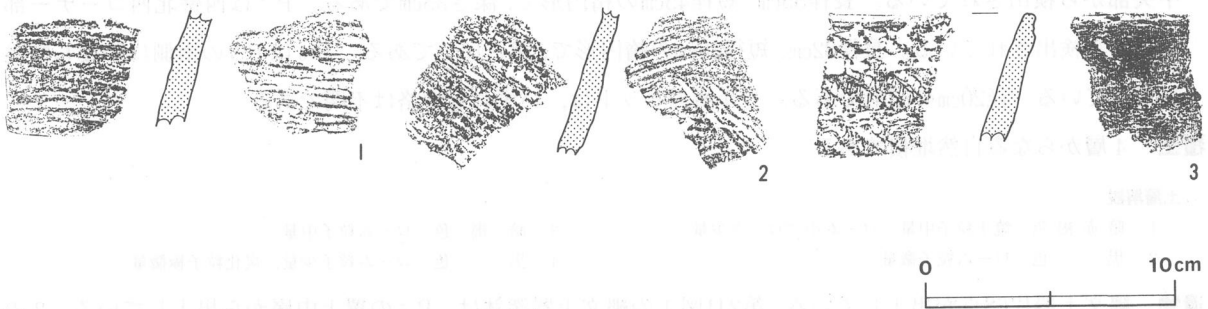
所見 本跡の時期は，縄文時代と考えられる。性格は不明である。

第4号不明遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	器形及び文様の特徴	備考
第241図 1・2	深鉢 縄文土器	胴部片。内・外面とも貝殻条痕文が施されている。	TP33, 34 PL77 胎土に繊維混入
3	深鉢 縄文土器	口縁部片。外面には地文として貝殻条痕文が施され，口唇部直下に半截竹管状工具による刺突文が巡っている。	TP35 PL77 胎土に繊維混入



第240図 第4号不明遺構実測図



第241図 第4号不明遺構出土遺物実測図

第5号不明遺構 (第242図)

位置 調査区北部, A1i9区。

重複関係 第94号土坑の覆土を掘り込んでおり, 本跡の方が新しい。第40号住居跡に東部を掘り込まれており, 本跡の方が古い。

規模と平面形 東部が第40号住居跡との重複により残存しておらず, 規模は不明である。

壁 壁高は10cmで, 緩やかに外傾して立ち上がっている。

底面 東方向に傾斜している。北東部には、南北軸（1.00）m、東西軸（1.10）m、深さ（40）cmの不定形の掘り込みが確認されている。

覆土 2層からなる自然堆積である。

土層解説

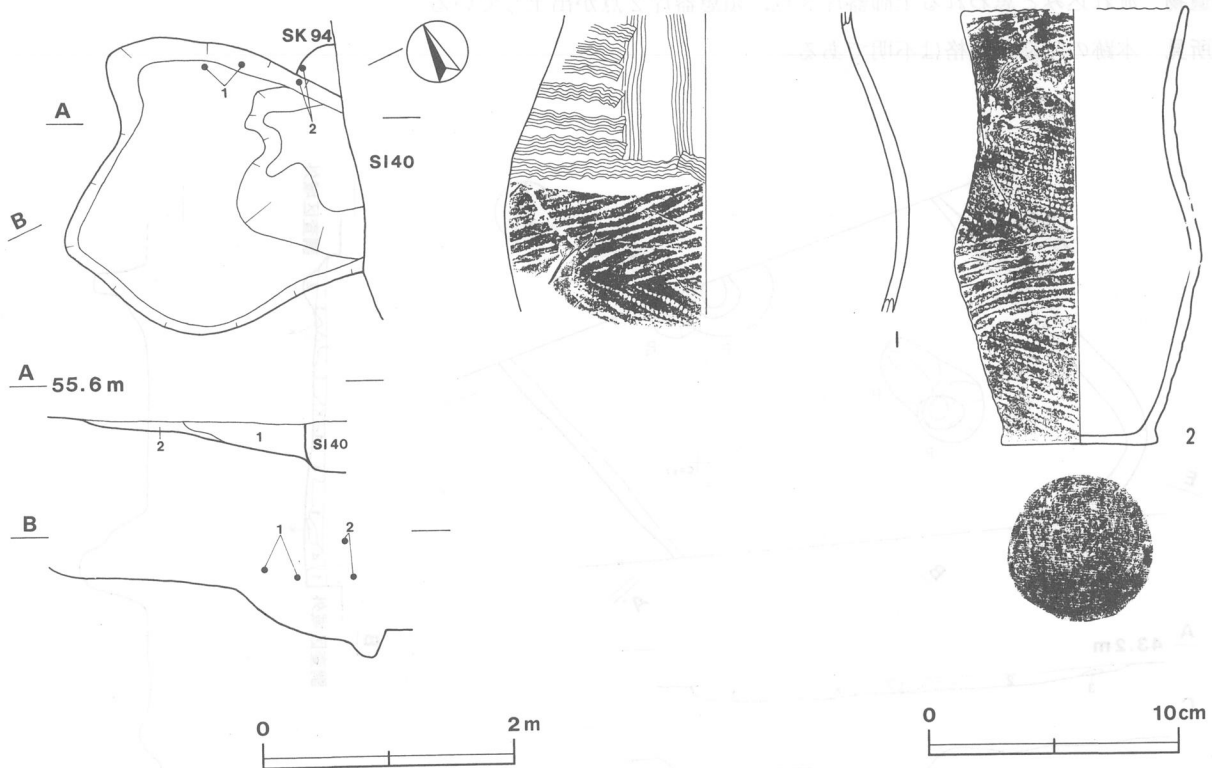
1 極暗褐色 ローム粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子少量

遺物 弥生土器片57点が出土している。第242図1の弥生土器壺は、北壁中央部の覆土上層から出土している。

2の弥生土器小形壺は、第94号土坑との重複付近の北壁の覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から弥生時代後期と思われる。



第242図 第5号不明遺構・出土遺物実測図

第5号不明遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第242図 1	広口壺 弥生土器	B (12.0)	胴部中位から頸部にかけての破片。頸部は櫛歯状工具(5本)による縦区画により分割され、区画内は波状文が施されている。胴部は附加条二種(附加1条)の縄文が施され、羽状構成をとる。	砂粒、長石、石英、雲母に ぶい橙色 普通	P136 10% PL76
2	小形壺 弥生土器	A [9.0] B 17.5 C 6.2	体部下位から口縁部にかけて、附加条二種(附加1条)の縄文が施されており、羽状構成をとる。	砂粒、長石、石英に ぶい赤褐色 普通	P137 80% PL76

第6号不明遺構(第243図)

位置 調査区南部、C4d6区。

規模と平面形 北・南部が調査区域外に延びているため、規模や平面形は不明である。

壁 壁高は6cmで、立ち上がっている。

底面 ほぼ平坦である。

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁は、北部の調査区域境界際中央部から検出されている。長径75cm, 短径 [45] cmの楕円形で、深さ72cmである。P₂はP₁の東脇から検出されている。径 [50] cmの円形で、深さ39cmである。P₃は中央部の西寄りから検出されている。径 [56] cmの円形で、深さ55cmである。P₄はP₃の北脇から検出されている。長径 [60] cm, 短径44cmの楕円形で、深さ40cmである。いずれも性格は不明である。

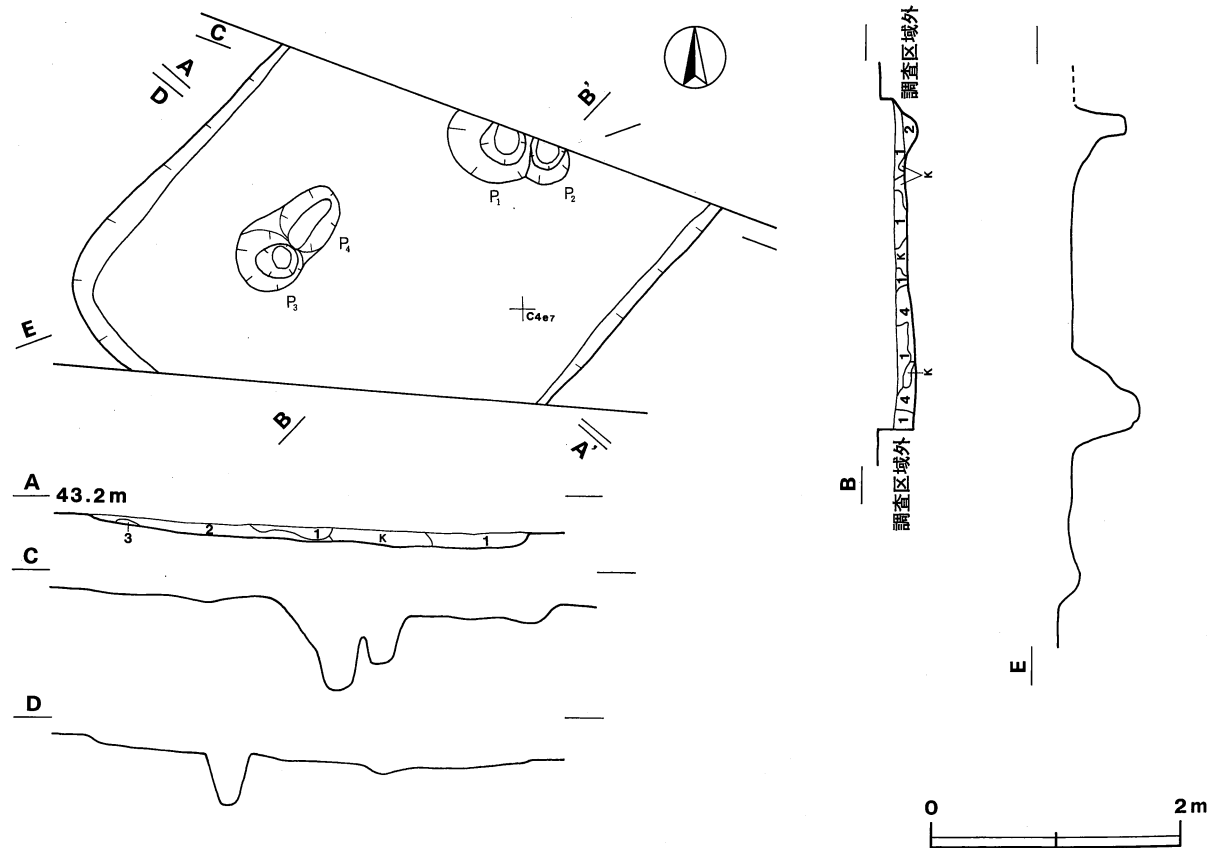
覆土 4層からなる人為堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------------------------|------------------------|
| 1 極暗褐色 黑色粒子・KP小ブロック・KP粒子少量 | 3 暗褐色 赤色粘土粒子中量, KP粒子少量 |
| 2 暗褐色 KP小ブロック中量, KP粒子少量, 黑色粒子微量 | 4 褐色 ローム粒子中量, KP粒子少量 |

遺物 流れ込みと思われる土師器片3点, 須恵器片2点が出土している。

所見 本跡の時期と性格は不明である。



第243図 第6号不明遺構実測図

第7号不明遺構 (第244図)

位置 調査区南部, C4e6区。

規模と平面形 南部が調査区域外に延びているため、規模や平面形は不明である。

壁 壁高は12cmで、緩やかに外傾して立ち上がっている。

底面 はほぼ平坦である。東壁際に、長径95cm, 短径45cmの楕円形の焼土ブロックと焼土粒子固まりが検出されている。

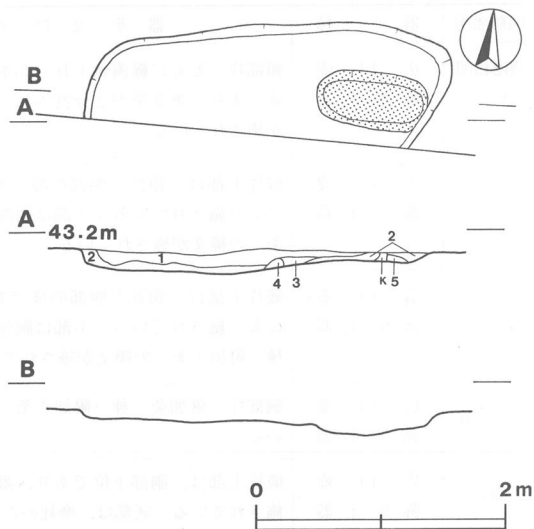
覆土 5層からなる人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 黒色粒子中量, KP粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 KP粒子中量, KP小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・黒色粒子微量
- 3 極暗褐色 黒色粒子中量, KP粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・粒子中量, KP粒子・黒色粒子少量
- 5 黄褐色 KP粒子多量, KP小ブロック中量

遺物 流れ込みと思われる土師器片5点が出土している。

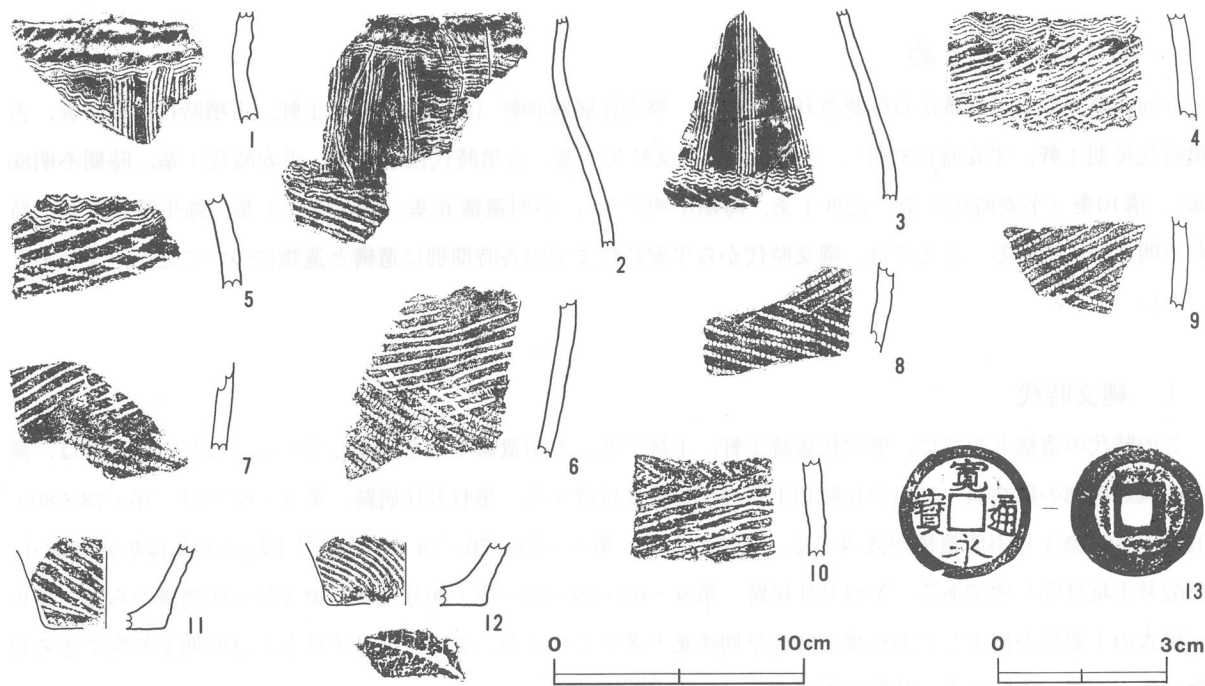
所見 本跡の時期と性格は不明である。



第244図 第7号不明遺構実測図

5 遺構外出土遺物

当遺跡からは、遺構に伴わない弥生時代から近世までの土器や、金属製品等が出土している。ここでは、これらの出土遺物のうち特徴的なものについて掲載する。(第245図)



第245図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	器形及び文様の特徴	備考
第245図 1	広口壺 弥生土器	口縁部から頸部にかけての破片。破片上部は、口縁部と頸部の境であり、軽く押圧された低い隆帯が2条巡る。下部にかけては、櫛状工具(6本)による縦区画と、波状文が施されている。	TP18 PL77

図版番号	器種	器形及び文様の特徴	備考
第245図 2・3	広口壺 弥生土器	頸部片。ともに櫛歯状工具（5本）による3条を単位とする縦区画により、無文帯が2分割されている。2は、区画内には波状文が施されている。	TP10, 11 PL77
4	広口壺 弥生土器	破片上部は、頸部と胴部の境であり、波状文が櫛状工具（6本）により施されている。下部は胴部にあたり、附加状二種（附加1条）の縄文が施されている。	TP17 PL77
5	広口壺 弥生土器	破片上部は、頸部と胴部の境であり、波状文が櫛状工具（6本）により施されている。下部は胴部にあたり、羽状構成の附加条二種（附加1条）の縄文が施されている。	TP19 PL77
6~10	広口壺 弥生土器	胴部片。附加条二種（附加1条）の縄文が、羽状構成で施されている。	TP12~15, 20 PL77
11	広口壺 弥生土器	破片上部は、胴部下位であり、附加条二種（附加1条）の縄文が施されている。底部は、摩耗のため布目等の痕跡は確認できない。	TP21 PL77
12	広口壺 弥生土器	破片上部は、胴部下位であり、附加条一種の縄文が施されている。底部には、木葉痕が残存している。	TP22 PL77

図版番号	銭銘	計測値				鑄造期間（西暦）	備考
		径(cm)	孔径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第245図 13	寛永通寶	2.4	0.6	0.1	3.0	(1697~1747年)	M20 表土 3期新寛永 PL79

第4節 まとめ

今回の調査で東平遺跡から確認された遺構は、竪穴住居跡40軒（縄文時代早期1軒，古墳時代前期1軒，古墳時代後期1軒，平安時代37軒），土坑95基（縄文時代7基，古墳時代後期1基，平安時代1基，時期不明86基），溝10条（平安時代2条，近世1条，時期不明7条），不明遺構6基（縄文時代1基，弥生時代1基，時期不明4基）である。ここでは、縄文時代から平安時代までの各時期別に遺構と遺物について述べ、まとめたい。

1 縄文時代

この時代の遺構としては、竪穴住居跡1軒，土坑7基，不明遺構1基を確認している。これらの遺構は、調査区域北西部の標高54~55mの丘陵頂上部の平坦地に位置する。第41号住居跡，第9・62・71・76・78・80・91号土坑，第4号不明遺構が該当する。土坑のうち，第9・71・76・78・80・91号土坑の6基は炉穴であり，第62号土坑は陥し穴である。第41号住居跡，第9・62・69・71・78・80号土坑，第4号不明遺構からは，茅山下層式の土器片が出土しており縄文時代早期後葉と考えられるが，第76・91号土坑からは時期を判断できる遺物は出土していないため，時期不明である。

第41号住居跡は，中央部に炉を2か所もっている。炉の作り替えがあったのか同時に並行して使用されたのかは不明である。

炉穴6基の平面形は，楕円形のもの4基，円形と不定形が各1基である。長径方向は，第9・91号土坑が北から西に振れ，第76号土坑のみが東に振れている。長径は，約2m以上のものが，第9・78・80号土坑で，その他の3基は，1~1.55mである。深さは，6基とも50cm以下である。炉床の位置は，ほぼ中央にあるものが第76・78・80・91号土坑の4基，片寄った位置にあるものが第9・71号土坑である。第9号土坑は西部，第71号土坑は南部に炉床をもっている。炉穴について近隣の遺跡では，友部町石山神遺跡で32基調査されている⁽¹⁾。

2 弥生時代

この時代の遺構として、不明遺構1基を確認している。第5号不明遺構は調査区域北西部に位置している。時期は、覆土から十王台式の弥生土器が出土しているため、弥生時代後期後半と考えられる。

この時期の多量の土器片が、当遺跡の調査区域東部の表土中から出土しており、他の時期の住居跡や土坑の覆土中にも流入している。

土器の頸部文様帯は、スリット手法による縦区画を波状文で充填し、スリット間は無文とし、胴部には、附加条二種（附加1条）の縄文が羽状構成で施されている。その他、数点の胴部片には附加条一種（附加2条）の縄文が施され、底部に木葉痕が残されているものがあり、栃木県東部の二軒屋式系や上稲吉式系の土器の影響が入っていると考えられる。

土器片の出土状況から、酒沼川により近い調査区域外の丘陵東側斜面にも、この時代の遺構が存在するものと考えられる。

3 古墳時代

この時代の遺構としては、竪穴住居跡2軒、土坑1基を確認している。調査区域北西部の第1号住居跡、中央部の傾斜地に立地する第10号住居跡と西側の第52号土坑が該当する。第10号住居跡は前期、第1号住居跡・第52号土坑は後期に属するものと考えられる。

第10号住居跡は、壁の遺存状態が悪く、正確な規模や平面形が不明である。出土遺物は、土師器の器台と台付甕の破片などである。覆土中からは十王台式の弥生土器片も多数出土しているが、混入の可能性が考えられる。

古墳時代前期の土師器片は、前述の十王台式同様、調査区域東部の表土中から出土しており、出土状況から、調査区域の東側に同時期の遺構が分布するものと考えられる。

第1号住居跡は、一辺3.5mの方形であり、竈は北壁の東寄りに構築されている。この時代の典型的な竈と比較して、煙道が極めて細長く作られているのが特徴的である。遺物としては、土師器（坏・壺・甕・甗）が出土している。底部に木葉痕を残す土師器坏が出土している。

4 平安時代

この時代の遺構としては、竪穴住居跡37軒、土坑1基を確認している。当遺跡の中心をなす時代である。第2・38～40号住居跡、第77号土坑は北部の平坦地に立地しているが、ほとんどの住居跡は傾斜地で確認されている。調査区域は、道路工事幅であるため、集落跡の全体像が明らかになっているわけではないが、調査区域内における、9世紀から10世紀にかけて集落の変遷について検討を試みたい。（第246図）

(1) 第1期（9世紀後半）

平坦地である調査区域の北西部から2軒、傾斜地である中央部から南東部にかけて19軒の住居跡を確認している。北西部の第2・40号住居跡、中央部から南東部にかけての第5・8・9・13～16・18～24・26・30・31・33・34号住居跡が該当する。

平面形は、方形または長方形を呈している。規模は、一辺が2.6～4.8mである。壁高は40cm以上あるものが半数である。竈の位置は、東壁に構築されている第5号住居跡、西壁に構築されている第24号住居跡を除いて、北壁に構築されている。東壁に竈をもつ住居跡の主軸方向は、 $N-87^{\circ}-E$ である。西壁に竈をもつ住居跡の主軸方向は、 $N-83^{\circ}-W$ である。北壁に竈をもつ住居跡の主軸方向は、 $N-43^{\circ}-W \sim N-28^{\circ}-E$ の範囲

である。貯蔵穴は、第2・5・8・24・26号住居跡から確認されている。北東コーナー部に位置するもの、北西コーナー部に位置するものとともに2軒であり、第24号住居跡の第2号貯蔵穴と第26号住居跡は南西コーナー部に位置している。

出土遺物は、土師器（坏・高台付坏・碗・甕・甑・蓋）、須恵器（坏・甕・甑）、土製支脚、石製紡錘車、砥石、刀子、鉄製紡錘車などである。特に、第20号住居跡から出土している鉄製紡錘車は、軸に竹製と思われる鞘が装着したまま出土しており、鉄製紡錘車の機能を考える上でも貴重な資料と思われる。須恵器の坏は、全体的に器高が高く、底径は小さい。底部に真一「|」のヘラ記号をもつものがある。土師器の坏や高台付坏は、内面に磨きが施され、すべて黒色処理されている。底部は、回転ヘラ切りで切り離しで、「九」や「十」等の墨書が施されている土器も出土している。甕は、底部に木葉痕を残すものもある。

この時期は、遺構数が多く、調査区域内での分布状況も全域にわたっている。特に、傾斜地における住居跡の位置は、標高と密接な関係がうかがえる。第26・31・32・34号住居跡は標高51～52mに、第5・20～22・30号住居跡は標高48～49mに、第8・9・13・14・16・18・23・24号住居跡は標高43～46mに位置している。上記のように、傾斜地に位置する住居跡は、3段階に区分した等高線上に分布している。同時期の遺構が、同一等高線上に並んで位置する状況は大変興味深い。

(2) 第2期（10世紀前半）

調査区域の中央部から2軒、南東部から1軒の住居跡を確認している。第7・24・32号住居跡が該当する。

第7・32号住居跡は、一辺が2.75～3.40mの方形及び長方形で、壁高は10～44cmである。主軸方向は、第7号住居跡がN-86°-E、第24号住居跡がN-83°-W、第32号住居跡がN-70°-Eである。第7・32号住居跡は、東壁に竈をもち、第24号住居跡は、西壁に竈を確認している。この時期には、北壁に竈をもつ住居跡は認められない。貯蔵穴は第24号住居跡のみで確認されており、北西コーナー部と竈の南東側の2か所に付設されている。第7・24号住居跡は標高45～46mに、第32号住居跡は標高52mに位置しており、両遺構の間には標高差が約6mある。当該期の住居跡は少ないが、第28・35号住居跡は、出土遺物から9世紀後半から10世紀前半の時期にあるものとしており、遺構の規模、竈の位置等で、第7・32号住居跡と共通点がある。第35号住居跡は、第32号住居跡と同一標高にあり、第28号住居跡は、第7号住居跡より2m高い標高に位置しているが、第28号住居跡は東西方向の延長上にある。

出土遺物は、土師器（坏・高台付坏・甕）、須恵器片等である。この時期以降、須恵器の出土が極めて少なくなっている。高台付坏の体部内面に磨きが施され、黒色処理されている。体部が内彎して立ち上がり、底部の切り離しは回転ヘラ切りである。高台はハの字状に開いている。

当該期の住居跡は遺構数は少ないものの、2段階に区分できる等高線上に位置しており、第1期と同様の様相を呈している。

(3) 第3期（10世紀後半）

調査区域の北西部から2軒の住居跡と1基の土坑、中央部から5軒の住居跡を確認している。北西部の第38・39号住居跡と第77号土坑、中央部の第4・17・25・27・29号住居跡が該当する。

住居跡の規模や平面形は、一辺が3～4m前後の方形及び長方形である。壁高は20～40cmで、住居の掘り込みは他の時期に比較して浅い。竈の位置は、第4・17・25・29・38号住居跡は東壁に、第27・39号住居跡は北壁に構築されている。東壁に竈をもつ住居跡の主軸方向は、N-62°～94°-Eの範囲である。北壁に竈をもつ住居跡の主軸方向は、第27号住居跡はN-12°-Wであり、第39号住居跡はN-22°-Wである。貯蔵穴は、第4号住居跡が北東コーナー部に、第17・38号住居跡が南東コーナー部に、第39号住居跡北西コーナー部に確認さ

れている。

出土遺物は、土師器（坏・碗・高台付坏・小皿・甕）が中心であり、須恵器は細片のみである。第17号住居跡からは鉄製品の鉸具が出土しており、1点のみの出土であるが極めて興味深い。高台付坏は、第2期と比較すると、同様に体部内面に磨きや黒色処理が施されているが、口縁部がわずかに外反している。土師器小皿が多く出土しているが、底部の切り離しはすべて回転糸切りである。

第38・39号住居跡は標高54m、第4・27・29号住居跡は標高48～50m、第17・25号住居跡は標高44～55mに位置している。当該期の7軒の住居跡にも、同一等高線上に位置する特徴がみられる。

(4) まとめ

第1期は標高51～52m（4軒）、48～49m（5軒）、43～46m（7軒）の3段階、第2期は標高52m（1軒）、45～46m（2軒）の2段階、第3期は、標高54m（2軒）、48～50m付近（3軒）、44～45m付近（2軒）の3段階に区分して、住居跡の分布を検討した。このように、傾斜地における住居跡の分布と等高線との間の興味深い関係が、この時代を通してうかがえた。各期とも標高50m付近と標高47m付近では、住居跡の分布域に空白地帯が認められ、この空白部分に集落形成にかかわる何らかの要素があると考えられるが不明である。

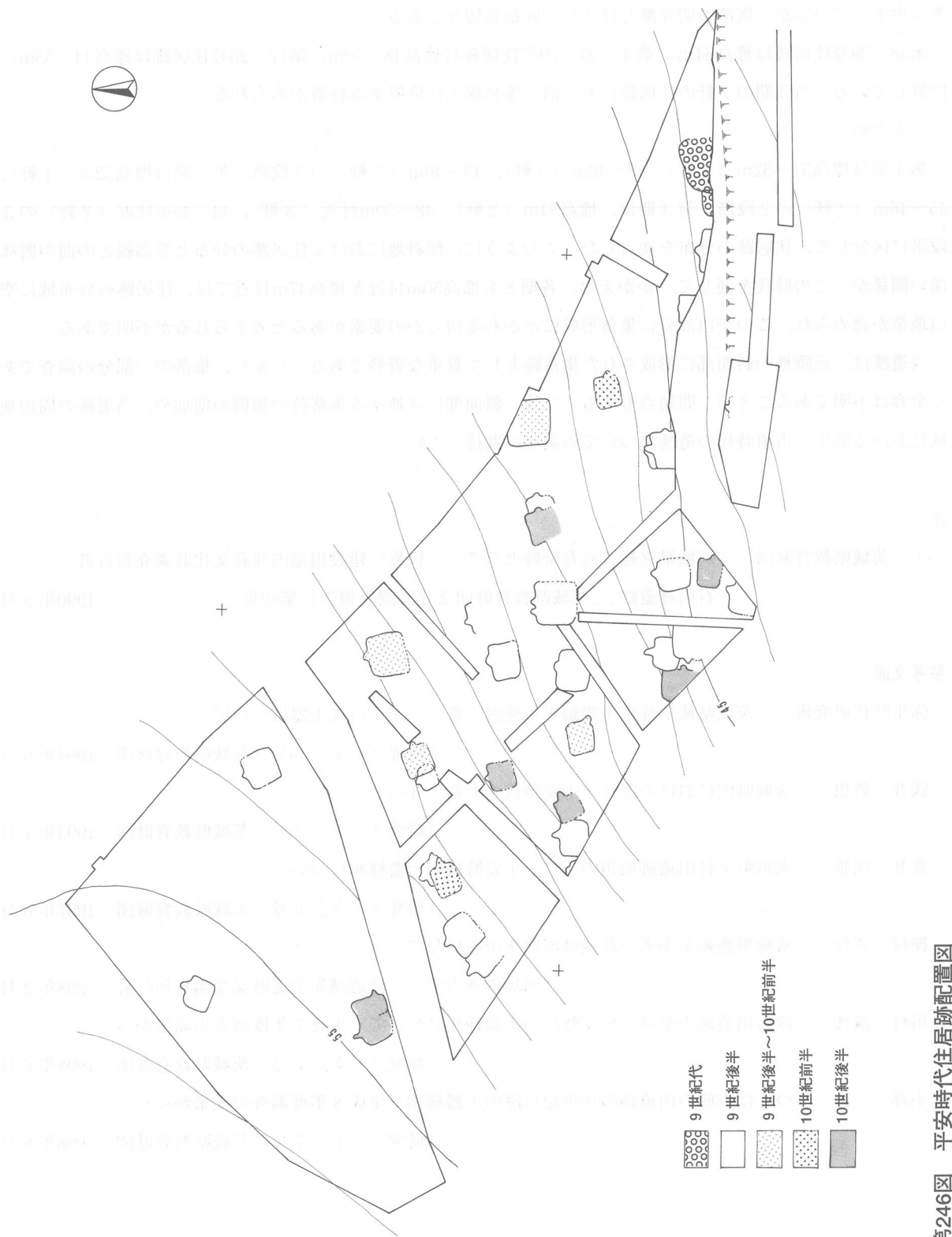
当遺跡は、丘陵地の斜面部に形成された集落跡として貴重な資料である。しかし、集落の一部分の調査であり全容は不明であること等、問題点もある。今後、斜面部に立地する集落跡の類例の増加や、当遺跡の周辺地域における弥生・古墳時代の遺構についての調査に期待したい。

註

- (1) 茨城県教育財団 「茨城県立総合教育研修センター（仮称）建設用地内埋蔵文化財調査報告書
石山神遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第62集 1990年9月

参考文献

- 弥生時代研究班 「茨城県後期弥生土器編年の検討（Ⅲ） 十王台式土器について」
『研究ノート』3号 茨城県教育財団 1994年6月
- 浅井 哲也 「茨城県内における奈良・平安時代の土器（Ⅱ）」
『研究ノート』2号 茨城県教育財団 1993年7月
- 荒井 保雄 「大宮町下村田遺跡周辺の奈良・平安時代の土器様相について」
『研究ノート』6号 茨城県教育財団 1997年6月
- 檜村 宣行 「常総型甕編年小考－茨城県南部を中心にして－」
『列島の考古学』 渡辺誠先生還暦記念論集刊行会 1998年2月
- 川村 満博 「熊の山遺跡の奈良・平安時代の土器様相について－平成7年度調査の成果から－」
『研究ノート』7号 茨城県教育財団 1998年6月
- 小島 敏 「つくば市熊の山遺跡の10世紀以降の土器様相－平成8年度調査の成果から－」
『研究ノート』7号 茨城県教育財団 1998年6月



第246図 平安時代住居跡配置図

第5章 坂ノ上塚群

第1節 遺跡の概要

坂ノ上塚群は、友部町の南西山地東側、潤沼川右岸の標高49mほどの丘陵地頂上部に所在している。調査区域は、東西約15m、南北約35m、面積495㎡であり、現況は山林である。

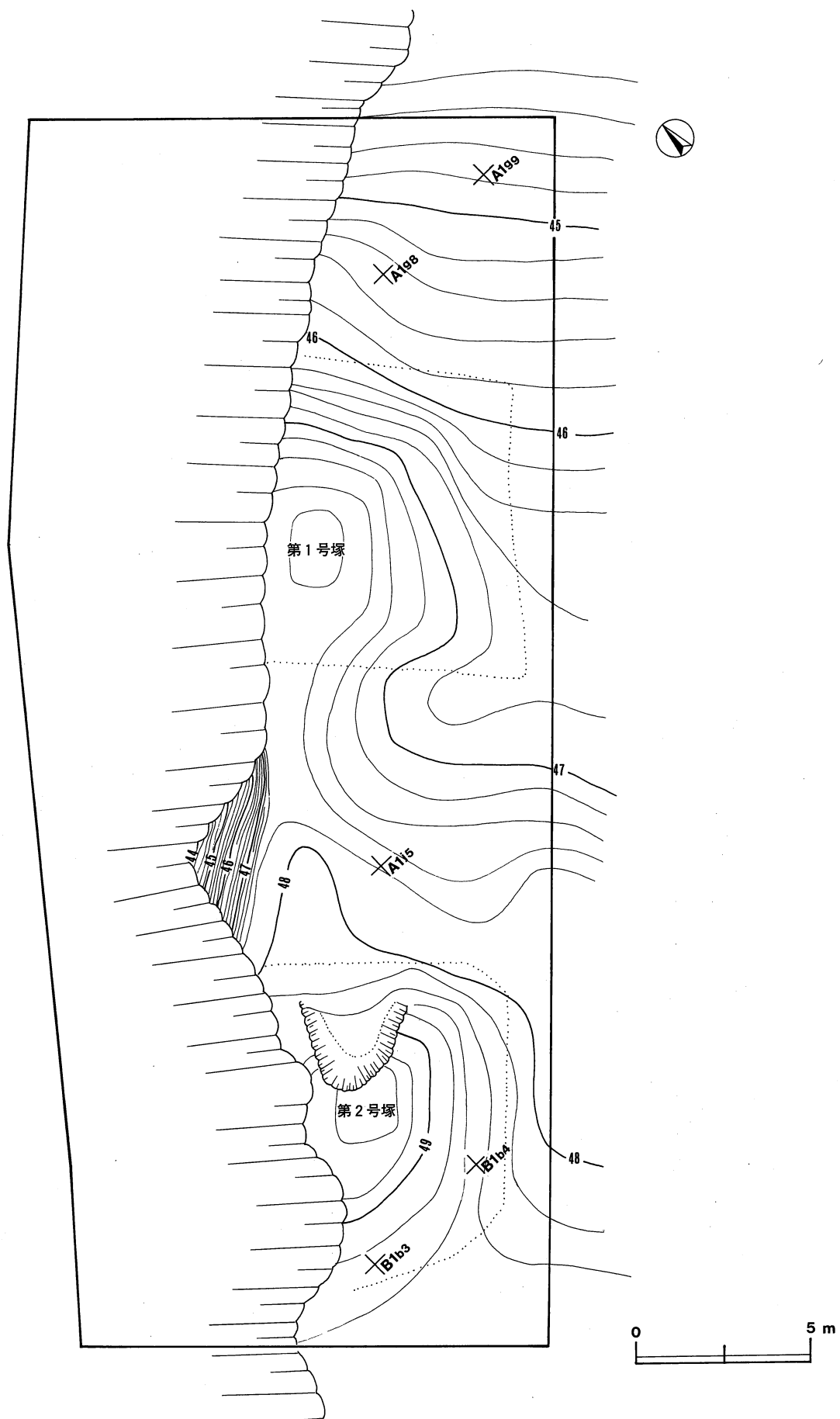
調査区域の北東約1km地点には、宍戸城跡がある。この宍戸城跡から、潤沼川を渡り南西方向にのびる古道として江戸街道がある。当遺跡は古道脇の丘陵頂上部に立地しており、丘陵を切り通してのびている古道により、遺跡の西側部分が大きく削られている。遺跡の南東側は古峯A遺跡に隣接しており、北西側約200m地点には東平遺跡がある。

今回の調査によって、近世の塚2基、塚の下層から古墳時代後期の住居跡1軒を確認した。

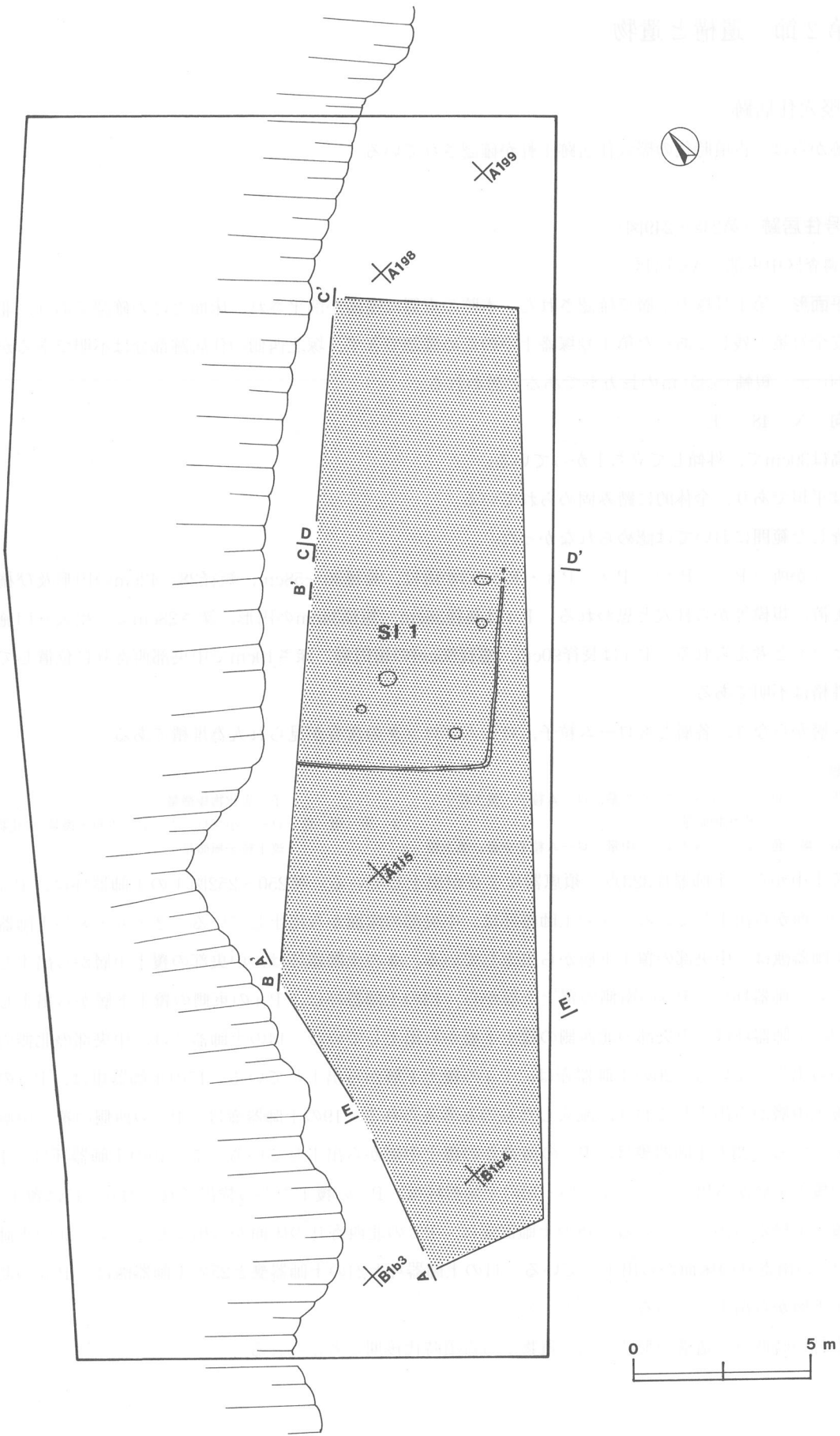
遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に2箱出土した。住居跡から、土師器26点が出土している。塚の盛土からは、古銭（寛永通寶）が1点出土している。



第1号塚



第247図 坂ノ上塚群地形測量図



第248図 第1号住居跡調査区設定図

第2節 遺構と遺物

1 竪穴住居跡

当遺跡からは、古墳時代の竪穴住居跡1軒が確認されている。

第1号住居跡（第248・249図）

位置 調査区中央部，A1i6区。

規模と平面形 第1号塚の下層で確認された。本跡の東側は壁面が削平され、床面だけの確認であり、北側壁は、安全対策上残してあった第1号塚盛土中のため確認できず、塚北西側の住居跡部分は不明であるが、長軸(5.60)m，短軸(5.35)mの長方形であると思われる。

主軸方向 N-48°-E

壁 壁高は30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦であり、全体的に踏み固められている。

竈 調査した範囲においては認められなかった。

ピット 5か所（P₁～P₅）。P₂・P₃・P₅の3か所は、長径30～58cm，短径28～42cmの円形及び楕円形で、配置、規模等から柱穴と思われる。P₁は長径36cm，短径34cmの円形，深さ28cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P₄は長径90cm，短径66cmの楕円形，深さ10cmで中央部西寄りに位置しているが、性格は不明である。

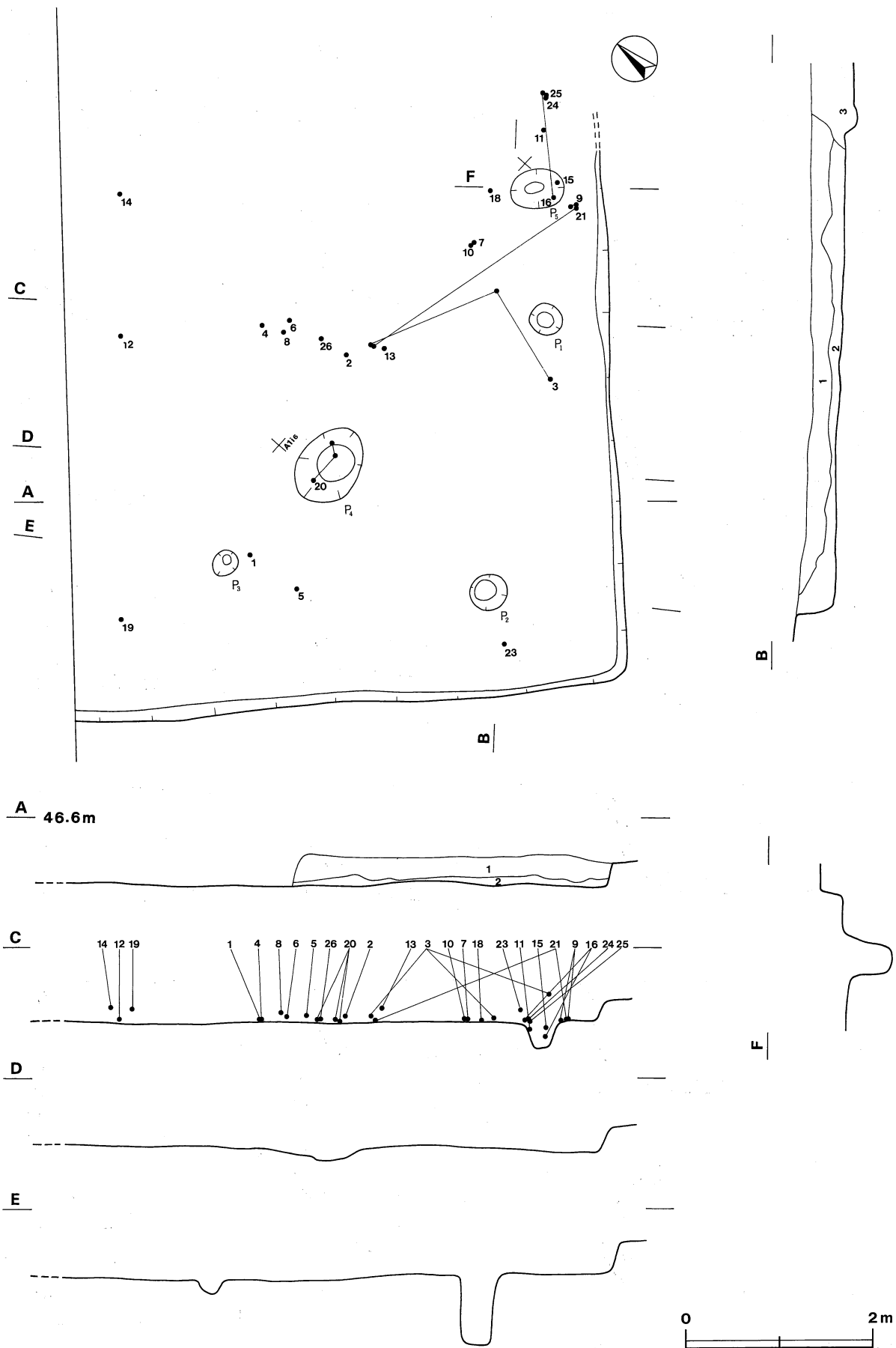
覆土 3層からなり、各層ともローム粒子，ロームブロックの含有が見られ人為堆積である。

土層解説

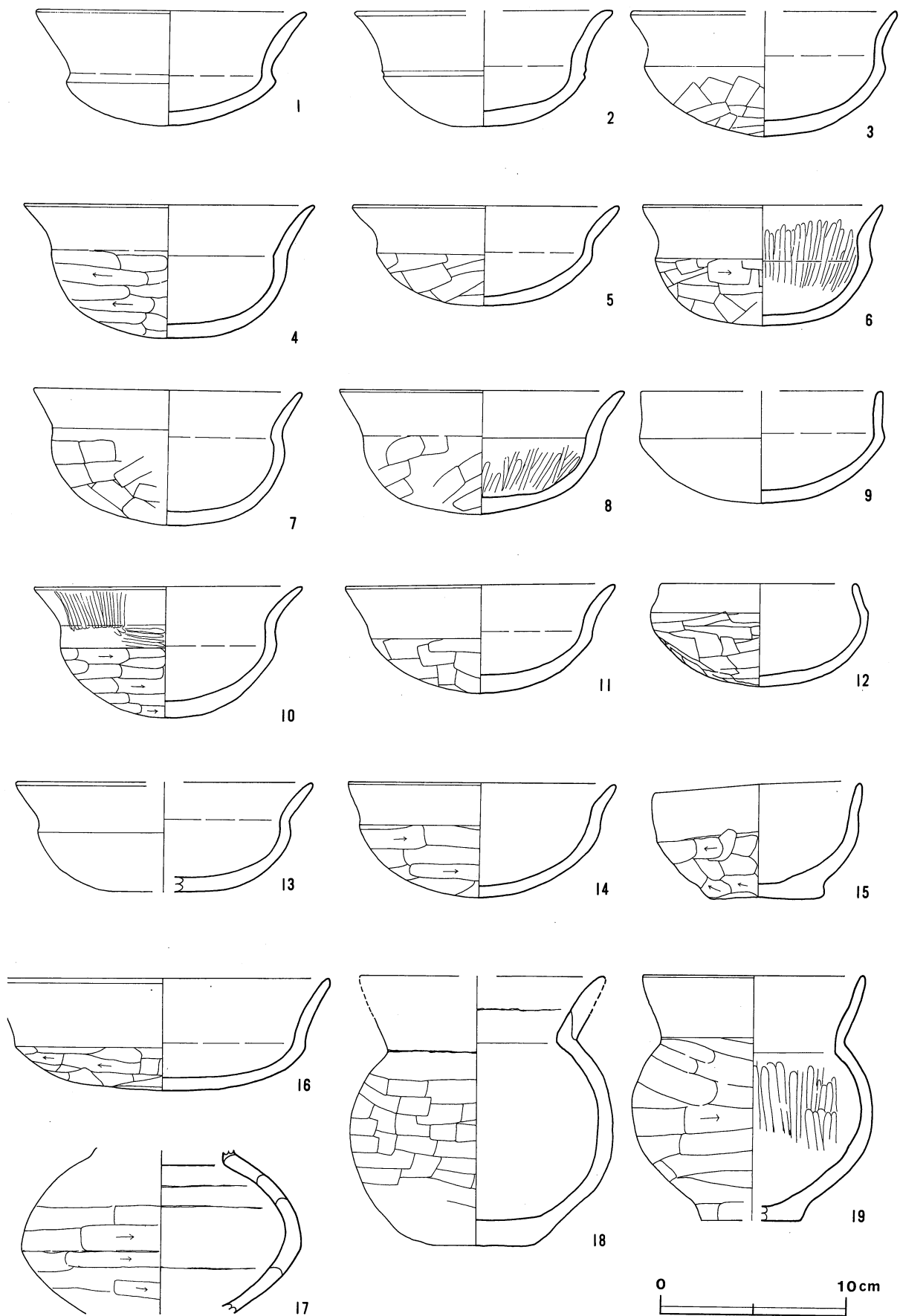
- | | | |
|-------|-----------------------------|----------|
| 1 黒色 | ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量 | 子・炭化物極微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒 | 焼土粒子極微量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量，炭化物微量， | |

遺物 覆土中から、土師器片323点，須恵器片2点が出土している。第250～252図1の土師器坏は，P₃の東寄りの床面から出土している。4の土師器坏は，中央部の床面から出土している。2・6・8の土師器坏と26の土師器甑は，中央部の覆土下層から出土している。3の土師器坏は，中央部の覆土中層から出土している。5の土師器坏は，P₃の南側の覆土下層から，13の土師器坏は，P₄の東側の覆土下層から出土している。12の土師器坏は，中央部の北西側の覆土下層から出土している。14の土師器坏は，中央部の北側の覆土中層から出土している。20の土師器壺は，P₄の覆土下層から出土している。17の土師器埴は，P₃の南寄りの覆土中層から出土しており，流入したものと考えられる。19の土師器壺は，P₃の西側の覆土中層から出土している。23の土師器甕は，P₂の南寄りの覆土中層から出土している。7・10の土師器坏は，P₅の西側の覆土下層から出土している。15・16の土師器坏は，P₅の覆土中から検出されており，15は覆土上層，16は覆土下層から出土している。18の土師器壺は，P₅の北西寄りの床面から出土している。9の土師器坏は，P₅の南寄りの床面から出土している。11の土師器坏と24の土師器甕と25の土師器甑は，P₅の北東側の覆土下層から出土している。

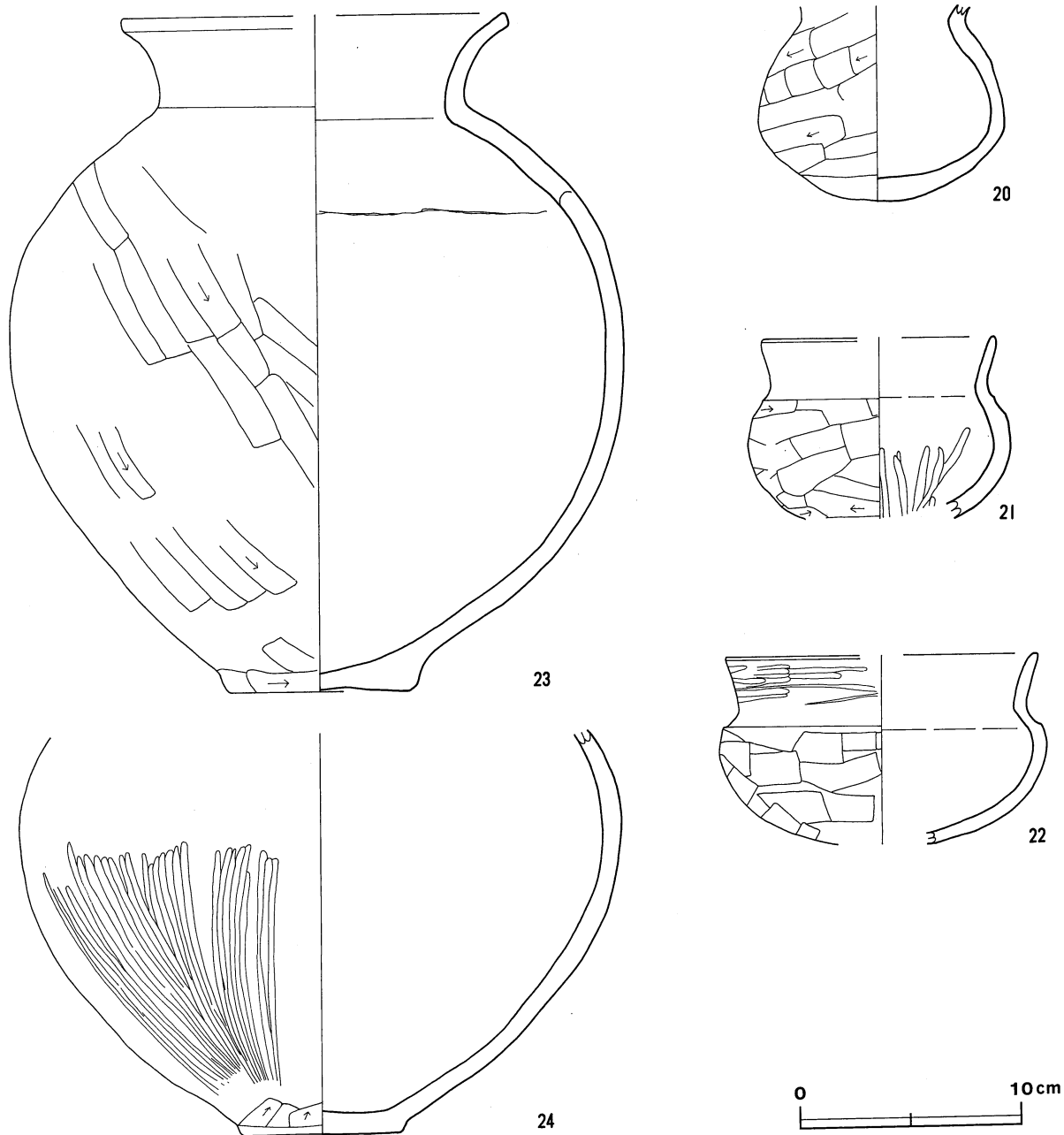
所見 本跡の時期は、遺構の形状や出土遺物から古墳時代後期と考えられる。



第249图 第1号住居跡実測图



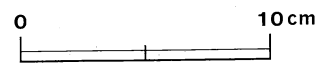
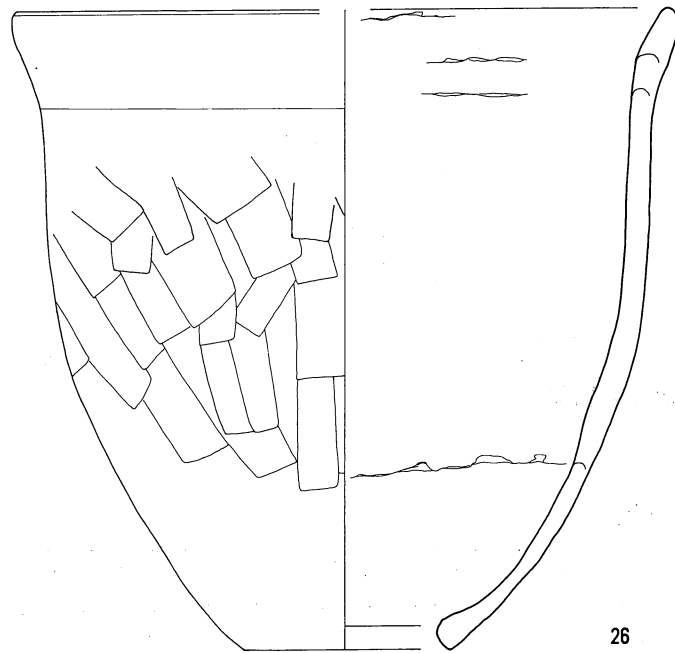
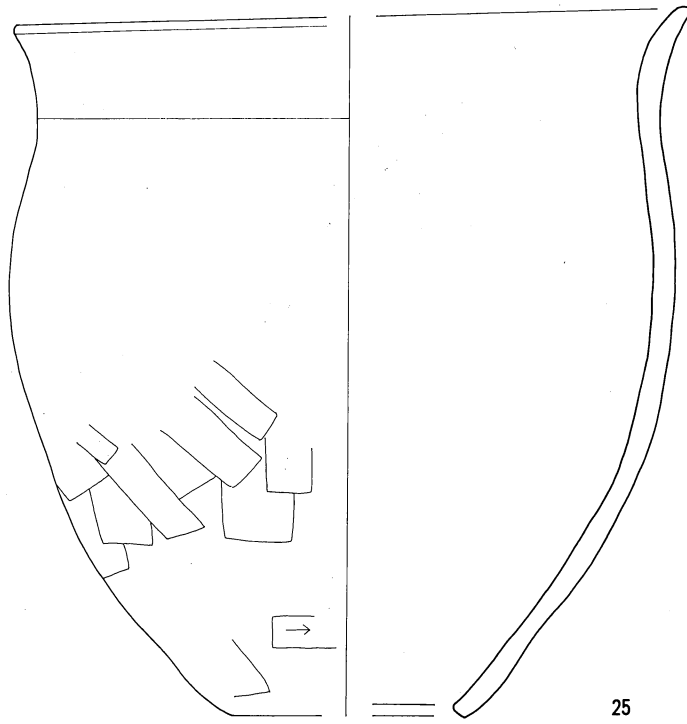
第250图 第1号住居跡出土遺物実測図(1)



第251図 第1号住居跡出土遺物実測図(2)

第1号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第250図 1	坏 土師器	A 14.6 B 6.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜がある。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ後、横位の磨き。体部外面ヘラナデ後、横位の磨き。	砂粒、長石、雲母、石英 赤色 普通	P1 100% PL80
2	坏 土師器	A 14.0 B 6.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜がある。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ後、横位の磨き。体部外面ヘラ削り後、横位の磨き。	石英、砂粒、長石、雲母 赤褐色 普通	P2 60% PL80
3	坏 土師器	A [14.4] B 6.7	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜がある。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、磨き。	砂粒、長石、石英、雲母 明赤褐色 普通	P3 50% PL80



第252図 第1号住居跡出土遺物実測図(3)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第250図 4	坏 土師器	A 15.6 B 7.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、磨き。	長石、砂粒、石英 明赤褐色 普通	P4 90% PL80
5	坏 土師器	A 14.4 B 5.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜がある。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。	砂粒、長石、石英、雲母 明赤褐色 普通	P5 100% PL80
6	坏 土師器	A 12.9 B 6.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜がある。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラ磨き。	砂粒、長石、石英、雲母 明赤褐色 普通	P6 100% PL80
7	坏 土師器	A 14.5 B 7.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜がある。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、磨き。	砂粒、長石、石英、スコリア 赤色 普通	P7 90% PL80
8	坏 土師器	A 15.4 B 6.7	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜がある。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。内面はナデ後磨き。体部外面へラ削り。内面放射状の磨き。	長石、石英、雲母、砂粒、スコリア 明赤褐色 普通	P8 90% PL80
9	坏 土師器	A 13.0 B 6.1	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。外面ナデ後磨き。体部外面へラ削り。	砂粒、長石、石英 赤色 普通	P9 60% PL80
10	坏 土師器	A 14.5 B 7.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ後、磨き。体部外面へラ削り。口縁部外面縦位のへラ磨き。	砂粒、長石、石英、雲母 赤褐色 普通	P10 90% PL80
11	坏 土師器	A 14.5 B 5.9	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜がある。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。	砂粒、長石、石英、雲母 明赤褐色 普通	P11 100% PL80
12	坏 土師器	A 10.5 B 5.6	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜がある。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。	石英、砂粒、長石 明赤褐色 普通	P12 80% PL80
13	坏 土師器	A 16.0 B 5.9	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜がある。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、磨き。	長石、石英、砂粒 赤褐色 普通	P13 40% PL81
14	坏 土師器	A 14.4 B 6.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜がある。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、横ナデ。	砂粒、長石、雲母、石英 明赤褐色 普通	P14 50% PL81
15	椀 土師器	A 11.2 B 6.2 C 6.0	丸底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部は直立する。底部は突出する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ。赤彩。	長石、石英、雲母、砂粒 明赤褐色 普通	P15 100% PL81
16	坏 土師器	A 18.2 B 6.1	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜がある。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒、長石、石英、雲母 礫 明赤褐色 普通	P16 100% PL81
17	埴 土師器	B (8.8)	体部はつぶれた球形で、最大径は体部上位にある。	体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石、石英、砂粒、スコリア にぶい褐色 普通	P17 50% PL81
18	壺 土師器	A [12.9] B 14.6 C 5.7	平底。体部は倒卵形で、最大径は体部上位にある。頸部は「く」の字状に外反し、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面磨き。	長石、石英、砂粒、スコリア 礫 灰黄褐色 普通	P18 95% PL81
19	壺 土師器	A 12.0 B 13.2 C [5.5]	平底。体部は横長の楕円形で、体部中位に最大径がある。頸部は「く」の字状に外反し、口縁部は外傾する。	口縁部内面横ナデ後、磨き。口縁部外面縦位のへラ磨き。体部外面へラ削り後、磨き。内面ナデ後、縦位の磨き。	砂粒、長石、石英、雲母 明赤褐色 普通	P19 90% PL81
第251図 20	壺 土師器	B (8.8)	丸底。体部は横の楕円形で体部中位に最大径がある。	体部内・外面へラ削り後、横ナデ。	長石、石英、砂粒 明赤褐色 普通	P20 40% PL81

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第251図 21	短頸壺 土師器	A [10.5] B (8.2)	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜がある。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ後、内面は放射状の磨き。	砂粒、長石、石英 赤褐色 普通	P21 60% PL81
22	短頸壺 土師器	A [14.0] B (8.6)	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜がある。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ後、横位の磨き。体部外面ヘラ削り。	石英、砂粒、長石 暗赤褐色 普通	P22 40% PL81
23	甕 土師器	A 17.4 B 30.7 C 8.4	平底。体部は倒卵形で、最大径は体部上位にある。頸部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り。	長石、石英、砂粒、礫 にぶい褐色 普通	P23 90% PL81
24	甕 土師器	B 18.2 C 7.4	平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラナデ後縦位の磨き。内面ナデ。	長石、雲母、砂粒、礫 明赤褐色(内)、暗赤褐色(外) 普通	P24 20% PL82
第252図 25	甕 土師器	A 27.0 B 28.4 C [9.4]	無底式。体部は球形で、頸部は直立する。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。	長石、石英、砂粒 にぶい黄橙色 普通	P25 90% PL82
26	甕 土師器	A [26.6] B 25.8 C 8.4	無底式。体部上半部が直線的で、最大径は体部上位にある。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	長石、石英、砂粒、雲母 橙色(内)、黒色(外) 普通	P26 50% PL82

2 塚

当遺跡からは、近世の塚2基（第1号、第2号）が検出されている。第1号塚下層で、第1号住居跡が検出されている。

第1号塚（第247・254図）

位置 調査区中央部，A1h6区。

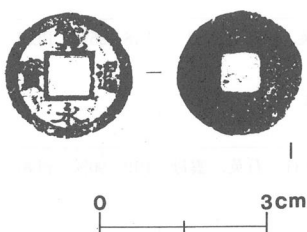
規模と平面形 南北幅（7.0）m，東西幅8.5mの不整形を示し，高さは1.7mである。

主軸方向 N-45°-W

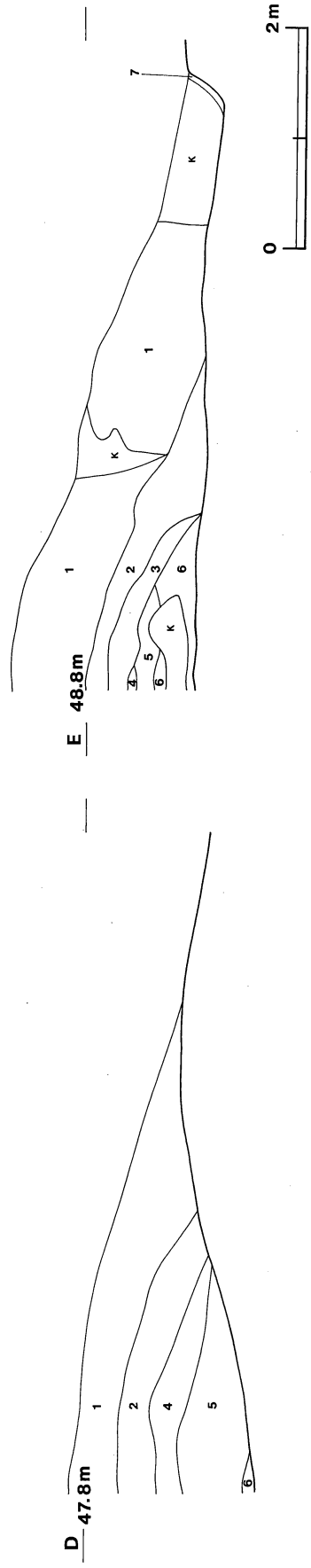
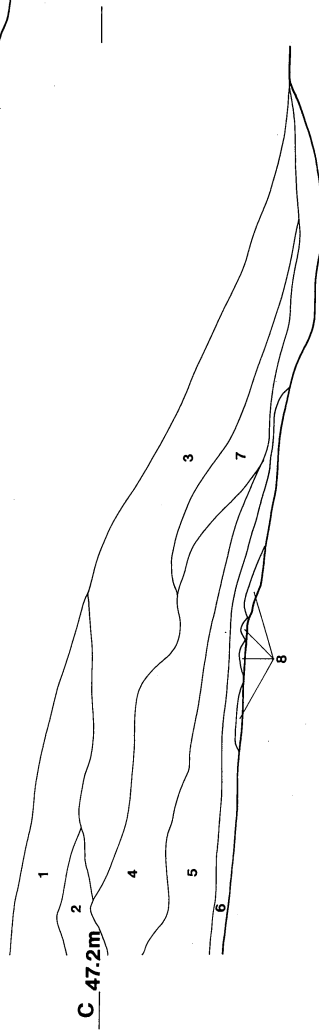
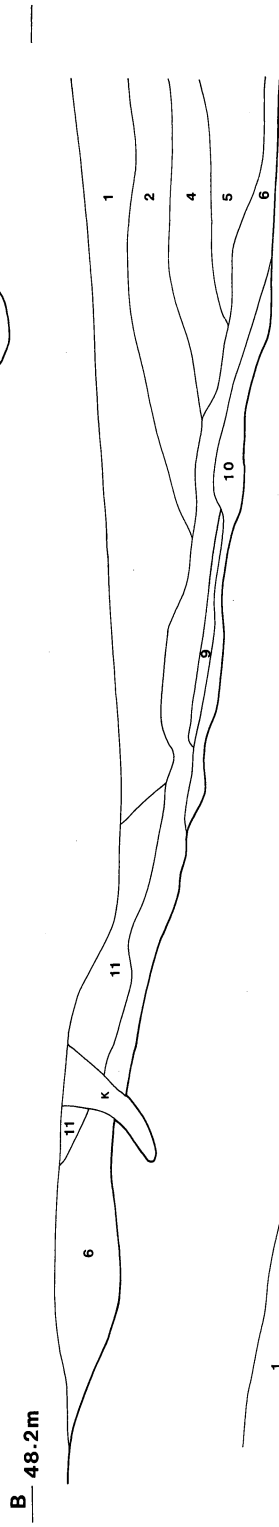
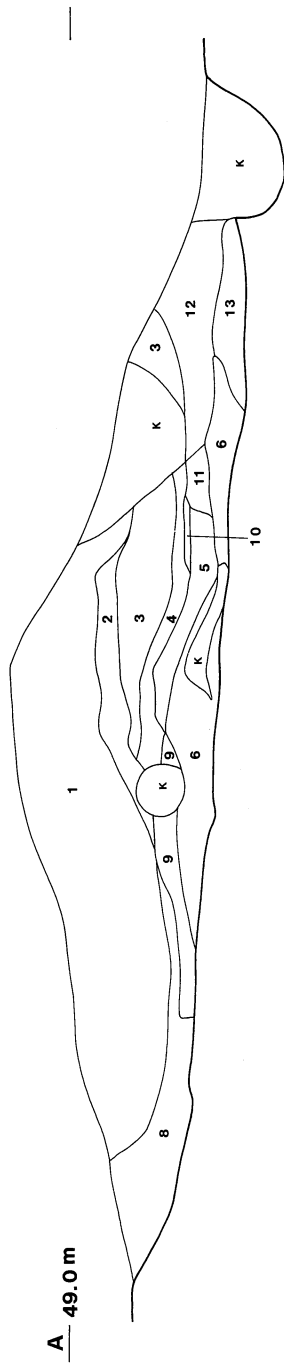
構築状況 旧地表面を基底部にし，6層で構築されている。鉄分を含む赤茶色の大小の礫が各層に含まれている。

土層解説（B-B'，C-C'，D-D'）

- 1 褐色 中礫中量，ローム粒子・KP粒子・小礫少量
- 2 褐色 ローム粒子・KP粒子・小礫少量，KP中ブロック・KP大ブロック・中礫微量
- 3 褐色 ローム粒子・中礫中量，KP粒子・KP小・中ブロック・中礫微量
- 4 褐色 ローム粒子・小礫中量，KP粒子・中礫少量，大礫微量，KP小・大ブロック極微量
- 5 褐色 ローム粒子・小礫中量，KP粒子・KP小ブロック少量，中礫微量
- 6 褐色 ローム粒子・KP粒子中量，KP小ブロック・小礫極微量
- 7 褐色 中礫中量，ローム粒子・小礫少量，ローム大ブロック・KP粒子・大礫微量，ローム中ブロック・小ブロック極微量
- 8 にぶい褐色 KP粒子多量，ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・KP小ブロック微量
- 9 褐色 KP粒子多量，ローム粒子中量，KP小ブロック少量，KP中ブロック極微量
- 10 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・中ブロック微量，KP粒子極微量
- 11 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，KP粒子微量



第253図 第1号塚
出土遺物実測図



第254图 第1·2号塚土层断面实测图

遺物 第253図1の古銭は盛土から出土している。古銭の遺存状態は良好で、文字も鮮明であり容易に判読することができた。四文字とも小さく、穿が広いなどの特徴があり、『近世の出土銭Ⅱ』（兵庫埋蔵銭調査会1998年2月）によれば、3期新寛永（1697〔元禄10〕～1747〔延享4〕）に分類できる『寛永通寶』である。

所見 本跡の時期は、出土遺物から近世と考えられる。

第1号塚出土遺物観察表

図版番号	銭 銘	計 測 値				初 鑄 年 代 (西 曆)	備 考
		径 (cm)	孔径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
第253図 1	寛 永 通 寶	2.3	0.7	0.1	2.12	元文4年 (1739年)	M1 塚覆土 PL82

第2号塚 (第247・254図) (A-A', E-E')

位置 調査区中央部, B1a4区。

規模と形状 南北幅 (9.0) m, 東西幅 (7.0) mの不整形を示し, 高さは1.6mである。

長軸方向 N-45°-W

構築状況 旧地表面を基底部にし, 13層で構築されている。

土層解説

1 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, KP粒子少量, KP小ブロック極微量	9 暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, KP粒子・KP小ブロック極微量
2 褐色	ローム粒子・KP中ブロック・KP粒子中量, ローム小ブロック・KP大・KP小ブロック少量	10 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量, KP粒子微量, ローム中ブロック・焼土粒子・KP小ブロック極微量
3 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・KP小ブロック・KP粒子少量, ローム大ブロック・KP大ブロック極微量	11 褐色	KP粒子多量, ローム中ブロック・ローム粒子中量, ローム小ブロック・KP小ブロック少量
4 暗褐色	ローム粒子・KP中ブロック・KP粒子少量, ローム大ブロック・KP大ブロック微量	12 褐色	ローム粒子・KP粒子中量, KP小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・KP中ブロック微量, ローム大ブロック・KP大ブロック極微量
5 暗褐色	ローム粒子・KP粒子少量, KP大ブロック微量, 炭化粒子極微量	13 褐色	ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・KP小ブロック・KP粒子少量, ローム大ブロック・ローム粒子・KP大ブロック・KP中ブロック微量
6 褐色	ローム粒子・KP粒子中量, ローム小ブロック・KP中ブロック少量, ローム中ブロック・KP小ブロック微量, KP大ブロック極微量		
7 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子極微量		
8 暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, KP粒		

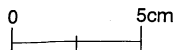
遺物 出土していない。

所見 本跡は、出土遺物がなく時期・性格等について不明である。

3 遺構外出土遺物

当遺跡からは、遺構に伴わない土製品1点 (第255図) が出土している。

以下それを記載する。



第255図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表

図版番号	種 別	計 測 値					出 土 地 点	備 考
		径 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第255図 1	土 玉	3.3	3.4	—	0.8	(17.0)	表 土	DP1 PL82

第3節 まとめ

当遺跡からは、堅穴住居跡1軒、塚2基が検出されている。

塚は、調査区域の西側半分ほどが削平され、急傾斜の断崖を呈しており、その部分の調査はできなかった。現存しているのは第1号塚で全体の60%ほど、第2号塚では全体の70%ほどと推測される。

遺物としては、第1号塚の盛土中から古銭（寛永通寶）が出土しており、時期は近世以降に構築されたと推測される。第2号塚は、第1号塚の南西方向に近接して構築されているが、時期等を判断できる資料は得られなかった。

住居跡は、1軒のみの検出である。住居跡は第1号塚の調査中に検出された。調査区域の現況の関係で住居跡全体を調査できなかったため、全体の形状を確認するに至らなかった。時期は、出土遺物から古墳時代後期と判断される。出土遺物は、土師器がほとんどで、坏、壺、甕、甑などである。これらの土器の内・外面は、赤彩されたように赤色を帯びている。胎土も赤い色調であることから、酸化鉄を多く含む粘土を用い、赤く発色させることを意図して、焼成された土器と考えられる。

当遺跡は、丘陵頂上部に立地する塚跡、住居跡として貴重な資料である。

付 章

東平遺跡から出土した炭化材の樹種

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

東平遺跡は、涸沼川右岸の丘陵地に立地する。今回の調査により、縄文時代早期、弥生時代後期、古墳時代後期、平安時代の遺構・遺物が検出されている。このうち、平安時代（9世紀代）の住居跡にはいわゆる焼失家屋が認められ、住居構築材と考えられる炭化材が出土している。

今回の分析調査では、平安時代（9世紀代）の第2号住居跡から出土した、上屋材と考えられる炭化材の樹種を明らかにし、用材に関する資料を得る。

1 試料

試料は、第2号住居跡から出土した上屋材と考えられる炭化材4点（ア～エ）である。各試料の詳細は、樹種同定結果と共に表1に記した。

2 方法

木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

3 結果

炭化材は、広葉樹2種類（ムクロジ・エゴノキ属）に同定された（表1）。各種類の主な解剖学的特徴などを以下に記す。

・ムクロジ (*Sapindus mukorossi* Gaertn.) ムクロジ科ムクロジ属

環孔材で孔圏部は1列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1～3細胞幅、1～40細胞高。柔組織は周囲状～連合翼状、帯状およびターミナル状。

・エゴノキ属 (*Styrax*) エゴノキ科

散孔材で、横断面では楕円形、2～4個が複合または単独で、年輪界付近で管径を減ずる。道管は階段穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性Ⅱ型、1～3細胞幅、1～20細胞高。

表1 炭化材の樹種同定結果

遺構名	時代・時期	試料名	用途など	樹種
第2号住居跡（S I 2）	平安時代（9世紀代）	ア	住居構築材（上屋材）	ムクロジ
		イ	住居構築材（上屋材）	ムクロジ
		ウ	住居構築材（上屋材）	エゴノキ属
		エ	住居構築材（上屋材）	ムクロジ

4 考察

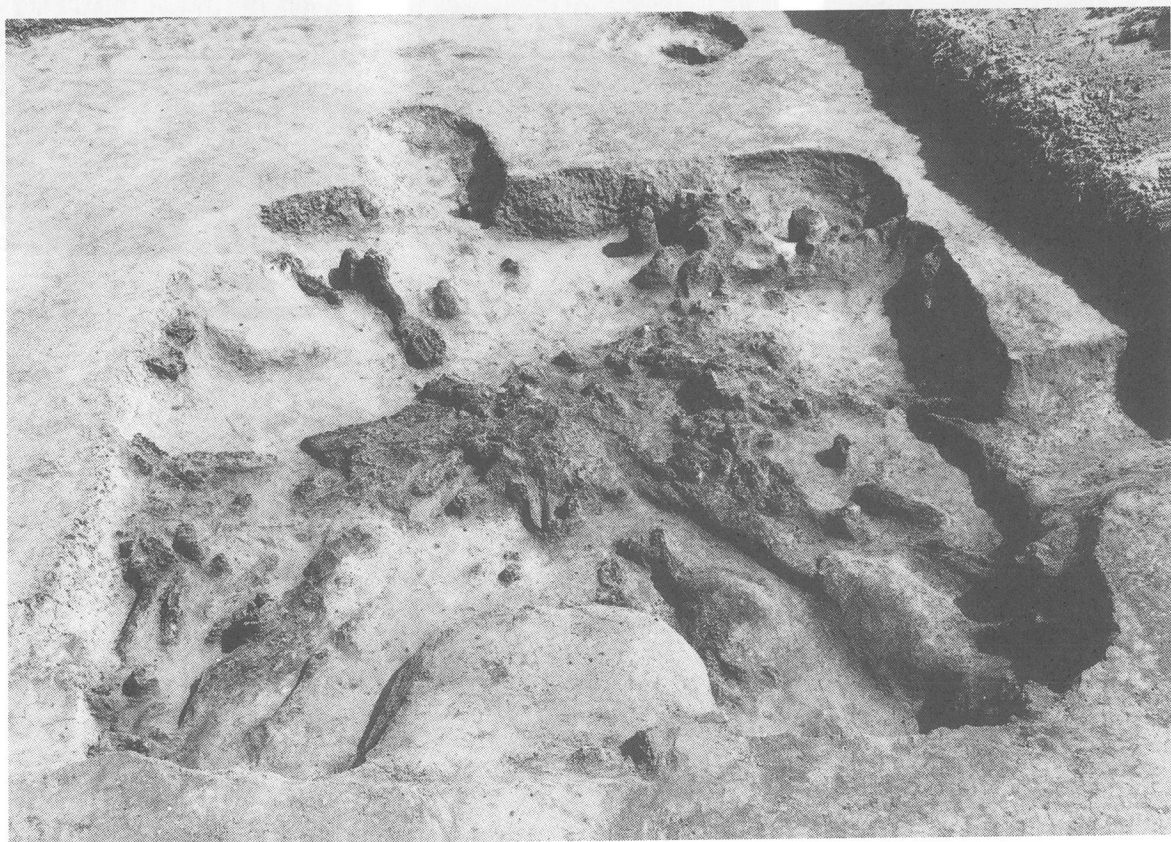
上屋材と考えられる炭化材は、ムクロジ3点とエゴノキ属1点であった。これらの住居構築材は、これまで行われた調査結果から、遺跡周辺に生育していたなかから、それぞれの部材に適した条件（強度・径・長さ・

形状など)を満たすものを選択したと考えられている(高橋・植木, 1994)。茨城県下でこれまでに行われてきた調査では, 沿海地に近い地域で暖温帯常緑広葉樹林の構成種であるアカガシ亜属やシイノキが多くなる傾向があり, 内陸になるほどクスギ節やコナラ節等の落葉広葉樹が多くなる傾向がある。本遺跡周辺では, 水戸市白石遺跡などで, 平安時代の住居構築材にアカガシ亜属などの常緑広葉樹が確認されている。

ムクロジが住居構築材に多数認められた例は, 神奈川県川崎市風久保東泉寺上遺跡の弥生時代後期の例がある。今回と同様に沿海地に位置し, 周辺の同時期の遺跡からはアカガシ亜属が多数出土している(パリノ・サーヴェイ株式会社, 1986)。また, 埼玉県坂戸市中耕遺跡では, アカガシ亜属とムクロジが住居構築材に利用されている(パリノ・サーヴェイ株式会社, 1993)。このように, ムクロジが出土している遺跡またはその周辺地域でアカガシ亜属などの常緑広葉樹が出土することは, ムクロジが暖温帯常緑広葉樹林の構成種であることから調和的である。これらの結果から, 本地域周辺では暖温帯常緑広葉樹林の構成種が育成するような植生がみられ, そこから住居構築材を得ていたことが推定される。

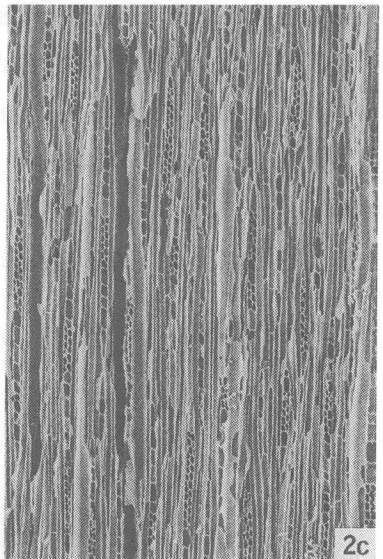
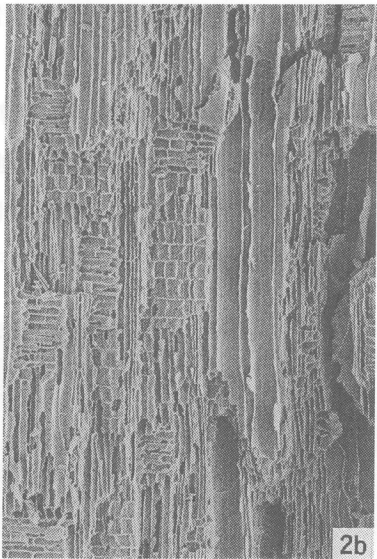
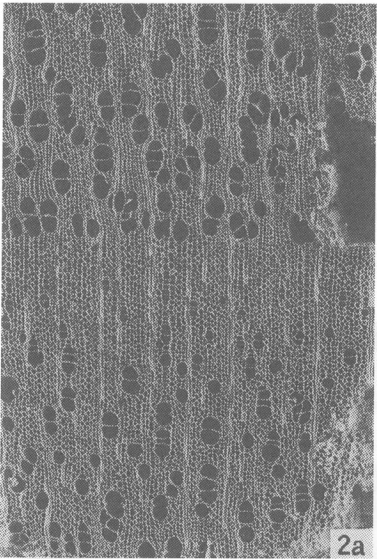
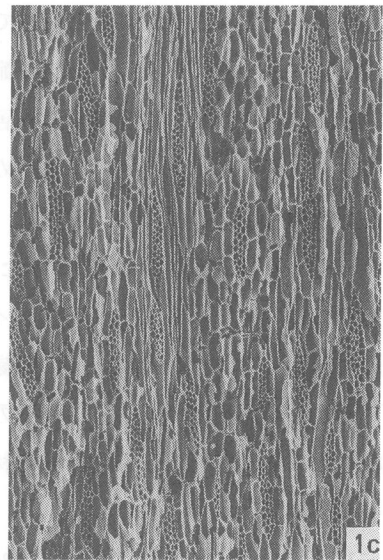
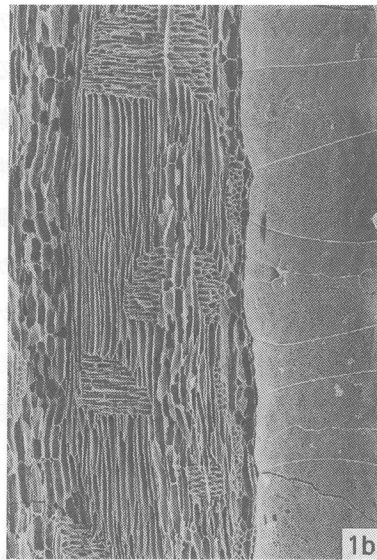
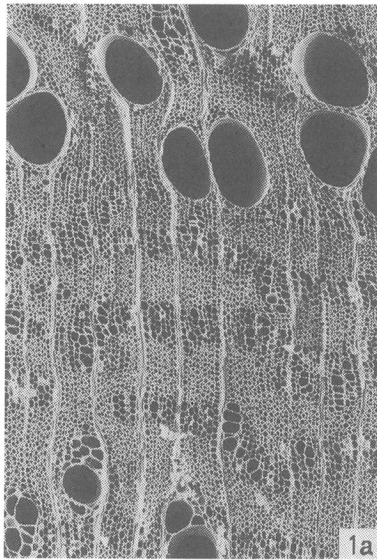
引用文献

- パリノ・サーヴェイ株式会社(1986)川崎市内各遺跡に於ける花粉分析及び材・種子同定報告
「昭和60年度 市民ミュージアム展示実測調査 古代環境模型化調査報告書」, p. 20-76, 川崎市教育委員会
市民ミュージアム準備事務局・株式会社トータルメディア開発研究所
- パリノ・サーヴェイ株式会社(1993)中耕遺跡出土遺物の自然科学分析報告 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第125集「坂戸市 中耕遺跡 住宅・都市整備公園坂戸入西地区土地区画整理事業関係埋蔵文化財発掘調査報告 - VI - 本文編(第1分冊)」, p. 320-365, 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 高橋 敦・植木真吾(1994)樹種同定からみた住居構築材の用材選択 PALYNO, 2, p. 5-18



第2号住居跡炭化材出土状況

図版1 炭化材



1. ムクロジ (SI-2 イ)
 2. エゴノキ属 (SI-2 ウ)
- a: 木口, b: 柁目, c: 板目

200 μm : a
200 μm : b, c

写 真 図 版

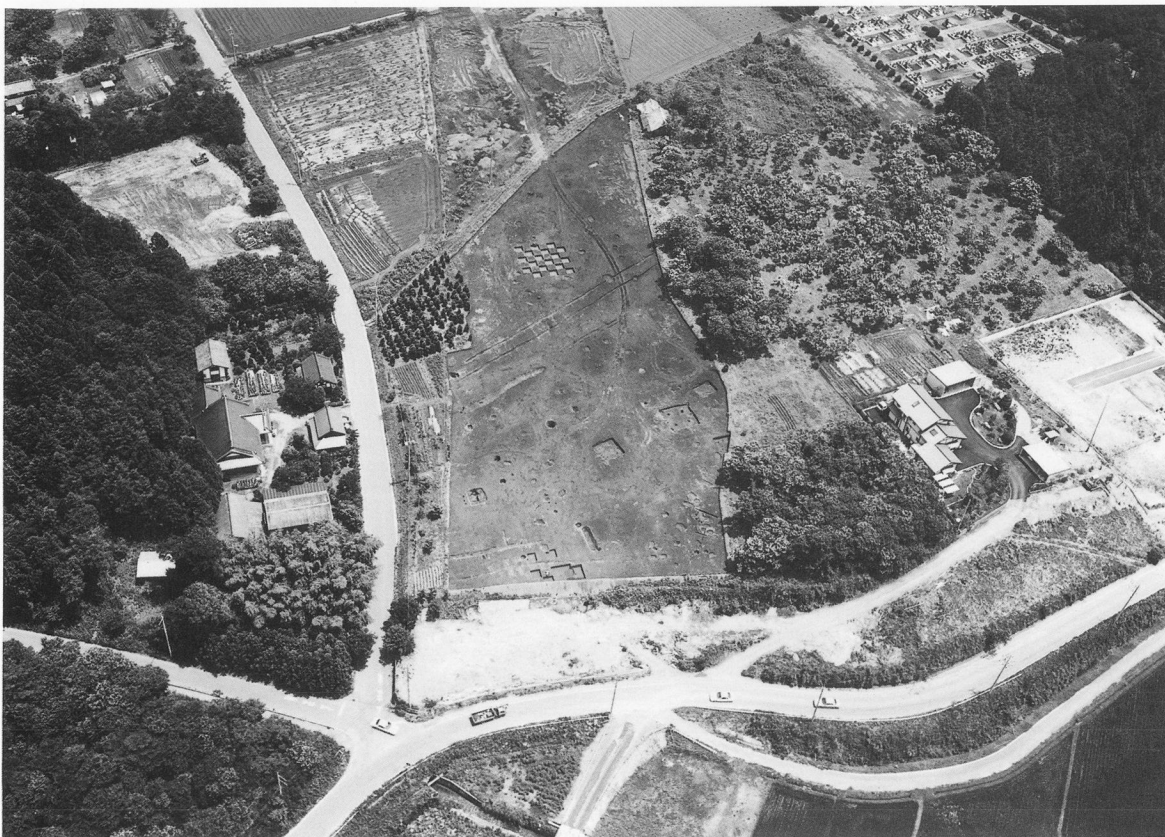
寺 山 遺 跡
東 平 遺 跡
坂ノ上塚群



寺山遺跡出土窯道具



遠景



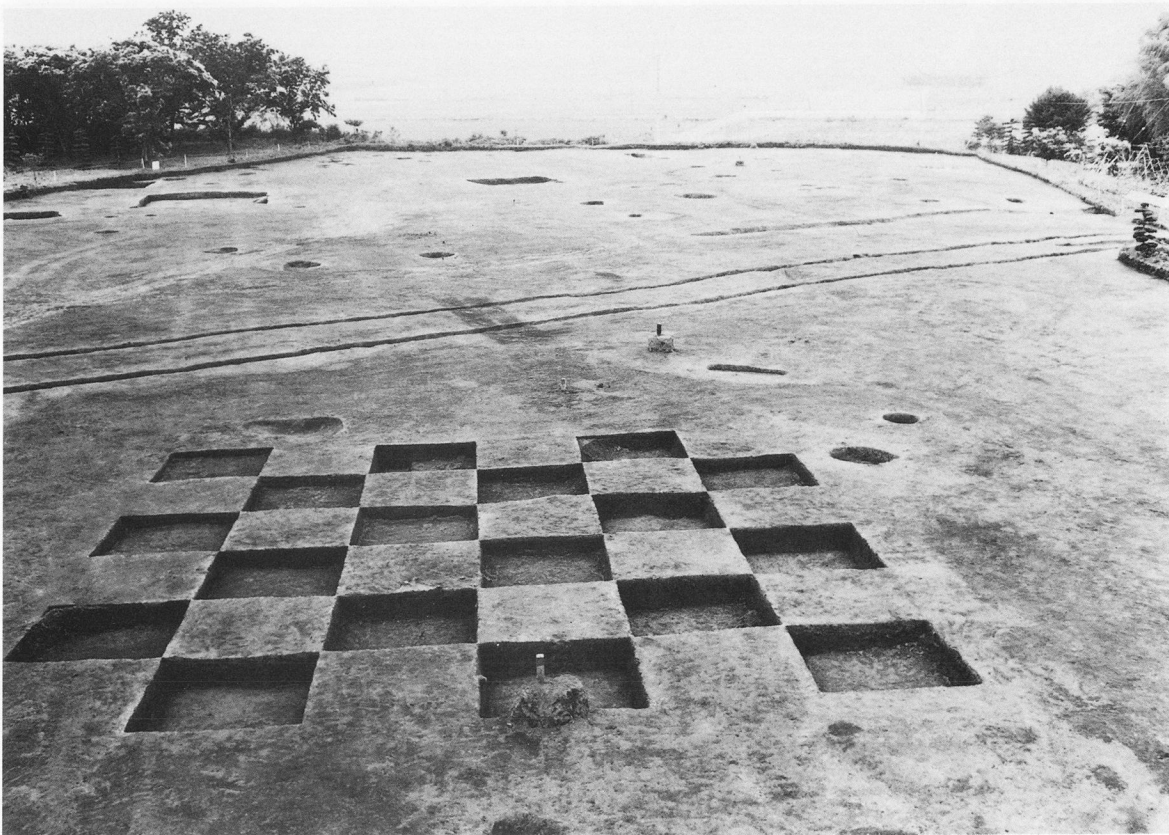
全景

PL 2

寺山遺跡



調査終了風景(東部)



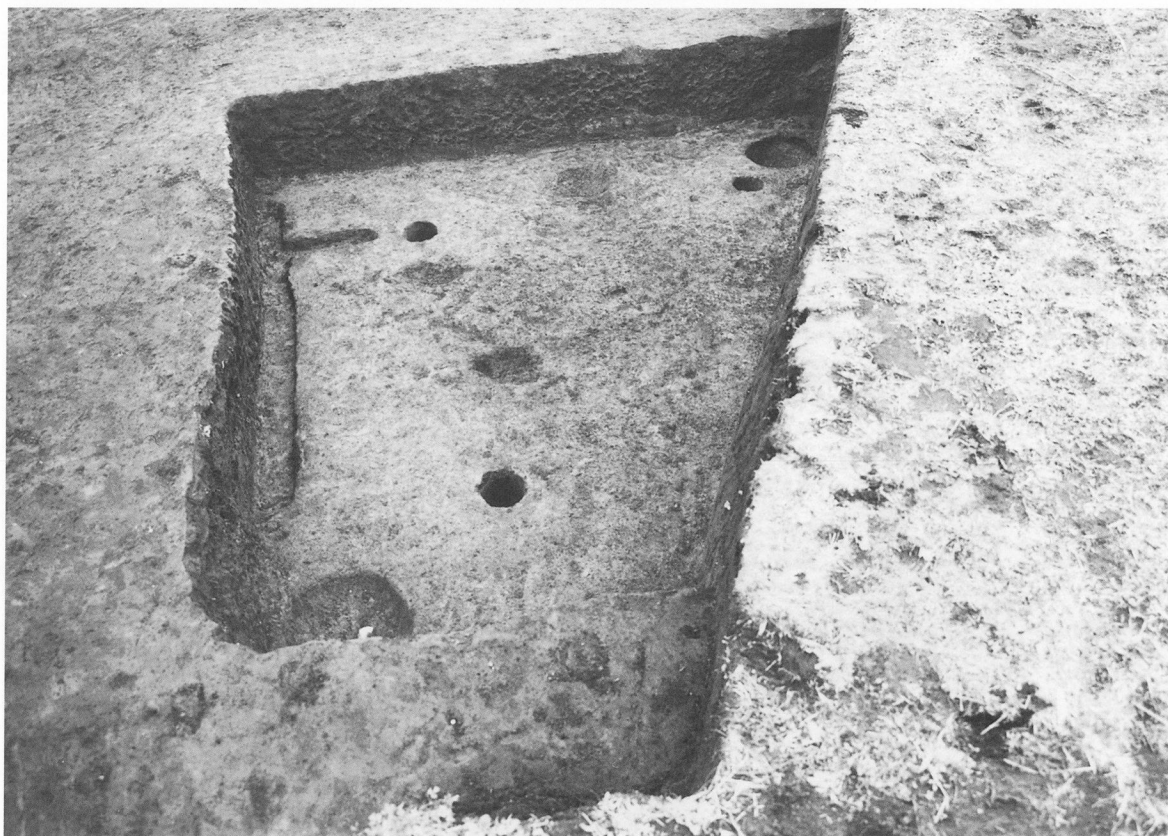
調査終了風景(中央部・西部)



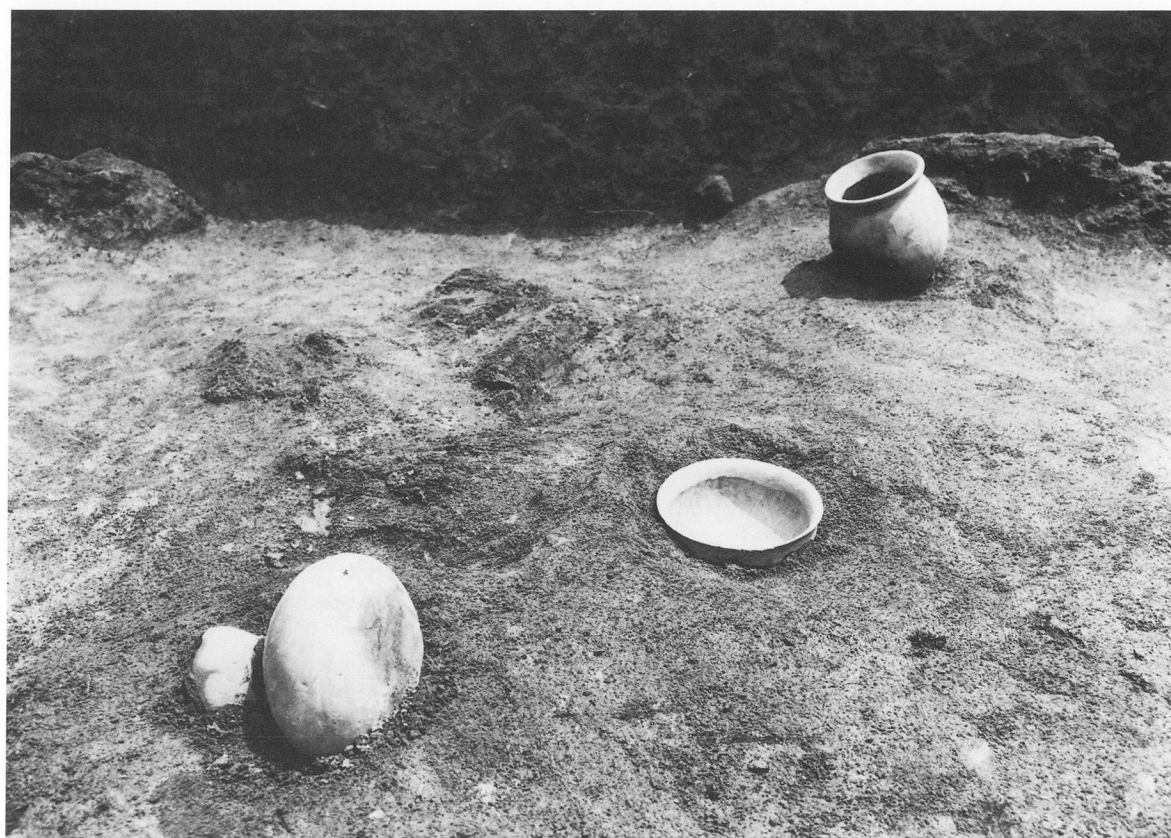
第 1 号住居跡完掘状況



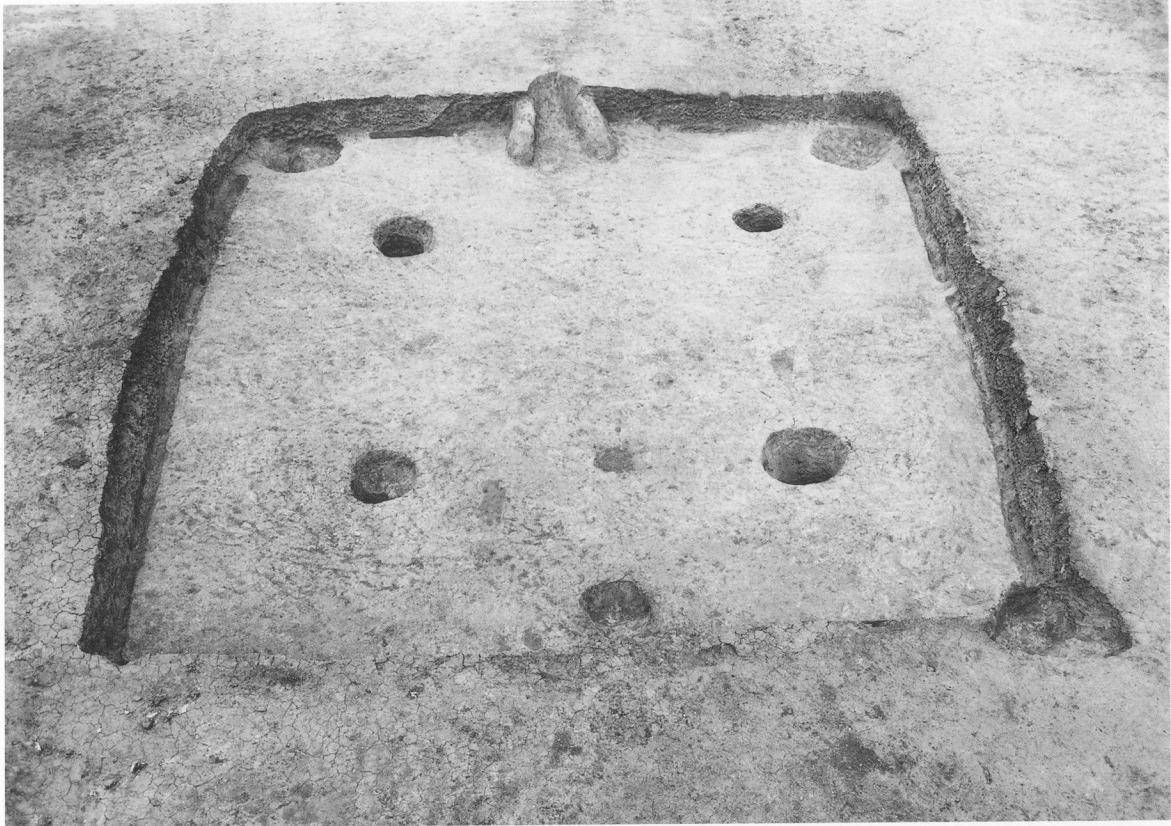
第 1 号住居跡遺物出土状況



第2号住居跡完掘状況



第2号住居跡遺物出土状況



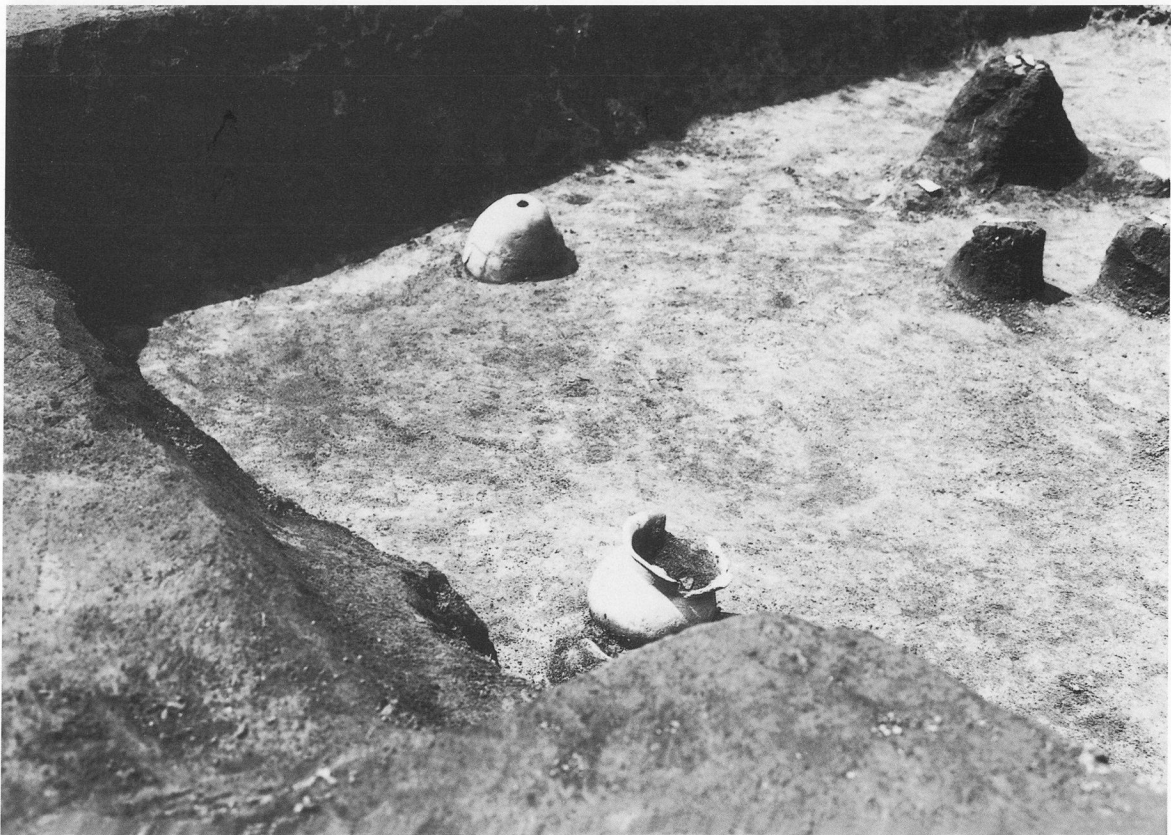
第3号住居跡完掘状況



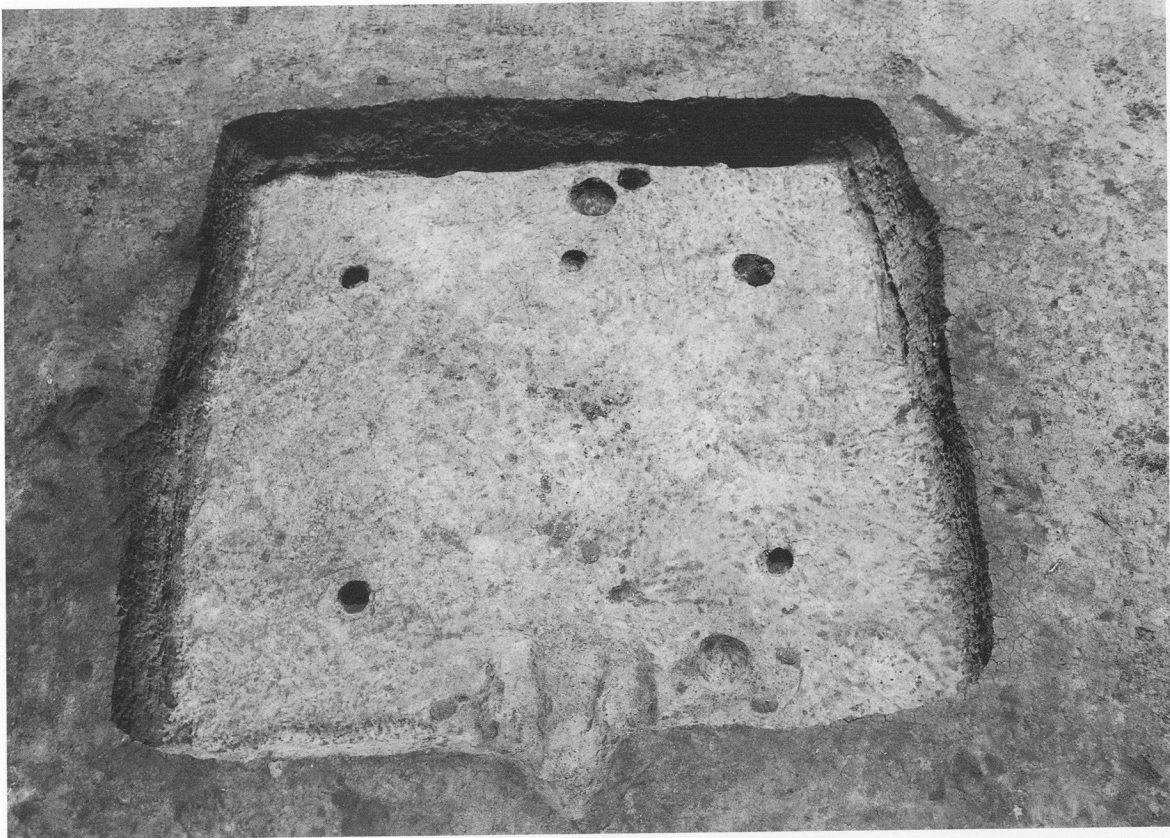
第3号住居跡遺物出土状況



第4号住居跡完掘状況



第4号住居跡遺物出土状況



第5号住居跡完掘状況



第5号住居跡遺物出土状況



第 1 号窯跡確認状況



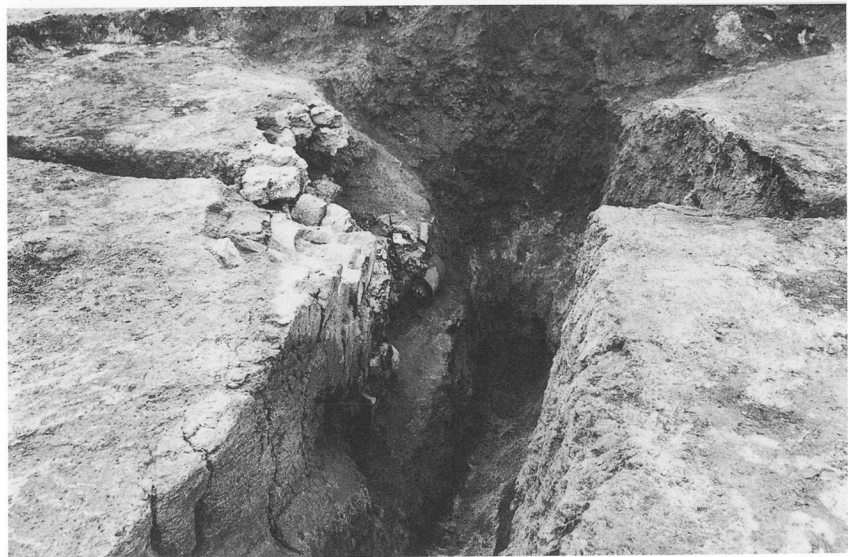
第 1 号窯跡土層断面



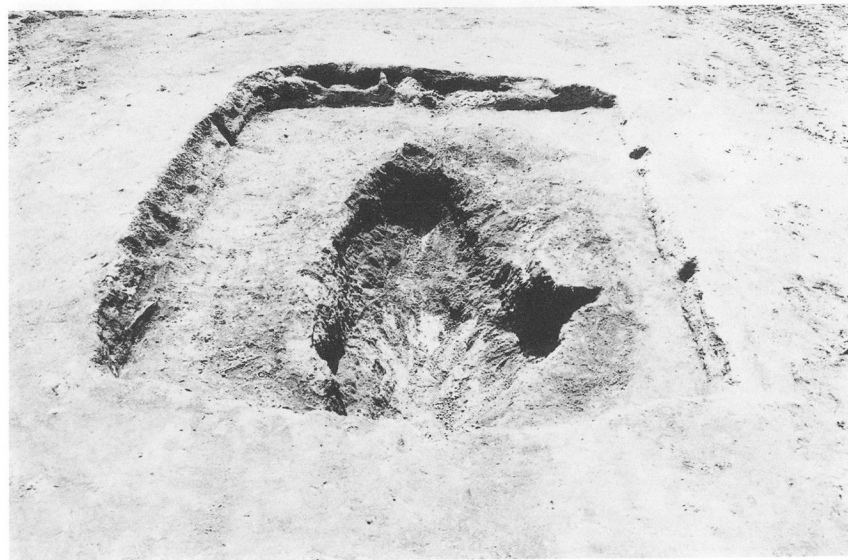
第 1 号窯跡遺物出土状況



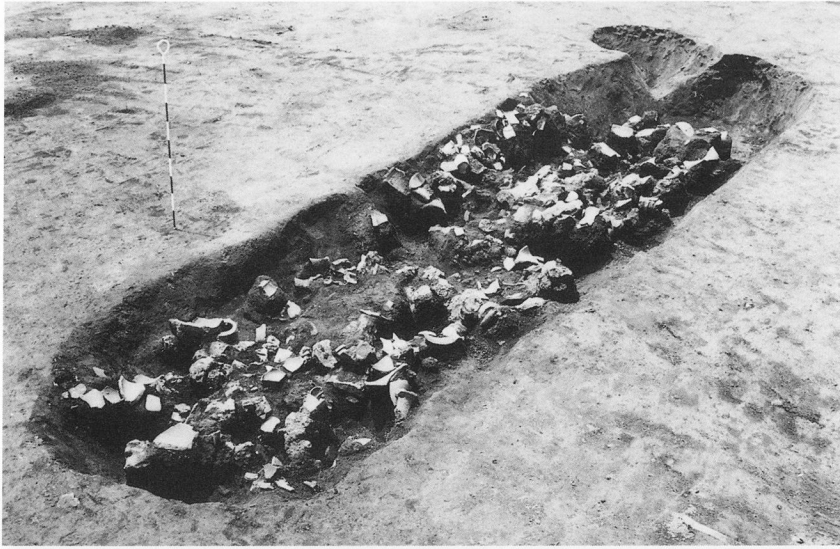
第1号窯跡遺物出土状況



第1号窯跡燃烧部



第1号窯跡掘り方



第224号土坑遺物出土状況

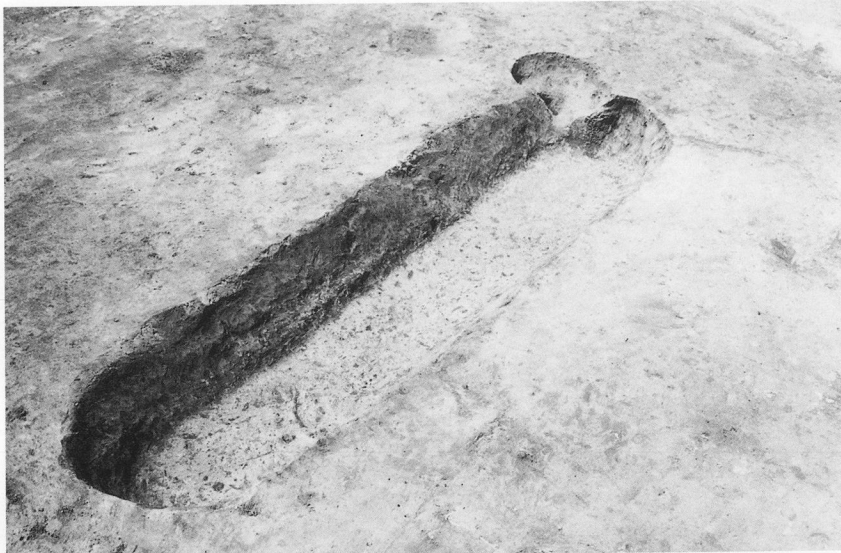


第224号土坑土層断面



第224号土坑遺物出土状況

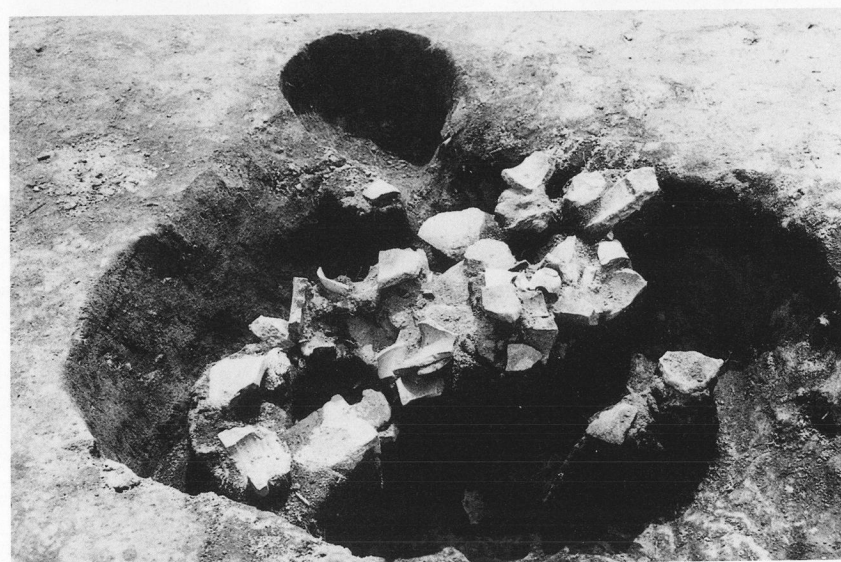
第224号土坑完掘状况

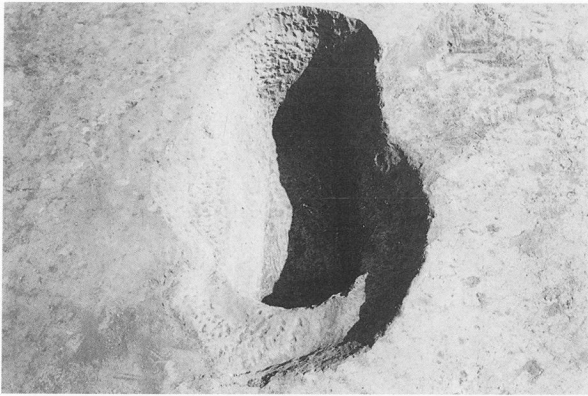


第225号土坑遺物出土状况

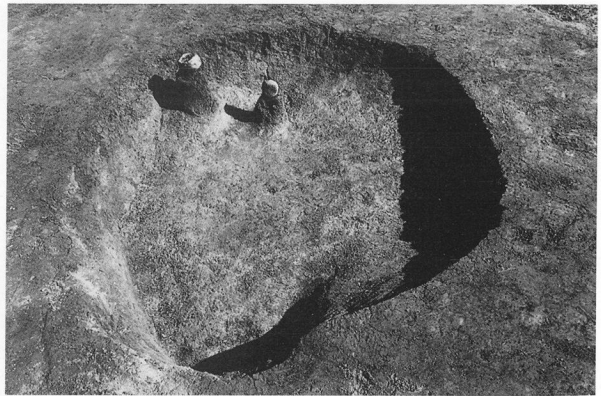


第226号土坑遺物出土状况





第1号土坑完掘状況



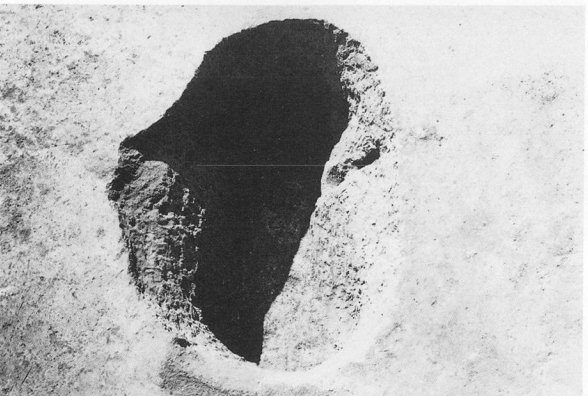
第2号土坑遺物出土状況



第38号土坑完掘状況



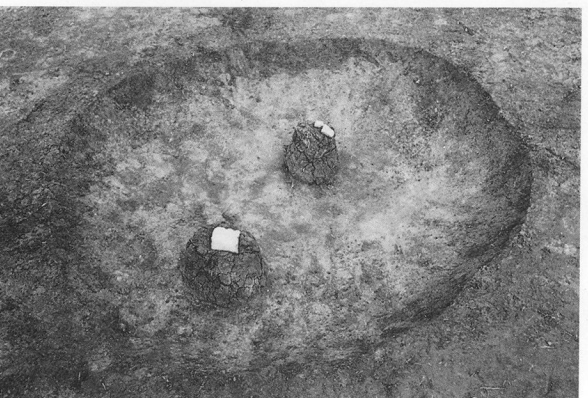
第72号土坑完掘状況



第73号土坑完掘状況



第122号土坑遺物出土状況



第136号土坑遺物出土状況



第151号土坑完掘状況